



Advanced Spirits

建築基準法集団規定解析システム

リファレンスマニュアル

生活産業研究所株式会社

目次

1 システムについて

1-1	ご利用にあたって	2
1-1-1	本リファレンスマニュアルで用いた略語	2
1-2	開発コンセプト	3
1-3	主な機能	4
1-4	はじめに	4
1-4-1	斜線・逆日影計算機能	5
1-4-2	日影計算機能	6
1-4-3	天空率計算機能	7
1-4-4	建物形状のシミュレーション	8
1-5	本システムの特徴	9
1-5-1	多彩な敷地編集が可能	9
1-5-2	異なる規制の設定	9
1-5-3	地方条例に対応した入力が可能	9
1-5-4	斜線・逆日影計算の高精度化	9
1-5-5	ソーラーアイビュー	9
1-5-6	天空率計算	10
1-6	運用上の基本的な考え方	13
1-6-1	座標と単位	13
1-6-2	本システムの高さの考え方	13
1-6-3	高さの入力	13
1-6-4	始点と終点	14
1-6-5	後退距離の算定	14
1-6-6	緩和措置の自動処理	14
1-7	本システムの計算方法と精度	15
1-7-1	斜線・逆日影計算	15
1-7-2	日影計算	16
1-7-3	天空率計算	17
1-8	データ互換性について	18
1-8-1	中間ファイル	18
1-8-2	ADS-BT との連携	19

2 システムの操作

2-1	本システムのワークフロー	21
2-2	本システムの起動/終了	22
2-2-1	本システムの起動	22
2-2-2	本システムの終了	22
2-3	本システムの基本操作	23
2-3-1	マウス入力について	23
2-3-2	数値入力について	23

3 画面構成

3-1	はじめに	25
3-1-1	モデル表示画面	25
3-1-2	印刷プレビュー	26
3-2	ドッキングウィンドウについて	27
3-2-1	ウィンドウをフローティングする	27
3-2-2	ウィンドウをドッキングする	27
3-3	プルダウンメニュー	29
3-3-1	ファイル	29
3-3-2	編集	43
3-3-3	表示	43
3-3-4	ツールバーとドッキングウィンドウ	43
3-3-5	ヘルプ	44
3-4	ツールバー	45
3-5	メインメニュー及びサブメニュー	46
3-5-1	メインメニュー	46
3-5-2	サブメニュー	46
3-6	図形表示ウィンドウ	47
3-6-1	図面の種類	47
3-6-2	画面表示設定コマンド	48
3-6-3	アイソメ図の表示について	49
3-7	標準ウィンドウ	51
3-7-1	プロパティウィンドウ	51
3-7-2	作図線ウィンドウ	51
3-7-3	測定ウィンドウ	52
3-7-4	ステータスウィンドウ	52
4	環境設定	
4-1	はじめに	54
4-1-1	「環境設定」ダイアログ	54
4-2	方位マーク設定	55
4-3	日照計算条件設定	56
4-4	線設定	57
4-5	建物形状	58
4-6	フォルダの指定	59
4-6-1	作業フォルダーについて	59
4-7	天空率	60
4-8	その他	62
4-8-2	背景図の端点に○を表示するについて	64
5	図形編集	
5-1	はじめに	66
5-2	図形編集コマンド一覧	66
5-3	図形選択	68
5-3-1	単一図形を選択する	68

5-3-2 複数図形を選択する.....	69
5-3-3 カーソルとスナップ	70
5-4 数値入力.....	71
5-4-1 図形を新規作成する.....	72
5-4-2 図形の平面形状を変更する.....	72
5-4-3 図形の高さを変更する	72
5-4-4 図形に端点を挿入する.....	72
5-4-5 図形の端点を削除する.....	72
5-5 マウス入力	73
5-5-1 右クリック	73
5-5-2 「作成」コマンド	73
5-5-3 「矩形作成」コマンド.....	73
5-5-4 「円作成(3点)」コマンド.....	74
5-5-5 「円作成(中心)」コマンド	74
5-5-6 「円弧挿入(3点)」コマンド.....	75
5-5-7 「円弧挿入(中心)」コマンド.....	75
5-5-8 「点挿入」コマンド.....	76
5-5-9 「点移動」コマンド.....	76
5-5-10 「辺移動」コマンド	76
5-5-11 「点削除」コマンド	77
5-5-12 「ブロック移動」コマンド.....	77
5-5-13 「ブロック複写」コマンド.....	78
5-5-14 「ブロック回転」コマンド	78
5-5-15 「ブロック削除」コマンド	79
5-5-16 「上面移動」コマンド.....	79
5-5-17 「下面移動」コマンド.....	79
5-5-18 「垂直移動」コマンド.....	80
5-5-19 「垂直複写」コマンド.....	81
5-5-20 「合成」コマンド	81
5-5-21 「水平面カット」コマンド.....	82
5-5-22 「垂直面カット」コマンド.....	83
6 与条件設定	
6-1 はじめに.....	85
6-2 サブメニュー	85
6-3 与条件設定のワークフロー.....	86
6-4 本敷地	87
6-4-1 マウス入力による本敷地の新規作成.....	88
6-4-2 マウス入力による本敷地の編集	88
6-4-3 数値入力による本敷地の新規作成.....	88
6-4-4 数値入力による本敷地の編集	89
6-4-5 本敷地を削除する.....	89
6-4-6 「図形チェック」コマンド.....	90
6-5 三斜求積図.....	91
6-5-1 倍面積 1 及び 2 について.....	91

6-5-2	複数の敷地外形が必要な敷地形状.....	92
6-5-3	本敷地を作成する.....	93
6-5-4	三斜求積図作成.....	94
6-5-5	敷地外形形状の編集.....	94
6-5-6	三角形の編集.....	95
6-5-7	三角形の削除.....	95
6-5-8	「図形チェック」コマンド.....	96
6-6	外部図形変換.....	97
6-6-1	本敷地を登録する.....	98
6-6-2	分割線・補助線を登録する.....	99
6-6-3	ブロックを登録する.....	100
6-6-4	方位を登録する.....	101
6-6-5	インポート図形を移動する.....	101
6-7	サイトフォーカス.....	102
6-7-1	本敷地の面積を補正する.....	103
6-7-2	本敷地の X 及び Y 方向の比率を編集する.....	103
6-7-3	本敷地の原点を移動する.....	104
6-7-4	本敷地を回転する.....	104
6-8	方位.....	106
6-8-1	マウス入力で方位を設定する.....	106
6-8-2	絶対角度を数値入力して方位を設定する.....	107
6-8-3	敷地境界線からの角度を数値入力して方位を設定する.....	107
6-8-4	マウス入力で方位の角度を変更する.....	108
6-8-5	方位を初期化する.....	109
6-9	分割線・補助線.....	110
6-9-1	マウス入力による分割線・補助線の新規作成.....	110
6-9-2	マウス入力による分割線・補助線の編集.....	112
6-9-3	数値入力による分割線・補助線の新規作成.....	112
6-9-4	数値入力による分割線・補助線の編集.....	114
6-9-5	分割線・補助線をコピーする.....	114
6-9-6	分割線・補助線を削除する.....	116
6-9-7	用途地域・高度地区・地盤面の分割線を入力する場合の注意事項.....	117
6-9-8	日影規制の分割線を入力する場合の注意事項.....	118
6-10	境界線条件.....	119
6-10-1	道路幅について.....	121
6-10-2	採用道路幅員について.....	121
6-10-3	道路に対する緩和幅の適用について.....	122
6-10-4	緩和幅による各斜線制限の緩和.....	122
6-10-5	道路に対する後退距離の適用について.....	124
6-10-6	道路斜線適用距離の適用について.....	124
6-10-7	法 56 条第 3 項の適用について.....	125
6-10-8	令 132 条第 1 項の適用について.....	126
6-10-9	道路高について.....	127
6-10-10	高低差が著しい場合の緩和.....	127

6-10-11 異幅道路の道路幅と道路高の関係.....	129
6-10-12 令 135 条の 12 第 1 項第一号の適用について.....	129
6-10-13 隅切について	129
6-10-14 グループ	130
6-10-15 条件設定	132
6-11 道路・交差点.....	133
6-11-1 道路形状を設定する.....	133
6-11-2 交差点形状を設定する.....	133
6-12 みなし敷地	134
6-12-1 令 135 条の 12 第 1 項第一号による緩和の設定について.....	134
6-12-2 マウス入力によるみなし敷地の編集	135
6-12-3 数値入力によるみなし敷地の編集.....	135
6-12-4 みなし敷地の初期化.....	135
6-12-5 「図形チェック」コマンド.....	136
6-13 計算範囲.....	137
6-13-1 計算範囲を選択する.....	137
6-13-2 計算範囲を指定する.....	138
6-14 用途地域.....	139
6-14-1 用途地域を設定する.....	140
6-14-2 採用建蔽率と採用容積率について.....	140
6-15 高度地区.....	141
6-15-1 高度地区を設定する.....	141
6-15-2 該当する高度地区が「地域」プルダウンメニューにない場合.....	142
6-16 地盤面.....	143
6-16-1 地盤面の高さを設定する	143
6-17 日影規制.....	144
6-17-1 日影規制条件を設定する	144
6-17-2 日影規制条件を追加する	145
6-17-3 平均地盤面高について.....	145
6-18 発散ライン	146
6-18-1 自動発生モード(全計算)	147
6-18-2 自動発生モード(個別計算)	148
6-18-3 手動指定モード	149
6-18-4 発散ラインを削除する	152
6-19 緯度経度.....	153
6-19-1 緯度経度を設定する.....	153
6-19-2 計画地の緯度経度がプルダウンメニューにない場合	153
6-20 日照条件.....	154
6-21 敷地面積表	155
6-22 断面計画.....	156
6-22-1 断面計画を新規作成する	157
6-22-2 断面計画を削除する.....	157
6-22-3 断面計画を変更する.....	158
6-22-4 断面計画に階を挿入する	158

6-22-5 断面計画の階を削除する	159
7 建物編集	
7-1 はじめに	161
7-2 サブメニュー	162
7-3 建物編集のワークフロー	163
7-4 ブロック形状の制限について	164
7-5 ブロック編集	165
7-5-1 マウス入力によるブロックの新規作成	165
7-5-2 マウス入力によるブロックの編集	166
7-5-3 数値入力によるブロックの新規作成	166
7-5-4 数値入力によるブロックの編集	167
7-5-5 ブロックを削除する	168
7-5-6 エラーブロックについて	168
7-5-7 「図形チェック」コマンド	169
7-6 リスト編集	170
7-6-1 絶対高入力	170
7-6-2 階数入力	171
7-6-3 絶対高入力でブロックの高さを設定する	172
7-6-4 階高入力でブロックの高さを設定する	172
7-6-5 中空ブロックを作成する	172
7-6-6 計算対象属性について	173
7-7 傾斜 (3 点)	174
7-7-1 傾斜を設定する	174
7-7-2 設定した傾斜を連続して他のブロックに適用する	176
7-7-3 設定した傾斜と異なる傾斜を設定する	176
7-8 傾斜 (斜線)	177
7-8-1 パラメータ設定で傾斜を設定する (道路斜線・隣地斜線)	178
7-8-2 基準線を作成して傾斜を設定する (道路斜線)	180
7-8-3 基準線を指定して傾斜を設定する (道路斜線)	181
7-9 フロア計画	183
7-9-1 延床面積を算定する	183
7-10 ドーム屋根	184
7-10-1 ドーム屋根を作成する	185
7-11 ヴォールト屋根	186
7-11-1 ヴォールト屋根を作成する	187
7-12 パラペット	188
7-12-1 パラペットを作成する	189
7-13 切妻屋根	191
7-13-1 切妻屋根を作成する	192
7-14 寄棟屋根	194
7-14-1 寄棟屋根を作成する	194
7-15 方形屋根	195
7-15-1 方形屋根を作成する	195

8 斜線・逆日影

8-1 はじめに.....	198
8-2 サブメニュー.....	198
8-3 斜線・逆日影計算のワークフロー.....	199
8-4 計算条件.....	200
8-4-1 逆日影計算の低層タイプと高層タイプ.....	202
8-4-2 高層範囲について.....	203
8-4-3 斜線・逆日影計算を実行する.....	203
8-4-4 日影規制領域が2以上にわたる場合の計算.....	205
8-4-5 メッシュピッチについて.....	206
8-4-6 計算範囲を設定する(辺後退).....	206
8-4-7 計算範囲を設定する(エリア後退).....	209
8-4-8 「エリア後退」のエリアを削除する.....	209
8-4-9 高層ポイントの位置を変更する.....	209
8-4-10 高層ポイントの位置をデフォルトに戻す.....	210
8-4-11 斜線・逆日影計算結果をブロックに変換する.....	210
8-4-12 等高線を表示する.....	211
8-4-13 等高線の表示を変更する.....	213
8-4-14 斜線メッシュを表示する.....	218
8-4-15 斜線メッシュの見方.....	220
8-5 断面図.....	221
8-5-1 断面図を表示する.....	222
8-5-2 断面線を新規作成する.....	223
8-5-3 既存の断面線の設定を変更する.....	223
8-5-4 断面線の位置を変更する.....	225
8-5-5 断面線を削除する.....	226
8-6 面積計画表.....	227
8-6-1 面積計画表を表示する.....	228
8-7 建物高チェック.....	229
8-7-1 建物高チェックを実行する.....	229
8-7-2 ブロックの高さを自動調整する.....	230
8-7-3 高さ制限に適合している端点の制限高さを表示する.....	230
8-8 建物後退距離.....	231

9 日影計算

9-1 はじめに.....	233
9-2 サブメニュー.....	233
9-3 日影計算のワークフロー.....	234
9-4 形状図.....	235
9-4-1 時刻日影形状図について.....	235
9-4-2 計算結果の処理.....	236
9-4-3 計算する時刻を設定する.....	236
9-4-4 建物クリッピング.....	239
9-4-5 時刻日影計算を実行する.....	241

9-4-6	計算を中止する	241
9-4-7	時刻日影形状図を削除する	241
9-5	等時間図	242
9-5-1	等時間日影図について	243
9-5-2	計算方法について	243
9-5-3	計算時の確認ダイアログ	243
9-5-4	計算結果の処理	243
9-5-5	自動検索計算(追跡法)を実行する	243
9-5-6	指定検索計算(追跡法)を実行する	245
9-5-7	規制時間計算(メッシュ法)を実行する	246
9-5-8	単位時間計算(メッシュ法)を実行する	247
9-5-9	計算を中止する	248
9-5-10	等時間日影図を削除する	248
9-6	規制ラインチェック	249
9-6-1	規制ラインチェックを実行する	250
9-6-2	計算結果の見方	250
9-6-3	日照定規について	252
9-7	特定点	253
9-7-1	特定点リストの見方	254
9-7-2	任意の2点間に特定点を登録する	254
9-7-3	任意の点に特定点を登録する	255
9-7-4	規制ライン上の任意の2点間に特定点を登録する	255
9-7-5	特定点を選択する	255
9-7-6	特定点を移動する	256
9-7-7	位置指定で移動する	256
9-7-8	特定点を削除する	256
9-7-9	建物を選択する	256
9-7-10	日影時間または日照時間が最長の特定点を表示する	257
9-7-11	特定点を再計算する	257
9-7-12	特定点リストの出力について	258
9-8	特定点天空率	259
9-8-1	特定点を選択する	259
9-8-2	天空率計算を実行する	260
9-8-3	計算結果を削除する	260
9-9	特定点位置確認	261
9-9-1	特定点を選択する	262
9-9-2	自動で位置確認線を作成する	262
9-9-3	任意の位置確認線を作成する	263
9-9-4	位置確認線を確認する	263
9-9-5	全ての位置確認線を削除する	264
9-9-6	任意の位置確認線を削除する	264
9-10	基準倍率表	265
9-10-1	基準倍率表の出力について	266
9-11	建物高倍率表	267

9-11-1 建物高倍率表の出力について.....	268
9-12 壁面編集.....	269
9-12-1 壁面を選択する	270
9-12-2 壁面を新規作成する.....	270
9-12-3 壁面を削除する	270
9-13 壁面形状図	271
9-13-1 壁面形状図について	272
9-13-2 計算結果の処理	272
9-13-3 壁面時刻日影計算を実行する.....	273
9-13-4 計算結果の表示内容.....	274
9-13-5 計算を中止する	274
9-13-6 壁面時刻日影形状図を削除する.....	274
9-14 壁面等時間図	275
9-14-1 壁面等時間図について	276
9-14-2 計算結果の処理	276
9-14-3 壁面等時間日影計算を実行する.....	276
9-14-4 計算を中止する	277
9-14-5 壁面等時間日影形状図を削除する	277
9-15 壁面特定点	278
9-15-1 壁面特定点リストの見方.....	279
9-15-2 任意の2点間に壁面特定点を登録する	279
9-15-3 任意の点に壁面特定点を登録する.....	280
9-15-4 任意の点から垂直方向にオフセットして壁面特定点を登録する.....	280
9-15-5 壁面特定点を選択する.....	280
9-15-6 壁面特定点を移動する.....	281
9-15-7 壁面特定点を削除する.....	281
9-15-8 建物を選択する	281
9-15-9 壁面特定点を再計算する	282
9-15-10 壁面特定点リストの出力について	282
9-16 壁面特定点天空率.....	283
9-16-1 壁面を選択する	284
9-16-2 壁面特定点を選択する.....	284
9-16-3 天空率計算を実行する.....	285
9-16-4 計算結果を削除する.....	285
9-17 壁面特定点位置確認	286
9-17-1 面を選択する.....	287
9-17-2 壁面特定点を選択する.....	287
9-17-3 自動で位置確認線を作成する	288
9-17-4 任意の位置確認線を作成する	288
9-17-5 位置確認線を確認する.....	288
9-17-6 全ての位置確認線を削除する	289
9-17-7 任意の位置確認線を削除する	289
9-18 天空図.....	290
9-18-1 天空図を表示する	290

9-18-2	天空図の種類を選択する	291
9-18-3	天空図の種類.....	293
9-18-4	天空図の見方.....	294
9-19	ソーラーアイビュー	295
9-19-1	ソーラーアイビューを表示する	295
9-19-2	表示する時刻を変更する.....	296
9-19-3	時刻刻みを変更する.....	296
9-19-4	ソーラーアイビューの見方	297
9-20	日照定規.....	298
9-20-1	日照定規を表示する.....	298
9-20-2	日照定規に表示する高さを変更する.....	299
9-20-3	日照定規の見方	300
10	天空率解析	
10-1	はじめに.....	302
10-1-1	天空率とは.....	302
10-1-2	天空図について.....	305
10-1-3	測定点について.....	307
10-2	天空率算定領域.....	309
10-2-1	道路高さ天空率算定領域の考え方.....	310
10-2-2	隣地高さ天空率算定領域の考え方.....	316
10-2-3	北側高さ制限天空率算定領域の考え方	321
10-3	天空率の確認申請.....	326
10-3-1	天空率の審査におけるチェック項目	326
10-3-2	申請図書について.....	327
10-4	本システムでの天空率算定領域設定.....	330
10-4-1	基本処理.....	330
10-4-2	適合建築物と測定点の端点処理.....	332
10-4-3	入隅敷地における適合建築物と測定点の端点処理.....	339
10-4-4	台形敷地における適合建築物と測定点の端点処理.....	343
10-4-5	路地状敷地における適合建築物と測定点の端点処理	346
10-4-6	行き止まり道路(両側敷地)における適合建築物と測定点の端点処理	347
10-4-7	行き止まり道路(片側敷地)における適合建築物と測定点の端点処理	350
10-4-8	行き止まり道路(突当り)における適合建築物と測定点の端点処理.....	352
10-4-9	各種条件設定	353
10-4-10	絶対高さでカットする.....	355
10-4-11	分割地盤のグループ化	356
10-4-12	求積図形ごとに丸目処理を行う.....	360
10-4-13	2A 処理.....	361
10-4-14	令 132 条処理.....	362
10-4-15	隅切りの設定.....	366
10-4-16	総延長	368
10-4-17	適合建築物の後退距離の設定	368
10-4-18	前面考慮.....	369

10-5	サブメニュー	371
10-6	天空率解析のワークフロー	372
10-7	簡易設定.....	373
10-7-1	天空率算定領域を生成する	375
10-7-2	天空算定領域を初期化する	377
10-7-3	各種処理条件を設定する	378
10-7-4	北側斜線天空率算定領域を生成する	378
10-7-5	各方式の条件を編集する	379
10-7-6	境界線を天空率算定領域リストに表示する.....	382
10-7-7	天空率算定領域を天空率算定領域リストに表示する.....	383
10-7-8	天空率算定領域設定を手動で設定する	383
10-7-9	天空率算定領域の測定点番号を表示しない	383
10-7-10	後退距離を手動で設定する	384
10-8	境界条件.....	385
10-8-1	道路境界線を選択した場合	385
10-8-2	隣地境界線を選択した場合	386
10-8-3	隅切を選択した場合	387
10-9	領域リスト	388
10-9-1	天空率算定領域リストの見方	388
10-9-2	任意天空率算定領域について	389
10-9-3	任意天空率算定領域を作成する.....	389
10-9-4	天空率算定領域を複写して任意天空率算定領域を作成する	390
10-9-5	任意の天空率算定領域を削除する.....	391
10-9-6	自動生成した天空率算定領域を削除する.....	391
10-9-7	自動生成した天空率算定領域を初期化する	392
10-10	領域条件	393
10-10-1	天空率算定領域の設定を変更する.....	394
10-11	グループ	395
10-11-1	端領域の端点処理を[延長]にセット	397
10-11-2	測定ライン作成方法(入隅側)	397
10-11-3	測定ライン作成方法(出隅側)	397
10-11-4	測定ライン作成方法.....	398
10-11-5	測定ライン両端の処理.....	399
10-11-6	エラーメッセージ表示欄.....	399
10-11-7	グループを新規作成する	400
10-11-8	既存のグループに天空率算定領域を追加する	401
10-11-9	既存のグループから天空率算定領域を除外する.....	402
10-11-10	グループを削除する.....	403
10-12	天空率計算	404
10-12-1	「天空率計算」ダイアログ.....	405
10-12-2	「計算結果の削除」ダイアログ.....	408
10-12-3	天空率計算を実行する斜線制限を選択する	408
10-12-4	天空率計算を実行する天空率算定領域を選択する	408
10-12-5	天空率計算を実行する.....	409

10-12-6	天空率計算結果を削除する	409
10-12-7	天空率計算結果の見方	410
10-12-8	天空率計算結果の出力について	412
10-13	求積表	413
10-13-1	求積表を表示する測定点を選択する	414
10-13-2	求積図を選択する	414
10-13-3	求積表の見方	415
10-13-4	求積表の出力について	417
10-14	位置確認	418
10-14-1	測定点を選択する	419
10-14-2	位置確認線を自動で作成する	419
10-14-3	任意の位置確認線を作成・削除する	420
10-14-4	測定点の位置確認線を全て削除する	421
10-14-5	位置確認線を確認する	421
10-14-6	位置確認表の見方	422
10-14-7	位置確認表の出力について	423
10-15	放射範囲	424
10-15-1	放射範囲を設定する	424
10-15-2	前面領域を含む	425
10-16	立断面線	426
10-16-1	天空率算定領域を選択する	426
10-16-2	立断面線を平面図から選択する	427
10-16-3	立断面線リスト	427
10-16-4	立断面線をリストから選択する	427
10-16-5	立断面線を作成する	428
10-16-6	立断面線の位置や方向を変更する	428
10-16-7	立断面線を移動する	428
10-16-8	立断面図を更新する	429
10-17	適用距離	430
10-17-1	適用距離の見方	430
10-18	影響建築物	431
10-19	複合隣地	432
10-19-1	複合隣地について	432
10-19-2	複合隣地天空率算定領域を作成する	433
10-19-3	複合隣地天空率算定領域の作成方法を設定する	434
10-20	自動カット	435
10-20-1	自動カットを行う天空率算定領域を選択する	436
10-20-2	自動カットを実行する	436
10-20-3	「方位角-仰角割合設定」による自動カット形状の違い	437
10-21	ナビ	438
10-21-1	測定点を選択する	439
10-21-2	方位角で調整する	440
10-21-3	方位角で調整した結果の見方	442
10-21-4	仰角で調整する	443

10-21-5 仰角で調整した結果の見方	445
10-21-6 仰角を調整して最大高さを逆天空率計算する.....	446
10-22 適合後退ナビ	448
10-22-1 適合建築物の後退距離について	449
10-22-2 測定点を選択する	449
10-22-3 計算を実行する	449
10-22-4 シミュレーショングラフの見方	450
10-23 再地区.....	451
10-23-1 再地区天空率算定領域を作成する.....	451

11 天空率用図形

11-1 はじめに.....	453
11-2 サブメニュー	453
11-3 ブロック編集.....	454
11-3-1 天空率用図形ブロックを編集する天空率算定領域を選択する	455
11-3-2 建物編集ブロックに登録する	455
11-3-3 適合建築物ブロックの範囲に合わせて計画建築物ブロックを更新する	456
11-4 リスト編集	457
11-5 測定ライン	458
11-5-1 測定ラインを編集する天空率算定領域を選択する.....	459
11-5-2 測定点ピッチを設定する.....	459
11-5-3 測定点ピッチについて.....	460
11-5-4 測定ラインを選択する	463
11-5-5 直線の測定ラインを追加する.....	463
11-5-6 円弧の測定ラインを追加する	463
11-5-7 測定ラインの端点を数値入力で移動する.....	464
11-5-8 測定ラインの端点をマウス入力で移動する	464
11-5-9 測定ラインに端点を追加する	464
11-5-10 測定ラインの端点の高さを変更する	464
11-5-11 測定ラインの端点を削除する	465
11-5-12 測定ラインを削除する.....	465
11-6 傾斜(3点)	466
11-7 傾斜(斜線)	467

12 マスプラン

12-1 はじめに.....	470
12-2 サブメニュー	470
12-3 マスプランのワークフロー.....	471
12-4 グリッド編集.....	472
12-4-1 グリッド線を作成する	473
12-4-2 グリッド線を選択する	473
12-4-3 グリッド線を挿入する	473
12-4-4 選択したグリッド線を移動する	474
12-4-5 複数のグリッド線を移動する	474
12-4-6 グリッド線のピッチを変更する.....	474

12-4-7	グリッド線を削除する	474
12-5	ブロック編集	475
12-5-1	マスブロックを作成する断面計画を選択する	476
12-5-2	マスブロックを作成する階を選択する	476
12-5-3	壁厚を設定する	477
12-5-4	属性について	477
12-5-5	面積集計属性を選択する	477
12-5-6	グループについて	477
12-5-7	マスブロックを自動で作成する	478
12-5-8	マスブロックを1ブロック作成する	478
12-5-9	マスブロックを複数作成する	479
12-5-10	複数のマスブロックを最上階まで作成する	479
12-5-11	個別にマスブロックを選択する	480
12-5-12	範囲指定でマスブロックを選択する	480
12-5-13	マスブロックを移動する	480
12-5-14	マスブロックを複製する	481
12-5-15	マスブロックを編集階の上の階に複製する	481
12-5-16	マスブロックを上の階に複製する	481
12-5-17	マスブロックを削除する 1	482
12-5-18	マスブロックを削除する 2	482
12-5-19	階を選択して全てのマスブロックを削除する	482
12-5-20	マスブロックをグループ化する	483
12-5-21	グループを解除する	483
12-5-22	マスブロックの面積集計属性を変更する	483
12-5-23	マスブロックを建物編集用ブロックに登録する	484
12-5-24	面積表を表示する	485
12-6	カット	486
12-6-1	カット方法の設定について	487
12-6-2	天空率カットについて	488
12-6-3	各種制限のチェックを行う	488
12-6-4	カットを行う	489
12-6-5	連続カットを行う	491
12-6-6	マスブロック作成からカットまでを自動で行う	492
13	作図線	
13-1	はじめに	494
13-2	作図線ウィンドウ	494
13-3	作図線の作成	495
13-3-1	「平行線」コマンド	495
13-3-2	「垂直線」コマンド	496
13-3-3	「傾斜線 1」コマンド	497
13-3-4	「傾斜線 2」コマンド	498
13-4	テーブルについて	500
13-4-1	テーブルを追加する	500
13-4-2	テーブル名称を変更する	500

13-4-3	テーブルを削除する	501
13-4-4	テーブルを複写する	501
14 測定		
14-1	はじめに.....	503
14-2	測定ウィンドウ.....	503
14-3	測定する	504
14-3-1	距離を測定する	504
14-3-2	長さを測定する	506
14-3-3	面積を測定する	507
14-3-4	線分間の角度を測定する	508
14-3-5	3点を指定して角度を測定する.....	509
15 印刷プレビュー		
15-1	はじめに.....	511
15-2	印刷プレビューのワークフロー	512
15-3	ツールバー	513
15-3-1	印刷環境及び出力設定	513
15-3-2	文字列編集.....	513
15-3-3	図形の設定	514
15-3-4	画面表示設定	514
15-3-5	図形表示モード設定	515
15-3-6	作図・作表	515
15-3-7	図形/表の位置設定	515
15-4	シート見出し	516
15-4-1	表示するレイアウトシートを選択する.....	516
15-4-2	新規レイアウトシートを追加する.....	516
15-4-3	レイアウトシート名を編集する.....	517
15-4-4	レイアウトシートを削除する	517
15-4-5	表示するレイアウトシートをリストから選択する.....	517
15-4-6	レイアウト情報を読み込む	518
15-4-7	レイアウト名を編集する.....	518
15-4-8	レイアウト情報を削除する.....	519
15-4-9	選択したレイアウトシートをレイアウト情報へ登録する.....	519
15-5	印刷環境設定	520
15-5-1	出力するフォントサイズを設定する.....	520
15-5-2	ペンテーブルを設定する	520
15-5-3	シートの余白を設定する	521
15-5-4	出力する線幅を設定する	521
15-6	作図・作表・図形の設定	522
15-6-1	作図について.....	522
15-6-2	作表について.....	523
15-6-3	作図する.....	524
15-6-4	作表する.....	524
15-6-5	図形の選択について	525

15-6-6	表の選択について.....	525
15-6-7	配置の変更と図形位置の変更について.....	526
15-6-8	図形または表の配置を変更する.....	527
15-6-9	複数の図形または表の配置を変更する.....	527
15-6-10	図形または表をレイアウトシート内に再配置する.....	527
15-6-11	図形枠の大きさを変更する.....	527
15-6-12	表の大きさを変更する.....	528
15-6-13	図形をレイアウトシート全体に表示する.....	528
15-6-14	図形枠内の図形の位置を変更する.....	528
15-6-15	図形枠内の図形の位置を初期位置に戻す.....	528
15-6-16	図形または表を複写する.....	528
15-6-17	図形または表の表示項目を設定する.....	529
15-6-18	図形の縮尺を設定する.....	529
15-6-19	複数の図形または表の位置を揃える.....	529
15-6-20	複数の図形または表を均等間隔に配置する.....	530
15-7	文字列編集.....	531
15-7-1	文字列編集を開始する.....	531
15-7-2	文字列編集を終了する.....	531
15-7-3	任意の文字列を作成する.....	531
15-7-4	道路幅文字列を作成する.....	531
15-7-5	敷地境界線文字列を作成する.....	532
15-7-6	みなし敷地文字列を作成する.....	532
15-7-7	規制ライン文字列を作成する.....	532
15-7-8	文字列を更新する.....	533
15-7-9	文字列の配置を変更する.....	533
15-7-10	文字列の配置を元に戻す.....	533
15-7-11	文字列を表示する.....	533
15-7-12	文字列を非表示にする.....	534
15-7-13	文字列を編集する.....	534
15-8	出力の設定.....	535
15-8-1	プリンター出力の設定をする.....	535
15-8-2	DXF 出力の設定をする.....	536
15-9	出力.....	537
15-9-1	プリンター印刷.....	537
15-9-2	DXF 出力.....	537

1 システムについて

1-1 ご利用にあたって

- 本リファレンスマニュアルは、ADS-Family(以下、本システムという)共通です。
- 本リファレンスマニュアルでの本システムの画面画像は、開発中のものであり、実際と異なる場合があります。
- ご利用の製品によっては、ご利用できない機能があります。

1-1-1 本リファレンスマニュアルで用いた略語

略語	正式名称
法	建築基準法
令	建築基準法施行令
施行規則	建築基準法施行規則
ダイアログ	ダイアログボックス

1-2 開発コンセプト

本システムは、設計者が必要とする業務を敏速かつ正確に支援することを目的とした Windows 対応建築企画支援システムとして開発しています。

企画設計段階における総合的なシミュレーション

- ・斜線による高さの制限＜斜線高さ制限と天空率による緩和＞
- ・日影による高さの制限＜日影規制＞
- ・高さ制限を元にした建築可能空間検討

実施設計段階における解析と図書作成

- ・最終的な計画による高さ制限解析
- ・確認申請図書作成
- ・近隣説明用図書作成

また、Windows 上での CAD との連動を考慮し、Windows 環境での建築設計業務の一元化を目的としています。

1-3 主な機能

1-4 はじめに

○このたびは、ADS-Family をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

○ADS-Family は、ADS-win を中心とした建築基準法集団規定高さ制限解析システムです。

建築基準法集団規定高さ制限解析システム

ADS Family LineUp

■ ADS-win

天 空 率

逆天空率

斜 線

日 影

逆 日 影

■ ADS-LAX

天 空 率

逆天空率

■ ADS-LA

天 空 率

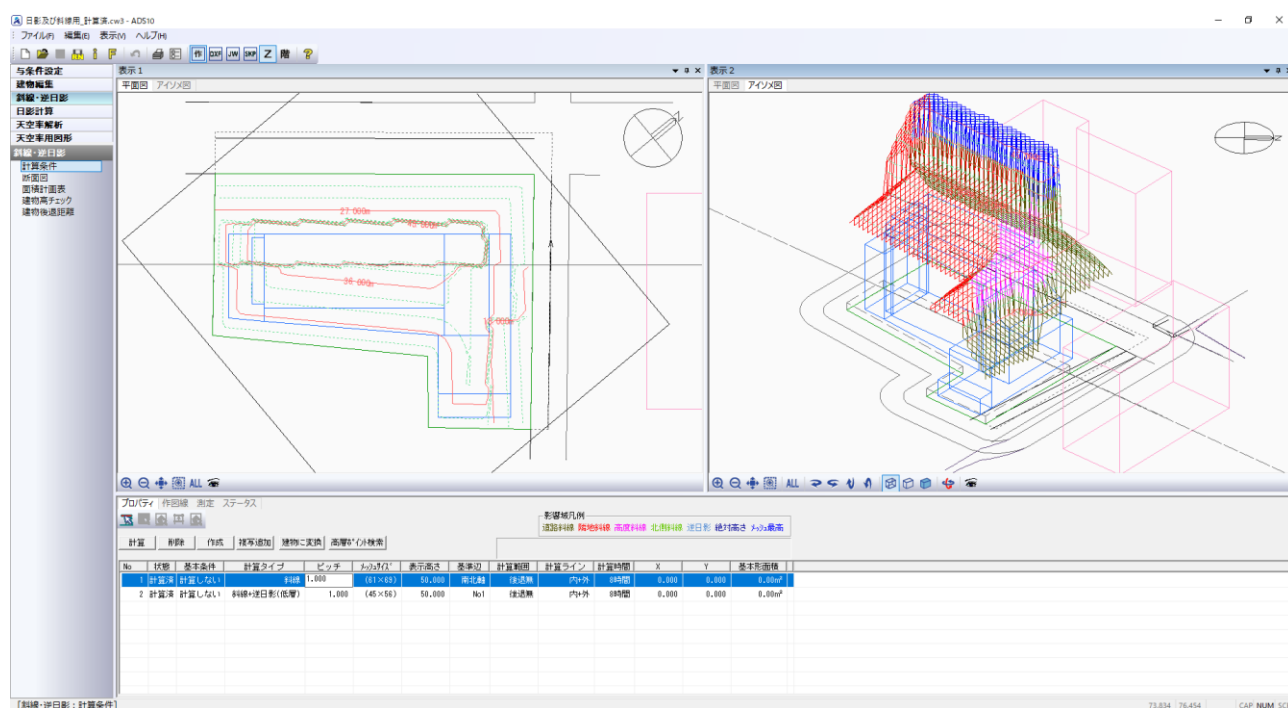
1-4-1 斜線・逆日影計算機能

斜線計算では、高さに関する制限内の建築可能空間を計算します。

多くの場合では、建物の高さの制限決定要因となる道路斜線、隣地斜線が建築基準法により敷地辺からの建物の後退距離によってその制限が緩和されるため、最大建築可能空間が一意に決定できません。無数にある建築可能空間のうち、最適な空間を把握するためのシミュレーションを行います。

逆日影計算では、日影規制に則る最大建築可能空間を計算します。この結果をそのまま建物の形態とすることはできませんが、建物の形態を決定していく過程において、ひとつの指標として利用することにより設計業務の効率を向上させることができます。

斜線計算及び逆日影計算の2種類の計算を同時に行い、総合的判断のもとに計画に最適な空間を把握することができます。



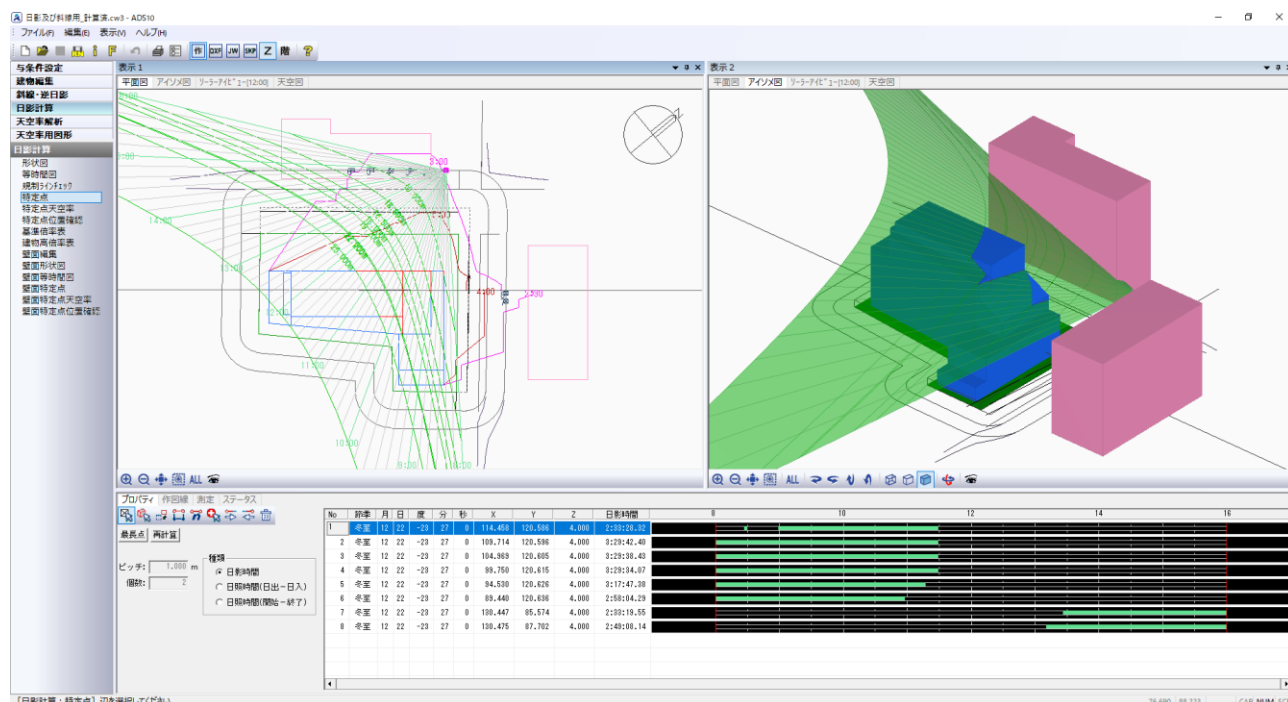
1-4-2 日影計算機能

計画建物がどのような日影を発生し、周囲に影響を与えるかシミュレーションを行います。

日影は、特に日影規制のかかる地域に計画される建物の外形形状を決定していくうえで重要な要因となります。又、確認申請の際の日影規制をクリアしていることを証明する添付図書や、近隣説明時にもそれらを説明する資料が要求されます。

これらの業務は多くの労力を要するとともに人の手による計算では精度の高い計算は不可能ですが、本システムでは計算からそのプレゼンテーションまでを、条件の入力だけで簡単に行います。

形状図、等時間図はもちろん、特定点、日照定規、天空図、壁面日影図などチェック機能を多く持っています。



平成 15 年 1 月より施行された斜線高さ制限の緩和として利用されている天空率計算機能です。

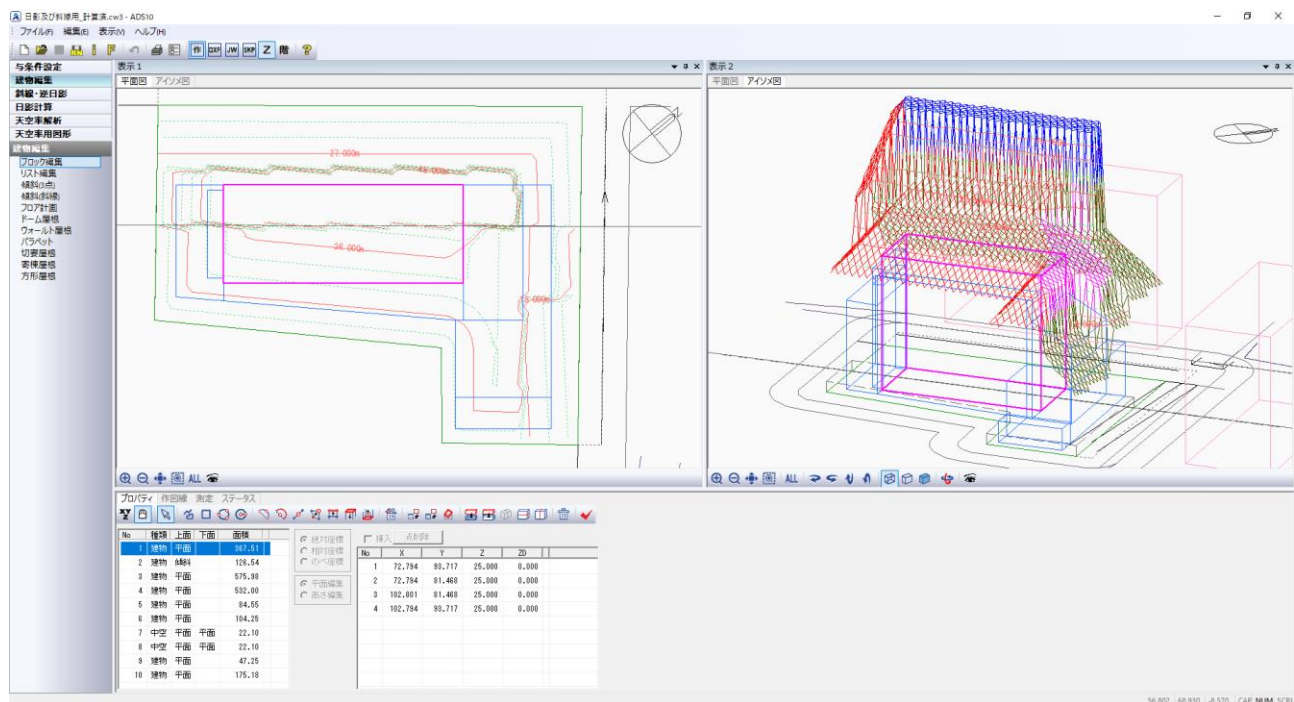
又、それらの情報は一元管理していますので、シミュレーション時の適否判定が効率よくできます。



1-4-4 建物形状のシミュレーション

本システムは、簡易3D モデラとしての機能を持っています。計画建物の形状を入力するだけでなく、本システム内で計画建物の外形形状を決定していくことを前提とした機能です。

斜線・逆日影計算、日影計算、天空率計算を実行し、その結果が適正でないときは、結果を確認しながら建物の外形形状を修正することが可能です。



1-5 本システムの特徴

1-5-1 多彩な敷地編集が可能

建築計画をする上で重要となるのが敷地情報です。計画時における敷地図は様々存在しますが、本システムでは殆どのケースに対応しています。

特徴	概要	利用可能な情報
CAD データの利用	CAD で作成した図形をインポートすることができます 本システム側からの出力も可能です	DXF データ
		JWW データ
		SKP データ
		ADSX データ
敷地図の利用	三斜測量図等の数値情報が記載された図面はもとより、正確な縮尺がわからない図面でも利用可能です	三斜測量図
		画像データ
		座標入力

1-5-2 異なる規制の設定

用途地域・日影規制といった建築基準法上の規制から、高さ制限に関する地盤も含め、複数の領域に対して設定可能です。

1-5-3 地方条例に対応した入力が可能

地方自治体独自の高度斜線の規制に対応できます。

また、日影規制については日本国内全地域において日本標準時での計算出力も可能です。

1-5-4 斜線・逆日影計算の高精度化

最近の大規模プロジェクトに対応して、最大計算実行メッシュ数を 1000×1000 としており、より精度の高い計算結果が得られます。

逆日影計算では、カット方法を選択した上で測定ライン上でのカットを行います。

さらに、敷地外の分割ライン上でもカットできるので、より高い精度の逆日影計算を実行します。

1-5-5 ソーラーアイビュー

「ソーラーアイビュー」は、近隣建物に対する日影や複雑な建物の自己の日影の状況を総合的にかつ立体的に把握するために考えられた表示方法です。

任意の日時の太陽の位置から見たアイソメ図を表示します。

太陽光が平行光線であることから太陽の位置に視点を置いた図で、計画建物の背後になる部分が、影となることを示します。

1-5-6 天空率計算

1-5-6-1 天空率算定領域自動生成

天空率計算で必要となる高さ制限適合建築物・計画建築物・測定点は、敷地形状や道路接道状況に応じて、原則として境界線単位等で区域区分された領域毎に算定しなければなりません。

(建物全体に対して検討する制限(斜線・日影)とは、検討方法が異なります)

本システムは、方式選択によって適合・計画建築物及び測定点を区域毎に自動生成を行います

天空率計算は、システム計算と最終的な判断となる求積計算及び位置確認線を一括での計算が可能です。

プロパティ 作図線 測定 ステータス																	
初期化		条件設定		北側斜線		道路境界線				更新		☒ 境界線表示 ☒ 領域表示		方式編集			
境界線		領域	基本処理			適合始点処理			適合終点処理			測定点始点処理		測定点終点処理			
No	No	入隅始点	入隅終点	基本	始点	距離	カット法	終点	距離	カット法	始点	距離	終点	距離	総延長	ピッチ	
2		延長	延長	基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	✓		
	1			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	✓	2.500m	
	2			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	✓	2.500m	
3		延長	延長	基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	✓		
	3			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	✓	5.000m	

プロパティ 作図線 測定 ステータス													
道路斜線		領域作成		領域複写		領域削除		削除					
No	境界	種別	基本	ケルプ°	適合処理	測定点処理	道路幅員	ピッチ	用途/容積率	後退距離	適用距離	地盤高	
1	2	自動	基本		境界線～境界線	適合～適合	5.000m/10.000m	2.500m	準住居/60/300	3.000m	25m	0.000m	
2	2	自動	基本		境界線～境界線	適合～適合	5.000m/5.000m	2.500m	準住居/60/300	3.000m	25m	0.000m	
3	3	自動	基本		境界線～境界線	適合～適合	10.000m/10.000m	5.000m	準住居/60/300	5.000m	25m	0.000m	

1-5-6-2 計算結果の表示

本システムの天空率計算は、測定点の情報を天空率算定領域単位に管理しています。

また、システム計算と求積計算の結果が常に一覧表により確認することで、区域毎の近接点(最も厳しい測定点)も瞬時に判断することができます。

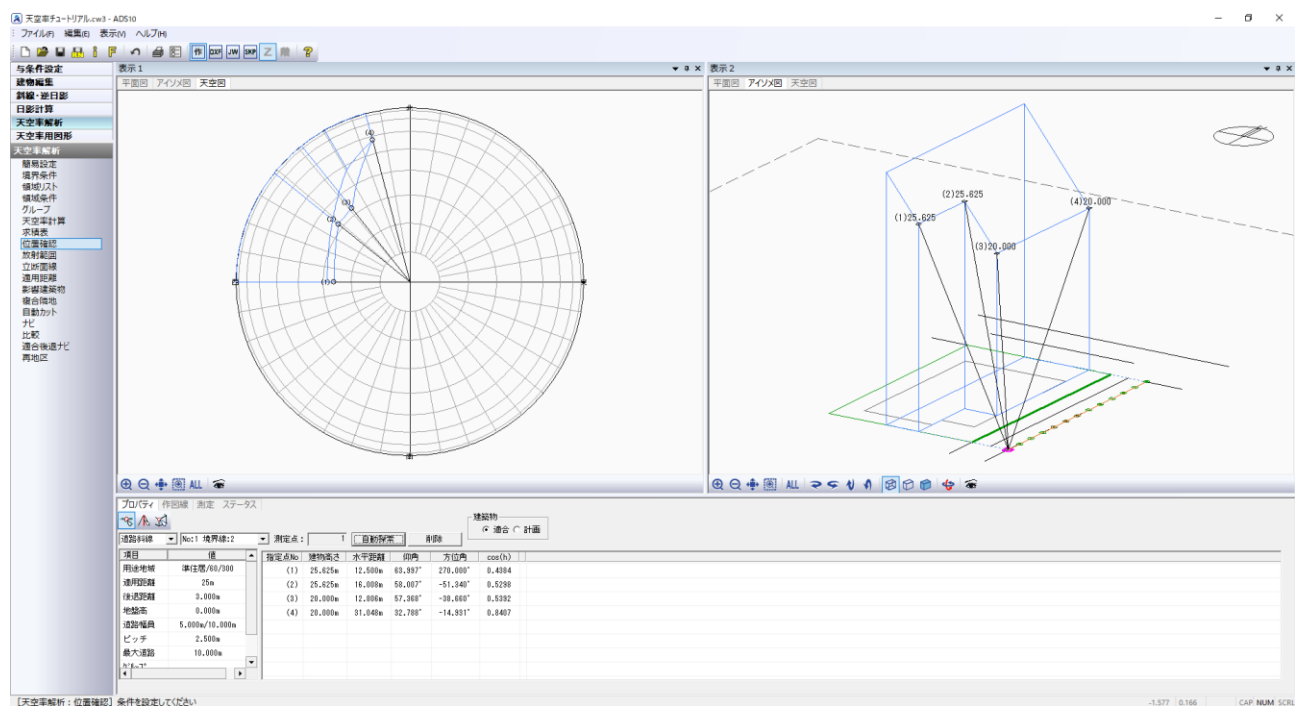
プロパティ 作図線 測定 ステータス																
道路斜線		No:1 境界線:2		計算		削除										
項目		値		計算1(システム計算)						計算2(求積計算)						
		No	X	Y	Z	適合	計画	計-適	判定	順位	計算	適合	計画	計-適	判定	差1-差2
用途地域																
準住居/60/300																
適用距離		25m	1	25.000	0.000	0.000	85.536	87.432	1.896	○	4					
後退距離		3.000m	2	25.000	2.500	0.000	82.945	85.455	2.510	◎	8					
地盤高		0.000m	3	25.000	5.000	0.000	80.588	83.017	2.429	◎	6					
道路幅員		5.000m/10.000m	4	25.000	7.500	0.000	78.618	80.729	2.111	◎	5					
ピッチ		2.500m	5	25.000	10.000	0.000	77.094	78.937	1.843	○	2	77.128	78.932	1.804	○	0.039
最大道路		10.000m	6	25.000	12.500	0.000	75.973	77.677	1.704	○	1	76.008	77.674	1.666	○	0.038
ケルプ°			7	25.000	15.000	0.000	75.312	77.188	1.876	○	3	75.348	77.185	1.837	○	0.039
			8	25.000	17.500	0.000	75.141	77.616	2.475	◎	7					
			9	25.000	20.000	0.000	75.538	79.140	3.602	◎						
			10	25.000	22.500	0.000	76.843	81.858	5.213	◎						

1-5-6-3 位置確認について

天空率を利用した計画における確認申請には、配置図と天空図との整合性を確認する「位置確認表」の表記が必要となります。

本システムでは、自動若しくは手動により指定を行うことにより、シミュレーション中の平面図・天空図・アイソメ図に位置確認線を表示します。

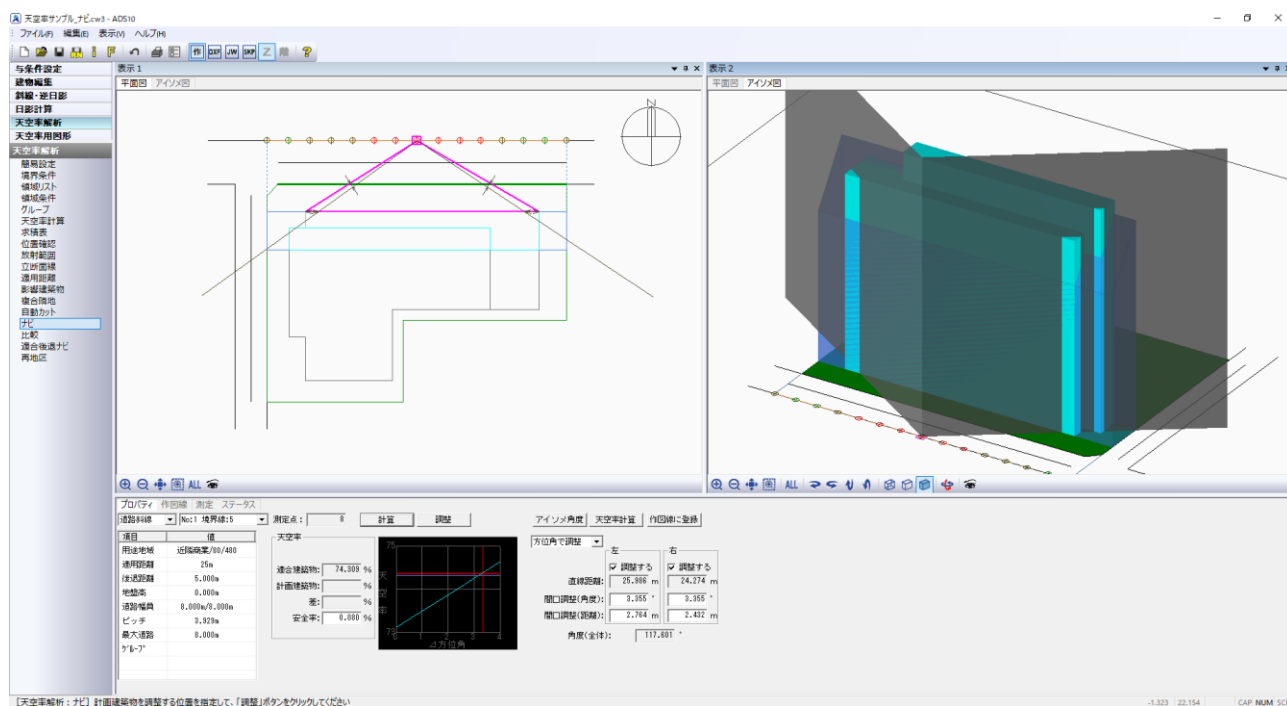
配置した位置確認線から位置確認表を自動作成します



1-5-6-4 逆天空率

天空率の逆計算を行うことで建築可能空間を算出します。本システムでは下記の機能が利用できます。

機能	概要
自動カット	任意の天空率算定領域に対して、天空率の算定結果が適合となるよう、計画建築物を自動的にカットします 計画初期段階でボリュームを把握する場合等に利用します
ナビ	天空率の算定結果が不適合になっている測定点から、適合となる範囲を自動検索してその境界線を表示します。
適合後退ナビ	後退距離によって適合建築物の天空率が変化する特性を利用し、適合建築物の天空率が最小となる後退距離位置を自動算出します



1-6 運用上の基本的な考え方

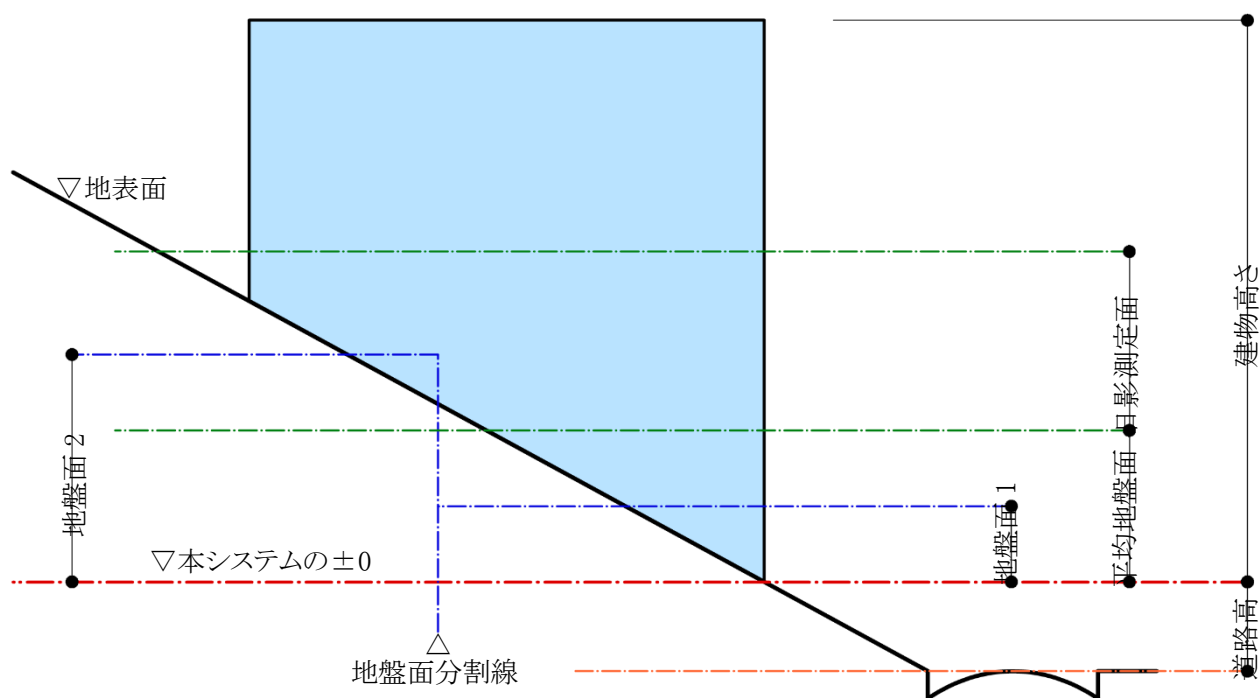
1-6-1 座標と単位

- 敷地や建物の形状はワールド座標系座標値(X,Y,Z)として定義します。
- 座標値の入力単位は、メートル(m)です。

平面座標	敷地の形状や建物の位置などは、原点(0,0,0)を中心に各頂点を(X, Y)の座標値として定義します 正確な入力が必要な場合は座標値を直接数値入力できます
高さ座標	本システムでは、すべての高さを(Z)の座標値として定義します また、各計算についてもこの高さを利用してその結果を表示します 設計 GL が本システムの±0 にあるものとして考え、建築基準法及び同施行令で定義される「地盤面」や、前面道路の高さ、隣地の高さ、日影規制の測定面の高さを設定するのが最も効率的です

1-6-2 本システムの高さの考え方

- 本システムの±0 の高さを、図面上のどの高さとするかは任意に決定することができます。
- 本システムの±0＝図面上の設計 GL±0 とすることを推奨しています。



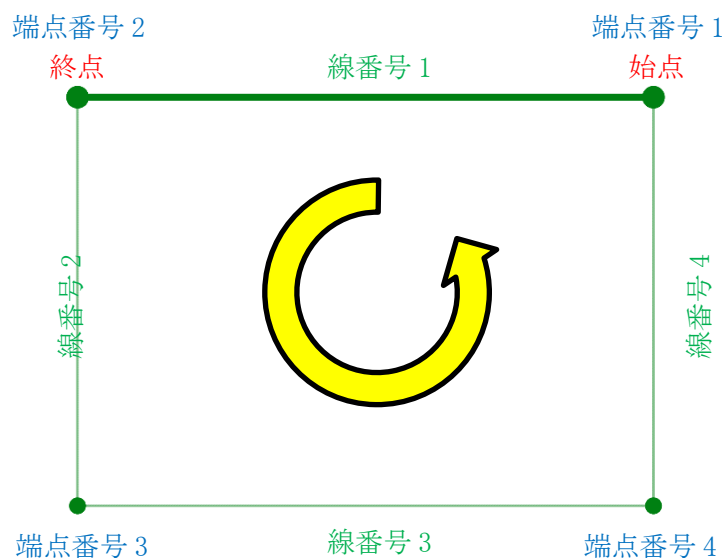
1-6-3 高さの入力

- 「絶対高さ入力」または「階数依存入力」が選択できます。

絶対高さ入力	建物の高さを原点(0,0,0)からの高さで設定します
階数依存入力	階数や階高の断面計画を作成し、断面計画の階で高さを設定します 断面計画を変更することで建物全体の高さを一括で変更できます

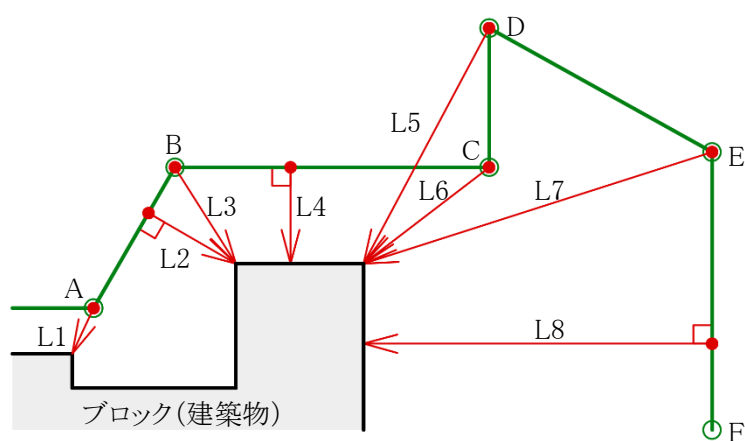
1-6-4 始点と終点

- 本システムの線分は平面図上の始点と終点によって定義されます。
- 閉じた図形において、図形内側から見て右側が始点、左側が終点です。
- 辺や端点の番号は、図形内側から見て反時計回りに定義されます。



1-6-5 後退距離の算定

- 本システムでは、各敷地境界線の端点又は辺上から、水平距離が最小となるブロックの端点または辺までの距離を自動的に算出し、後退距離として採用します。
- 令 130 条の 12 の規定による後退距離の算定の特例は適用されません。同条の規定を適用する場合は、各メニューにおいて手動で設定する必要があります。
- 敷地の形状によっては、敷地境界線にブロックが面していない場合でも後退距離が算出されます。



敷地境界線	採用後退距離
A-B	L1
B-C	L4
C-D	L6
D-E	L5
E-F	L8

1-6-6 緩和措置の自動処理

- 本システムでは、法規解釈に基づき自動処理を行います。

1-7 本システムの計算方法と精度

1-7-1 斜線・逆日影計算

斜線・逆日影計算は、一般的にメッシュ法と呼ばれる計算方法を採用しています。

メッシュ法は、入力された敷地内を格子(メッシュ)状に分割し、斜線規制や日影規制によって制限される格子の交点の高さを計算します。

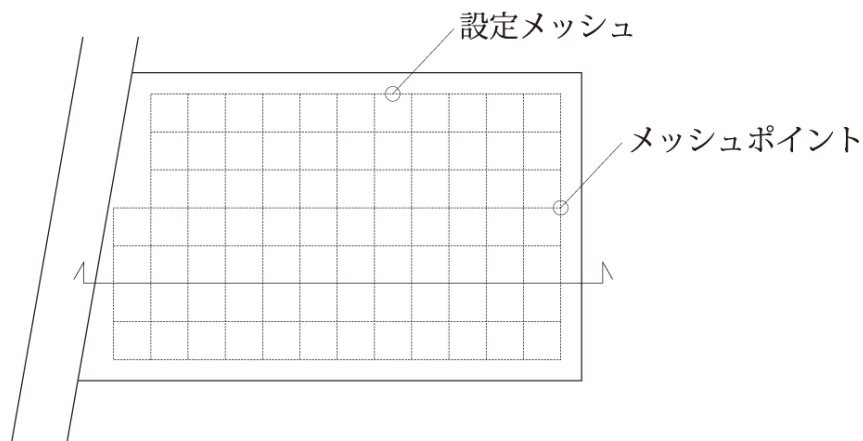
メッシュ法による計算結果から、点と点の間を直線補完(比例分配)して情報を推定し、アイソメ図、等高線、断面図を表示出力します。

また逆日影計算においては、規制ライン上からメッシュピッチで計算します。

アイソメ図及び断面図においてメッシュの点と点を繋ぐ線は推定される線であることから、斜線・逆日影計算における等高線の最大表示誤差は水平距離でメッシュピッチの 1/2 となります。

メッシュピッチが粗いと設計者に有利に表示される場合があります。高度な計算精度を必要とするときは、できるだけメッシュピッチを細かく設定します。

なお、メッシュ点の高さはmm未満を四捨五入して表示します。



1-7-2 日影計算

日影時間は、太陽軌跡と建物の関係を数学的に解析処理し倍精度で計算していますが、実用の範囲を考慮し、1 秒以上を適宜処理して安全側で表示します。また、日影形状図についても、日影時間と同様に倍精度で計算しています。

日影等時間図の計算には「追跡法」と「メッシュ法」の 2 つの方法があり、それぞれ 2 つの計算条件があります。

追跡法	建物から生じる日影時間が、規制条件の値となる位置を予想して、その位置を連続的に検索し、軌跡を線分として表示します 検索位置での計算誤差は安全側に設定計算精度未満であり、表示誤差は設定する計算ピッチの指定により検索位置の間隔が決定するので、現実的な建物形状においては最大でも計算ピッチ未満となります 計算ピッチにより建物のポイントまたは指定ライン上のポイントから次のポイントを検索して計算します	
	自動検索計算	規制時間の等時間線の開始点となる建物ポイントを自動的に探して追跡法による計算を行います ブロックの各端点のうち、各規制時間の等時間線の開始点となるポイントを自動検索して、開始点を起点に計算を開始します 開始点が検索できない場合は計算ができませんので、計算ピッチを細かくするか、別の計算方法で実行してください
	指定検索計算	規制時間の等時間線が予測される線(指定線)を任意に指定し、指定した線上の開始点となるポイントを検索して、開始点から次のポイントを追跡検索します
メッシュ法	指定した範囲を格子状(メッシュ状)に分割し、その各格子の交点で計算した日影時間の結果をもとに等時間線を推定して線分として表示します 格子の交点での計算誤差は安全側に 1 秒未満で、線分の最大表示誤差は水平距離でメッシュピッチの 1/2 です	
	規制時間計算	設定した日影規制条件の規制時間の計算を行います
	単位時間計算	任意の時間に対する計算を行います 日影規制条件の規制時間以外の時間を計算可能です

計算精度及び速度は追跡法の方が格段に優れています。しかし、追跡法では「島日影」と「極めて特殊な敷地条件または建物形状であるために位置の予想ができない場合」は計算できません。

これに対し、メッシュ法ではあらゆる場合の計算が可能です(設定した計算精度以下の領域がある場合を除く)。

また、中空ブロックを含む建物では、追跡法では計算できない場合が多く予想されます。このときは必ずメッシュ法で発生するラインを確認した上で、追跡法で再度精度の高い計算を行います。「自動検索計算(追跡法)」で発生できない日影等時間図は、「指定検索計算(追跡法)」で追加計算します。

1-7-3 天空率計算

本システムの天空率計算は、計算 1(システム計算)と計算 2(求積計算)を実行します。

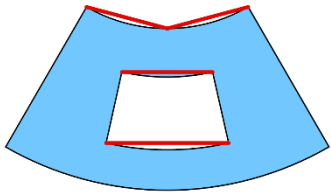
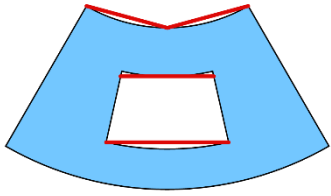
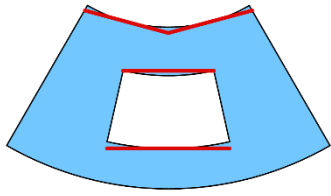
計算 1 (システム計算)	全天空図に投影した、建築物を外部包絡処理図形に対しての面積計算(積分計算)を行います
計算 2 (求積計算)	全天空図に投影した、建築物を外部包絡処理図形に対して、設定した分割角度を最大として三斜求積図を作成し、三斜求積計算を行います 本システムの分割角度のデフォルト設定は 10 度です

本来、天空図に投影される建築物は曲線となります。本システムでは面積計算を実行するために、各建築物頂点以外の部分を、全天空図中心からの角度で算出した高さ毎に直線補完をしています。

また、端数処理について適合建築物と計画建築物では異なる処理を行います。

	天空図上建築物頂部の直線補間方法		端数処理
	計算 1	計算 2	
適合建築物	多角形	外接(空を大きく)	小数点 3 桁未満を切り上げ
計画建築物	多角形	内接(空を小さく)	小数点 3 桁未満を切り捨て

・本システムの天空図上建築物頂部の直線補間方法

直線補間方法	図	備考
多角形		常に天頂側(全天空図中心側)に接するように判定します
内接		天頂側(全天空図中心側)からみでの内接判定をします 中抜け部分も内接判定をします 天空率が小さく出ます
外接		天頂側(全天空図中心側)からみでの外接判定をします 中抜け部分も外接判定をします 天空率が大きく出ます

1-8 データ互換性について

1-8-1 中間ファイル

- 中間ファイルである「ADSX」形式または「ADX」形式を介して、本システムと ADSX または ADX 対応の他社製 CAD とのデータの受け渡しが可能です。
- 与条件設定及び 3 次元形式によるブロックデータなどを双方向に受け渡すことができます。
- 他システムの制約を受けることなく、データの互換性を確保できます。

1-8-1-1 ADSX 形式

- バージョン 10 に対応した中間ファイル形式です。
- バージョン 9 以前のバージョンでは開くことができません。
- 拡張子は「.adsx」です。
- 用途地域「田園住居地域」に対応しています。
- 「道路幅 1」、「道路幅 2」、「採用幅種別」、「採用道路幅員」に対応しています。

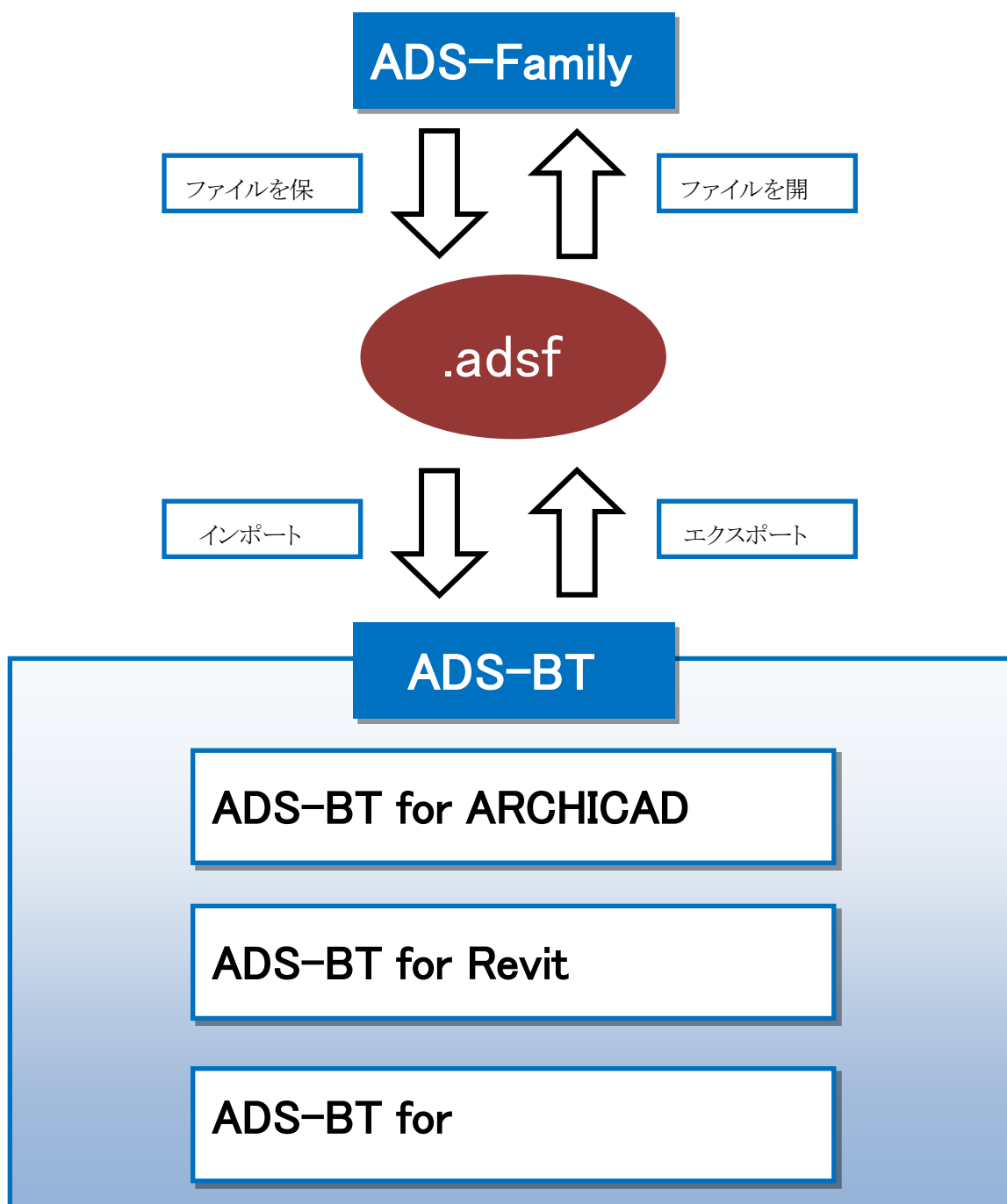
1-8-1-2 ADX 形式

- バージョン 9 以前のバージョンに対応した中間ファイル形式です。
- バージョン 10 及びバージョン 9 以前のバージョンで開くことができます。
- 拡張子は「.adx」です。
- 用途地域「田園住居 10m」は「1種低層 10m」へ変換されます。
- 用途地域「田園住居 12m」は「1種低層 12m」へ変換されます。
- 「道路幅」は「採用道路幅員」が採用されます。

1-8-2 ADS-BT との連携

○ADS-BT は各種 BIM ツールに対応した高さ制限解析プログラムアドオンです。

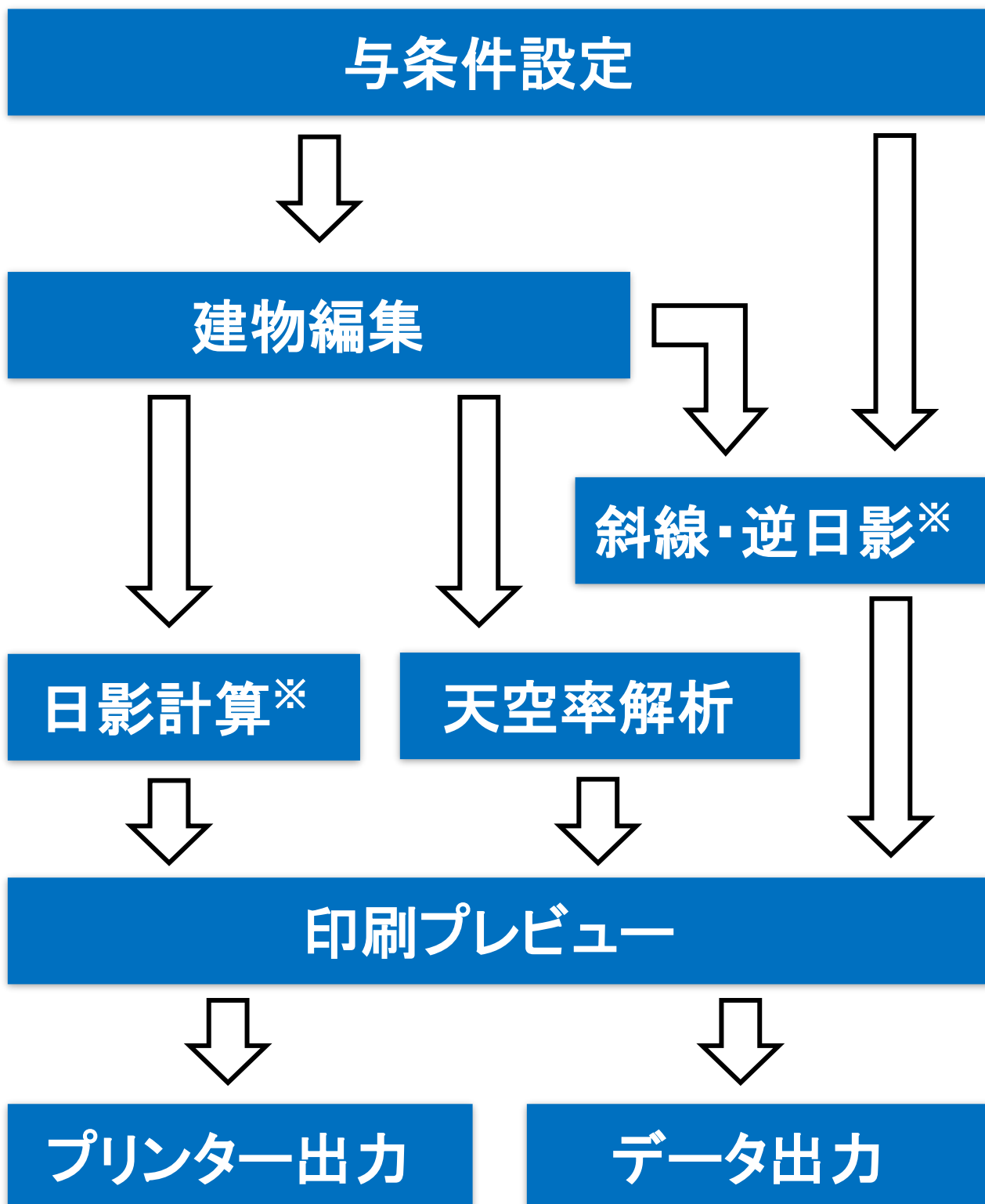
○「.adsf」形式で、本システムと ADS-BT とのデータのやりとりが可能です。



2 システムの操作

2-1 本システムのワークフロー

- 高さ制限解析を行うにあたり、敷地形状・建物形状はもとより、各種条件を正しく設定する必要があります。
- 設定した条件を確認・理解した上で解析してください。



※ADS-LA 及び ADS-LAX は未対応です。

2-2 本システムの起動 / 終了

2-2-1 本システムの起動

○Windows のスタートメニュー、またはショートカットアイコンから起動します。

- ・本システムのアイコン



2-2-2 本システムの終了

○プルダウンメニュー/ファイルより、「アプリケーションの終了」の選択、または Windows のアプリケーションを閉じる操作を行います。

2-3 本システムの基本操作

○本システムの操作は Windows の標準的な操作方法に準拠しています。

○Windows の基本的な操作については、専用のマニュアル及び市販の書籍をご参照ください。

2-3-1 マウス入力について

マウス操作	操作内容
左クリック	マウスの左ボタンを押します
右クリック	マウスの右ボタンを押します
選択	左クリックします
キャンセル	操作の継続中に右クリックします
範囲選択	範囲指定する位置で左クリックした後、対角となる位置で再度左クリックします
ダブルクリック	マウスの左ボタンをすばやく2回クリックします

2-3-2 数値入力について

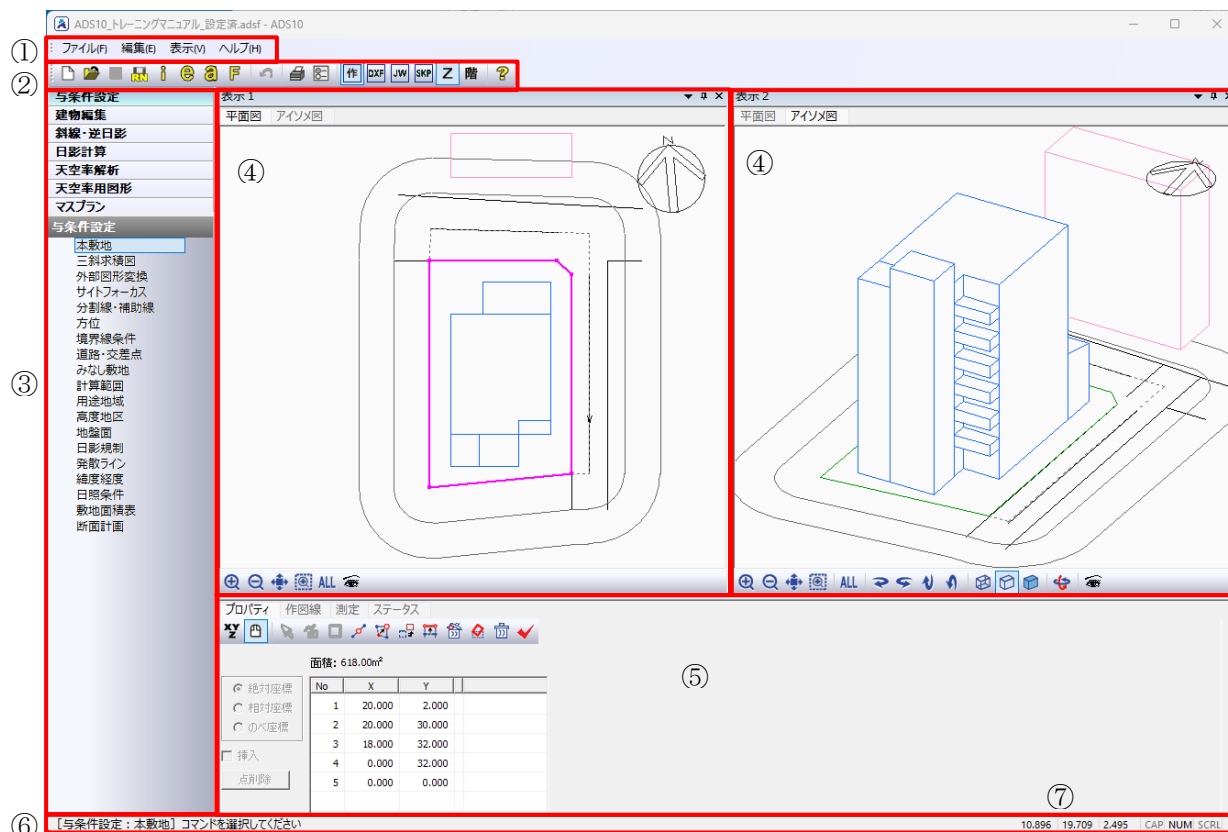
○本システムにおいて、数値入力欄で数値を入力する場合は、最後に必ず「Enter」キーを押します。

3 画面構成

3-1 はじめに

○本システムの画面は、各種設定や各種計算を行うモデル表示画面と、出力に関する設定を行う印刷プレビューから構成されます。

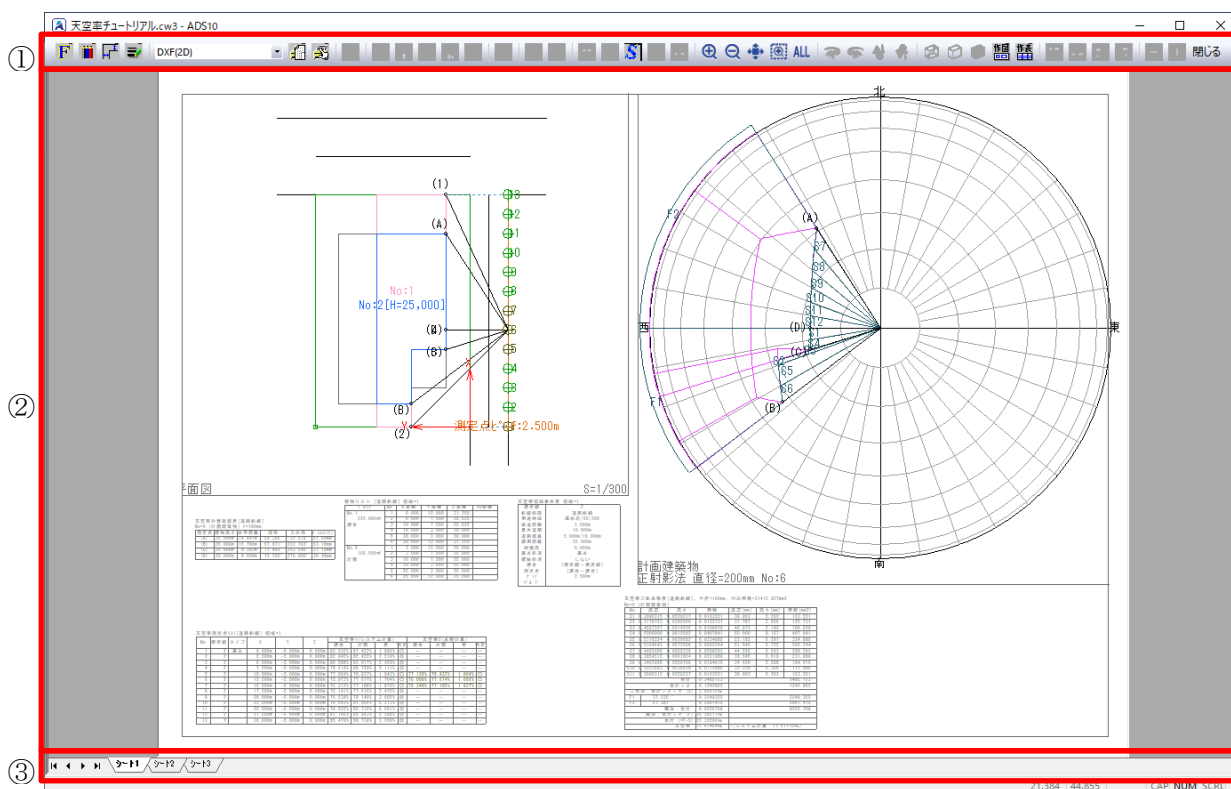
3-1-1 モデル表示画面



番号	項目	概要
①	プルダウンメニュー	メニューを選択すると項目が表示します
②	ツールバー	各種コマンドのアイコンを表示します
③	メインメニュー及びサブメニュー	メインメニューを選択することでサブメニューが展開します メインメニュー毎に内容が切り替わります
④	図形表示ウィンドウ	各種図面を表示します 「表示1」及び「表示2」の2画面表示することができます 選択したサブメニューによって表示可能な図面が異なります
⑤	標準ウィンドウ	デフォルトはプロパティを表示します 「プロパティ」、「作図線」、「測定」、「ステータス」の各タブを選択することでウィンドウの表示を切り替えることができます
⑥	ステータスバー	サブメニューや各種コマンド等を選択した場合にメッセージを表示します 各種計算時には、計算途中で計算を止めることが可能な「中止」ボタンが表示されます
⑦	座標	マウスカーソル位置の X、Y、Z 座標を表示します

※メインメニューの“マスプラン”はオプション製品です。

3-1-2 印刷プレビュー



番号	項目	概要
①	ツールバー	各種コマンドのアイコンを表示します
②	レイアウトシート	シートを表示します 図形や表を配置します
③	シート見出し	シートをタブ表示します シートやレイアウトの編集を行います

※ツールバーのコマンドは右クリックでも表示可能です。

3-2 ドッキングウィンドウについて

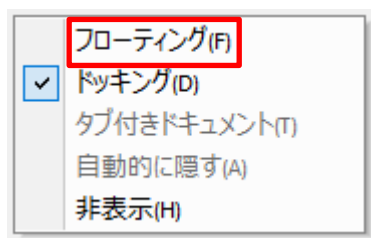
- 「図形表示ウィンドウ」及び「出力ウィンドウ」は、ウィンドウのフローティング及びドッキングが可能です。
- 独立したウィンドウはマルチモニタでの利用も可能です。

3-2-1 ウィンドウをフローティングする

3-2-1-1 右クリックメニューを選択する

[操作手順]

- 1) フローティングするウィンドウ上で右クリックをします。
- 2) 「フローティング」を選択します。



3-2-1-2 タイトルバーをドラッグする

[操作手順]

- 1) フローティングするウィンドウのタイトルバーを選択します。
- 2) タイトルバーをドラッグするとウィンドウが移動します。



- 3) フローティングする位置を指定します。

3-2-1-3 タイトルバーをダブルクリックする

[操作手順]

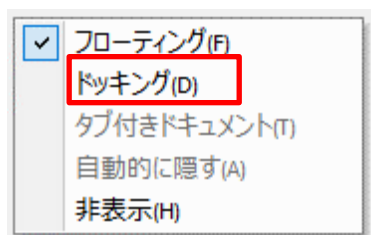
- 1) フローティングするウィンドウのタイトルバーをダブルクリックします。

3-2-2 ウィンドウをドッキングする

3-2-2-1 右クリックメニューを選択する

[操作手順]

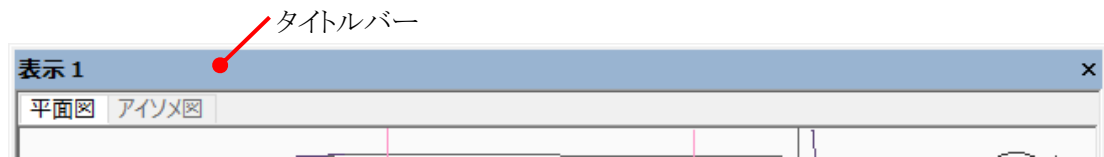
- 1) ドッキングするウィンドウ上で右クリックをします。
- 2) 「ドッキング」を選択します。



3-2-2-2 タイトルバーをドラッグする

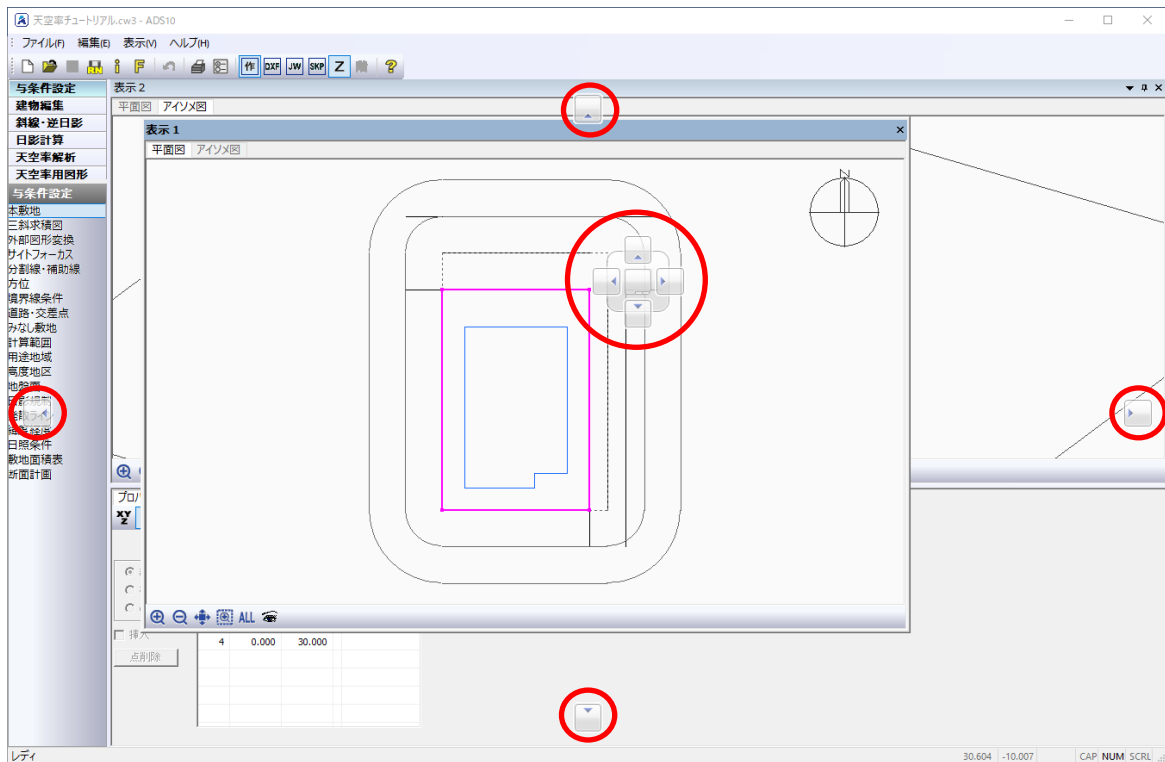
[操作手順]

- 1) ドッキングするウィンドウのタイトルバーを選択します。



- 2) タイトルバーをドラッグするとドッキング用のマークが表示します。
- 3) マークの位置にドラッグしたままウィンドウを移動します。
- 4) ドッキングする位置でウィンドウをドロップします。

※ウィンドウが消えた場合は、プルダウンメニュー/表示より、「ツールバーとドッキングウィンドウ」を選択し、表示するウィンドウを選択します。

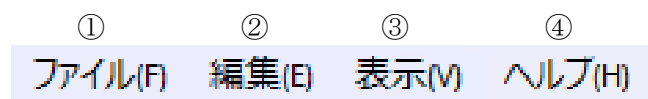


3-2-2-3 タイトルバーをダブルクリックする

[操作手順]

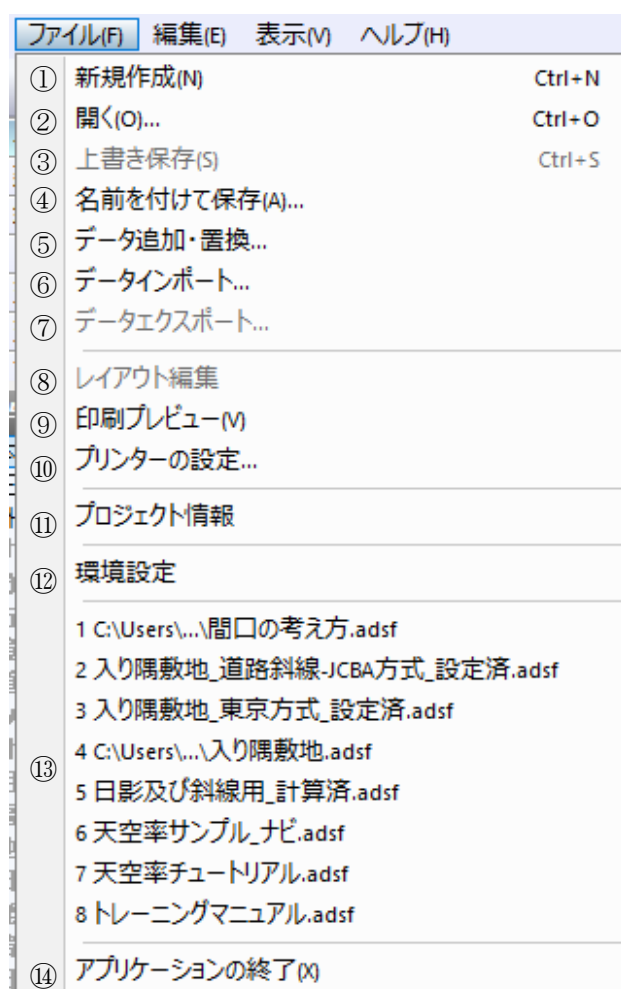
- 1) ドッキングするウィンドウのタイトルバーをダブルクリックします。

3-3 プルダウンメニュー



番号	項目	概要
①	ファイル	主にファイルに関するメニューを表示します
②	編集	編集に関するメニューを表示します
③	表示	画面表示に関するメニューを表示します
④	ヘルプ	ヘルプメニューを表示します

3-3-1 ファイル

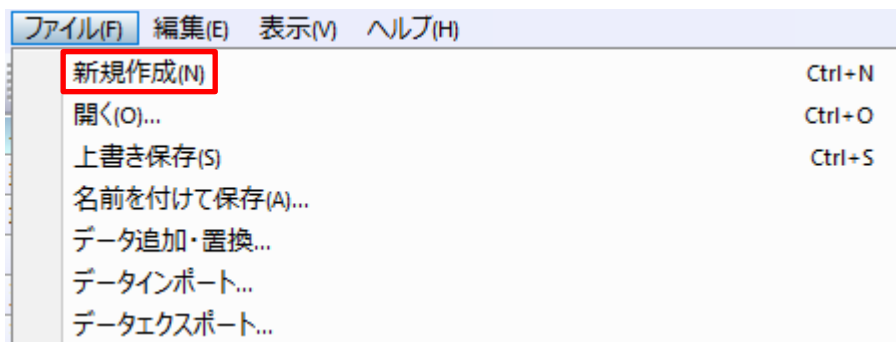


番号	項目	概要
①	新規作成	本システムのデータを新規に作成します
②	開く	本システムのデータを開きます
③	上書き保存	開いているデータを上書き保存します
④	名前をつけて保存	開いているデータに名前を付けて保存します
⑤	データ追加・置換	開いているデータに他のデータの一部を取り込みます
⑥	データインポート	CAD データや画像データ等を背景として取り込みます。 ※画像データは本敷地登録前のみインポートすることが可能です
⑦	データエクスポート	本システムの図形データをエクスポートします
⑧	レイアウト編集	使用しません
⑨	印刷プレビュー	印刷プレビューウィンドウを開きます
⑩	プリンターの設定	プリンターの設定をします
⑪	プロジェクト情報	プロジェクトの情報を設定します
⑫	環境設定	環境設定ダイアログを開きます
⑬	最近開いたデータ	最近開いたデータを表示します
⑭	アプリケーションの終了	本システムを終了します

3-3-1-1 データを新規作成する

[操作手順]

- 1) 「ファイルメニュー/新規作成」または「ツールバー/新規ファイル」を選択します。



↑ ファイルメニュー/新規作成

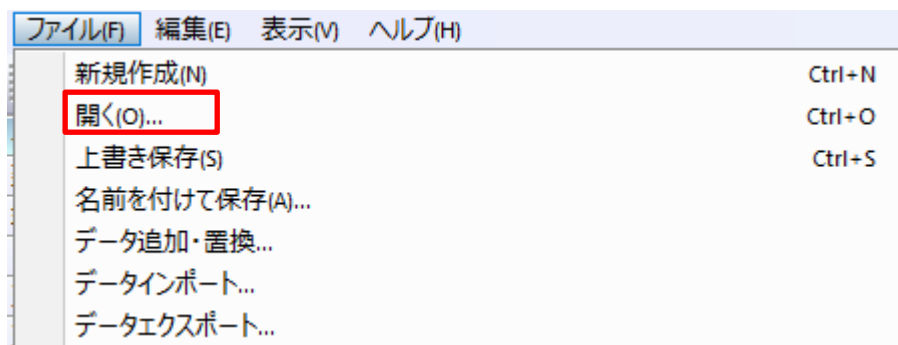


↑ ツールバー/新規ファイル

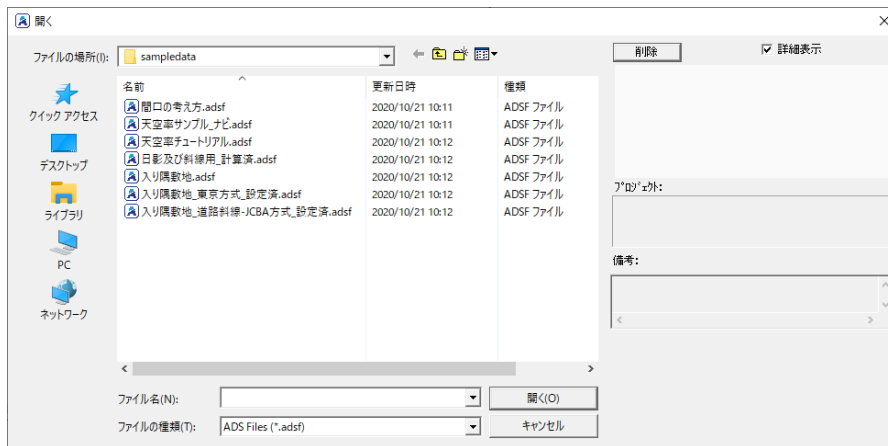
3-3-1-2 データを開く

[操作手順]

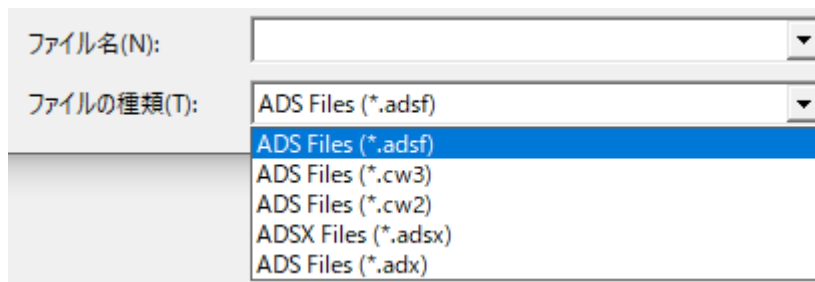
- 1) 「開く」を選択します。



- 2) 「開く」ダイアログが開きます。



- 3) データを開くファイルの種類を選択します。

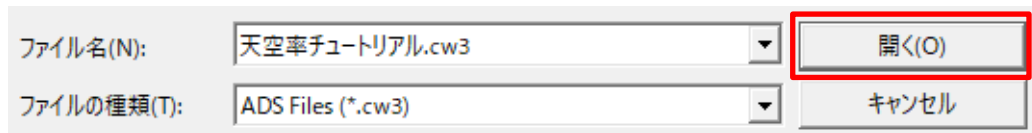


- 4) データを開くファイルを選択します。

・ファイルの種類

ファイル名	拡張子	概要
ADS ファイル	.adsf	Ver10 用のプロジェクトデータです
	.cw3	Ver9 用のプロジェクトデータです
	.cw2	Ver8 以前のプロジェクトデータです
ADX ファイル	.adsx	Ver10 に対応する ADS 中間ファイル形式です
	.adx	Ver9 以前のバージョンに対応する ADS 中間ファイル形式で

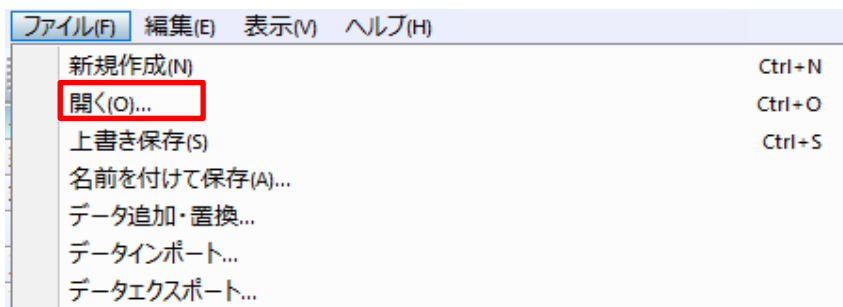
- 5) 「開く」を選択します。



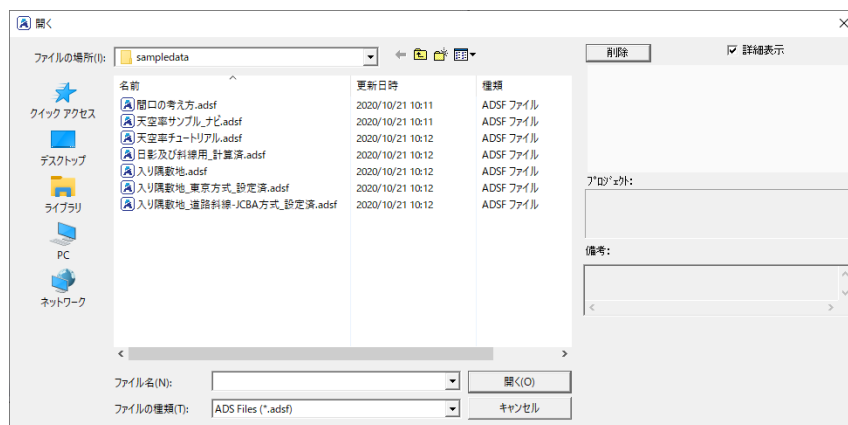
3-3-1-3 データを削除する

[操作手順]

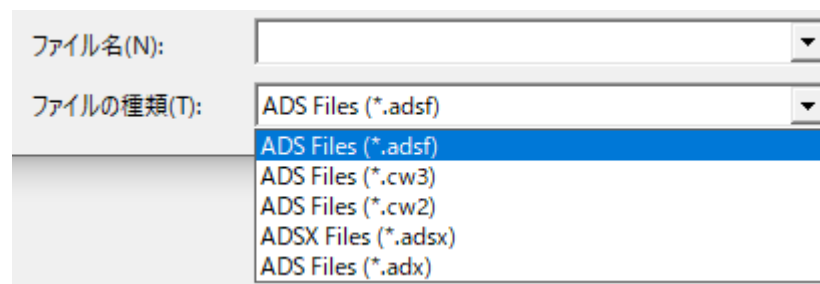
- 1) 「開く」を選択します。



- 2) 「開く」ダイアログが開きます。

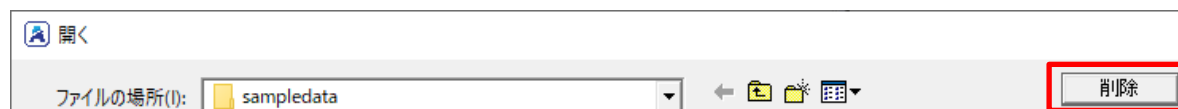


- 3) 削除するファイルの種類を選択します。



- 4) 削除するファイルを選択します。

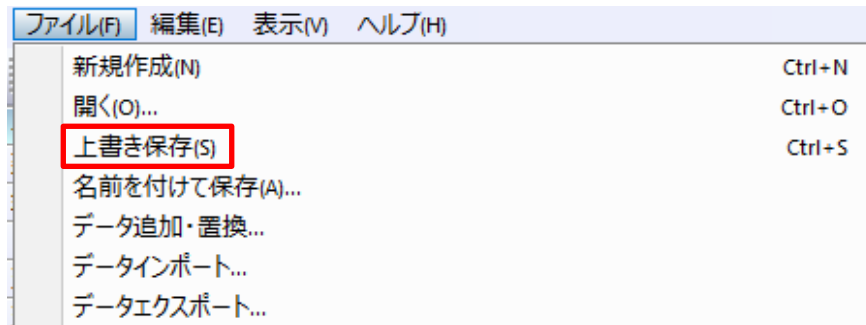
- 5) 「削除」を選択します。



3-3-1-4 データを上書き保存する

[操作手順]

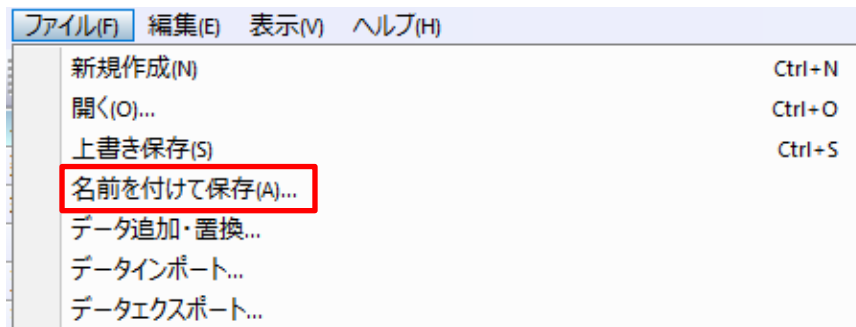
- 1) 「上書き保存」を選択します。



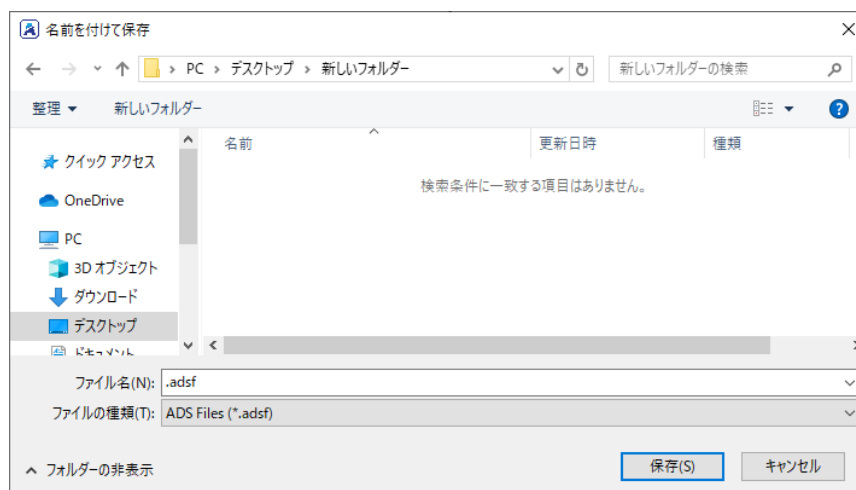
3-3-1-5 データに名前を付けて保存する

[操作手順]

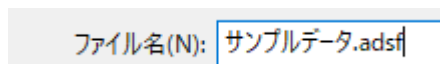
- 1) 「名前を付けて保存」を選択します。



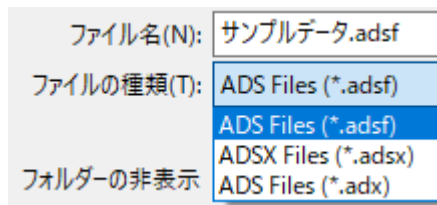
- 2) 「名前を付けて保存」ダイアログが開きます。



- 3) ファイル名を入力します。



- 4) 保存するファイルの種類を選択します。



・ファイルの種類

ファイル名	拡張子	概要
ADS ファイル	.adsf	Ver10 用のプロジェクトデータです
ADX ファイル	.adsx	Ver10 に対応する ADS 中間ファイル形式です
	.adx	Ver9 以前のバージョンに対応する ADS 中間ファイル形式です

- 5) 保存する場所を指定します。

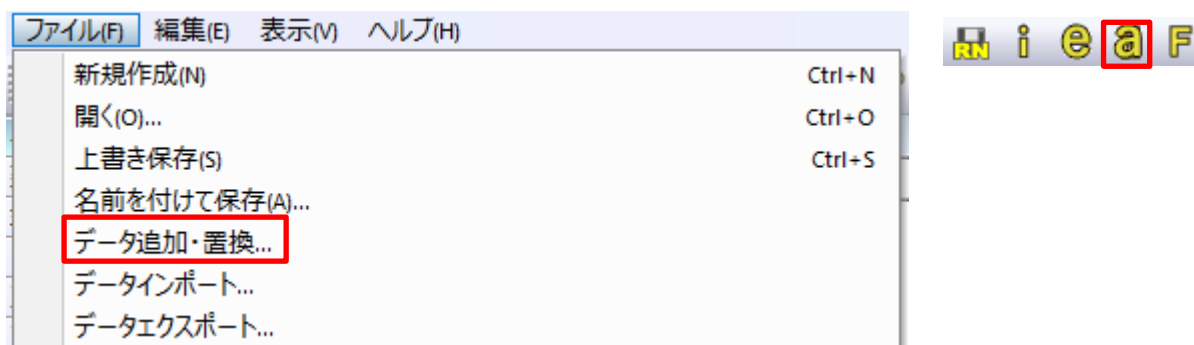
- 6) 「保存」を選択します。



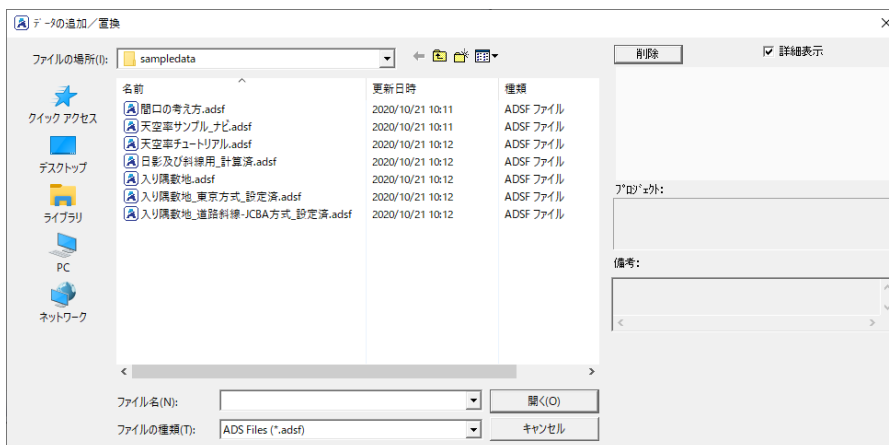
3-3-1-6 他のデータの一部を追加・置換する

[操作手順]

- 1) 「データ追加・置換」を選択します。



- 2) 「データの追加/置換」ダイアログが開きます。



3) 追加または置換をするファイルの種類とデータを選択し、「開く」を選択します。

4) 「データの追加／置換オプション」ダイアログが開きます。

4-1) ファイルの種類で「.adsf/.cw3/.cw2/.adsx/.adx」が選択された場合

- ADS-win の旧バージョンを含めたネイティブデータの中から追加又は置換したい項目を選択します。
- 選択項目が確定したら 5) に進みます。

番号	項目	概要	
①	プロジェクト名	開いているデータのプロジェクト名を、選択したデータのプロジェクト名に置換します	
②	備考	開いているデータの備考を、選択したデータの備考に置換します	
③	敷地	開いているデータの本敷地を、選択したデータの本敷地に置換します	
④	補助線	置換	開いているデータの補助線を、選択したデータの補助線に置換します
		追加	選択したデータの補助線を、開いているデータに追加します
⑤	建物	置換	開いているデータのブロックを、選択したデータのブロックに置換します
		追加	選択したデータのブロックを、開いているデータに追加します
⑥	断面計画	置換	開いているデータの断面計画を、選択したデータの断面計画に置換します
		追加	選択したデータの断面計画を、開いているデータに追加します

4-2) ファイルの種類で「.tkk」が選択された場合

- ・天空率空間のデータ(.tkk)を与条件データを含めて読み込みます。
- ・.tkk ファイルは、全ての内容が置き換わります。
- ・天空率空間は別アプリケーション用のデータです。
- ・選択項目が確定したら 5) に進みます。

データの追加／置換オプション

天空率空間の読み込み:

① Case : CASE1 エリア後退

② 断面計画 : No 1:地上 30階 地下 0階

OK キャンセル

番号	項目	概要
①	Case	天空率空間で計算された Case を選択します。 ※1Case のみの選択となります。 ※別 Case をADSデータに反映させる場合は、新規のADSデータで行います。
②	断面計画	天空率空間で設定された断面計画番号を選択します。 ※断面計画そのものは全て読み込まれますが、高さの設定が選択された断面計画番号に依存します。 ※建物編集/リスト編集にて「断面」欄で確認できます。

4-3) ファイルの種類で「jww」が選択された場合

- ・読み込むレイヤグループを選択します。
- ・Jw-cad(. jww) の 2.5D データを建物データ(高さ付き)として追加読み込みします
- ・エリアごとに高さが設定されている場合は、ADSの建物として追加読み込みしますが、閉じていない線分に対して高さが設定されている場合等の jww 特有の高さ設定がされている場合は変換できません
- ・天空率空間からJWW形式で出力された位置でJWWにて 2.5Dを作成すると、天空率空間データを「データ追加・置換」で読み込み後は、ここで読み込むことで配置が反映されます。それ以外は反映されませんので、その際は建物編集でブロック移動を行う必要があります。
- ・選択項目が確定したら 5) に進みます。

データの追加／置換オプション

グループレイヤー

☐ 0

☐ 1

☐ 2

☐ 3

☐ 4

☐ 5

☐ 6

☐ 7

☐ 8

☐ 9

☐ A

☐ B

☐ C

☐ D

☐ E

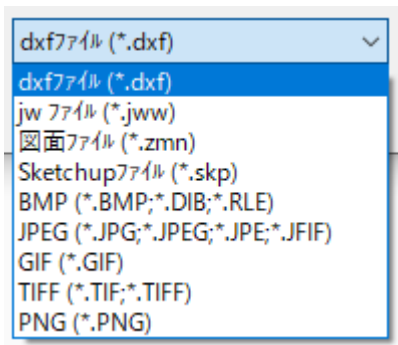
☐ F

OK キャンセル

5) 「OK」を選択します。

OK キャンセル

3-3-1-7 インポート可能なデータ形式

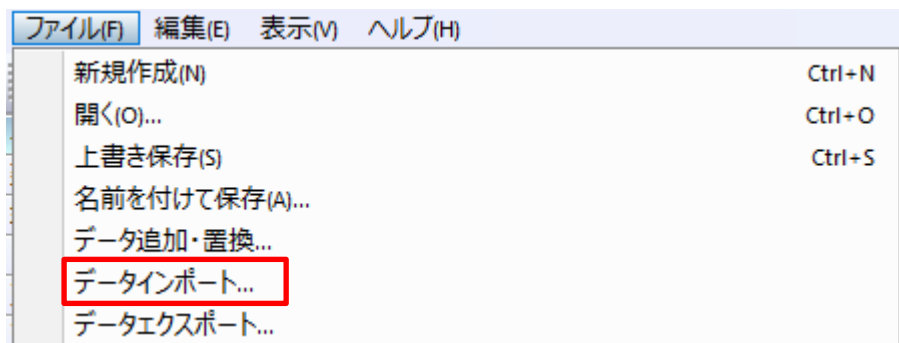


ファイル名	拡張子	概要
dxf ファイル	.dxf	バージョン 2000 まで対応しています
jw ファイル	.jww	バージョン 7 まで対応しています
図面ファイル	.zmn	使用しません
Sketchup ファイル	.skp	バージョン 7 まで対応しています ※LANPACK 版の 64bitPC ではインポートできません ※対応バージョンの Sketchup のインストールが必要です
画像ファイル	.BMP 他	BMP, JPEG, GIF, TIFF, PNG 形式に対応しています

3-3-1-8 dxf ファイル以外をインポートする

[操作手順]

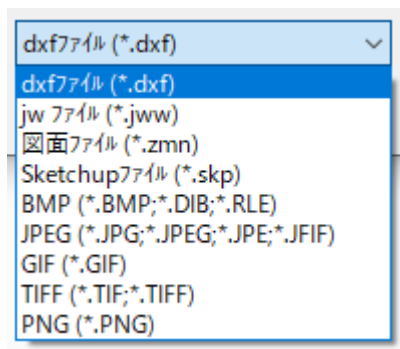
- 1) 「データインポート」を選択します。



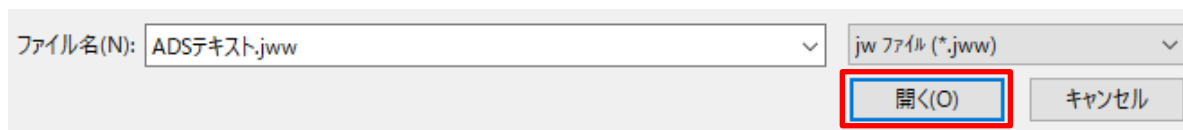
- 2) 「開く」ダイアログが開きます。



- 3) インポートするファイルの種類を選択します。



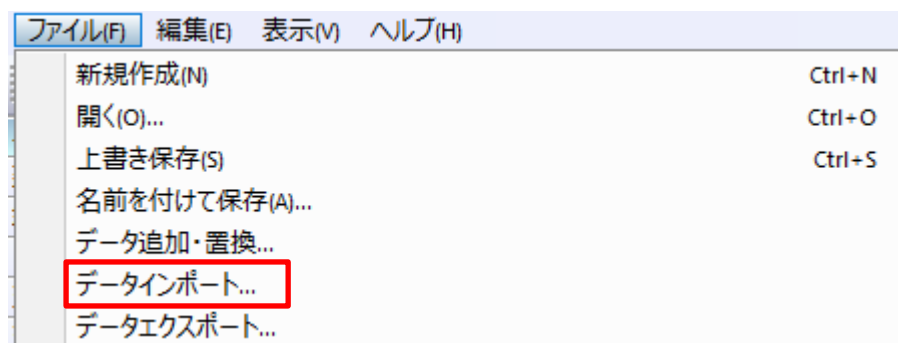
- 4) インポートするファイルを選択し、「開く」を選択します。



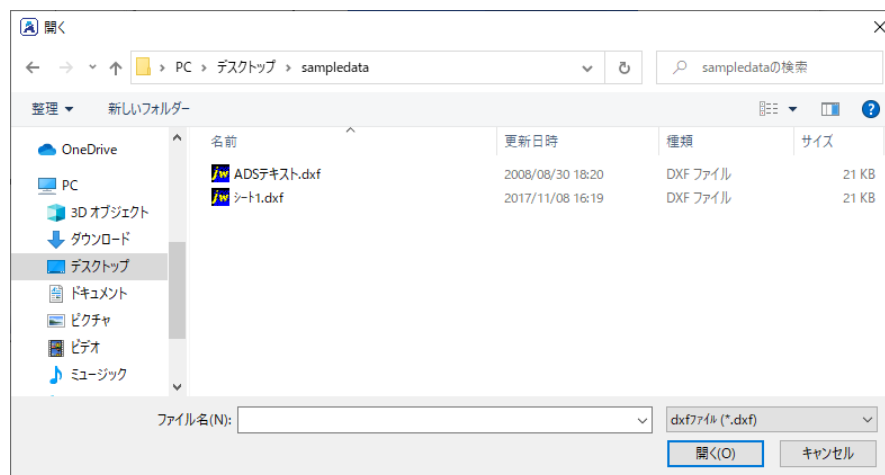
3-3-1-9 dxf ファイルをインポートする

[操作手順]

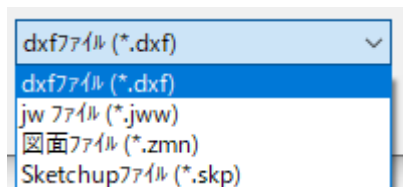
- 1) 「データインポート」を選択します。



- 2) 「開く」ダイアログが開きます。



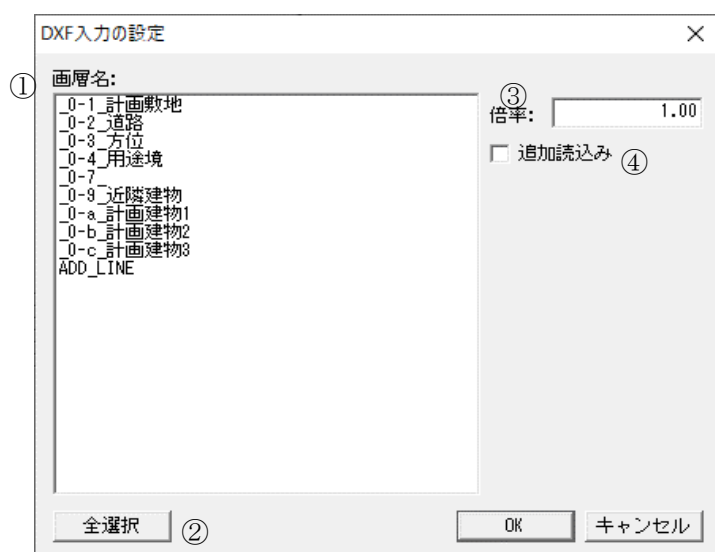
- 3) インポートするファイルの種類で「dxfファイル」を選択します。



- 4) インポートするファイルを選択し、「開く」を選択します。



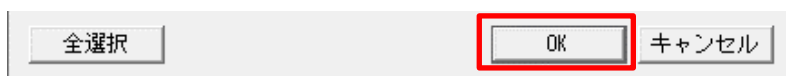
- 5) 「DXF 入力の設定」ダイアログが開きます。



番号	項目	概要
①	画層名	インポートする画層(レイヤー)を選択します
②	全選択	全ての画層を選択します
③	倍率	インポートする倍率を設定します 通常は「1.00」倍です
④	追加読み込み	チェックを入れると、現在インポートしている dxf データに追加してインポートを実行します チェックを外すと、上書きしてインポートを実行します

- 6) インポートの設定を行います。

- 7) 「OK」を選択します。



3-3-1-10 データをエクスポートする

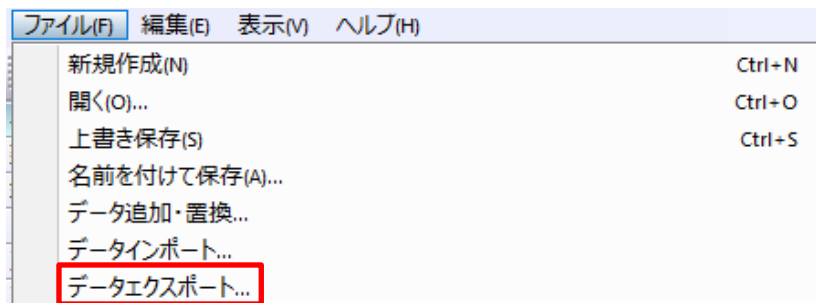
○dxfファイルまたは jww ファイルに出力することができます。

○dxfファイル出力の場合は斜線逆日影等高線の出力が可能です。

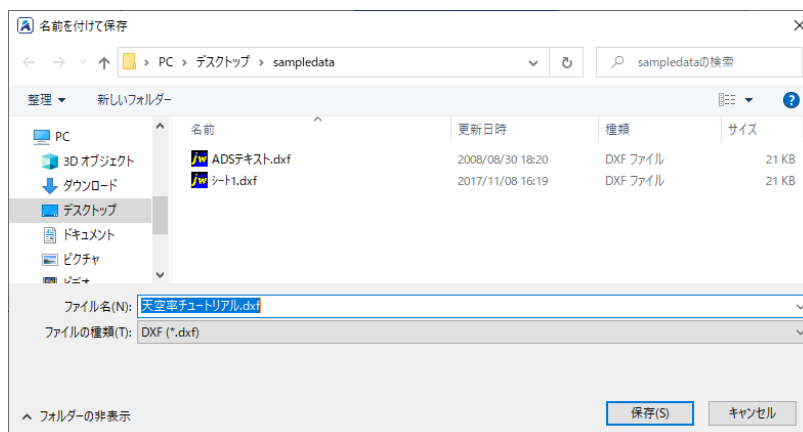
※各種計算結果は出力できません

[操作手順]

- 1) 「データエクスポート」を選択します。



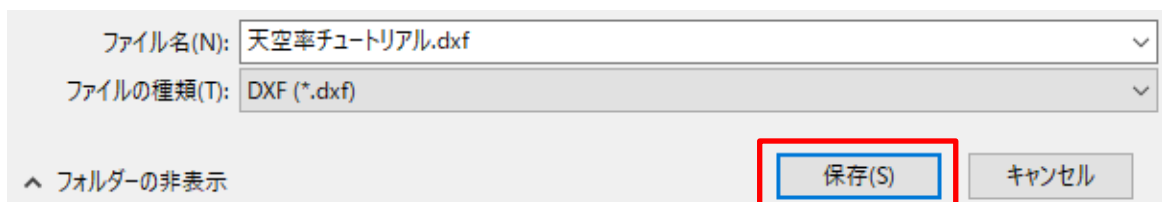
- 2) 「名前を付けて保存」ダイアログが開きます。



- 3) ファイル名を入力し、保存する場所、保存するファイルの種類を選択します。



- 4) 「保存」を選択します。



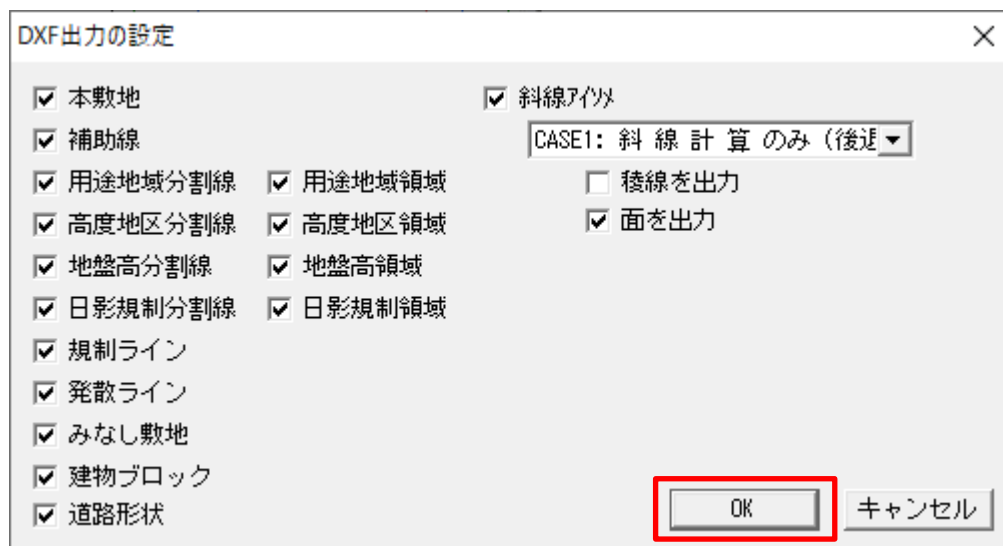
- 5) 「DXF 出力の設定」ダイアログが開きます。



The dialog box titled "DXF出力の設定" (DXF Output Settings) is shown. It contains two columns of checkboxes. The first column includes: 本敷地 (Main Plot), 補助線 (Auxiliary Line), 用途地域分割線 (Zoning Boundary), 高度地区分割線 (Height District Boundary), 地盤高分割線 (Ground Level Boundary), 日影規制分割線 (Shading Regulation Boundary), 規制ライン (Regulation Line), 発散ライン (Dispersion Line), みなし敷地 (Assumed Plot), 建物ブロック (Building Block), and 道路形状 (Road Shape). The second column includes: 斜線アイソ (Isoline), a dropdown menu set to "CASE1: 斜線計算のみ (後述)" (CASE1: Isoline Calculation Only (See later)), 稜線を出力 (Output Edges), and 面を出力 (Output Faces). The "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons are at the bottom right.

- 6) 出力する項目にチェックを入れます。

- 7) 「OK」を選択します。

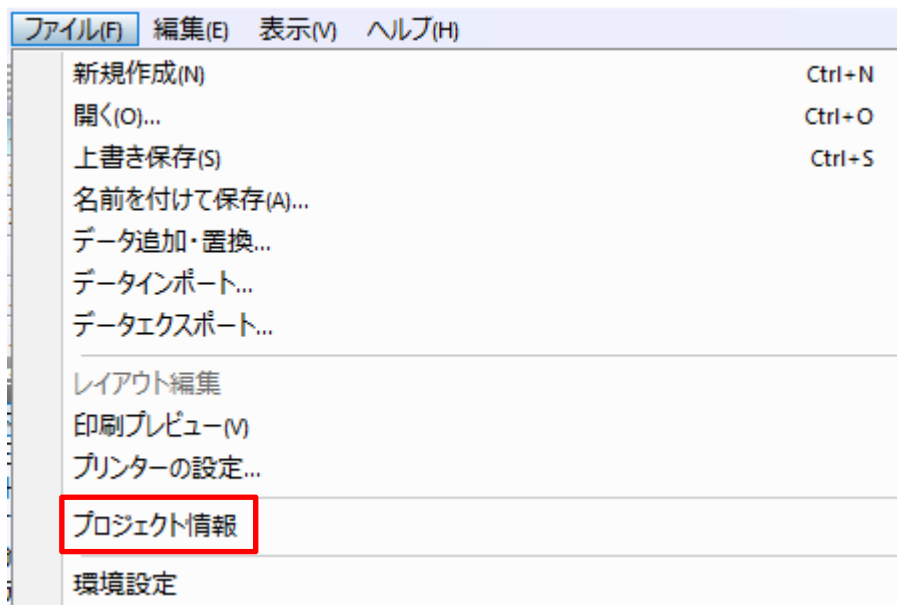


The same "DXF出力の設定" dialog box is shown, but now all checkboxes are checked. The "OK" button is highlighted with a red rectangle. The "キャンセル" (Cancel) button is also visible.

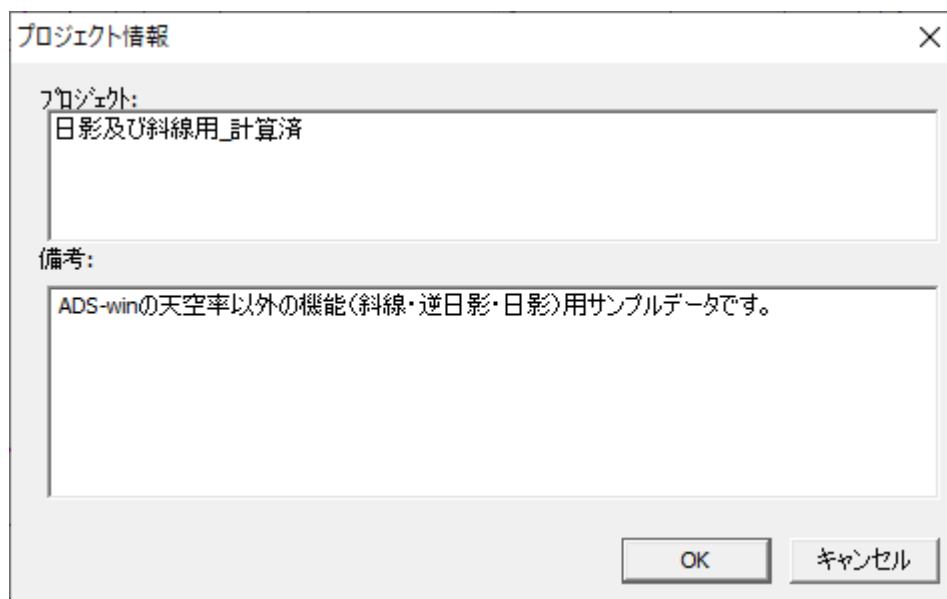
3-3-1-11 プロジェクト情報を設定する

[操作手順]

- 1) 「プロジェクト情報」を選択します。

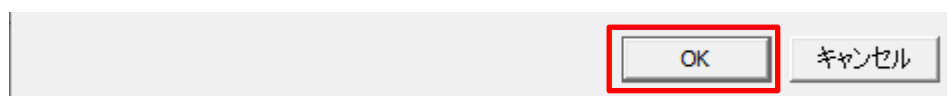


- 2) 「プロジェクト情報」ダイアログが開きます。

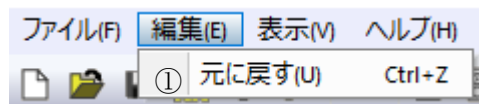


- 3) 「プロジェクト」及び「備考」を入力します。

- 4) 「OK」を選択します。

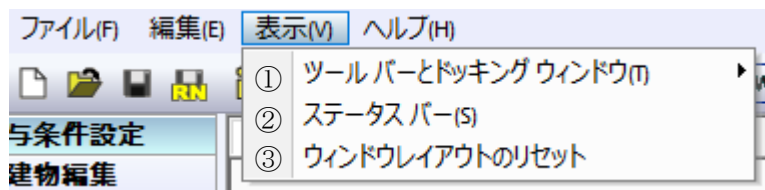


3-3-2 編集



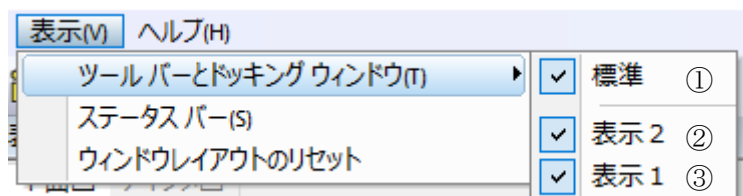
番号	項目	概要
①	元に戻す	直前の処理を元に戻します

3-3-3 表示



番号	項目	概要
①	ツールバーとドッキングウィンドウ	ツールバーとドッキングウィンドウの表示/非表示を設定します 通常はすべてチェックします
②	ステータスバー	ステータスバーの表示/非表示を設定します
③	ウィンドウレイアウトのリセット	ウィンドウ設定を初期設定に戻します

3-3-4 ツールバーとドッキングウィンドウ



番号	項目	概要
①	標準	標準ウィンドウの表示/非表示を設定します 非表示の設定はできません
②	表示 2	表示ウィンドウ 2 の表示/非表示を設定します
③	ウィンドウレイアウトのリセット	表示ウィンドウ 1 の表示/非表示を設定します

3-3-5 ヘルプ



番号	項目	概要
①	ヘルプ	インターネットブラウザを開いて、本システムのリファレンスマニュアルを表示します
②	バージョン情報	本システムのバージョン情報及び契約情報等を確認します 「バージョン情報」ダイアログが開きます

3-4 ツールバー



番号	項目	概要
①	新規ファイル	データを新規作成します
②	開く	本システムのデータを読み込みます 「開く」ダイアログが開きます
③	保存	開いているデータを上書き保存します
④	名前をつけて保存	開いているデータに名前をつけて保存します 「名前をつけて保存」ダイアログが開きます
⑤	インポート	開いているデータに CAD データ又は画像データをインポートします 「開く」ダイアログが開きます
⑥	エクスポート	敷地・建物形状を DXF 又は JWW データにエクスポートします
⑦	データ追加・置換	開いているデータに別の ADSデータを追加・置換します
⑧	フォント設定	フォントの「種類／スタイル／サイズ／文字セット」を設定します 「フォント」ダイアログが開きます
⑨	元に戻す	直前の処理を元に戻します
⑩	印刷プレビュー	出力する内容を設定・確認します 「印刷プレビューウィンドウ」が開きます
⑪	環境設定	本システムを使用するための各種環境を設定します 「環境設定」ダイアログが開きます
⑫	作図図面表示	作図線の表示/非表示を設定します
⑬	DXF 図面表示	インポートした DXF データの表示/非表示を設定します
⑭	JW 図面表示	インポートした JWW データの表示/非表示を設定します
⑮	Sketchup 図面表示	インポートした Sketchup データの表示/非表示を設定します
⑯	絶対高表示	ブロックの属性を「絶対高」で表示します
⑰	階数依存表示	ブロックの属性を「階数依存」で表示します ※「与条件設定/断面計画」で断面計画を作成する必要があります
⑱	バージョン情報	本システムのバージョン情報及び契約情報等を確認します 「バージョン情報」ダイアログが開きます

3-5 メインメニュー及びサブメニュー

3-5-1 メインメニュー

①	与条件設定
②	建物編集
③	斜線・逆日影
④	日影計算
⑤	天空率解析
⑥	天空率用図形
⑦	マスプラン

番号	項目	概要
①	与条件設定	高さ制限解析に必要な与条件を設定します
②	建物編集	高さ制限解析を行う建物を編集します
③	斜線・逆日影	斜線・逆日影計算を行います
④	日影計算	日影計算及び壁面日影計算を行います
⑤	天空率解析	天空率算定領域を設定し、天空率計算及び逆天空率計算を行います
⑥	天空率用図形	天空率算定領域の図形を編集します
⑦	マスプラン	マスを作成しボリュームを検討します ※オプション(製品)メニューです

3-5-2 サブメニュー

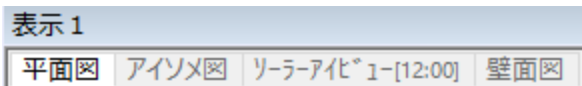
○各章を参照して下さい。

3-6 図形表示ウィンドウ

3-6-1 図面の種類

○図形表示ウィンドウ上部のタブの選択で図面の種類を切り替えます。

○「表示 1」及び「表示 2」で共通です。



図面名	概要	与条件設定	建物編集	斜線・逆日影	日影計算	天空率解析	天空率用図形	マスプラン
平面図	本敷地関係図形、ブロック、各種計算結果等を平面表示します	○	○	○	○	○	○	○
アイソメ図	本敷地関係図形、ブロック、各種計算結果等をアイソメ表示します	○	○	○	○	○	○	○
ソーラーアイビュー	任意の日時の太陽の位置からのアイソメ図を表示します	-	-	-	○	-	-	-
天空図	測定点または特定点における天空図を表示します	-	-	-	○	○	-	-
断面図	斜線・逆日影計算結果の断面図を表示します	-	-	○	-	-	-	-
壁面図	壁面日影計算時の壁面を表示します	-	-	-	○	-	-	-
面積表	マスプランにおける面積表を表示します	-	-	-	-	-	-	○

3-6-2 画面表示設定コマンド

○平面図/天空図/断面図/壁面図



① ② ③ ④ ⑤ ⑥

○アイソメ図



① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑥

○ソーラーアイビュー



① ② ③ ④ ⑤ ⑮ ⑯ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑥

番号	項目	概要
①	拡大	表示図形を拡大します (Shift + PageUp)
②	縮小	表示図形を縮小します (Shift + PageDown)
③	移動	2点指示で表示図形を移動します (1点目:基点+2点目:移動位置)
④	矩形拡大	対角(2点)指定により任意の範囲を拡大します
⑤	全体表示	表示図形全体を表示します
⑥	表示項目の設定	画面の表示の設定/表示内容を設定します
⑦	回転左	表示データを左に回転します (Shift + ←)
⑧	回転右	表示データを右に回転します (Shift + →)
⑨	回転上	表示データを上に回転します (Shift + ↑)
⑩	回転下	表示データを下に回転します (Shift + ↓)
⑪	ワイヤーフレーム表示	アイソメ図を線描画表示にします
⑫	隠線表示	アイソメ図を外部から見える線のみの表示にします
⑬	シェーディング表示	アイソメ図を図形の面を着色して表示します
⑭	回転	ドラッグによりアイソメ図を回転します
⑮	回転左	ソーラーアイビューの時刻を戻します (Shift + ←)
⑯	回転右	ソーラーアイビューの時刻を進めます (Shift + →)

※()内はキーボードによる操作です。

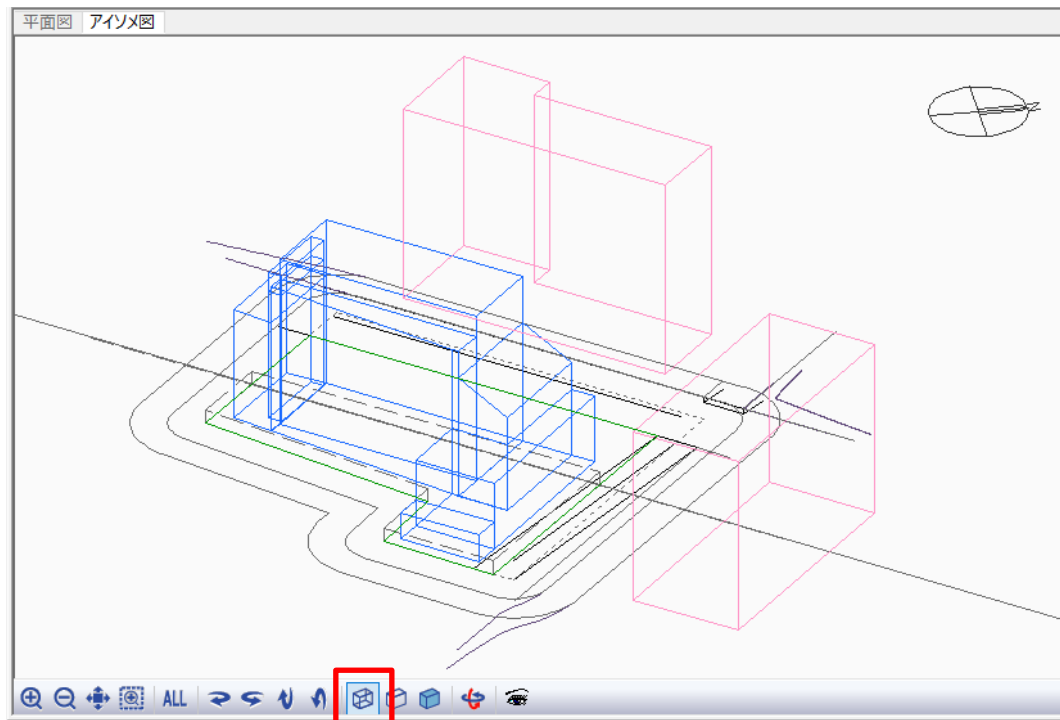
※図形移動は、キーボードの矢印キーでも有効です。移動方向は「環境設定/表示画面」で変更します。

※マウスのホイールボタンを回すことで、表示図形の拡大・縮小も可能です。

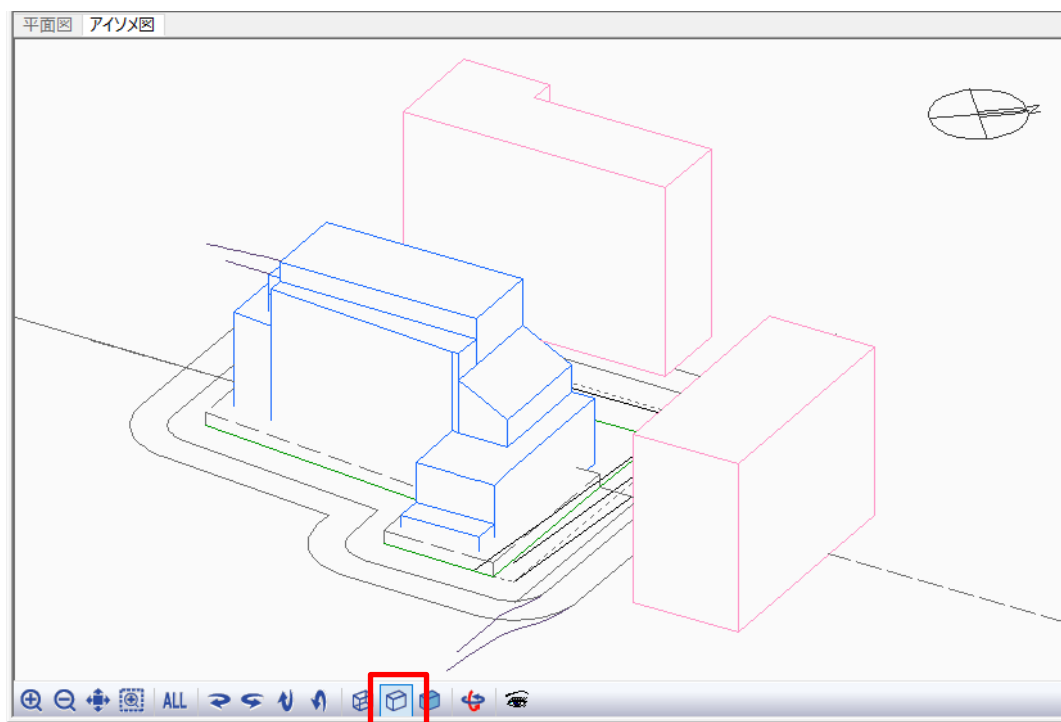
※マウスのホイールボタンをドラッグすることで、図形の移動も可能です。

3-6-3 アイソメ図の表示について

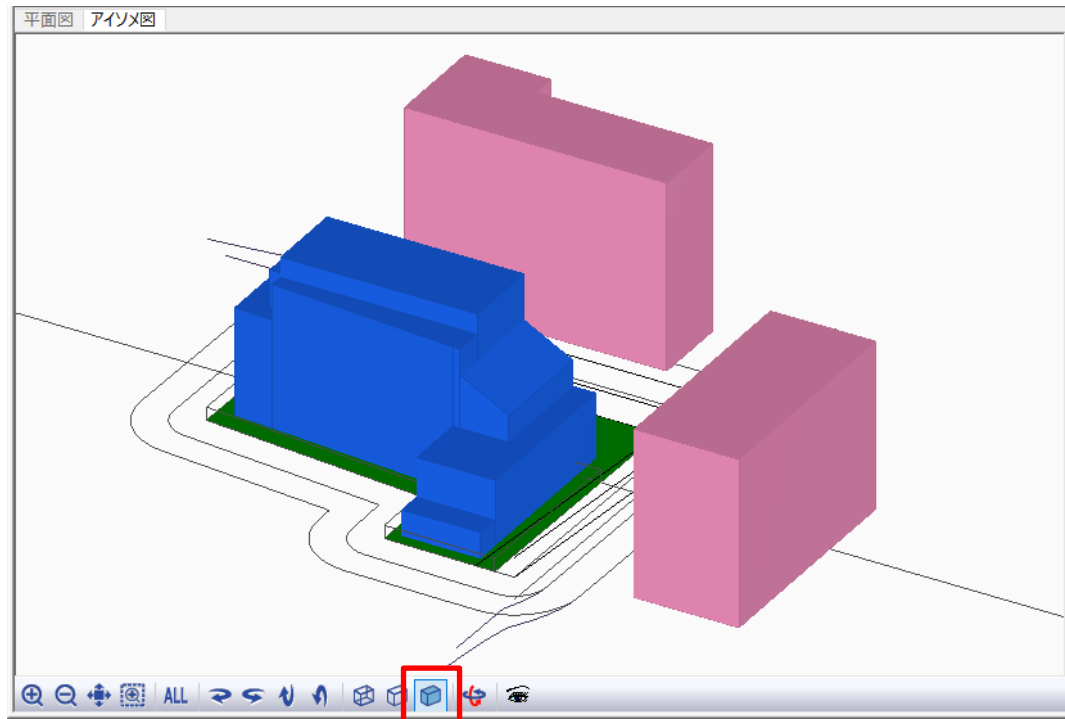
3-6-3-1 ワイヤフレーム表示



3-6-3-2 隠線表示

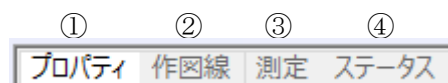


3-6-3-3 シェーディング表示



3-7 標準ウィンドウ

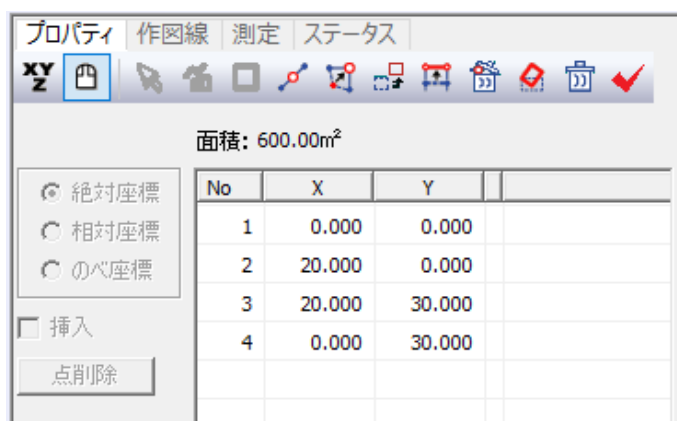
○標準ウィンドウ上部のタブの選択でウィンドウの表示を切り替えます。



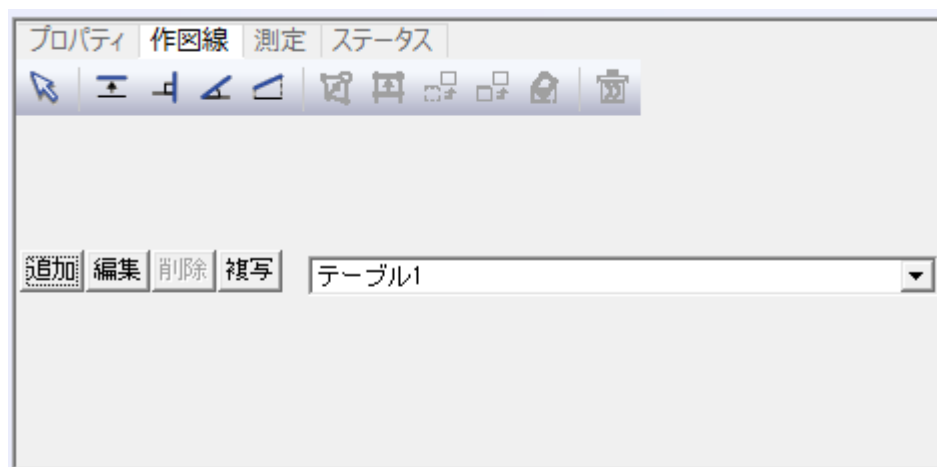
番号	項目	概要
①	プロパティ	プロパティウィンドウを表示します
②	作図線	作図線ウィンドウを表示します
③	測定	測定ウィンドウを表示します
④	ステータス	ステータスウィンドウを表示します

3-7-1 プロパティウィンドウ

○選択したサブメニューに応じた情報やコマンドが表示されます。



3-7-2 作図線ウィンドウ



3-7-3 測定ウィンドウ

プロパティ	作図線	測定	ステータス
距離	長さ	面積	角度(線分) 角度(3点)
1 m		クリア	

3-7-4 ステータスウィンドウ

○与条件設定を確認することができます。

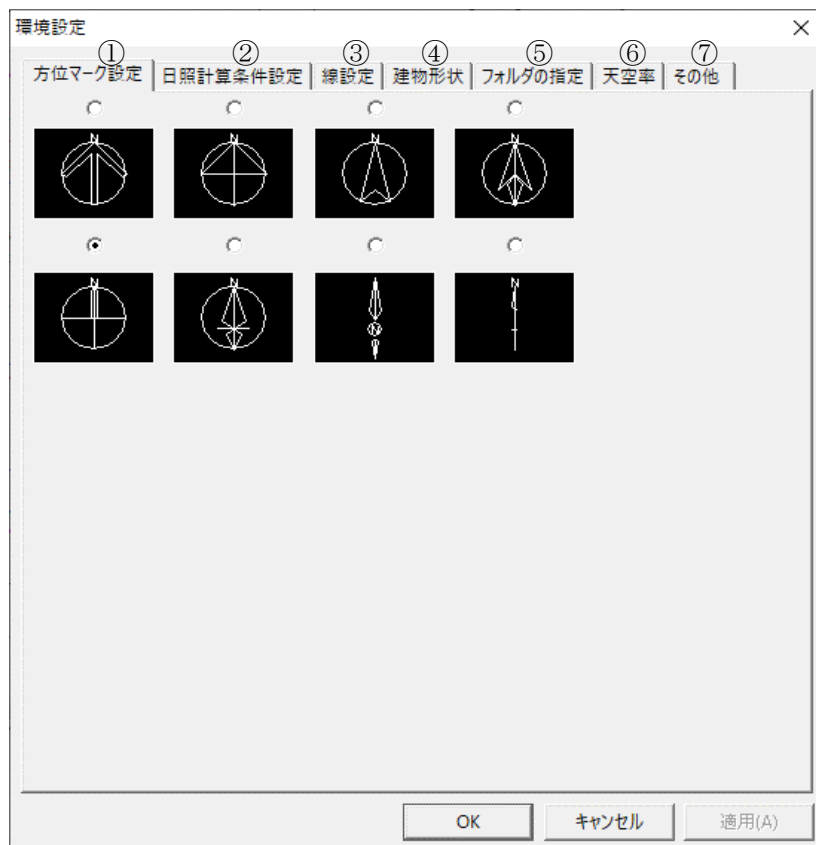
プロパティ 作図線 測定 ステータス		
項目	内容	
プロジェクト情報		
緯度	35度39分16秒	
経度	139度44分41秒	
方位	0度00分00秒	
敷地境界線		
本敷地	600.00m ² 、4点	
最大道路幅	10.000m	
用途地域		
領域1	600.00m ² 、準住居 60%/300%	
高度地区		
領域1	600.00m ² 、無指定	
地盤高		
領域1	600.00m ² 、0.000m	
日影規制		

4 環境設定

4-1 はじめに

- 本システムの表示環境や計算環境等、全体的な環境を設定します。
- 「環境設定」ダイアログで設定を行います。
- タブを選択することで、設定項目を切り替えます。

4-1-1 「環境設定」ダイアログ



番号	項目	概要
①	方位マーク設定	平面図及びアイソメ図等に表示する方位マークを選択します 印刷プレビューにも反映します
②	日照計算条件設定	緯度経度及び日照条件の初期値を設定します
③	線設定	画面上に表示する線を設定します
④	建物形状	建物編集時の円弧分割数を設定します
⑤	フォルダの指定	各種フォルダを指定します
⑥	天空率	天空率解析での初期値を設定します
⑦	その他	キーボード操作や画面表示を設定します

4-2 方位マーク設定

○平面図及びアイソメ図等に表示する方位マークを選択します。



4-3 日照計算条件設定

○緯度経度及び日照条件の初期値を設定します。

○新規プロジェクトにおける「与条件設定／緯度経度及び日照条件」に反映します。

方位マーク設定	日照計算条件設定	線設定	建物形状	フォルダの指定	天空率	その他
節季: 冬至 ▼						
太陽赤緯: -23 度 27 分 0 秒						
時刻法: ☒ 真太陽時 ☐ 中央標準時						
均時差: 分 秒						
測定時間: 開始 8 時 0 分						
終了 16 時 0 分						
測定ライン: 1. 内側 5.000 m						
2. 外側 10.000 m						
緯度・経度: 東京都 ▼						

※設定項目は与条件設定の「緯度経度」及び「日照条件」を参照して下さい。

4-4 線設定

○画面上に表示する線色/線種/太さ及び出力(印刷)時の線種/太さを項目ごとに設定します。

① 分類: 基本色

項目 ②	③ DXF出力レイヤ名	④ 表示色	⑤ 線種	⑥ 太さ
図面枠	WAKU		実線	1
表題	TITLE		実線	1
表題枠	TITLE		実線	1
方位マーク	NORTH		実線	1
本敷地	SITEH		実線	3
道路	ROAD		実線	2
補助線	HOJO		実線	1
分割線	DIVLINE		破線	1
みなし敷地	SITEM		点線	1
チェックライン1	CHECKLINE		実線	2
チェックライン2	CHECKLINE		実線	2
背景図	HAIKEI		実線	1
敷地辺方位	HOUJ		実線	1
背景図形	CADDATA		実線	1
作図線	SAKUZU		実線	1
測量図(基本)	SANSYA		実線	2
測量図(垂線)	SANSYA		点線	2
緩和幅1	KANWA		実線	1
緩和幅2	KANWA		実線	1

⑦ 既存テーブルの読込 ⑧ 基本配色 ⑨ 基本レイヤ

※出力時の線色は印刷プレビューで設定します。

番号	項目	概要
①	分類	「基本色」「斜線」「日影」「建物関連」より選択します
②	項目	分類の項目を表示します
③	DXF 出力レイヤ名	出力するレイヤ名を設定します
④	表示色	画面に表示する色を設定します ※白色は選択しないで下さい。
⑤	線種	線の種類を設定します
⑥	太さ	線の太さを設定します(単位:ピクセル)
⑦	既存テーブルの読込	既存テーブルを読み込みます
⑧	基本配色	「表示色」を初期設定に戻します
⑨	基本レイヤ	「DXF 出力レイヤ名」を初期設定に戻します

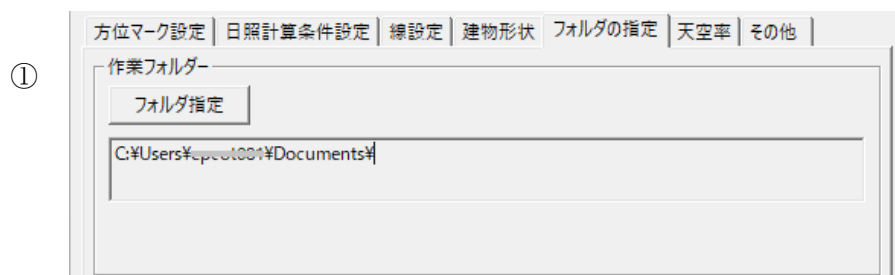
4-5 建物形状

○「ドーム」・「ヴォールト」及び「円」・「円弧」新規作成時のブロックの円弧の多角形分割数を設定します。

方位マーク設定	日照計算条件設定	線設定	建物形状	フォルダの指定	天空率	その他
ドーム・ヴォールト分割数: 16分割 ▼						
円・円弧分割数: 32分割 ▼						

4-6 フォルダの指定

○各種フォルダを指定します。



番号	項目	概要
①	作業フォルダー	開いているデータを、一時的に保存するフォルダを指定します

4-6-1 作業フォルダーについて

○通常は指定フォルダーを変更しないでください。

○指定したディレクトリ内には、開いたデータの関連ファイルが一時的に書き込まれ、システムの終了と同時に削除されます。

○データの保存は、必ず「上書き保存」または「名前をつけて保存」で実行してください。

4-7 天空率

○天空率解析での初期値を設定します。

○詳細は「10-4-10 絶対高さでカットする～10-4-14 令 132 条処理/10-4-18 前面考慮」を参照して下さい。

番号	項目	概要
①	判定基準	天空率の適否判定基準となる、天空率計算の計算 2 の「計-適」の差を設定します ※初期値は 2.000%と 0.020%です ※審査機関によって判定基準は異なる場合があります
		◎ 上部入力欄の数値を超える場合に表示します
		○ 下部入力欄の数値以上、上部入力欄の数値以下の場合に表示します
		× 下部入力値未満の場合に表示します
②	絶対高さでカットする	チェックを入れると、法 55 条による絶対高さ制限を適合建築物に適用します
③	分割地盤のグループ化	チェックを入れると、異なる地盤高の天空率算定領域を自動でグループ化します
④	求積図形ごとに丸目処理を行う	チェックを入れると、計算 2(求積計算)において、求積図形単位で小数点第 3 位の丸目処理を行います JCBA 方式に対応した求積計算を行う場合にチェックを入れます
⑤	令 132 条処理	令 132 条及び令 134 条第 2 項による天空率算定領域の区域分けを設定します

⑥	前面考慮	道路斜線の天空率算定において、後退距離を手動設定した際に後退距離手前の建築物の算入の設定を行います 1) 後退距離手前の建物ブロックの扱い(計画のみの扱い) 2) 道路が地盤よりも低い場合の壁面後退距離手前の地盤扱い	
		無し	1) 非算入
			2) 適合及び計画共、非算入
		適合・計画	1) 算入
			2) 適合及び計画共、算入
		計画のみ (デフォルト)	1) 算入
			2) 計画のみ算入

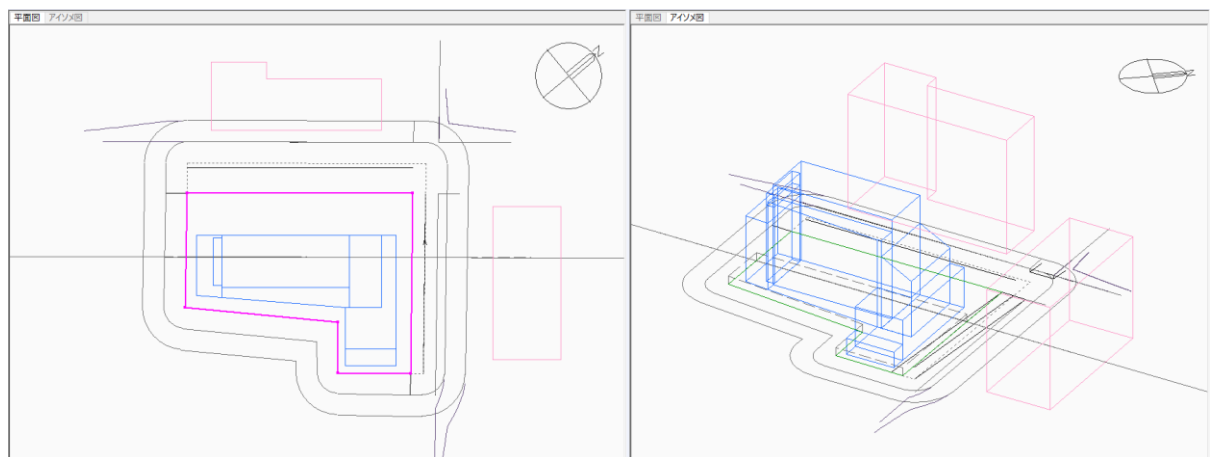
4-8 その他

○キーボード操作や画面表示を設定します。

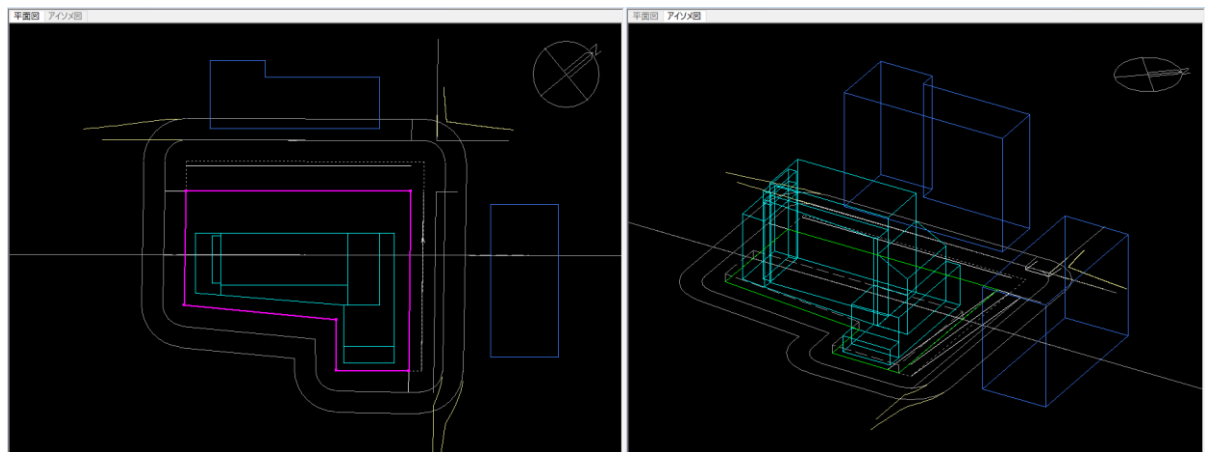
番号	項目	概要
①	↑ ↓ ← → キー	図形表示ウィンドウの「移動」コマンド選択時の移動方法を選択します
②	ホイールボタン	マウスのホイールボタンでの操作方法を選択します
③	背景色	背景色を選択します
④	ファイルマネージャに登録する	「登録する」を選択すると、エクスプローラ内で ADS データ形式のファイルをダブルクリックすることで本システムが起動します
⑤	メインメニューを上部に固定する	メインメニューを上部に固定します
⑥	背景図の端点に○を表示する	インポート図形の端点に○を表示します 線分が多いインポート図形で○を表示すると、図形の処理が遅くなる場合があります
⑦	等時間計算	日影計算/等時間図におけるデフォルトの計算方法を選択します

背景色について

4-8-1-1 白色

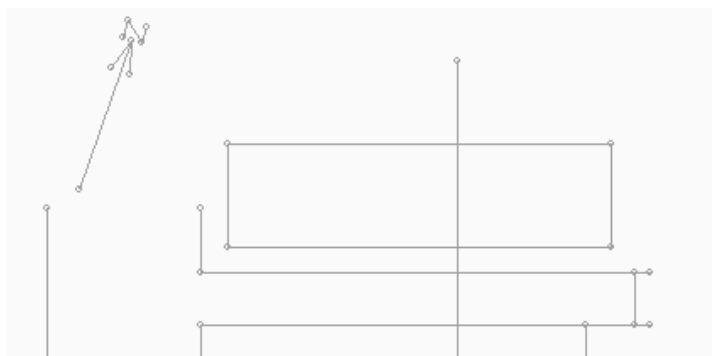


4-8-1-2 黒色



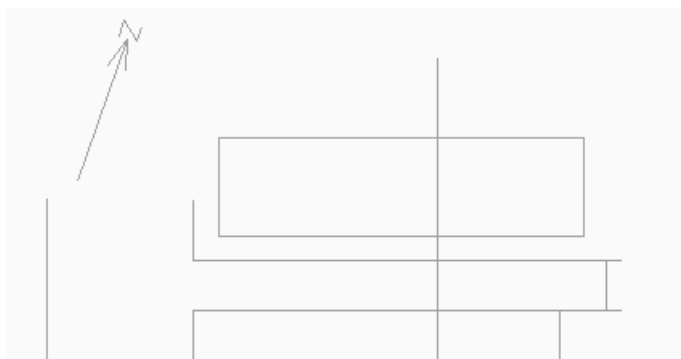
4-8-2 背景図の端点に○を表示するについて

4-8-2-1 チェック有



※本敷地を入力する場合、微妙な折れ点等がある場合にチェックをしておくと判別しやすくなります。
但し、背景のその他の線分が多い場合は、アイソメ図に表示させた状態で移動・回転等を行うと動作が遅くなりますので、本敷地入力終了したら、チェックを外してください。

4-8-2-2 チェック無



5 図形編集

5-1 はじめに

- 本敷地やブロックをはじめとする、各種図形は「図形編集コマンド」によって作成・編集を行います。
- 図形編集コマンドはサブメニューによって、選択できるコマンドが異なります。
- 本システム内で、図形編集コマンドの操作方法是各メニューで共通です
- コマンドによっては「数値入力」または「マウス入力」を選択できます。

5-2 図形編集コマンド一覧

○入力方法選択



① ②

番号	項目	概要
①	数値入力	数値入力で図形編集を行います
②	マウス入力	マウス入力で図形編集を行います

○選択



③

番号	項目	概要
③	選択	図形を選択します

○新規作成



④ ⑤ ⑥ ⑦

番号	項目	概要
④	作成	多角形の図形を作成します
⑤	矩形作成	矩形の図形を作成します
⑥	円作成(3点)	3点入力による円を作成します
⑦	円作成(中心)	中心及び半径指定による円を作成します

○図形編集



⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰

番号	項目	概要
⑧	円弧挿入(3点)	図形の辺に、3点で定義される円弧を挿入します
⑨	円弧挿入(中心)	図形の辺に、中心点で定義される円弧を挿入します
⑩	点挿入	図形に端点を挿入します
⑪	点移動	図形の端点を移動します

番号	項目	概要
⑫	辺移動	図形の辺を移動します
⑬	点削除	図形の端点を削除します
⑭	ブロック移動	図形を平面移動します
⑮	ブロック複写	図形を平面複写します
⑯	ブロック回転	図形を回転します
⑰	ブロック削除	図形を削除します

○ブロック編集



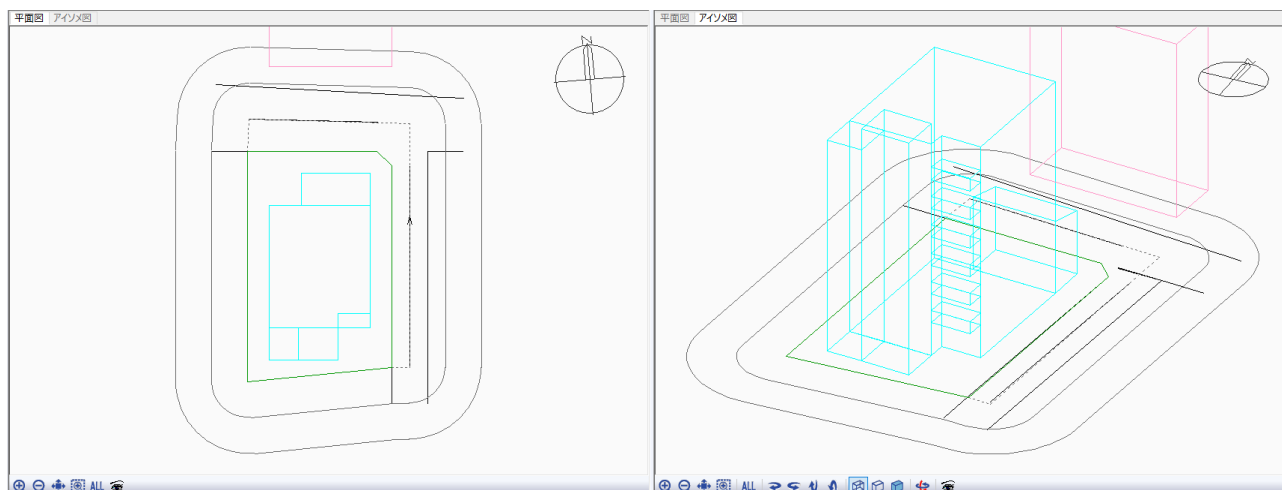
⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔

番号	項目	概要
⑱	上面移動	図形の上面を移動します
⑲	下面移動	図形の下面を移動します
⑳	垂直移動	図形を垂直方向に移動します
㉑	垂直複写	図形を垂直方向に複写します
㉒	合成	同一高さで辺が接しているブロックを合成します
㉓	水平面カット	ブロックを水平方向にカットします
㉔	垂直面カット	ブロックを垂直方向にカットします

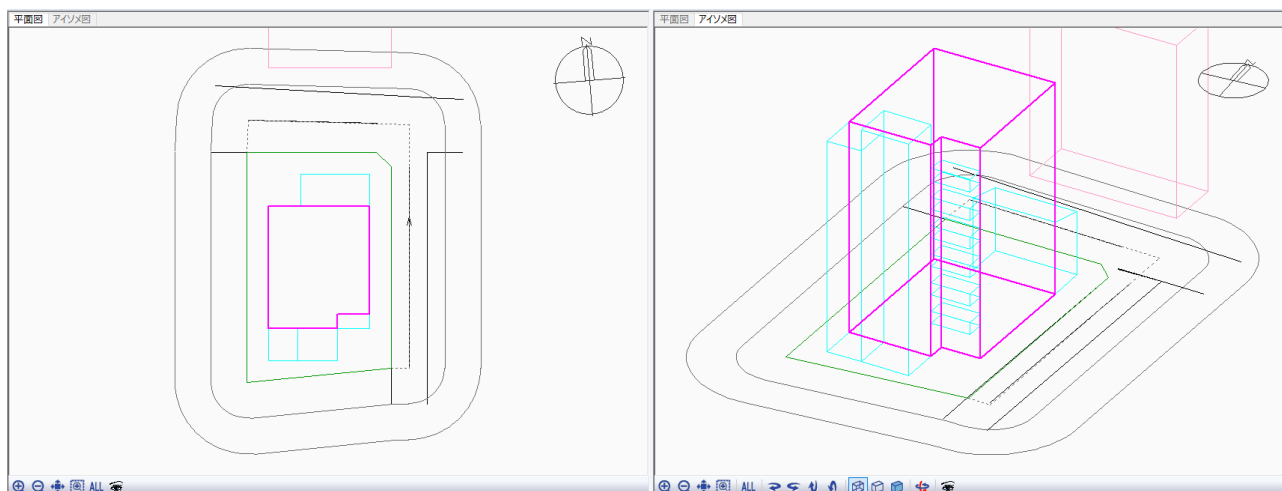
5-3 図形選択

- 図形を編集する場合は、編集する図形を選択します。
- 複数選択が可能です。
- 選択した図形はマゼンタの線で表示します。

・選択前



・選択後(ブロックを選択)

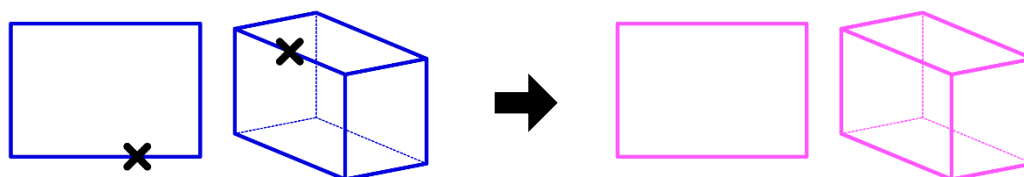


5-3-1 単一図形を選択する

5-3-1-1 マウス単一選択

[操作手順]

- 1) 平面図またはアイソメ図で、選択する図形の任意の辺または端点を左クリックします。



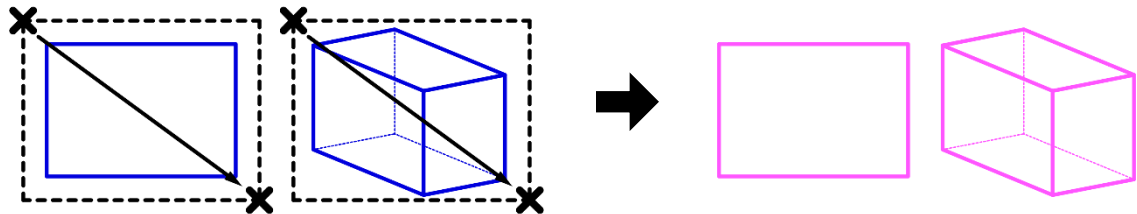
任意の辺または端点を左クリック

5-3-1-2 マウス対角指示選択

[操作手順]

- 1) 平面図またはアイソメ図で、矩形の 1 点目を左クリックします。
- 2) 1)と同じ図面上で、単一の図形を含む、矩形の 2 点目を左クリックします。

※単一の図形を矩形で囲むようにマウスで対角指示をします。



5-3-1-3 リスト選択

[操作手順]

- 1) 「選択」コマンドを選択します。
- 2) プロパティウィンドウの図形リストで、No を左クリック、または上下キーで選択をします。

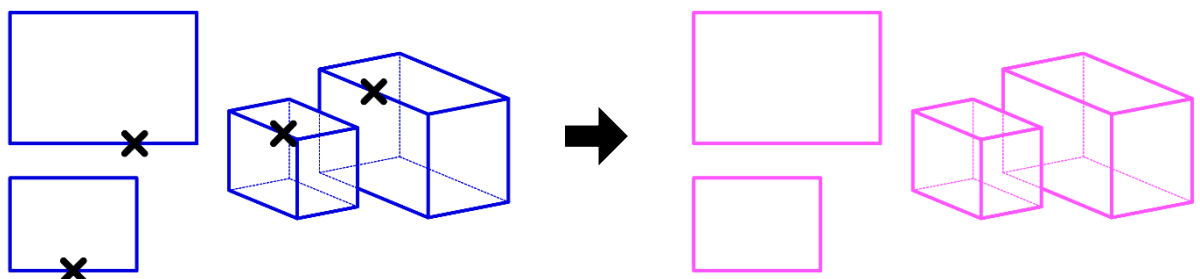
No	種類	上面	下面	面積
1	建物	平面		299.00
2	建物	平面		48.17
3	建物	平面		5.45
4	建物	平面		3.34
5	建物	平面		21.21

5-3-2 複数図形を選択する

5-3-2-1 マウス複数選択

[操作手順]

- 1) 平面図またはアイソメ図で、選択する図形の任意の辺を左クリックします。
- 2) 「Ctrl」キーを押しながら、別の図形の任意の辺または端点を選択します。



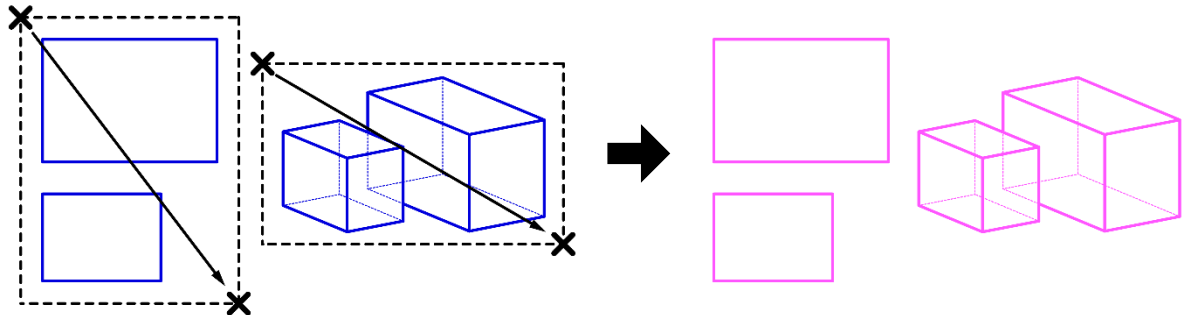
「Ctrl」キーを押しながら、それぞれの図形の任意の辺または端点を左クリック

5-3-2-2 マウス対角指示

[操作手順]

- 1) 平面図またはアイソメ図で、矩形の1点目を左クリックします。
- 2) 1)と同じ図面上で、複数の図形を含む、矩形の2点目を左クリックします。

※複数の図形を矩形で囲むようにマウスで対角指示をします。



5-3-2-3 リスト選択

[操作手順]

- 1) プロパティウィンドウの図形リストで、No を左クリック、または上下キーで選択をします。
- 2) 「Ctrl」キーまたは「Shift」キーを押しながら、別の No を左クリック、または上下キーで選択をします。

・「Ctrl」キーを押しながら選択

No	種類	上面	下面	面積
1	建物	平面		299.00
2	建物	平面		48.17
3	建物	平面		5.45
4	建物	平面		3.34
5	建物	平面		21.21

・「Shift」キーを押しながら選択

No	種類	上面	下面	面積
1	建物	平面		299.00
2	建物	平面		48.17
3	建物	平面		5.45
4	建物	平面		3.34
5	建物	平面		21.21

5-3-3 カーソルとスナップ

○位置を決める目印の総称を「カーソル」と呼びます。

○本システムでは場面に応じて次の4種類のカーソルが表示されます。

⊕ 端点	線分の端点にスナップします
✱ 交点	線分と線分の交点にスナップします
➤ 線上	線分上にスナップします
⊞ 中点	線分の中点にスナップします

5-4 数 値 入 力

○座標を直接数値入力し、図形の作成・編集を行います。

○「数値入力」コマンドを選択することで操作を行うことができます。

○数値の入力後、最後に必ず「Enter」キーを押します。

(5)

(1) ☒ 絶対座標 ☐ 相対座標 ☐ のべ座標

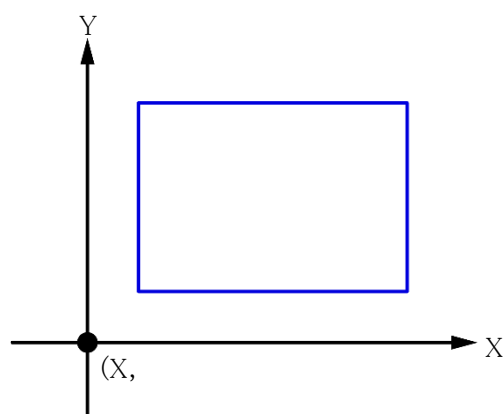
(2) ☒ 平面編集 (3) ☐ 高さ編集 (4)

(3) ☐ 挿入 (4)

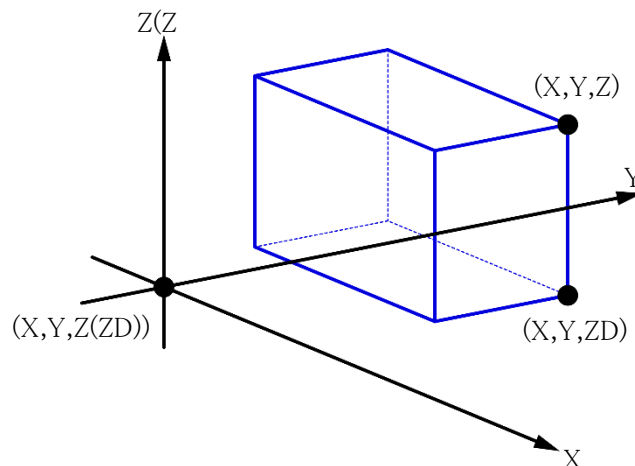
No	X	Y	Z	ZD
1	72.794	93.717	25.000	0.000
2	72.794	81.468	25.000	0.000
3	102.801	81.468	25.000	0.000
4	102.794	93.717	25.000	0.000

番号	項目		概要
①	座標系	絶対座標	原点(0,0)を基準とします 各端点の位置を原点からの絶対座標値によって入力します
		相対座標	1点目を原点(0,0)からの絶対座標値によって設定し 1点目を基準に各端点の位置を相対座標値によって入力します
		のべ座標	1点目を原点(0,0)からの絶対座標値によって設定し 2点目以降を直前の端点からの移動数値によって入力します
②	編集座標	平面編集	X座標及びY座標の数値が入力できます
		高さ編集	Z座標及びZD座標の数値が入力できます 建物編集及び天空率用図形で有効です
③	挿入		端点を挿入します
④	点削除		端点を削除します
⑤	端点リスト		端点Noと端点の座標値を表示します

・平面図



・アイソメ



5-4-1 図形を新規作成する

[操作手順]

- 1) 「挿入」にチェックを入れます。
- 2) 「端点リスト」で X・Y 座標に必要な端点数の座標値を入力します。
- 3) 「挿入」のチェックを外します。

5-4-2 図形の平面形状を変更する

[操作手順]

- 1) 「数値入力」コマンドを選択します。
- 2) 「平面編集」を選択します。
- 3) 「端点リスト」で X・Y 座標に座標値を入力します。

5-4-3 図形の高さを変更する

[操作手順]

- 1) 「数値入力」コマンドを選択します。
- 2) 「高さ編集」を選択します。
- 3) 「端点リスト」で Z 座標または ZD 座標に座標値を入力します。

※Shift キーを押しながら Enter キーを押すと、その下の高さに、全て入力した値で設定します。

5-4-4 図形に端点を挿入する

[操作手順]

- 1) 「挿入」にチェックを入れます。
- 2) 「端点リスト」で端点を挿入する No を選択します。
- 3) 「端点リスト」で挿入する端点の X・Y 座標の座標値を入力します。
- 4) 「挿入」のチェックを外します。

5-4-5 図形の端点を削除する

- 1) 「端点リスト」で削除する端点 No を選択します。
- 2) 「点削除」を選択します。

5-5 マウス入力

○マウスの操作によって、平面図で図形の作成及び編集を行います。

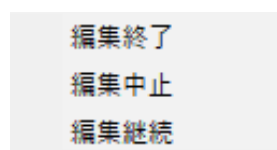
○「マウス入力」コマンドを選択することで操作を行うことができます。

5-5-1 右クリック

○図形を作成・編集中に右クリックすることで、操作を中止できます。

○一部コマンドでは右クリックメニューが表示します。

・右クリックメニュー



編集終了	編集を確定し終了します
編集中止	編集を中止します
編集継続	編集を継続します

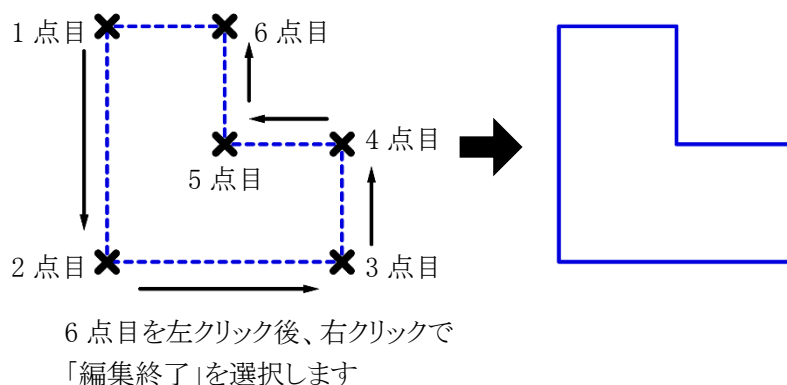
5-5-2 「作成」コマンド

○多角形の図形を作成します。

○時計回り、反時計回りどちらでも入力可能です。入力後、端点番号は反時計回りに自動補正されます。

[操作手順]

- 1) 「作成」コマンドを選択します。
- 2) 一筆書きの要領で多角形の端点ごとに左クリックします。
※始点と終点を同一点とするとエラー図形となります。四角形の図形であれば4点の入力となります。
- 3) 右クリックで「編集終了」を選択します。

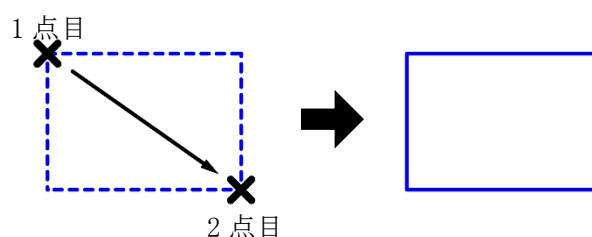


5-5-3 「矩形作成」コマンド

○矩形の図形を作成します。

[操作手順]

- 1) 「矩形作成」コマンドを選択します。
- 2) 矩形の1点目を左クリックします。
- 3) 矩形の2点目を左クリックします。



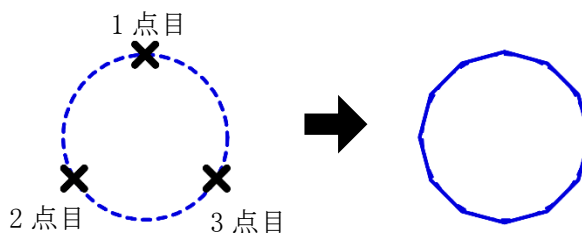
5-5-4 「円作成(3点)」コマンド

○3点入力による円を作成します。

○作成した図形は円に外接する多角形に分解されます。

[操作手順]

- 1) 「円作成(3点)」コマンドを選択します。
- 2) 円が通る1点目を左クリックします。
- 3) 円が通る2点目を左クリックします。
- 4) 円が通る3点目を左クリックします。



5-5-5 「円作成(中心)」コマンド

○中心及び半径指定による円を作成します。

○作成した図形は円に外接する多角形に分解されます。

① ②

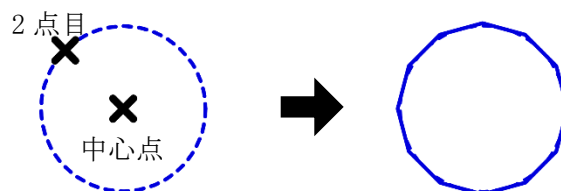
☒ 数値指定	半径: 3.000 m
--	--

番号	項目	概要
①	数値指定	半径を数値指定する場合にチェックを入れます
②	半径	半径を数値指定する場合に数値を入力します

5-5-5-1 任意の円を作成する

[操作手順]

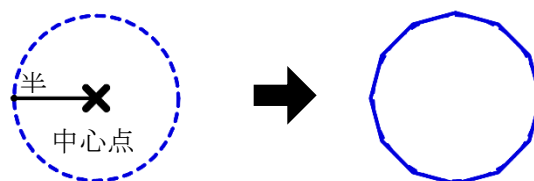
- 1) 「円作成(中心)」コマンドを選択します。
- 2) 円の中心点を左クリックします。
- 3) 半径となる2点目を左クリックします。



5-5-5-2 数値指定をして作成する

[操作手順]

- 1) 「円作成(中心)」コマンドを選択します。
- 2) 「数値指定」にチェックを入れます。
- 3) 「半径」を入力します。
- 4) 円の中心点を左クリックします。

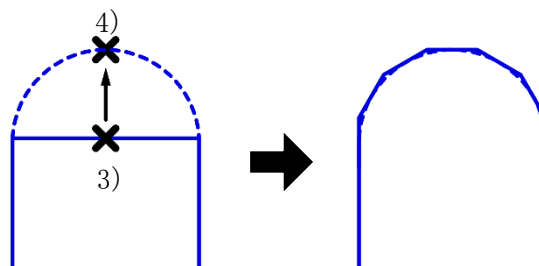


5-5-6 「円弧挿入(3点)」コマンド

- 図形の辺に、指定辺の両端と任意の点の3点で定義される円弧を挿入します。
- 作成した図形は円に外接する多角形に分解されます。

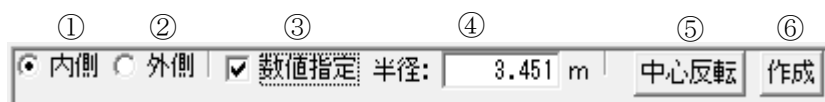
[操作手順]

- 1) 円弧を挿入する図形を選択します。
- 2) 「円弧挿入(3点)」コマンドを選択します。
- 3) 平面図で、円弧挿入をする辺を選択します。
- 4) 平面図で、挿入先を指定します。



5-5-7 「円弧挿入(中心)」コマンド

- 図形の辺に、指定辺の両端と任意の中心点で定義される円弧を挿入します。
- 内側に作成した図形は円に内接する多角形に分解されます。
- 外側に作成した図形は円に外接する多角形に分解されます。



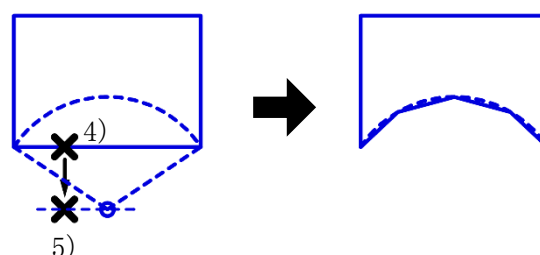
番号	項目	概要
①	内側	指定辺を基準として図形内側に円弧を挿入します
②	外側	指定辺を基準として図形外側に円弧を挿入します
③	数値指定	半径を数値指定する場合にチェックを入れます
④	半径	半径を数値指定する場合に数値を入力します
⑤	中心反転	指定辺を基準として円弧の中心を反転します
⑥	作成	円弧を作成します

5-5-7-1 任意の位置に挿入する

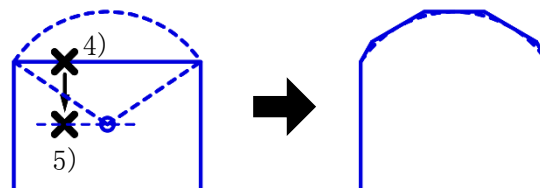
[操作手順]

- 1) 円弧を挿入する図形を選択します。
- 2) 「円弧挿入(中心)」コマンドを選択します。
- 3) 「内側」または「外側」を選択します。
- 4) 平面図で、円弧挿入をする辺を選択します。
- 5) 平面図で、中心点を指定します。

・「内側」を選択した場合



・「外側」を選択した場合



5-5-7-2 数値指定をして挿入する

[操作手順]

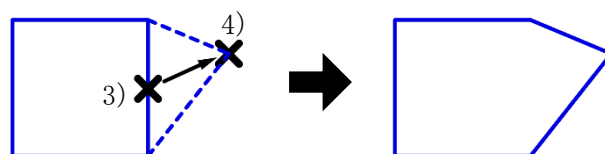
- 1) 円弧を挿入する図形を選択します。
- 2) 「円弧挿入(中心)」コマンドを選択します。
- 3) 平面図で、円弧挿入をする辺を選択します。
- 4) 「数値指定」を選択します。
- 5) 「半径」を入力します。
※必要に応じて「中心反転」を選択します。
- 6) 「作成」を選択します。

5-5-8 「点挿入」コマンド

○図形に端点を挿入します。

[操作手順]

- 1) 端点を挿入する図形を選択します。
- 2) 「点挿入」コマンドを選択します。
- 3) 平面図で、端点を挿入する辺を選択します。
- 4) 平面図で、挿入位置を指定します。
※同一辺に続けて指定することができます。



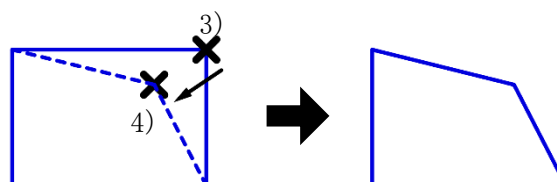
5-5-9 「点移動」コマンド

○図形の端点を移動します。

○Shift キーを押しながら操作することで、辺の傾斜を維持したまま端点を移動できます。

[操作手順]

- 1) 端点を移動する図形を選択します。
- 2) 「点移動」コマンドを選択します。
- 3) 平面図で、移動する端点を選択します。
- 4) 平面図で、移動位置を指定します。



5-5-10 「辺移動」コマンド

○図形の辺を移動します。

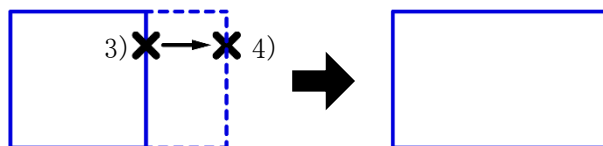


番号	項目	概要
①	数値指定	距離を数値指定する場合にチェックを入れます
②	距離	距離を数値指定する場合に数値を入力します 正の値が図形内側方向です

5-5-10-1 任意の位置に移動する

[操作手順]

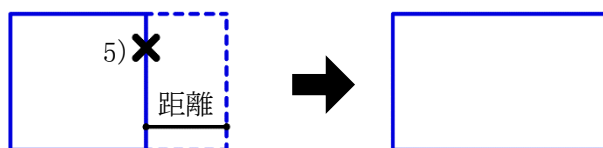
- 1) 辺を移動する図形を選択します。
 - 2) 「辺移動」コマンドを選択します。
 - 3) 平面図で、移動する辺を選択します。
 - 4) 平面図で、移動位置を指定します。
- ※同一辺を続けて移動することができます。



5-5-10-2 数値指定をして移動する

[操作手順]

- 1) 辺を移動する図形を選択します。
- 2) 「辺移動」コマンドを選択します。
- 3) 「数値指定」を選択します。
- 4) 「距離」を入力します。
- 5) 平面図で移動する辺を選択します。

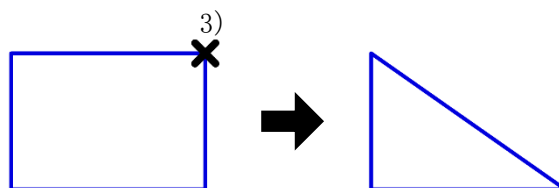


5-5-11 「点削除」コマンド

○図形の端点を削除します。

[操作手順]

- 1) 端点を削除する図形を選択します。
- 2) 「点削除」コマンドを選択します。
- 3) 平面図で、削除する端点を選択します。



5-5-12 「ブロック移動」コマンド

○図形を平面移動します。

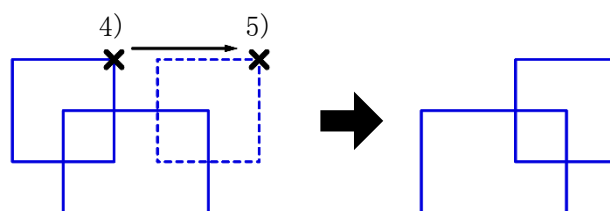


番号	項目	概要
①	移動方法選択	移動方法を選択します
		フリー X 軸及び Y 軸に平行に移動します
		X 軸 X 軸に平行に移動します
		Y 軸 Y 軸に平行に移動します
		辺平行 任意の辺に平行に移動します
		辺垂直 任意の辺に垂直に移動します
		東西 東西軸に平行に移動します
		南北 南北に平行に移動します
②	辺指定	移動方法で「辺平行」または「辺垂直」を選択した場合に、平面図で対象辺を選択します
③	数値指定	「数値設定」ダイアログが開きます

5-5-12-1 任意の位置に移動する

[操作手順]

- 1) 移動する図形を選択します。
- 2) 「ブロック移動」コマンドを選択します。
- 3) 「移動方法」プルダウンメニューより「フリー」を選択します。
- 4) 平面図で、図形の端点を選択します。
- 5) 平面図で、移動位置を指定します。



5-5-12-2 数値指定をして移動する

[操作手順]

- 1) 移動する図形を選択します。
- 2) 「ブロック移動」コマンドを選択します。
- 3) 「移動方法」プルダウンメニューより移動方法を選択します。
- 4) 「辺平行」または「辺垂直」を選択した場合、「辺指定」を選択し、平面図で基準となる辺を選択します。
※選択した図形の辺以外の辺も選択できます
- 5) 「数値指定」を選択します。
- 6) 「数値設定」ダイアログが開きます。

- 7) 移動距離を入力し、「OK」を選択します。

5-5-13 「ブロック複写」コマンド

- 図形を平面複写します。
- 操作手順は「ブロック移動」コマンドに準じます。

5-5-14 「ブロック回転」コマンド

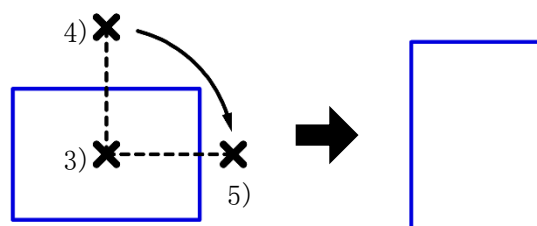
- 図形を回転します。

番号	項目	概要
①	数値指定	角度を数値指定する場合にチェックを入れます
②	角度	角度を数値指定する場合に数値を入力します 反時計周りが正の値です

5-5-14-1 任意の角度で回転する

[操作手順]

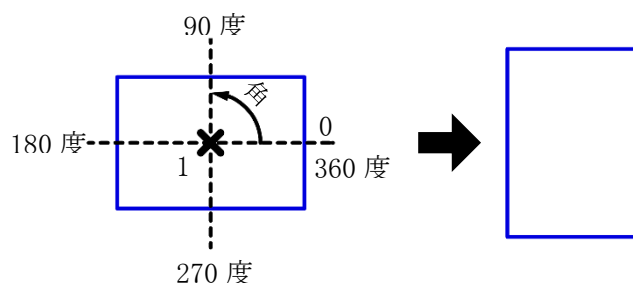
- 1) 回転する図形を選択します。
- 2) 「ブロック回転」コマンドを選択します。
- 3) 平面図で、回転の中心点を指定します。
- 4) 平面図で、基準軸となる任意の点を指定します。
- 5) 平面図で、回転位置を指定します。



5-5-14-2 数値指定をして回転する

[操作手順]

- 1) 回転する図形を選択します。
- 2) 「ブロック回転」コマンドを選択します。
- 3) 「数値指定」を選択します。
- 4) 角度を入力します。
- 5) 平面図で、回転の中心点を指定します。



5-5-15 「ブロック削除」コマンド

○図形を削除します。

[操作手順]

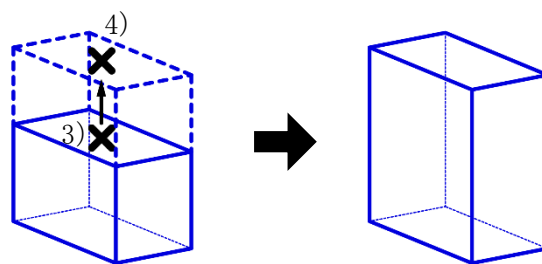
- 1) 削除する図形を選択します。
- 2) 「ブロック削除」コマンドを選択します。

5-5-16 「上面移動」コマンド

○ブロックの上面を移動します。

[操作手順]

- 1) 上面を移動するブロックを選択します。
- 2) 「上面移動」コマンドを選択します。
- 3) アイソメ図で、選択したブロックの上面を選択します。
- 4) アイソメ図で、移動位置を指定します。

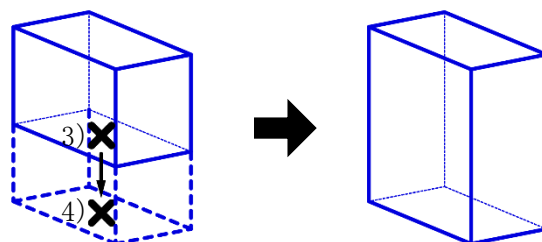


5-5-17 「下面移動」コマンド

○ブロックの下面を移動します。

[操作手順]

- 1) 下面を移動するブロックを選択します。
- 2) 「下面移動」コマンドを選択します。
- 3) アイソメ図で、選択したブロックの下面を選択します。
- 4) アイソメ図で、移動位置を指定します。



5-5-18 「垂直移動」コマンド

○ブロックを垂直方向に移動します。

[操作手順]

- 1) 垂直移動するブロックを選択します。
- 2) 「垂直移動」コマンドを選択します。
- 3) 「垂直移動」ダイアログが開きます。
- 4) 各種設定をします。

①
移動面

☐ 上面のみ

☐ 下面のみ

☒ 上下面

②
移動単位

☒ m単位

☐ 階数単位

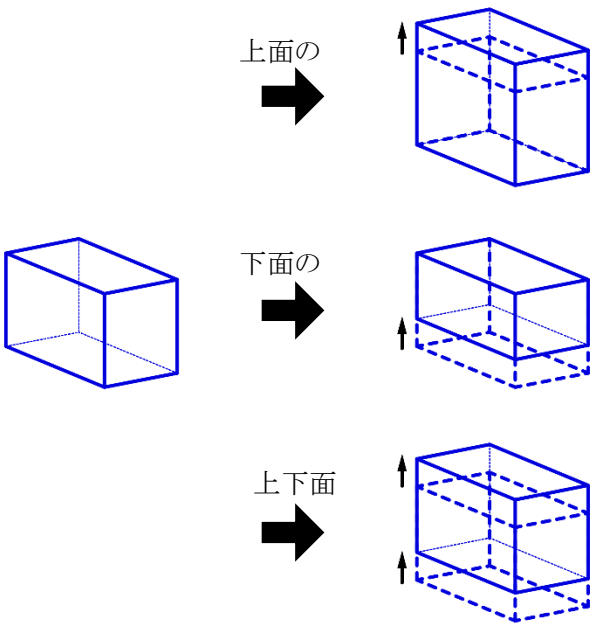
③
オフセット

m

階

OK

キャンセル



※オフセットが正の値の場合
概要

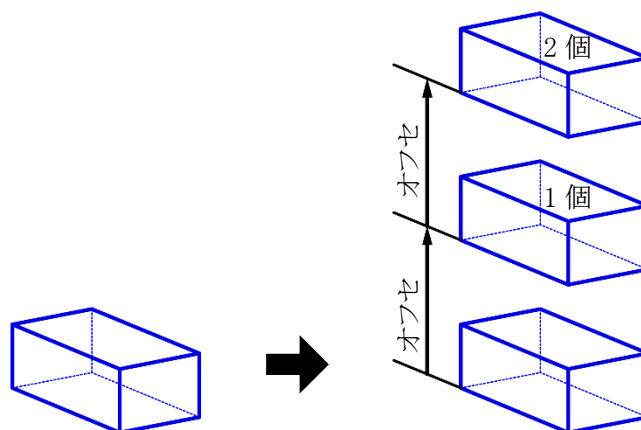
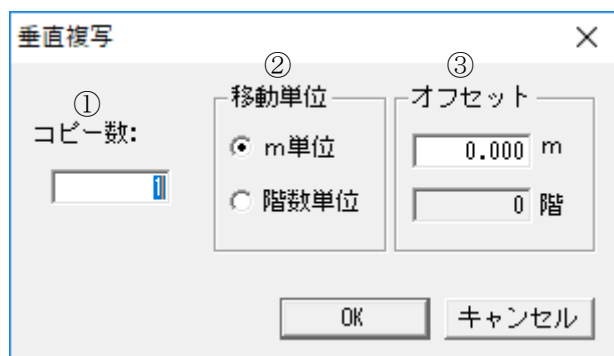
番号	項目		概要
①	移動面	上面のみ	上面のみ移動します
		下面のみ	下面のみ移動します
		上下面	上面、下面とも移動します
②	移動単位	m単位	m単位で移動します
		階数単位	断面計画の階数単位で移動します 断面計画を予め設定する必要があります
③	オフセット	m	移動する距離を入力します
		階	移動する階を入力します

- 5) 「OK」を選択します

5-5-19 「垂直複写」コマンド

○ブロックを垂直方向に複写します。

- 1) 垂直複写するブロックを選択します。
- 2) 「垂直複写」コマンドを選択します。
- 3) 「垂直複写」ダイアログが開きます。
- 4) 各種設定をします。



※コピー数:2、オフセットが正の値の場合

番号	項目		概要
①	コピー数		複写する数を入力します
②	移動単位	m単位	m単位で移動します
		階数単位	断面計画の階数単位で移動します 断面計画を予め設定する必要があります
③	オフセット	m	移動する距離を入力します
		階	移動する階を入力します

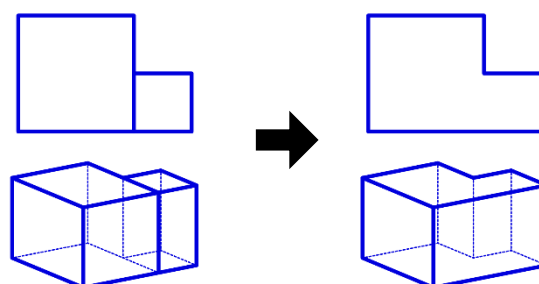
- 5) 「OK」を選択します

5-5-20 「合成」コマンド

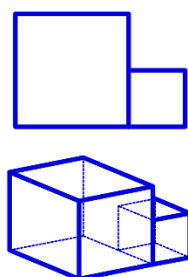
○同一高さで辺が接しているブロックを合成します。

[操作手順]

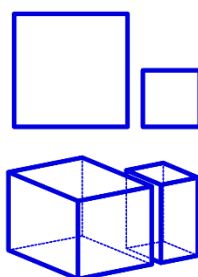
- 1) 合成するブロックを2つ以上選択します。
- 2) 「合成」コマンドを選択します。



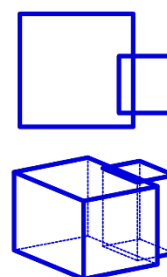
※合成できない形状



隣接するブロックの
高さが異なる場合



隣接するブロックの辺
が接していない場合



隣接するブロックの辺
が接していない場合

5-5-21 「水平面カット」コマンド

○ブロックを水平方向にカットします。

①
②
③
④

カット高さ:
 m

☐ 上面をカット

☐ 下面をカット

実行

番号	項目	概要
①	カット高さ	カットする高さを入力します
②	上面をカット	「カット高さ」で設定した高さより上の面をカットします
③	下面をカット	「カット高さ」で設定した高さより下の面をカットします
④	実行	水平面カットを実行します

[操作手順]

1) 水平面カットをするブロックを選択します。

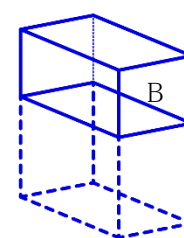
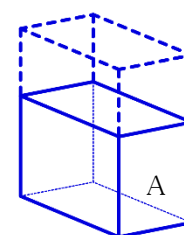
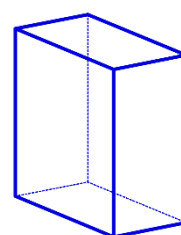
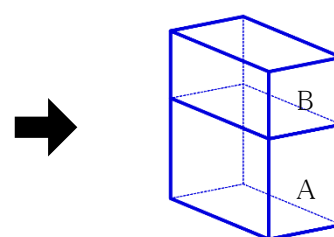
※複数選択が可能です。

2) 「水平面カット」コマンドを選択します。

3) 「カット高さ」を入力します。

4) カット面を選択します。

5) 「実行」を選択します。



両方にチェック	ブロックをカットし、AとBのブロックを作成します
「上面をカット」のみチェック	ブロックをカットし、Aのブロックを作成します
「下面をカット」のみチェック	ブロックをカットし、Bのブロックを作成します
両方にチェック無	水平面カットを実行できません

5-5-22 「垂直面カット」コマンド

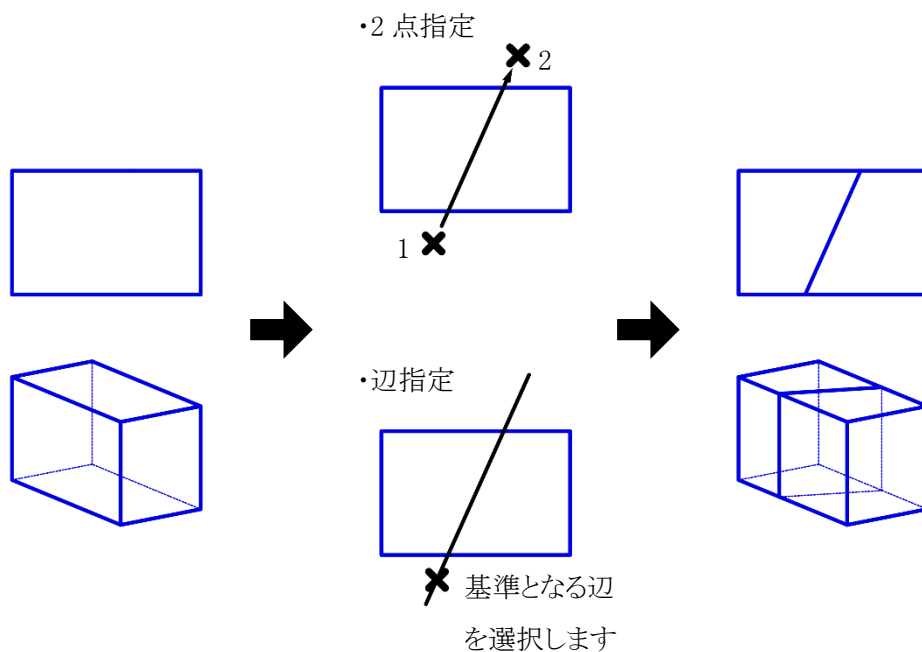
○ブロックを垂直方向にカットします。



番号	項目	概要
①	2点指定	平面図で、2点指定により基準線を作成します
②	辺選択	平面図で、辺を選択し基準線を作成します
③	数値入力	基準線からのオフセット値を入力します
④	実行	垂直面カットを実行します

[操作手順]

- 1) 垂直面カットをするブロックを選択します。
- 2) 「垂直面カット」コマンドを選択します。
- 3) 「2点指定」または「辺選択」を選択します。
- 4) 平面図で、3)で選択した項目で基準線を作成します。
- 5) 必要に応じて「数値入力」欄にオフセット値を入力します。
- 6) 「実行」を選択します。



6 与条件設定

6-1 はじめに

○敷地形状(本システムにおいて、「本敷地」といいます)や、本敷地に適用される法規制を、各種計算の与条件として入力します。

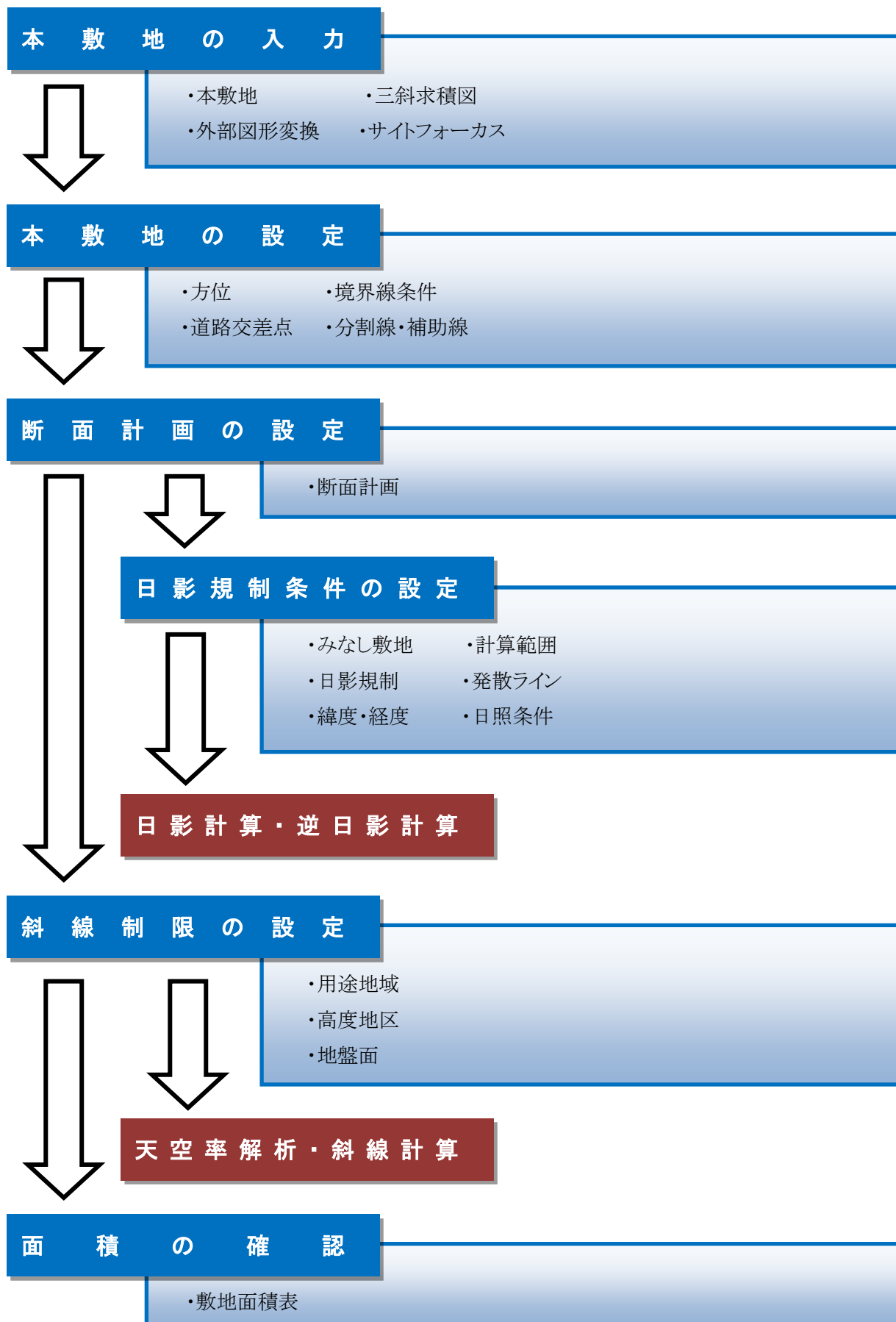
○各種計算の計算根拠となるため、法規制や数値を正確に入力する必要があります。

6-2 サブメニュー

○与条件設定のサブメニューです。

メニュー名	概要
本敷地	図形編集コマンドにより本敷地を設定します
三斜求積図	三斜求積図を利用して本敷地を設定します
外部図形変換	インポートした CAD データを本敷地に変換します
サイトフォーカス	本敷地の面積の補正・座標原点の指定及び座標軸の補正をします
分割線・補助線	用途地域・高度地区・地盤高・日影規制の分割の設定、及び補助線の設定をします
方位	方位を設定します
境界線条件	境界線の種類や緩和条件を設定します
道路・交差点	道路形状及び交差点形状を設定します
みなし敷地	みなし敷地(日影規制ラインの元となる形状)を設定します
計算範囲	日影計算の計算範囲を指定します
用途地域	用途地域・建蔽率・容積率等の設定及び、計算対象高さ制限の設定をします
高度地区	高度地区の設定をします
地盤面	斜線計算及び天空率計算における地盤面の高さを設定します
日影規制	日影規制条件、測定面高、平均地盤面高を設定します
発散ライン	日影計算における、発散型規制ラインを設定します
緯度経度	緯度経度を設定します
日照条件	日影計算における日照条件を設定します
敷地面積表	設定した与条件による各種面積を確認します
断面計画	計画建築物の階高を設定します

6-3 与条件設定のワークフロー



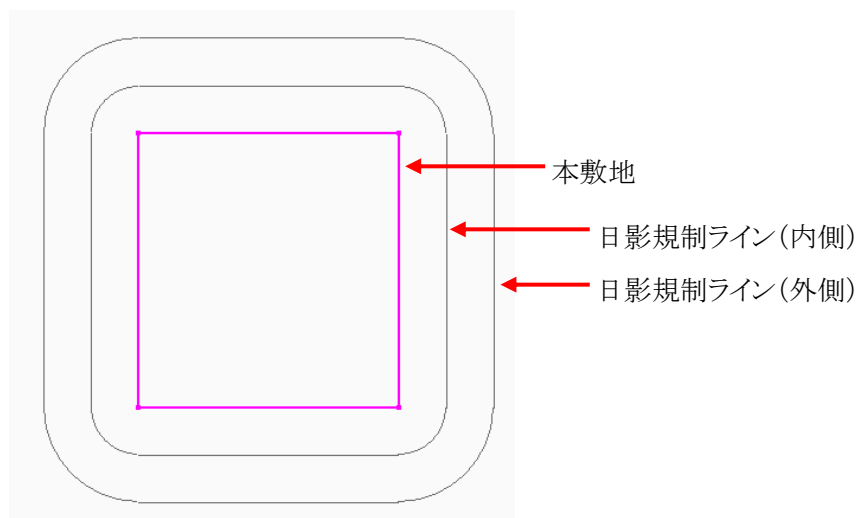
6-4 本敷地

- 本システムにおける高さ制限解析に必要となる敷地形状を作成します。
- 本敷地は1形状のみ作成可能です。
- 2項道路(法42条第2項)や都市計画道路(法42条第1項第4号)等により、敷地形状から除外される部分がある場合には、除外部分を除いた形状で本敷地を作成します。
- 隅切辺がある場合には、隅切後の形状で本敷地を作成します。
- 本敷地は直線のみで構成する必要があります。曲線図形は多角形分解して本敷地登録します。
- 本敷地を作成すると、日影規制ラインが自動的に作成されます。



※選択したコマンドによって表示が異なります。

番号	項目	概要
①	図形編集コマンド	各種図形編集コマンドです
②	図形チェック	エラー図形をチェックします
③	面積	本敷地の面積を表示します
④	数値入力コマンド	各種数値入力コマンドです
⑤	端点リスト	端点の座標をリスト表示します



6-4-1 マウス入力による本敷地の新規作成

[操作手順]

- 1) 「マウス入力」コマンドを選択します。
- 2) 「作成」コマンドまたは「矩形作成」コマンドを選択します。



- 3) 平面図で、本敷地を作成します。
※図形編集コマンドの操作手順は図形編集を参照して下さい。

6-4-2 マウス入力による本敷地の編集

[操作手順]

- 1) 「マウス入力」コマンドを選択します。
- 2) 図形編集コマンドを選択します。

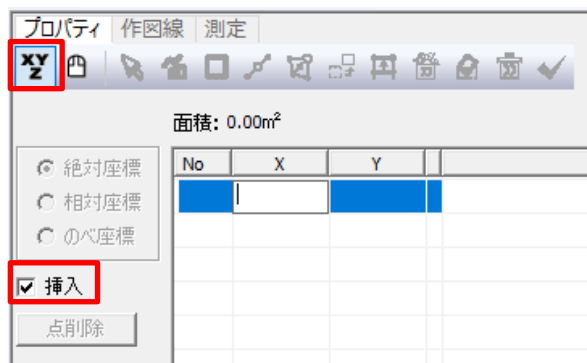


- 3) 平面図で、本敷地を編集します。
※図形編集コマンドの操作手順は図形編集を参照して下さい。

6-4-3 数値入力による本敷地の新規作成

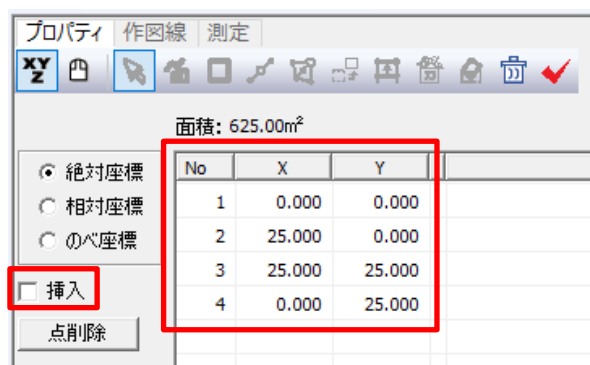
[操作手順]

- 1) 「数値入力」コマンドを選択します。
- 2) 「挿入」にチェックを入れます。



- 3) 「端点リスト」に端点の座標値を入力します。

- 4) 「挿入」のチェックを外します。

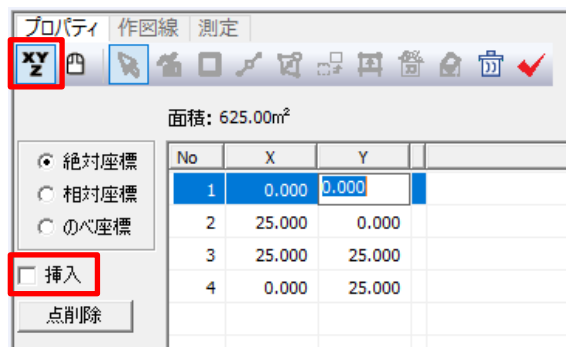


※数値入力の操作手順は図形編集を参照して下さい。

6-4-4 数値入力による本敷地の編集

[操作手順]

- 1) 「数値入力」コマンドを選択します。
- 2) 「挿入」のチェックを外します。



- 3) 「端点リスト」の端点の座標値を編集します。

※数値入力の操作手順は図形編集を参照して下さい。

6-4-5 本敷地を削除する

[操作手順]

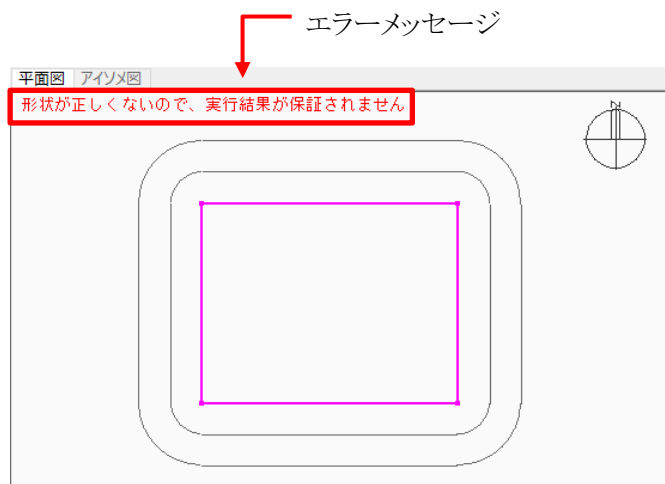
- 1) 「マウス入力」コマンド、または「数値入力」コマンドを選択します。
- 2) 「ブロック削除」コマンドを選択します。



6-4-6 「図形チェック」コマンド

○エラーメッセージが表示された場合に、エラーの原因を確認します。

※エラーメッセージが表示された場合は必ず確認します。

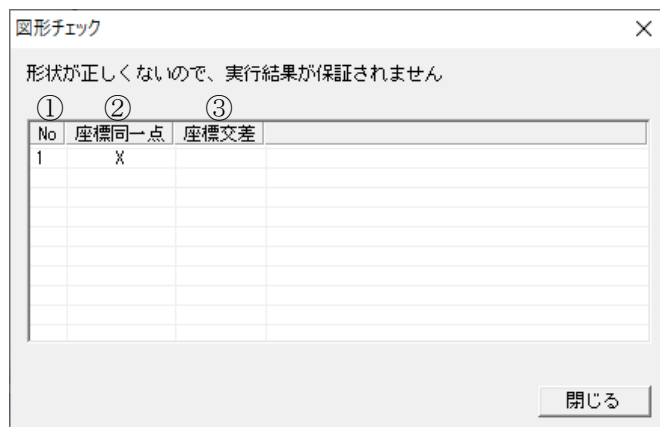


[操作手順]

1) 「図形チェック」コマンドを選択します。



2) 「図形チェック」ダイアログが開きます。



番号	項目	概要
①	No	エラーが発生している端点の No を表示します
②	座標同一点	2 以上の端点の座標が重複しています
③	座標交差	辺と辺が交差しています(8 の字図形)

3) エラー内容を確認します。

※「座標同一点」でエラーになったポイントは、「閉じる」ボタンを押した際に、重なったポイントのうち、どちらかが自動的に削除されます。

6-5 三斜求積図

- 三斜測量図を利用して本敷地を作成します。
- 設定した本敷地に対して、任意の三斜求積図を作成できます。

※選択したコマンドによって表示が異なります。

番号	項目	概要
①	図形編集コマンド	各種図形編集コマンドです
②	三角形作成	三角形を作成します
③	三角形編集	三角形を編集します
④	図形チェック	エラー図形をチェックします
⑤	CASE 選択	敷地 CASE を選択します 最大で 5CASE まで作成可能です
⑥	入力値設定	図形の入力値を三角形リストに反映します
⑦	敷地作成	本敷地を作成します
⑧	倍面積計算式	倍面積 1 及び 2 の公式を表示します
⑨	三角形リスト	三角形の情報を表示します 「三角形編集」コマンドを選択することで編集が可能です

6-5-1 倍面積 1 及び 2 について

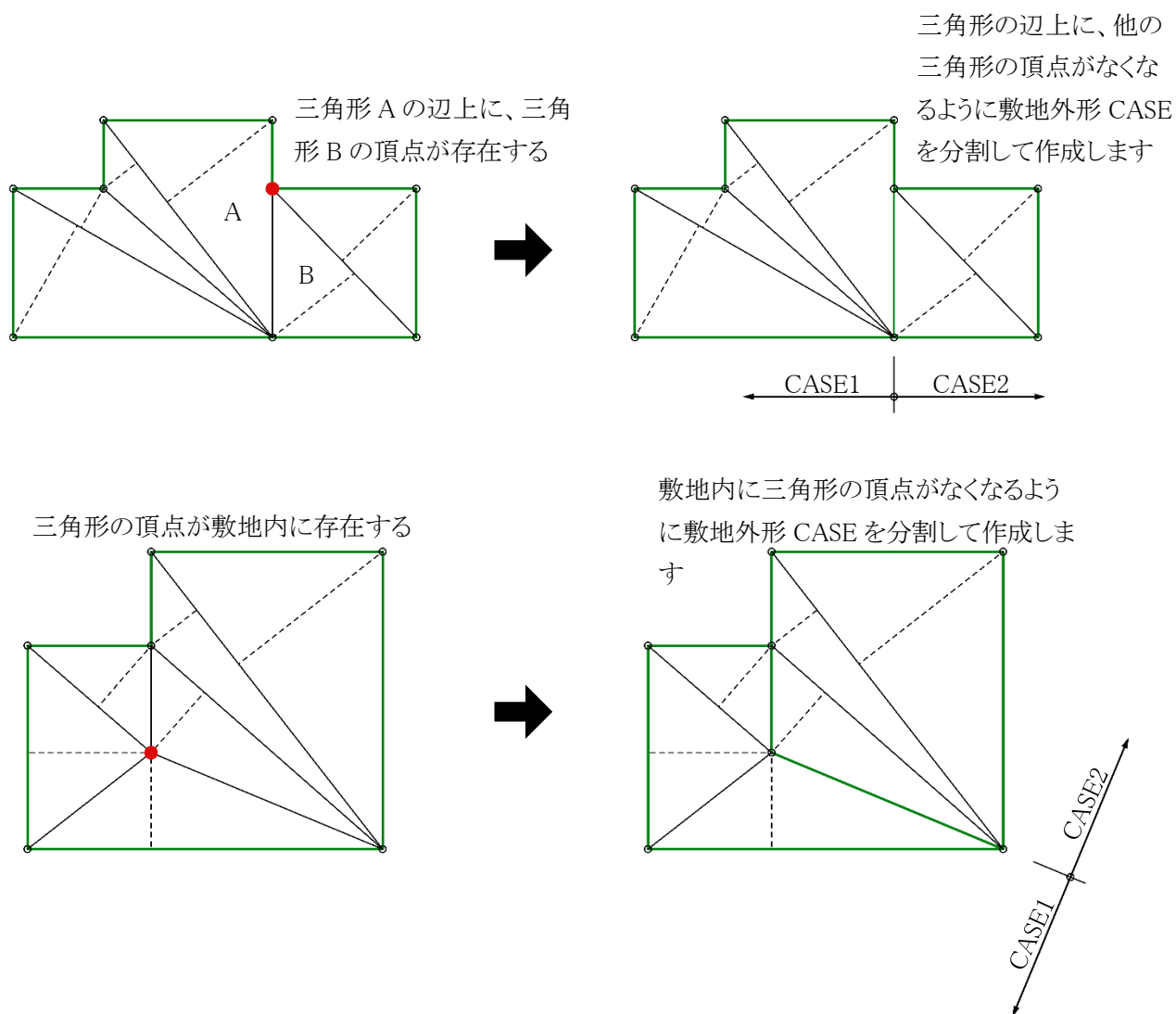
- 本システムの三斜求積では、倍面積 1(底辺×高さ)と倍面積 2(ヘロンの公式)で面積を算定します。
 - 倍面積 1 と倍面積 2 の比率を算出することで、入力値のチェックを行います。
 - 比率が著しく異なる場合は、入力した辺長の一部が誤っている可能性があります。
- ※測量誤差等によって必ずしも比率が 100%になるとは限りません。

項目	計算式
倍面積 1	底辺×高さ
倍面積 2 (ヘロンの公式)	$2 \times s \times (s - \text{底辺}) \times (s - \text{斜辺 1}) \times (s - \text{斜辺 2})$ ※ $s = (\text{底辺} + \text{斜辺 1} + \text{斜辺 2}) \div 2$

6-5-2 複数の敷地外形が必要な敷地形状

○三角形を全て外形形状上で指定する入力する必要がある為、下図のような敷地形状の場合、複数の敷地外形 CASE を作成します。

○「編集終了」選択後に続けて外形を作成します。



6-5-3 本敷地を作成する

※「本敷地」メニューで一度でも本敷地を作成した場合は、本メニューでの本敷地作成はできません。

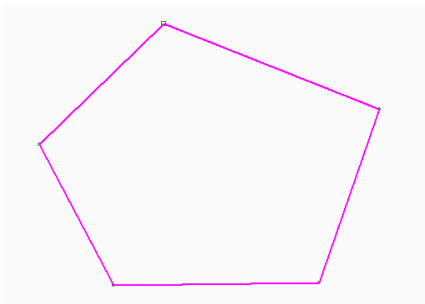
[操作手順]

- 1) 「作成」コマンドを選択します。



- 2) 平面図で敷地外形を作成します。

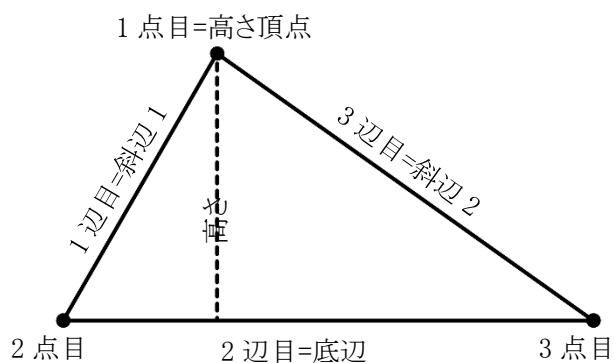
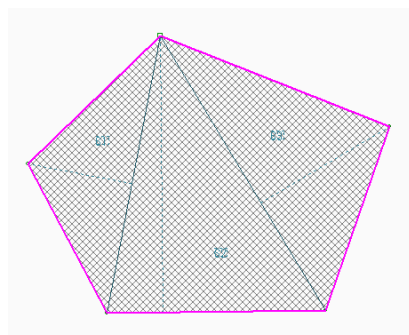
※「作成」コマンドの操作は図形編集を参照してください。



- 3) 「三角形作成」コマンドを選択します。



- 4) 三斜測量図と同じ三角形を作成します。



※入力する順番に応じて、各辺が設定されます。

※敷地の端点数に対して全ての三角形を作成します。

※外形を分割して設定した場合は、全ての CASE の三角形を作成します。

- 5) 「三角形編集」コマンドを選択します。



- 6) 「CASE 選択」プルダウンメニューより辺長を入力する CASE を選択します。

- 7) 「三角形リスト」に作成した三角形の辺長を直接入力します。

No	底辺	高さ	斜辺1	斜辺2	倍面積2	倍面積1	比率
1	69.898	26.207	45.587	41.826	1831.82	1831.85	99.998
2	54.124	68.474	79.346	69.898	3706.09	3706.10	100.000
3	79.346	37.057	48.216	61.035	2940.32	2940.30	100.001

※各辺長を入力すると敷地形状をプレビュー表示します。

※「入力値設定」を選択すると、本システムでの入力値を表示します。適宜数値を変更してください。



※三角形の形状は変更されません。図形編集コマンドで編集する必要があります。

- 8) 全ての CASE で、3)～7)の操作を行います。
9) 「敷地作成」を選択します。



6-5-4 三斜求積図作成

- 「新規作成」の 2) 以降の操作を行います。
- 敷地外形を変更し、9)の操作をすることで、本敷地の形状を変更します。

6-5-5 敷地外形形状の編集

[操作手順]

- 1) 「選択」コマンドを選択します。



- 2) 平面図より、編集を行う敷地外形形状を選択します。
※「CASE 選択」プルダウンメニューからも選択できます。
3) 図形編集コマンドを選択します。



- 4) 敷地外形形状を編集します。

※図形編集コマンドの操作手順は図形編集を参照してください。

6-5-6 三角形の編集

○三角形の形状は敷地外形形状による為、個別編集はできません。

6-5-7 三角形の削除

[操作手順]

- 1) 「三角形作成」または「三角形編集」コマンドを選択します。



- 2) 削除する三角形を三角形リストで選択します。

No	底辺	高さ	斜辺1	斜辺2	倍面積2	倍面積1	比率	
1	29.108	24.939	43.816	25.881	725.92	725.93	99.999	
2	30.908	42.721	47.680	43.816	1320.42	1320.42	100.000	
3	28.523	36.230	36.314	47.680	1033.39	1033.38	100.001	

- 3) 「ブロック削除」コマンドを選択します。



6-5-8 「図形チェック」コマンド

○エラーメッセージが表示された場合に、エラーの原因を確認します。

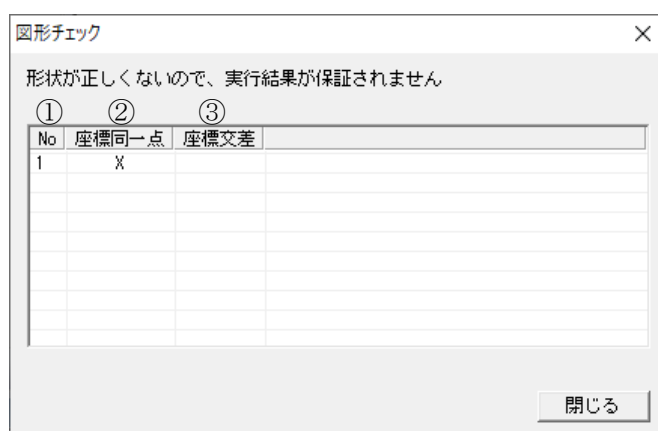
※エラーメッセージが表示された場合は必ず確認します。

[操作手順]

- 1) 「図形チェック」コマンドを選択します。



- 2) 「図形チェック」ダイアログが開きます。



番号	項目	概要
①	No	エラーが発生している端点の No を表示します
②	座標同一点	2 以上の端点の座標が重複しています
③	座標交差	辺と辺が交差しています (8 の字図形)

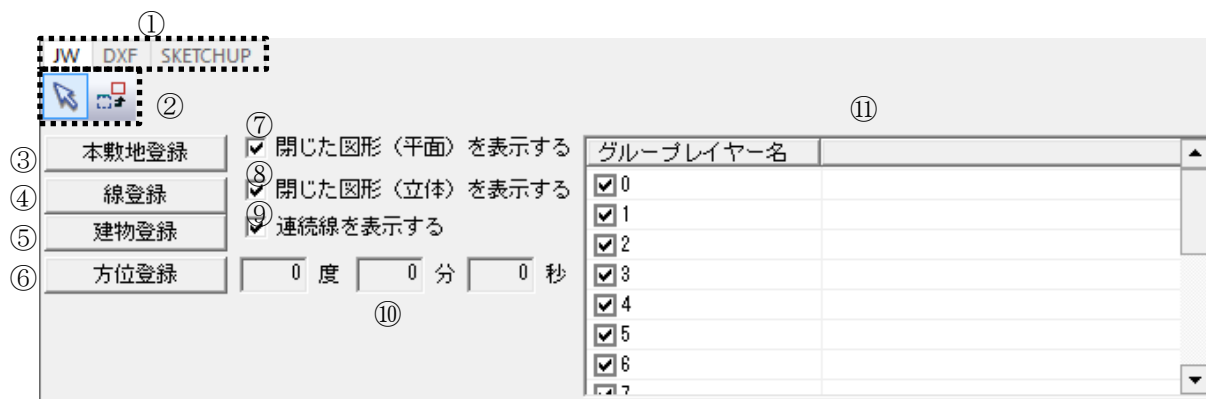
- 3) エラー内容を確認します。

※「座標同一点」でエラーになったポイントは、「閉じる」ボタンを押した際に、重なったポイントのうち、どちらかが自動的に削除されます。

6-6 外部図形変換

○インポートした CAD データを本敷地、建物、分割線、又は補助線に変換します。

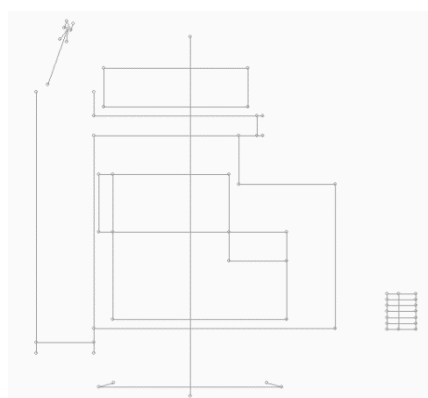
○変換できない場合は、各メニューにてそれぞれ作成してください。



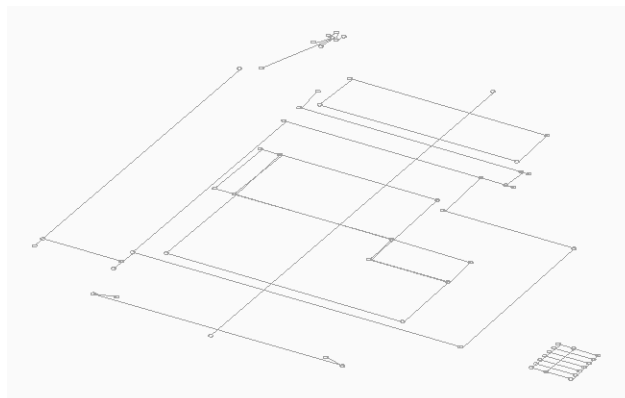
※インポートした CAD データ形式によって表示が異なります。上図は JWW データを選択した場合です。

番号	項目	概要	JWW	DXF	SKP
①	CAD データ選択	インポートした CAD データ形式を選択します	○	○	○
②	図形編集コマンド	各種図形編集コマンドです	○	○	○
③	本敷地登録	閉じた図形を本敷地として登録します	○	○	○
④	線登録	線分を分割線(用途・高度・地盤・日影規制)及び、補助線として登録します	○	○	—
⑤	建物登録	閉じた図形をブロックとして登録します 高さをもったブロックも登録可能です	○	○	○
⑥	方位登録	方位情報が設定されている場合に方位を登録します	○	—	—
⑦	閉じた図形(平面)を表示する	高さ情報をもたない閉じた図形の表示/非表示を設定します	○	○	—
⑧	閉じた図形(立体)を表示する	高さ情報をもつ閉じた図形の表示/非表示を設定します	○	○	—
⑨	連続線を表示する	閉じていない線の表示/非表示を設定します	○	○	—
⑩	方位角度	方位角度を表示します	○	—	—
⑪	レイヤー表示	インポートした CAD データのレイヤー等を表示します	○	—	○

・JWW データ(高さ情報なし)または DXF データ

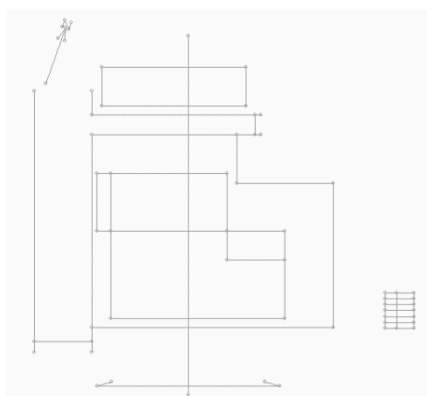


平面図

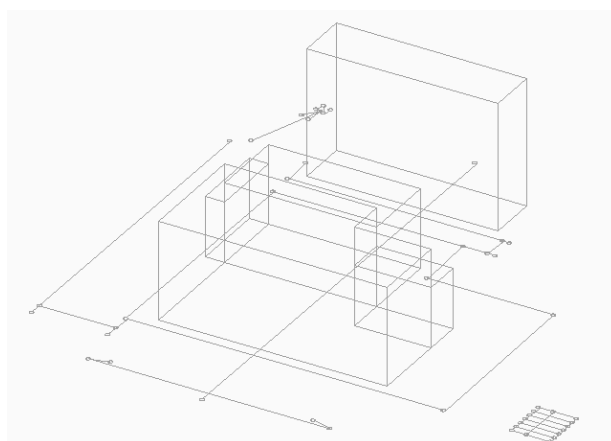


アイソメ

•JWW データ(高さ情報あり)または Sketchup データ



平面図

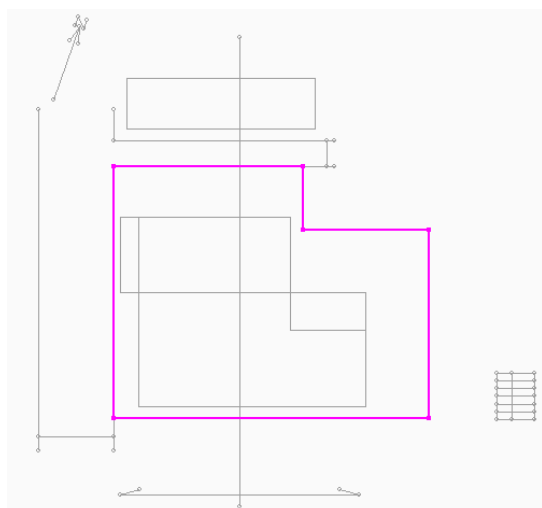


アイソメ

6-6-1 本敷地を登録する

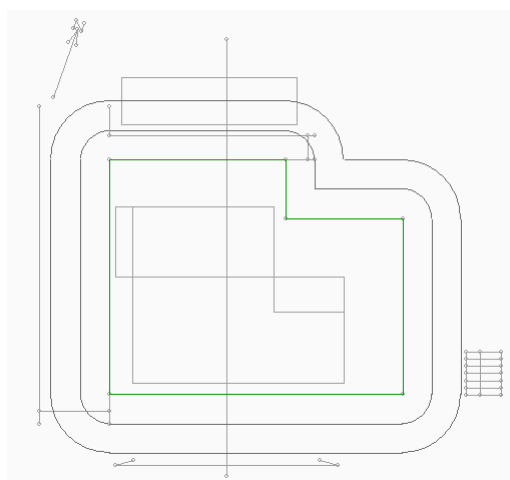
[操作手順]

- 1) インポート図形から変換対象図形を選択します。



※1つの閉じた図形のみが選択可能です。

- 2) 「本敷地登録」を選択します。

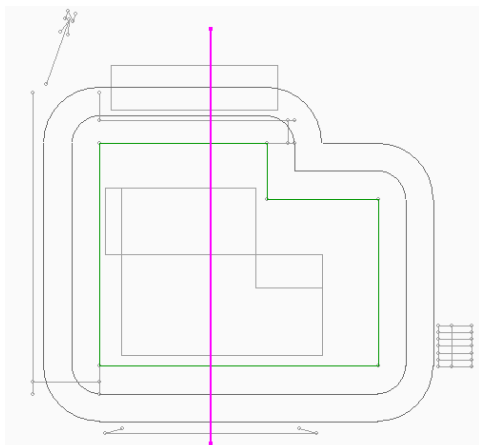


※インポートした CAD データ形式によって表示が異なります。

6-6-2 分割線・補助線を登録する

[操作手順]

- 1) インポート図形から変換対象図形を選択します。

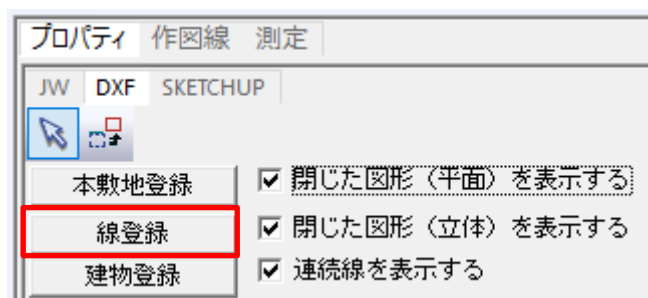


※強調表示される線分が変換対象図形となります。

※屈曲している連続線の場合、1 クリックで屈曲線全体が認識される必要があります。

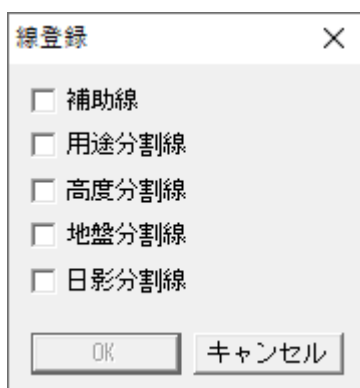
※Ctrlキーで複数選択が可能です。

- 2) 「線登録」を選択します。



※インポートした CAD データによって表示が異なります。

- 3) 「線登録」ダイアログボックスが開きます。

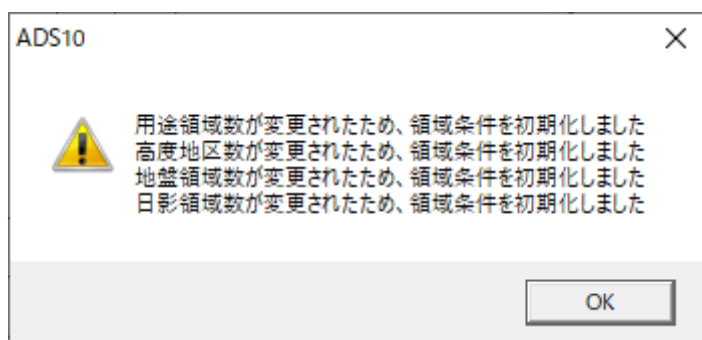


- 4) 登録する項目を選択します。

※複数項目の選択が可能です。

- 5) 「OK」を選択します。

- 6) 確認ダイアログボックスが開きます。

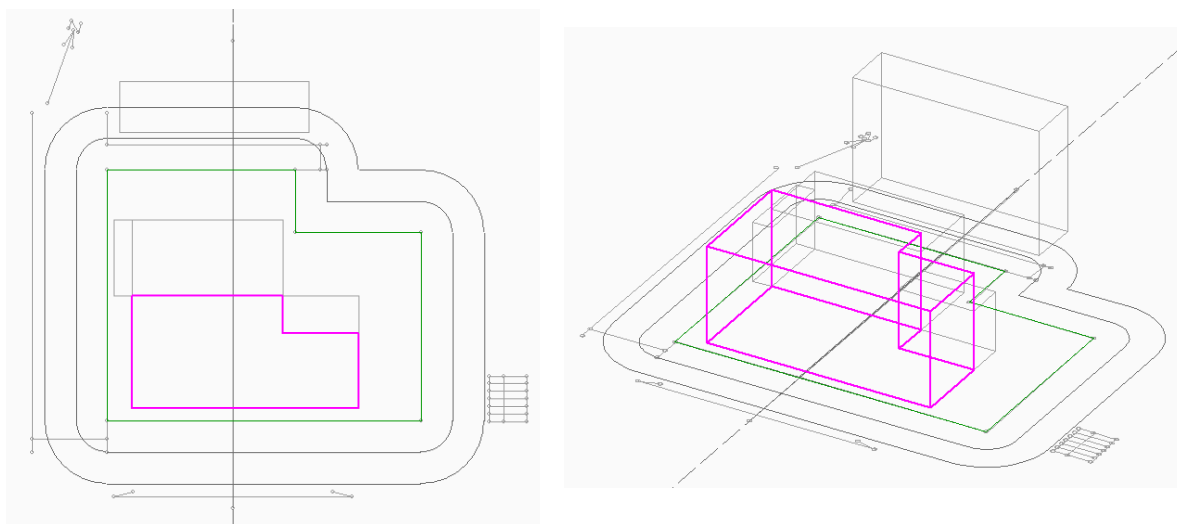


- 7) 「OK」を選択します。

6-6-3 ブロックを登録する

[操作手順]

- 1) インポート図形から変換対象図形を選択します。

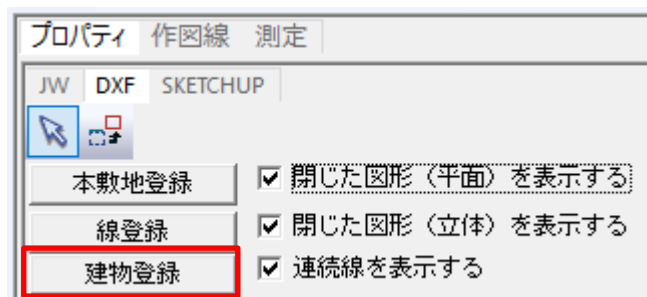


※Ctrlキーで複数選択が可能です。(Sketchupデータを除く)

※高さをもったインポート図形はアイソメ図で 3D 表示されます。

※JWW データの場合、高さの異なる図形毎にレイヤ分けされ、かつ閉じた図形のみ変換可能です。

- 2) 「建物登録」を選択します。



※インポートした CAD データによって表示が異なります。

※本敷地外にブロックの端点が存在すると赤色で表示され、敷地外エラーとなります。

6-6-4 方位を登録する

○JWW データをインポートした場合のみ選択できます。

[操作手順]

- 1) 「方位登録」を選択します。

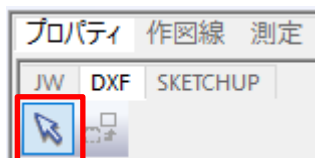


6-6-5 インポート図形を移動する

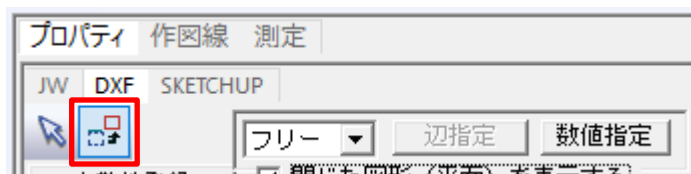
○インポート図形を移動します。

[操作手順]

- 1) 「選択」コマンドを選択します。



- 2) 移動するインポート図形を選択します。
- 3) 「ブロック移動」コマンドを選択します。



- 4) インポート図形を移動します。
※「ブロック移動」コマンドの操作手順は図形編集を参照して下さい。

6-7 サイトフォーカス

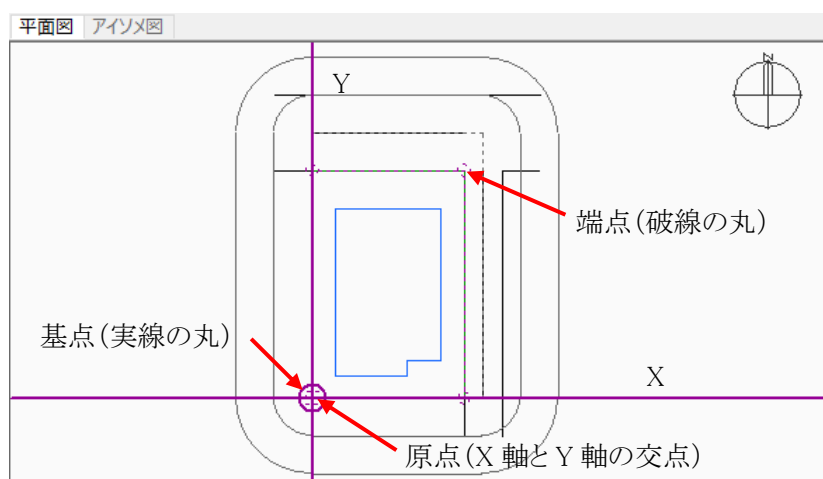
- 本敷地の、面積に対する「補正」や、本敷地の「原点移動」「回転」等を行います。
- 敷地図が画像しかない場合に、面積を補正します。
- 面積補正は、事前に方位・分割線・補助線等を全てトレースしてから行います。
- 本敷地入力後に画像データをインポートすることはできません。
- 画像データの保存はできません。

※本敷地を編集すると境界線条件は初期化されます。

※本敷地を編集すると画像は削除されます。

① 目標: 600.00 m² ④ 比率X: 1.000000
 ② 初期: 600.00 m² ⑤ 比率Y: 1.000000
 ③ 補正: m² ⑥ 基点: 1 ☐ 原点移動 ⑦
 ⑧ 回転
☒ 回転無 ☐ 反転
☐ X軸
☐ Y軸

番号	項目	概要
①	目標	本敷地の面積の補正値を入力します
②	初期	現在の本敷地の面積を表示します
③	補正	補正前の本敷地の面積を表示します
④	比率 X	本敷地の X 方向の補正比率を入力します
⑤	比率 Y	本敷地の Y 方向の補正比率を入力します
⑥	基点	原点移動及び回転の基点の端点番号を表示します
⑦	原点移動	選択した基点を原点とします
⑧	回転	本敷地を回転します
		回転なし 本敷地を回転しません
		X 軸 基点を始点とする境界線が X 軸に平行となるように本敷地を回転します
		Y 軸 基点を始点とする境界線が Y 軸に平行となるように本敷地を回転します
		反転 選択した軸を基準に本敷地を反転します

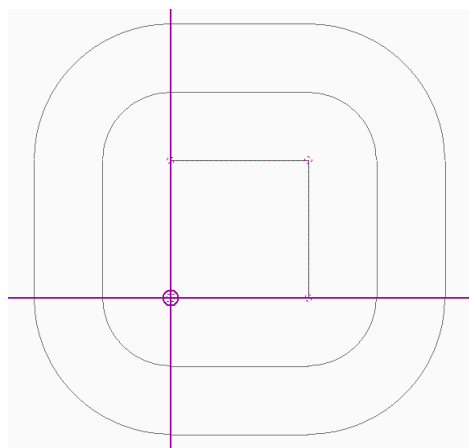


6-7-1 本敷地の面積を補正する

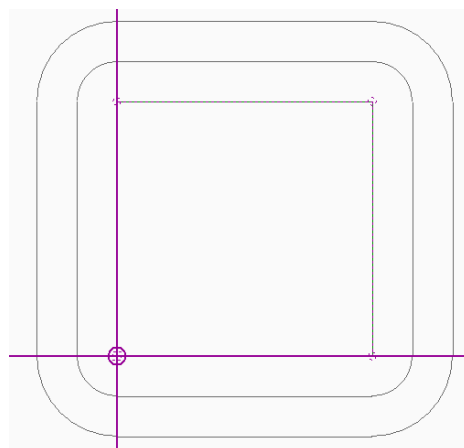
[操作手順]

- 1) 「目標」欄に、補正値を入力します。

目標:	1000.00	m ²
初期:	100.00	m ²
補正:	100.000000	m ²



敷地面積:100 m²



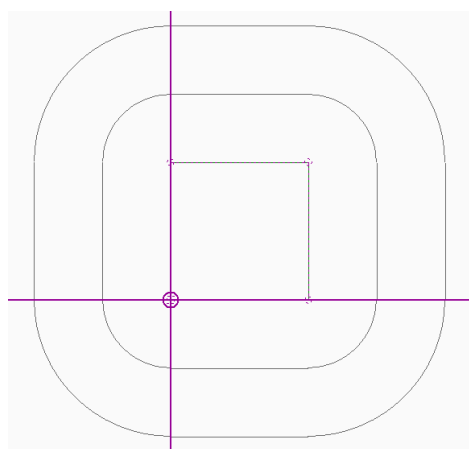
敷地面積:1,000 m²

6-7-2 本敷地の X 及び Y 方向の比率を編集する

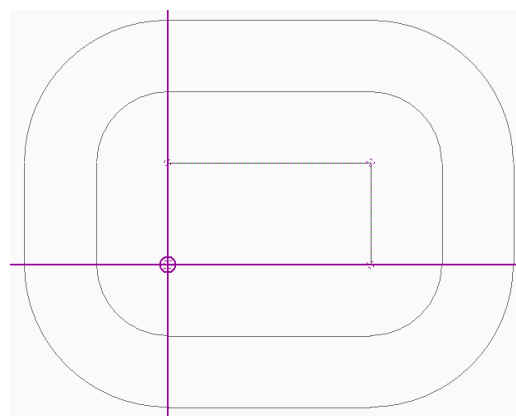
[操作手順]

- 1) 「比率 X」欄または「比率 Y」欄に比率を入力します。

比率X:	2	
比率Y:	1.000000	
基点:	1	☐ 原点移動



敷地面積:100 m²



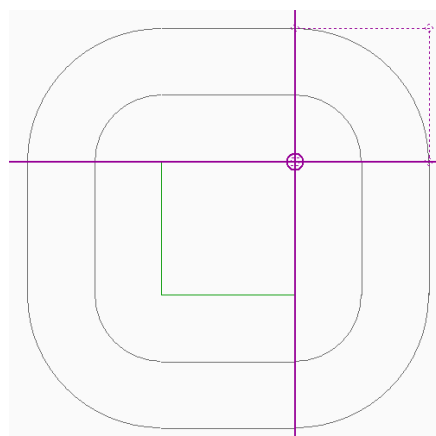
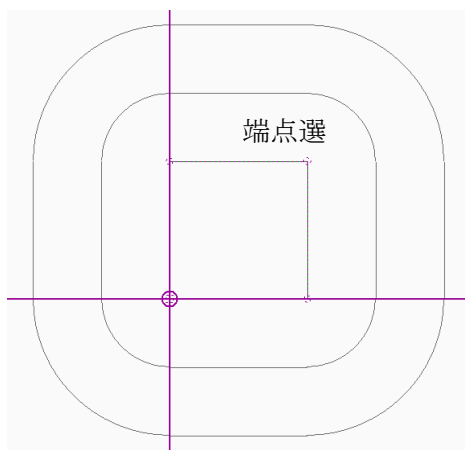
敷地面積:100 m²のまま、X 方向
の比率を 2 倍に補正

6-7-3 本敷地の原点を移動する

[操作手順]

- 1) 平面図で、原点とする本敷地端点を選択します。
- 2) 「原点移動」にチェックを入れます。

比率X: 1.000000
比率Y: 1.000000
基点: 1 ☒ 原点移動

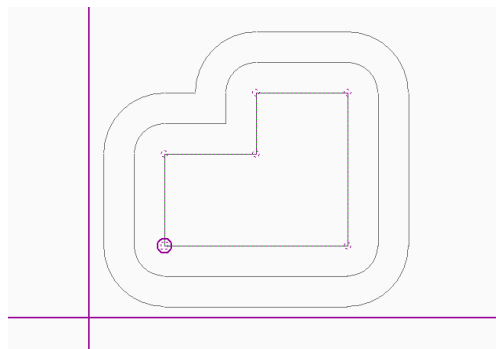


6-7-4 本敷地を回転する

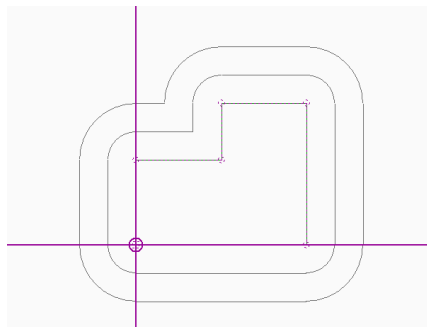
[操作手順]

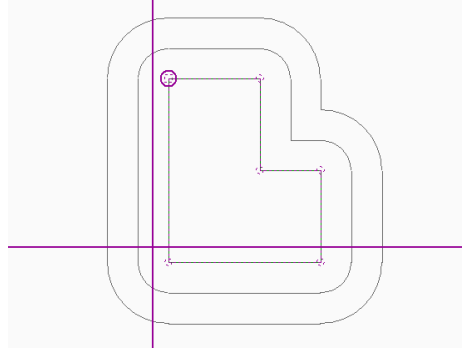
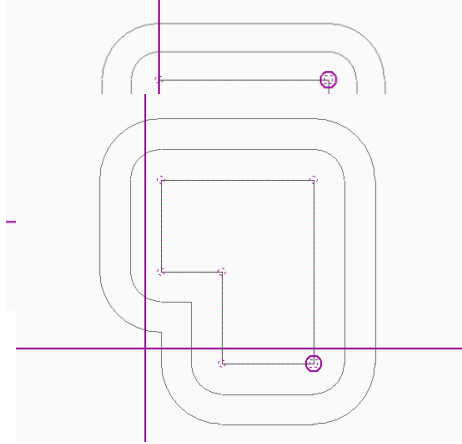
- 1) 「回転」欄にチェックを入れます。

回転
☒ 回転無 ☐ 反転
☐ X軸
☐ Y軸



回転
☐ 回転無 ☐ 反転
☒ X軸
☐ Y軸





6-8 方位

○真北を設定します。



※選択したコマンドにより表示が異なります。

番号	項目	概要	
①	図形編集コマンド	各種図形編集コマンドです	
②	条件	敷地境界線	選択した境界線を基準に角度を表示します
		絶対	真上を0度として角度を表示します
		順向	敷地境界線の始点から終点方向を0度とします
		逆向	敷地境界線の終点から始点方向を0度とします
		境界線 No	敷地境界線を選択します
③	方位入力方向	真上が0度です 時計回りがマイナス入力です	

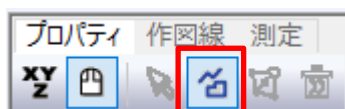
6-8-1 マウス入力で方位を設定する

[操作手順]

1) 「マウス入力」コマンドを選択します。

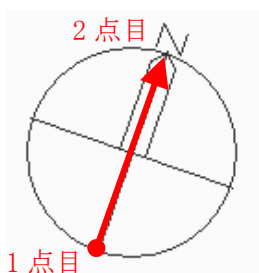


2) 「作成」コマンドを選択します。



3) 平面図で南側の点を指定します。

4) 平面図で北側の点を指定します。



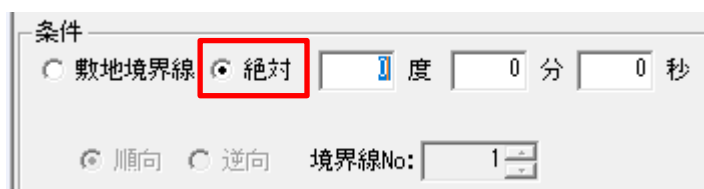
6-8-2 絶対角度を数値入力して方位を設定する

[操作手順]

- 1) 「数値入力」コマンドを選択します。



- 2) 「絶対」を選択します。



- 3) 平面図の真上を 0 度とした角度を入力します。



6-8-3 敷地境界線からの角度を数値入力して方位を設定する

[操作手順]

- 1) 「数値入力」コマンドを選択します。



- 2) 「敷地境界線」を選択します。



- 3) 「境界線 No」から基準となる境界線を選択します。



※平面図でも選択できます。

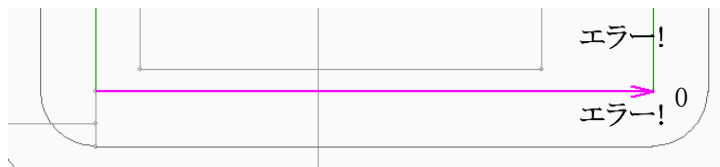
- 4) 平面図に表示される矢印の向きが逆の場合は、「逆向」を選択します。

・順向

条件

☒ 敷地境界線 ☐ 絶対 -180 度 0 分 0 秒

☒ 順向 ☐ 逆向 境界線No: 1

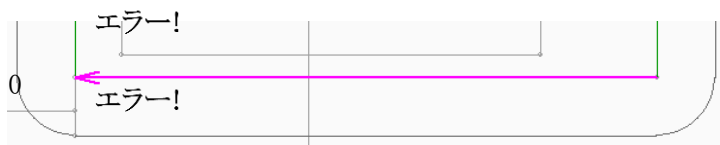


・逆向

条件

☒ 敷地境界線 ☐ 絶対 0 度 0 分 0 秒

☐ 順向 ☒ 逆向 境界線No: 1



- 5) 角度を入力します。

条件

☒ 敷地境界線 ☐ 絶対 90 度 0 分 0 秒

☒ 順向 ☐ 逆向 境界線No: 1

6-8-4 マウス入力で方位の角度を変更する

[操作手順]

- 1) 「マウス入力」コマンドを選択します。



- 2) 「点移動」コマンドを選択します。



- 3) 方位の端点を移動します。

6-8-5 方位を初期化する

[操作手順]

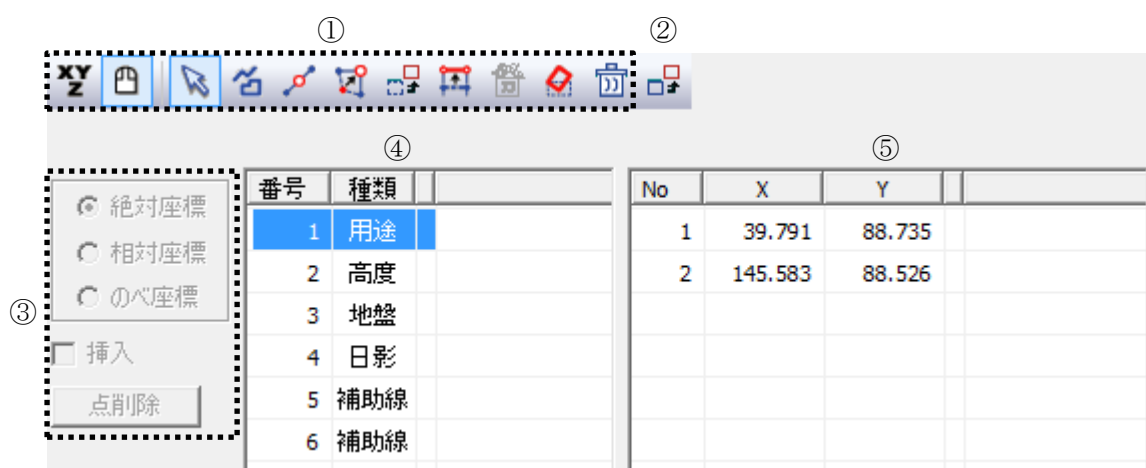
- 1) 「ブロック削除」コマンドを選択します。



6-9 分割線・補助線

○用途境等の分割線及び補助線を設定します。

名称	概要
分割線	「用途地域」、「高度地区」、「地盤面」または「日影規制」が複数存在する場合に、領域毎に本敷地を分割する線分です
補助線	表示及び出力が可能な線分です 発散ラインを手動指定モードで作成する場合に必要です



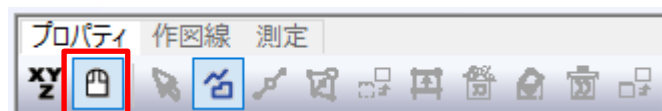
※選択したコマンドによって表示が異なります

番号	項目	概要
①	図形編集コマンド	各種図形編集コマンドです
②	コピー	選択した分割線・補助線をコピーします
③	数値入力コマンド	各種数値入力コマンドです
④	分割線・補助線リスト	分割線・補助線をリスト表示します
⑤	端点リスト	選択した分割線・補助線の端点の座標をリスト表示します

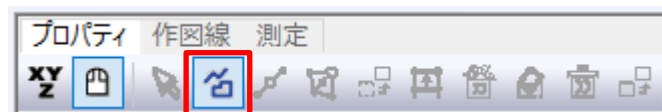
6-9-1 マウス入力による分割線・補助線の新規作成

[操作手順]

1) 「マウス入力」コマンドを選択します。



2) 「作成」コマンドを選択します。

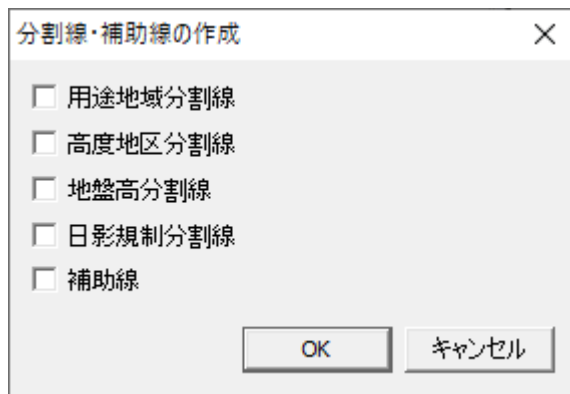


3) 平面図で、分割線または補助線となる線分を作成します。

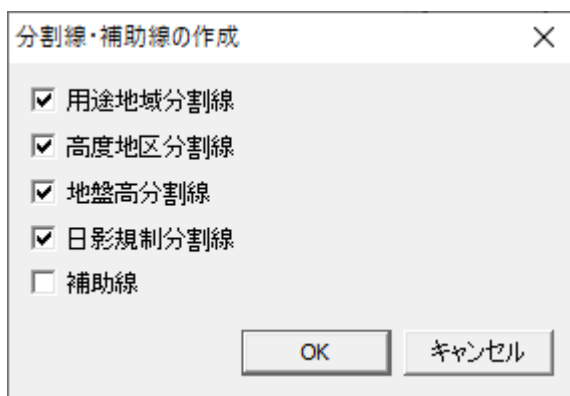
※日影規制分割線は、敷地外にも入力可能です。

※図形編集コマンドの操作手順は図形編集を参照して下さい。

- 4) 「分割線・補助線の作成」ダイアログが開きます。

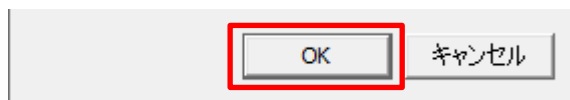


- 5) 線分の属性を選択します。

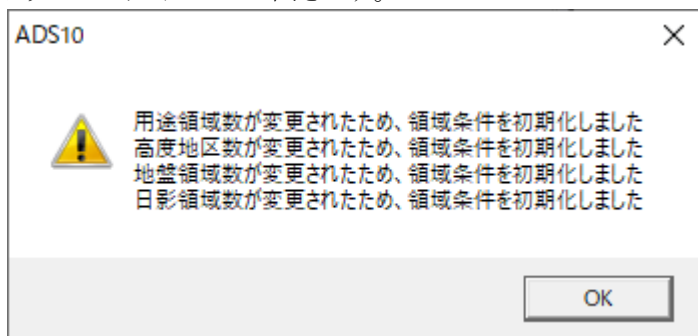


※複数選択が可能です。

- 6) 「OK」を選択します。



- 7) メッセージダイアログが開きます。



※補助線のみを選択した場合は表示されません。

- 8) 「OK」を選択します。

6-9-2 マウス入力による分割線・補助線の編集

[操作手順]

- 1) 「マウス入力」コマンドを選択します。



- 2) 「選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図または分割線・補助線リストより、編集を行う分割線・補助線を選択します。

- 4) 図形編集コマンドを選択します。



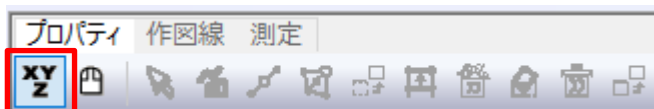
- 5) 平面図で分割線・補助線を編集します。

※図形編集コマンドの操作手順は図形編集を参照して下さい。

6-9-3 数値入力による分割線・補助線の新規作成

[操作手順]

- 1) 「数値入力」コマンドを選択します。



- 2) 「挿入」にチェックを入れます。

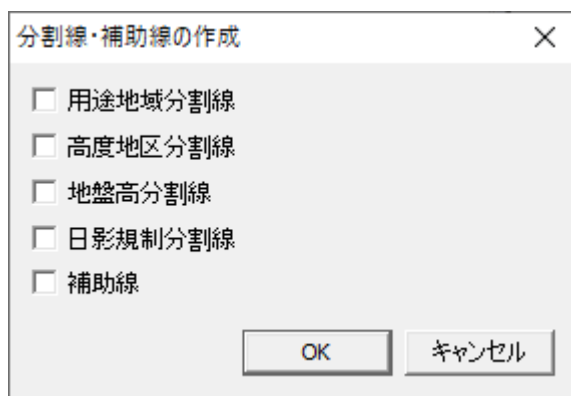
☒ 絶対座標 ☐ 相対座標 ☐ のべ座標 ☒ 挿入 点削除	<table border="1"><thead><tr><th>番号</th><th>種類</th><th></th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> <table border="1"><thead><tr><th>No</th><th>X</th><th>Y</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	番号	種類																													No	X	Y																											
番号	種類																																																												
No	X	Y																																																											

- 3) 「端点リスト」に端点の座標値を入力します。

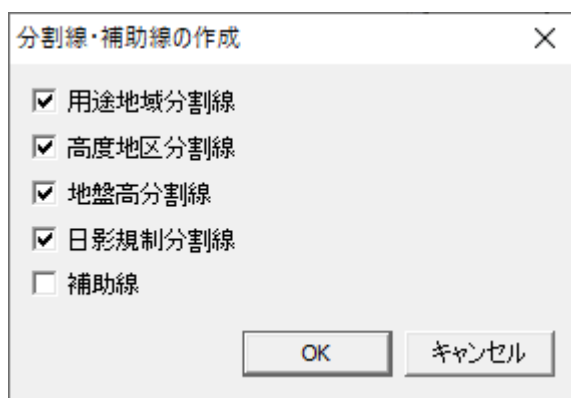
※数値入力の操作手順は図形編集を参照して下さい。

☐ 絶対座標 ☐ 相対座標 ☐ のべ座標 ☐ 挿入 点削除	<table border="1"><thead><tr><th>番号</th><th>種類</th><th></th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> <table border="1"><thead><tr><th>No</th><th>X</th><th>Y</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td>0.000</td><td>0.000</td></tr><tr><td></td><td>25.000</td><td>10.000</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	番号	種類																													No	X	Y		0.000	0.000		25.000	10.000																					
番号	種類																																																												
No	X	Y																																																											
	0.000	0.000																																																											
	25.000	10.000																																																											

- 4) 「挿入」のチェックを外します。
- 5) 「分割線・補助線の作成」ダイアログが開きます。



- 6) 線分の属性を選択します。

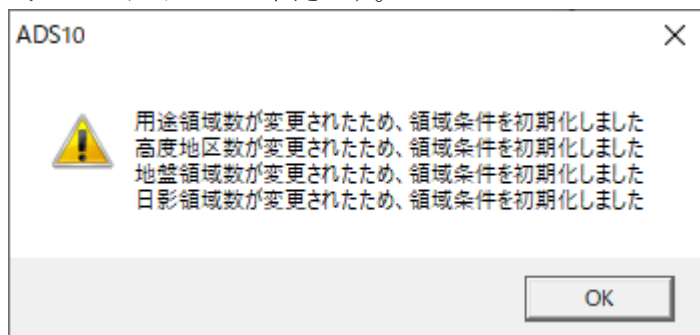


※複数選択が可能です。

- 7) 「OK」を選択します。



- 8) メッセージダイアログが開きます。



※補助線のみを選択した場合は表示されません。

- 9) 「OK」を選択します。

6-9-4 数値入力による分割線・補助線の編集

[操作手順]

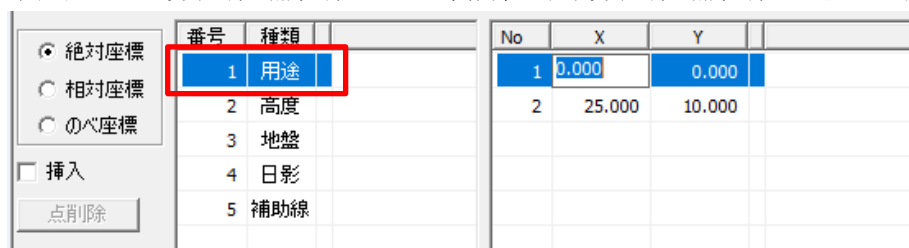
- 1) 「数値入力」コマンドを選択します。



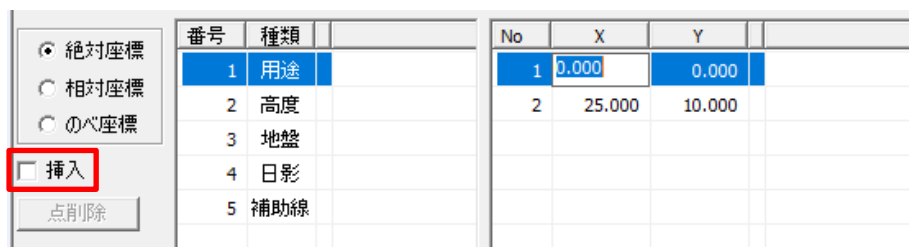
- 2) 「選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図または分割線・補助線リストより、編集を行う分割線・補助線を選択します。



- 4) 「挿入」のチェックを外します。



- 5) 「端点リスト」の端点の座標値を編集します。
※数値入力の操作手順は図形編集を参照して下さい。

6-9-5 分割線・補助線をコピーする

[操作手順]

- 1) 「選択」コマンドを選択します。

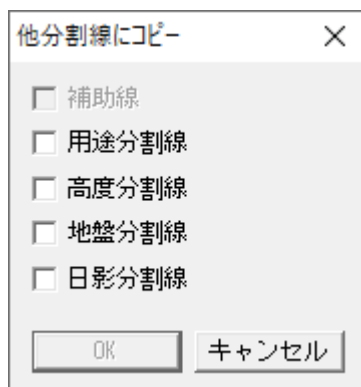


- 2) 平面図または分割線・補助線リストより、コピーを行う分割線・補助線を選択します。

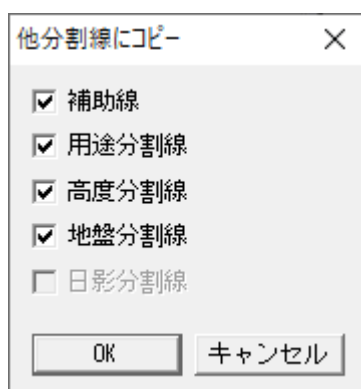
- 3) 「コピー」コマンドを選択します。



- 4) 「他分割線にコピー」ダイアログが開きます。



- 5) 線分の属性を指定します。

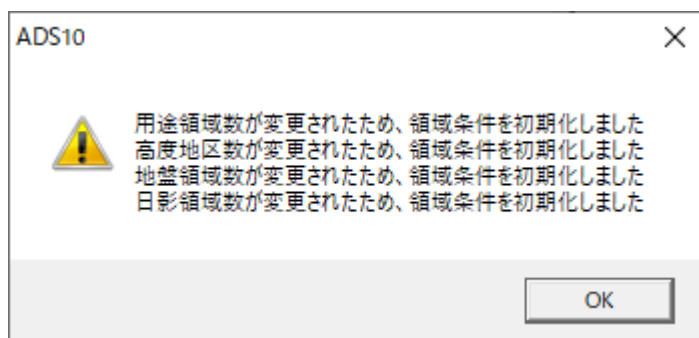


※複数選択が可能です。

- 6) 「OK」を選択します。



- 7) メッセージダイアログが開きます。



※補助線のみを選択した場合は表示されません。

- 8) 「OK」を選択します。

6-9-6 分割線・補助線を削除する

[操作手順]

- 1) 「選択」コマンドを選択します。



- 2) 平面図または分割線・補助線リストより、削除する分割線・補助線を選択します。
- 3) 「ブロック削除」コマンドを選択します。



6-9-7 用途地域・高度地区・地盤面の分割線を入力する場合の注意事項

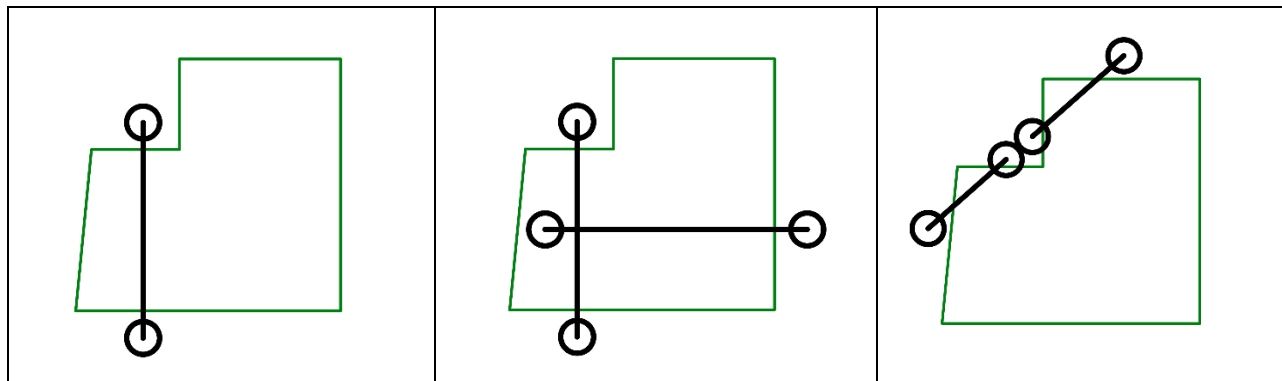
○用途地域・高度地区・地盤面の分割線は、本敷地内が分割対象範囲です。本敷地外の分割はできません。

○線分の始点と終点を本敷地の外側とする必要があります。

○1 分割線につき、1 の領域分割のみです。

※本敷地端点と分割線端点が同一点とならないようにします。適切に分割出来ない場合があります。

・正常な分割線



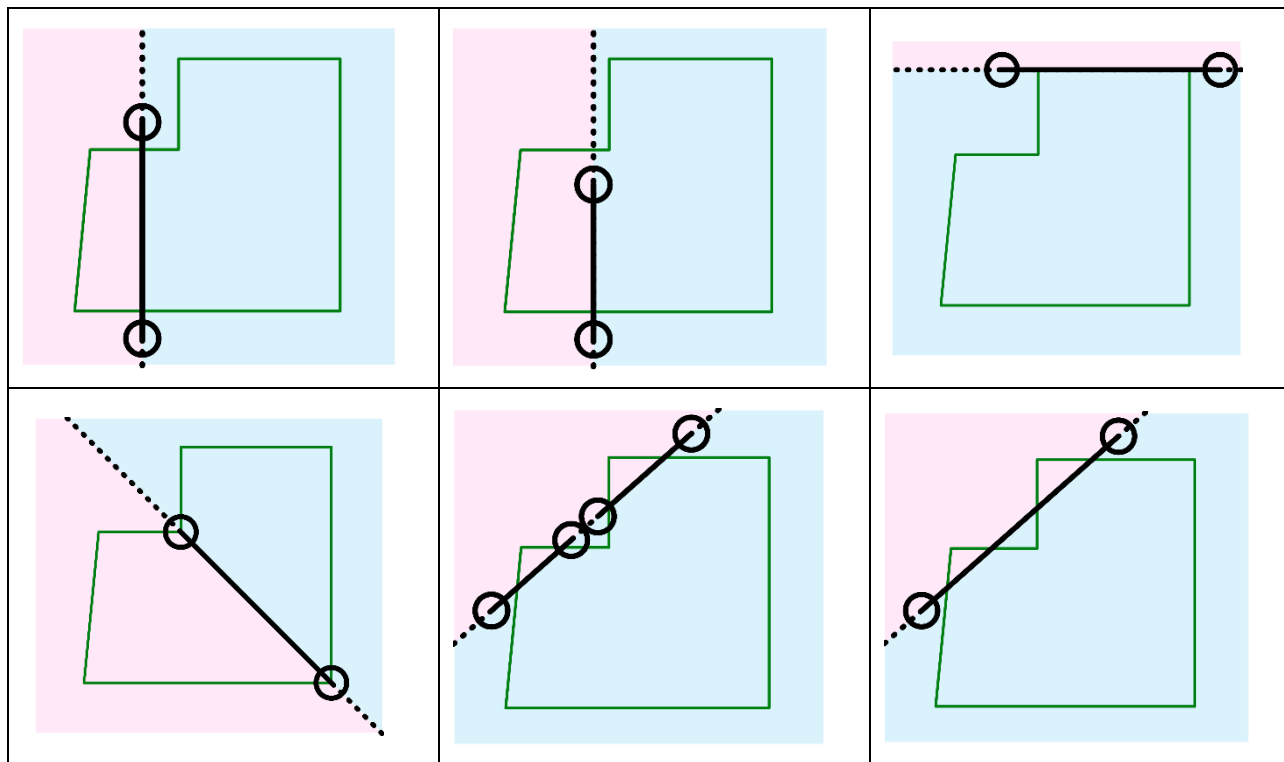
・不正な分割線

分割線の端点が敷地内	分割線が交差していない	2 度本敷地を分割している
分割線と敷地境界線が重複	分割線端点と本敷地端点が重複	

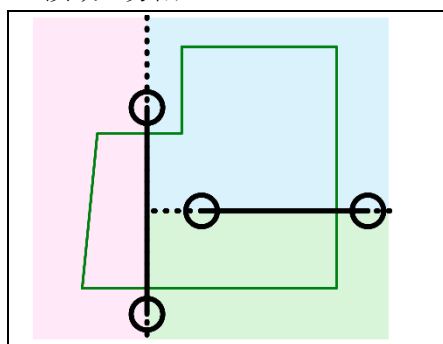
6-9-8 日影規制の分割線を入力する場合の注意事項

- 日影規制の分割線は、「与条件設定/計算範囲」の範囲が分割対象範囲です。
- 入力した分割線は、計算範囲まで延長して認識します。
- 途中で日影規制分割線の交点がある場合、交点までとなります。

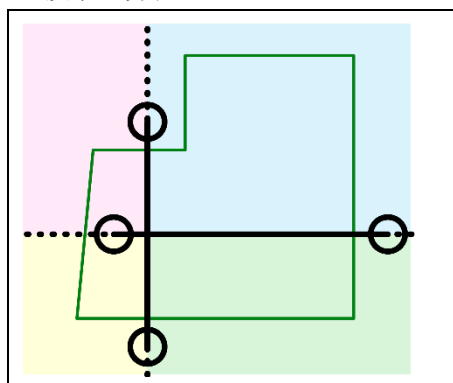
・2 領域に分割



・3 領域に分割



・4 領域に分割



6-10 境界線条件

○境界線の条件の設定を行います。

○デフォルトは全ての境界線の種類が隣地境界線です。

⑭ グループを設定		⑮ 条件設定										
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
No	種類	道路幅 1	道路幅 2	採用幅種別	採用道路幅員	道路高 1	道路高 2	隣地高	特定道路	緩和幅 1	緩和幅 2	グループ
1	道路	5.000	5.000	最小幅員	5.000	-0.200	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000	グループ無
2	隅切											グループ無
3	道路	8.000	9.000	最小幅員	8.000	0.000	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000	グループ無
4	隣地							0.000		0.000	0.000	グループ無
5	隣地							0.000		0.000	0.000	グループ無

番号	項目	概要
①	No	境界線の番号を表示します 本敷地の敷地境界線入力順に自動で割り振られます
②	種類	境界線の種類を選択します
		道路 境界線を道路境界線に設定します
		隣地 境界線を隣地境界線に設定します
		隅切 境界線を隅切辺に設定します 両端が道路境界線の場合に選択できます
③	道路幅 1	境界線の始点側の前面道路の幅員を入力します
④	道路幅 2	境界線の終点側の前面道路の幅員を入力します
⑤	採用幅種別	道路幅員の採用幅の種別を選択します
		最小幅員 道路幅 1、2 の小さい方の幅員を採用します
		任意 任意の道路幅を採用します
⑥	採用道路幅員	採用道路幅員を設定します 「採用道路種別」が「任意」の場合、採用道路幅員を入力します
⑦	道路高 1	境界線の始点側の前面道路の中心の高さを入力します
⑧	道路高 2	境界線の終点側の前面道路の中心の高さを入力します
⑨	隣地高	隣地高さを入力します
		道路境界線の場合 北側高さ制限及び高度斜線制限が適用される場合に、北側の隣地または前面道路の反対側の隣接地の地盤面の高さを入力します(令 135 条の 4 第 1 項第 2 号)
		隣地境界線の場合 隣地高さ制限、北側高さ制限及び高度斜線制限が適用される場合に、隣地の地盤面の高さを入力します(令 135 条の 3 第 1 項第 2 号)
⑩	特定道路	敷地に対して容積緩和を受ける特定道路がある場合に、特定道路までの接道距離を入力します(法 52 条第 9 項第 1 号)
⑪	緩和幅 1	道路高さ制限及び隣地高さ制限の緩和対象となる公園等の幅員を入力します(令 134 条第 1 項、令 135 条の 3 第 1 項第 1 号)
⑫	緩和幅 2	北側高さ制限及び高度斜線制限の緩和対象となる水面等の幅員を入力します(令 135 条第 1 項第 1 号)

※緩和幅 1、2 は、北側隣地に水面がある場合などに重複設定を要することがあります

番号	項目	概要
⑬	グループ	後退距離を算定する際の境界線のグループ設定を個別に行います
⑭	グループを設定	「条件設定」で設定された内容で自動グループ設定を行います。
⑮	条件設定	「グループを設定」を行う際の条件を設定します。

6-10-1 道路幅について

○本システムの道路幅は、道路境界線端点から道路境界線の反対側の境界線に垂直な水平距離です。

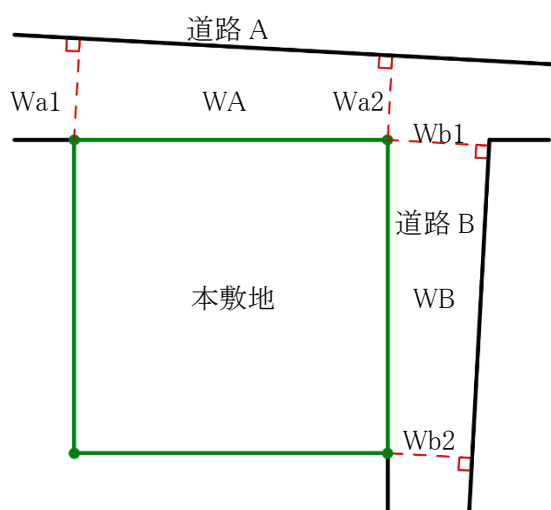
道路種別	図
平行道路	
異幅道路	

6-10-2 採用道路幅員について

○最大の採用道路幅員を、法 52 条第 2 項における容積率の算定の前面道路の幅員として採用します。

○前面道路が 2 以上ある場合、採用道路幅員を令 132 条における前面道路の幅員として採用します。

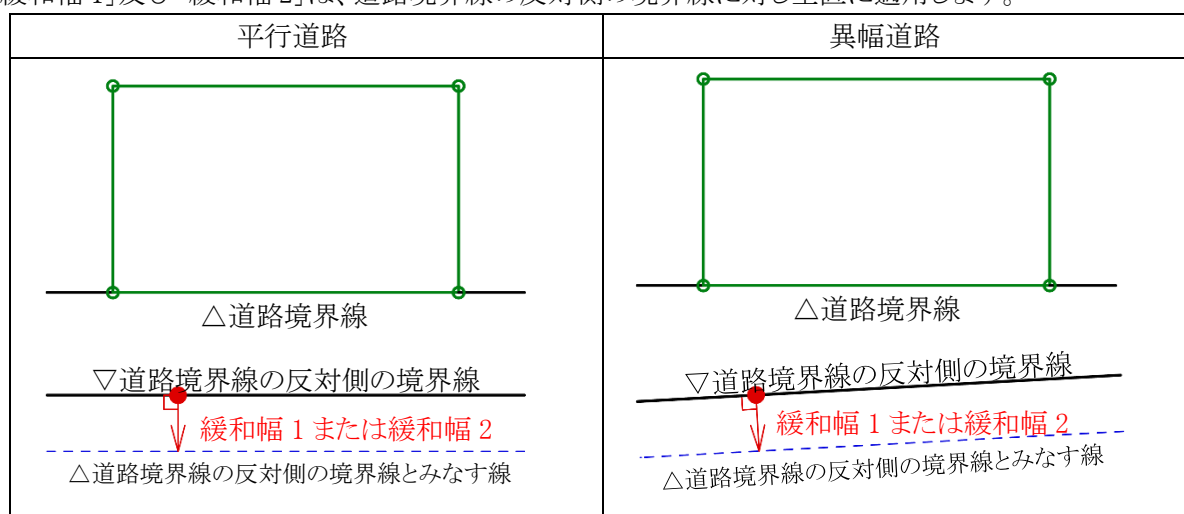
6-10-2-1 令 132 条の適用例



道路	道路幅 1	道路幅 2	採用道 路幅員
道路 A	Wa1	Wa2	WA
道路 B	Wb1	Wb2	WB
採用道路幅員 の関係		幅員の最大な 前面道路	
WA > WB		道路 A	
WA = WB		令 132 条の適用なし	
WA < WB		道路 B	

6-10-3 道路に対する緩和幅の適用について

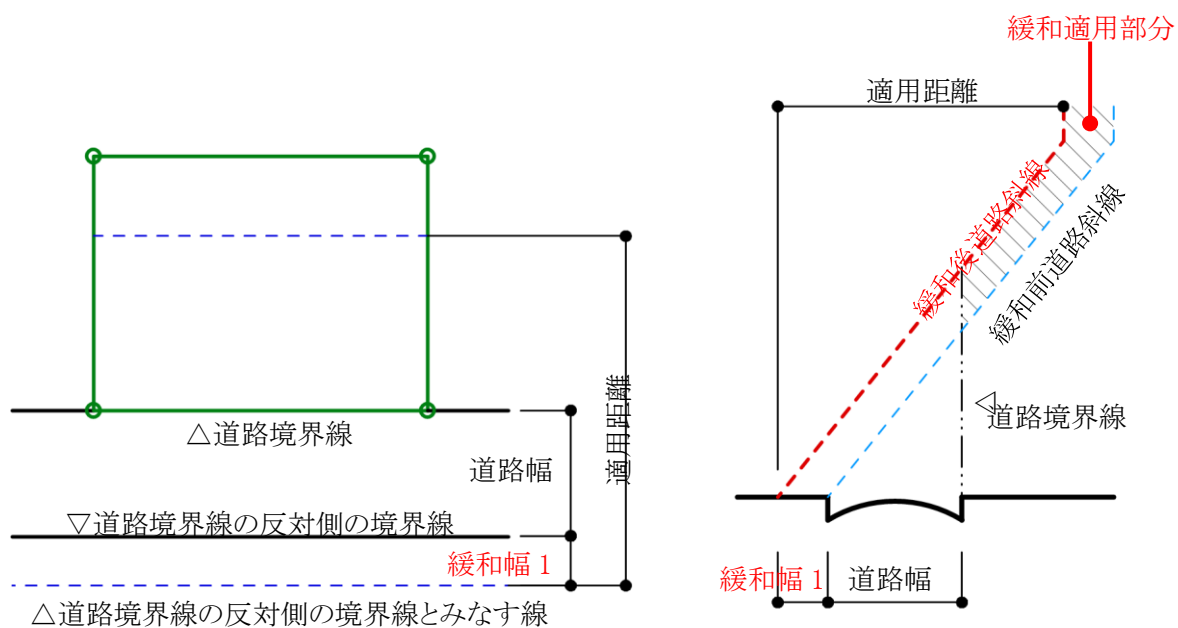
○「緩和幅 1」及び「緩和幅 2」は、道路境界線の反対側の境界線に対し垂直に適用します。



6-10-4 緩和幅による各斜線制限の緩和

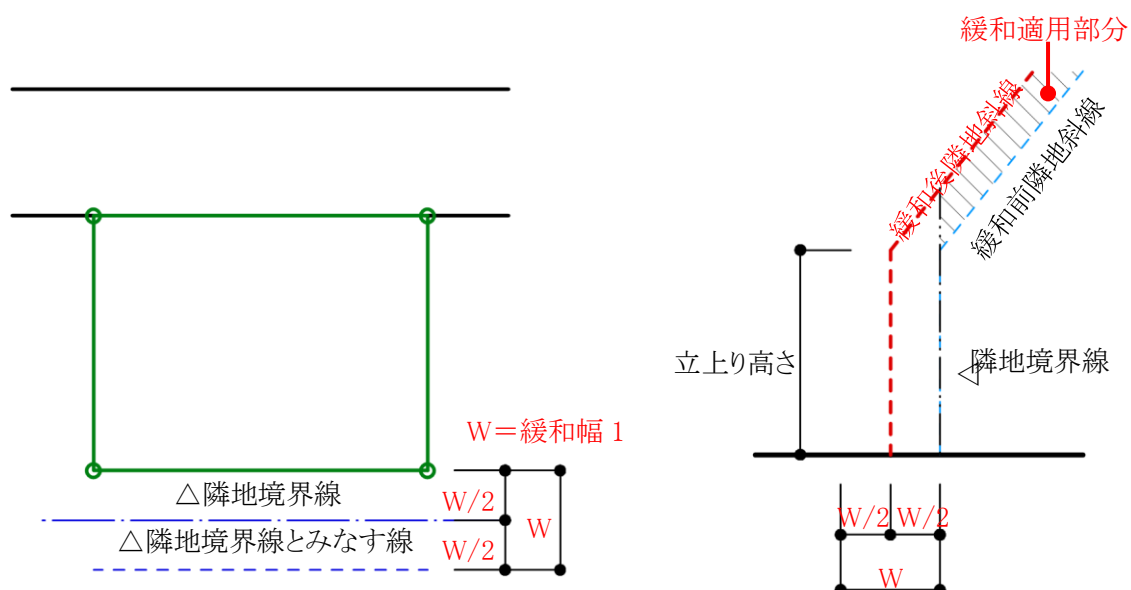
6-10-4-1 道路斜線制限の緩和

○令 134 条第 1 項の規定による緩和を、「緩和幅 1」で設定した数値を基に自動的に道路斜線制限に適用します。



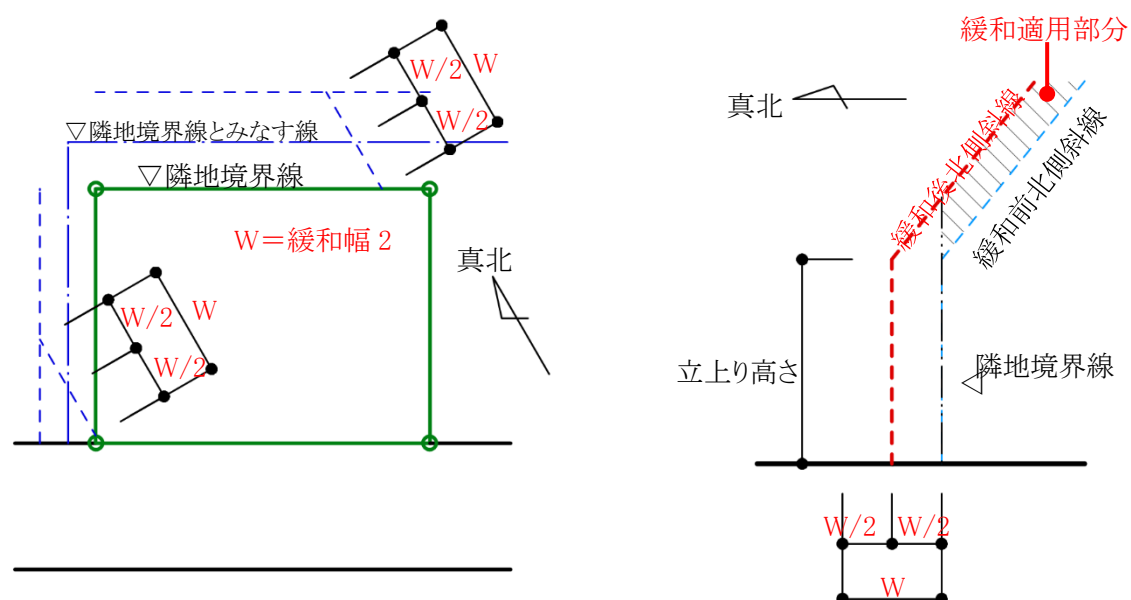
6-10-4-2 隣地斜線制限の緩和

○令 135 条の 3 第 1 項第 1 号の規定による緩和を、「緩和幅 1」で設定した数値を基に自動的に隣地斜線制限に適用します。



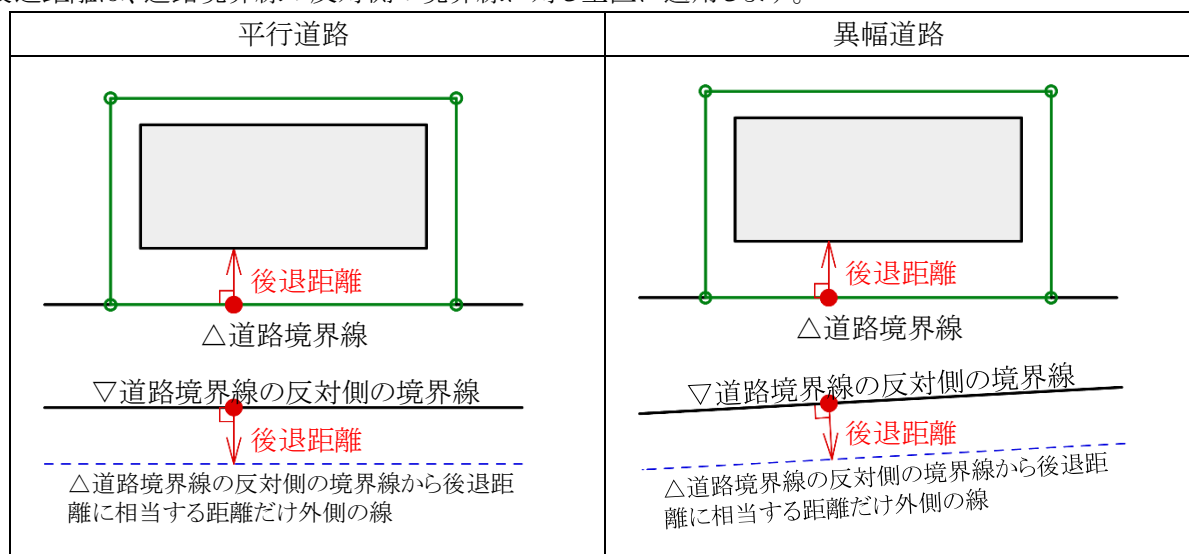
6-10-4-3 北側斜線制限の緩和

○令 135 条の 4 第 1 項第 1 号の規定による緩和を、「緩和幅 2」で設定した数値を基に自動的に北側斜線制限に適用します。



6-10-5 道路に対する後退距離の適用について

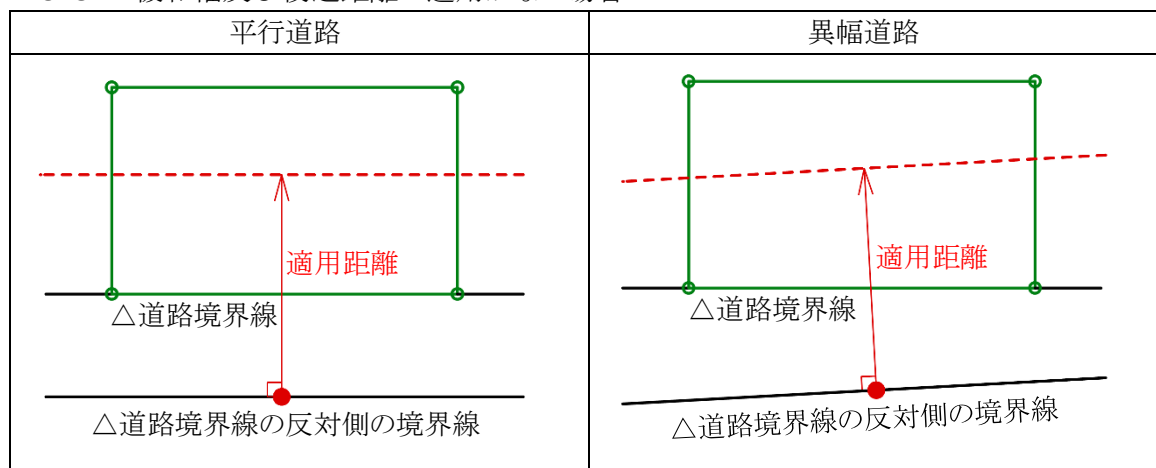
○後退距離は、道路境界線の反対側の境界線に対し垂直に適用します。



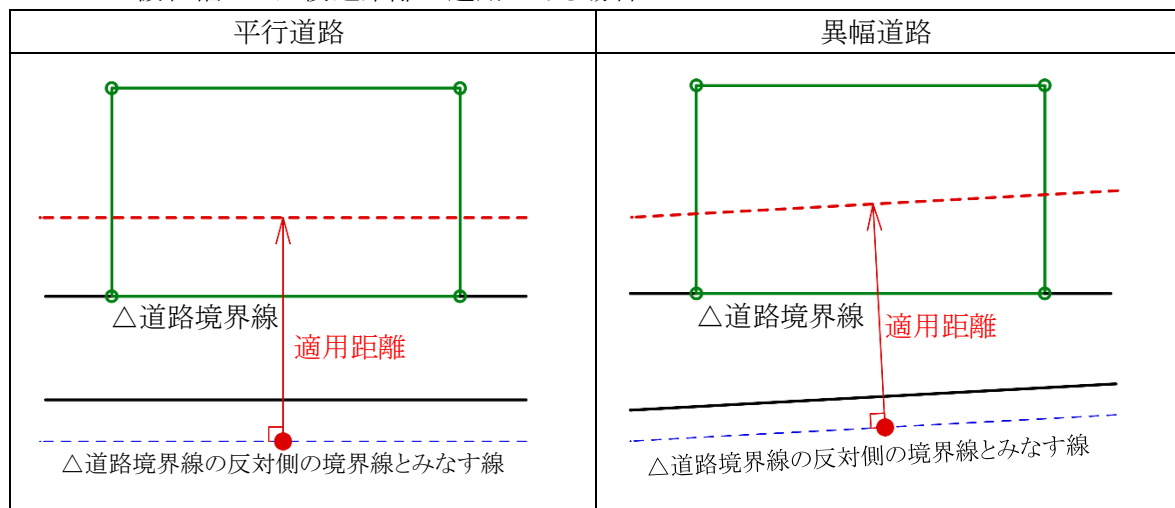
6-10-6 道路斜線適用距離の適用について

○法別表第3(は)欄に規定する距離(適用距離)の範囲は下図の通りです。

6-10-6-1 緩和幅及び後退距離の適用がない場合



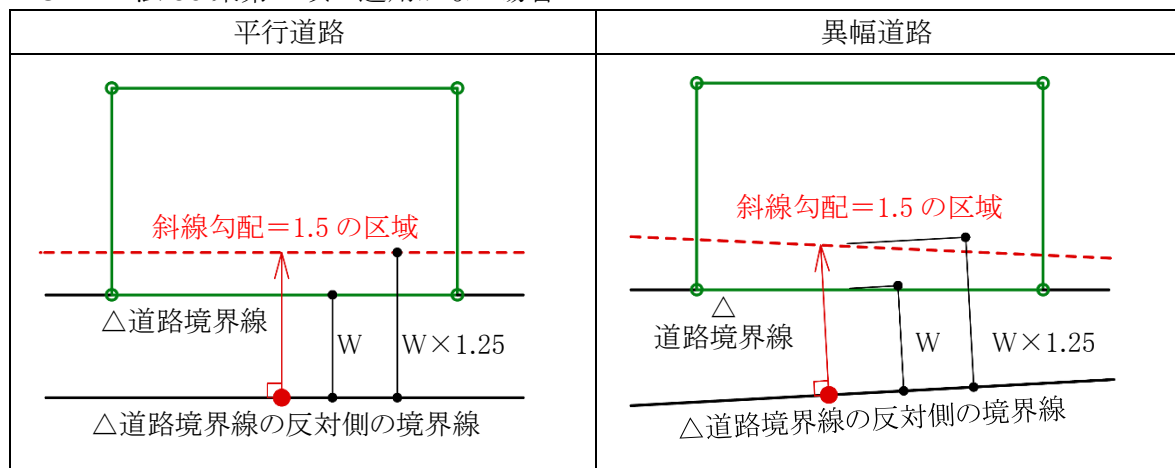
6-10-6-2 緩和幅または後退距離の適用がある場合



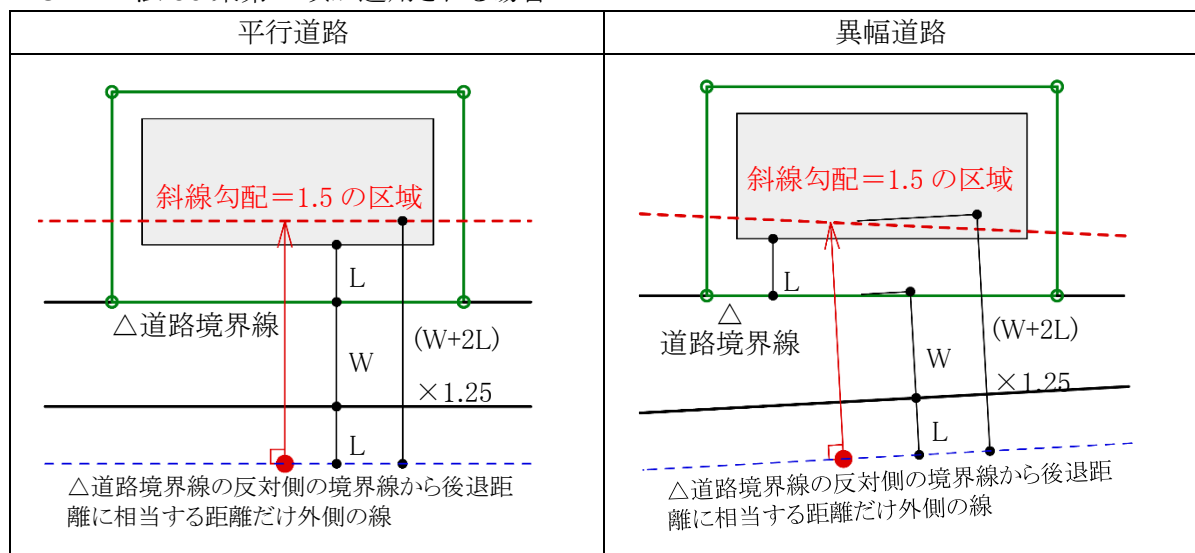
6-10-7 法 56 条第 3 項の適用について

○法 56 条第 3 項の区域は下図の通りです。

6-10-7-1 法 56 条第 4 項の適用がない場合



6-10-7-2 法 56 条第 4 項が適用される場合

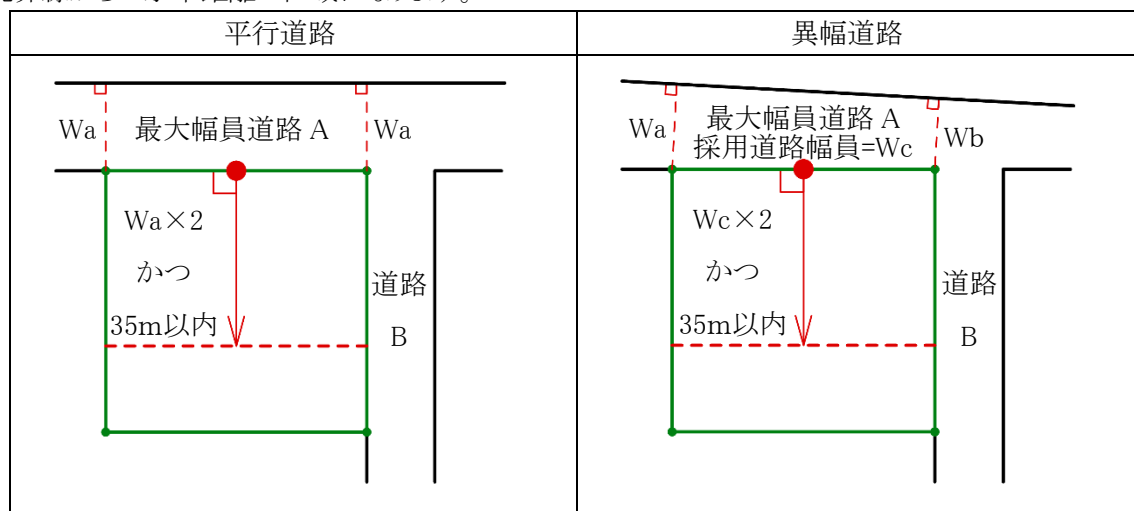


6-10-8 令 132 条第 1 項の適用について

○前面道路の幅員は採用道路幅員を適用します。

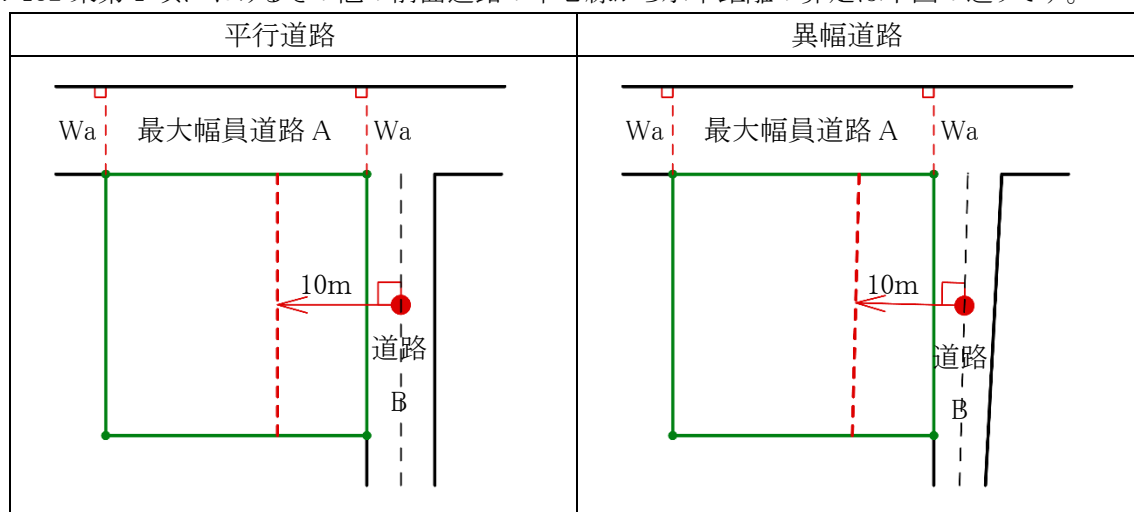
6-10-8-1 2A かつ 35m の区域

○前面道路の幅員の 2 倍以内で、かつ、35m 以内の区域は、平行道路または異幅道路を問わず、当該道路境界線からの水平距離の区域になります。



6-10-8-2 前面道路の中心線から 10m の区域

○令 132 条第 1 項におけるその他の前面道路の中心線から水平距離の算定は下図の通りです。



6-10-9 道路高について

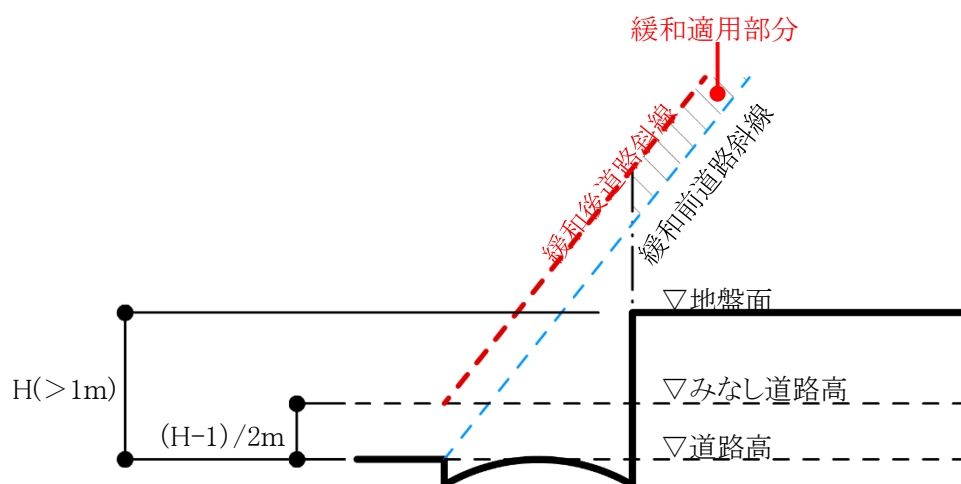
○本システムの道路高は、道路境界線端点から道路中心線に垂直な線を降ろした交点の高さです。

道路種別	図
平行道路	
異幅道路	

6-10-10 高低差が著しい場合の緩和

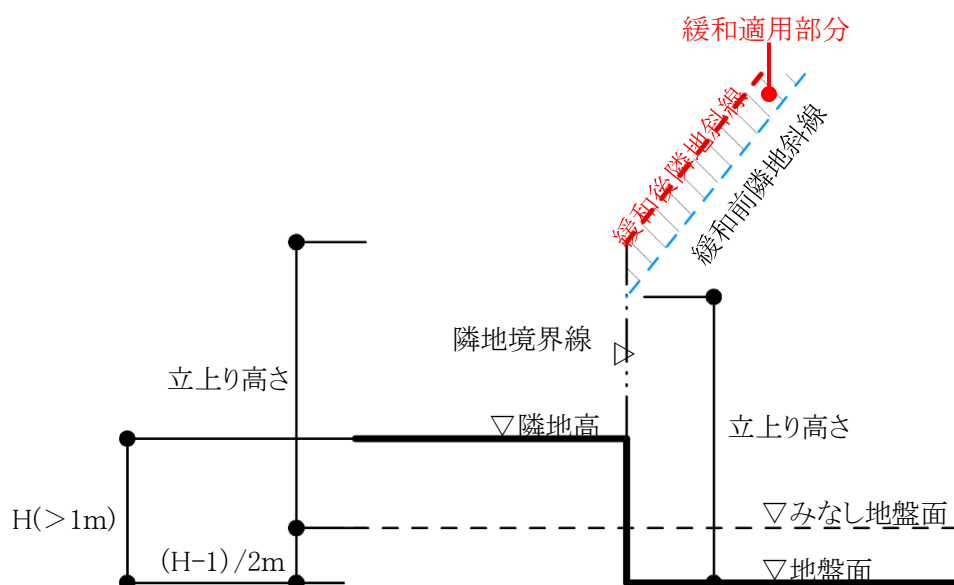
6-10-10-1 道路斜線制限の緩和

○与条件設定/地盤面で設定した「地盤面の高さ」が「道路高」より1m以上高い場合、令 135 条の 2 第 1 項の規定による緩和を、自動的に道路斜線制限に適用します。



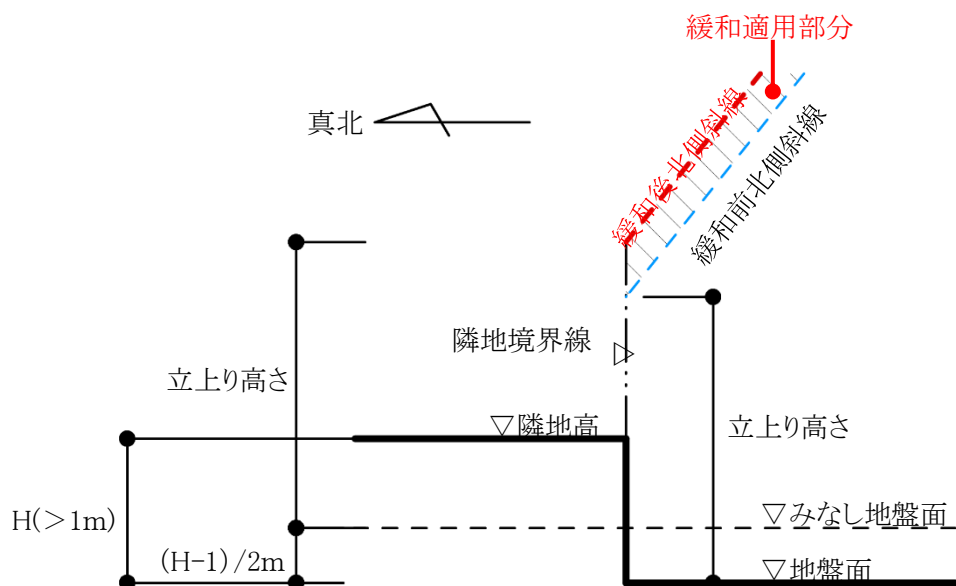
6-10-10-2 隣地斜線制限の緩和

○与条件設定/地盤面で設定した「地盤面の高さ」が「隣地高」より1m以上低い場合、令135条の3第1項第二号の規定による緩和を、自動的に隣地斜線制限に適用します。



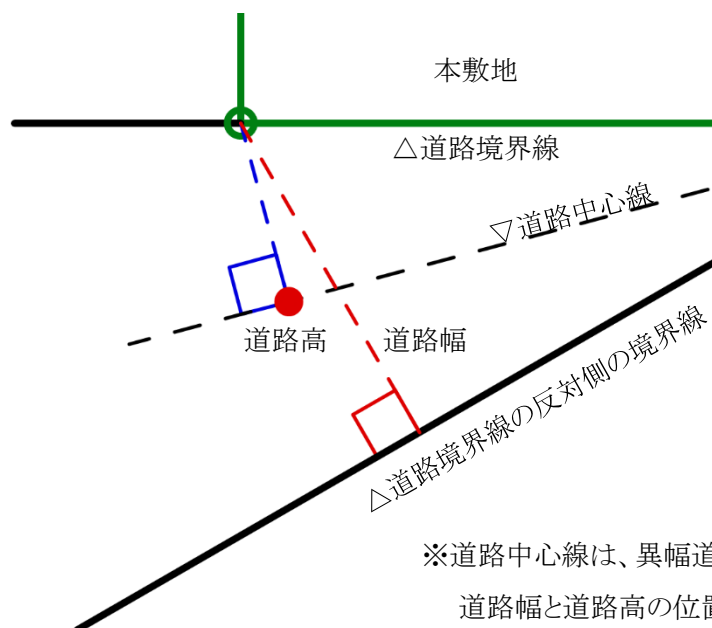
6-10-10-3 北側斜線制限の緩和

○与条件設定/地盤面で設定した「地盤面の高さ」が「隣地高」より1m以上低い場合、令135条の4第1項第二号の規定による緩和を、自動的に隣地斜線制限に適用します。



6-10-11 異幅道路の道路幅と道路高の関係

○異幅道路の場合、道路境界線端点から道路境界線の反対側の境界線に垂直な線と、道路境界線端点から道路中心線に垂直な線は一致しません。



6-10-12 令 135 条の 12 第 1 項第一号の適用について

○「道路幅」を設定すると、令 135 条の 12 第 1 項第一号を自動的に適用し、敷地境界線を緩和します。

○「緩和幅 1」または「緩和幅 2」を設定した場合に、令 135 条の 12 第 1 項第一号は自動的に適用されません。与条件設定/みなし敷地メニューで手動設定をする必要があります。

6-10-13 隅切について

○2 辺の道路境界線に挟まれた敷地辺を隅切辺として設定します。

○隅切辺は道路に面するものとして扱いますが、隅切辺を構成する 2 つの道路からのみ道路斜線制限を適用し、隅切辺からの道路斜線制限の適用はないものとして扱います。

○北側斜線制限及び、起算点が道路の反対側又は中心の高度斜線制限についても、隅切辺からの斜線制限の適用はないものとして扱います。

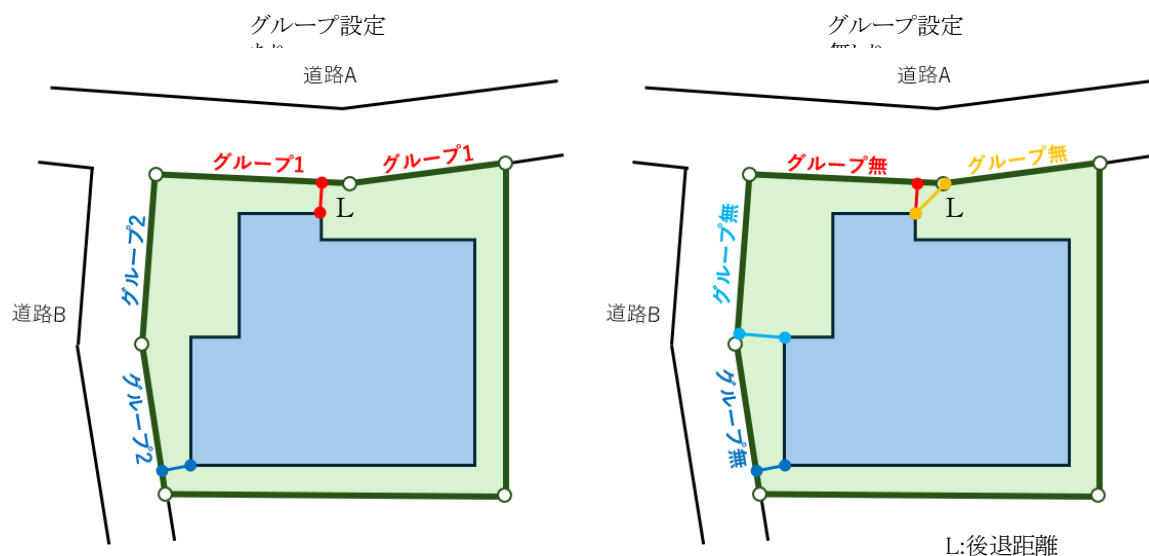
○令 144 条 4 第 1 項第 2 号に規定される隅切の場合や、その道路幅員が指定されている場合は、隅切辺ではなく、道路境界線として設定します。この場合、隅切辺が令 132 条に規定される「幅員の最大な前面道路」となる場合がありますので注意して下さい。

6-10-14 グループ

- 敷地境界線が屈曲している場合等に建物後退距離を判定するための設定を行います。
- グループ設定されている境界線の後退距離の狭い方が後退距離として考慮されます。
- グループ設定されていない(グループ無)場合は、境界線毎の後退距離で算定されます。
- 本設定は、斜線計算時の設定となります。(天空率計算は天空率解析にて行っています)
- 設定内容は、プロパティ欄の「グループ」で確認します。

グループを設定		条件設定										
No	種類	道路幅1	道路幅2	採用幅種別	採用道路幅員	道路高1	道路高2	隣地高	特定道路	緩和幅1	緩和幅2	グループ
1	隣地							0.000		0.000	0.000	グループ無
2	道路	6.000	6.000	最小幅員	6.000	0.000	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000	グループ1
3	道路	6.000	6.000	最小幅員	6.000	0.000	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000	グループ1
4	道路	4.000	4.000	最小幅員	4.000	0.000	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000	グループ2
5	道路	4.000	4.000	最小幅員	4.000	0.000	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000	グループ2
6	隣地							0.000		0.000	0.000	グループ無

グループ	概要
グループ無	各境界線単位で後退距離を判定します。
グループ 1～*	グループ化された境界線の一番狭い後退距離を採用します。



6-10-14-1 グループを自動設定する

○「条件設定」で設定されている条件で、自動的にグループ化します。

[操作手順]

- 1) 「グループを設定」を選択します。



- 2) グループ欄で設定内容を確認します。

グループを設定		条件設定										
No	種類	道路幅 1	道路幅 2	採用幅種別	採用道路幅員	道路高 1	道路高 2	隣地高	特定道路	緩和幅 1	緩和幅 2	グループ
1	隣地							0.000		0.000	0.000	グループ無
2	道路	6.000	6.000	最小幅員	6.000	0.000	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000	グループ1
3	道路	6.000	6.000	最小幅員	6.000	0.000	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000	グループ1
4	道路	4.000	4.000	最小幅員	4.000	0.000	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000	グループ2
5	道路	4.000	4.000	最小幅員	4.000	0.000	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000	グループ2
6	隣地							0.000		0.000	0.000	グループ無

6-10-14-2 グループを手動設定する

○「条件設定」で設定されている条件で、適切なグループが設定されない場合等に手動でグループを設定します。

[操作手順]

- 1) 「グループ」プルダウンメニューより、グループ番号を選択します。



- 2) プロパティ欄で設定内容を確認します。

6-10-15 条件設定

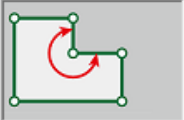
- 斜線計算及び天空率算定領域判定時の入隅及びグループ判定角度の設定を行います。
- この設定は、「グループを設定」時及び天空率解析/簡易設定/方式選択時に反映されます。

条件設定
×

① 道路境界線

入隅判定角度

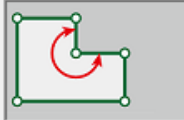
260.000

 °以上


隣地境界線

入隅判定角度

190.000

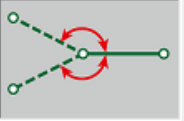
 °以上


② グループ判定角度

±

120.000

 °以上

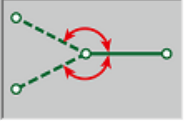


グループ判定角度

±

170.000

 °以上



③ ☐ 入隅でグループを分ける

☒ 入隅でグループを分ける

初期値に戻す

OK

キャンセル

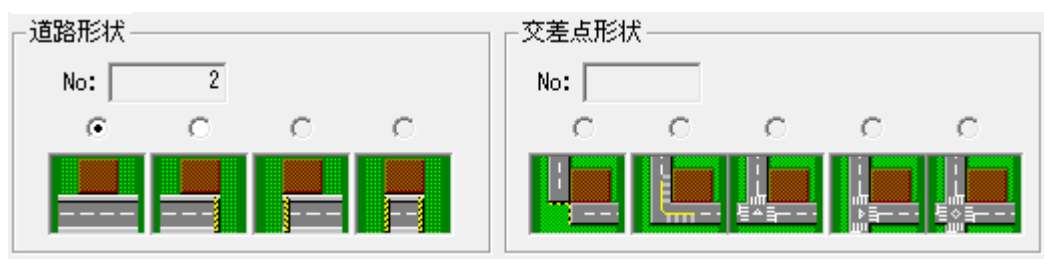
番号	項目名	概要
①	入隅判定角度	入隅と判定する敷地内角の角度を指定します 道路境界線及び隣地境界線でそれぞれ設定できます
②	グループ判定角度	自動でグループ化する敷地内角の角度を指定します 道路境界線及び隣地境界線でそれぞれ設定できます
③	入隅でグループを分ける	チェックを入れると、入隅部分でグループ分けを行います

6-11 道路・交差点

○境界線条件で設定した道路の、接道状況の設定を行います。

○道路斜線計算及び天空率算定に反映されます。

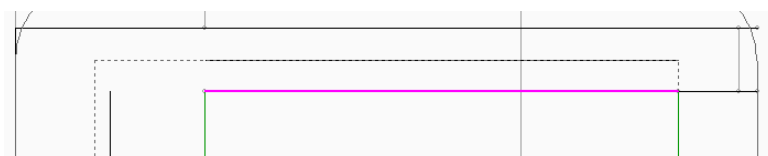
※本システムにおける道路形状及び交差点形状は道路の延長方向の設定であり、実際の道路形状及び交差点形状とは異なる場合があります。



6-11-1 道路形状を設定する

[操作手順]

- 1) 平面図より、道路境界線を選択します。

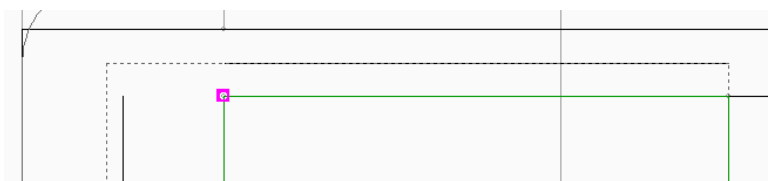


- 2) 道路形状を選択します。
※設定可能な項目のみ選択できます。

6-11-2 交差点形状を設定する

[操作手順]

- 1) 平面図より、道路境界線の交点または隅切り辺を選択します。

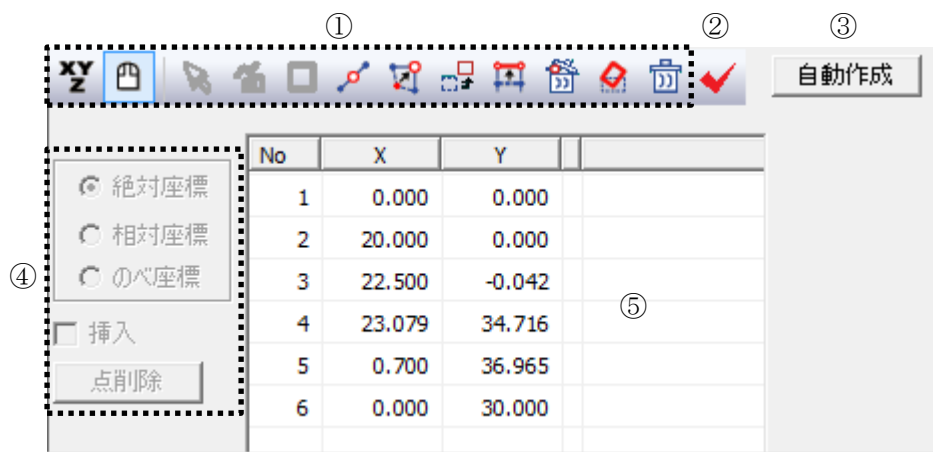


※両側が道路境界線の場合のみ交点を選択できます。

- 2) 交差点形状を選択します。
※設定可能な項目のみ選択できます。

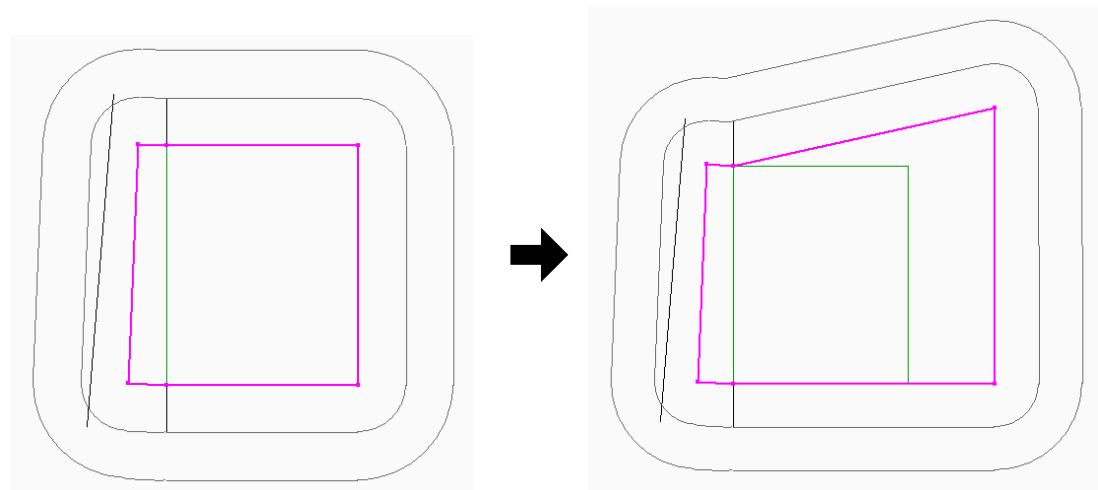
6-12 みなし敷地

- 日影規制ラインの元となるみなし敷地の任意設定を行います。
- 本システムでは、本敷地が道路に接する場合など、法 56 条の 2 第 3 項の規定により敷地としてみなされる敷地のことを「みなし敷地」と定義します。



※選択したコマンドによって表示が異なります。

番号	項目	概要
①	図形編集コマンド	各種図形編集コマンドです
②	図形チェック	エラー図形をチェックします
③	自動作成	みなし敷地を自動作成します
④	数値入力コマンド	各種数値入力コマンドです
⑤	端点リスト	端点の座標をリスト表示します



みなし敷地編集

みなし敷地編集

6-12-1 令 135 条の 12 第 1 項第一号による緩和の設定について

- 道路に接する敷地境界線の場合は境界線条件設定時に自動で適用されます。みなし敷地の編集は必要ありません。
- 水面、線路敷その他これらに類するものに接する敷地境界線の場合は、自動で適用されません。みなし敷地の編集を行います。

6-12-2 マウス入力によるみなし敷地の編集

[操作手順]

- 1) 「マウス入力」コマンドを選択します。



- 2) 図形編集コマンドを選択します。



- 3) 平面図で、みなし敷地を編集します。

※図形編集コマンドの操作手順は図形編集を参照して下さい。

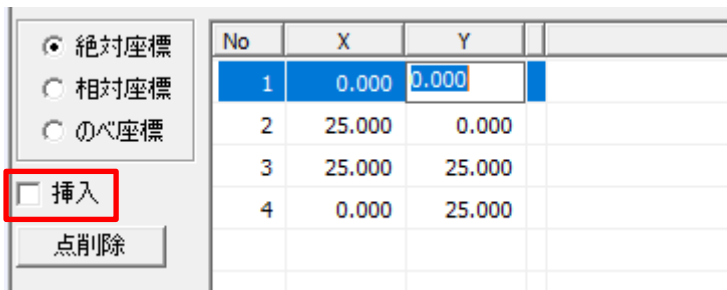
6-12-3 数値入力によるみなし敷地の編集

[操作手順]

- 1) 「数値入力」コマンドを選択します。



- 2) 「挿入」のチェックを外します。



- 3) 「端点リスト」の端点の座標値を編集します。

※数値入力の操作手順は図形編集を参照して下さい。

6-12-4 みなし敷地の初期化

[操作手順]

- 1) 「自動作成」を選択します。



6-12-5 「図形チェック」コマンド

○エラーメッセージが表示された場合に、エラーの原因を確認します。

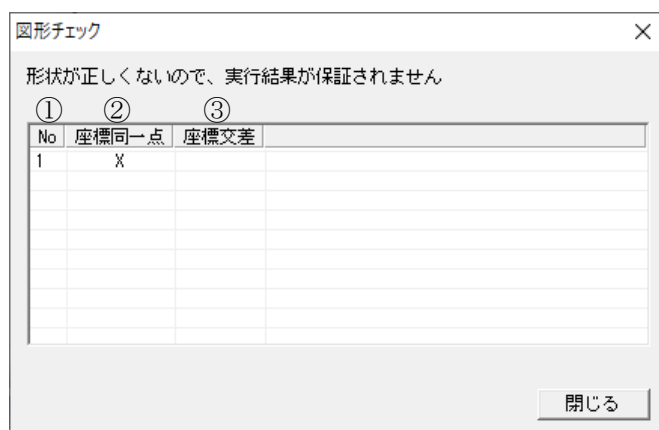
※エラーメッセージが表示された場合は必ず確認します。

[操作手順]

- 1) 「図形チェック」コマンドを選択します。



- 2) 「図形チェック」ダイアログが開きます



番号	項目	概要
①	No	エラーが発生している端点の No を表示します
②	座標同一点	2 以上の端点の座標が重複しています
③	座標交差	辺と辺が交差しています (8 の字図形)

- 3) エラー内容を確認します。

※「座標同一点」でエラーになったポイントは、「閉じる」ボタンを押した際に、自動的に重なったポイントのうち、どちらかが自動的に削除されます。

6-13 計算範囲

- 日影計算の計算範囲を設定します。
- 設定した範囲内にのみ、日影計算結果を表示します。
- 8時から16時の形状図を全て表示する場合は、建物最高高さの10倍程度の数値とします。

① 参照: 50 m ▼

② 50 m

番号	項目	概要
①	参照	計算範囲を選択します
②	計算範囲	計算範囲を表示します 「参照」で「ユーザー定義」を選択した場合、計算範囲を入力します



6-13-1 計算範囲を選択する

[操作手順]

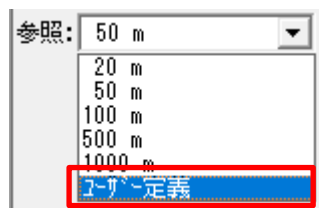
- 1) 「参照」プルダウンメニューより、計算範囲を選択します。

参照: 50 m ▼

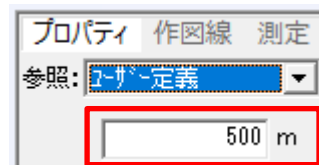
- 20 m
- 50 m
- 100 m
- 500 m
- 1000 m
- ユーザー定義

6-13-2 計算範囲を指定する

- 1) 「参照」プルダウンメニューより、「ユーザー定義」を選択します。



- 2) 「計算範囲」欄に計算範囲を入力します。



6-14 用途地域

- 用途地域・建蔽率・容積率等を設定します。
- 複数の用途地域等に分かれている場合は、「分割線・補助線」で予め領域を分割する必要があります。
- 本敷地外の用途地域は設定できません。

①

☒ 後退距離緩和を適用する

No	用途地域名	建蔽率	容積率	容積率低減係数	道路斜線勾配	隣地斜線勾配	隣地斜線高さ
1	近隣商業	80	300	0.600	1.50	2.50	31.000
2	準住居	60	150	0.400	1.25	1.25	20.000
②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨

絶対高さ計算	北側斜線計算	隣地斜線計算	道路斜線計算
✓	✓	✓	✓
✓	✓	✓	✓
⑩	⑪	⑫	⑬

番号	項目	概要
①	後退距離緩和を適用する	チェックを入れると、法 56 条第 3 項に対する法 56 条第 4 項を適用します 用途地域が一種中高層、二種中高層、一種住居、二種住居で道路幅員 12m 以上の場合、チェックボックスがアクティブになります
②	No	用途地域領域 No を表示します
③	用途地域名	用途地域を選択します(法 48 条各項)
④	建蔽率	法 53 条各項に定める建蔽率を入力します 同条第 3 項各号(防火地域内耐火建築物等、角地)に定める緩和が適用される場合、緩和後の数値を入力します
⑤	容積率	法 52 条第 1 項各号に定める容積率を入力します 同条第 2 項各号に定める低減及び同条第 9 項に定める緩和は考慮しない数値を入力します
⑥	容積率低減係数	法 52 条第 2 項各号に定める容積率低減係数です
⑦	道路斜線勾配	法 56 条第 2 項第 1 号に定める道路斜線勾配です
⑧	隣地斜線勾配	法 56 条第 1 項第 2 号に定める隣地斜線勾配です
⑨	隣地斜線高さ	法 56 条第 1 項第 2 号に定める隣地斜線立上り高さです
⑩	絶対高さ計算	チェックを入れると、絶対高さ計算を実行します
⑪	北側斜線計算	チェックを入れると、北側斜線計算を実行します
⑫	隣地斜線計算	チェックを入れると、隣地斜線計算を実行します
⑬	道路斜線計算	チェックを入れると、道路斜線計算を実行します

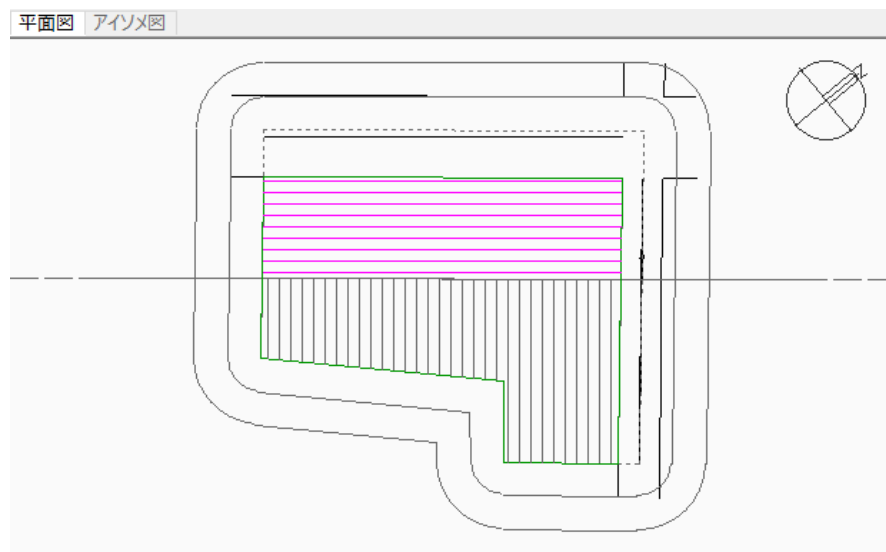
※⑥～⑨の項目は用途地域に応じて、数値が自動的に割り当てられます。

異なる場合は、直接数値を入力してください。

6-14-1 用途地域を設定する

[操作手順]

- 1) 平面図またはプロパティウィンドウより、設定対象の領域を選択します。



※選択した領域はマゼンタのハッチングで表示します。

- 2) 各種設定をします。

6-14-2 採用建蔽率と採用容積率について

○採用建蔽率及び採用容積率は、与条件設定/敷地面積表より確認することができます。

6-14-2-1 法 53 条第 2 項の適用について

○2 以上の用途地域を設定した場合、「建蔽率」欄に設定された数値を基に、法 53 条第 2 項の規定による加重平均値を自動計算し、採用建蔽率とします。

6-14-2-2 法 52 条第 7 項の適用について

○2 以上の用途地域を設定した場合、「容積率」欄に設定された数値、法 52 条第 2 項各号に定める低減後の容積率及び法 52 条第 9 項に定める緩和後の容積率を基に、法 52 条第 7 項の規定による加重平均値を自動計算し、採用容積率とします。

6-15 高度地区

○都市計画上の高度地区を設定します。

○敷地に複数の指定がある場合や、敷地の一部だけに指定がある場合には、「分割線・補助線」で予め分割する必要があります。

※天空率による緩和は適用されません。

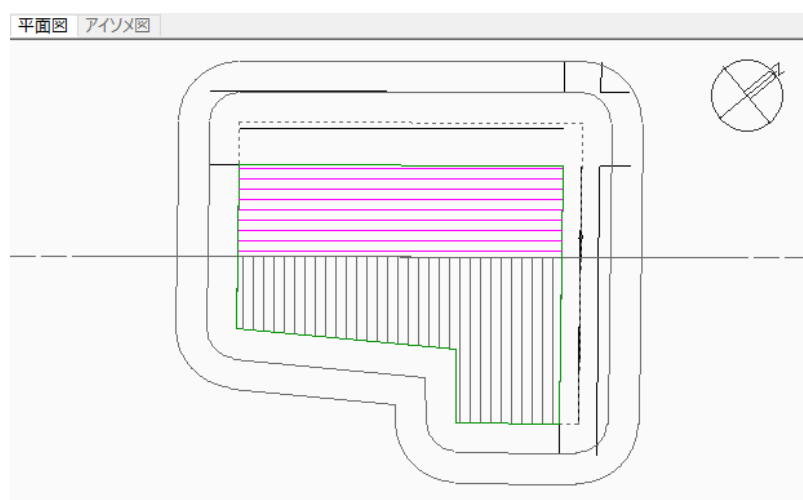


番号	項目	概要
①	環境設定を起動	環境設定プログラムを起動します
②	地域リスト	環境設定プログラムに登録されている地域を表示します 「表示」のチェックを外すと、当該地域の高度地区設定を「地域」プルダウンメニューに表示しません
③	No	高度地区領域 No を表示します
④	地域	環境設定プログラムに登録されている高度地区を選択します
⑤	高度地区設定	選択した高度地区の設定を表示します
⑥	高度地区設定凡例	高度地区設定の凡例です

6-15-1 高度地区を設定する

[操作手順]

1) 設定対象の領域を平面図またはプロパティウィンドウ内で選択します。



※選択した領域はマゼンタのハッチングで表示します。

2) 「地域」プルダウンメニューより、該当する高度地区を選択します。

6-15-2 該当する高度地区が「地域」プルダウンメニューにない場合

○プルダウンメニューに該当する高度地区名が無い場合、環境設定プログラムで高度地区を登録します。

○登録方法は「ADS 環境設定リファレンスマニュアル」を参照して下さい。

※プルダウンメニューに「無指定」以外表示されない場合は「ADS_Series_環境設定」プログラムがインストールされていません。一度、本システムを終了してから「ADS_Series_環境設定」プログラムをインストールして下さい。

6-16 地盤面

○地盤面の高さ(令2条第2項)を設定します。

○地盤面の高さは、斜線計算・天空率計算に反映します。

○敷地に3m以上の高低差がある場合または複数の地盤面がある場合は、「分割線・補助線」で予め領域を分割する必要があります。

※敷地の高低差が3m以内で複数の地盤面がある場合の取り扱いは審査機関に必ず確認して下さい。

※日影規制の平均地盤面高は「日影規制」メニューで設定します。

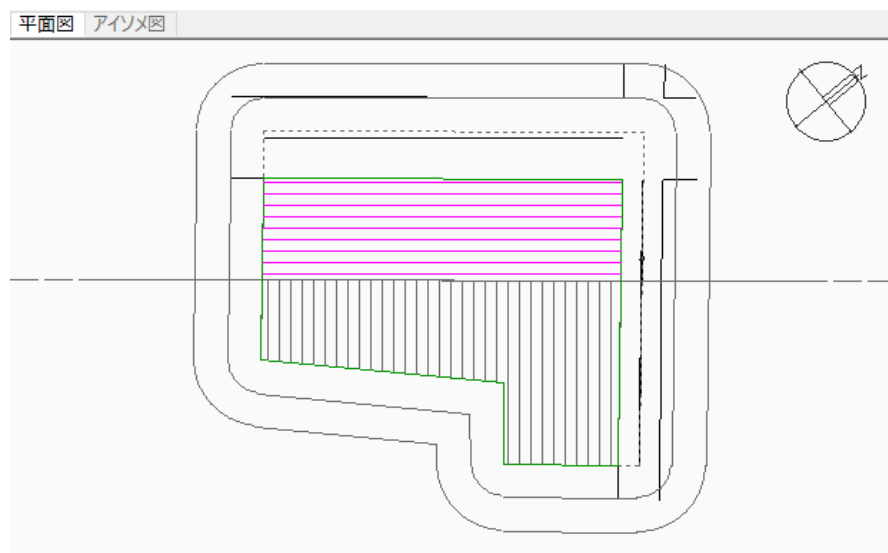
①	②
No	高さ
1	0.000
2	2.000

番号	項目	概要
①	No	地盤面領域 No を表示します
②	高さ	地盤面の高さを入力します

6-16-1 地盤面の高さを設定する

[操作手順]

1) 平面図またはプロパティウィンドウより、設定対象の領域を選択します。



※選択した領域はマゼンタのハッチングで表示します。

2) 「高さ」欄に地盤面の高さを入力します。

6-17 日影規制

○日影規制条件(法 56 条の 2)を設定します。

○日影規制条件が複数存在する場合は、「分割線・補助線」で予め領域を分割する必要があります。

①

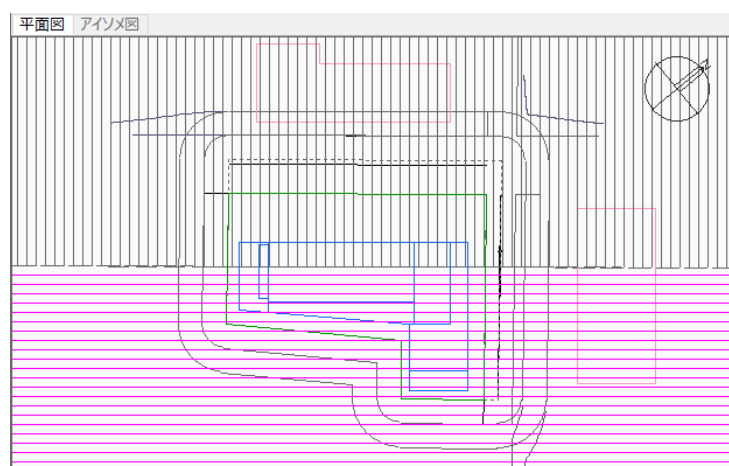
定義追加						
No	条件	規制1(内側)	規制2(外側)	測定面	平均地盤面高	
1	4時間2.5時間-1.5m	4時間00分	2時間30分	1.500	0.000	
2	5時間3時間-4m	5時間00分	3時間00分	4.000	0.000	
②	③	④	⑤	⑥	⑦	

番号	項目	概要
①	定義追加	日影規制条件を追加します
②	No	日影規制領域 No を表示します
③	条件	法 56 条の 2 第1項別表第四で定める日影規制条件から日影規制を選択します ※「無規制」を選択した場合、日影計算は実行されません。
④	規制 1(内側)	選択した日影規制条件の内側の規制ラインの規制時間を表示します
⑤	規制 2(外側)	選択した日影規制条件の外側の規制ラインの規制時間を表示します
⑥	測定面	選択した日影規制条件の測定面高を表示します
⑦	平均地盤面高	法別表第 4 欄外に定める平均地盤面の高さを設定します

6-17-1 日影規制条件を設定する

[操作手順]

1) 平面図またはプロパティウィンドウより、設定対象の領域を選択します。



※選択した領域はマゼンタのハッチングで表示します。

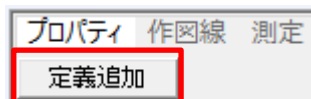
2) 「条件」プルダウンメニューより、日影規制条件を選択します。

6-17-2 日影規制条件を追加する

- 該当する日影規制条件が無い場合に日影規制条件を追加します。
- 追加した日影規制条件は「条件」プルダウンメニューに反映されます。
- 追加した日影規制条件の名称は、設定した日影規制条件の後ろに(ユーザー定義)と表示します。

[操作手順]

- 1) 「定義追加」を選択します。



- 2) 「日影規制の追加」ダイアログが開きます。

番号	項目	概要
①	規制1(内側)	内側の日影規制ラインに対する日影規制時間を設定します
②	規制2(外側)	外側の日影規制ラインに対する日影規制時間を設定します
③	測定面	平均地盤面からの日影測定面を設定します

- 3) 各種条件を設定します。
- 4) 「OK」を選択します。

6-17-3 平均地盤面高について

- 測定面は本システムの±0m からの高さとなります。
- 平均地盤面の高さが本システムの±0 と異なる場合に、「平均地盤面高」で調整をします。

平均地盤面高が本システムの ±0 より高い場合	平均地盤面高 = 本システムの ±0 の場合	平均地盤面高が本システムの ±0 より低い場合

6-18 発散ライン

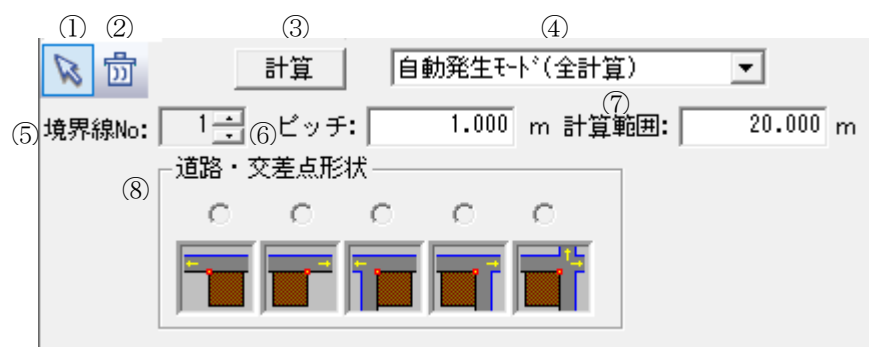
○日影計算用の発散型規制ライン(昭和 52 年建設省住指発第 778 号通達)を設定します。

○道路境界線に対して設定します。

○日影計算/特定点メニューで発散ライン上へ特定点の登録が可能です。

※逆日影計算には考慮されません。

※発散型規制ラインの適用の可否は、必ず審査機関等に確認してください。



番号	項目	概要
①	交差点選択	交差点を選択します
②	ブロック削除	発散ラインを削除します
③	計算	発散ラインを作成します
④	発散ライン作成モード	発散ラインの作成モードを選択します
		自動発生モード(全計算) 境界線条件で設定した条件を元に発散ラインを自動作成します
		自動発生モード(個別計算) 道路境界線または交差点単位で設定した条件を元に発散ラインを自動作成します
		手動指定モード 道路境界線の反対側の線を予め補助線ですること、平行道路以外における発散ラインを作成します 予め、補助線を作成する必要があります
⑤	境界線 No	境界線を選択します
⑥	ピッチ	発散ラインを作成するピッチを設定します
⑦	計画範囲	発散ラインを作成する範囲を設定します
⑧	道路・交差点形状	自動発生モード(個別計算)を選択した場合に、道路・交差点形状を選択します。

6-18-1 自動発生モード(全計算)

[操作手順]

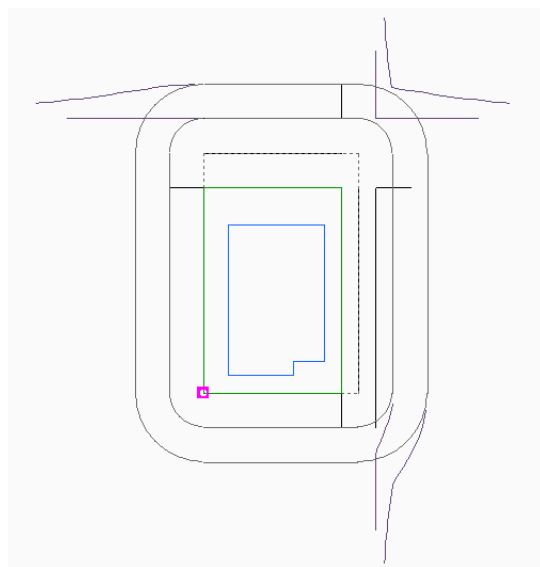
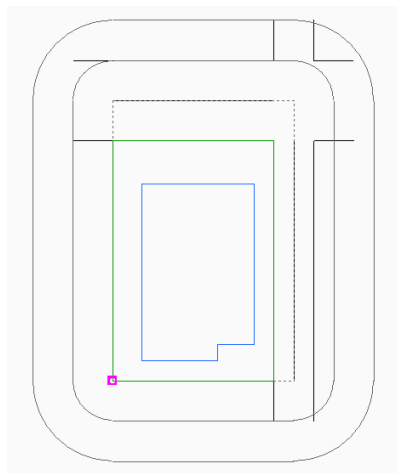
- 1) 「発散ライン作成モード」プルダウンメニューより、「自動発生モード(全計算)」を選択します。



- 2) 「ピッチ」及び「計算範囲」を設定します。



- 3) 「計算」を選択します。



6-18-2 自動発生モード(個別計算)

[操作手順]

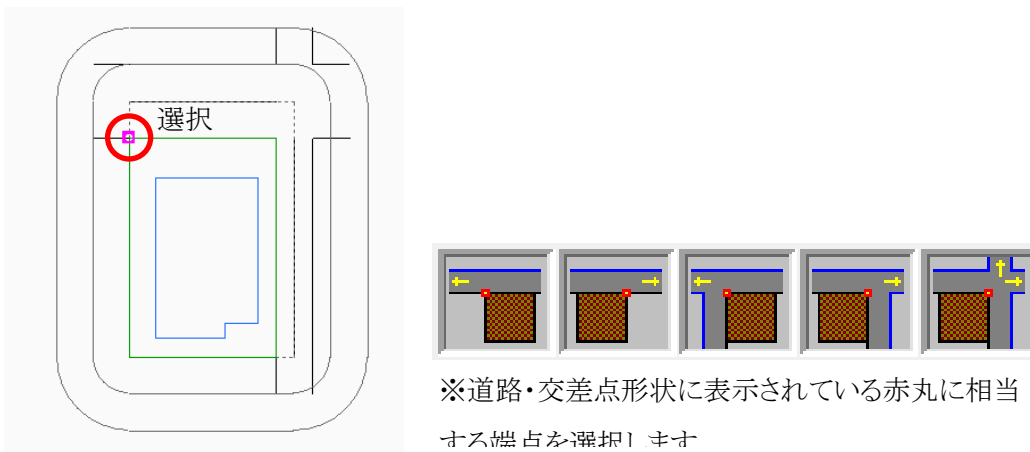
- 1) 「発散ライン作成モード」プルダウンメニューより、「自動発生モード(個別計算)」を選択します。



- 2) 「交差点選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図より、発散ラインを発生させる基準となる道路境界線端点を選択します。

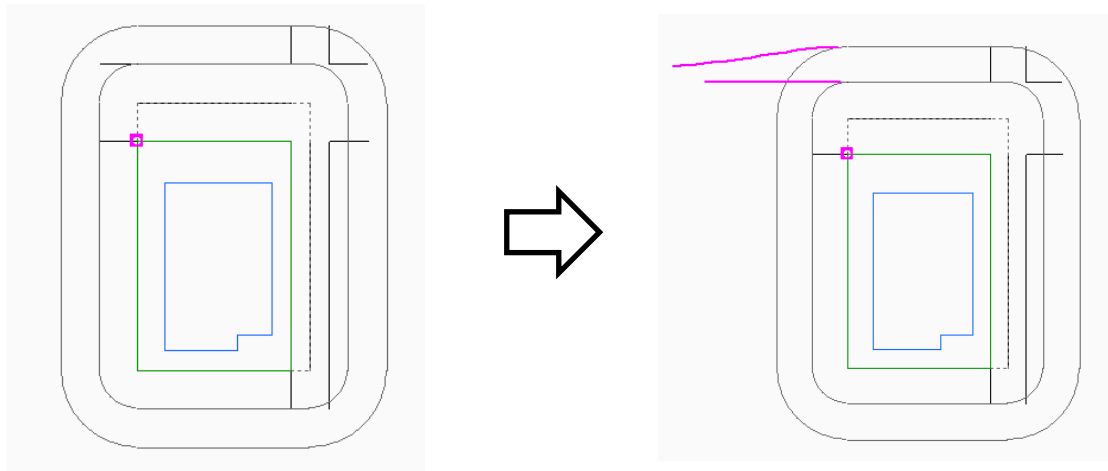


- 3) 「ピッチ」及び「計算範囲」を設定します。



- 4) 「計算」を選択します。

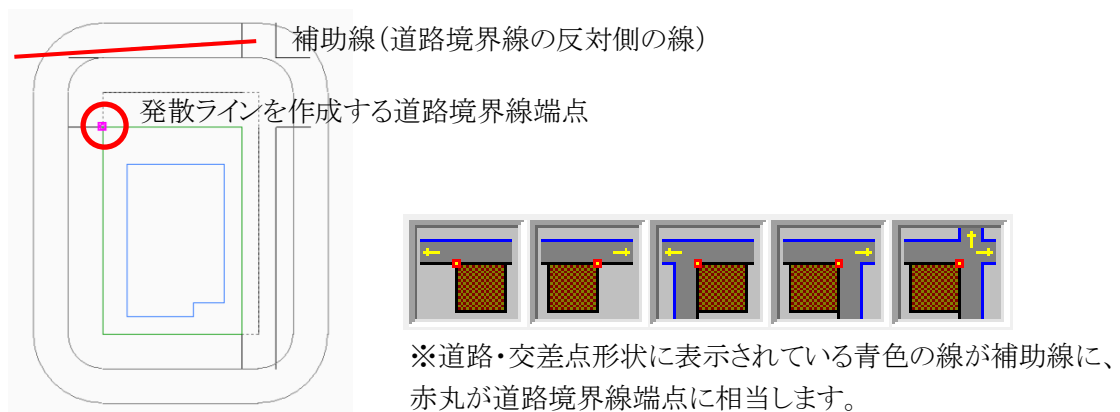




6-18-3 手動指定モード

○道路が異幅道路の場合等に選択します。

○道路・交差点形状に表示されている、青線部分を道路境界線の反対側の線として予め補助線を入力しておきます。



[操作手順]

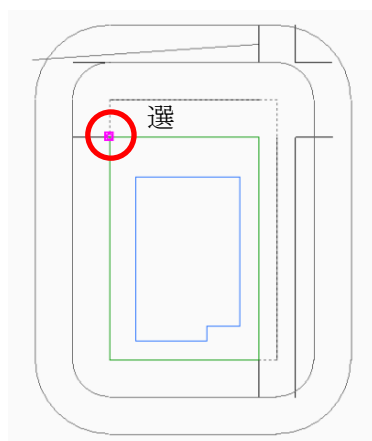
1) 「発散ライン作成モード」プルダウンメニューより、「手動指定モード」を選択します。



2) 「交差点選択」コマンドを選択します。



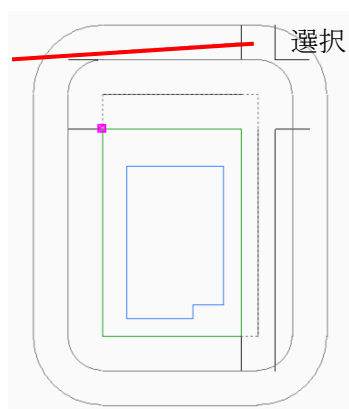
3) 平面図より、発散ラインを発生させる基準となる道路境界線端点を選択します。



4) 「交差点選択」コマンドを選択します。



5) 平面図より、補助線を選択します。



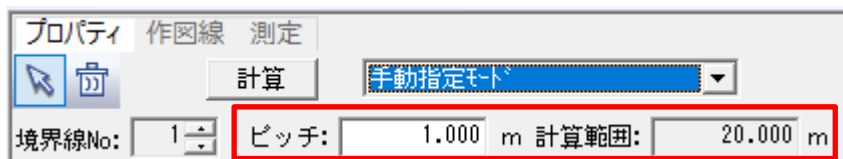
道路・交差点形状					
選択する補助線の数	1本	1本	2本	2本	3本

※道路・交差点形状に青色で表示されている線を選択します。

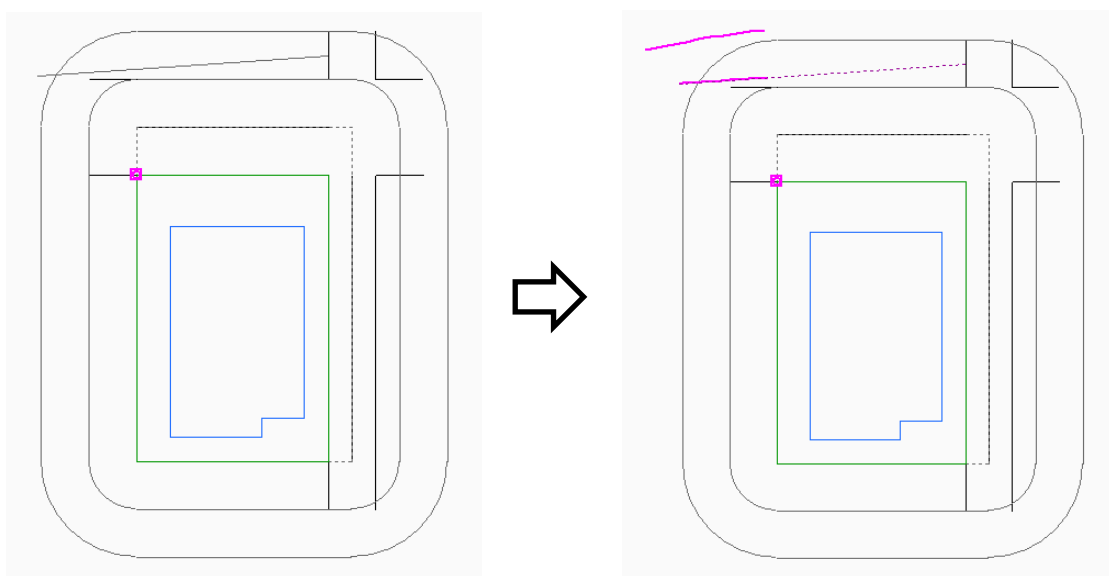
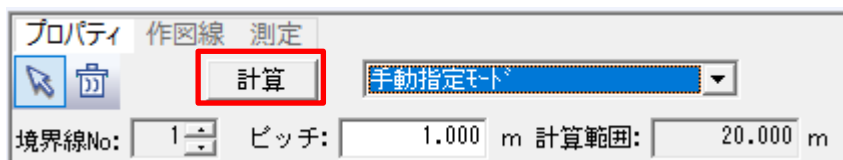
- 6) 道路・交差点形状を選択します。



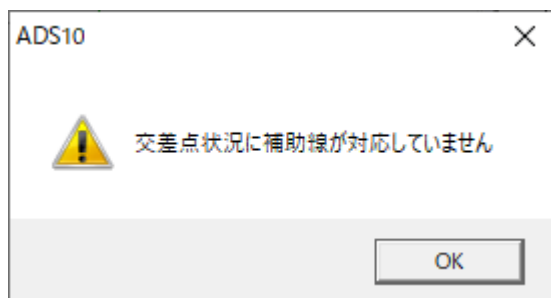
- 7) 「ピッチ」を設定します。



- 8) 「計算」を選択します。



※選択した道路・交差点形状と、補助線の数に対応していない場合、メッセージダイアログが開きます。



6-18-4 発散ラインを削除する

[操作手順]

- 1) 「ブロック削除」コマンドを選択します。



6-19 緯度経度

- 緯度経度を設定します。
- 日影計算・逆日影計算に必要です。
- 日本国内での値のみ計算可能です。

① 環境設定を起動

③ 東京都

④ 北緯: 36 度 0 分 0 秒
東経: 139 度 45 分 0 秒

②

項目	表示
北海道	✓
青森県	✓
秋田県	✓
岩手県	✓
宮城県	✓

番号	項目	概要
①	環境設定を起動	環境設定プログラムを起動します
②	地域リスト	環境設定プログラムに登録されている地域を表示します 「表示」のチェックを外すと、当該地域の緯度経度設定を「都市」プルダウンメニューに表示しません
③	都市	環境設定プログラムに登録されている都市を選択します
④	緯度経度	選択した都市の緯度経度設定を表示します

6-19-1 緯度経度を設定する

[操作手順]

- 1) 「都市」プルダウンメニューより、計画地の都市名を選択します。

6-19-2 計画地の緯度経度がプルダウンメニューにない場合

- 「都市」プルダウンメニューに該当する都市が無い場合、環境設定プログラムで都市を登録します。
- 登録方法は「ADS 環境設定リファレンスマニュアル」を参照して下さい。

※プルダウンメニューに都市名が表示されない場合は「ADS_Series_環境設定」プログラムがインストールされていません。一度、本システムを終了してから「ADS_Series_環境設定」プログラムをインストールしてください。

6-20 日照条件

○日照条件を設定します。

○日影計算・逆日影計算に必要です。

① 太陽赤緯

冬至[12月22日頃] ▼

-23 度 27 分 0 秒

③ 測定時間

開始: 8 時 0 分

終了: 16 時 0 分

② 時刻法

☒ 真太陽時 ☐ 中央標準時

均時差: 0 分 0 秒

④ 測定ライン

規制1(内側): 5.000 m

規制2(外側): 10.000 m

番号	項目		概要
①	太陽赤緯	節季	プルダウンメニューから選択します 24 節季の日付と太陽赤緯が登録されています
		度・分・秒	節季で「ユーザー定義」を選択した場合に設定します 設定を行わない場合、日付を変更しても計算結果に反映されません
②	時刻法	真太陽時	太陽が 12 時に真南にあるとする時刻法です 確認申請を行う場合に選択します
		中央標準時	ある時刻における実際の太陽の位置を算定する時刻法です 近隣説明を行う場合等に選択します
		均時差	「中央標準時」を選択した場合に設定可能です 理科年表等で調べた上で、値を入力してください
③	測定時間		日影計算の「開始時間」・「終了時間」を設定します
④	測定ライン		日影規制ラインを設定します

※理科年表の太陽赤緯を入力しても、理科年表に記載されている日の出及び日の入りの時刻にはならない場合があります。

6-21 敷地面積表

○本敷地の面積や建築面積、延床面積等が確認できます。

① 再計算		② 最大道路幅 = 11.00m 道路 10.00m(緩和 1.00m)					
用途地域	敷地面積	建蔽率	建築面積	容積率	採用容積率	延床面積	
近隣商業	796.61㎡	80.00%	637.29㎡	300.00%	300.00%	2389.84㎡	
準住居	953.69㎡	60.00%	572.21㎡	150.00%	150.00%	1430.54㎡	
合計	1750.31㎡	69.10%	1209.51㎡		218.27%	3820.38㎡	
合計坪	529.47坪		365.88坪			1155.66坪	
③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	

番号	項目	概要
①	再計算	敷地面積を変更した場合に選択することで元の数値に戻ります。
②	最大道路幅	法 52 条第 2 項を適用する道路幅を表示します 法 52 条第 9 項が適用される場合は緩和後の道路幅及び緩和幅を表示します
③	用途地域	設定した用途地域を表示します
④	敷地面積	本敷地の面積を表示します 数値は変更可能ですが、本敷地の大きさは変わりません
⑤	建蔽率	「用途地域」メニューで設定した建蔽率を表示します 合計行に按分後の建蔽率を表示します
⑥	建築面積	敷地面積と設定した建蔽率から許容建築面積を算出し表示します
⑦	容積率	「用途地域」メニューで設定した容積率を表示します
⑧	採用容積率	容積率低減係数や、複数用途地域の場合に、加重平均した採用面積率を算出し、表示します 合計行に本敷地の採用容積率を表示します 本敷地の採用容積率が道路高さ制限の適用距離の算定のための容積率(法別表 3)となります。
⑨	延床面積	敷地面積と採用容積率から許容延床面積を算出し表示します

6-22 断面計画

- 建物の階数及び階高の計画を設定します。
- 斜線・逆日影計算結果における等高線・フロア線として表示できます。
- 断面計画を設定すると階数に依存した高さ設定が可能となります。建物高さを絶対高のみで入力する場合は設定をする必要はありません。
- 複数の断面計画を設定できます。

階	階高	床高
R		9.300
3	3.000	6.300
2	3.000	3.300
1	3.000	0.300

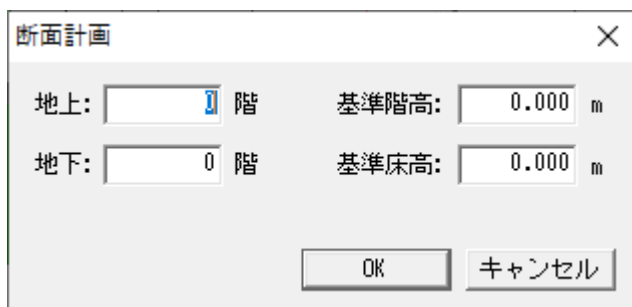
番号	項目	概要
①	新規計画	新規断面計画を作成します
②	計画削除	選択中の断面計画を削除します
③	計画変更	選択中の断面計画を変更します
④	挿入	選択中の断面計画に階を挿入します
⑤	断面計画リスト	選択中の断面計画を表示します
⑥	断面計画選択	断面計画を選択します
⑦	階削除	選択中の断面計画の階を削除します

6-22-1 断面計画を新規作成する

- 1) 「新規計画」を選択します。



- 2) 「断面計画」ダイアログが開きます。

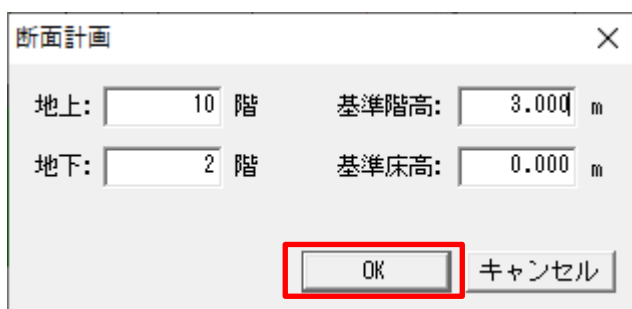


番号	項目	概要
①	地上	地上の階数を設定します
②	地下	地下の階数を設定します

※地上の階数は 100 階まで設定可能です。

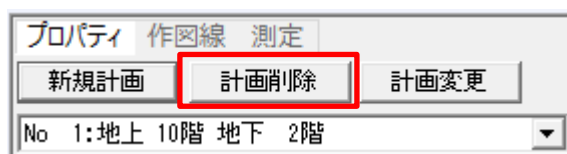
※地上と地下の階数の合計が 130 階まで設定可能です。

- 3) 階数、基準階高、基準床高を設定します。
- 4) 「OK」を選択します。



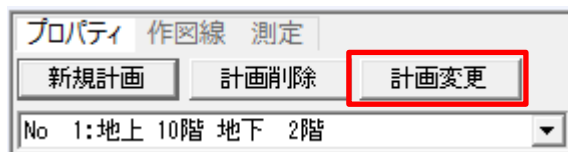
6-22-2 断面計画を削除する

- 1) 「断面計画リスト」プルダウンメニューより、削除する断面計画を選択します。
- 2) 「計画削除」を選択します。



6-22-3 断面計画を変更する

- 1) 「断面計画リスト」プルダウンメニューより、変更する断面計画を選択します。
- 2) 「計画変更」を選択します。



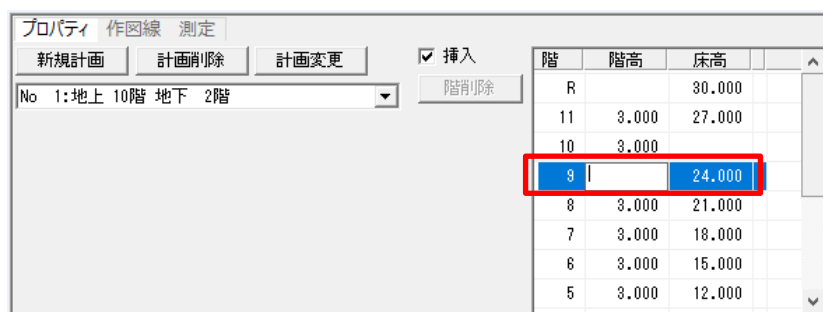
- 3) 「断面計画」ダイアログが開きます。
- 4) 階数、基準階高、基準床高を設定します。
- 5) 「OK」を選択します。

6-22-4 断面計画に階を挿入する

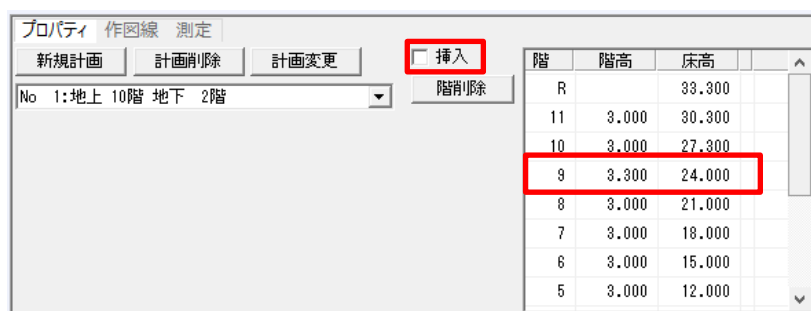
- 1) 「断面計画リスト」プルダウンメニューより、階を挿入する断面計画を選択します。
- 2) 「挿入」にチェックを入れます。



- 3) 「断面計画リスト」で挿入する階を選択します。

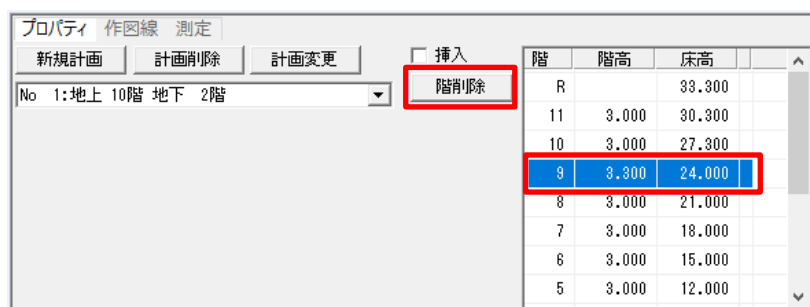


- 4) 階高を設定します。
- 5) 「挿入」のチェックを外します。



6-22-5 断面計画の階を削除する

- 1) 「断面計画リスト」プルダウンメニューより、階を削除する断面計画を選択します。
- 2) 「断面計画リスト」で削除する階を選択します。
- 3) 「階削除」を選択します。

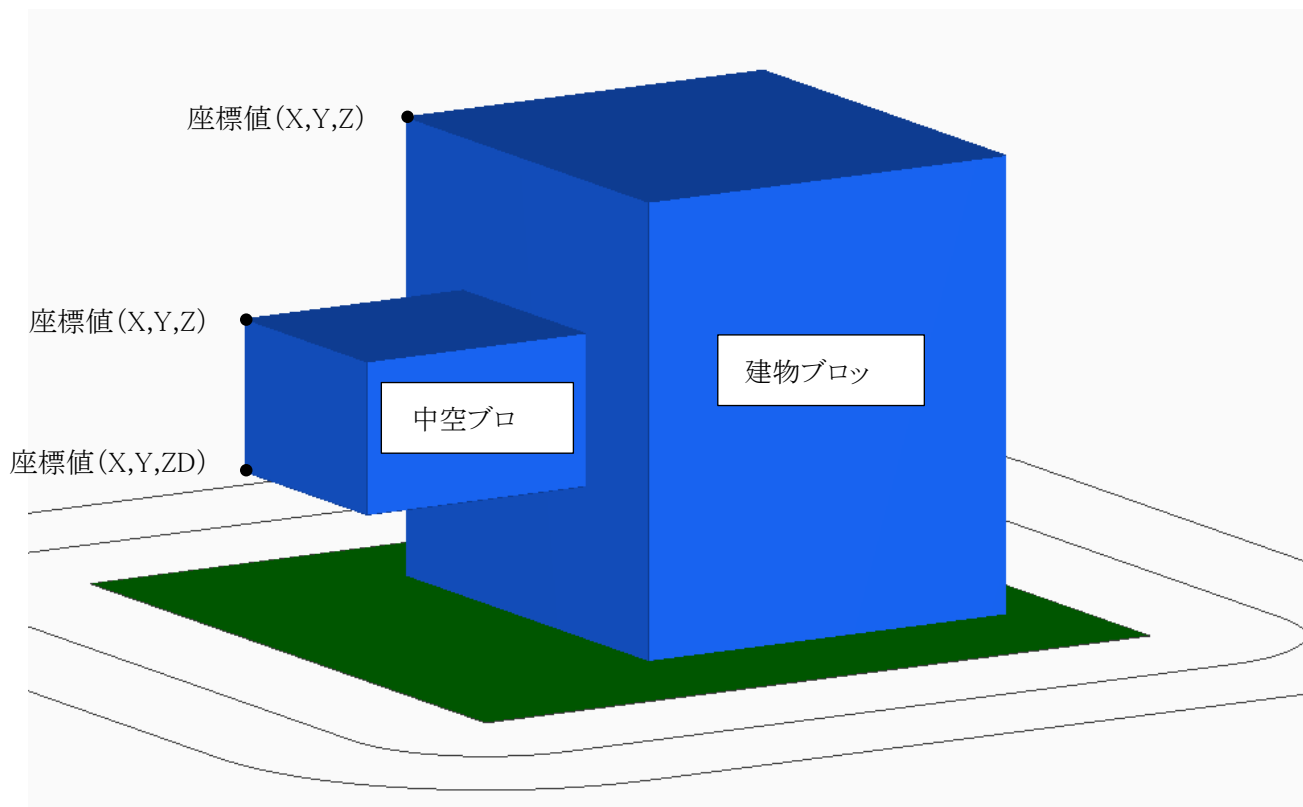


7 建物編集

7-1 はじめに

○本システムでは建物を「ブロック」と定義しています。

○ブロックは、「建物ブロック」または「中空ブロック」の何れかの属性を持っています。



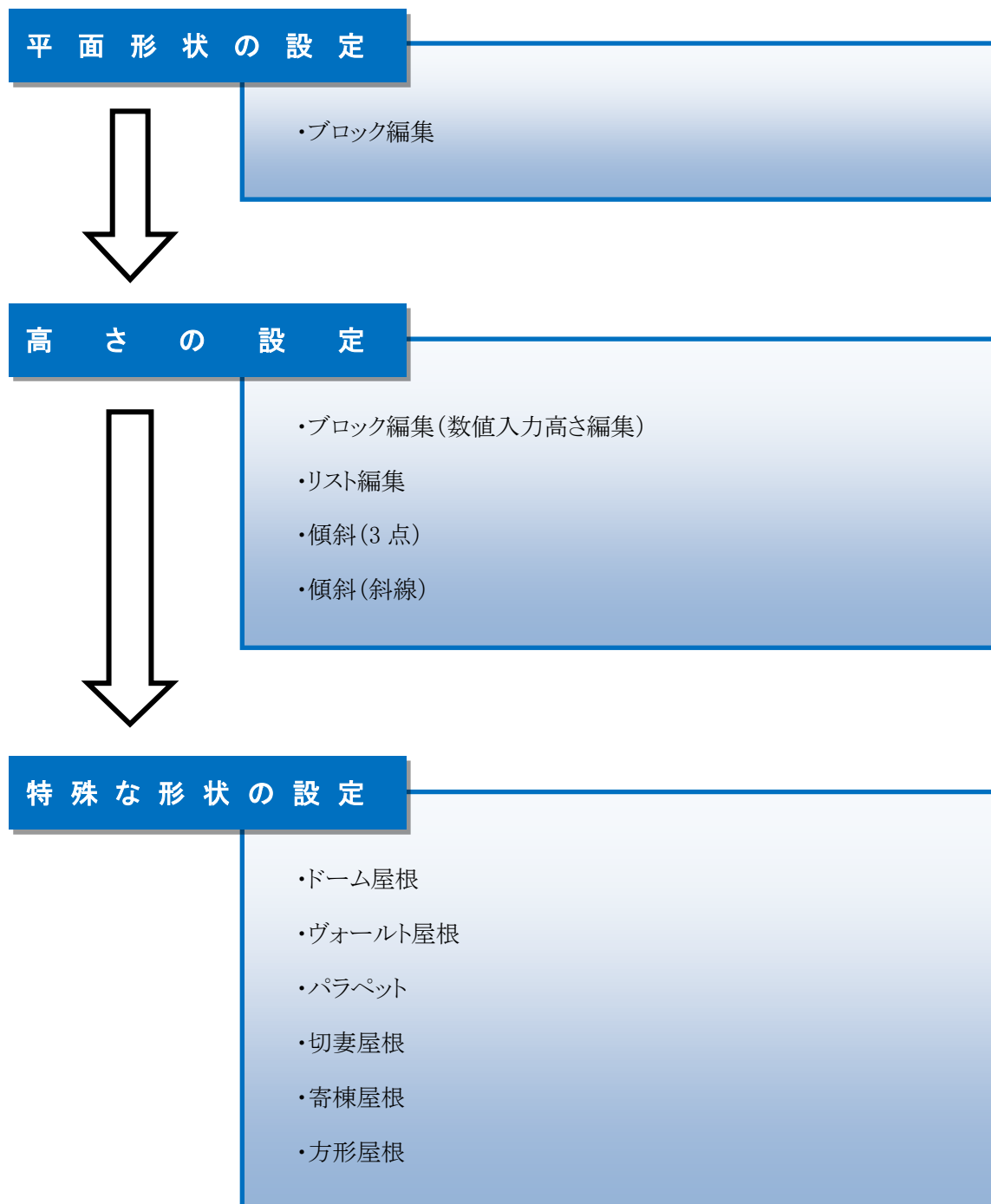
ブロック	建物ブロック	下面が本システムの±0 にあります 上面は傾斜をつけることが可能です 端点の座標は、「X 座標」「Y 座標」「高さ Z 座標」の 3 つで定義します
	中空ブロック	下面が本システムの±0 以外にあります 上面・下面共に傾斜をつけることが可能です 端点の座標は、「X 座標」「Y 座標」「上面の高さ Z 座標」「下面の高さ ZD 座標」の 4 つで定義します

7-2 サブメニュー

○建物編集のサブメニューです。

メニュー名	概要
ブロック編集	図形編集コマンドによりブロックを設定します
リスト編集	ブロックの高さ及び属性を編集します
傾斜(3点)	3点を指定してブロックの傾斜を設定します
傾斜(斜線)	境界線条件をもとにブロックの傾斜を設定します
フロア計画	ブロックの断面計画の階ごとの面積を集計します
ドーム屋根	ブロックの上面にドーム屋根形状のブロックを作成します
ヴォールト屋根	ブロックの上面にヴォールト屋根形状のブロックを作成します
パラペット	ブロックの上面にパラペット形状のブロックを作成します
切妻屋根	ブロックの上面に切妻屋根形状のブロックを作成します
寄棟屋根	ブロックの上面に寄棟屋根形状のブロックを作成します
方形屋根	ブロックの上面に方形屋根形状のブロックを作成します

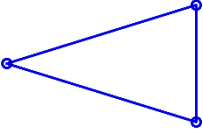
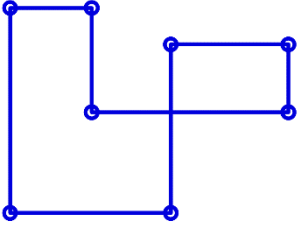
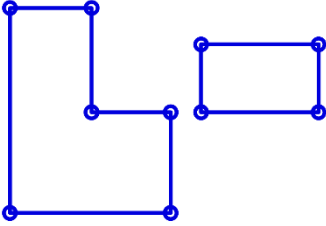
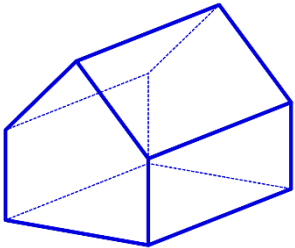
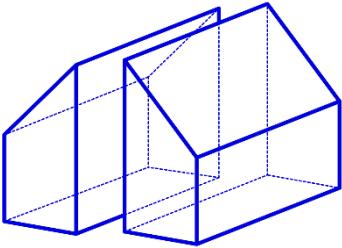
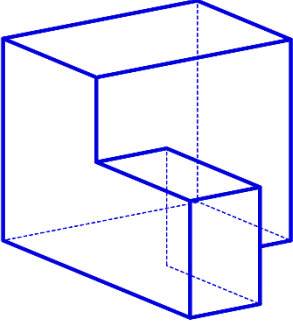
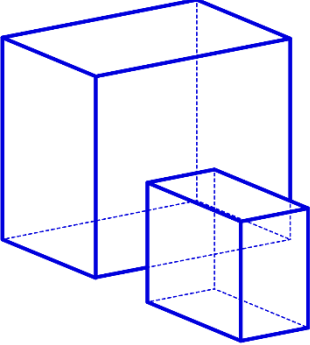
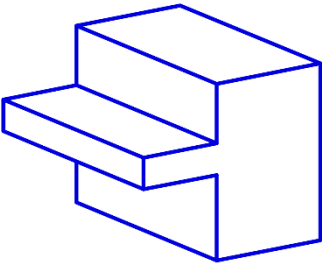
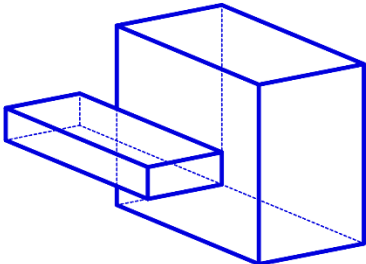
7-3 建物編集のワークフロー



7-4 ブロック形状の制限について

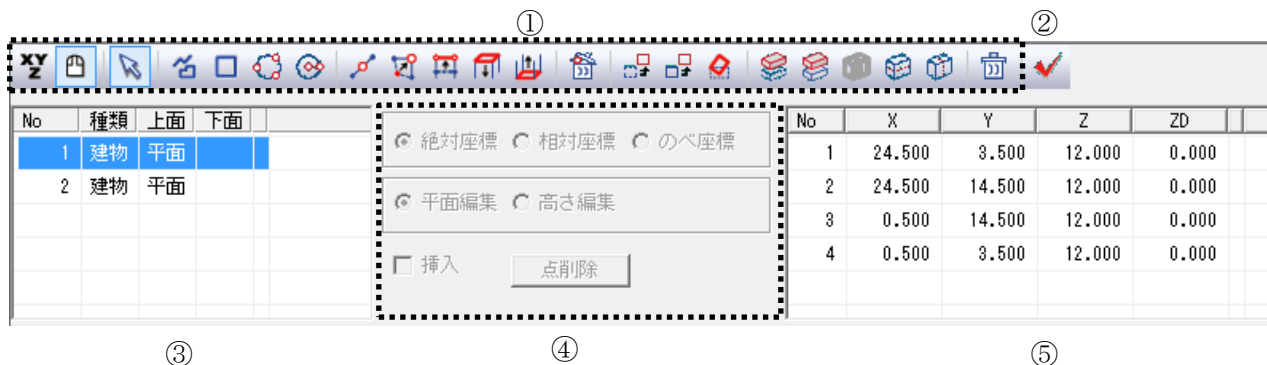
○中空ブロックは、下面の高さが上面を超えないようにします。

○誤った形状の場合、エラーメッセージが表示され、赤色で表示されます。

誤った形状	正しい形状	備考
		ブロックの平面形状は、端点数が3以上の多角形とします
		辺が交差する8の字型の多角形は、2 つ以上のブロックに分解します
		異なる傾斜が 2 以上ある形状は、1 ブロック 1 傾斜となるように分解します
		高低差が 2 以上ある形状は、2 つ以上のブロックに分解します
		

7-5 ブロック編集

○建物形状の図形に関する編集を行います。



番号	項目	概要
①	図形編集コマンド	図形編集コマンドです
②	図形チェック	ブロックのエラーチェックを行います
③	ブロックリスト	ブロックの情報を表示します
④	数値入力	編集座標等です 数値入力を選択時にアクティブになります
⑤	端点リスト	選択したブロックの端点の座標値を表示します

※選択した項目によって表示が異なります

7-5-1 マウス入力によるブロックの新規作成

[操作手順]

- 1) 「マウス入力」コマンドを選択します。



- 2) 「作成」、「矩形作成」、「円作成(3点)」、または「円作成(中心)」各コマンドを選択します。



- 3) 平面図で、ブロックを作成します。

※図形編集コマンドの操作手順は図形編集を参照して下さい。

7-5-2 マウス入力によるブロックの編集

[操作手順]

- 1) 「マウス入力」コマンドを選択します。



- 2) 「選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図またはブロックリストより、編集を行うブロックを選択します。
- 4) 図形編集コマンドを選択します。



- 5) 平面図で、ブロックを編集します。
※一部図形編集コマンドはアイソメ図で編集可能です。
※図形編集コマンドの操作手順は図形編集を参照して下さい。

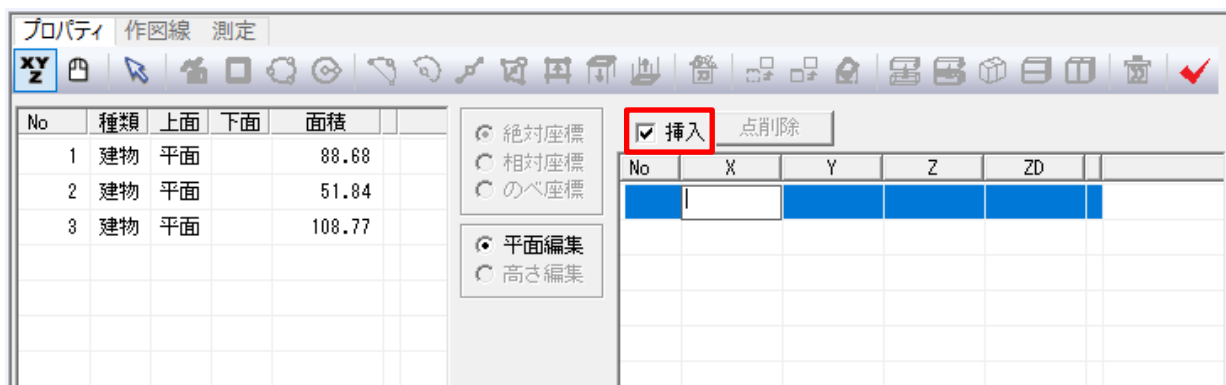
7-5-3 数値入力によるブロックの新規作成

[操作手順]

- 1) 「数値入力」コマンドを選択します。



- 2) 「挿入」にチェックを入れます。



- 3) 「端点リスト」に端点の座標値を入力します。
※数値入力の操作手順は図形編集を参照して下さい。

- 4) 「挿入」のチェックを外します。

The screenshot shows the 'Properties' panel with the 'Insert' checkbox unchecked. The 'Properties' panel has tabs for 'Property', 'Drawing Line', and 'Measurement'. The 'Property' tab is active, showing a table with columns: No, 種類 (Type), 上面 (Top Surface), 下面 (Bottom Surface), and 面積 (Area). The table has 4 rows, with row 4 highlighted in blue. To the right of the table are radio buttons for '絶対座標' (Absolute Coordinates), '相対座標' (Relative Coordinates), and 'のべ座標' (Open Coordinates). Below these are radio buttons for '平面編集' (Plane Editing) and '高さ編集' (Height Editing). To the right of the radio buttons are checkboxes for '挿入' (Insert) and '点削除' (Delete Point). The '挿入' checkbox is unchecked. To the right of the checkboxes is a table with columns: No, X, Y, Z, and ZD. The table has 4 rows, with row 1 highlighted in blue.

No	種類	上面	下面	面積
1	建物	平面		88.68
2	建物	平面		51.84
3	建物	平面		108.77
4	建物	平面		100.00

No	X	Y	Z	ZD
1	0.000	0.000	0.000	0.000
2	10.000	0.000	0.000	0.000
3	10.000	10.000	0.000	0.000
4	0.000	10.000	0.000	0.000

7-5-4 数値入力によるブロックの編集

[操作手順]

- 1) 「数値入力」コマンドを選択します。

The screenshot shows the software interface with the 'Numerical Input' command selected in the toolbar. The toolbar has tabs for 'Property', 'Drawing Line', and 'Measurement'. The 'Property' tab is active, showing a toolbar with various icons. The 'Numerical Input' icon is highlighted with a red box.

- 2) 「選択」コマンドを選択します。

The screenshot shows the software interface with the 'Select' command selected in the toolbar. The toolbar has tabs for 'Property', 'Drawing Line', and 'Measurement'. The 'Property' tab is active, showing a toolbar with various icons. The 'Select' icon is highlighted with a red box.

- 3) 平面図またはブロックリストより、編集を行うブロックを選択します。
4) Z 座標または ZD 座標の編集を行う場合は、「高さ編集」にチェックを入れます。

The screenshot shows the software interface with the 'Height Editing' radio button selected. The 'Height Editing' radio button is highlighted with a red box.

※傾斜ブロックの高さ編集は推奨していません。

- 5) 「端点リスト」の端点の座標値を編集します。
※数値入力の操作手順は図形編集を参照して下さい。

The screenshot shows the software interface with the 'Endpoint List' table. The 'Height Editing' radio button is selected. The 'Endpoint List' table has columns: No, X, Y, Z, and ZD. The table has 4 rows, with row 1 highlighted in blue. The 'Height Editing' radio button is highlighted with a red box.

No	種類	上面	下面	面積
1	建物	平面		88.68
2	建物	平面		51.84
3	建物	平面		108.77
4	建物	平面		100.00

No	X	Y	Z	ZD
1	0.000	0.000	0.000	0.000
2	10.000	0.000	0.000	0.000
3	10.000	10.000	0.000	0.000
4	0.000	10.000	0.000	0.000

7-5-5 ブロックを削除する

[操作手順]

- 1) 「選択」コマンドを選択します。



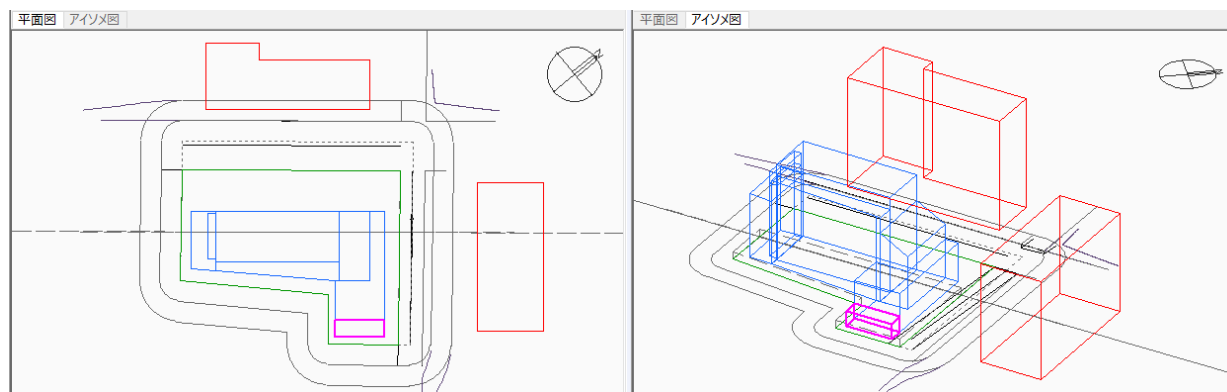
- 2) 平面図またはブロックリストより、削除するブロックを選択します。

- 3) 「ブロック削除」コマンドを選択します。



7-5-6 エラーブロックについて

○誤った形状のブロックはエラーブロックとして、赤色で表示されます。



No	種類	上面	下面	Z	ZD	斜線	日影	P	面積
1	建物	平面		25.000		✓	✓	4	367.51
2	建物	傾斜				✓	✓	4	126.54
3	建物	平面		25.650		✓	✓	4	575.98
4	建物	平面		28.650		✓	✓	6	532.00
5	建物	平面		16.500		✓	✓	4	84.55

7-5-7 「図形チェック」コマンド

○エラーメッセージが表示された場合に、エラーの原因を確認します。

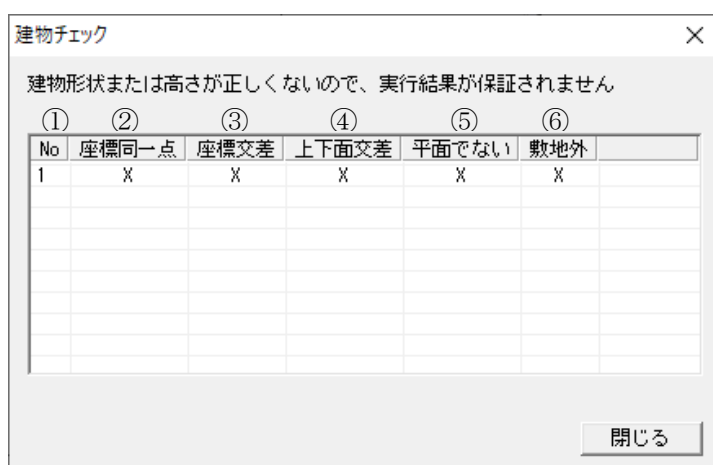
※ブロックが赤色で表示された場合は必ず確認します。

[操作手順]

- 1) 「図形チェック」コマンドを選択します。



- 2) 「建物チェック」ダイアログが開きます。



番号	項目	概要
①	座標同一点	2 以上の端点の座標が重なっています
②	座標交差	辺と辺が交差しています(8の字図形)
③	上下面交差	下面の端点の ZD 座標が上面の端点の Z 座標より上にあります
④	平面でない	上面または下面が片勾配になっていません
⑤	敷地外	各斜線計算対象のブロックの全部または一部が本敷地外にあります
⑥	座標同一点	2 以上の端点の座標が重なっています

- 4) エラー内容を確認します。

※「座標同一点」でエラーになったポイントは、「閉じる」ボタンを押した際に、自動的に重なったポイントのうち、どちらかが自動的に削除されます。

7-6 リスト編集

○ブロックの高さや計算属性等を設定します。

○高さの設定方法は、「絶対高入力」または「階数入力」を選択します。

7-6-1 絶対高入力

○絶対値で高さを設定します。

○ツールバーより、「絶対高表示」を選択します。



①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
No	種類	上面	下面	Z	ZD	斜線	日影	P	面積	
1	建物	平面		25.000		✓	✓	4	367.51	
2	建物	傾斜				✓	✓	4	126.54	
3	建物	平面		25.650				4	575.98	
4	建物	平面		28.650				6	532.00	
5	建物	平面		16.500		✓	✓	4	84.55	
6	建物	平面		22.000		✓	✓	5	104.25	
7	中空	平面	平面	22.200	0.000	✓	✓	4	22.10	

番号	項目	概要
①	No	ブロック番号を表示します
②	種類	ブロックの種類を設定します
		建物 ブロックの上面の高さのみ設定できます
		中空 ブロックの上面および下面の高さを設定できます
③	上面	ブロックの上面の種類を設定します
		平面 上面をフラットに設定します
		傾斜 上面を傾斜に設定します
④	下面	ブロックの下面の種類を設定します 中空ブロックの場合に設定できます
		平面 下面をフラットに設定します
		傾斜 下面を傾斜に設定します
⑤	Z	ブロックの上面の本システムの±0からの高さを入力します
⑥	ZD	中空ブロックの下面の本システムの±0からの高さを入力します
⑦	斜線	チェックを入れると斜線計算の対象となります
⑧	日影	チェックを入れると日影計算の対象となります
⑨	P	ブロックの平面上での端点の数を表示します
⑩	面積	ブロックの面積(m ²)を表示します

7-6-2 階数入力

- 断面計画の階数で高さを設定します。
- 予め断面計画を設定する必要があります。
- ツールバーより、「階数依存表示」を選択します。



①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
No	種類	上面	下面	階数	オフセット	階数D	オフセットD	断面	斜線	日影	P	面積	
1	建物	平面		8	1.000			1	✓	✓	4	367.51	
2	建物	傾斜						1	✓	✓	4	126.54	
3	建物	平面		8	1.650			1			4	575.98	
4	建物	平面		9	1.650			1			6	532.00	
5	建物	平面		5	1.500			1	✓	✓	4	84.55	
6	建物	平面		7	1.000			1	✓	✓	5	104.25	
7	中空	平面	平面	7	1.000	0	0.000	1	✓	✓	4	22.10	

番号	項目	概要
①	No	ブロック番号を表示します
②	種類	ブロックの種類を設定します
		建物 ブロックの上面の高さのみ設定できます
		中空 ブロックの上面および下面の高さを設定できます
③	上面	ブロックの上面の種類を設定します
		平面 上面をフラットに設定します
		傾斜 上面を傾斜に設定します
④	下面	ブロックの下面の種類を設定します 中空ブロックの場合に設定できます
		平面 下面をフラットに設定します
		傾斜 下面を傾斜に設定します
⑤	階数	ブロックの上面の階の高さを入力します
⑥	オフセット	ブロックの上面の階数の床高からのオフセット値を入力します
⑦	階数 D	中空ブロックの下面の階の高さを入力します
⑧	オフセット D	中空ブロックの下面の階数の床高からのオフセット値を入力します
⑨	断面	階数を適用する断面計画の No を選択します
⑩	斜線	チェックを入れると斜線計算の対象となります
⑪	日影	チェックを入れると日影計算の対象となります
⑫	P	ブロックの平面上での端点の数を表示します
⑬	面積	ブロックの面積 (㎡) を表示します

7-6-3 絶対高入力でブロックの高さを設定する

[操作手順]

- 1) 「Z」欄または「ZD」欄に絶対高を入力します。

プロパティ 作図線 測定											
No	種類	上面	下面	Z	ZD	斜線	日影	P	面積		
1	建物	平面		25.000		✓	✓	4	367.51		
2	建物	傾斜				✓	✓	4	126.54		
3	中空	平面	平面	22.200	0.000	✓	✓	4	22.10		
4	中空	平面	平面	19.200	0.000	✓	✓	4	22.10		

7-6-4 階高入力でブロックの高さを設定する

[操作手順]

- 1) 「断面」プルダウンメニューより、適用する断面計画を選択します。

プロパティ 作図線 測定													
No	種類	上面	下面	階数	オフセット	階数D	オフセットD	断面	斜線	日影	P	面積	
1	建物	平面		8	1.000			1	✓	✓	4	367.51	
2	建物	傾斜						2	✓	✓	4	126.54	
3	中空	平面	平面	7	1.200	6	2.800	1	✓	✓	4	22.10	
4	中空	平面	平面	6	1.200	5	2.800	1	✓	✓	4	22.10	

- 2) 「階数」欄または「階数D」欄に階数を入力します。
- 3) 「オフセット」欄または「オフセットD」欄にオフセット値を入力します。

プロパティ 作図線 測定													
No	種類	上面	下面	階数	オフセット	階数D	オフセットD	断面	斜線	日影	P	面積	
1	建物	平面		8	1.000			1	✓	✓	4	367.51	
2	建物	傾斜						2	✓	✓	4	126.54	
3	中空	平面	平面	7	1.200	6	2.800	1	✓	✓	4	22.10	
4	中空	平面	平面	6	1.200	5	2.800	1	✓	✓	4	22.10	

7-6-5 中空ブロックを作成する

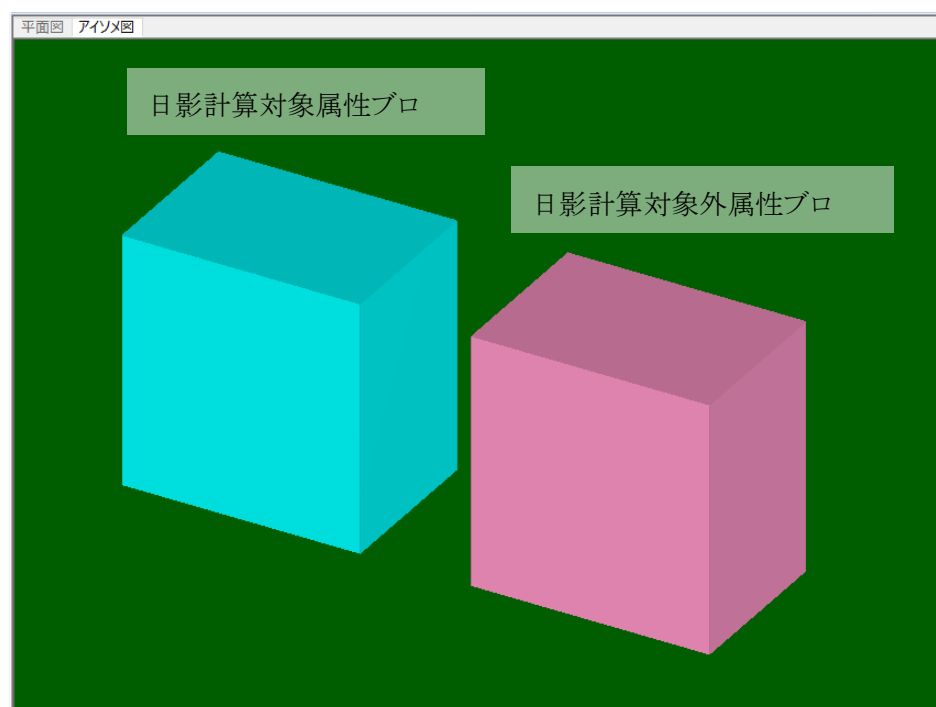
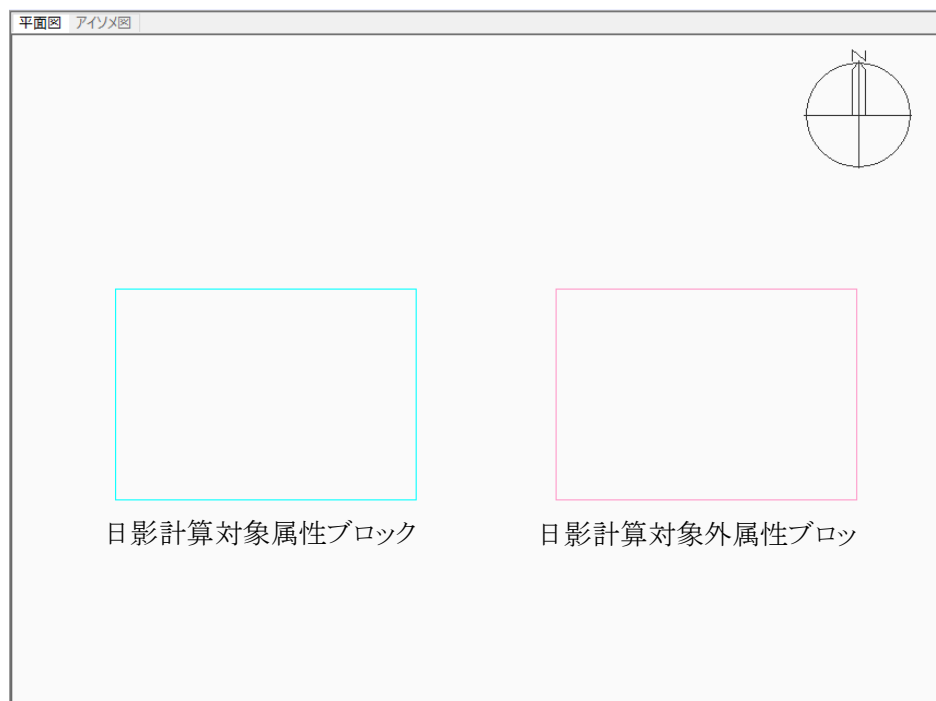
[操作手順]

- 1) 「種類」プルダウンメニューより、「中空」を選択します。

プロパティ 作図線 測定											
No	種類	上面	下面	Z	ZD	斜線	日影	P	面積		
1	建物	平面		25.000		✓	✓	4	367.51		
2	建物	傾斜				✓	✓	4	126.54		
3	中空	平面	平面	22.200	0.000	✓	✓	4	22.10		
4	中空	平面	平面	19.200	0.000	✓	✓	4	22.10		

7-6-6 計算対象属性について

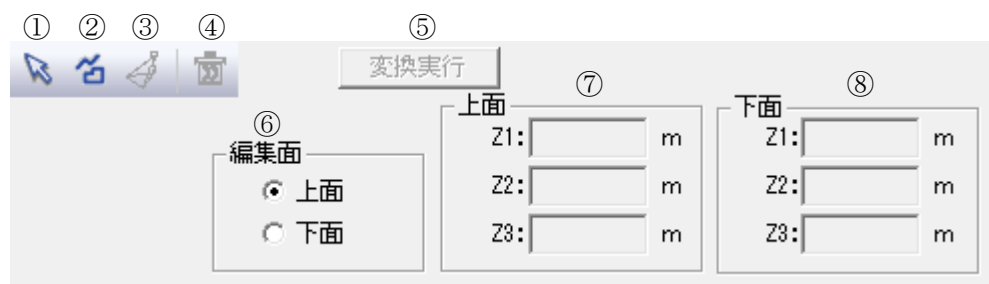
- ブロックを斜線計算及び日影計算の対象とするか計算対象属性を設定できます。
- 斜線計算及び日影計算を計算対象外属性と設定すると、各種計算を行いません。
- 日影計算対象属性を、日影計算対象外とすると、ブロックの色が薄いピンク色になります。
- 敷地外のブロックは、斜線計算対象外と設定すると、エラーブロックでなくなります。
- 壁面日影計算を行う場合、日影計算対象外とすると、壁面編集の対象となります。



7-7 傾斜（3点）

○ブロックの任意の3端点の高さを設定することで、傾斜を設定します。

○中空ブロックは下面の設定も可能です。



※選択した項目によって表示が異なります。

番号	項目	概要
①	選択	傾斜を設定するブロックを選択します
②	作成	高さを設定する端点を指定します
③	高さ移動	指定した端点の高さを移動します
④	ブロック削除	指定した端点を削除します
⑤	変換実行	ブロックに設定した傾斜を適用します
⑥	編集面	傾斜を設定する面を選択します
⑦	上面	編集面で「上面」を選択した場合に、指定した3点の高さを入力します
⑧	下面	編集面で「下面」を選択した場合に、指定した3点の高さを入力します

7-7-1 傾斜を設定する

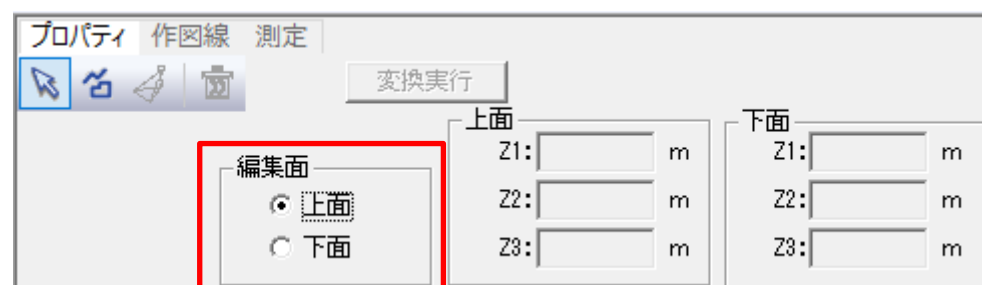
[操作手順]

- 1) 「選択」コマンドを選択します。



- 2) 平面図またはアイソメ図より、傾斜を設定するブロックを選択します。

- 3) 「編集面」を選択します。

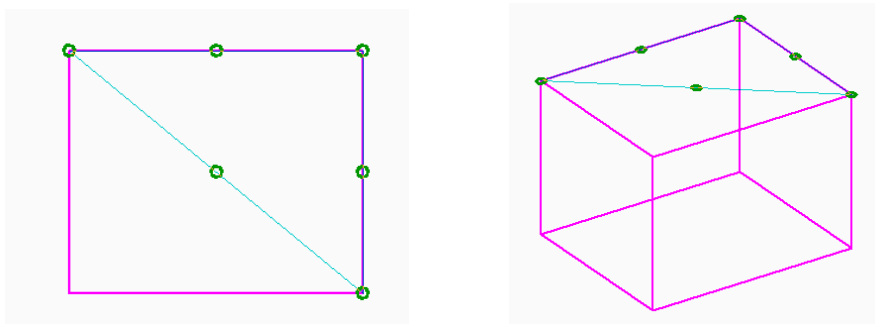


- 4) 「作成」コマンドを選択します。



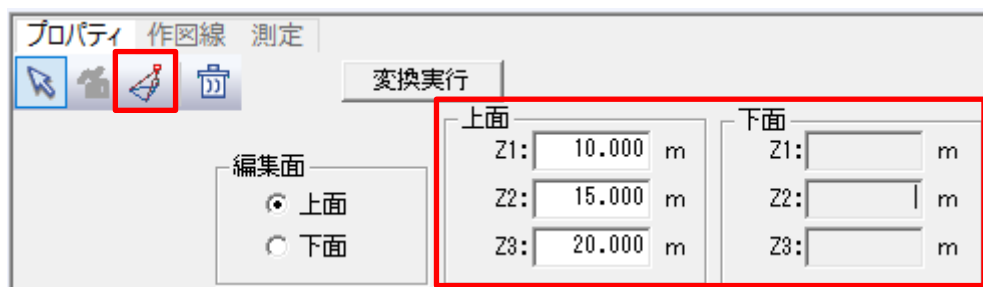
- 5) アイソメ図で、端点を3点指定します。

※編集面が上面の場合は平面図でも指定可能です。

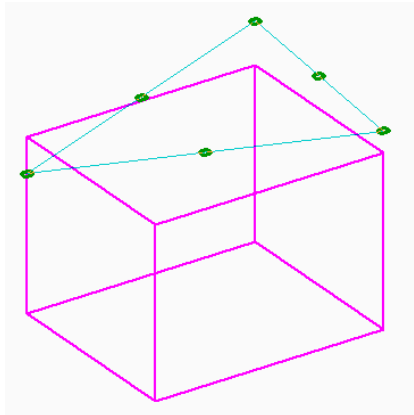


※選択が完了すると、三角形が表示され、頂点と各辺の midpoint に緑色の○が表示されます。

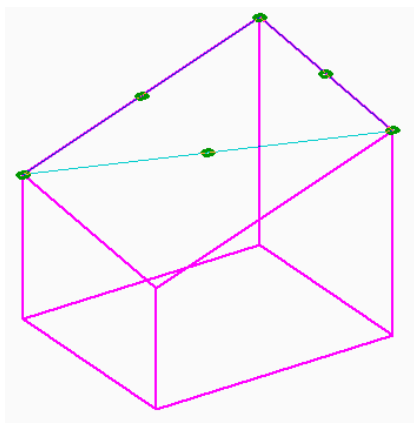
- 6) 「上面(下面)」の高さを入力、または「高さ移動」コマンドを選択し、アイソメ図で高さを指定します。



※「上面(下面)」で選択した頂点は、紫色の○で表示されます。



- 7) 「変換実行」を選択します。



7-7-2 設定した傾斜を連続して他のブロックに適用する

[操作手順]

- 1) 7-7-1 の操作手順の 1)～6)を行います。
- 2) 「選択」コマンドを選択します。

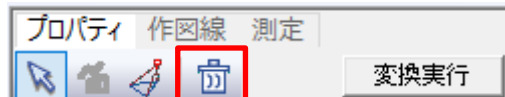


- 3) 傾斜を設定するブロックを選択します。
- 4) 「変換実行」を選択します。



7-7-3 設定した傾斜と異なる傾斜を設定する

- 1) 「ブロック削除」コマンドを選択します。



- 2) 7-7-1 の操作手順の 1)～7)を行います。

7-8 傾斜（斜線）

○ブロックの上面に、斜線勾配を基準とした傾斜を設定します。

・道路境界線を選択した場合

・隣地境界線を選択した場合

番号	項目	概要
①	基準境界線指定	斜線の基準とする敷地境界線を選択します
②	基準線作成	平面図で2点を指定し、前面道路の反対側の境界線を作成します インポート図形や作図線を利用します
③	基準線指定	平面図で任意の線を指定し、前面道路の反対側の境界線を選択します インポート図形や作図線を利用します 基準線は1本のみ選択可能です
④	選択	傾斜を設定するブロックを選択します
⑤	変換実行	ブロックに設定した傾斜を適用します
⑥	基準境界線	境界線 No
		用途地域
		地盤高
		建物後退距離

・道路境界線を選択した場合

番号	項目	概要
⑦	境界線条件 (道路斜線)	幅員(始点)
		幅員(終点)
		傾斜
		道路高さ 1
		道路高さ 2
		始点側の道路幅員を入力します 入力幅員は、前面道路の反対側の境界線から垂直の距離(Wb)です 基準線を指定すると幅員が自動で表示されます
		終点側の道路幅員を入力します 入力幅員は、前面道路の反対側の境界線から垂直の距離(Wa)です 基準線を指定すると幅員が自動で表示されます
		斜線勾配を入力します 通常は、「与条件設定/用途地域」で設定した値となります
		始点側の道路高さを入力します 通常は、「与条件編集/境界線条件」で設定した値となります
		終点側の道路高さを入力します 通常は、「与条件編集/境界線条件」で設定した値となります

・隣地境界線を選択した場合

番号	項目	概要
⑧	境界線条件(隣地斜線)	立上り高さ
		傾斜
		隣地高
		隣地斜線の立上り高さを入力します
		斜線勾配を入力します 通常は「与条件設定/用途地域」で設定した値が表示となります
		隣地高を入力します 通常は、「与条件編集/境界線条件」で設定した値となります

7-8-1 パラメータ設定で傾斜を設定する(道路斜線・隣地斜線)

[操作手順]

- 1) 「選択」コマンドを選択します。



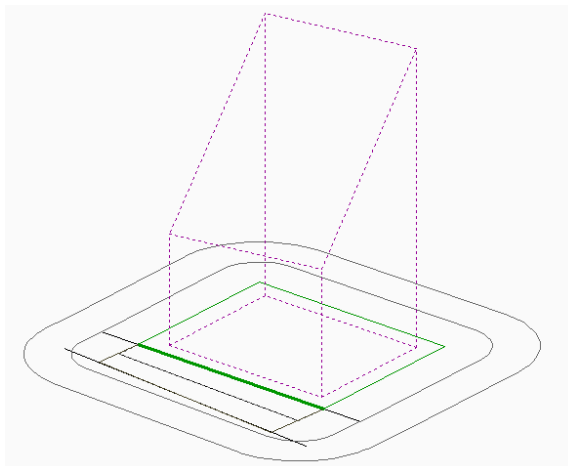
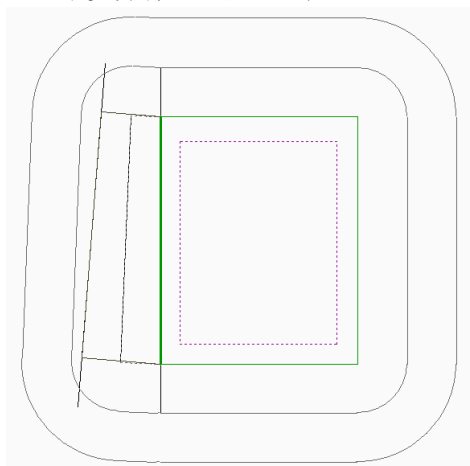
- 2) 平面図またはアイソメ図より、傾斜を設定するブロックを選択します。
- 3) 「基準境界線指定」コマンドを選択します。



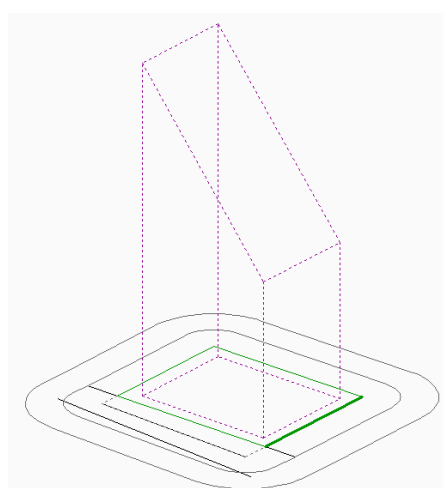
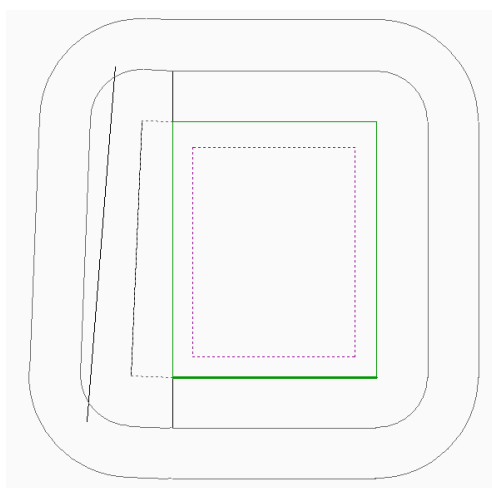
- 4) 平面図より、斜線の基準となる境界線を選択します。

5) 選択した境界線によって、「道路斜線」・「隣地斜線」が自動的に切り替わります。

・道路境界線を選択した場合



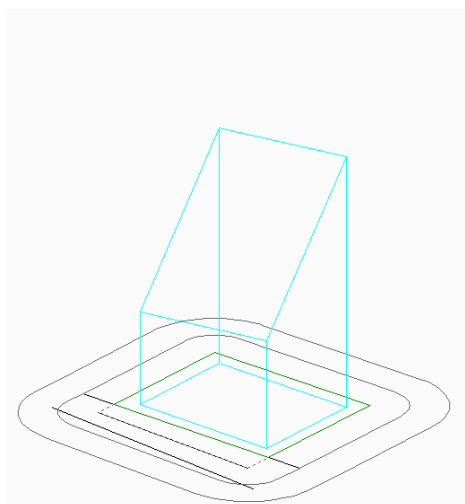
・隣地境界線を選択した場合



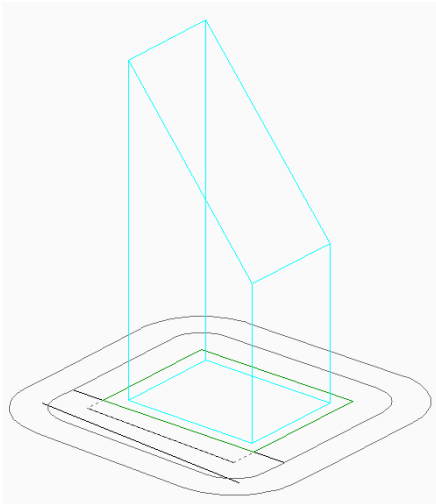
6) 各種パラメータを設定します。

7) 「変換実行」を選択します。

・道路境界線を選択した場合



・隣地境界線を選択した場合



7-8-2 基準線を作成して傾斜を設定する(道路斜線)

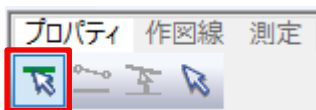
[操作手順]

- 1) 「選択」コマンドを選択します。

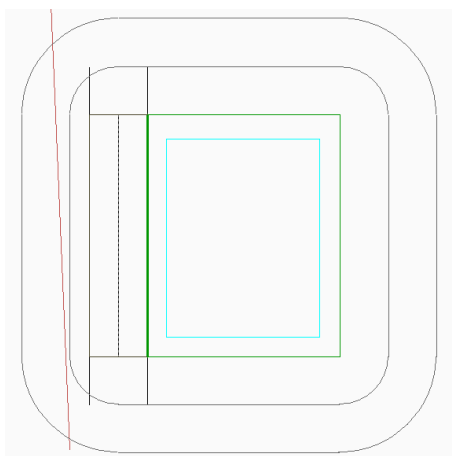


- 2) 平面図またはアイソメ図より、傾斜を設定するブロックを選択します。

- 3) 「基準境界線指定」コマンドを選択します。



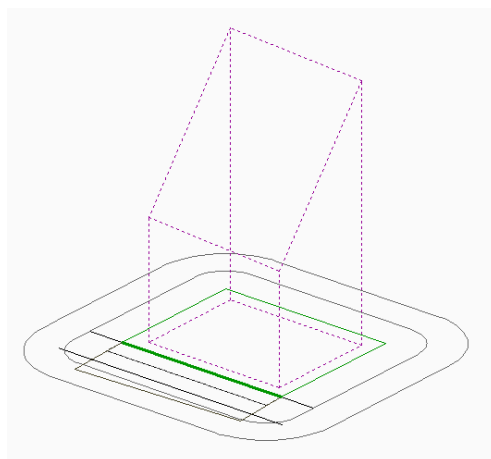
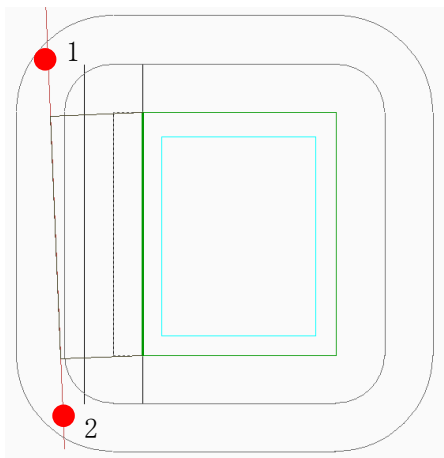
- 4) 平面図より、斜線の基準となる道路境界線を選択します。



- 5) 「基準線作成」コマンドを選択します。

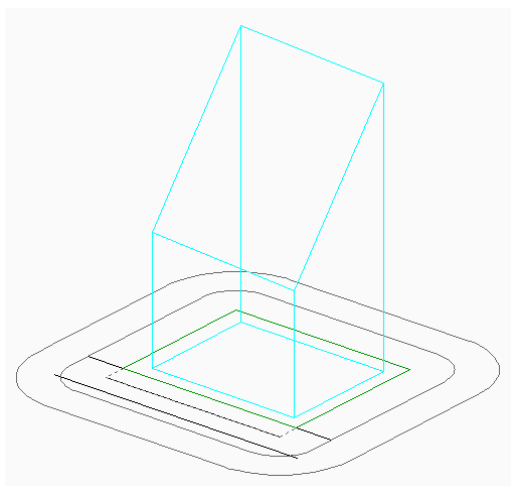


- 6) 平面図で、任意の2点を指定し前面道路の反対側の境界線を作成します。



- 7) 各種パラメータを設定します。

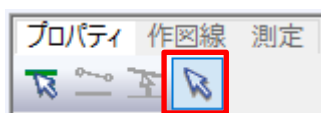
- 8) 「変換実行」を選択します。



7-8-3 基準線を指定して傾斜を設定する(道路斜線)

[操作手順]

- 1) 「選択」コマンドを選択します。

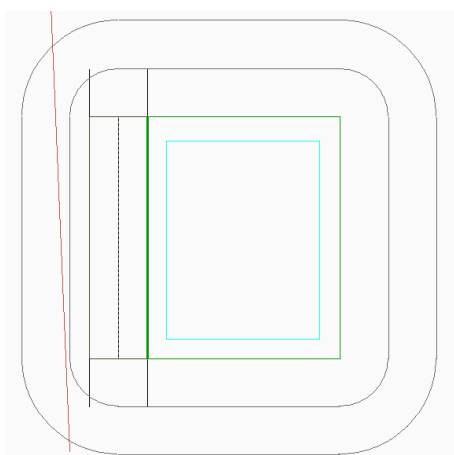


- 2) 平面図またはアイソメ図より、傾斜を設定するブロックを選択します。

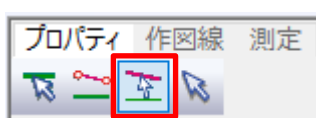
- 3) 「基準境界線指定」コマンドを選択します。



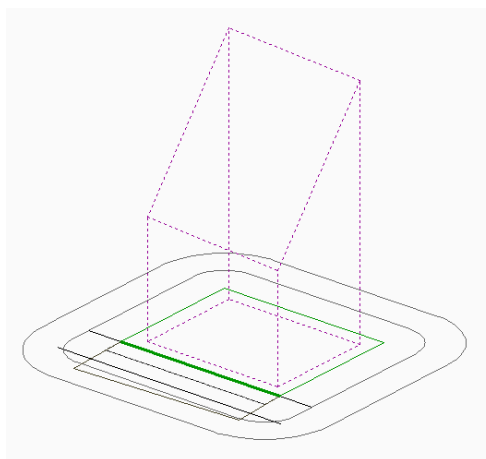
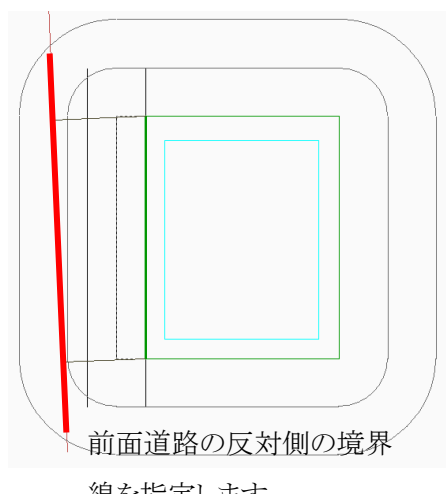
- 4) 平面図より、斜線の基準となる道路境界線を選択します。



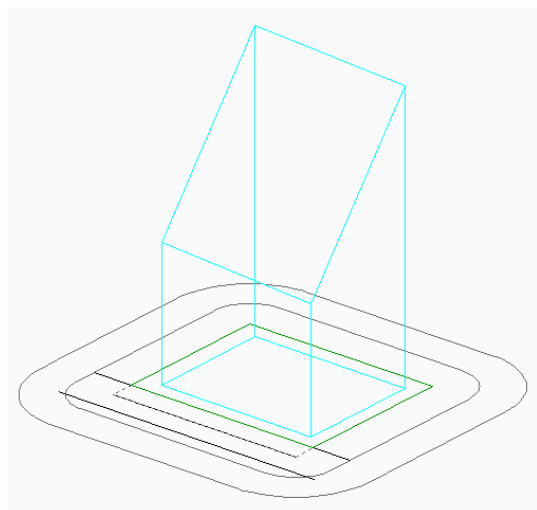
- 5) 「基準線指定」コマンドを選択します。



- 6) 平面図で、前面道路の反対側の境界線を指定します。



- 7) 各種パラメータを設定します。
8) 「変換実行」を選択します。



7-9 フロア計画

○ブロックの断面計画の階ごとの面積を集計します。

○予め断面計画を設定する必要があります。

① **計算**

☐ ② 斜線対象のみ

③ 敷地面積: 1443.24 m²

④ 許容建築面積: 1010.27 m²

⑤ 許容延床面積: 3463.79 m²

⑥ 延床面積: 4126.84 m²

⑦

階	面積
10	412.68m ²
9	412.68m ²
8	412.68m ²
7	412.68m ²
6	412.68m ²
5	412.68m ²
4	412.68m ²
3	412.68m ²
2	412.68m ²
1	412.68m ²

番号	項目	概要
①	計算	面積を計算します
②	斜線対象のみ	チェックを入れると、斜線計算対象ブロックのみ計算します
③	敷地面積	敷地面積を表示します
④	許容建築面積	許容建築面積を表示します
⑤	許容延床面積	許容延床面積を表示します
⑥	延床面積	延床面積を表示します
⑦	面積表	各階の床面積を表示します

7-9-1 延床面積を算定する

[操作手順]

1) 「計算」を選択します。

計算

☐ 斜線対象のみ

敷地面積: 1443.24 m²

許容建築面積: 1010.27 m²

許容延床面積: 3463.79 m²

延床面積: 4126.84 m²

7-10 ドーム屋根

○ブロックの上面にドーム屋根形状のブロックを作成します。

○平面形状の分割数は「環境設定/建物形状」の設定値が反映されます。

⑤

① 変換実行

② 中心X: -11.559 m

③ 中心Y: -7.609 m

④ 高さ: 30.000 m

⑥

傾斜面 ☒ 階段状 ☐

薄い ☐ 厚い ☒

⑦ 直径: 15.412 m

⑧ 0.000 m

⑨ 7.706 m

⑩ 0.000 m

⑪ 0.000 m

⑫ 7.706 m

⑬ 0.000 m

番号	項目	概要
①	変換実行	ドーム屋根を作成します
②	中心 X	ドーム屋根の中心点の X 座標です
③	中心 Y	ドーム屋根の中心点の Y 座標です
④	高さ	ドーム屋根の下面の ZD 座標です
⑤	ブロック作成方法	傾斜面 ドーム屋根の個々のブロックを、傾斜面に設定します
		階段状 ドーム屋根の個々のブロックを、階段状に設定します
⑥	作成ブロック形状	薄い 上部半球のみのドーム屋根を作成します
		厚い 上部半球及び下部半球のドーム屋根を作成します
⑦	直径	ドーム屋根の直径です
⑧	上部半球底辺	上部半球に採用する底辺長さです
⑨	上部半球露出部	上部半球に採用する露出部分の高さです
⑩	上部半球埋め込み部	上部半球に採用する埋め込み部分の高さです
⑪	下部半球底辺	下部半球に採用する底辺の長さです
⑫	下部半球露出部	下部半球に採用する露出部分の高さです
⑬	下部半球埋め込み部	下部半球に採用する埋め込み部分の高さです

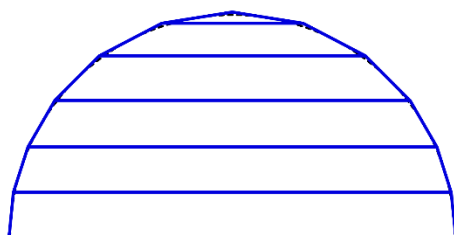
※底辺は、直径以上の数値は入力できません。

※露出部及び埋め込み部は、半径以上の数値は入力できません。

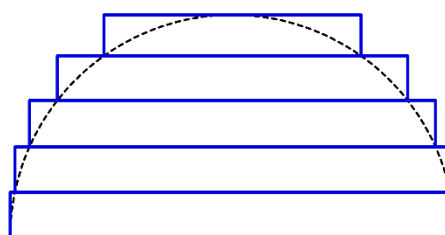
※⑪～⑬は「作成ブロック形状」で「厚い」を選択した場合に有効です。

※⑧、⑨、⑩及び⑪、⑫、⑬はそれぞれの値が連動しています。

※球に外接するブロックを作成します。



傾斜面

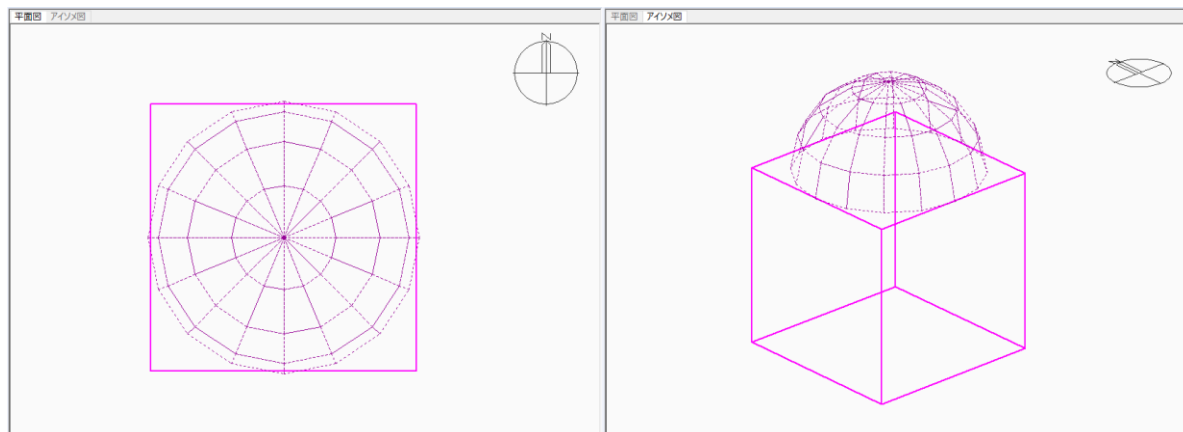


階段状

7-10-1 ドーム屋根を作成する

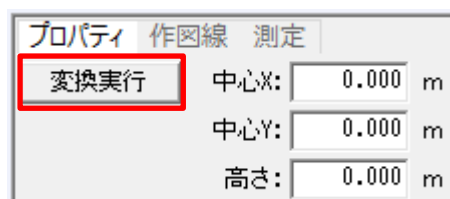
[操作手順]

- 1) 平面図またはアイソメ図より、ドーム屋根を作成するブロックを選択します。

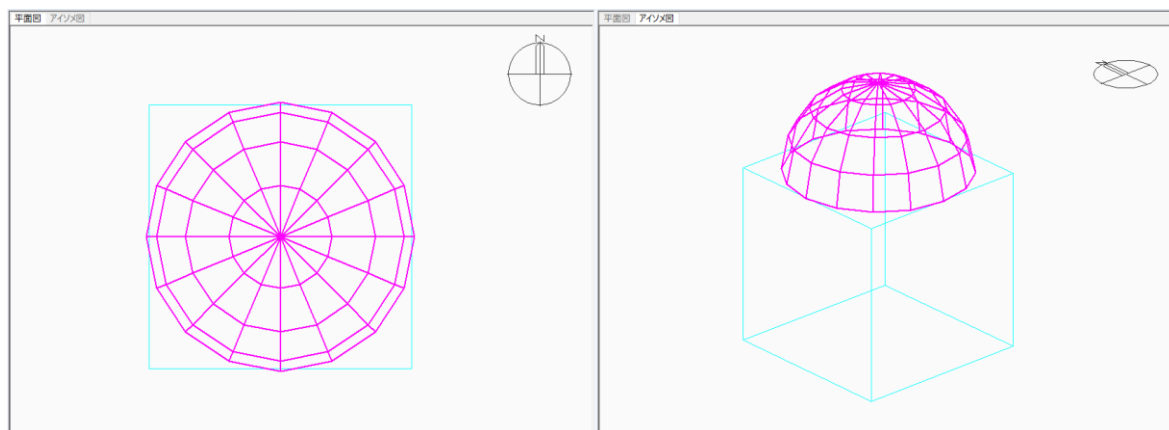


※選択したブロックの上面に破線のプレビューが表示されます。

- 2) 各パラメータを設定します。
- 3) 「変換実行」を選択します。

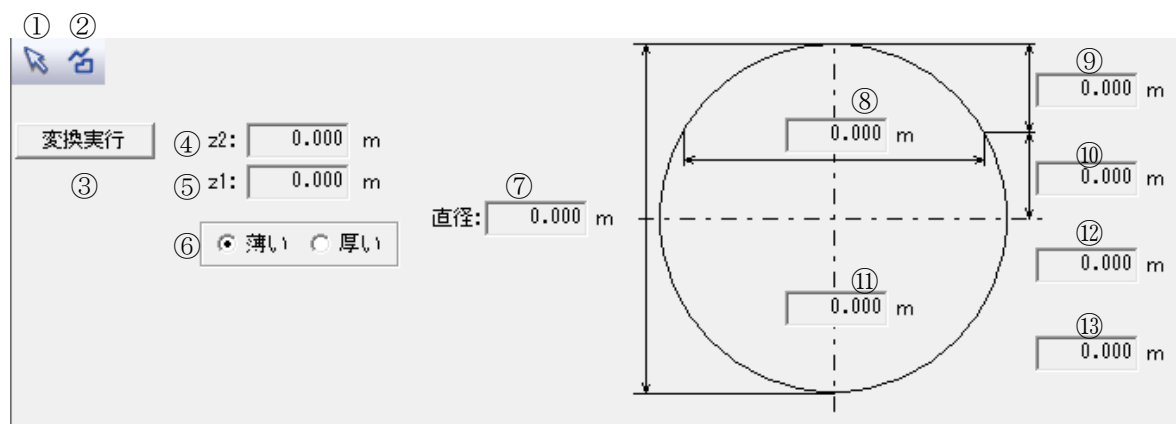


※「変換実行」を選択するまでは、対象ブロックを切り替えることができます。



7-11 ヴォールト屋根

- ブロックの上面にヴォールト屋根形状のブロックを作成します。
- 平面形状が長方形のヴォールト屋根のみ作成できます。
- 断面形状の分割数は「環境設定/建物形状」の設定値が反映されます。



番号	項目	概要
①	選択	ヴォールト屋根を作成するブロックを選択します
②	作成	ヴォールト屋根の妻面となる基準辺を選択します
③	変換実行	ヴォールト屋根を作成します
④	z2	選択した辺側の妻面の下面の ZD 座標です
⑤	z1	選択した辺の反対側の妻面の下面の ZD 座標です
⑥	作成ブロック	薄い
	形状	厚い
⑦	直径	ヴォールト屋根の直径です
⑧	上部半円底辺	上部半円に採用する底辺の長さです
⑨	上部半円露出部	上部半円に採用する露出部分の高さです
⑩	上部半円埋め込み部	上部半円に採用する埋め込み部分の高さです
⑪	下部半円底辺	下部半円に採用する底辺です
⑫	下部半円露出部	下部半円に採用する露出部分の高さです
⑬	下部半円埋め込み部	下部半円に採用する埋め込み部分の高さです

※底辺は、直径以上の数値は入力できません。

※露出部及び埋め込み部は、半径以上の数値は入力できません。

※⑪～⑬は「作成ブロック形状」で「厚い」を選択した場合に有効です。

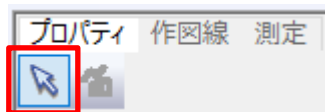
※⑧、⑨、⑩及び⑪、⑫、⑬はそれぞれの値が連動しています。

※半円に外接するブロックを作成します。

7-11-1 ヴォールト屋根を作成する

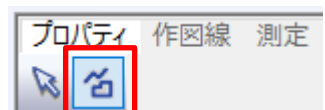
[操作手順]

- 1) 「選択」コマンドを選択します。

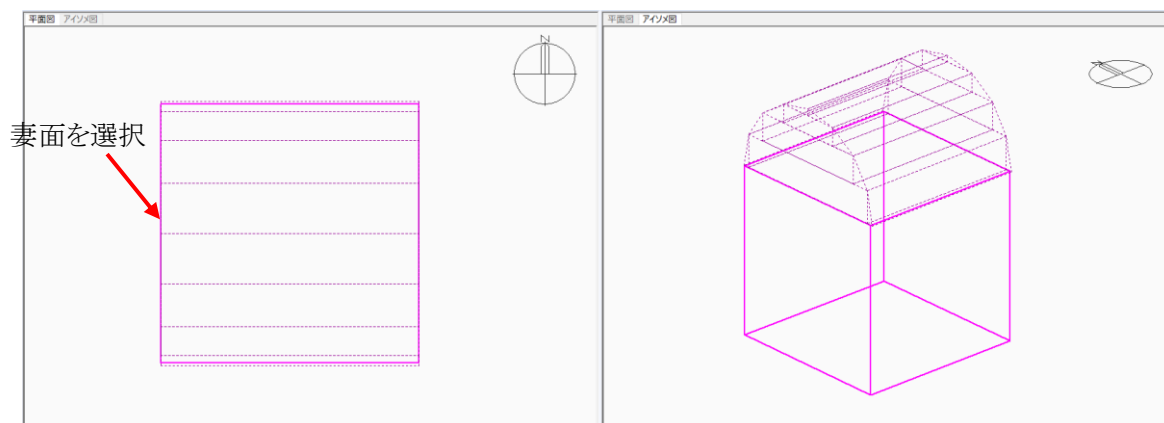


- 2) 平面図またはアイソメ図より、ヴォールト屋根を作成するブロックを選択します。

- 3) 「作成」コマンドを選択します。



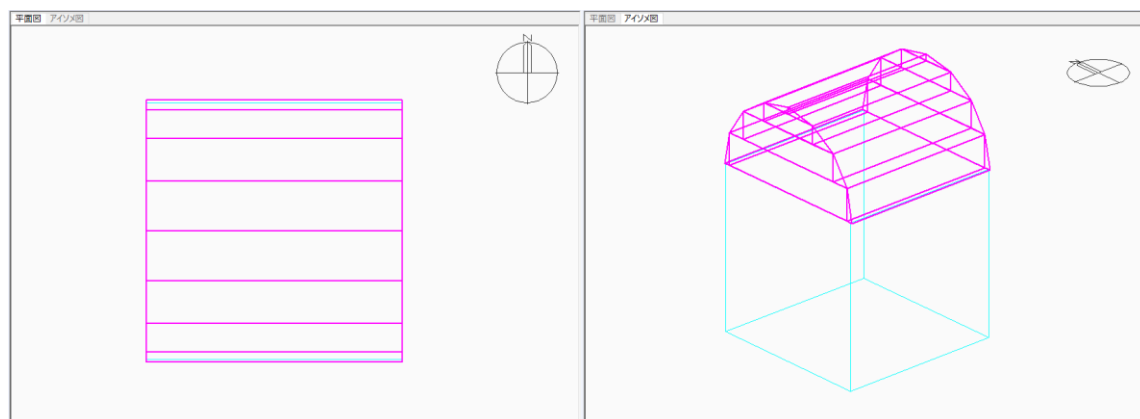
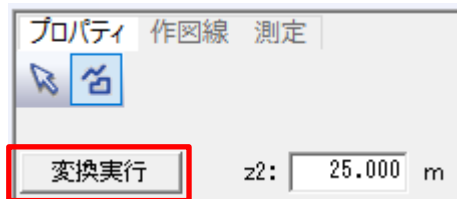
- 4) 平面図でヴォールト屋根の妻面となる基準辺を選択します。



※基準辺を選択すると、破線でプレビューが表示されます。

- 5) 各パラメータを設定します。

- 6) 「変換実行」を選択します。



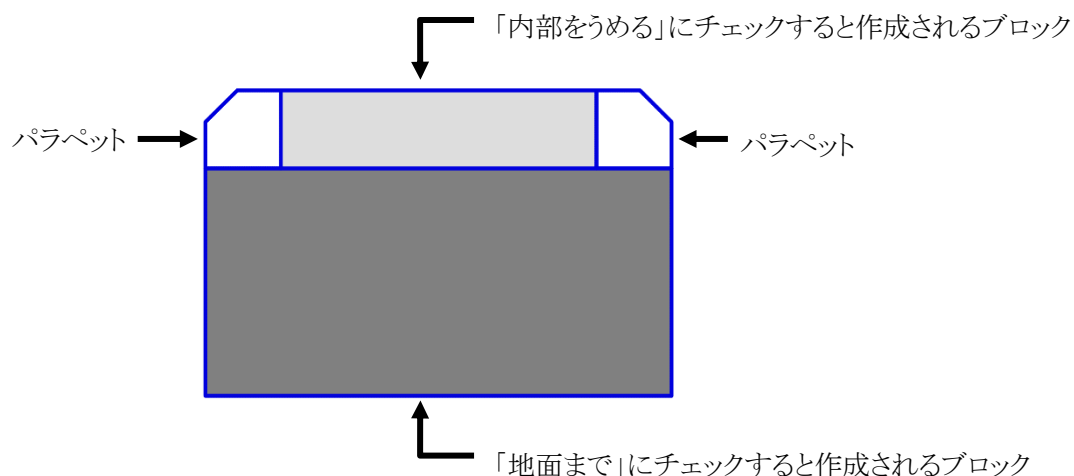
7-12 パラペット

○ブロックの上面にパラペット形状のブロックを作成します。

The interface shows a diagram of a parapet with the following dimensions and settings:

- ① 変換実行 (Convert)
- ② 0.000 m (Taper height)
- ③ 0.000 m (Rise height)
- ④ 0.000 m (Rise height)
- ⑤ 高さ: 30.000 m (Total height)
- ⑥ 0.000 m (Taper width)
- ⑦ 0.000 m (Horizontal width)
- ⑧ ☐ 地面まで (To ground level)
- ⑨ ☐ 内部をうめる (Fill interior)

番号	項目	概要
①	変換実行	パラペットを作成します
②	パラペット高さ	パラペット全体の下面からの高さです ③+④の高さとなります
③	テーパ部高さ	テーパ部の立上り部上端からの高さです
④	立上り部高さ	立上り部の底面からの高さです
⑤	高さ	パラペットの底面の本システムの±0からの高さです
⑥	テーパ部幅	テーパ部の幅です
⑦	水平部幅	水平部の幅です
⑧	地面まで	チェックを入れると、下面を本システムの±0に設定します
⑨	内部をうめる	チェックを入れると、パラペット形状の内部にブロックを作成します

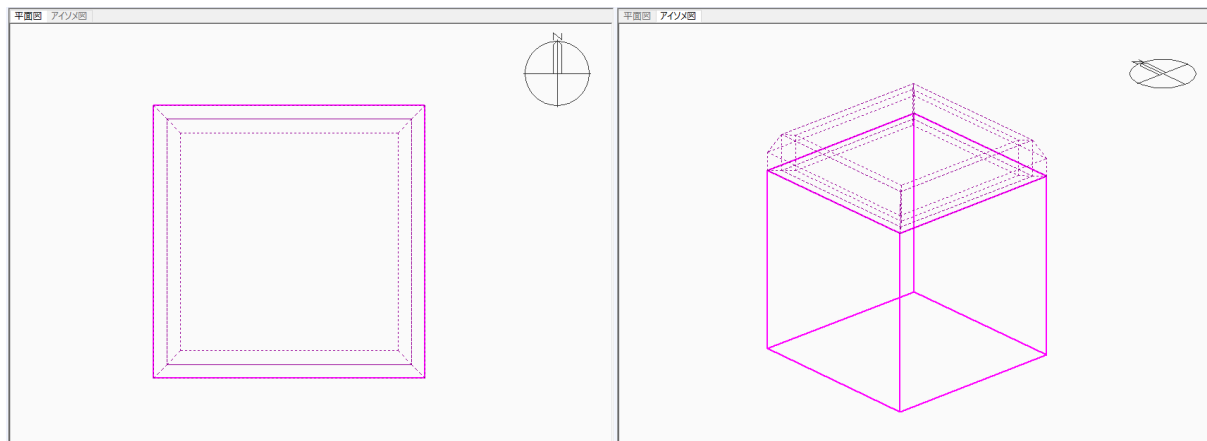


7-12-1 パラペットを作成する

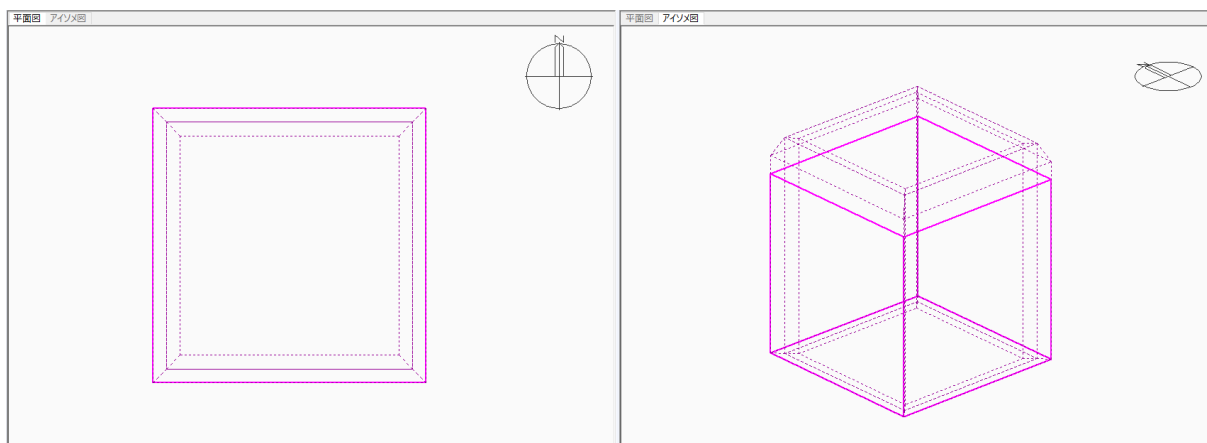
[操作手順]

- 1) 平面図またはアイソメ図より、パラペットを作成するブロックを選択します。
- 2) 各パラメータを設定します。

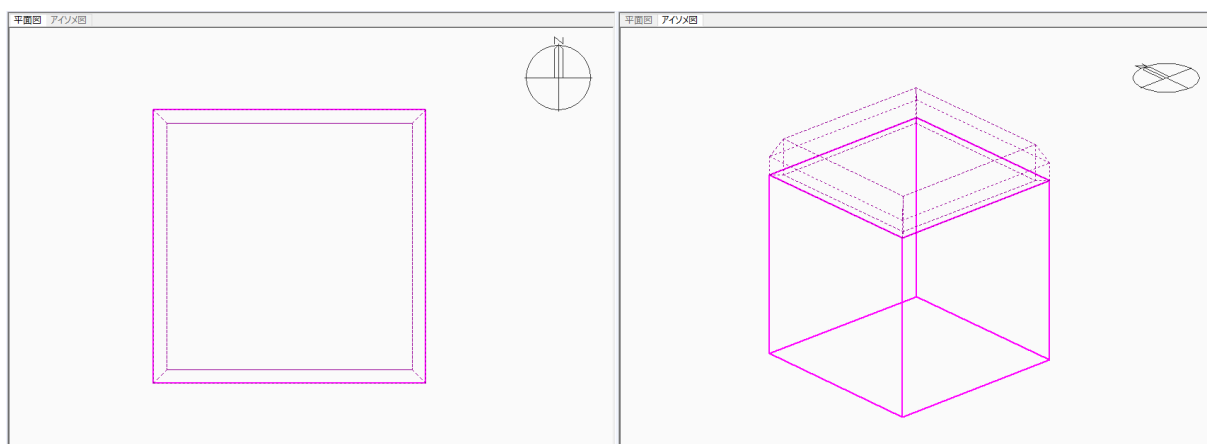
・「地面まで」:チェック無、「内部を埋める」:チェック無



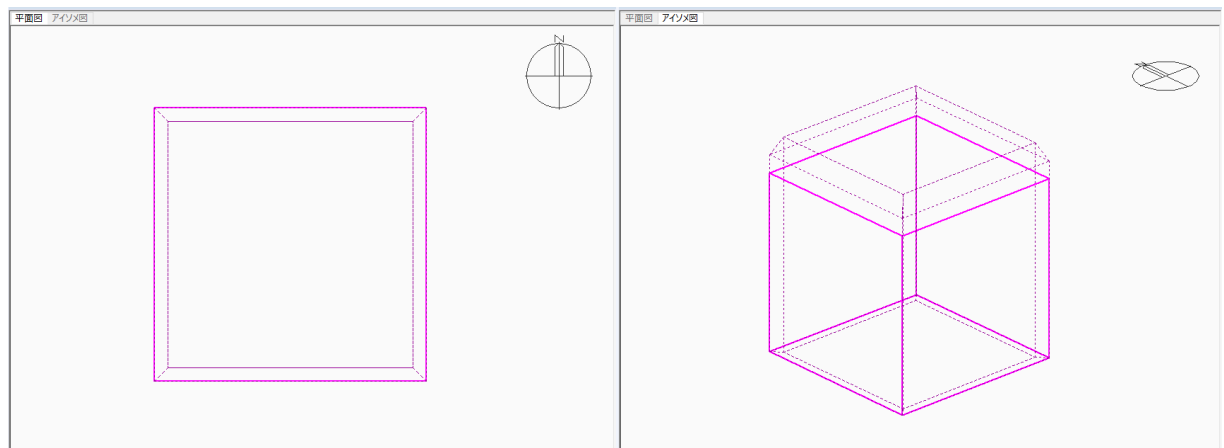
・「地面まで」:チェック有、「内部を埋める」:チェック無



・「地面まで」:チェック無、「内部を埋める」:チェック有

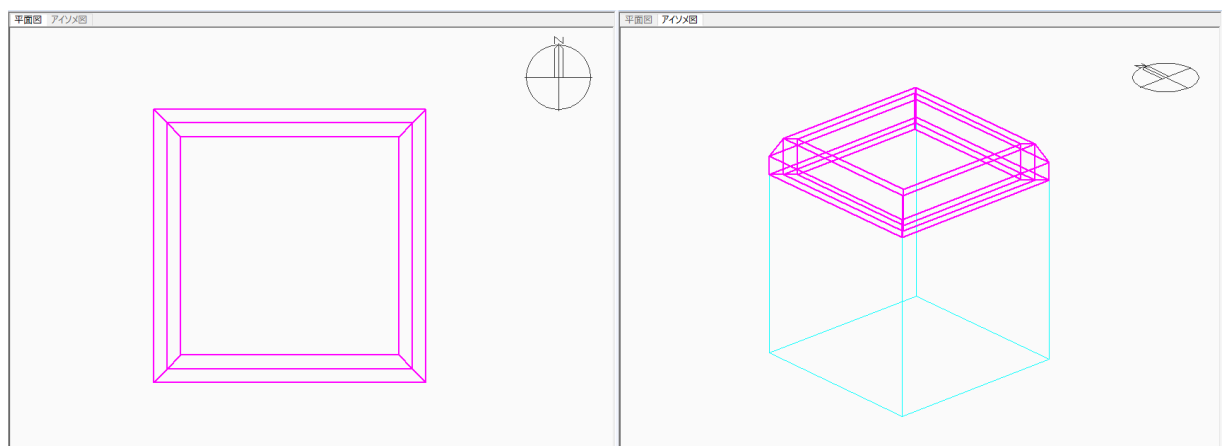
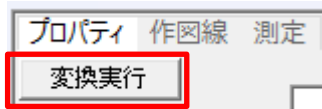


- 「地面まで」:チェック有、「内部を埋める」:チェック有



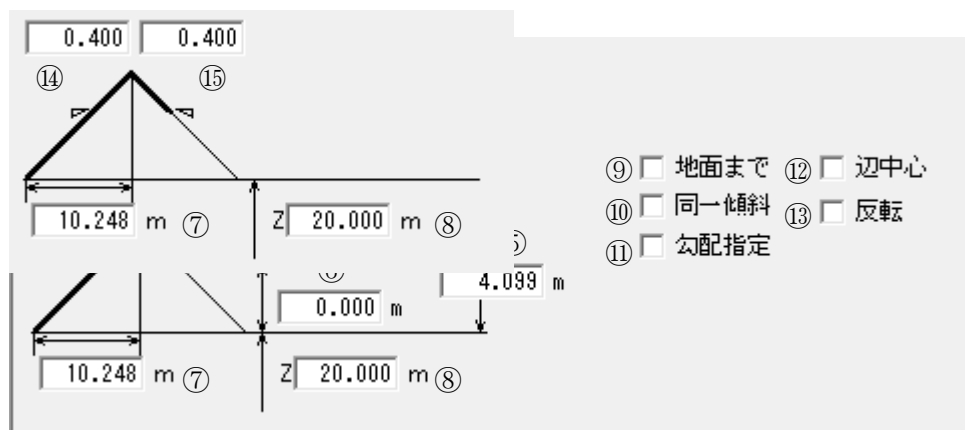
※パラメータを設定すると、プレビューが破線で表示されます。

- 3) 「変換実行」を選択します。



7-13 切妻屋根

○ブロックの上面に切妻屋根形状のブロックを作成します。



・勾配指定にチェックを入れた場合

番号	項目	概要
①	選択	切妻屋根を作成するブロックを選択します
②	作成	切妻屋根の妻面となる基準辺を選択します
③	辺移動	棟のラインを移動します
④	変換実行	切妻屋根を作成します
⑤	棟高さ	切妻屋根の下面から上面(棟)までの高さです
⑥	水下立上り	基準辺終点側の水下の立上り高さです
⑦	棟ライン位置	基準辺始点側からの棟ラインの位置です
⑧	底面高さ	切妻屋根の下面の ZD 座標です
⑨	地面まで	チェックを入れると、下面を本システムの±0 に設定します
⑩	同一傾斜	チェックを入れると、棟ラインの両側の傾斜を同一に設定します
⑪	勾配指定	チェックを入れると、勾配を指定して切妻屋根を作成します
⑫	辺中心	チェックを入れると、棟ラインを基準辺の中心に設定します
⑬	反転	チェックを入れると、棟ラインを基準辺の中心を基準に反転します
⑭	基準辺始点側勾配	基準辺始点側の勾配です
⑮	基準辺終点側勾配	基準辺終点側の勾配です

7-13-1 切妻屋根を作成する

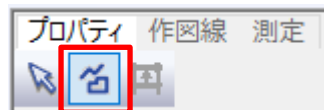
[操作手順]

- 1) 「選択」コマンドを選択します。

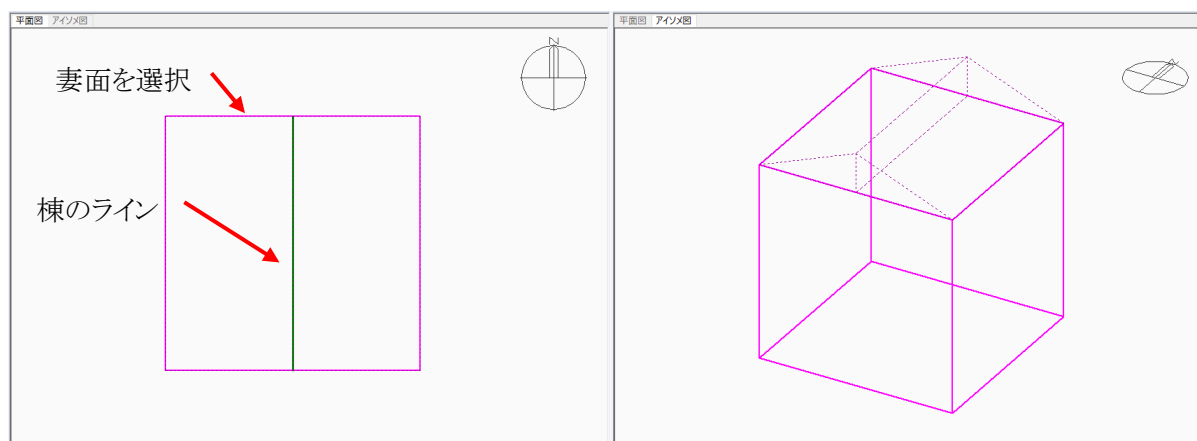


- 2) 平面図またはアイソメ図より、切妻屋根を作成するブロックを選択します。

- 3) 「作成」コマンドを選択します。



- 4) 平面図より、切妻屋根の妻面となる基準辺を選択します。



※基準辺を選択すると、棟のライン及び破線でプレビューが表示されます。

- 5) 棟のラインを変更する場合は「辺移動」コマンドを選択します。

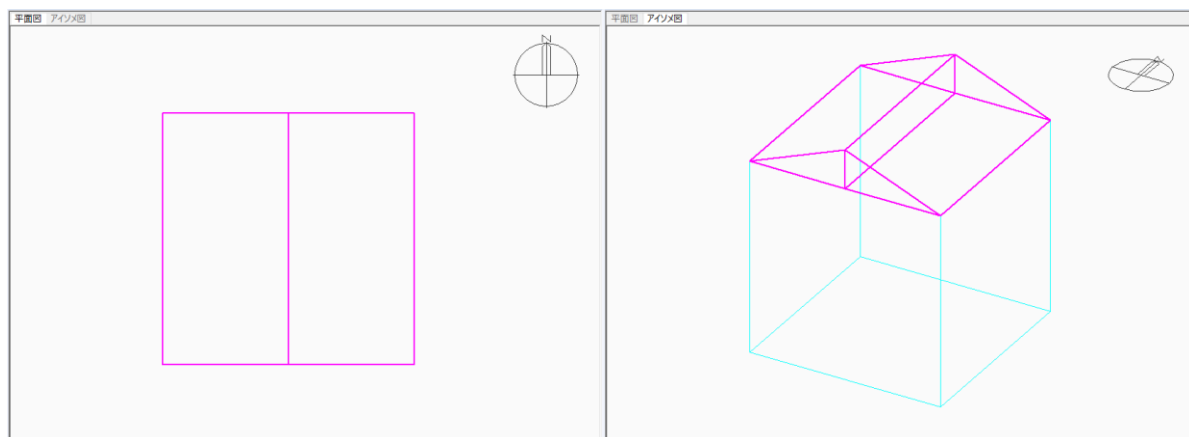


※操作方法は図形編集を参照して下さい。

- 6) 各パラメータを設定します。

※「勾配指定」にチェックを入れると勾配が指定できます。

7) 「変換実行」を選択します。



7-14 寄棟屋根

○ブロックの上面に寄棟屋根形状のブロックを作成します。

① 変換実行 ② 勾配: 1/ ④ ☐ 地面まで

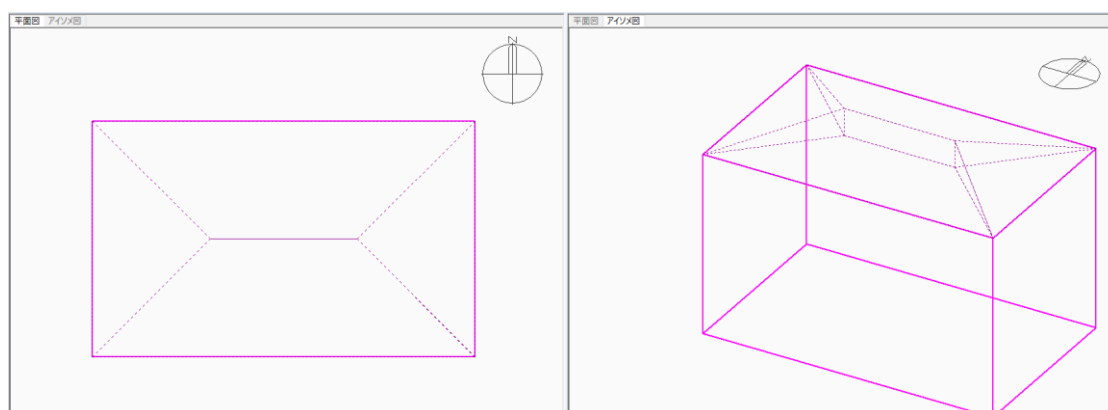
③ 地面からの高さ: m

番号	項目	概要
①	変換実行	寄棟屋根を作成します
②	勾配	寄棟屋根の勾配です
③	地面からの高さ	寄棟屋根の下面の ZD 座標です
④	地面まで	チェックを入れると、下面を本システムの±0 に設定します

7-14-1 寄棟屋根を作成する

[操作手順]

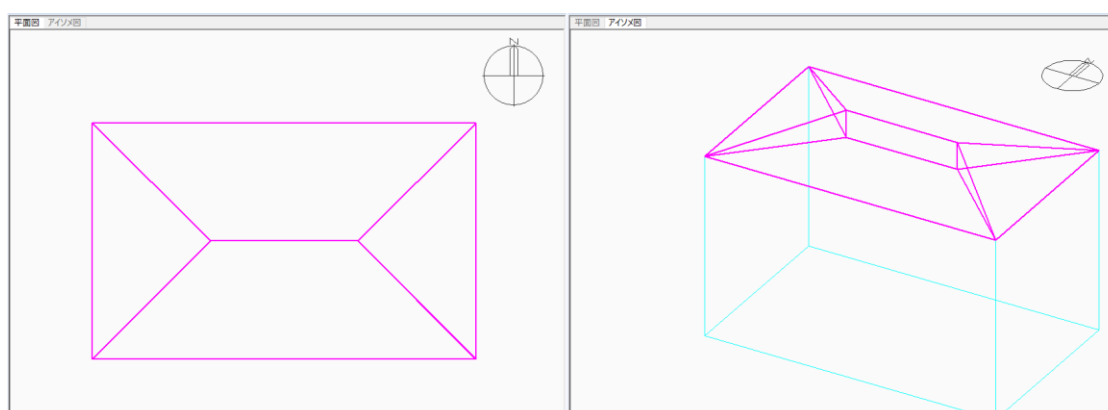
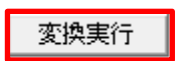
- 1) 平面図またはアイソメ図より、寄棟屋根を作成するブロックを選択します。



※ブロックを選択すると、プレビューが破線で表示されます。

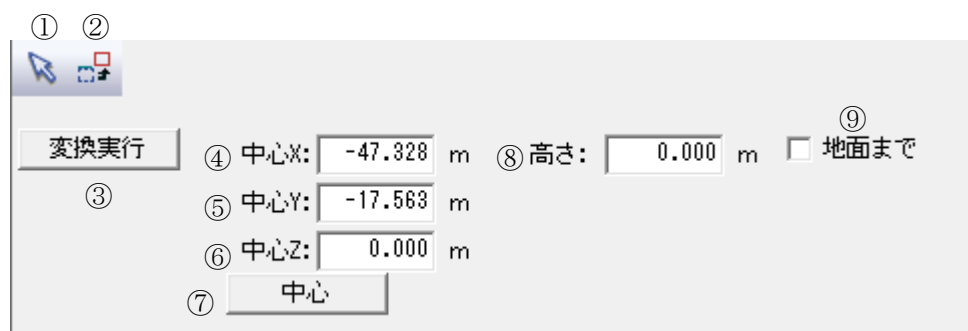
- 2) 各パラメータを設定します。

- 3) 「変換実行」を選択します。



7-15 方形屋根

○ブロックの上面に方形屋根形状のブロックを作成します。

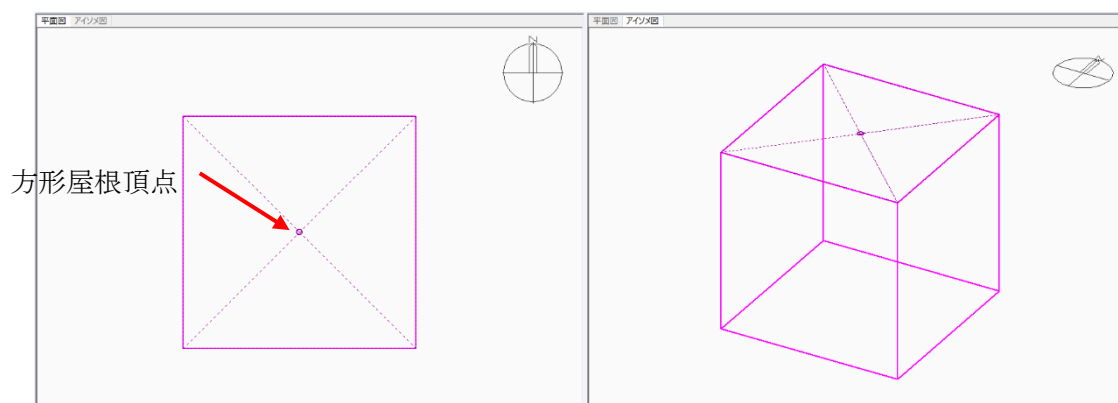


番号	項目	概要
①	選択	方形屋根を作成するブロックを選択します
②	ブロック移動	方形屋根の頂点を移動します
③	変換実行	方形屋根を作成します
④	中心 X	方形屋根の頂点の X 座標です
⑤	中心 Y	方形屋根の頂点の Y 座標です
⑥	中心 Z	方形屋根の下面の ZD 座標です
⑦	中心	頂点をブロックの図心に移動します
⑧	高さ	方形屋根の下面から上面(頂点)までの高さです
⑨	地面まで	チェックを入れると、下面を本システムの±0 に設定します

7-15-1 方形屋根を作成する

[操作手順]

1) 平面図またはアイソメ図より、方形屋根を作成するブロックを選択します。

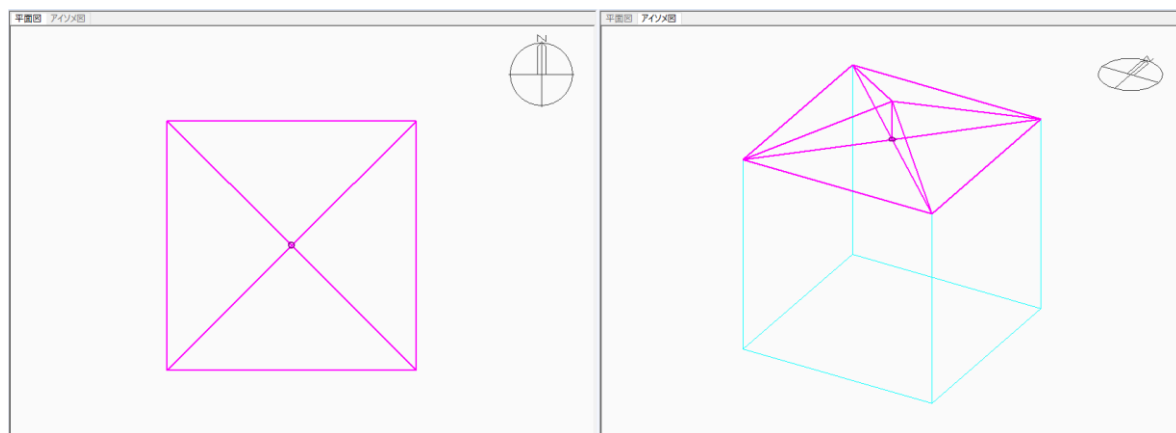


※ブロックを選択すると、プレビューが破線で表示されます。

2) 各パラメータを設定します。

3) 「変換実行」を選択します。





8 斜線・逆日影

8-1 はじめに

- 計算条件を設定し、計算を実行することで、その結果をメッシュで表示します。
- 異なる計算タイプや計算範囲を設定することで、複数の計算結果の保存が可能です。
- 等高線の表示や断面図によって、視覚的に計算結果を把握することができます。
- 面積計画表では建築可能面積を確認することができます。
- 各種斜線制限に適合しているか、簡易なチェックが可能です。
- 本システムが採用する後退距離を確認できます。

8-2 サブメニュー

- 斜線・逆日影計算のサブメニューです。

メニュー名	概要
計算条件	斜線・逆日影計算の設定及び計算を実行します
断面図	斜線・逆日影計算結果の断面図を作成します
面積計画表	断面計画別に各階の最大計画可能面積を表示します
建物高チェック	ブロックに対して高さ制限のチェックをします
建物後退距離	斜線計算対象ブロックの後退距離を表示します

8-3 斜線・逆日影計算のワークフロー

計算条件の設定

- ・斜線制限計算条件設定
- ・逆日影計算条件設定
- ・メッシュ設定

設定ケースの計算

- ・斜線制限計算
- ・逆日影計算(低層タイプ)
- ・逆日影計算(高層タイプ)
- ・斜線制限計算+逆日影計算(低層タイプ)
- ・斜線制限計算+逆日影計算(高層タイプ)

各種計算結果表示

- ・斜線メッシュ
- ・等高線
- ・断面図
- ・断面計画

8-4 計算条件

- 斜線・逆日影計算の設定及び計算を実行します。
 - 複数の計算条件を設定し、その計算結果を保存することができます。
 - 計算後は等高線及びメッシュアイソメ等を確認できます。
 - 計算結果のメッシュをブロックに変換することが可能です。
- ※発散ラインは逆日影計算には考慮されません。

① ② ③ ④ ⑤
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪

⑥ 計算
⑦ 削除
⑧ 作成
⑨ 複写追加
⑩ 建物に変換
⑪ 高層ポイント検索

No	状態	基本条件	計算タイプ	ピッチ	メッシュサイズ	表示高さ	基準辺
1	計算済	計算しない	斜線	1.000	(61×69)	50.000	南北軸
2	計算済	計算しない	斜線+逆日影(低層)	1.000	(45×56)	50.000	No1
3	計算済	計算しない	斜線+逆日影(高層)	1.000	(59×46)	50.000	No2
⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲

⑳

影響域凡例
道路斜線 隣地斜線 高度斜線 北側斜線 逆日影 絶対高さ メッシュ最高

高さ	基準辺	計算範囲	計算ライン	計算時間	X	Y	基本形面積
1.000	南北軸	後退無	内+外+分割	8時間	0.000	0.000	0.00m ²
1.000	No1	建物後退	内+外+分割	8時間	0.000	0.000	0.00m ²
1.000	No2	エリア後退	内+外+分割	8時間	80.225	90.960	459.78m ²
		㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙

※選択する項目によって表示が異なります。

番号	項目	概要
①	基準辺選択	メッシュの基準辺となる敷地境界線を選択します
②	日影領域選択	計算を実行する日影規制領域を選択します
③	高層ポイント移動	高層ポイントを移動します
④	辺後退	「計算範囲」で「辺後退」を選択した場合に、辺を移動します
⑤	エリア後退	「計算範囲」で「エリア後退」を選択した場合に、エリアの作成、選択、削除を行います
⑥	計算	斜線・逆日影計算を実行します
⑦	削除	計算 CASE を削除します
⑧	作成	計算 CASE を作成します
⑨	複写追加	計算 CASE を複写して追加します
⑩	建物に変換	斜線・逆日影計算結果のメッシュをブロックに変換します
⑪	高層ポイント検索	高層ポイントをデフォルトに戻します
⑫	No	CASE の No を表示します

番号	項目	概要	
⑬	状態	CASE の斜線・逆日影計算の状態を表示します	
		未計算	斜線・逆日影計算を計算していません
		計算済	斜線・逆日影計算を計算済です
⑭	基本条件	斜線・逆日影計算を実行するか選択します	
		計算する	斜線・逆日影計算を実行します
		計算しない	斜線・逆日影計算を実行しません
		再計算する	斜線・逆日影計算を実行します 「状態」が「計算済」の場合、斜線・逆日影計算結果を追加します
⑮	計算タイプ	斜線・逆日影計算のタイプを選択します	
		斜線	各種斜線計算のみ実行します 与条件設定/用途地域で計算対象の斜線制限を選択します
		斜線 + 逆日影 (低層)	各種斜線計算と低層タイプの逆日影計算を実行します
		斜線 + 逆日影 (高層)	各種斜線計算と高層タイプの逆日影計算を実行します
		逆日影 (低層)	低層タイプの逆日影計算のみ実行します
		逆日影 (高層)	高層タイプの逆日影計算のみ実行します
⑯	ピッチ	メッシュのピッチを設定します	
⑰	メッシュサイズ	メッシュピッチに応じたメッシュサイズを表示します	
⑱	表示高さ	結果を表示する最高高さを設定します	
⑲	基準辺	メッシュの基準方向となる辺を設定します 最大幅員の道路境界線を選択するとアイソメ図でメッシュが見易くなります	
		南北軸	方位を基準辺としてメッシュの方向を設定します
		敷地辺	任意の敷地境界線を基準辺としてメッシュの方向を設定します
⑳	計算範囲	後退距離による道路高さ制限および隣地高さ制限の緩和計算をするための計算範囲を設定します 計算範囲を設定することで、後退距離による緩和を考慮した斜線・逆日影計算を実行します	
		後退無	敷地全体を計算範囲として計算します 後退距離による緩和を行いません
		辺後退	敷地境界線に平行に後退距離を設定し計算範囲とします
		建物後退	ブロックの範囲を後退距離として計算範囲とします ※ブロックが入力されている場合のみ有効です
		エリア後退	任意の形状を入力し、計算範囲とします 閉じた形状を2つまで入力が可能です ※2つの形状のうち、小さい方の形状を 20m および 31m を超えた場合の隣地斜線の後退距離による緩和対象となる範囲として認識します

②①	計算ライン	逆日影計算を実行するラインを選択します	
		内側	内側の規制ラインの規制時間のみ逆日影計算を実行します
		外側	外側の規制ラインの規制時間のみ逆日影計算を実行します
		内＋外	内側と外側の規制ラインの規制時間の逆日影計算を実行します(デフォルト)
		内＋外＋分割	内側と外側の規制ライン及び日影規制分割線上の規制時間の逆日影計算を実行します
		内側＋分割	内側の規制ラインと日影規制分割線上の規制時間の逆日影計算を実行します
		外側＋分割	外側の規制ラインと日影規制分割線上の規制時間の逆日影計算を実行します
②②	計算時間	計算対象時間を表示します 与条件設定/日照条件で測定時間を 8 時間または 6 時間以外の時間で設定した場合、「8 時間」または「6 時間」を選択します	
②③	X	高層ポイントの X 座標を表示します	
②④	Y	高層ポイントの Y 座標を表示します	
②⑤	基本形面積	高層範囲の面積を自動計算し表示します	
②⑥	影響域凡例	影響を及ぼす高さ制限を色別に表示します	

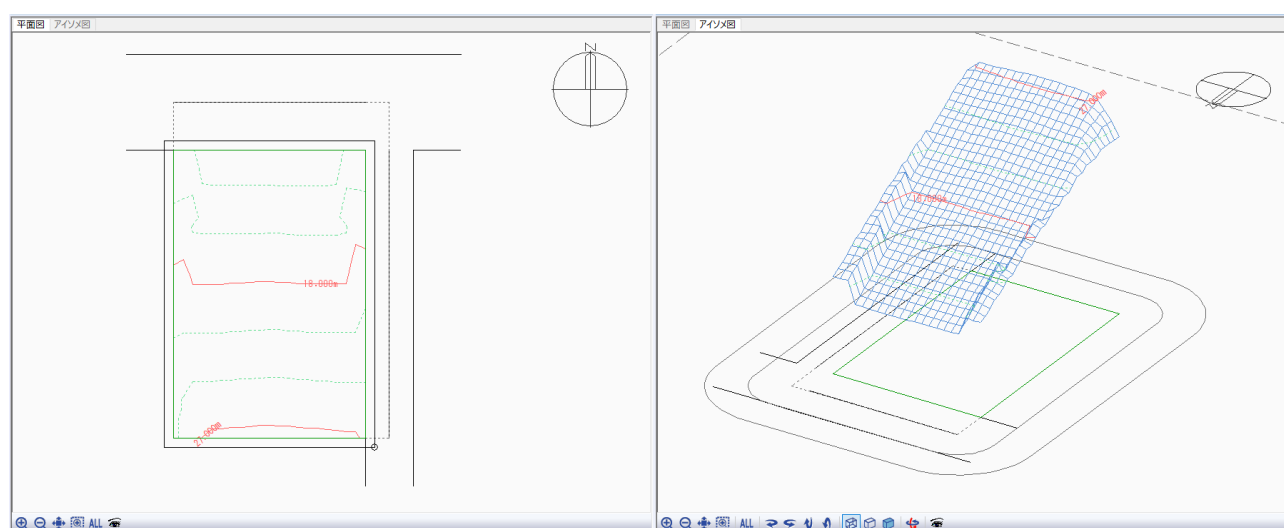
※②①～②⑤の項目は、「計算タイプ」でいずれかの「逆日影」を選択した場合のみ設定可能です

8-4-1 逆日影計算の低層タイプと高層タイプ

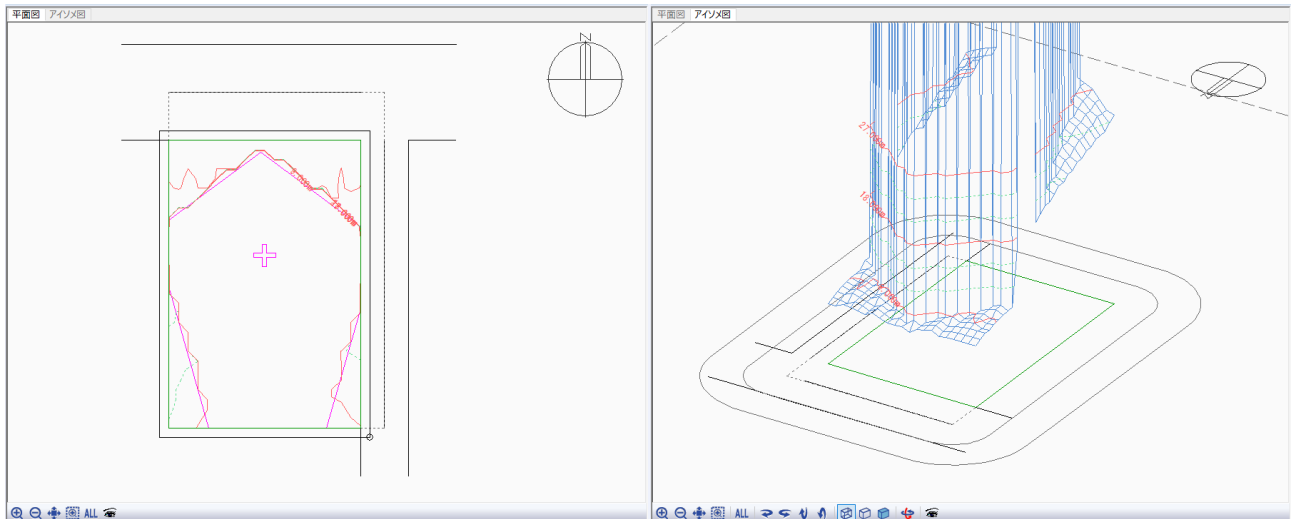
○低層タイプと高層タイプでは、ボリュームの取り方が異なります。

低層タイプ	計算範囲全体のボリュームを抑えて、屋根越しの日照を確保して日影規制に適合するボリュームを算定します
高層タイプ	計算範囲の一部に、ボリュームを集中させる高層範囲を設定し、ボリュームの横からの隙間日照を確保して日影規制に適合するボリュームを算定します

8-4-1-1 低層タイプ

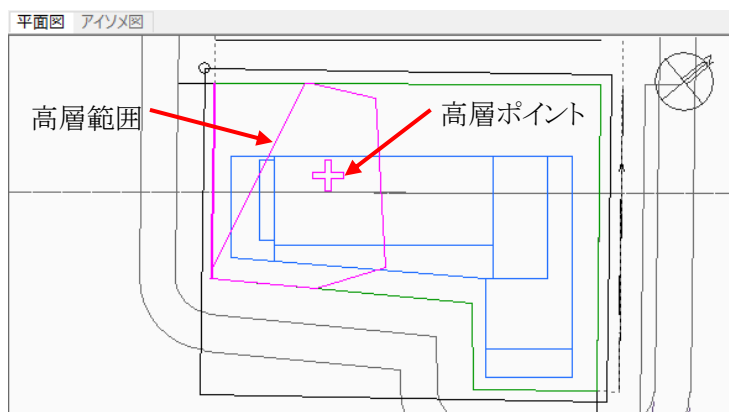


8-4-1-2 高層タイプ



8-4-2 高層範囲について

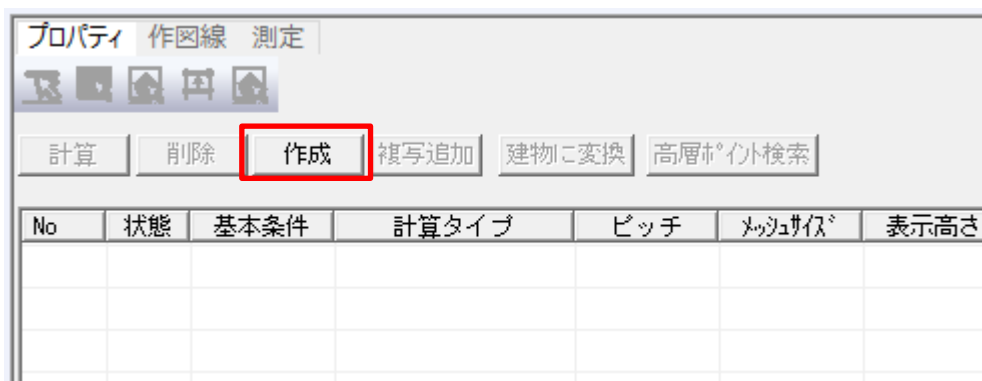
- 「計算タイプ」で「斜線+逆日影(高層)」,または「逆日影(高層)」を選択した場合は、平面図に高層範囲を表示します。
- 高層範囲の中心に十字で高層ポイントを表示します。
- デフォルトで表示する範囲が、日影規制に適合する高層部分の最大の範囲となります。



8-4-3 斜線・逆日影計算を実行する

[操作手順]

- 1) 「作成」を選択します。



- 2) 新規の計算 CASE が作成されます。

No	状態	基本条件	計算タイプ	ピッチ	メッシュサイズ	表示高さ
1	未計算	計算する	斜線	1.000	(61×69)	200.000

- 3) 「計算タイプ」プルダウンメニューより計算する種類を選択します。

No	状態	基本条件	計算タイプ	ピッチ	メッシュサイズ	表示高さ
1	未計算	計算する	斜線	1.000	(61×69)	200.000

- 4) その他の条件を必要に応じて設定します。
※複数の CASE を計算する場合は、CASE 毎に 1)～3)を繰り返します。

- 5) 「計算」を選択します。

No	状態	基本条件	計算タイプ	ピッチ	メッシュサイズ	表示高さ
1	未計算	計算する	斜線	1.000	(61×69)	200.000
2	未計算	計算する	斜線+逆日影(低層)	1.000	(61×69)	200.000
3	未計算	計算する	逆日影(低層)	1.000	(61×69)	200.000

8-4-4 日影規制領域が2以上にわたる場合の計算

○日影規制領域が2以上にわたる場合、日影規制分割線上の計算を行う必要があるため、計算を2回実行します。

[操作手順]

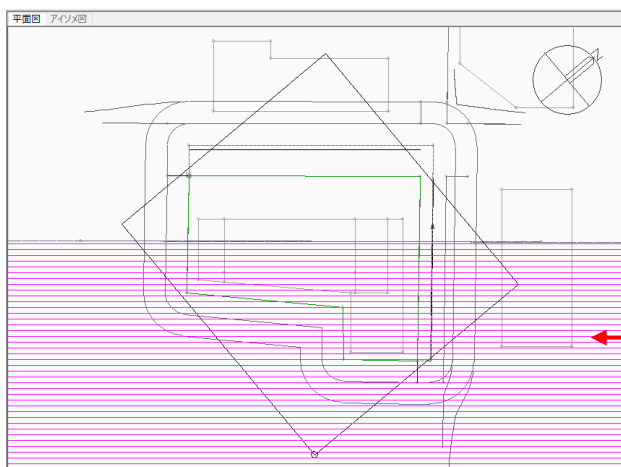
- 1) 「計算ライン」プルダウンメニューより、「内側+外側+分割」、「内側+分割」、または「外側+分割」のどれかを選択します。

メッシュサイズ	表示高さ	基準辺	計算範囲	計算ライン	計算
(61×69)	200.000	南北軸	後退無	分割	
(61×69)	200.000	南北軸	後退無	内+外	
				内側	
				外側	
				分割	
				内+外+分割	
				内側+分割	
				外側+分割	

- 2) 「日影領域選択」コマンドを選択します。

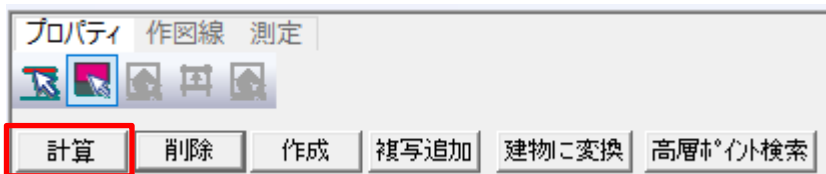


- 3) 平面図より、日影規制分割線上の計算対象となる日影規制領域を選択します。



← 日影規制領域を選択

- 4) 「計算」を選択します。



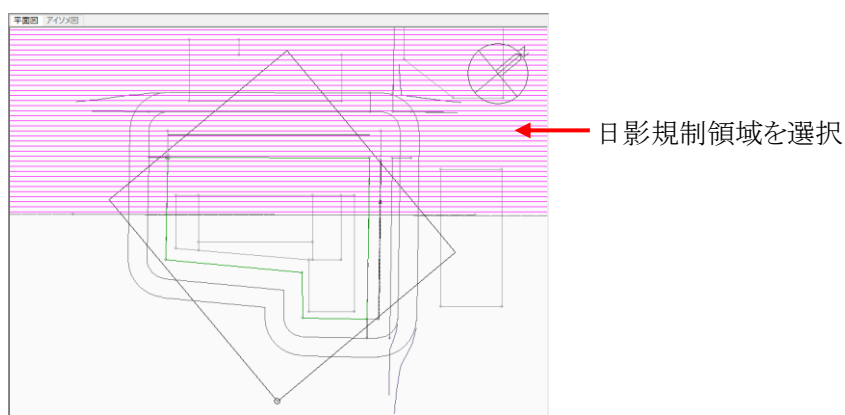
- 5) 「基本条件」プルダウンメニューより「再計算する」を選択します。

No	状態	基本条件	計算タイプ	ピッチ	メッシュサイズ	表示高さ
1	未計算	計算する	線+逆日影(低層)	1.000	(61×69)	200.000
2	未計算	計算しない 計算する 再計算する	逆日影(低層)	1.000	(61×69)	200.000

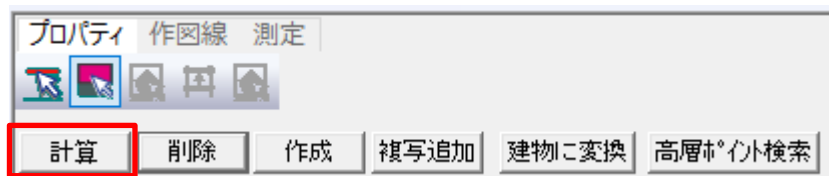
- 6) 「日影領域選択」コマンドを選択します。



- 7) 3)で選択した日影規制領域以外の日影規制領域を選択します。



- 8) 「計算」を選択します。



8-4-5 メッシュピッチについて

- 敷地の大きさや、求める計算の精度によってメッシュピッチを設定します。
 - メッシュのピッチが細かいほど精度が上がりますが、計算時間もかかります。
- ※計算可能な最大メッシュ数は、1000×1000 メッシュです。

8-4-6 計算範囲を設定する(辺後退)

[操作手順]

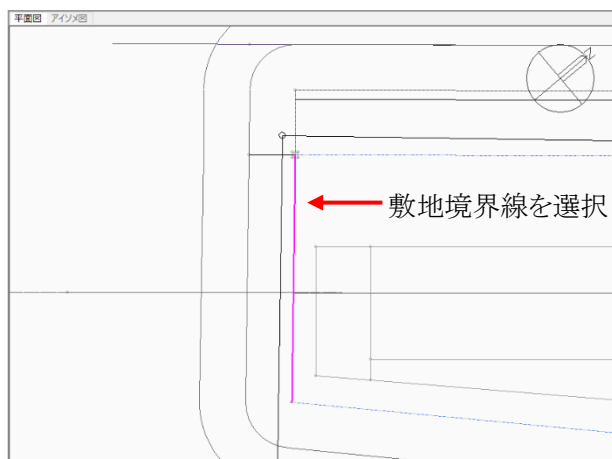
- 1) 「計算範囲」プルダウンメニューより「辺後退」を選択します。

No	状態	基本条件	計算タイプ	ピッチ	メッシュサイズ	表示高さ	基準辺	計算範囲	計
1	未計算	計算する	斜線+逆日影(低層)	1.000	(61×69)	200.000	南北軸	辺後退	
								後退無	
								辺後退	
								建物後退	
								リア後退	

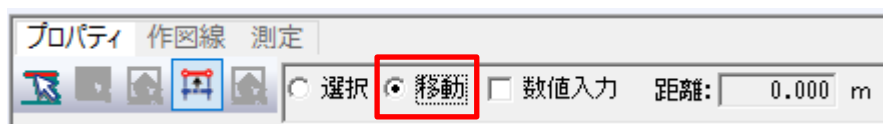
- 2) 「辺後退」コマンドを選択します。



- 3) 平面図より、後退距離を設定する敷地境界線を選択します。



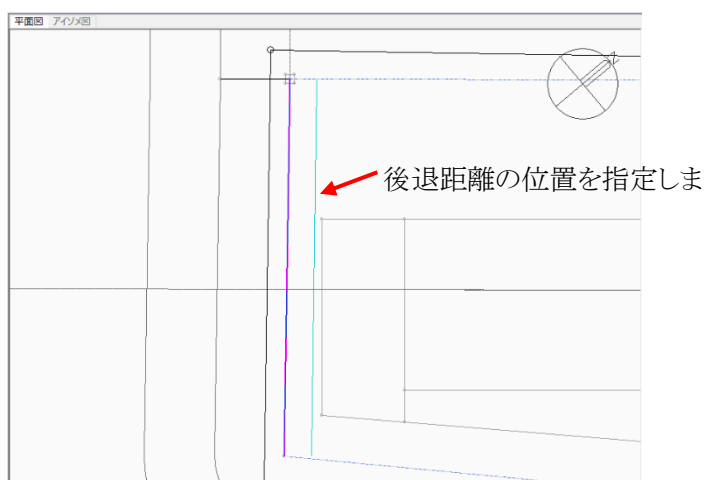
- 4) 「移動」を選択します。



※数値入力する場合は、2)の操作の後に「数値入力」を選択します。

- 5) 平面図で敷地境界線上を選択します。

- 6) 後退距離の位置を指定します。



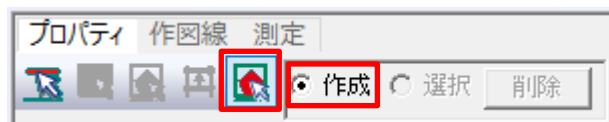
8-4-7 計算範囲を設定する(エリア後退)

[操作手順]

- 1) 「計算範囲」プルダウンメニューより「エリア後退」を選択します。

No	状態	基本条件	計算タイプ	ピッチ	メッシュサイズ	表示高さ	基準辺	計算範囲	計
1	未計算	計算する	逆日影(低層)	1.000	(61×69)	200.000	南北軸	エリア後退	
								後退無	
								辺後退	
								建物後退	
								エリア後退	

- 2) 「エリア後退」コマンドを選択、「作成」を選択します。



- 3) 平面図で、計算範囲を作成します。
※作成方法は「作成」コマンドに準じます。

8-4-8 「エリア後退」のエリアを削除する

[操作手順]

- 1) 「エリア後退」コマンドを選択し、「選択」を選択します。



- 2) 平面図で、削除するエリアを選択します。
- 3) 「削除」を選択します。



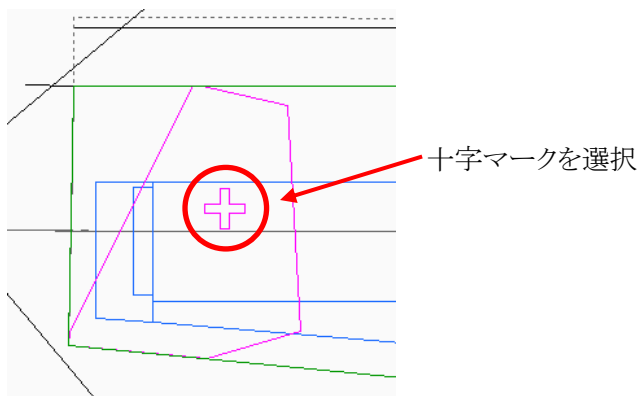
8-4-9 高層ポイントの位置を変更する

[操作手順]

- 1) 高層ポイントを移動する CASE を選択します。
- 2) 「高層ポイント移動」コマンドを選択します。



- 3) 平面図で十字マークを選択します。

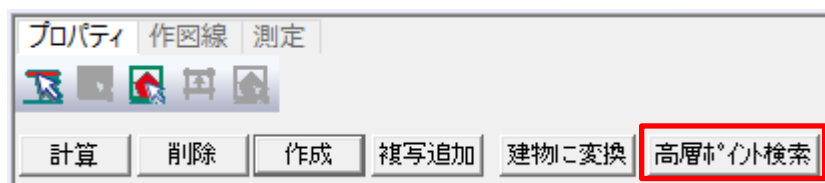


- 4) 高層ポイントを移動します

8-4-10 高層ポイントの位置をデフォルトに戻す

[操作手順]

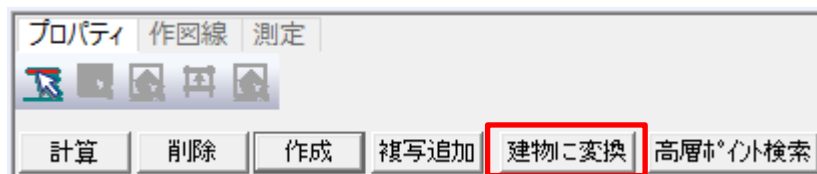
- 1) 高層ポイントをデフォルトに戻す CASE を選択します。
- 2) 「高層ポイント検索」コマンドを選択します。



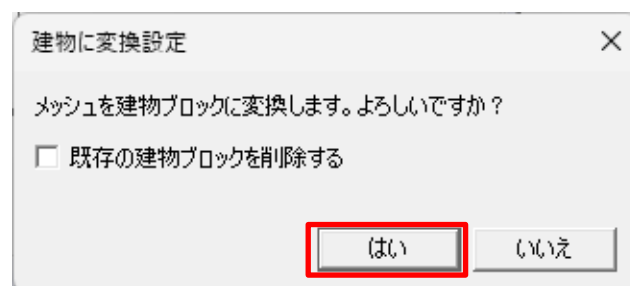
8-4-11 斜線・逆日影計算結果をブロックに変換する

[操作手順]

- 1) ブロックに変換する CASE を選択します。
※計算済みの CASE を選択する必要があります。
- 2) 「建物に変換」を選択します。



- 3) 「はい」を選択します。
※「既存の建物ブロックを削除する」にチェックを入れると、既に登録されている建物ブロックを削除して、選択済みメッシュを建物ブロックに置き換えます。
- 4) 建物ブロックに変換されます。
等高線の高さで建物ブロックに変換されます。



8-4-12 等高線を表示する

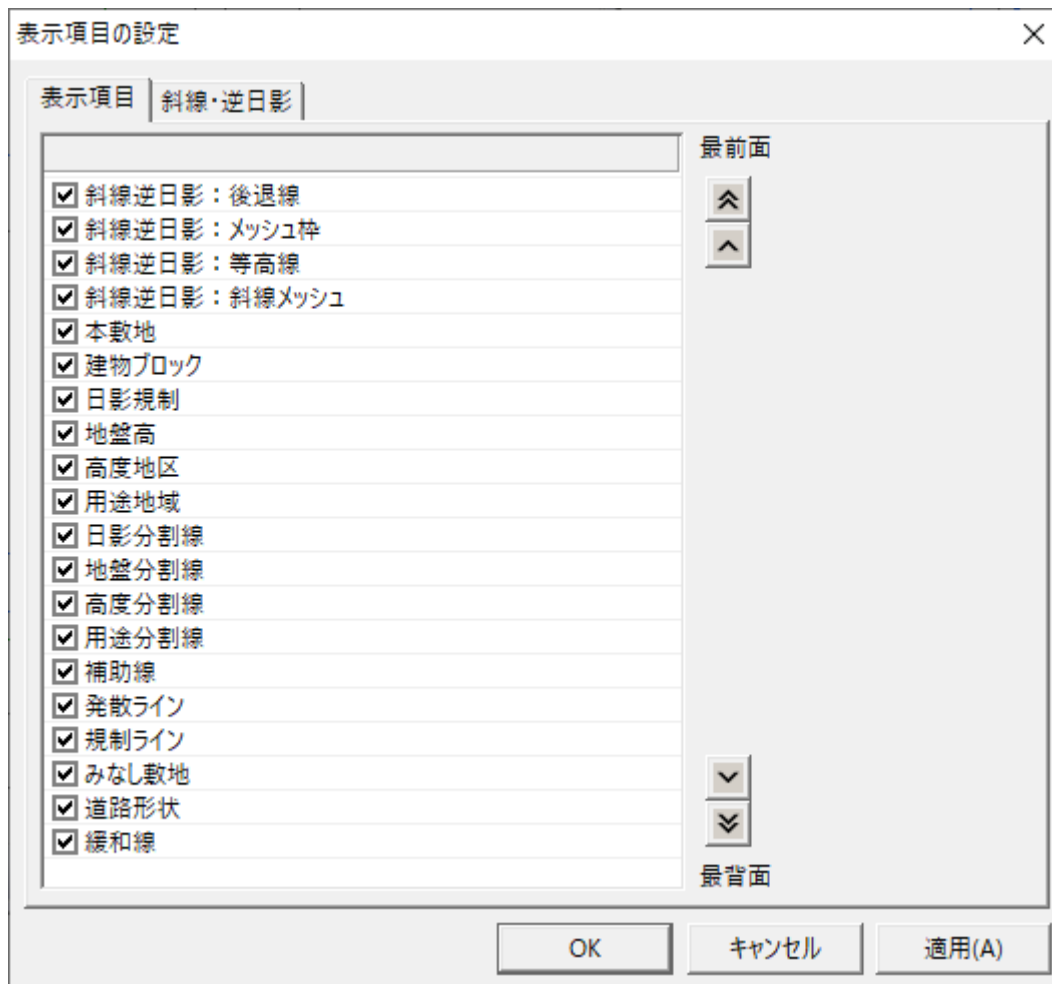
8-4-12-1 平面図に等高線を表示する

[操作手順]

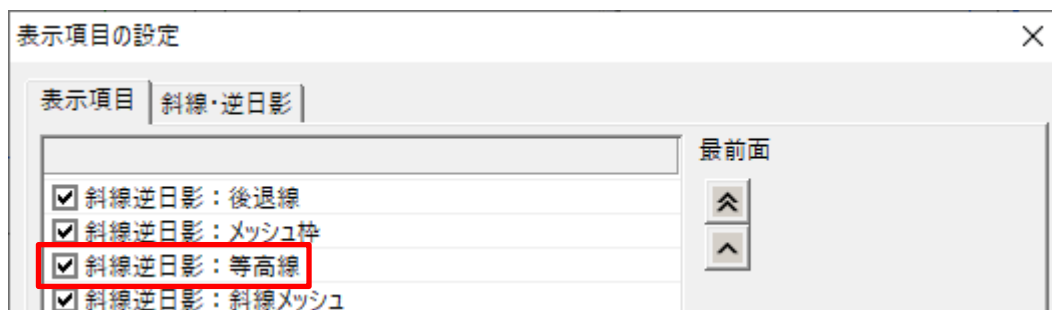
- 1) 平面図を表示した「図形表示ウィンドウ」より、「表示項目の設定」を選択します。



- 2) 「表示項目の設定」ダイアログが開きます。



- 3) 「斜線逆日影：等高線」にチェックを入れます。



- 4) 「適用」を選択し、「閉じる」を選択します。



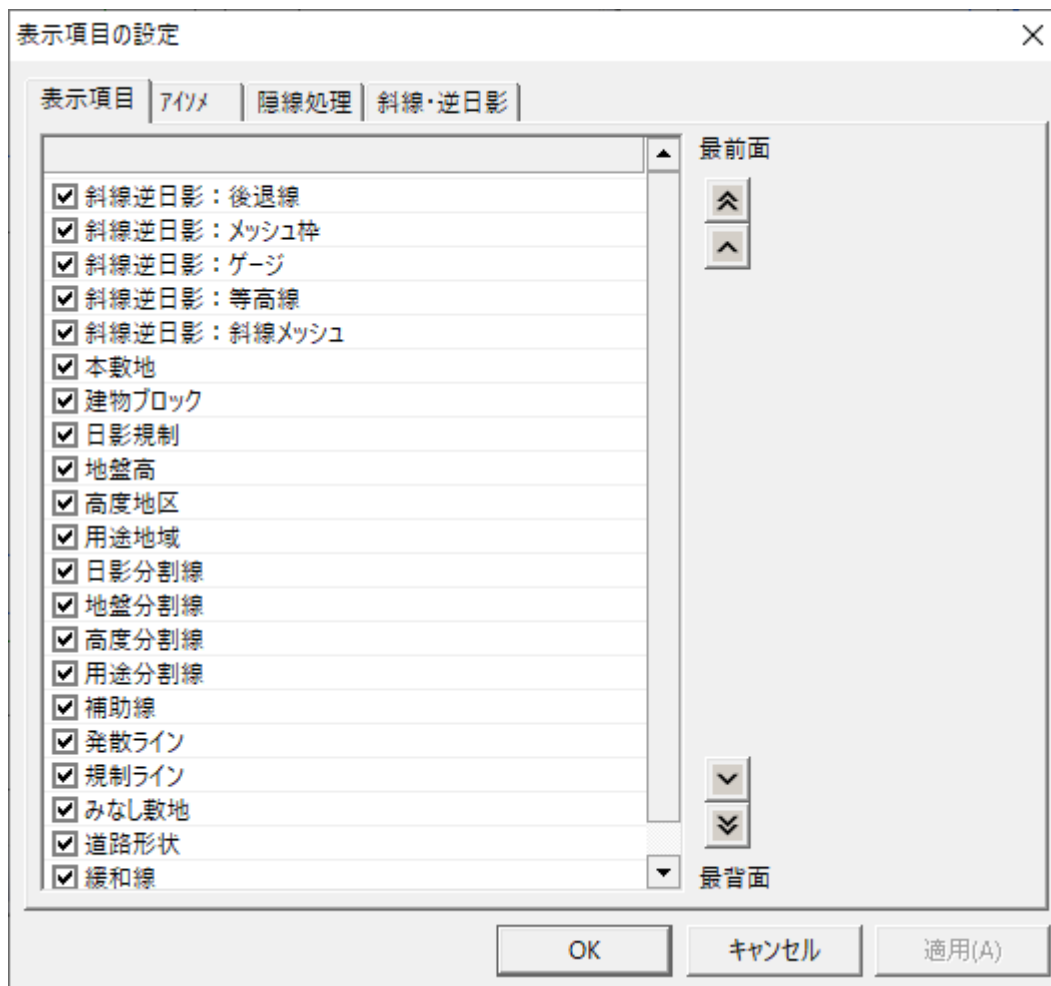
8-4-12-2 アイソメ図に等高線を表示する

[操作手順]

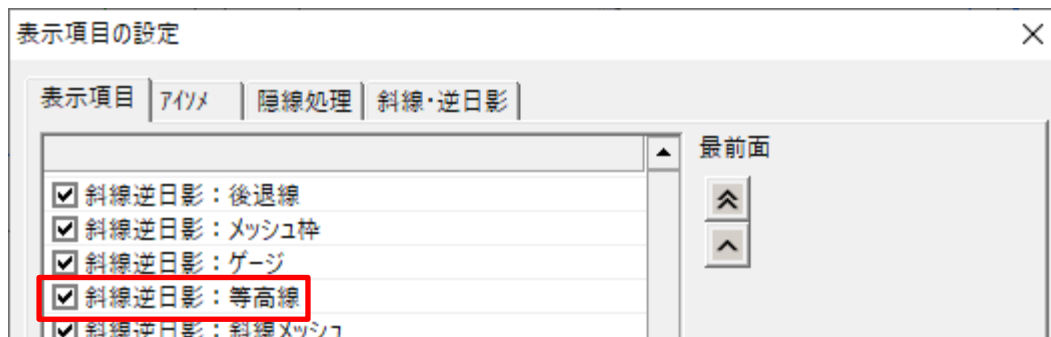
- 1) アイソメ図を表示した「図形表示ウィンドウ」より、「表示項目の設定」を選択します。



- 2) 「表示項目の設定」ダイアログが開きます。



- 3) 「斜線逆日影:等高線」にチェックを入れます。



- 4) 「適用」を選択し、「閉じる」を選択します。



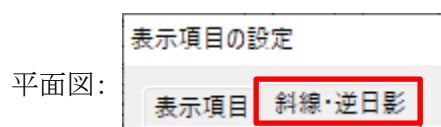
8-4-13 等高線の表示を変更する

[操作手順]

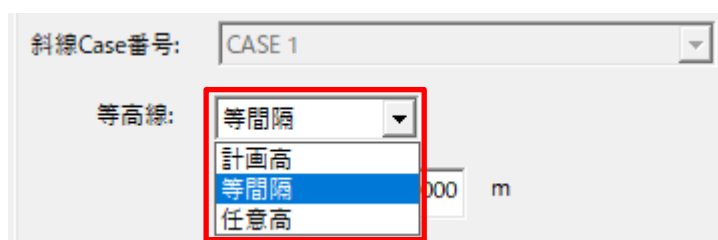
- 1) 平面図またはアイソメ図を表示した「図形表示ウィンドウ」より、「表示項目の設定」を選択します。



- 2) 「表示項目の設定」ダイアログが開きます。
- 3) 「斜線・逆日影」タブを選択します。



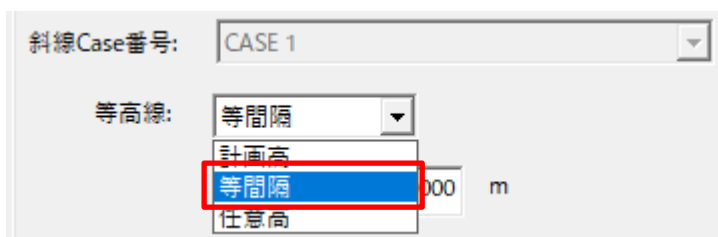
- 4) 「等高線」プルダウンメニューより、等高線の表示方法を選択します。



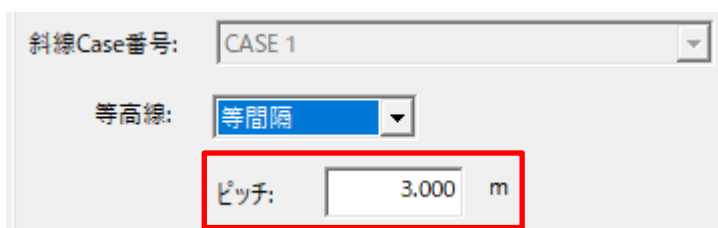
8-4-13-1 等間隔で表示する

[操作手順]

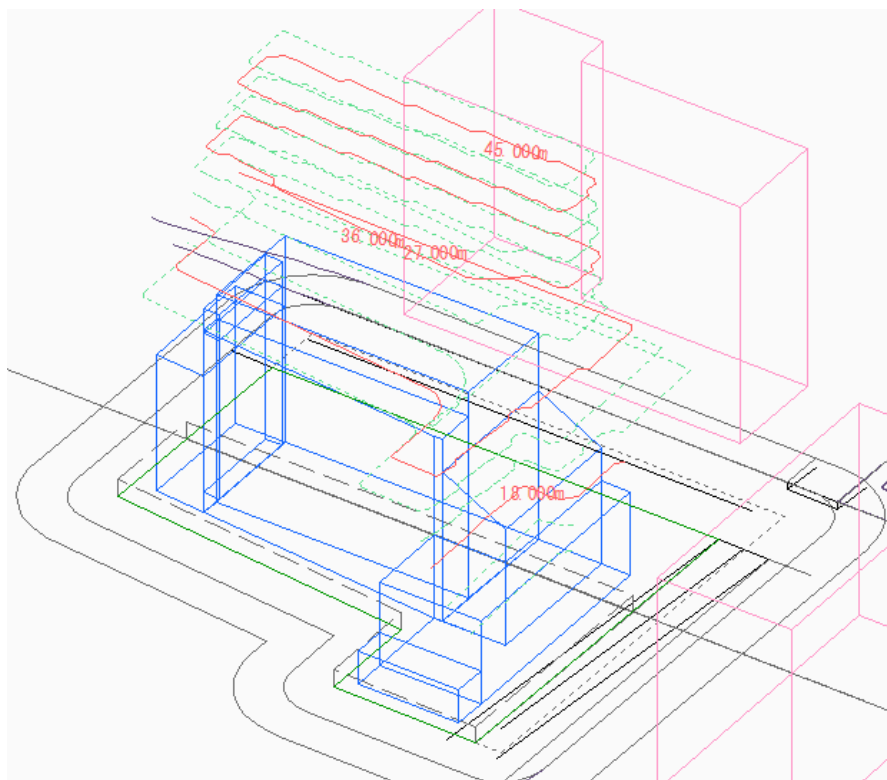
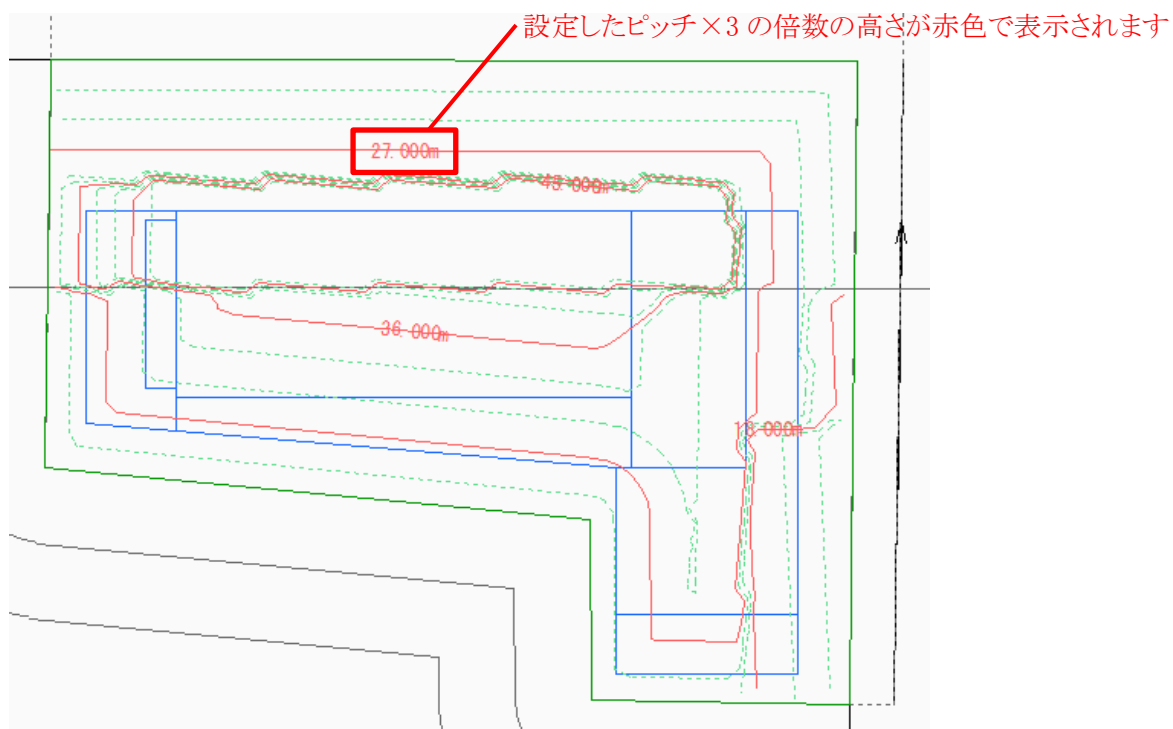
- 1) 「等高線」プルダウンメニューより、「等間隔」を選択します。



- 2) 「ピッチ」より、等高線のピッチを設定します。



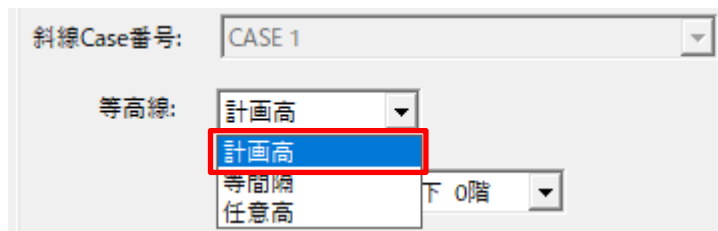
3) 「適用」を選択し、「閉じる」を選択します。



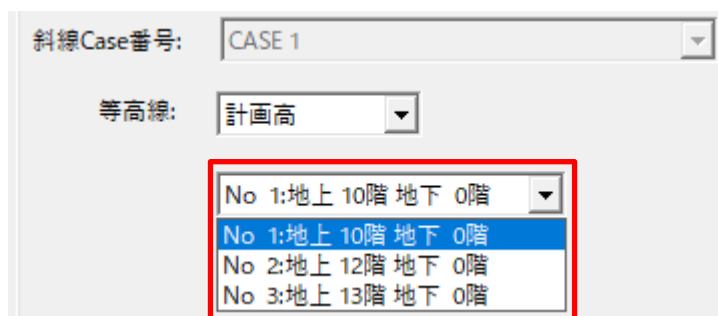
8-4-13-2 計画高で表示する

[操作手順]

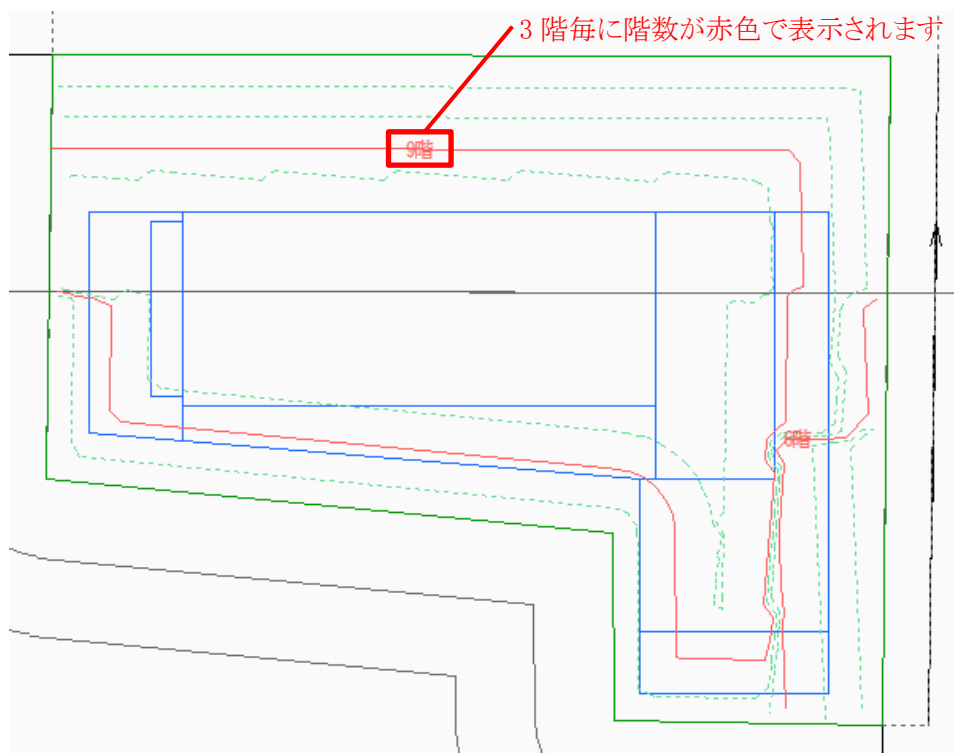
- 1) 「等高線」プルダウンメニューより、「計画高」を選択します。

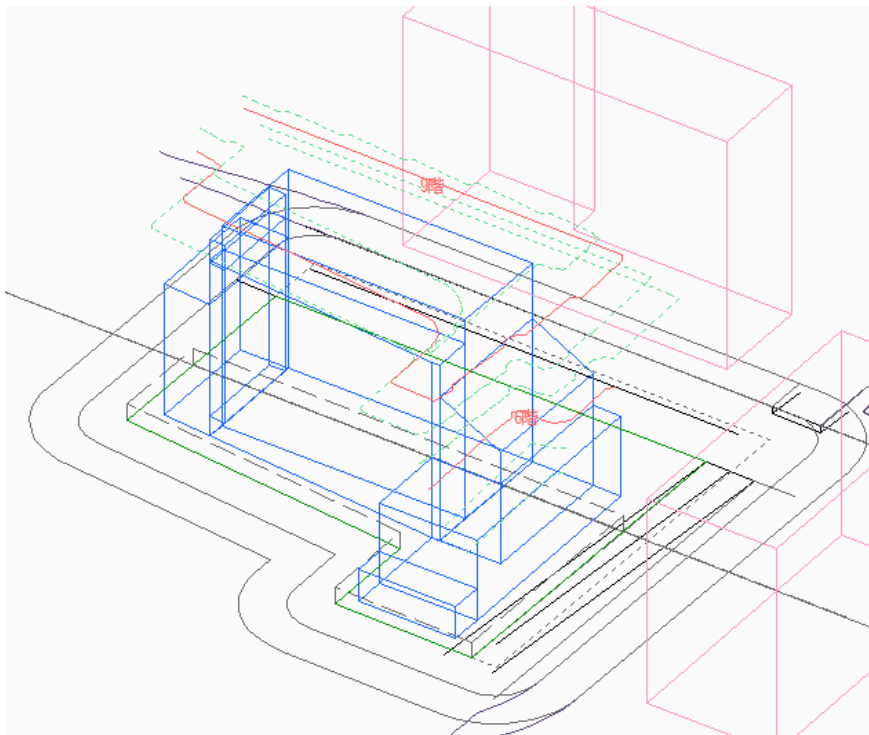


- 2) 等高線を表示する断面計画を選択します。



- 3) 「適用」を選択し、「閉じる」を選択します。





8-4-13-3 任意高で表示する

[操作手順]

- 1) 「等高線」プルダウンメニューより、「任意高」を選択します。

斜線Case番号: CASE 1

等高線: 任意高

計画高
等間隔
任意高

No 絶対高

- 2) 「挿入」にチェックを入れ、等高線を表示する絶対高を設定します。

斜線Case番号: CASE 1

等高線: 任意高

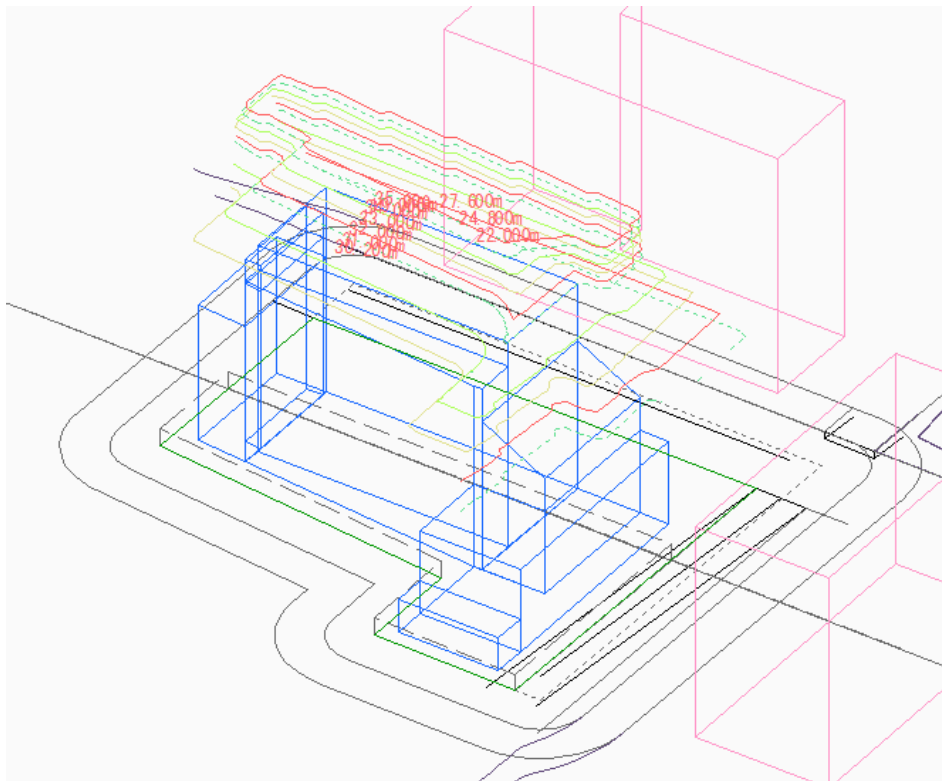
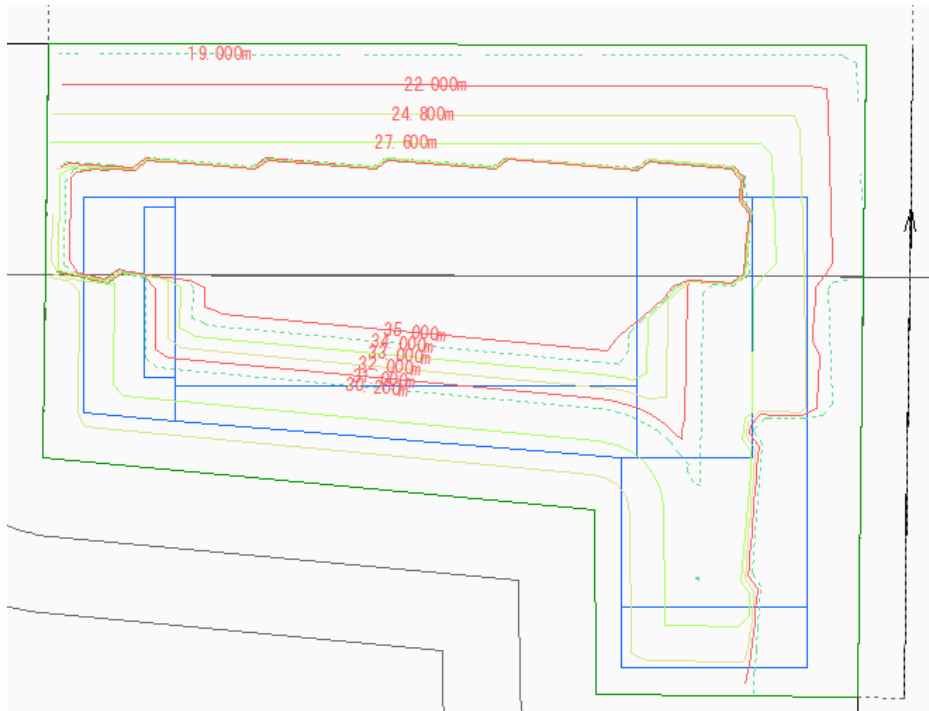
階削除

☒ 挿入

No 絶対高

- 3) 「適用」を選択し、「閉じる」を選択します。

閉じる キャンセル 適用(A)



8-4-14 斜線メッシュを表示する

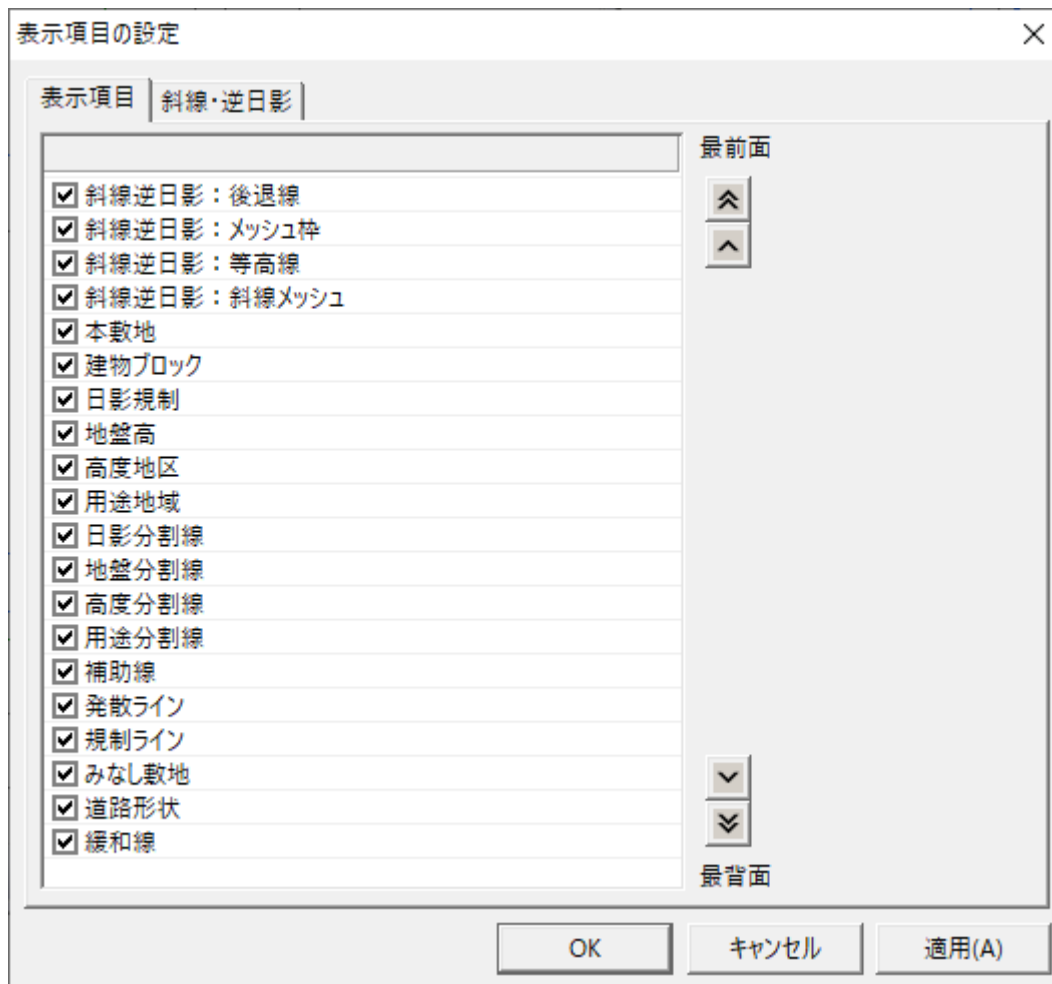
8-4-14-1 平面図に斜線メッシュを表示する

[操作手順]

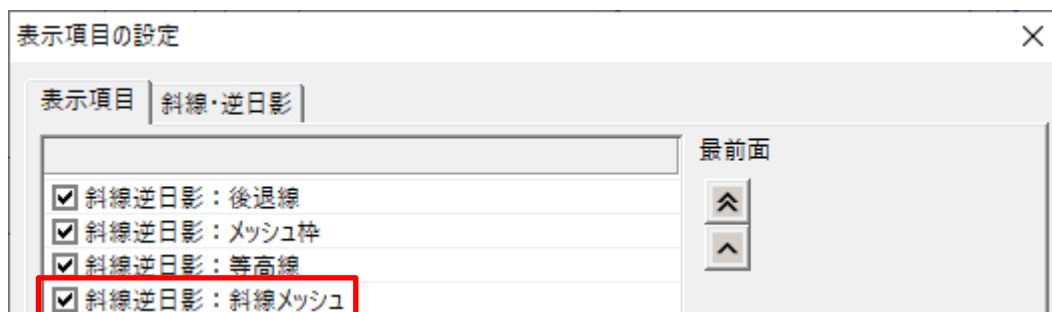
- 1) 平面図を表示した「図形表示ウィンドウ」より、「表示項目の設定」を選択します。



- 2) 「表示項目の設定」ダイアログが開きます。



- 3) 「斜線逆日影：斜線メッシュ」にチェックを入れます。



- 4) 「適用」を選択し、「閉じる」を選択します。



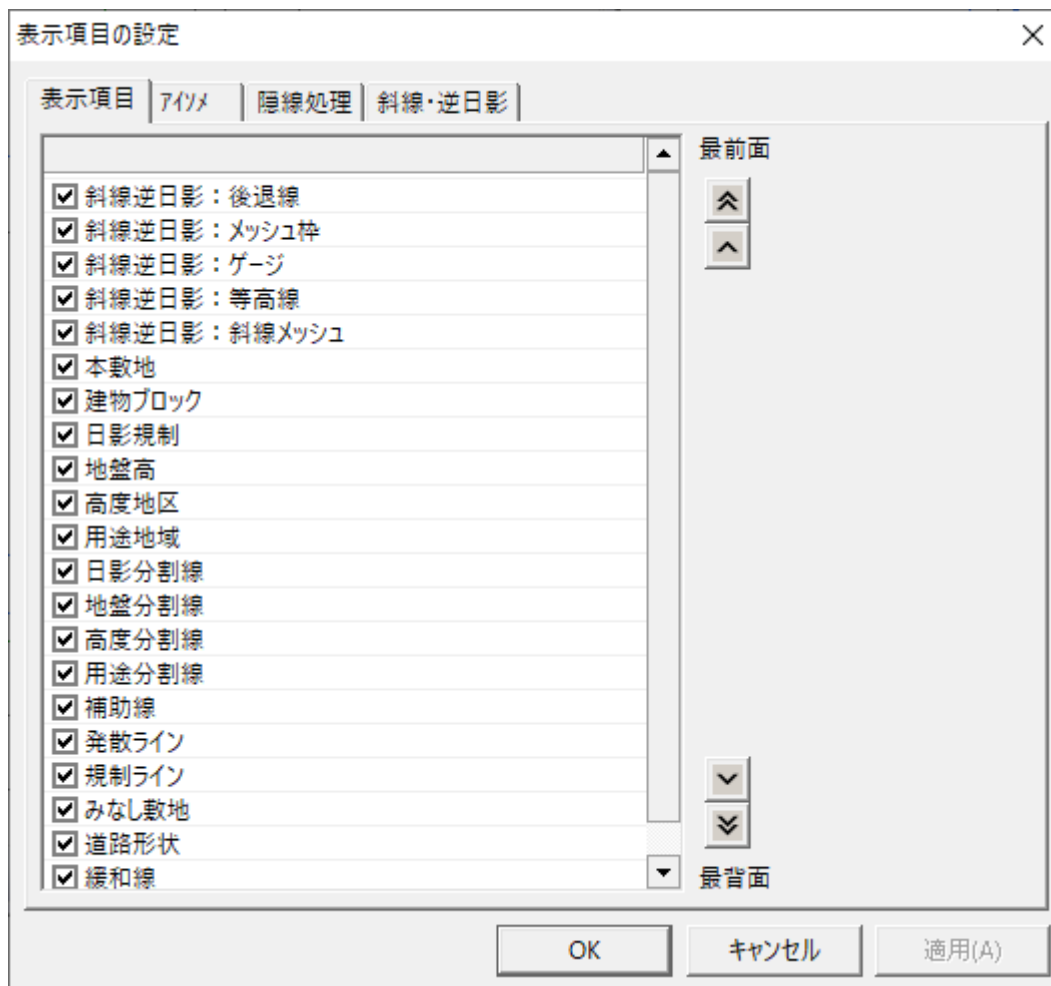
8-4-14-2 アイソメ図に等高線を表示する

[操作手順]

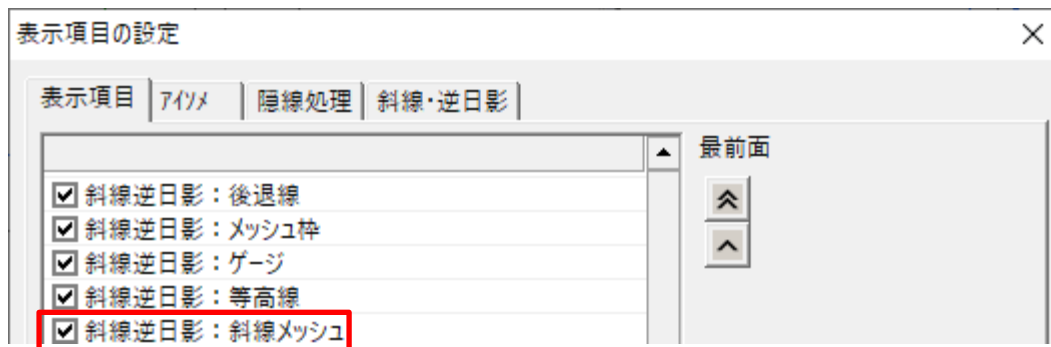
- 1) アイソメ図を表示した「図形表示ウィンドウ」より、「表示項目の設定」を選択します。



- 2) 「表示項目の設定」ダイアログが開きます。



- 3) 「斜線逆日影:斜線メッシュ」にチェックを入れます。

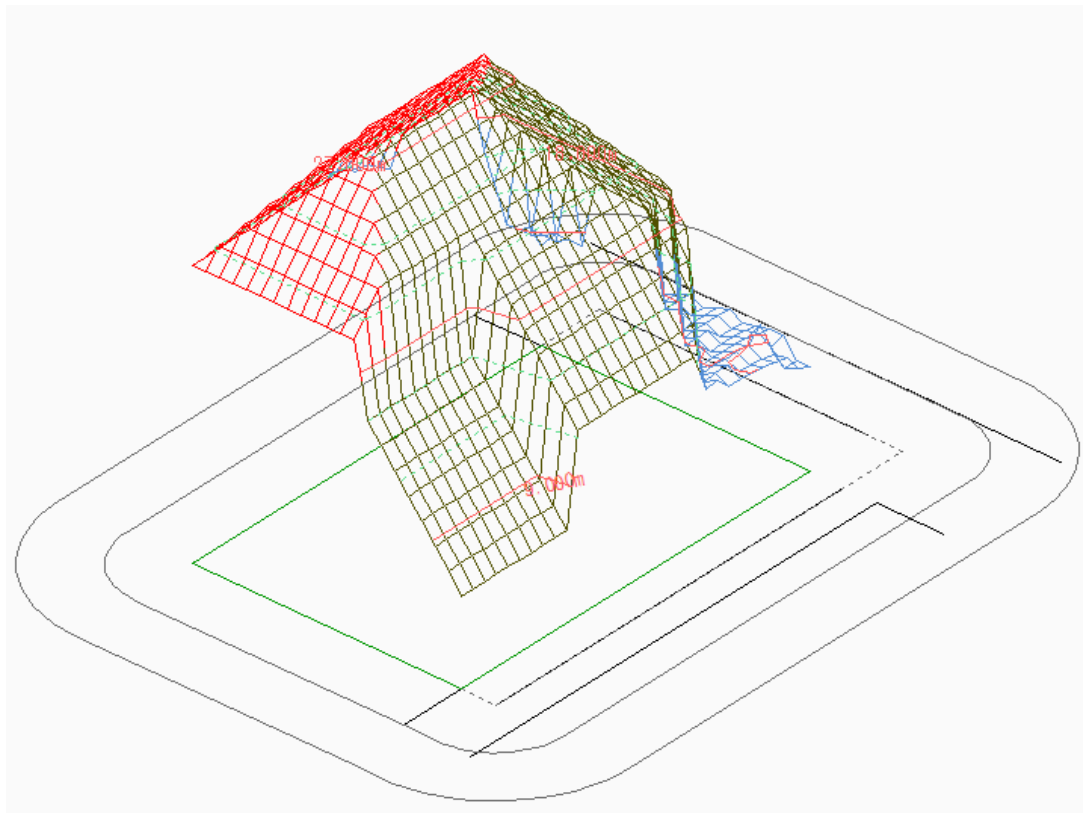


- 4) 「適用」を選択し、「閉じる」を選択します。



8-4-15 斜線メッシュの見方

○斜線メッシュの色が、「影響域凡例」の文字色と対応しています。



影響域凡例

道路斜線 隣地斜線 高度斜線 北側斜線 逆日影 絶対高さ メッシュ最高

8-5 断面図

- 斜線・逆日影計算結果の断面図を作成します。
- 計算 CASE 毎に設定可能です。
- 計算直後はケース毎に自動で、「敷地辺(垂直)」の断面線が作成されます。
- 表示ウィンドウの「断面図」タブを選択することで断面図を表示します。

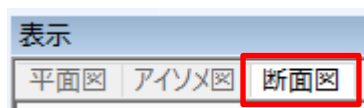
No	基準	敷地辺No	距離	反転	印刷
1	敷地辺(垂直)	6	26.883	☒	☒
2	敷地辺(平行)	1	6.463	☒	☒
3	南北軸		12.623	☒	☒

番号	項目	概要
①	選択	断面線を選択します
②	辺移動	断面線を移動します
③	ブロック削除	断面線を削除します
④	CASE 選択	断面線を編集する CASE を選択します
⑤	新規作成	断面線を作成します
⑥	No	断面線の番号を表示します
⑦	基準	断面線の方向の基準を設定します
		南北軸 南北軸に平行に設定します
		敷地辺(垂直) 選択した敷地辺に垂直に設定します(デフォルト設定です)
		敷地辺(平行) 選択した敷地辺に平行に設定します
⑧	敷地辺 No	選択した敷地辺の境界線番号を表示します
⑨	距離	基準が南北軸の場合、本敷地の図心からの距離を表示します 基準が敷地辺の場合、対象の敷地辺からの距離を表示します 直接入力が可能です
⑩	反転	断面線の向きを反転します
⑪	印刷	チェックを外すと印刷プレビューに反映しません

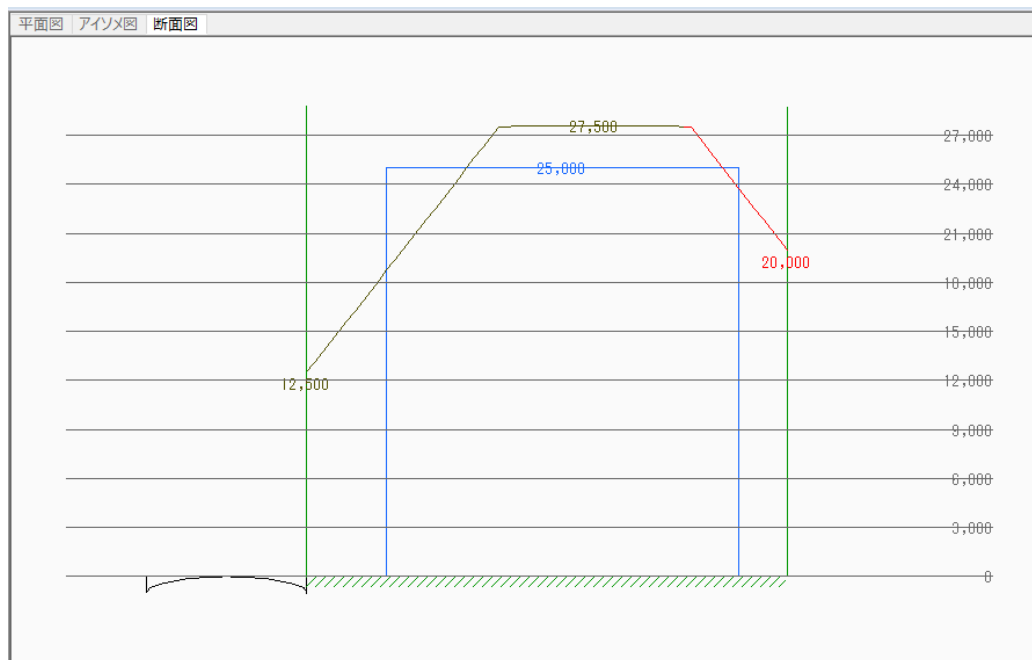
8-5-1 断面図を表示する

[操作手順]

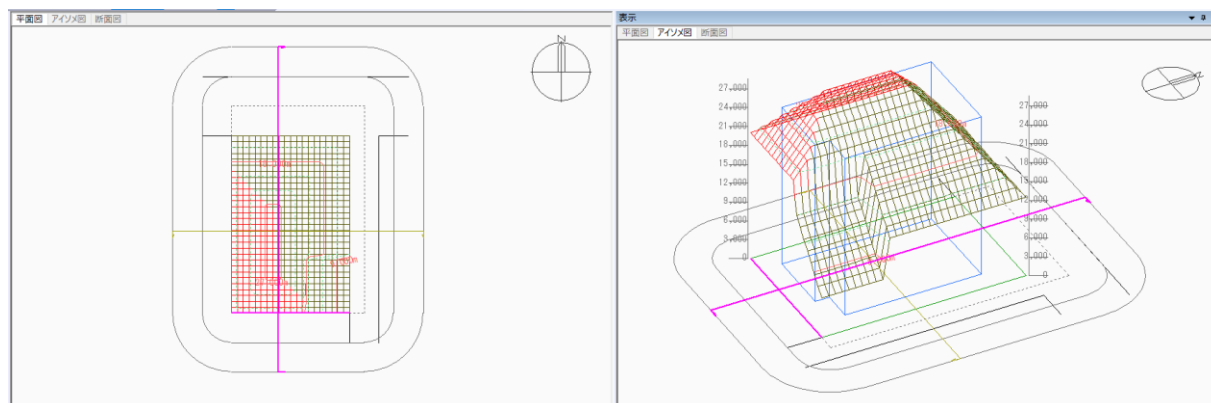
- 1) 表示ウィンドウより、「断面図」タブを選択します。



- 2) 選択した断面線の断面図が表示されます。



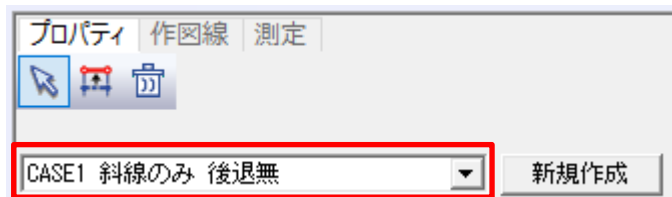
※平面図、アイソメ図には断面線が表示されます。



8-5-2 断面線を新規作成する

[操作手順]

- 3) 「CASE 選択」プルダウンメニューから、断面線を作成する計算済みケースを選択します。



- 4) 「新規作成」コマンドを選択します。



8-5-3 既存の断面線の設定を変更する

○計算直後はケース毎にデフォルトで、敷地辺(垂直)の断面線が登録されます。

[操作手順]

- 1) 「CASE 選択」プルダウンメニューから、設定を変更する計算済みケースを選択します。



- 2) 「選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図で、設定を変更する断面線を選択します。

※断面線リストからも選択できます

- 4) 各種設定をします。

8-5-3-1 断面線の基準となる敷地辺を変更する。

[操作手順]

- 1) 平面図で、断面線の基準とする敷地辺を選択します。

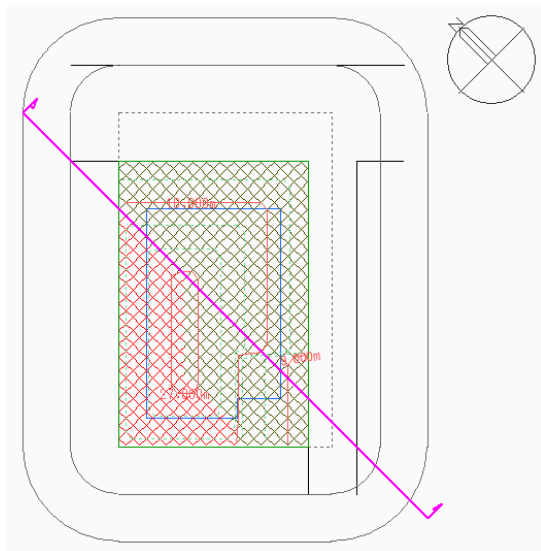
8-5-3-2 断面線の基準を変更する

[操作手順]

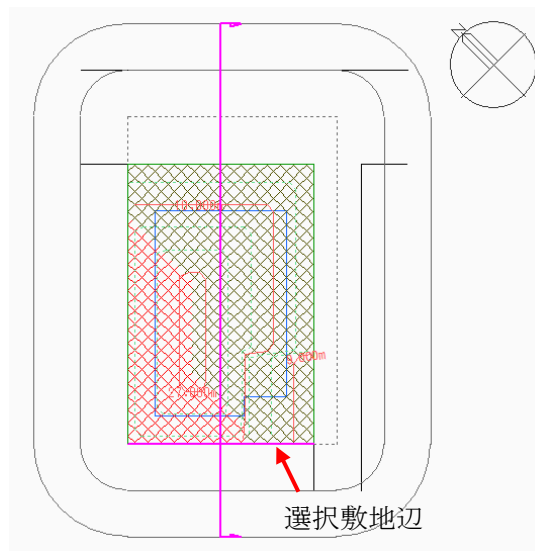
- 1) 「基準」プルダウンメニューより、断面線の基準を選択します。

No	基準	敷地辺No	距離	反転	印刷
1	敷地辺(垂直)	1	0.000		✓
	南北軸				
	敷地辺(垂直)				
	敷地辺(平行)				

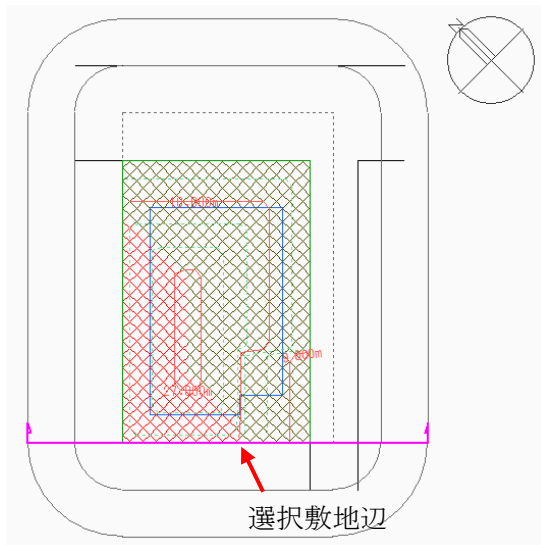
・南北軸



・敷地辺(垂直)



・敷地辺(平行)



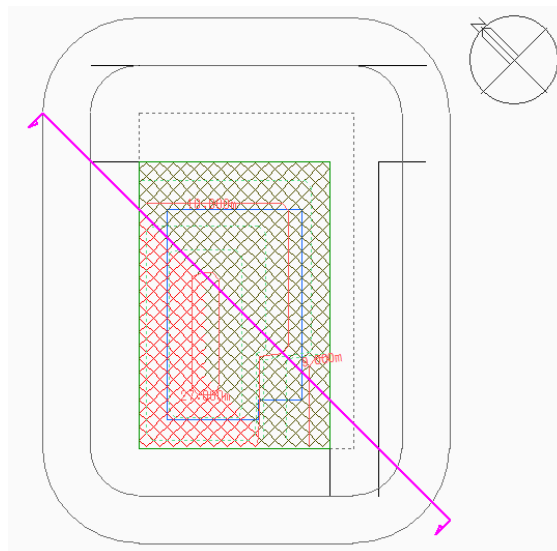
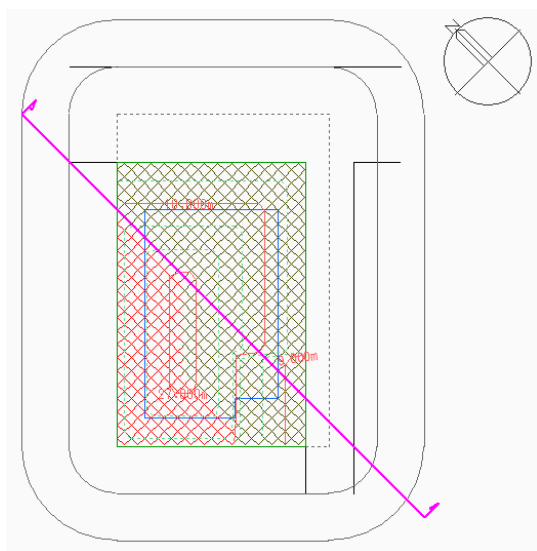
8-5-3-3 断面線の向きを変更する

[操作手順]

- 1) 「反転」にチェックを入れます。

No	基準	敷地辺No	距離	反転	印刷
1	南北軸		0.000	☐	☒

No	基準	敷地辺No	距離	反転	印刷
1	南北軸		0.000	☒	☒



8-5-4 断面線の位置を変更する

[操作手順]

- 1) 「CASE 選択」プルダウンメニューから、断面線の位置を変更する計算済みケースを選択します。



- 2) 「選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図で、位置を変更する断面線を選択します。
※断面線リストからも選択できます。

- 4) 「辺移動」コマンドを選択します。



- 5) 操作手順は図形編集コマンドを参照してください。

8-5-5 断面線を削除する

[操作手順]

- 1) 「CASE 選択」プルダウンメニューから、断面線を削除する計算済みケースを選択します。



- 2) 「選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図で、削除する断面線を選択します。
※断面線リストからも選択できます

- 4) 「ブロック削除」コマンドを選択します。



8-6 面積計画表

○斜線逆日影計算で得たボリュームに対して、断面計画別に各階の最大計画可能面積を表示します。

○各階の計画面積を入力することで、面積計画のシミュレーションをすることができます。

○予め与条件設定で断面計画を設定する必要があります。

※本メニューにおける面積は、メッシュの面積を反映する為、メッシュピッチによって、最大計画可能面積が変動する場合があります。

①		②		③	
CASE1 斜線のみ 後退無		断面計画: No 1:地上 10階 地下 0階		単位 ☒ m ² ☐ 坪	
④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
階	階高	絶対高	床面積	計画面積	
R		30.000m			
10	3.000m	27.000m	629.498m ²	629.498m ²	
9	3.000m	24.000m	928.361m ²	928.361m ²	
8	3.000m	21.000m	1209.506m ²	1209.506m ²	
7	3.000m	18.000m	1209.506m ²	1209.506m ²	
6	3.000m	15.000m	1209.506m ²	1209.506m ²	
5	3.000m	12.000m	1209.506m ²	1209.506m ²	
4	3.000m	9.000m	1209.506m ²	1209.506m ²	
3	3.000m	6.000m	1209.506m ²	1209.506m ²	
2	3.000m	3.000m	1209.506m ²	1209.506m ²	
1	0.000m	0.000m	1209.506m ²	1209.506m ²	
⑦ 合計			11233.908m ²	11233.908m ²	
⑧ 許容延床			3820.380m ²	218.27m ²	
⑨ 延床面積残			-7413.528m ²	-7413.528m ²	
⑩ 許容建築			1209.506m ²	69.10m ²	
⑪ 建築面積残			0.000m ²	0.000m ²	
⑫ 敷地面積			1750.306m ²		

番号	項目	概要
①	計算 CASE 選択	表示する斜線・逆日影計算の CASE を選択します
②	断面計画選択	表示する断面計画を選択します
③	単位選択	表示する単位を選択します
④	断面計画	選択した断面計画の階、階高及び絶対高を表示します
⑤	床面積	斜線逆日影計算結果による各階の最大計画可能面積を表示します 許容延床面積を超える階より上の階は赤字で表示します 許容建築面積を超える場合は許容建築面積を最大値として表示します 地階は敷地面積を最大値として表示します
⑥	計画面積	数値入力による面積計画のシミュレーションをします
⑦	合計	各階床面積の合計を表示します
⑧	許容延床	許容延床面積を表示します 計画面積欄に床面積を基にした割合を表示します

番号	項目	概要
⑨	延床面積残	許容延床面積と各階床面積の合計との差を表示します 許容延床面積を各階床面積の合計が超える場合、マイナスの値を表示します
⑩	許容建築	許容建築面積を表示します 計画面積欄に床面積を基にした割合を表示します
⑪	建築面積残	許容建築面積と地階を含む床面積最大階の差を表示します 許容建築面積を床面積最大階の床面積が超える場合、マイナスの値を表示します
⑫	敷地面積	本敷地の面積を表示します

8-6-1 面積計画表を表示する

[操作手順]

- 1) 面積計画表を表示する計算済み CASE を選択します。

The screenshot shows a software window with three tabs: 'プロパティ' (Properties), '作図線' (Drawing Lines), and '測定' (Measurement). The 'CASE1 斜線のみ 後退無' dropdown menu is highlighted with a red box. To its right, the '断面計画:' (Section Plan:) dropdown menu is visible, showing 'No 1:地上 10階 地下 0階'.

- 2) 断面計画番号を選択します。

The screenshot shows the same software window as before. The '断面計画:' (Section Plan:) dropdown menu is now highlighted with a red box, showing 'No 1:地上 10階 地下 0階'.

- 3) プロパティウィンドウ内に各階の面積が表示されます。
- 4) 必要に応じて「計画面積」を入力します。

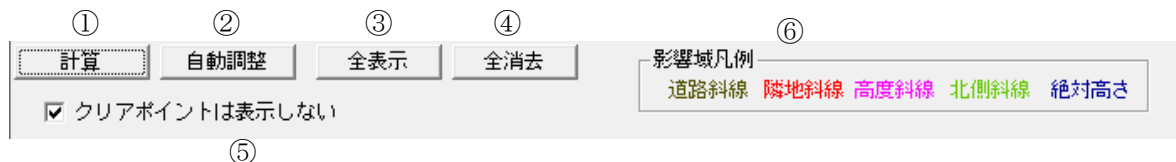
8-7 建物高チェック

○ブロックに対して、後退距離を考慮した高さ制限のチェックをします。

○高さ制限の根拠となる制限を、文字の色別に表示します。

※平面図上の、ブロック端点のみ高さチェックの対象です。

※ブロックの辺については高さチェックを行いません。



番号	項目	概要
①	計算	建物高チェックを実行します
②	自動調整	ブロックを高さ制限に適合する高さに自動調整します
③	全表示	高さ制限に適合する高さの数値を表示します
④	全消去	高さ制限に適合する高さの数値を消去します
⑤	クリアポイントは表示しない	チェックを入れると高さ制限に適合しているポイントを表示しません
⑥	影響域凡例	影響を及ぼす高さ制限を色別に表示します

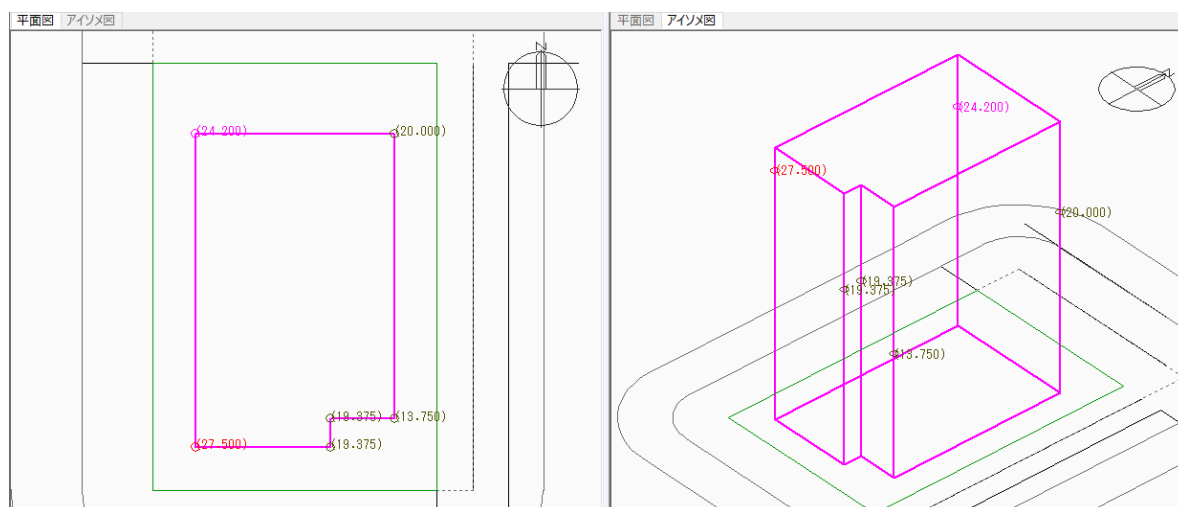
8-7-1 建物高チェックを実行する

[操作手順]

1) 「計算」を選択します。



2) 計算結果を平面図及びアイソメ図に表示します。



※各高さ制限を超えたブロック端点に、制限高さが表示されます。

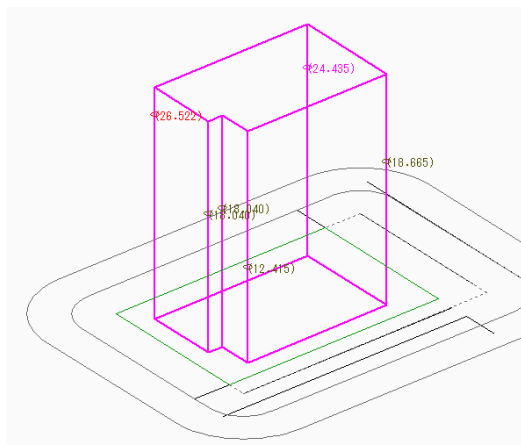
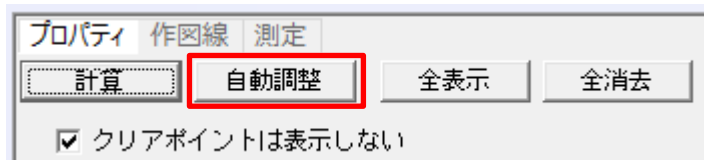
※高さが表示されないブロック端点は高さ制限に適合していることを示します。

8-7-2 ブロックの高さを自動調整する

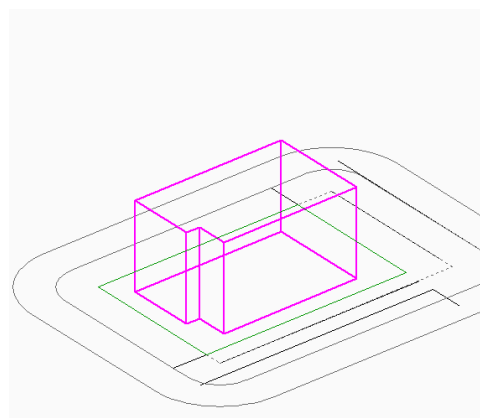
○予め建物高チェックを実行しておく必要があります。

[操作手順]

- 1) 「自動調整」を選択します。



自動調整前



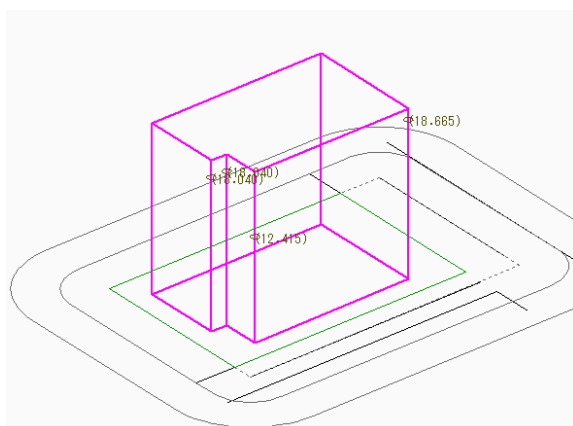
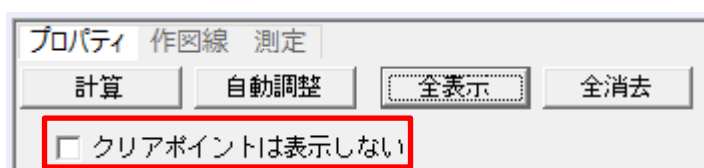
自動調整後

8-7-3 高さ制限に適合している端点の制限高さを表示する

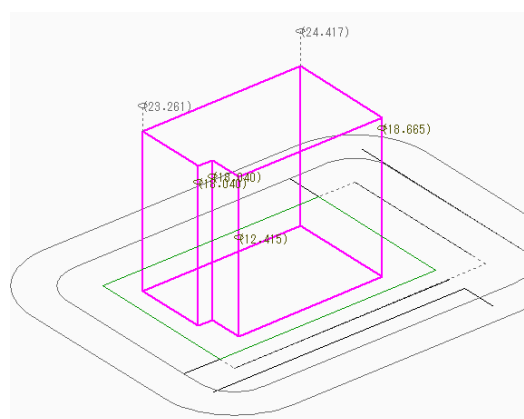
○予め建物高チェックを実行しておく必要があります。

[操作手順]

- 1) 「クリアポイントは表示しない」のチェックを外します。



チェック有



チェック無

8-8 建物後退距離

○各敷地境界線に対して最短距離に位置する斜線計算対象ブロックの距離を後退距離として表示します。

① 境界線No	② 道路斜線	③ 隣地斜線20m超	④ 隣地斜線31m超
1		3.000	0.000
2	3.000		
3	5.000		
4		3.000	0.000

番号	項目	概要
①	境界線 No	境界線 No を表示します
②	道路斜線	道路境界線からの後退距離を表示します 計測対象は高さが 0.000m を超えるブロックです
③	隣地斜線 20m 超	住居系用途地域の場合の隣地境界線からの後退距離を表示します 計測対象は高さが 20.000m を超えるブロックです
④	隣地斜線 31m 超	非住居系用途地域の場合の隣地境界線からの後退距離を表示します 計測対象は高さが 31.000m を超えるブロックです

平面図 アイソメ図

後退距離の測定位置

プロパティ 作図線 測定

境界線No	道路斜線	隣地斜線20m超	隣地斜線31m超
1		3.000	0.000
2	3.000		
3	5.000		
4		3.000	0.000

※リストを選択すると、平面図に後退距離の測定位置を矢印で表示します。

9 日影計算

9-1 はじめに

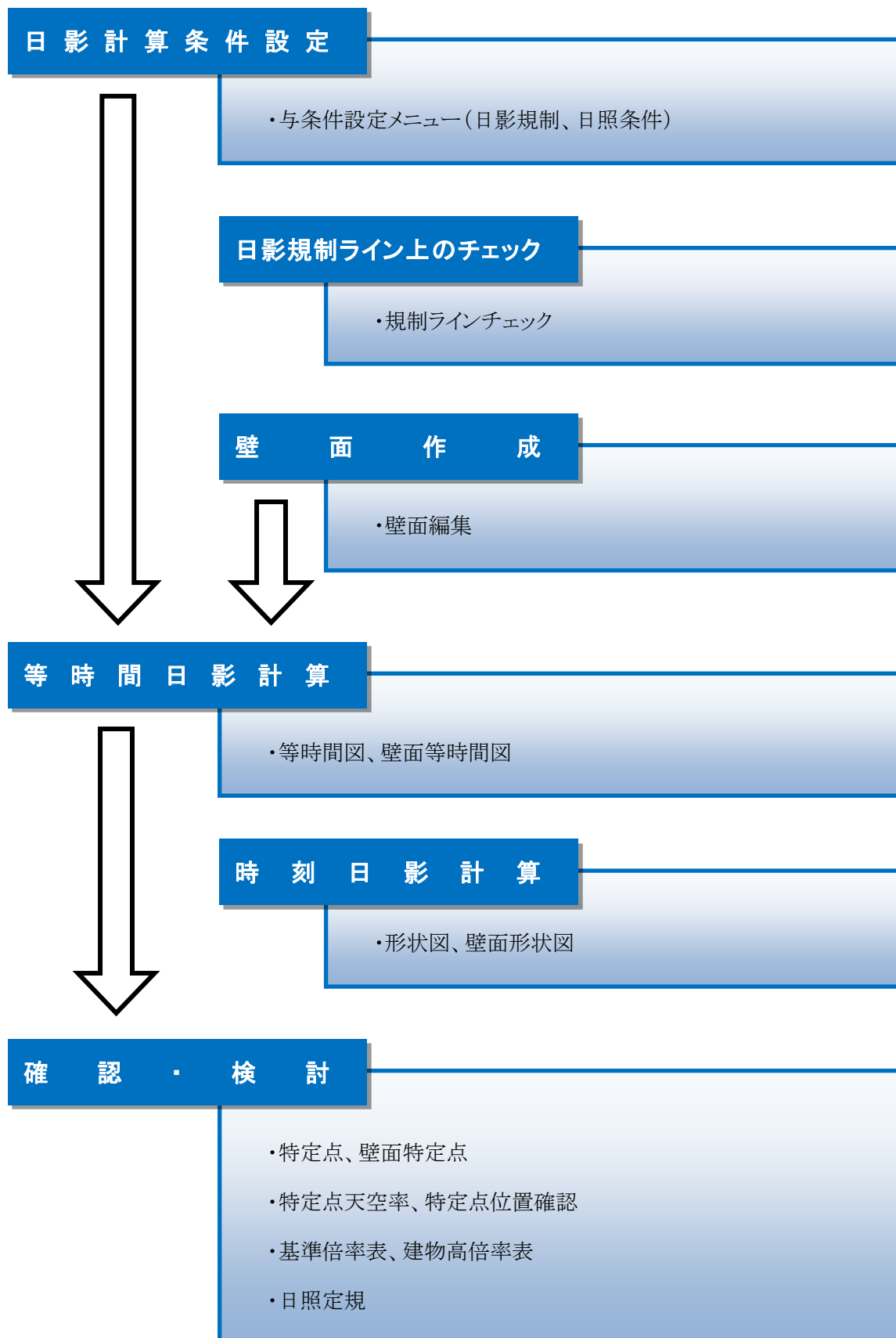
- 与条件設定、ブロック設定をもとに日影計算を行います。
- 等時間日影図及び時刻日影形状図を作成します。
- 日影計算を行う壁面を作成することで、壁面等時間日影図及び壁面時刻日影形状図を作成します。
- 規制ラインチェックによって、日影規制ライン上の適否を短時間でチェックすることができます。
- 特定点を登録することで、指定した点における日影時間や日照時間をチェックします。
- 特定点における天空率及び位置確認線を確認することができます。
- 日照定規を表示することで、日影影響域の検討ができます。

9-2 サブメニュー

- 日影計算のサブメニューです。

メニュー名	概要
等時間図	等時間日影を計算し、等時間日影図を作成します
形状図	時刻日影を計算し、時刻日影形状図を作成します
規制ラインチェック	日影規制ラインに対して、日影規制の適否の判定を行います
特定点	特定点を登録し、日影の影響を確認します
特定点天空率	特定点の天空率を計算します
特定点位置確認	特定点の位置確認線を作成します
基準倍率表	日影形状算定の根拠となる基準倍率表を表示します
建物高倍率表	基準倍率及び方位角を基準とした建物高による日影形状長さを表示します
壁面編集	壁面(垂直面)日影計算を実行するための壁面を作成します
壁面形状図	壁面(垂直面)に投影される時刻日影を計算し、壁面時刻日影形状図を作成します
壁面等時間図	壁面(垂直面)に投影される等時間日影を計算し、壁面等時間日影図の作成します
壁面特定点	壁面特定点を登録し、日影の影響を確認します
壁面特定点天空率	壁面特定点の天空率を計算します
壁面特定点位置確認	壁面特定点の位置確認線を作成します

9-3 日影計算のワークフロー



9-4 形状図

○時刻日影を計算し、時刻日影形状図を作成します。

○計算結果の自動更新は行いません。与条件及びブロックを変更した場合は、必ず再計算をしてください。

① 計算 ② 削除

③ 計算間隔: 0 時間 30 分

④ 建物クリッピング
☒ 建物ブロックのみクリッピング
☐ 全てクリッピングする

⑤ 緯度: 35度39分16秒
 経度: 139度44分41秒
 太陽赤緯: 冬至[12月22日頃]
 ⑥ -23度27分00秒
 計算範囲: 8時00分～16時00分

⑦ 時刻削除
☐ 挿入 ⑧

⑨

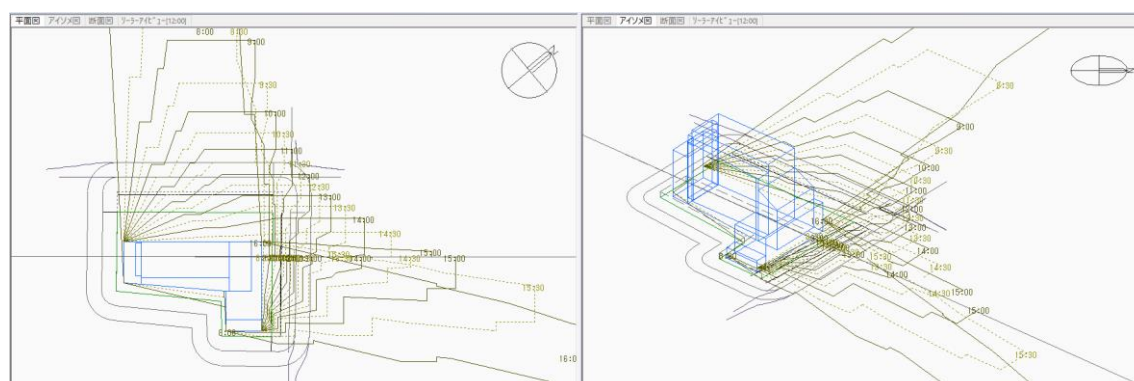
No	時刻
1	8:00
2	8:30
3	9:00
4	9:30
5	10:00
6	10:30
7	11:00
8	11:30

番号	項目	概要
①	計算	時刻日影計算を実行します
②	削除	時刻日影形状図を削除します
③	計算間隔	計算間隔を設定します
④	建物クリッピング	ブロックに対して影響する影の表示方法を選択します。
		建物ブロックのみクリッピング ブロックの外側に日影図を作成します 全てクリッピングする 建物ブロックはブロックの外側に、中空ブロックはブロック下方に日影図を作成します
⑤	緯度経度	緯度経度を表示します 「与条件設定/緯度経度」で設定します
⑥	日照条件	日照条件を表示します 「与条件設定/日照条件」で設定します
⑦	時刻削除	時刻を削除します
⑧	挿入	時刻を挿入します
⑨	時刻リスト	計算を行う時刻を表示・設定します

9-4-1 時刻日影形状図について

○平面図及びアイソメ図に計算結果を表示します。

○複数の日影規制条件が適用される場合、一括計算を行います。



9-4-2 計算結果の処理

○計算実行後、計算結果の処理を選択します

計算結果の処理

計算結果の処理を決定してください。

置換 追加 破棄

項目	概要
置換	既存の計算結果と今回の計算結果を置き換えます
追加	既存の計算結果に今回の計算結果を追加します
破棄	今回の計算結果を破棄します

9-4-3 計算する時刻を設定する

9-4-3-1 計算間隔を設定する

○測定開始時間から測定終了時間内の設定した計算間隔の時刻を計算する時刻とします。

[操作手順]

1) 「計算間隔」を設定します。

プロパティ 作図線 測定 ステータス

計算 削除

計算間隔: 0 時間 30 分

・設定例

計算間隔:30 分 測定開始時間:8 時 00 分 測定終了時間:16 時 00 分

プロパティ 作図線 測定 ステータス

計算 削除

計算間隔: 0 時間 30 分

建物クリッピング
● 建物ブロックのみクリッピング
○ 全てクリッピングする

緯度: 36度00分00秒
経度: 139度45分00秒
太陽赤緯: 冬至[12月22日頃]
-23度27分00秒

時刻削除
☐ 挿入

計算範囲: 8時00分～16時00分

No	時刻
1	8:00
2	8:30
3	9:00
4	9:30
5	10:00
6	10:30

計算間隔:1 時間 0 分 測定開始時間:9 時 00 分 測定終了時間:15 時 00 分

プロパティ 作図線 測定 ステータス

計算 削除

計算間隔: 1 時間 0 分

建物クリッピング
● 建物ブロックのみクリッピング
○ 全てクリッピングする

緯度: 36度00分00秒
経度: 139度45分00秒
太陽赤緯: 冬至[12月22日頃]
-23度27分00秒

時刻削除
☐ 挿入

計算範囲: 9時00分～15時00分

No	時刻
1	9:00
2	10:00
3	11:00
4	12:00
5	13:00
6	14:00

9-4-3-2 計算する時刻を変更する

[操作手順]

- 1) 「時刻リスト」より、変更する時刻を選択します。

No	時刻	
1	8:00	
2	9:00	
3	10:00	

- 2) 時刻を変更します。

No	時刻	
1	8:15	
2	9:00	
3	10:00	

9-4-3-3 計算する時刻を追加する

[操作手順]

- 1) 「時刻リスト」より、追加する時刻の後になる時刻を選択します。

時刻削除

☐ 挿入

No	時刻	
1	8:00	
2	9:00	
3	10:00	

- 2) 「挿入」にチェックを入れます。

時刻削除

☒ 挿入

No	時刻	
1	8:00	
2	9:00	

- 3) 追加する時刻を設定します。

時刻削除

☒ 挿入

No	時刻	
1	8:00	
	8:30	
2	9:00	

- 4) 「挿入」のチェックを外します。

時刻削除

☐ 挿入

No	時刻	
1	8:00	
	8:30	
2	9:00	

※「挿入」のチェックを外すまでは、連続して時刻を追加することができます。

9-4-3-4 計算する時刻を削除する

[操作手順]

- 1) 「時刻リスト」より、削除する時刻を選択します。

No	時刻
1	8:00
2	9:00
3	10:00

- 2) 「時刻削除」を選択すると、選択した時刻が削除されます。

No	時刻
1	8:00
2	10:00
3	11:00

9-4-4 建物クリッピング

9-4-4-1 建物ブロックのみクリッピング

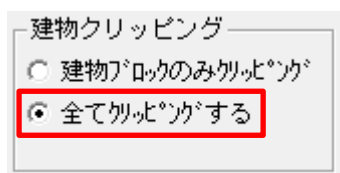
建物クリッピング

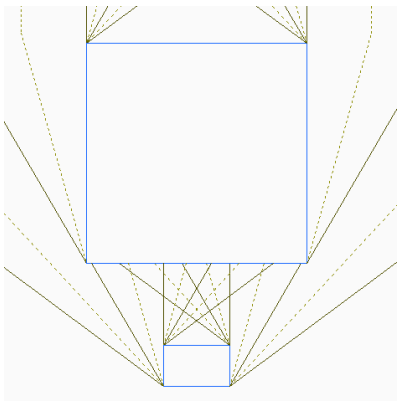
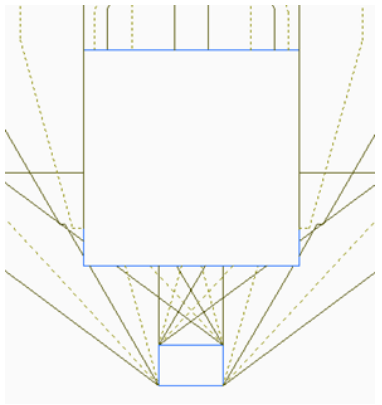
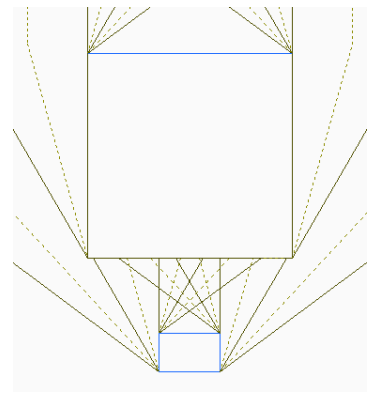
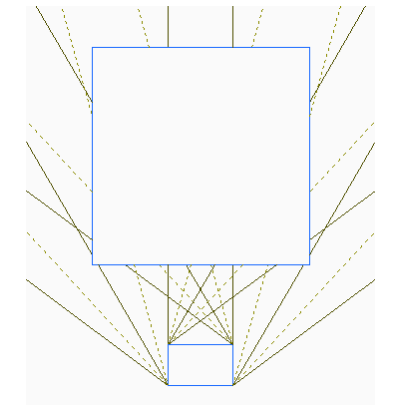
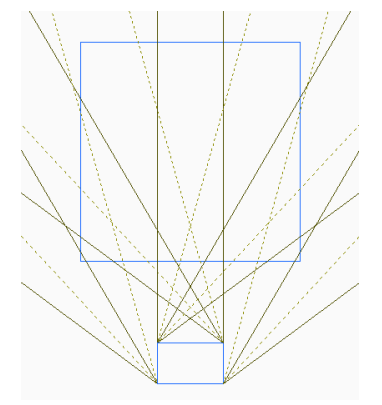
☒ 建物ブロックのみクリッピング

☐ 全てクリッピングする

ブロック上 端	ブロック下 端	建物ブロック	中空ブロック
測定面より 上	測定面より 上		
	測定面より 下	—	
測定面より 下	測定面より 下		

9-4-4-2 全てクリッピングする



ブロック上 端	ブロック下 端	建物ブロック	中空ブロック
測定面より 上	測定面より 上		
	測定面より 下	—	
測定面より 下	測定面より 下		

9-4-5 時刻日影計算を実行する

[操作手順]

- 1) 「計算間隔」を設定、または計算時刻を編集します。

プロパティ 作図線 測定

計算 削除

計算間隔: 0 時間 30 分

緯度: 36度00分00秒
経度: 139度45分00秒
太陽赤緯: 冬至[12月22日頃]
計算範囲: 8時00分～16時00分

時刻削除

☐ 挿入

No	時刻
1	8:00
2	8:30
3	9:00
4	9:30
5	10:00
6	10:30

- 2) 「計算」を選択します。

プロパティ 作図線 測定

計算 削除

計算間隔: 0 時間 30 分

- 3) 確認ダイアログが表示されます。

ADS10

計算を開始します
よろしいですか

はい(Y) いいえ(N)

- 4) 「はい」を選択します。
- 5) 計算終了後、計算結果の処理を決定します。

9-4-6 計算を中止する

[操作手順]

- 1) ステータスバーの「中止」を選択します。

第1領域 03:00 高さ4.000m (5.990m, 46.419m)

中止

9-4-7 時刻日影形状図を削除する

[操作手順]

- 1) 「削除」を選択します。

プロパティ 作図線 測定

計算 削除

計算間隔: 0 時間 30 分

9-5 等時間図

○等時間日影を計算し、等時間日影図を作成します。

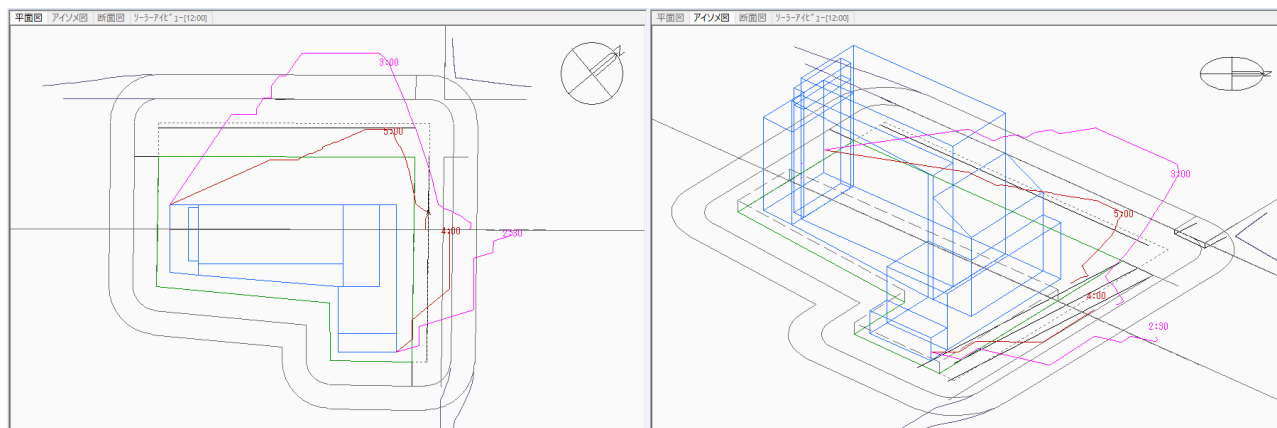
○計算結果の自動更新はしません。与条件及び建物ブロックを変更した場合は、必ず再計算をしてください。

い。

番号	項目	概要
①	計算	等時間日影計算を実行します
②	削除	等時間日影図を削除します
③	計算方法選択	等時間日影計算方法を削除します
④	計算間隔	計算間隔を設定します 計算方法で「単位時間計算(メッシュ法)」を選択した場合に選択可能です
⑤	計算ピッチ	計算ピッチを設定します
⑥	緯度経度	緯度経度を表示します 「与条件設定/緯度経度」で設定します
⑦	日照条件	日照条件を表示します 「与条件設定/日照条件」で設定します
⑧	時刻削除	時刻を削除します 計算方法で「単位時間計算(メッシュ法)」を選択した場合に選択可能です
⑨	挿入	時刻を挿入します 計算方法で「単位時間計算(メッシュ法)」を選択した場合に選択可能です
⑩	時刻リスト	計算を行う時刻を表示・設定します 計算方法で「単位時間計算(メッシュ法)」を選択した場合に選択可能です

9-5-1 等時間日影図について

- 平面図及びアイソメ図に計算結果を表示します。
- 複数の日影規制条件が適用される場合、一括計算を行います。

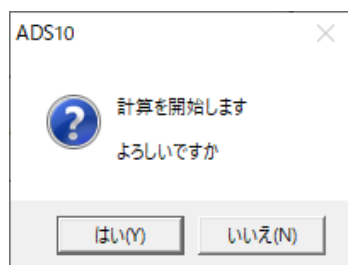


9-5-2 計算方法について

- 「1-7-2 日影計算」を参照して下さい。

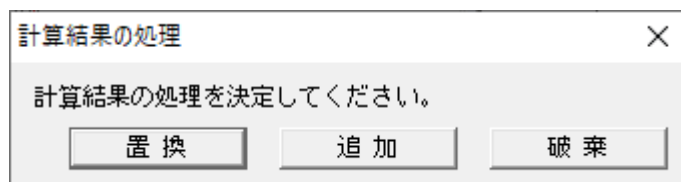
9-5-3 計算時の確認ダイアログ

- 「計算」を選択すると確認ダイアログが開きます。
- 「はい」を選択すると計算が実行されます。



9-5-4 計算結果の処理

- 計算実行後、計算結果の処理を選択します。

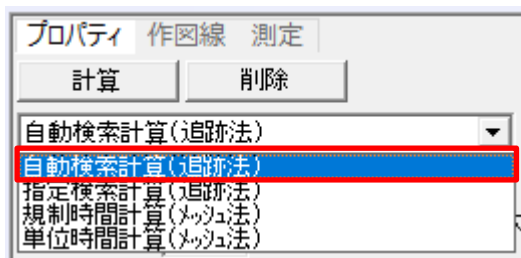


項目	概要
置換	既存の計算結果と今回の計算結果を置き換えます
追加	既存の計算結果に今回の計算結果を追加します
破棄	今回の計算結果を破棄します

9-5-5 自動検索計算(追跡法)を実行する

[操作手順]

- 1) 「計算方法選択」プルダウンメニューより「自動検索計算(追跡法)」を選択します。



- 2) 「計算ピッチ」を設定します。



- 3) 「計算」を選択します。

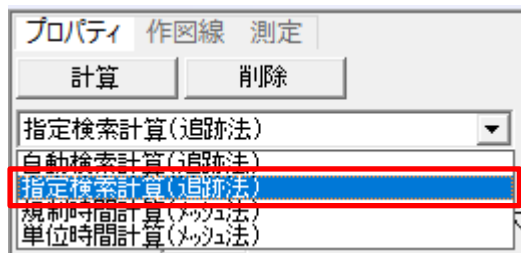


- 4) 確認ダイアログが開くので、「はい」を選択します。
5) 計算終了後、計算結果の処理を決定します。

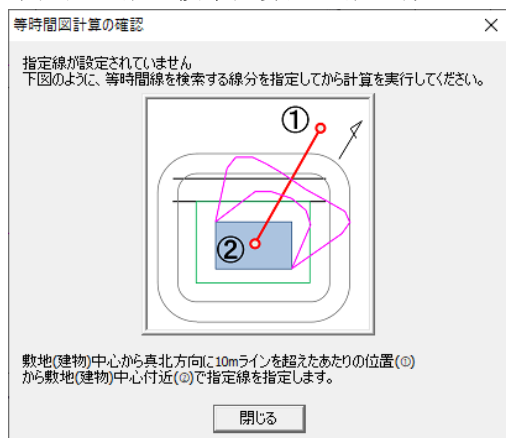
9-5-6 指定検索計算(追跡法)を実行する

[操作手順]

- 1) 「計算方法選択」プルダウンメニューより「指定検索計算(追跡法)」を選択します。



- 2) 平面図に指定検索計算用の指定線を2点指定します。



※敷地(建物)中心から真北方向に向かって10mラインを超えた付近の位置から、敷地(建物)中心付近までの2点が目安です。

- 3) 「計算ピッチ」を設定します。



- 4) 「計算」を選択します。



※指定線を指定していない場合は、「等時間図計算の確認」ダイアログが表示されます。

※日影規制分割線をまたいだ計算は行いません。

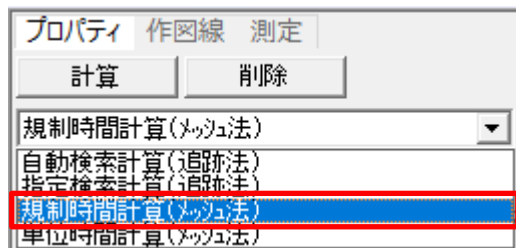
- 5) 確認ダイアログが開くので、「はい」を選択します。

- 6) 計算終了後、計算結果の処理を決定します。

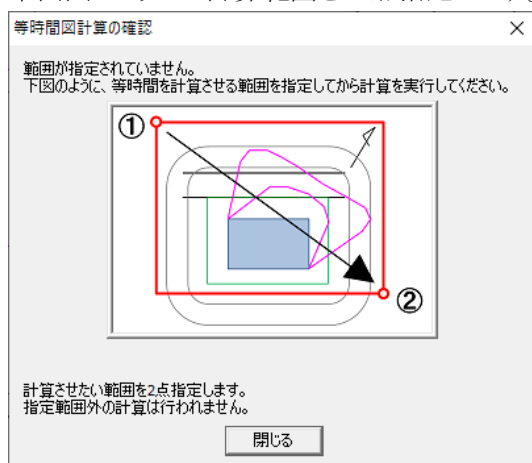
9-5-7 規制時間計算(メッシュ法)を実行する

[操作手順]

- 1) 「計算方法選択」プルダウンメニューより「規制時間計算(メッシュ法)」を選択します。

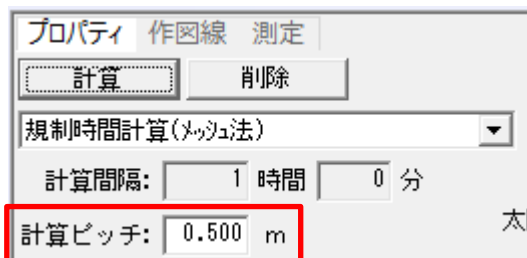


- 2) 平面図にメッシュ計算範囲を2点指定します。

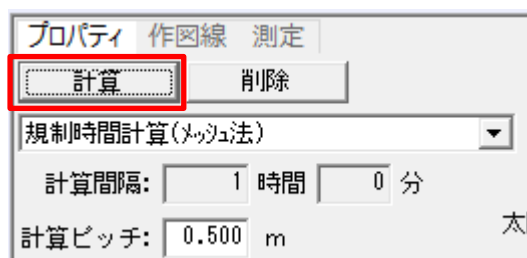


※指定した範囲内にのみ計算結果を表示します。

- 3) 「計算ピッチ」を設定します。



- 4) 「計算」を選択します。



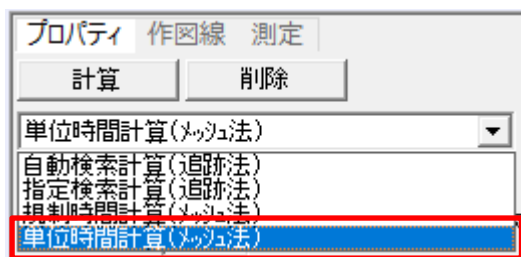
※メッシュ範囲を指定していない場合は、「等時間図計算の確認」ダイアログが表示されます。

- 5) 確認ダイアログが開くので、「はい」を選択します。
6) 計算終了後、計算結果の処理を決定します。

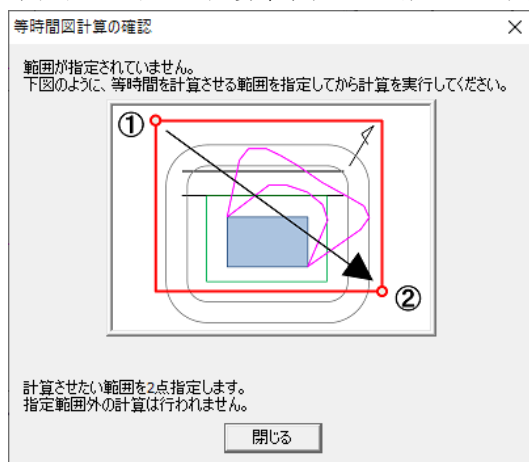
9-5-8 単位時間計算(メッシュ法)を実行する

[操作手順]

- 1) 「計算方法選択」プルダウンメニューより「単位時間計算(メッシュ法)」を選択します。

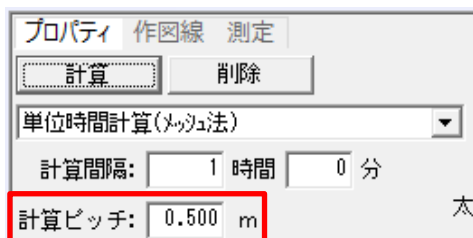


- 2) 平面図にメッシュ計算範囲を2点指定します。

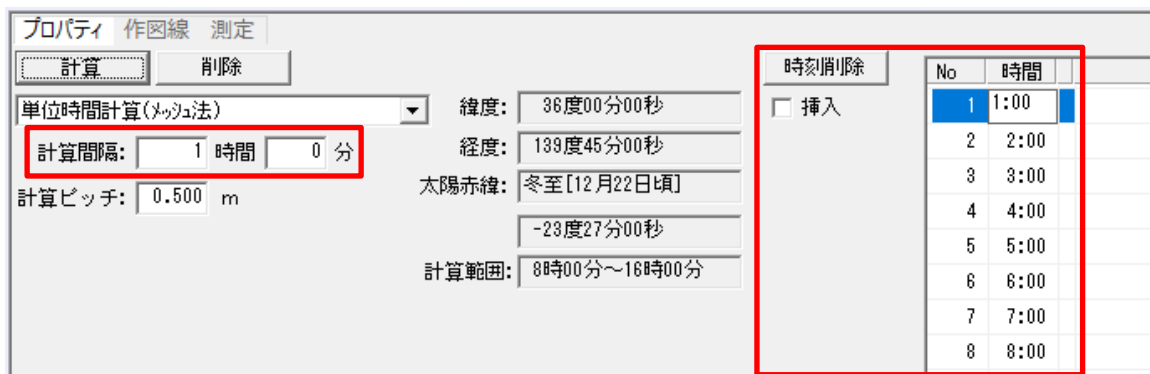


指定した範囲内にのみ計算結果を表示します。

- 3) 「計算ピッチ」を設定します。



- 4) 「計算間隔」を設定、または計算時刻を編集します。

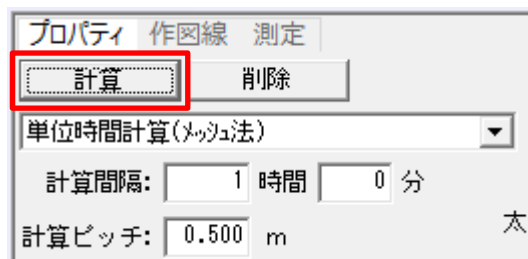


※計算間隔及び計算時刻の設定は「9-4-3 計算する時刻を設定する」を参照して下さい。

※設定した時刻の等時間図を作成します。

(例 時刻 1:00→1 時間等時間図を作成します。)

- 5) 「計算」を選択します。



※メッシュ範囲を指定していない場合は、「等時間図計算の確認」ダイアログが表示されます。

- 6) 確認ダイアログが開くので、「はい」を選択します。
7) 計算終了後、計算結果の処理を決定します。

9-5-9 計算を中止する

[操作手順]

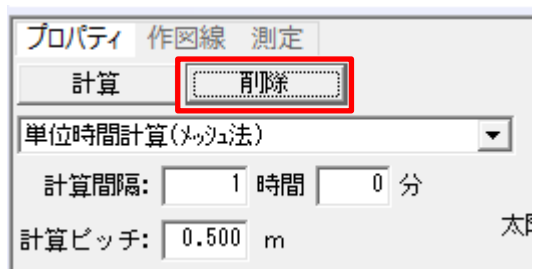
- 1) ステータスバーの「中止」を選択します。



9-5-10 等時間日影図を削除する

[操作手順]

- 1) 「削除」を選択します。



9-6 規制ラインチェック

○日影規制ラインに対して、日影規制の適否の判定を行います。

○適否の判定を色別で表示します。

○判定ポイントを選択すると、日照定規を表示します。

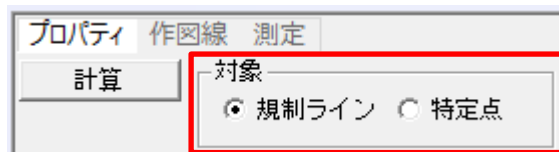
※選択した日照定規表示方法選択によって表示が異なります。

番号	項目	概要
①	計算	規制ラインチェックを実行します
②	対象	計算対象を選択します
		規制ライン 日影規制ライン上に判定ポイントを作成し、日影規制の適否の判定を行います 特定点 特定点を判定ポイントとして、日影規制の適否の判定を行います 予め特定点を登録する必要があります
③	分割線	日影規制の分割がある場合に、チェックを入れると日影規制分割線上の日影規制の適否の判定を行います。
④	ピッチ	判定ポイントのピッチを設定します
⑤	長さ	日影規制分割線上の判定をする長さを設定します 外側の日影規制ラインからの長さとなります
⑥	日影時間	選択した判定ポイントの日影時間を表示します
⑦	測定点高さ	選択した判定ポイントの測定点の高さを表示します
⑧	日照定規表示方法選択	日照定規の高さ表示を切り替えます
		任意高 任意の高さを設定します
		全階表示 断面計画で設定した階を表示します
		影響建物 日影の影響を及ぼす建物の高さを自動的に表示します
⑨	階削除	選択した階を削除します 「日照定規表示方法選択」で「任意階」を選択した場合に有効です
⑩	挿入	階を挿入します 「日照定規表示方法選択」で「任意階」を選択した場合に有効です
⑪	階リスト	日照定規に表示する高さを表示します 「日照定規表示方法選択」で「任意階」を選択した場合に有効です

9-6-1 規制ラインチェックを実行する

[操作手順]

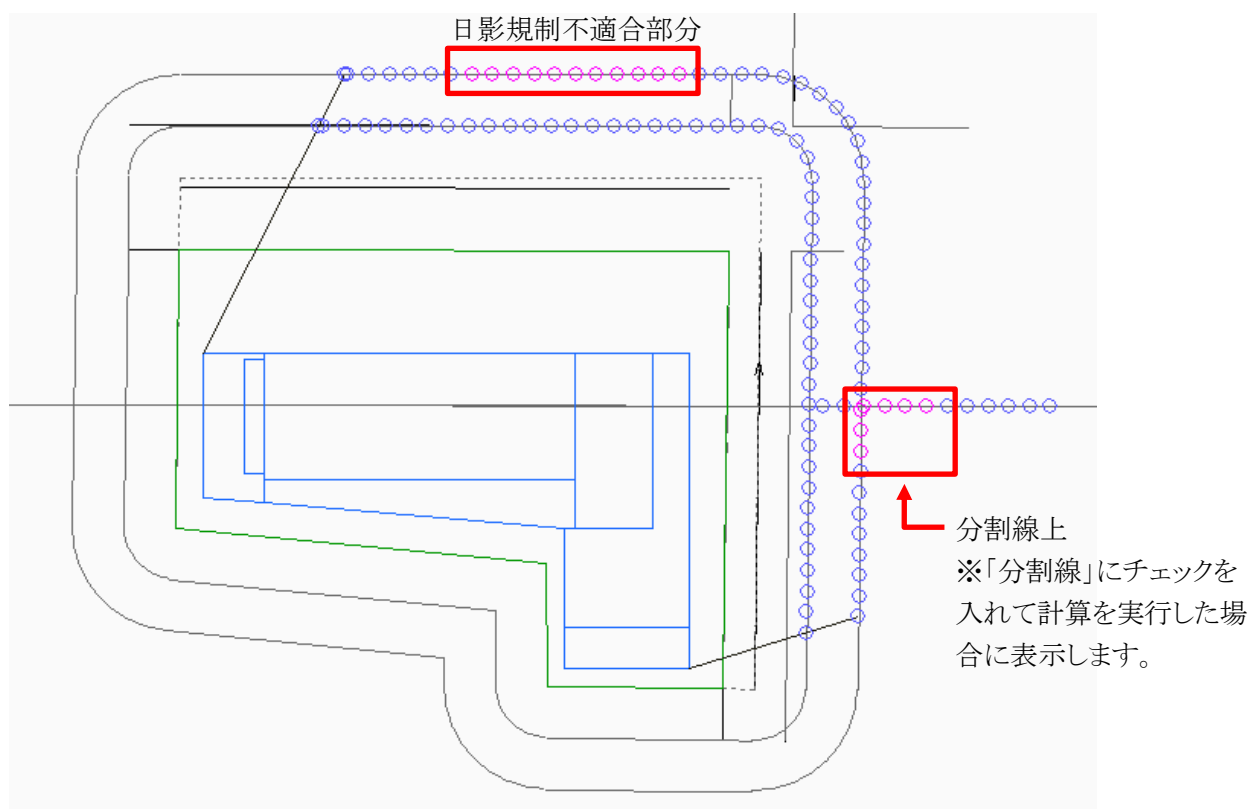
- 1) 「対象」欄で計算対象を選択します。



- 2) 必要に応じて各種設定を行います。
- 3) 「計算」を選択します。



9-6-2 計算結果の見方

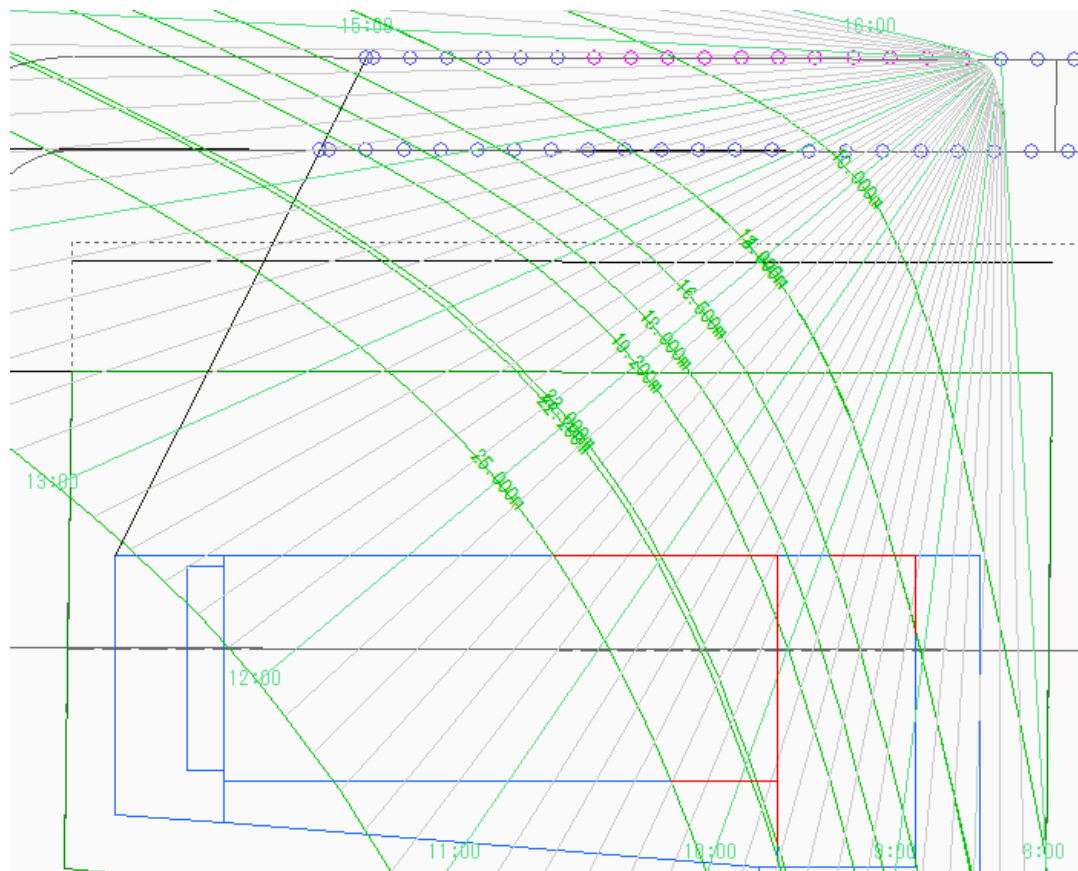


・規制ラインチェックポイント

表示		判定
シアン		適合
マゼンタ		不適合

9-6-3 日照定規について

○「9-20 日照定規」を参照して下さい。



9-7 特定点

- 日影の影響を把握するための特定点を平面図上の任意の位置に登録します。
- 登録した特定点に対して、「日影時間/日照定規/天空図(全・半)」等を表示/計算することができます。
- 特定点を選択すると日照定規を表示できます。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

⑩ ⑪ ⑫ ピッチ: 1.000 m ⑬ 個数: 2

⑭ 種類

- ☒ 日影時間
- ☐ 日照時間(日出-日入)
- ☐ 日照時間(開始-終了)

⑮

No	節季	月	日	度	分	秒	X	Y
1	冬至	12	22	-23	27	0	114.458	120.586
2	冬至	12	22	-23	27	0	109.714	120.596
3	冬至	12	22	-23	27	0	104.969	120.605
4	冬至	12	22	-23	27	0	99.750	120.615
5	冬至	12	22	-23	27	0	94.530	120.626
6	冬至	12	22	-23	27	0	89.440	120.636
7	冬至	12	22	-23	27	0	130.447	85.574

番号	項目	概要
①	特定点選択	特定点を選択します
②	建物選択	ブロックを選択します
③	特定点移動	選択した特定点を移動します
④	2点指定(ピッチ)	任意の2点間に指定ピッチの特定点を登録します
⑤	2点指定(点数)	任意の2点間に指定個数の特定点を登録します
⑥	個別	任意の点に特定点を登録します
⑦	規制ライン上(時計回り)	日影規制ライン上の任意の2点間に時計回りで指定ピッチの特定点を登録します
⑧	規制ライン上(反時計回り)	日影規制ライン上の任意の2点間に反時計回りで指定ピッチの特定点を登録します
⑨	ブロック削除	選択した特定点を削除します
⑩	最長点	日影規制条件と同じ測定面高さの特定点の中で一番日影時間が長い特定点を表示します
⑪	再計算	全ての特定点の再計算します
⑫	ピッチ	登録する特定点のピッチを設定します
⑬	個数	登録する特定点の個数を設定します
⑭	種類	特定点リストに表示する時間を選択します
		日影時間 日影規制時間内の日影時間を表示します バーチャート表示色は緑色です
		日照時間 (日出-日入) 日出から日入までの日照時間を白色で表示します バーチャート表示色は白色です
		日照時間 (開始-終了) 日影規制時間内の日照時間を白色で表示します バーチャート表示色は白色です
⑮	特定点リスト	特定点の情報を表示します

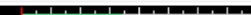
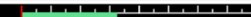
9-7-1 特定点リストの見方

○日影時間または日照時間が確認できます。

○特定点を登録すると、与条件設定の日影規制測定面及び日照条件で設定した値で計算します。

○特定点登録後にブロックまたは日照条件を変更した場合、特定点は自動計算されません。

「再計算」を実行することで変更が反映されます。

①	②	③	④			⑤			⑥		⑦					
No	節季	月	日	度	分	秒	X	Y	Z	日影時間	日影時間(新)	8	10	12	14	16
1	冬至	12	22	-23	27	0	114.458	120.586	4.000	2:33:28.32	2:33:28.31					
2	冬至	12	22	-23	27	0	109.714	120.596	4.000	3:29:42.40	3:29:42.40					
3	冬至	12	22	-23	27	0	104.969	120.605	4.000	3:29:38.43	3:29:38.43					
4	冬至	12	22	-23	27	0	99.750	120.615	4.000	3:29:34.07	3:29:34.07					
5	冬至	12	22	-23	27	0	94.530	120.626	4.000	3:17:47.38	3:17:47.38					
6	冬至	12	22	-23	27	0	89.440	120.636	4.000	2:58:04.29	2:58:04.29					
7	冬至	12	22	-23	27	0	130.447	85.574	4.000	2:33:19.55	2:33:19.55					
8	冬至	12	22	-23	27	0	130.475	87.702	4.000	2:49:08.14	2:49:08.14					

番号	項目	概要
①	No	特定点 No を表示します
②	節季	24 節季、またはユーザー設定から選択します
③	月/日	選択した 24 節季の月日を表示します 節季で「ユーザー」を選択した場合は任意の月日を入力します
④	度/分/秒	選択した 24 節季の太陽赤緯を表示します 節季で「ユーザー」を選択した場合は任意の数値を入力します ※月日と太陽赤緯が一致しない場合、太陽赤緯が優先されます
⑤	X/Y/Z	特定点の座標を表示します 直接入力が可能です
⑥	日影時間または日照時間	特定点における日影時間または日照時間を表示します
⑦	バーチャート	日影時間または日照時間をバーチャートで表示します

9-7-2 任意の 2 点間に特定点を登録する

[操作手順]

1) 「2 点指定(ピッチ)」コマンドまたは「2 点指定(点数)」コマンドを選択します。



2) 「ピッチ」または「個数」を設定します。

ピッチ: m
個数:

※図は「2 点指定(ピッチ)」コマンドを選択した場合の表示です。

3) 平面図で、任意の 2 点を指定します。

9-7-3 任意の点に特定点を登録する

[操作手順]

- 1) 「個別」コマンドを選択します。



- 2) 平面図で、任意の点を指定します。

9-7-4 規制ライン上の任意の2点間に特定点を登録する

[操作手順]

- 1) 「規制ライン上(時計回り)」コマンドまたは「規制ライン上(反時計回り)」コマンドを選択します。



- 2) 「ピッチ」を設定します。

ピッチ:	1.000	m
個数:	2	

- 3) 平面図で、日影規制ライン上の任意の2点を指定します。

9-7-5 特定点を選択する

9-7-5-1 平面図から選択する

[操作手順]

- 1) 「特定点選択」コマンドを選択します。



- 2) 平面図で、特定点を選択します。

※日照定規が表示されない場合は「表示項目の設定」を行ってください。

9-7-5-2 特定点リストから選択する

[操作手順]

- 1) 「特定点リスト」で特定点を選択します。

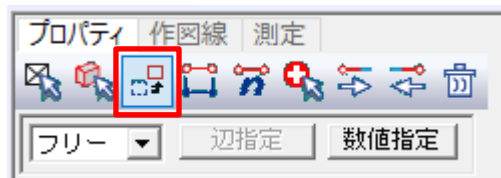
No	節季	月	日	度	分	秒	X	Y	Z	日影時間
1	冬至	12	22	-23	27	0	114.458	120.586	4.000	2:33:28.32
2	冬至	12	22	-23	27	0	109.714	120.596	4.000	3:29:42.40
3	冬至	12	22	-23	27	0	104.969	120.605	4.000	3:29:38.43
4	冬至	12	22	-23	27	0	99.750	120.615	4.000	3:29:34.07
5	冬至	12	22	-23	27	0	94.530	120.626	4.000	3:17:47.38

9-7-6 特定点を移動する

9-7-7 位置指定で移動する

[操作手順]

- 1) 移動する特定点を選択します。
- 2) 「特定点移動」コマンドを選択します。



※移動方法は図形編集コマンドを参照して下さい。

- 3) 平面図で、移動する特定点を選択します。
- 4) 移動する点を指定します。

9-7-7-1 数値入力で移動する

[操作手順]

- 1) 移動する特定点を選択します。
- 2) 「特定点リスト」で座標を指定します。

No	節季	月	日	度	分	秒	X	Y	Z	日影時間
1	冬至	12	22	-23	27	0	114.458	120.586	4.000	2:33:28.32
2	冬至	12	22	-23	27	0	109.714	120.596	4.000	3:29:42.40
3	冬至	12	22	-23	27	0	104.969	120.605	4.000	3:29:38.43
4	冬至	12	22	-23	27	0	99.750	120.615	4.000	3:29:34.07
5	冬至	12	22	-23	27	0	94.530	120.626	4.000	3:17:47.38

9-7-8 特定点を削除する

[操作手順]

- 1) 削除する特定点を選択します。
- 2) 「ブロック削除」コマンドを選択します。



9-7-9 建物を選択する

[操作手順]

- 1) 「建物選択」コマンドを選択します。
- 2) 平面図またはアイソメ図でブロックを選択します。



9-7-10 日影時間または日照時間が最長の特定点を表示する

[操作手順]

- 1) 「最長点」を選択します。



- 2) 日影時間または日照時間が最長の特定点を表示します。



- 3) 「OK」を選択すると、該当する特定点が選択されます。

9-7-11 特定点を再計算する

[操作手順]

- 1) 「再計算」を選択します。



※日影計算対象ブロックまたは日照条件に変更がある場合必ず実行してください。

9-7-12 特定点リストの出力について

- 特定点リストは、印刷プレビューの「表を選択」で「特定点リスト」を選択することで出力します。
- 「表示項目の設定」で「平面特定点」または「平面特定点+壁面特定点」を選択します。
- 「日影時間」、「日照時間(日の出-日の入)」または「日照時間(8時00分-16時00分)」を選択できます。

9-7-12-1 日影時間

日影特定点リスト

No	X座標[m]	Y座標[m]	測定高[m]	節気/日付	赤緯	日影時間	開始時間		終了時間
1	114.458	120.586	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	2:33:28.32	8:27:11.59 8:59:04.39		8:29:57.94 11:29:46.36
2	109.714	120.596	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	3:29:42.40	8:00:00.00		11:29:42.39
3	104.969	120.605	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	3:29:38.43	8:00:00.00		11:29:38.43
4	99.750	120.615	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	3:29:34.07	8:00:00.00		11:29:34.07
5	94.530	120.626	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	3:17:47.38	8:00:00.00		11:17:47.38
6	89.440	120.636	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	2:58:04.29	8:00:00.00		10:58:04.29
7	130.447	85.574	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	2:33:19.55	13:26:40.44		16:00:00.00
8	130.475	87.702	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	2:49:08.14	13:10:51.86		16:00:00.00

9-7-12-2 日照時間(日の出-日の入)

日照特定点リスト

No	X座標[m]	Y座標[m]	測定高[m]	節気/日付	赤緯	日照時間	開始時間		終了時間
1	114.458	120.586	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	6:59:30.96	7:13:30.35 8:29:57.94 11:29:46.36	  	8:27:11.59 8:59:04.39 16:46:29.64
2	109.714	120.596	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	5:28:58.38	7:13:30.35 11:29:42.39		7:25:41.50 16:46:29.64
3	104.969	120.605	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	5:16:51.21	11:29:38.43		16:46:29.64
4	99.750	120.615	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	5:16:55.57	11:29:34.07		16:46:29.64
5	94.530	120.626	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	5:28:42.26	11:17:47.38		16:46:29.64
6	89.440	120.636	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	5:48:25.35	10:58:04.29		16:46:29.64
7	130.447	85.574	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	6:13:10.08	7:13:30.35		13:26:40.44
8	130.475	87.702	4.000	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	6:02:40.98	7:13:30.35 16:41:10.16	 	13:10:51.86 16:46:29.64

9-8 特定点天空率

○特定点の天空率を計算します。

○予め日影計算/特定点で特定を設定する必要があります。

○法 56 条第 7 項に規定する天空率計算ではありません。

① 計算 ② 削除

③ 特定点: ④ 求積表:

No	天空率	計算	No	底辺	高さ	面積
1	96.55		S1	0.0271141	0.0074271	0.0002014
2	95.80		S2	0.0271141	0.0078388	0.0002125
3	95.03		S3	0.0486821	0.0203436	0.0009904
4	94.25		S4	0.1960066	0.0004483	0.0000879
5	93.65		S5	0.1960066	0.0940005	0.0184247
6	93.39		S6	0.1473272	0.0180622	0.0026610

番号	項目	概要
①	計算	天空率計算を実行します
②	削除	計算結果を削除します
③	特定点リスト	特定点をリスト表示します
		No 特定点 No を表示します
		天空率 天空率を表示します
		計算 計算を実行する場合にチェックを入れます
④	求積表	天空図の半径を1とした求積表を表示します
		No 三斜求積図の符号及び計算項目を表示します
		底辺 三斜求積図の底辺を表示します 弓型の場合は角度を表示します
		高さ 三斜求積図の高さを表示します
		面積 三斜求積図の面積を表示します

9-8-1 特定点を選択する

[操作手順]

1) 「特定点リスト」より、特定点を選択します。

特定点:

No	天空率	計算
1		
2		
3		

9-8-2 天空率計算を実行する

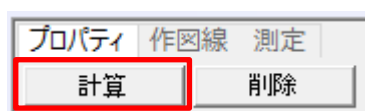
[操作手順]

- 1) 「特定点リスト」で、計算を実行する特定点の「計算」欄にチェックを入れます。

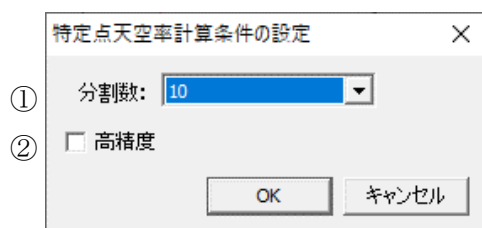
特定点：

No	天空率	計算
1		☒
2		☒
3		
4		
5		
6		
7		
8		

- 2) 「計算」を選択します。



- 3) 「特定点天空率計算条件の設定」ダイアログが開きます。



番号	項目	概要
①	分割数	全天空図の最大分割角度を選択します
②	高精度	チェックを入れると、高精度計算をします

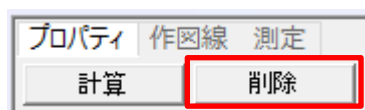
- 4) 「OK」を選択します。

9-8-3 計算結果を削除する

[操作手順]

- 1) 「特定点リスト」で削除する特定点を選択します。
※Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら選択することで、複数の特定点の選択が可能です。

- 2) 「削除」を選択します。



9-9 特定点位置確認

- 特定点の位置確認線を作成します。
- 予め日影計算/特定点で特定点を設定する必要があります。
- 位置確認線は平面図、アイソメ図、ソーラーアイビュー、全天空図で確認できます。
- 法 56 条第 7 項に規定する天空率計算で求められる位置確認ではありません。



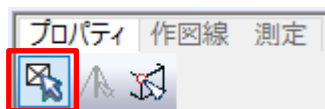
番号	項目	概要
①	特定点選択	特定点を選択します
②	位置確認線選択	位置確認線を選択します
③	端点選択	端点を選択します
④	削除	位置確認線を削除します
⑤	自動探索	位置確認線を自動作成します
⑥	特定点リスト	特定点をリスト表示します
		No 特定点 No を表示します
		天空率 天空率を表示します
⑦	位置確認リスト	位置確認線をリスト表示します
		指定点 No 位置確認線の No を表示します
		建物高さ 位置確認指定端点の特定点からの建物高さを表示します
		水平距離 位置確認を行う特定点からの水平距離を表示します
		仰角 位置確認を行う特定点からの仰角を表示します
		方位角 位置確認を行う特定点からの方位角を表示します
		cos(h) 位置確認指定端点の天空図投影位置を表示します

9-9-1 特定点を選択する

9-9-1-1 平面図から選択する

[操作手順]

- 1) 「特定点選択」コマンドを選択します。



- 2) 平面図で、特定点を選択します。

9-9-1-2 特定点リストから選択する

[操作手順]

- 1) 「特定点リスト」で特定点を選択します。

特定点：

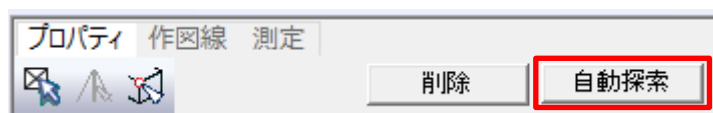
No	天空率
1	96.55
2	95.80
3	95.03
4	94.25
5	93.65

※Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら選択することで、複数の特定点の選択が可能です。

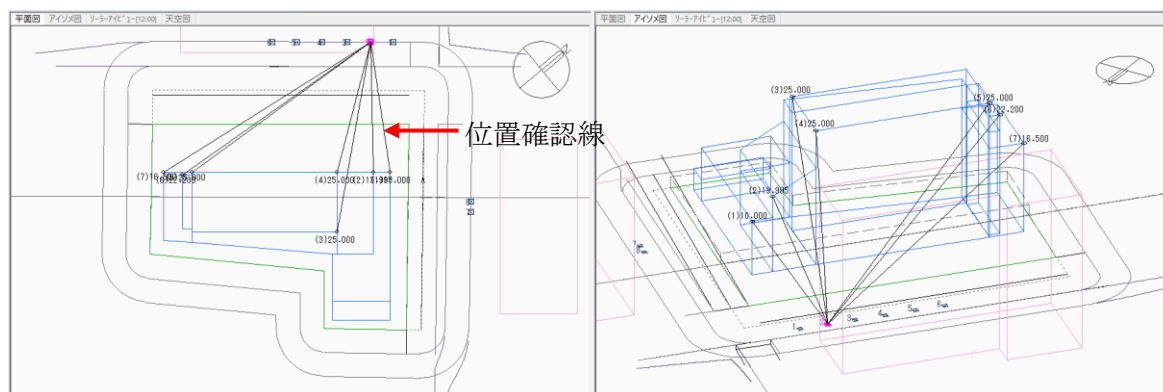
9-9-2 自動で位置確認線を作成する

[操作手順]

- 1) 位置確認線を作成する特定点を選択します。
- 2) 「自動探索」を選択します。



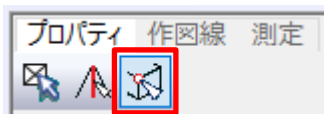
- 3) 位置確認線が作成されます。



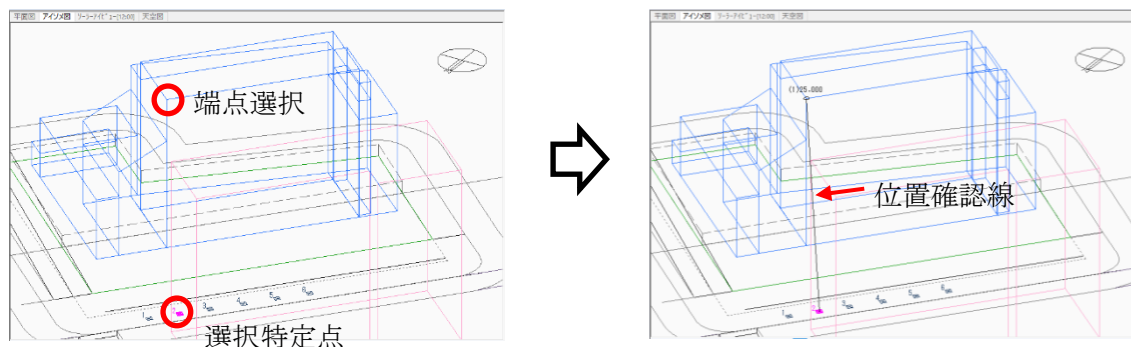
9-9-3 任意の位置確認線を作成する

[操作手順]

- 1) 位置確認線を作成する特定点を選択します。
- 2) 「端点選択」コマンドを選択します。



- 3) アイソメ図またはソーラーアイビューで位置確認線を作成する端点を選択します。



9-9-4 位置確認線を確認する

9-9-4-1 図面から選択する

[操作手順]

- 1) 位置確認線を確認する特定点を選択します。
- 2) 「位置確認線選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図、アイソメ図、ソーラーアイビュー、または全天空図で確認する位置確認線を選択します。

9-9-4-2 位置確認リストから選択する

[操作手順]

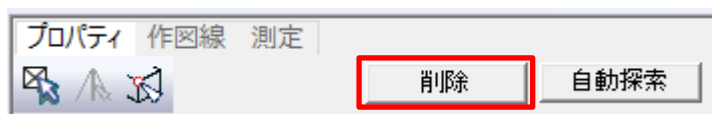
- 1) 「位置確認リスト」で確認する位置確認線を選択します。

位置確認:				
指定点No	建物高さ	水平距離	仰角	方位角
(1)	6.000m	27.187m	12.445°	121.283°
(2)	9.995m	26.885m	20.394°	128.678°
(3)	21.000m	39.734m	27.857°	139.934°
(4)	21.000m	27.755m	37.112°	144.351°
(5)	21.000m	45.668m	24.695°	183.859°
(6)	18.200m	47.644m	20.907°	184.691°
(7)	12.500m	50.587m	13.880°	187.819°

9-9-5 全ての位置確認線を削除する

[操作手順]

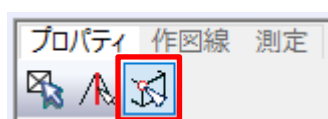
- 1) 位置確認線を削除する特定点を選択します
- 2) 「削除」を選択します。



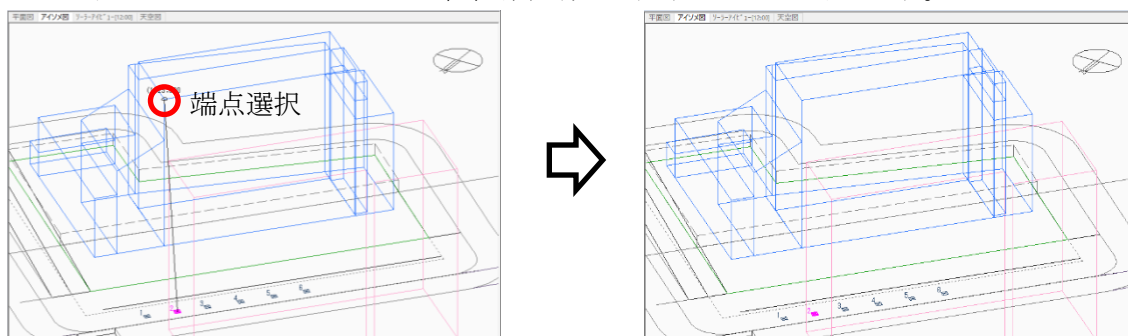
9-9-6 任意の位置確認線を削除する

[操作手順]

- 1) 位置確認線を削除する特定点を選択します
- 2) 「端点選択」コマンドを選択します。



- 3) アイソメ図またはソーラーアイビューで位置確認線を削除する端点を選択します。



9-10 基準倍率表

○日影形状算定の根拠となる基準倍率及び方位角が確認できます。

○基準倍率表の数値の変更はできません。

⑤

① 時刻刻み: 30分

② 方位角単位: 度分(60進法)

③ 倍率

緯度: 38度00分00秒

④ 経度: 139度45分00秒

太陽赤緯: 冬至[12月22日頃]

-23度27分00秒

時刻	方位角[度]	倍率	X	Y
8:00	-53:20	7.2201	-0.4086	7.2086
8:30	-48:13	4.4787	0.1455	4.4763
9:00	-42:41	3.2888	0.4233	3.2615
9:30	-36:41	2.6341	0.6106	2.5623
10:00	-30:10	2.2320	0.7601	2.0986
10:30	-23:10	1.9746	0.8937	1.7607
11:00	-15:44	1.8128	1.0229	1.4967
11:30	-7:57	1.7231	1.1558	1.2779

番号	項目	概要
①	時刻刻み	表示する時刻刻みを、「1 時間」、「30 分」、または「10 分」から選択します
②	方位角単位	表示する方位角単位を、「度(10 進法)」または「度分(60 進法)」から選択します
③	高度/倍率選択	「倍率」または「高度」を選択します
④	計算条件	緯度・経度、太陽赤緯を表示します
⑤	基準倍率表	選択した時刻毎の基準倍率表を表示します

・「度(10 進法)」、「倍率」を選択

時刻	方位角[度]	倍率	X	Y
8:00	-53.3294	7.2201	-0.4086	7.2086
8:30	-48.2236	4.4787	0.1455	4.4763
9:00	-42.6898	3.2888	0.4233	3.2615
9:30	-36.6820	2.6341	0.6106	2.5623
10:00	-30.1744	2.2320	0.7601	2.0986

・「度分(60 進法)」、「高度」を選択

時刻	方位角[度]	高度	X	Y
8:00	-53:20	7°53'	-0.4086	7.2086
8:30	-48:13	12°35'	0.1455	4.4763
9:00	-42:41	16°55'	0.4233	3.2615
9:30	-36:41	20°47'	0.6106	2.5623
10:00	-30:10	24°08'	0.7601	2.0986

9-10-1 基準倍率表の出力について

○基準倍率表は、印刷プレビューの「表を選択」で「基準倍率表」を選択することで出力します。

基準倍率表

時刻	方位角[度]	倍率	X	Y
8:00	-53.3683	7.0337	-5.6445	4.1968
8:30	-48.2817	4.3956	-3.2810	2.9251
9:00	-42.7616	3.2372	-2.1979	2.3767
9:30	-36.7610	2.5962	-1.5537	2.0799
10:00	-30.2529	2.2012	-1.1090	1.9014
10:30	-23.2437	1.9477	-0.7686	1.7896
11:00	-15.7861	1.7882	-0.4864	1.7208
11:30	-7.9862	1.6996	-0.2361	1.6831
12:00	0.0000	1.6711	-0.0000	1.6711
12:30	7.9862	1.6996	0.2361	1.6831
13:00	15.7861	1.7882	0.4864	1.7208
13:30	23.2437	1.9477	0.7686	1.7896
14:00	30.2529	2.2012	1.1090	1.9014
14:30	36.7610	2.5962	1.5537	2.0799
15:00	42.7616	3.2372	2.1979	2.3767
15:30	48.2817	4.3956	3.2810	2.9251
16:00	53.3683	7.0337	5.6445	4.1968

9-11 建物高倍率表

○基準倍率及び方位角を基準とした建物高による日影形状長さを表示します。

○建物高倍率表の数値の変更はできません。

① 時刻刻み: 30分

② 方位角単位: 度分(60進法)

③ 緯度: 36度00分00秒
経度: 139度45分00秒
太陽赤緯: 冬至[12月22日頃]
-23度27分00秒

④

時刻	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30
方位角	-53°20'	-48°13'	-42°41'	-36°41'	-30°10'	-23°10'
倍率	7.2201	4.4787	3.2888	2.6341	2.2320	1.9746
測定面高	1.500					
2.5000	18.0505	11.1967	8.2222	6.5853	5.5802	4.9366
8.5000	61.3716	38.0689	27.9555	22.3901	18.9728	16.7843
12.4952	90.2177	55.9621	41.0951	32.9139	27.8904	24.6733

番号	項目	概要
①	時刻刻み	表示する時刻刻みを、「1 時間」、「30 分」、または「10 分」から選択します
②	方位角単位	表示する方位角単位を、「度(10 進法)」または「度分(60 進法)」から選択します
③	計算条件	緯度・経度、太陽赤緯を表示します
④	建物高倍率表	選択した時刻毎の建物高倍率表を表示します

・「度(10 進法)」を選択

時刻	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00
方位角	-53.3294	-48.2236	-42.6898	-36.6820	-30.1744
倍率	7.2201	4.4787	3.2888	2.6341	2.2320
測定面高	1.500				
2.5000	18.0505	11.1967	8.2222	6.5853	5.5802
8.5000	61.3716	38.0689	27.9555	22.3901	18.9728

・「度分(60 進法)」を選択

時刻	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00
方位角	-53°20'	-48°13'	-42°41'	-36°41'	-30°10'
倍率	7.2201	4.4787	3.2888	2.6341	2.2320
測定面高	1.500				
2.5000	18.0505	11.1967	8.2222	6.5853	5.5802
8.5000	61.3716	38.0689	27.9555	22.3901	18.9728

9-11-1 建物高倍率表の出力について

○建物高倍率表は、印刷プレビューの「表を選択」で「建物高倍率表」を選択することで出力します。

建物高倍率表

時刻	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
方位角	-53.3294	-42.6898	-30.1744	-15.7339	0.0000	15.7339	30.1744	42.6898	53.3294
倍率	7.2201	3.2888	2.2320	1.8128	1.6942	1.8128	2.2320	3.2888	7.2201
測定面高 = 1.500									
2.5000	18.0505	8.2222	5.5802	4.5322	4.2357	4.5322	5.5802	8.2222	18.0505
8.5000	61.3716	27.9555	18.9728	15.4095	14.4014	15.4095	18.9728	27.9555	61.3716
12.4952	90.2177	41.0951	27.8904	22.6522	21.1703	22.6522	27.8904	41.0951	90.2177
12.5000	90.2524	41.1110	27.9011	22.6610	21.1785	22.6610	27.9011	41.1110	90.2524
15.0000	108.3029	49.3332	33.4813	27.1932	25.4142	27.1932	33.4813	49.3332	108.3029
16.5000	119.1332	54.2665	36.8295	29.9125	27.9556	29.9125	36.8295	54.2665	119.1332
17.7000	127.7974	58.2132	39.5080	32.0879	29.9888	32.0879	39.5080	58.2132	127.7974
20.5000	148.0140	67.4220	45.7578	37.1640	34.7327	37.1640	45.7578	67.4220	148.0140
20.7000	149.4580	68.0798	46.2043	37.5266	35.0716	37.5266	46.2043	68.0798	149.4580
23.5000	169.6745	77.2886	52.4541	42.6026	39.8156	42.6026	52.4541	77.2886	169.6745
測定面高 = 4.000									
6.0000	43.3212	19.7333	13.3925	10.8773	10.1657	10.8773	13.3925	19.7333	43.3212
9.9952	72.1672	32.8729	22.3102	18.1200	16.9346	18.1200	22.3102	32.8729	72.1672
10.0000	72.2019	32.8888	22.3209	18.1288	16.9428	18.1288	22.3209	32.8888	72.2019
12.5000	90.2524	41.1110	27.9011	22.6610	21.1785	22.6610	27.9011	41.1110	90.2524
14.0000	101.0827	46.0443	31.2493	25.3803	23.7199	25.3803	31.2493	46.0443	101.0827
15.2000	109.7469	49.9910	33.9278	27.5557	25.7531	27.5557	33.9278	49.9910	109.7469
18.0000	129.9635	59.1998	40.1776	32.6318	30.4970	32.6318	40.1776	59.1998	129.9635
18.2000	131.4075	59.8576	40.6240	32.9944	30.8359	32.9944	40.6240	59.8576	131.4075
21.0000	151.6241	69.0665	46.8739	38.0704	35.5799	38.0704	46.8739	69.0665	151.6241

9-12 壁面編集

- 壁面(垂直面)日影計算を実行するための壁面を作成します。
- 作成した壁面毎の日照時間帯を確認できます。
- 「日影」属性が「対象外」のブロックの壁面のみ作成可能です。

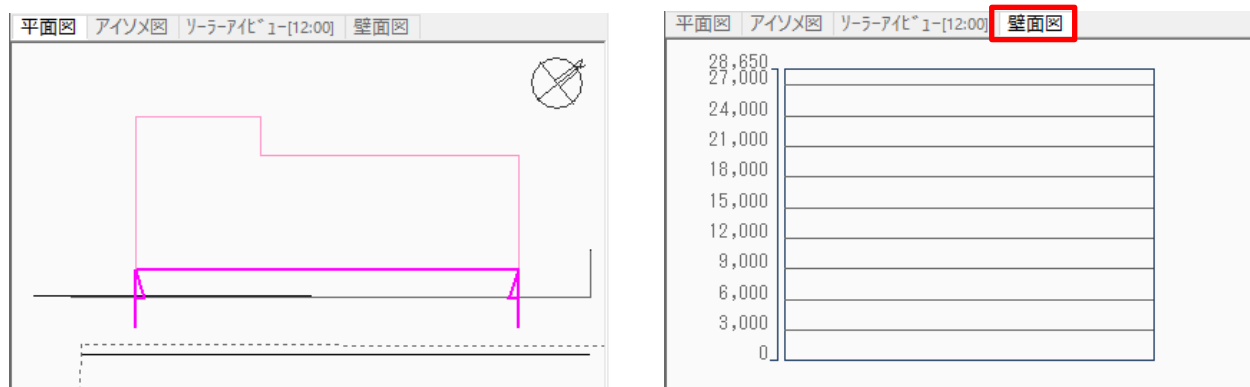
No	種類	上面	下面	Z	ZD	斜線	日影	P	面積
1	建物	平面		25.000		✓	✓	4	367.51
2	建物	傾斜				✓	✓	4	126.54
3	建物	平面		25.650				4	575.98
4	建物	平面		28.650				6	532.00

※「建物編集/リスト編集」で「日影」欄のチェックを外します。

①	②	③
		
④		
No	日照時間帯	
1	8:19:19.98-16:48:31.14	
2	7:13:28.85-14:45:50.21	

番号	項目	概要
①	壁面選択	作成済の壁面を選択します
②	壁面作成	作成する壁面を選択します
③	ブロック削除	壁面を削除します
④	壁面リスト	作成した壁面をリスト表示します
		No 壁面 No を表示します
		日照時間帯 壁面の日照時間帯を表示します 表示時間外は当該壁面の自己日影時間となりますが、他の自己の壁面からの自己日影時間は考慮されません

- ・壁面を作成すると平面図に矢視線が表示され、「壁面図」タブで壁面図が表示できます。



9-12-1 壁面を選択する

9-12-1-1 平面図またはアイソメ図から選択する

[操作手順]

- 1) 「壁面選択」コマンドを選択します。



- 2) 平面図またはアイソメ図で、壁面を選択します。

9-12-1-2 壁面リストから選択する

[操作手順]

- 1) 「壁面リスト」で壁面を選択します。

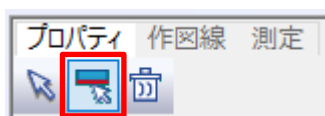
No	日照時間帯
1	8:19:19.98-16:46:31.14
2	7:13:28.85-14:45:50.21

※Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら選択することで、複数の壁面の選択が可能です。

9-12-2 壁面を新規作成する

[操作手順]

- 1) 「壁面作成」コマンドを選択します。



- 2) 平面図またはアイソメ図で、壁面を作成するブロックの辺を選択します。

※連続で辺の選択ができます。

9-12-3 壁面を削除する

[操作手順]

- 1) 削除する壁面を選択します。
- 2) 「ブロック削除」コマンドを選択します。



9-13 壁面形状図

○壁面(垂直面)に投影される時刻日影を計算し、壁面時刻日影形状図を作成します。

○「壁面編集」で作成した壁面に対して計算を実行します。

○計算結果の自動更新はしません。与条件及びブロックを変更した場合は、必ず再計算をしてください。

The screenshot shows the 'Wall Surface Shape Diagram' software interface. It includes several input fields and tables for configuring the calculation.

Input Fields:

- ① 計算 (Calculate)
- ② 削除 (Delete)
- ③ 計算間隔: 1 時間 0 分
- ④ 緯度: 36度00分00秒
- ④ 経度: 139度45分00秒
- 太陽赤緯: 冬至[12月22日頃]
- ⑤ -23度27分00秒
- 計算範囲: 8時00分~16時00分
- ⑥ ☐ 計算対象ブロックを表示
- ⑦ 挿入 (Insert)
- ⑧ 時刻削除 (Delete Time)

Table ⑨: Calculation Time Selection

No	時刻
1	8:00
2	9:00
3	10:00
4	11:00
5	12:00
6	13:00
7	14:00
8	15:00

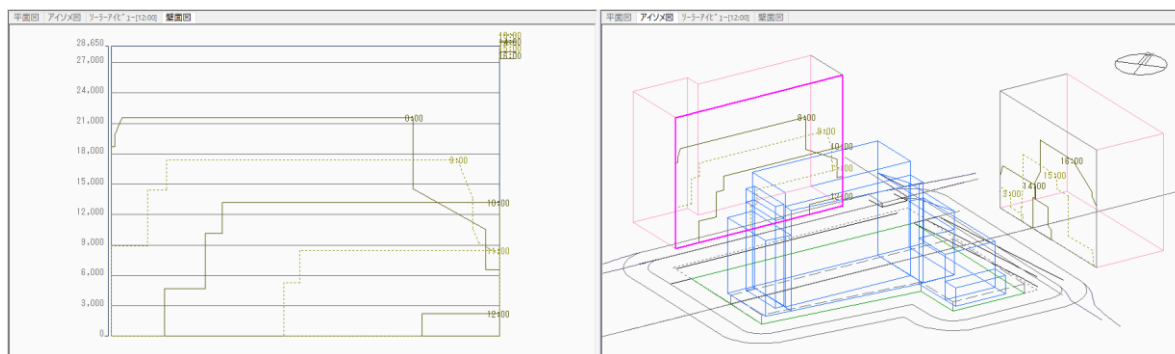
Table ⑩: Calculation Results

No	日照時間帯	計算
1	8:19:19.98-16:46:31.14	✓
2	7:13:28.85-14:45:50.21	✓
3	14:45:50.21-16:46:31.14	✓
4	7:13:28.85- 8:19:19.98	✓

番号	項目	概要
①	計算	壁面時刻日影計算を実行します
②	削除	壁面時刻日影形状図を削除します
③	計算間隔	計算間隔を設定します
④	緯度経度	緯度経度を表示します 「与条件設定/緯度経度」で設定します
⑤	日照条件	日照条件を表示します 「与条件設定/日照条件」で設定します
⑥	計算対象ブロックを表示	チェックを入れると、壁面毎の壁面時刻日影計算対象ブロックを各図に強調表示します
⑦	挿入	時刻を挿入します
⑧	時刻削除	時刻を削除します
⑨	時刻リスト	計算を行う時刻を表示・設定します
⑩	壁面リスト	壁面をリスト表示します
		No 壁面 No を表示します
		日照時間帯 壁面の日照時間帯を表示します 表示時間外は当該壁面の自己日影時間です。同じブロックの他の壁面からの自己日影時間は考慮されません
		計算 チェックを入れると、壁面時刻日影計算を実行します

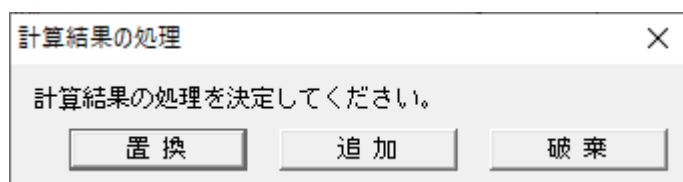
9-13-1 壁面形状図について

- 壁面図及びアイソメ図に計算結果を表示します。
- 複数の壁面を計算対象としている場合、一括計算を行います。



9-13-2 計算結果の処理

- 計算実行後、計算結果の処理を選択します



項目	概要
置換	既存の計算結果と今回の計算結果を置き換えます
追加	既存の計算結果に今回の計算結果を追加します
破棄	今回の計算結果を破棄します

9-13-3 壁面時刻日影計算を実行する

[操作手順]

- 1) 「壁面リスト」で、壁面時刻日影計算を実行する壁面の「計算」欄にチェックを入れます。

No	日照時間帯	計算
1	8:19:19.98-16:46:31.14	☒
2	7:13:28.85-14:45:50.21	☒
3	14:45:50.21-16:46:31.14	☐
4	7:13:28.85- 8:19:19.98	☐

- 2) 「計算間隔」を設定、または計算時刻を編集します。

計算間隔:	1 時間	0 分	☐ 挿入	<table><tr><th>No</th><th>時刻</th><th></th></tr><tr><td>1</td><td>8:00</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>9:00</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>10:00</td><td></td></tr><tr><td>4</td><td>11:00</td><td></td></tr><tr><td>5</td><td>12:00</td><td></td></tr><tr><td>6</td><td>13:00</td><td></td></tr><tr><td>7</td><td>14:00</td><td></td></tr><tr><td>8</td><td>15:00</td><td></td></tr><tr><td>9</td><td>16:00</td><td></td></tr></table>	No	時刻		1	8:00		2	9:00		3	10:00		4	11:00		5	12:00		6	13:00		7	14:00		8	15:00		9	16:00	
No	時刻																																	
1	8:00																																	
2	9:00																																	
3	10:00																																	
4	11:00																																	
5	12:00																																	
6	13:00																																	
7	14:00																																	
8	15:00																																	
9	16:00																																	
緯度:	36度00分00秒																																	
経度:	139度45分00秒																																	
太陽赤緯:	冬至[12月22日頃]																																	
	-23度27分00秒																																	
計算範囲:	8時00分~16時00分																																	
☐ 計算対象ブロックを表示																																		
				時刻削除																														

- 3) 「計算」を選択します。

プロパティ	作
計算	削除

- 4) 確認ダイアログが表示されます。

ADS10

?

計算を開始します
よろしいですか

はい(Y)

いいえ(N)

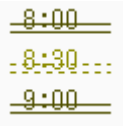
- 5) 「はい」を選択します。
6) 計算終了後、計算結果の処理を決定します。

9-13-4 計算結果の表示内容

9-13-4-1 全面日影

	□で囲まれた時刻は、壁面全面がその時刻の影の影響を受けます
---	-------------------------------

9-13-4-2 日影なし

	取り消し線のある時刻は、壁面全面がその時刻の影の影響を受けません
---	----------------------------------

9-13-5 計算を中止する

[操作手順]

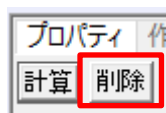
- 1) ステータスバーの「中止」を選択します。



9-13-6 壁面時刻日影形状図を削除する

[操作手順]

- 1) 「削除」を選択します。



9-14 壁面等時間図

○壁面(垂直面)に投影される等時間日影を計算し、壁面等時間日影図の作成を行います。

○「壁面編集」で作成した壁面に対してメッシュ法で計算を実行します。

○計算結果の自動更新はしません。与条件及びブロックを変更した場合は、必ず再計算をしてください。

① 計算 ② 削除

③ 計算ピッチ: 1.000 m

④ 計算間隔: 1 時間 0 分

緯度: 36度00分00秒

⑤ 経度: 139度45分00秒

太陽赤緯: 冬至[12月22日頃]

⑥ -23度27分00秒

計算範囲: 8時00分～18時00分

⑦ ☐ 計算対象ブロックを表示

⑧ 挿入

⑨ 時刻削除

⑩

No	時間
1	1:00
2	2:00
3	3:00
4	4:00
5	5:00
6	6:00
7	7:00
8	8:00

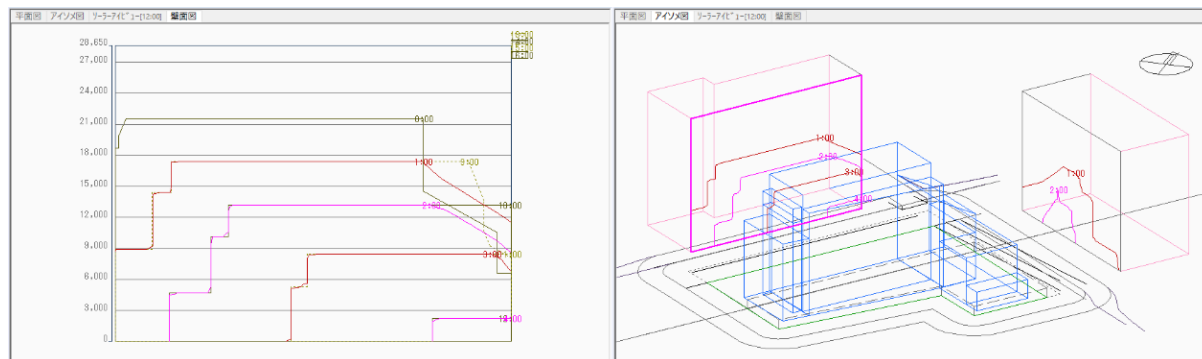
⑪

No	日照時間帯	計算
1	8:19:19.98-16:46:31.14	✓
2	7:13:28.85-14:45:50.21	✓
3	7:13:28.85- 8:19:19.98	✓
4	7:13:28.85-14:45:50.21	✓

番号	項目	概要
①	計算	壁面時刻日影計算を実行します
②	削除	壁面時刻日影形状図を削除します
③	計算ピッチ	計算ピッチを設定します
④	計算間隔	計算間隔を設定します
⑤	緯度経度	緯度経度を表示します 「与条件設定/緯度経度」で設定します
⑥	日照条件	日照条件を表示します 「与条件設定/日照条件」で設定します
⑦	計算対象ブロックを表示	チェックを入れると、壁面毎の壁面時刻日影計算対象ブロックを各図に強調表示します
⑧	挿入	時刻を挿入します
⑨	時刻削除	時刻を削除します
⑩	時刻リスト	計算を行う時刻を表示・設定します
⑪	壁面リスト	壁面をリスト表示します
		No 壁面 No を表示します
		壁面の日照時間帯を表示します 表示時間外は当該壁面の自己日影時間です。同じブロックの他の壁面からの自己日影時間は考慮されません 壁面等時間図は、計算範囲かつ日照時間帯の時間を対象に計算を行います
		計算 チェックを入れると、壁面時刻日影計算を実行します

9-14-1 壁面等時間図について

- 壁面図及びアイソメ図に計算結果を表示します。
- 複数の壁面を計算対象としている場合、一括計算を行います。



9-14-2 計算結果の処理

- 計算実行後、計算結果の処理を選択します

計算結果の処理 ×

計算結果の処理を決定してください。

置換
追加
破棄

項目	概要
置換	既存の計算結果と今回の計算結果を置き換えます
追加	既存の計算結果に今回の計算結果を追加します
破棄	今回の計算結果を破棄します

9-14-3 壁面等時間日影計算を実行する

[操作手順]

- 1) 「壁面リスト」で、壁面時刻日影計算を実行する壁面の「計算」欄にチェックを入れます。

No	日照時間帯	計算
1	8:19:19.98-16:46:31.14	☒
2	7:13:28.85-14:45:50.21	☒
3	14:45:50.21-16:46:31.14	☐
4	7:13:28.85- 8:19:19.98	☐

- 2) 「計算ピッチ」を設定します。

プロパティ 作図線 測定

計算 削除
計算ピッチ: 1.000 m

計算間隔: 1 時間
0 分

- 3) 「計算間隔」を設定、または計算時刻を編集します。

計算ピッチ: 1.000 m ☐ 挿入

計算間隔: 1 時間 0 分

緯度: 36度00分00秒

経度: 139度45分00秒

太陽赤緯: 冬至[12月22日頃]
-23度27分00秒

計算範囲: 8時00分～16時00分

☐ 計算対象ブロックを表示

No	時間
1	1:00
2	2:00
3	3:00
4	4:00
5	5:00
6	6:00
7	7:00
8	8:00

- 4) 「計算」を選択します。

プロパティ 作

計算

- 5) 確認ダイアログが表示されます。

ADS10

計算を開始します
よろしいですか

- 6) 「はい」を選択します。
- 7) 計算終了後、計算結果の処理を決定します。

9-14-4 計算を中止する

[操作手順]

- 1) ステータスバーの「中止」を選択します。

第1領域 03:00 高さ4.000m (5.990m, 46.419m)

9-14-5 壁面等時間日影形状図を削除する

[操作手順]

- 1) 「削除」を選択します。

プロパティ 作

計算

9-15 壁面特定点

○日影の影響を把握するための壁面特定点を壁面図上の任意の位置に登録します。

○登録した壁面特定点に対して、「日影時間/天空図(全・半)」等を表示/計算することができます。

番号	項目	概要
①	壁面選択	壁面を選択します
②	特定点選択	壁面特定点を選択します
③	建物選択	ブロックを選択します
④	特定点移動	選択し壁面特定点を移動します
⑤	2点指定(ピッチ)	任意の2点間に指定ピッチの壁面特定点を登録します
⑥	2点指定(点数)	任意の2点間に指定個数の壁面特定点を登録します
⑦	個別	任意の点に壁面特定点を登録します
⑧	垂直	任意の点から垂直方向にオフセットして指定ピッチの指定個数の壁面特定点を登録します
⑨	ブロック削除	選択した壁面特定点を削除します
⑩	再計算	全ての壁面特定点の再計算します
⑪	壁面リスト	壁面をリスト表示します
		No 壁面 No を表示します
		日照時間帯 壁面の日照時間帯を表示します 表示時間外は当該壁面の自己日影時間です。同じブロックの他の壁面からの自己日影時間は考慮されません
⑫	指定方法	壁面特定点の指定方法を設定します
		ピッチ 登録する壁面特定点のピッチを設定します
		個数 登録する壁面特定点の個数を設定します
		オフセット 登録する壁面特定点の垂直方向のオフセット値を設定します
⑬	種類	壁面特定点リストに表示する時間を選択します
		日影時間 日影規制時間内の日影時間を表示します バーチャート表示色は緑色です
		日照時間(日出-日入) 日出から日入までの日照時間を白色で表示します バーチャート表示色は白色です
		日照時間(開始-終了) 日影規制時間内の日照時間を白色で表示します バーチャート表示色は白色です
⑭	壁面特定点リスト	壁面特定点の情報を表示します

9-15-1 壁面特定点リストの見方

○日影時間または日照時間が確認できます。

○壁面特定点を登録すると、与条件設定/日照条件で設定した節季で計算します。

○壁面特定点登録後にブロックまたは日照条件を変更した場合、壁面特定点は自動計算されません。

「再計算」を実行することで変更が反映されます。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
No	節季	月	日	度	分	秒	X	Y	日影時間	8	10	12	14	16
1	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	1.218	1:47:15.19					
2	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	4.218	1:30:04.21					
3	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	7.218	1:11:11.68					
4	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	10.218	0:34:15.86					
5	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	13.218	0:00:00.00					
6	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	16.218	0:00:00.00					
7	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	19.218	0:00:00.00					
8	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	22.218	0:00:00.00					

番号	項目	概要
①	No	壁面特定点 No を表示します
②	節季	24 節季、またはユーザー設定から選択します
③	月/日	選択した 24 節季の月日を表示します 節季で「ユーザー」を選択した場合は任意の月日を入力します
④	度/分/秒	選択した 24 節季の太陽赤緯を表示します 節季で「ユーザー」を選択した場合は任意の数値を入力します ※月日と太陽赤緯が一致しない場合、太陽赤緯が優先されます
⑤	X/Y	壁面特定点の壁面図上の座標を表示します 直接入力が可能です
⑥	日影時間または日照時間	壁面特定点における日影時間または日照時間を表示します
⑦	バーチャート	日影時間または日照時間をバーチャートで表示します

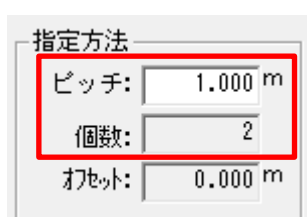
9-15-2 任意の 2 点間に壁面特定点を登録する

[操作手順]

1) 「2 点指定(ピッチ)」コマンドまたは「2 点指定(点数)」コマンドを選択します。



2) 「ピッチ」または「個数」を設定します。



※図は「2 点指定(ピッチ)」コマンドを選択した場合の表示です。

3) 壁面図で、任意の 2 点を指定します。

9-15-3 任意の点に壁面特定点を登録する

[操作手順]

- 1) 「個別」コマンドを選択します。



- 2) 壁面図で、任意の点を指定します。

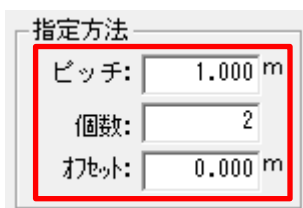
9-15-4 任意の点から垂直方向にオフセットして壁面特定点を登録する

[操作手順]

- 1) 「垂直」コマンドを選択します。



- 2) 「ピッチ」、「個数」、および「オフセット」を設定します。



- 3) 壁面図で、任意の点を指定します。

9-15-5 壁面特定点を選択する

9-15-5-1 壁面図から選択する

[操作手順]

- 1) 「特定点選択」コマンドを選択します。



- 2) 壁面図で、壁面特定点を選択します。

9-15-5-2 壁面特定点リストから選択する

[操作手順]

- 1) 「壁面特定点リスト」で壁面特定点を選択します。

No	節季	月	日	度	分	秒	X	Y	日影時間
1	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	1.218	1:47:15.19
2	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	4.218	1:30:04.21
3	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	7.218	1:11:11.68
4	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	10.218	0:34:15.86
5	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	13.218	0:00:00.00

9-15-6 壁面特定点を移動する

9-15-6-1 位置指定で移動する

[操作手順]

- 1) 移動する壁面特定点を選択します。
- 2) 「特定点移動」コマンドを選択します。



※移動方法は図形編集コマンドを参照して下さい。

- 3) 壁面図で、移動する壁面特定点を選択します。
- 4) 移動する点を指定します。

9-15-6-2 数値入力で移動する

[操作手順]

- 1) 移動する壁面特定点を選択します。
- 2) 「壁面特定点リスト」で座標を指定します。

No	節季	月	日	度	分	秒	X	Y	日影時間
1	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	1.218	1:47:15.19
2	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	4.218	1:30:04.21
3	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	7.218	1:11:11.68
4	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	10.218	0:34:15.86
5	冬至	12	22	-23	27	0	6.043	13.218	0:00:00.00

9-15-7 壁面特定点を削除する

[操作手順]

- 1) 削除する壁面特定点を選択します。
- 2) 「ブロック削除」コマンドを選択します。



9-15-8 建物を選択する

[操作手順]

- 1) 「建物選択」コマンドを選択します。



- 2) 平面図またはアイソメ図でブロックを選択します。

9-15-9 壁面特定点を再計算する

[操作手順]

- 1) 「再計算」を選択します。



※ブロックまたは日照条件に変更がある場合必ず実行してください。

9-15-10 壁面特定点リストの出力について

- 特定点リストは、印刷プレビューの「表を選択」で「特定点リスト」を選択することで出力します。
- 「表示項目の設定」で「壁面特定点」または「平面特定点+壁面特定点」を選択します。
- 「日影時間」、「日照時間(日の出-日の入)」または「日照時間(8時00分-16時00分)」を選択できます。

・日影時間

日影特定点リスト 壁面:1

No	X座標[m]	Y座標[m]	測定高[m]	節気/日付	赤緯	日影時間	開始時間		終了時間
1-1	136.470	94.488	1.218	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	1:47:15.19	12:56:07.54		14:42:22.73
1-2	136.470	94.488	4.218	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	1:30:04.21	13:12:03.68		14:42:07.89
1-3	136.470	94.488	7.218	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	1:11:11.68	13:30:17.73		14:41:29.41
1-4	136.470	94.488	10.218	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	0:34:15.86	14:06:18.98		14:40:34.84
1-5	136.470	83.902	1.336	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	2:14:38.85	13:45:21.15		16:00:00.00
1-6	136.470	83.902	4.336	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	2:09:17.16	13:50:42.84		16:00:00.00
1-7	136.470	83.902	7.336	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	1:52:17.91	14:07:42.08		16:00:00.00
1-8	136.470	83.902	10.336	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	1:34:18.04	14:25:41.95		16:00:00.00
1-9	136.470	83.902	13.336	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	1:16:30.74	14:43:29.25		16:00:00.00
1-10	136.470	83.902	16.336	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	0:41:53.20	15:18:06.79		16:00:00.00

・日照時間(日の出-日の入)

日照特定点リスト 壁面:1

No	X座標[m]	Y座標[m]	測定高[m]	節気/日付	赤緯	日照時間	開始時間		終了時間
1-1	136.470	94.488	1.218	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	7:45:44.09	7:13:30.35		12:56:07.54
1-2	136.470	94.488	4.218	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	8:02:55.07	7:13:30.35		16:46:29.64
1-3	136.470	94.488	7.218	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	8:21:47.60	7:13:30.35		13:30:17.73
1-4	136.470	94.488	10.218	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	8:58:43.42	7:13:30.35		14:06:18.98
1-5	136.470	83.902	1.336	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	6:31:50.79	7:13:30.35		13:45:21.15
1-6	136.470	83.902	4.336	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	6:37:12.48	7:13:30.35		13:50:42.84
1-7	136.470	83.902	7.336	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	6:54:11.72	7:13:30.35		14:07:42.08
1-8	136.470	83.902	10.336	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	7:12:37.11	7:13:30.35		14:25:41.95
1-9	136.470	83.902	13.336	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	7:30:24.41	7:13:30.35		14:43:29.25
1-10	136.470	83.902	16.336	冬至12月22日頃	-23度27分00秒	8:33:24.17	7:13:30.35		15:18:06.79

9-16 壁面特定点天空率

- 壁面特定点の天空率を計算します。
- 予め日影計算/壁面特定点で壁面特定点を登録する必要があります。
- 近隣建物の窓位置等からの天空率の確認等に利用します。
- 法 56 条第 7 項に規定する天空率計算ではありません。

① ② ③ ④

⑤ 壁面： ⑥ 特定点： 求積表：

No	No	天空率	計算	No	底辺	高さ	面積
1	1	97.10		S1	0.0276258	0.0008455	0.0000234
2	2	97.79		S2	0.2278142	0.0960723	0.0218866
3	3	98.99		S3	0.2278142	0.1290774	0.0294057
4	4	98.89		S4	0.1833914	0.0004508	0.0000827
	5	99.28		S5	0.1557699	0.0020135	0.0003136
	6	99.59		S6	0.2306216	0.1257117	0.0289918
	7	99.81		S7	0.2306216	0.1123482	0.0259099
	8	99.94					

番号	項目	概要
①	壁面選択	壁面を選択します
②	特定点選択	壁面特定点を選択します
③	計算	天空率計算を実行します
④	削除	計算結果を削除します
⑤	壁面リスト	壁面 No を表示します
⑥	特定点リスト	壁面特定点をリスト表示します
		No 壁面特定点 No を表示します
		天空率 天空率を表示します
		計算 計算を実行する場合にチェックを入れます
⑦	求積表	天空図の半径を1とした求積表を表示します
		No 三斜求積図の符号及び計算項目を表示します
		底辺 三斜求積図の底辺を表示します 弓型の場合は角度を表示します
		高さ 三斜求積図の高さを表示します
		面積 三斜求積図の面積を表示します

9-16-1 壁面を選択する

9-16-1-1 平面図またはアイソメ図から選択する

[操作手順]

- 1) 「壁面選択」コマンドを選択します。



- 2) 平面図またはアイソメ図で、壁面を選択します。

9-16-1-2 壁面リストから選択する

[操作手順]

- 1) 「壁面リスト」で壁面を選択します。

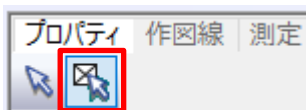
壁面：		特定点：			
No		No	天空率	計算	▲
1		1			
2		2			
		3			

9-16-2 壁面特定点を選択する

9-16-2-1 壁面図から選択する

[操作手順]

- 1) 「特定点選択」コマンドを選択します。



- 2) 壁面図で、壁面特定点を選択します。

9-16-2-2 壁面特定点リストから選択する

[操作手順]

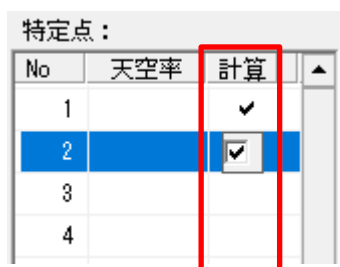
- 1) 「壁面特定点リスト」で壁面特定点を選択します。

壁面：		特定点：			
No		No	天空率	計算	▲
1		1			
2		2			
		3			
		4			

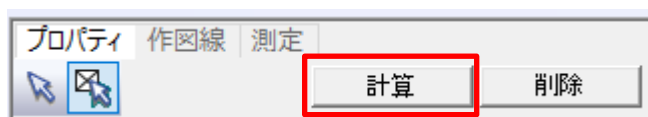
9-16-3 天空率計算を実行する

[操作手順]

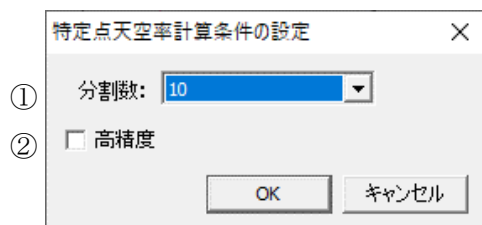
- 1) 「特定点リスト」で、計算を実行する特定点の「計算」欄にチェックを入れます。



- 2) 「計算」を選択します。



- 3) 「特定点天空率計算条件の設定」ダイアログが開きます。



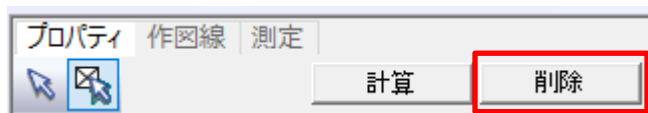
番号	項目	概要
①	分割数	全天空図の最大分割角度を選択します
②	高精度	チェックを入れると、高精度計算をします

- 4) 「OK」を選択します。

9-16-4 計算結果を削除する

[操作手順]

- 1) 「特定点リスト」で削除する特定点を選択します。
- 2) 「削除」を選択します。



9-17 壁面特定点位置確認

○壁面特定点の位置確認線を作成します。

○予め日影計算/壁面特定点で壁面特定点を登録する必要があります。

○位置確認線は平面図、アイソメ図、ソーラーアイビュー、天空図で確認できます。

※法 56 条第 7 項に規定する天空率計算で求められる位置確認ではありません。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

⑦ 壁面: ⑧ 特定点: ⑨ 位置確認:

No	No	天空率	指定点No	建物高さ	水平距離	仰角	方位角	cos(h)
1	1	97.10	(1)	2.782m	38.627m	4.119°	165.863°	0.9974
2	2	97.79	(2)	8.782m	35.514m	13.889°	169.595°	0.9708
3	3	98.39	(3)	12.782m	31.573m	22.040°	185.918°	0.9269
4	4	98.89	(4)	20.782m	38.015m	28.664°	192.243°	0.8774
	5	99.28	(5)	23.782m	36.099m	33.376°	198.773°	0.8351
	6	99.59	(6)	23.782m	33.685m	35.222°	218.603°	0.8169
	7	99.81	(7)	23.782m	63.681m	20.478°	219.221°	0.9368

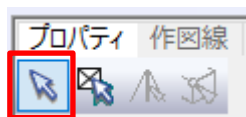
番号	項目	概要
①	壁面選択	壁面を選択します
②	特定点選択	特定点を選択します
③	位置確認線選択	位置確認線を選択します
④	端点選択	端点を選択します
⑤	削除	位置確認線を削除します
⑥	自動探索	位置確認線を自動作成します
⑦	壁面リスト	壁面 No を表示します
⑧	特定点リスト	特定点をリスト表示します
		No 特定点 No を表示します
		天空率 天空率を表示します
⑨	位置確認リスト	位置確認線をリスト表示します
		指定点 No 位置確認線の No を表示します
		建物高さ 位置確認指定端点の壁面特定点からの建物高さを表示します
		水平距離 位置確認を行う壁面特定点からの水平距離を表示します
		仰角 位置確認を行う壁面特定点からの仰角を表示します
		方位角 位置確認を行う壁面特定点からの方位角を表示します
		cos(h) 位置確認指定端点の天空図投影位置を表示します

9-17-1 面を選択する

9-17-1-1 平面図またはアイソメ図から選択する

[操作手順]

- 1) 「壁面選択」コマンドを選択します。



- 2) 平面図またはアイソメ図で、壁面を選択します。

9-17-1-2 壁面リストから選択する

[操作手順]

- 1) 「壁面リスト」で壁面を選択します。

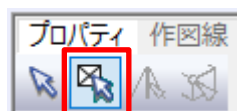
壁面：		特定点：			
No		No	天空率		▲
1		1	97.10		
2		2	97.79		
		3	98.39		

9-17-2 壁面特定点を選択する

9-17-2-1 壁面図から選択する

[操作手順]

- 1) 「特定点選択」コマンドを選択します。



- 2) 壁面図で、壁面特定点を選択します。

9-17-2-2 壁面特定点リストから選択する

[操作手順]

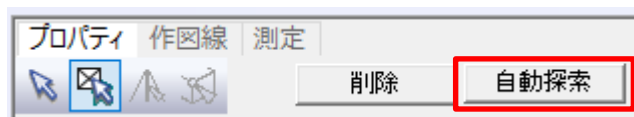
- 1) 「壁面特定点リスト」で壁面特定点を選択します。

壁面：		特定点：			
No		No	天空率		▲
1		1	97.10		
2		2	97.79		
		3	98.39		
		4	98.89		

9-17-3 自動で位置確認線を作成する

[操作手順]

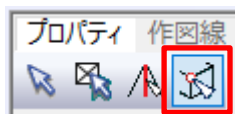
- 1) 位置確認線を作成する壁面特定点を選択します。
- 2) 「自動探索」を選択します。



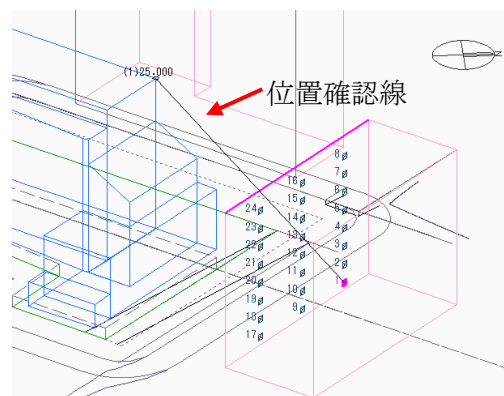
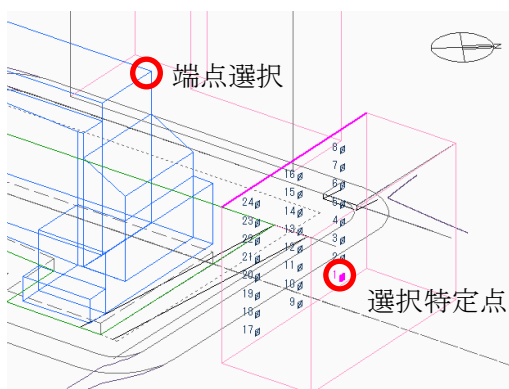
9-17-4 任意の位置確認線を作成する

[操作手順]

- 1) 位置確認線を作成する壁面特定点を選択します。
- 2) 「端点選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図、アイソメ図、ソーラーアイビュー、または全天空図で位置確認線を作成する端点を選択します。

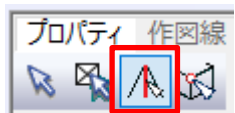


9-17-5 位置確認線を確認する

9-17-5-1 図面から選択する

[操作手順]

- 1) 位置確認線を確認する壁面特定点を選択します。
- 2) 「位置確認線選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図、アイソメ図、ソーラーアイビュー、または全天空図で確認する位置確認線を選択します。

9-17-5-2 位置確認リストから選択する

[操作手順]

- 1) 「位置確認リスト」で確認する位置確認線を選択します。

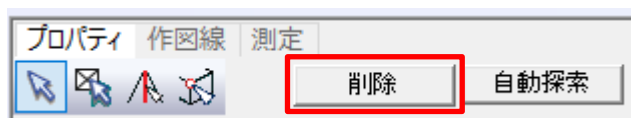
位置確認:

指定点No	建物高さ	水平距離	仰角	方位角	cos(h)	
(1)	2.782m	38.627m	4.119°	165.863°	0.9974	
(2)	8.782m	35.514m	13.889°	169.595°	0.9708	
(3)	12.782m	31.573m	22.040°	185.918°	0.9269	
(4)	20.782m	38.015m	28.664°	192.243°	0.8774	
(5)	23.782m	36.099m	33.376°	198.773°	0.8351	
(6)	23.782m	33.685m	35.222°	218.603°	0.8169	

9-17-6 全ての位置確認線を削除する

[操作手順]

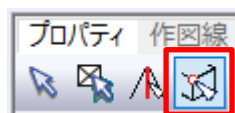
- 1) 位置確認線を削除する壁面特定点を選択します。
- 2) 「削除」を選択します。



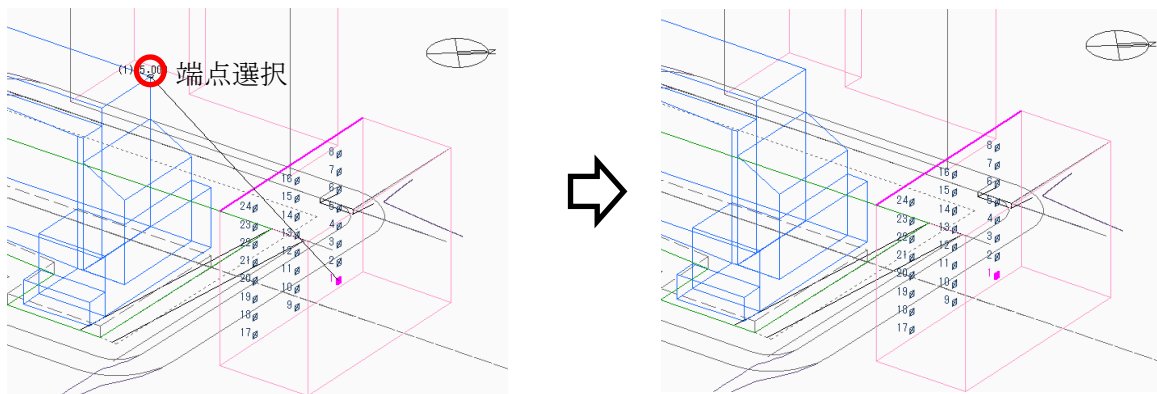
9-17-7 任意の位置確認線を削除する

[操作手順]

- 1) 位置確認線を削除する壁面特定点を選択します。
- 2) 「端点選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図、アイソメ図、ソーラーアイビュー、または全天空図で位置確認線を削除する端点を選択します。



9-18 天空図

○「特定点」、「特定点天空率」、「特定点位置確認」、「壁面特定点」、「壁面特定点天空率」、「壁面特定点位置確認」各メニューで、特定点または壁面特定点における天空図を表示することができます。

○天空図の種類及び投影方法を選択することができます。

○法 56 条第 7 項で要求される天空図ではありません。

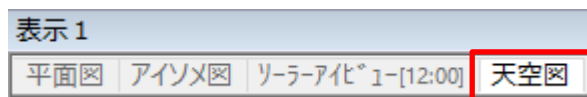
9-18-1 天空図を表示する

[操作手順]

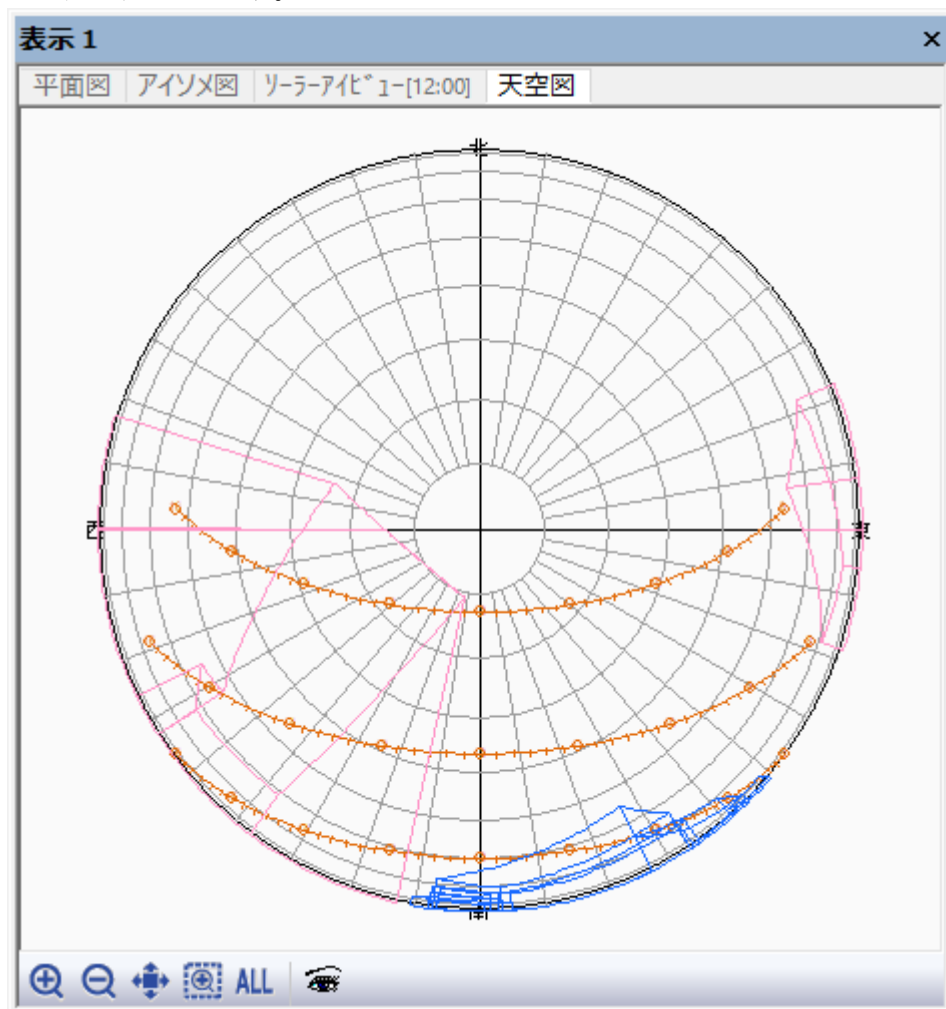
- 1) 天空図を表示する特定点または壁面特定点を選択します。

※選択方法は各メニューを参照して下さい。

- 2) 「図形表示ウィンドウ」より、「天空図」を選択します。



- 3) 天空図が表示されます。



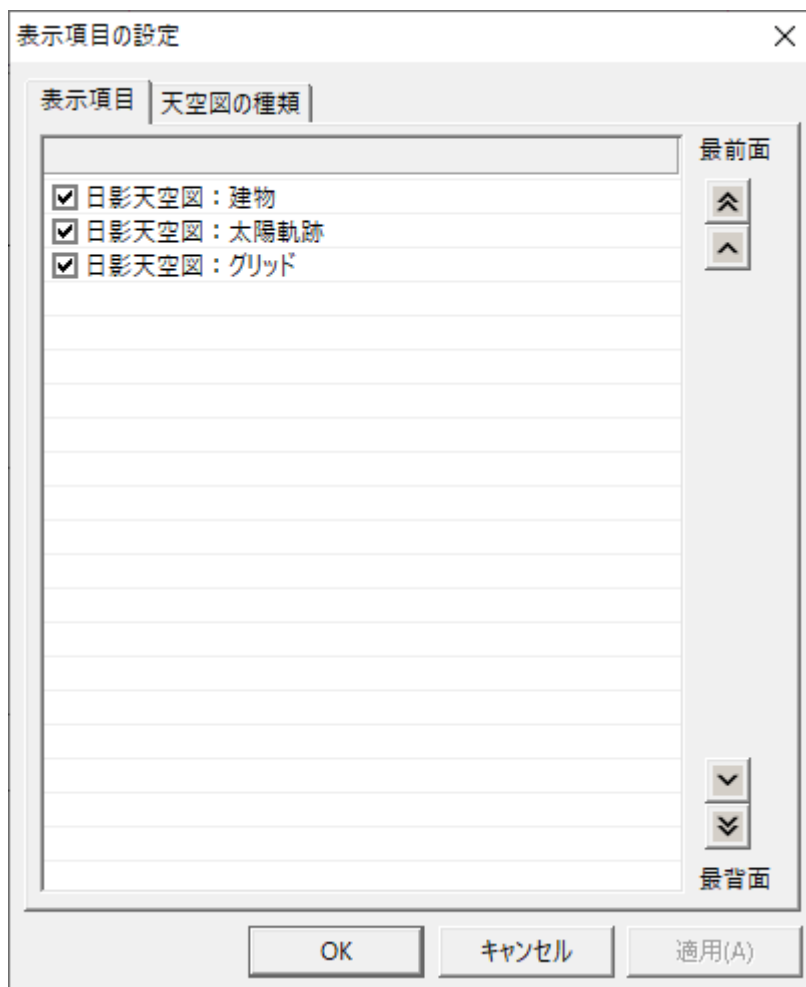
9-18-2 天空図の種類を選択する

[操作手順]

- 1) 天空図を表示した「図形表示ウィンドウ」より、「表示項目の設定」を選択します。



- 2) 「表示項目の設定」ダイアログが開きます。



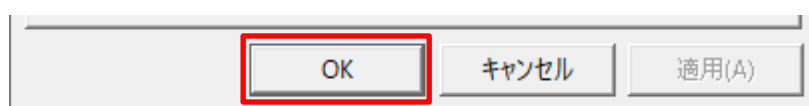
- 3) 「天空図の種類」タブを選択します。



- 4) 表示する天空図の種類を選択します。

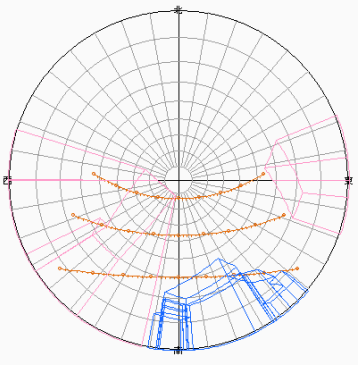
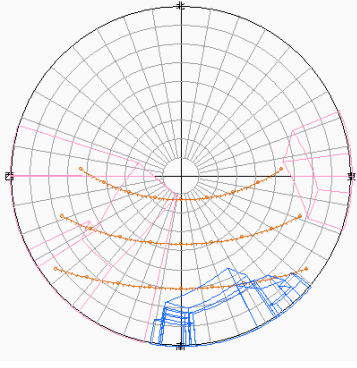
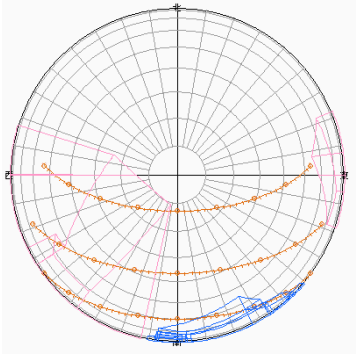
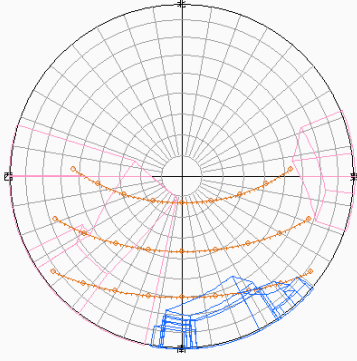


- 5) 「適用」を選択し、「OK」を選択します。

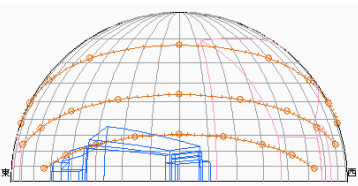
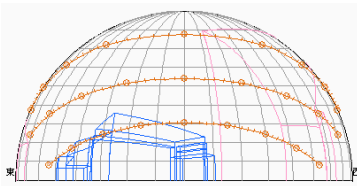
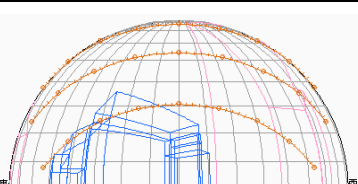
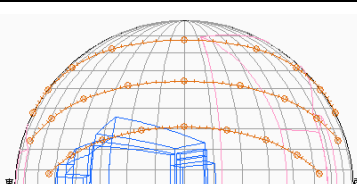


9-18-3 天空図の種類

9-18-3-1 全天空図

投影方法	天空図	投影方法	天空図
極射影法		等距離射影法	
正射影法		等立体角射影法	

9-18-3-2 半天空図

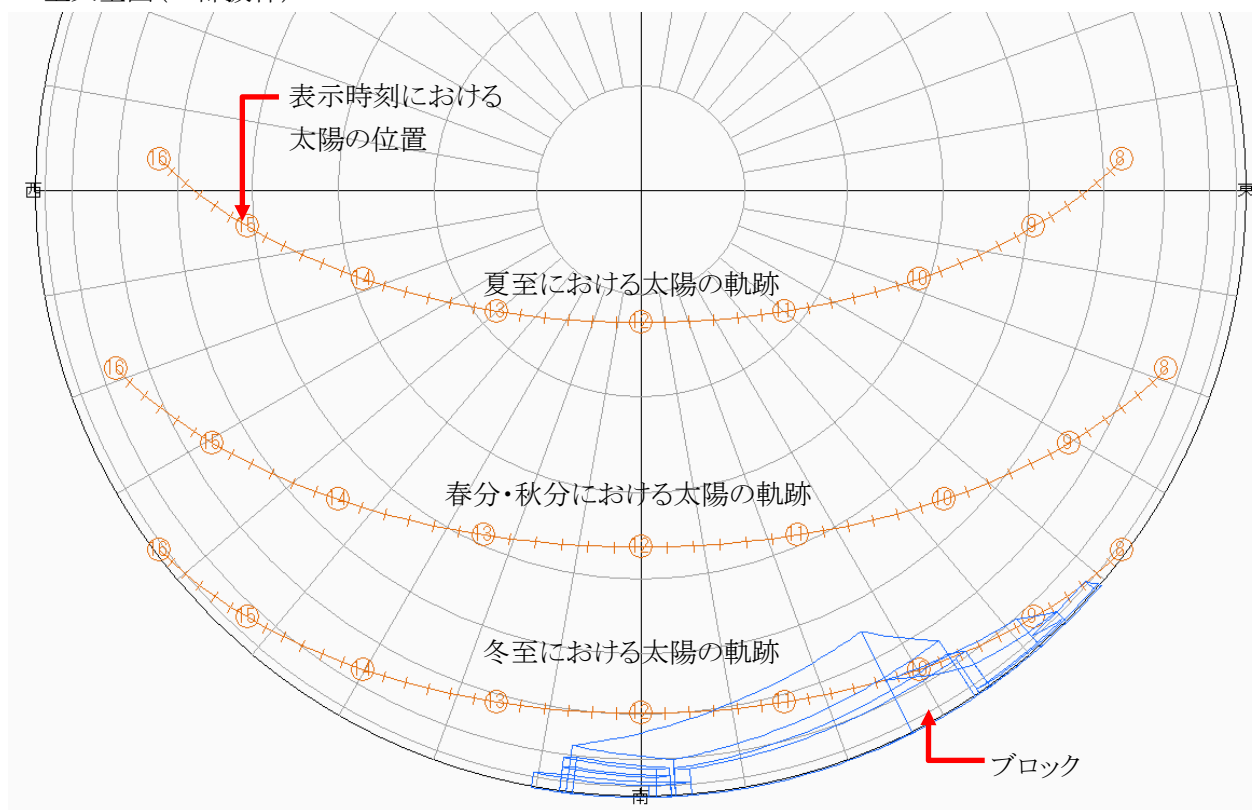
投影方法	天空図	投影方法	天空図
極射影法		等距離射影法	
正射影法		等立体角射影法	

9-18-4 天空図の見方

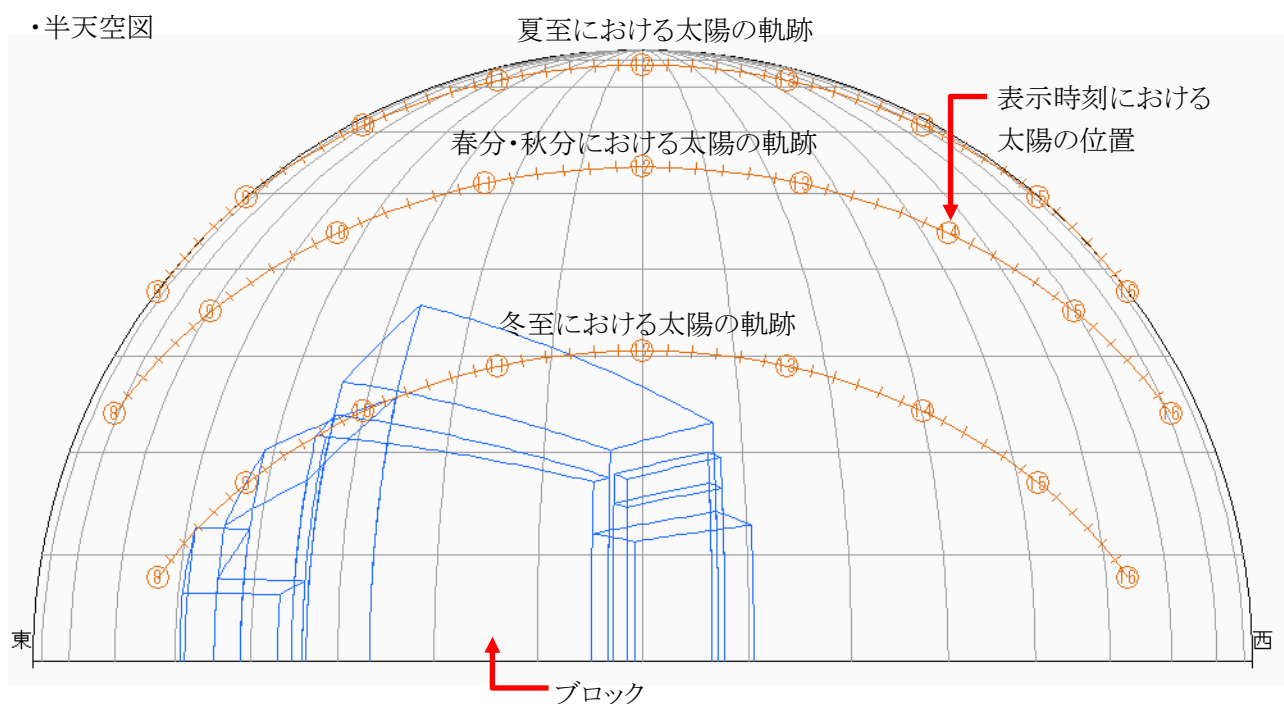
○春秋分、夏至、冬至における太陽の軌跡を表示します。

○太陽軌跡を超えるブロックの部分が、選択した特定点に対して日影の影響を及ぼしています。

・全天空図(一部抜粋)



・半天空図



9-19 ソーラーアイビュー

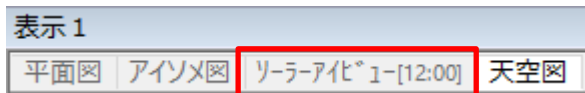
○「基準倍率表」及び「建物高倍率表」を除く日影計算各メニューで、ソーラーアイビューを表示することができます。

○ソーラーアイビューについては、「1-5-5 ソーラーアイビュー」を参照して下さい。

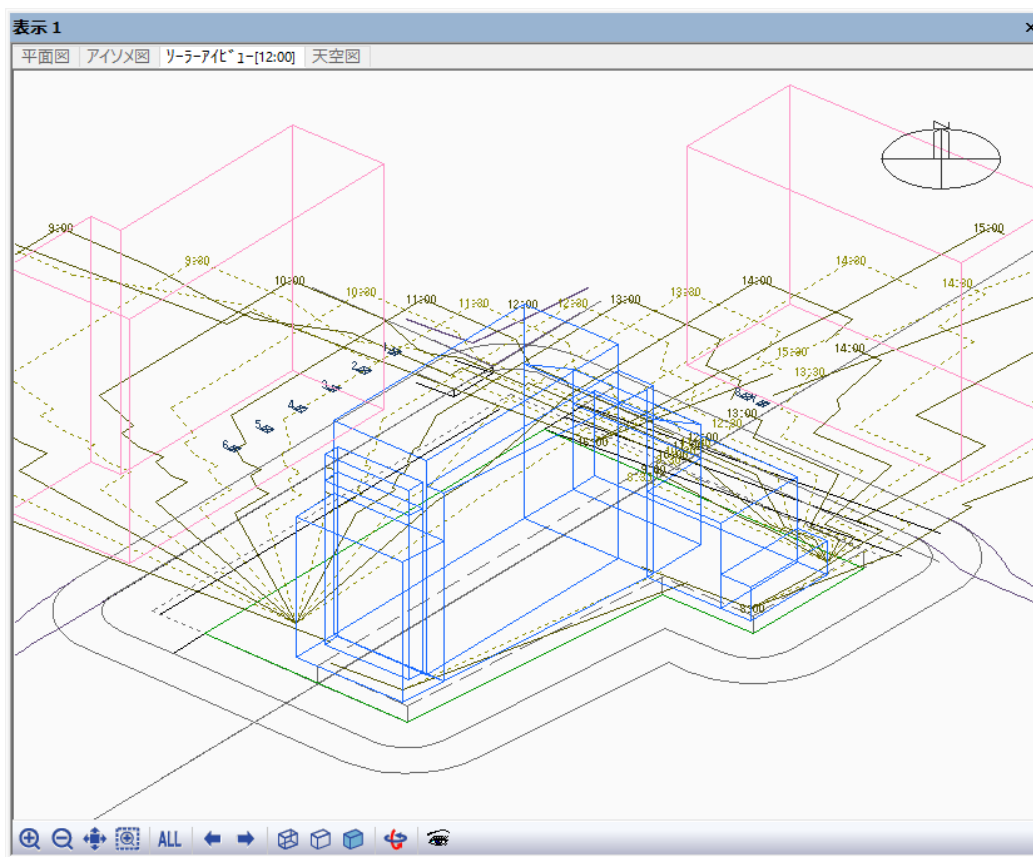
9-19-1 ソーラーアイビューを表示する

[操作手順]

- 1) 「図形表示ウィンドウ」より、「ソーラーアイビュー」タブを選択します。



- 2) ソーラーアイビューが表示されます。



9-19-2 表示する時刻を変更する

[操作手順]

- 1) ソーラーアイビューを表示した「図形表示ウィンドウ」より、「回転左」または「回転右」を選択します。



- 2) 時刻を変更すると、「ソーラーアイビュー」タブに表示される時刻が変更されます。



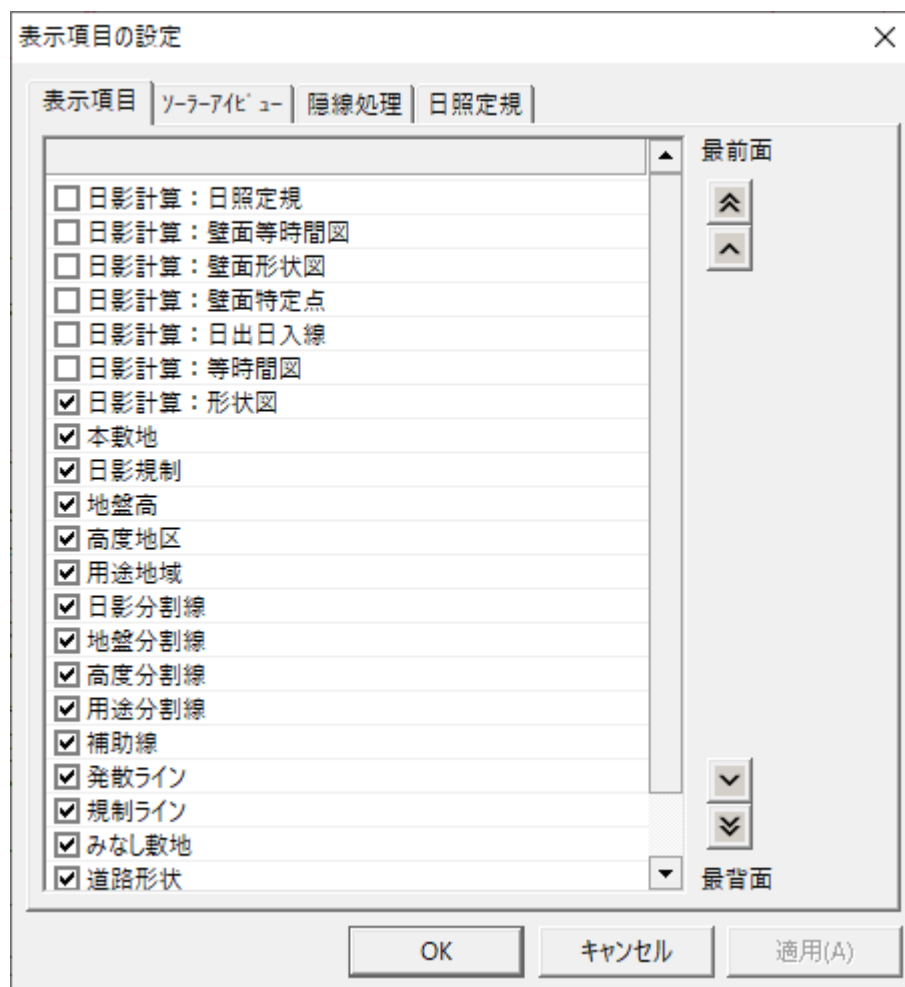
9-19-3 時刻刻みを変更する

[操作手順]

- 4) ソーラーアイビューを表示した「図形表示ウィンドウ」より、「表示項目の設定」を選択します。



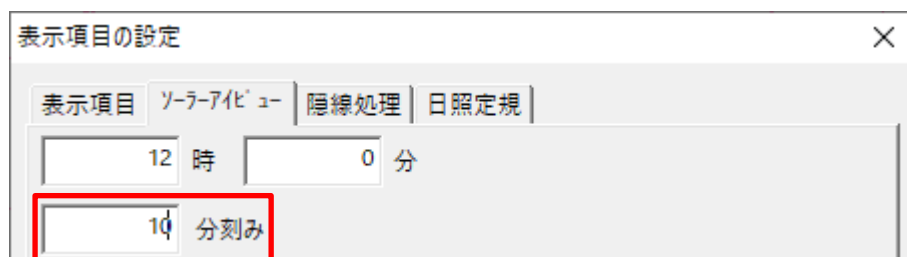
- 5) 「表示項目の設定」ダイアログが開きます。



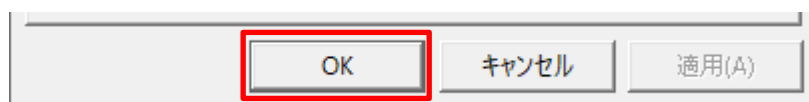
6) 「ソーラーアイビュー」タブを選択します。



7) 時刻刻みを変更します。

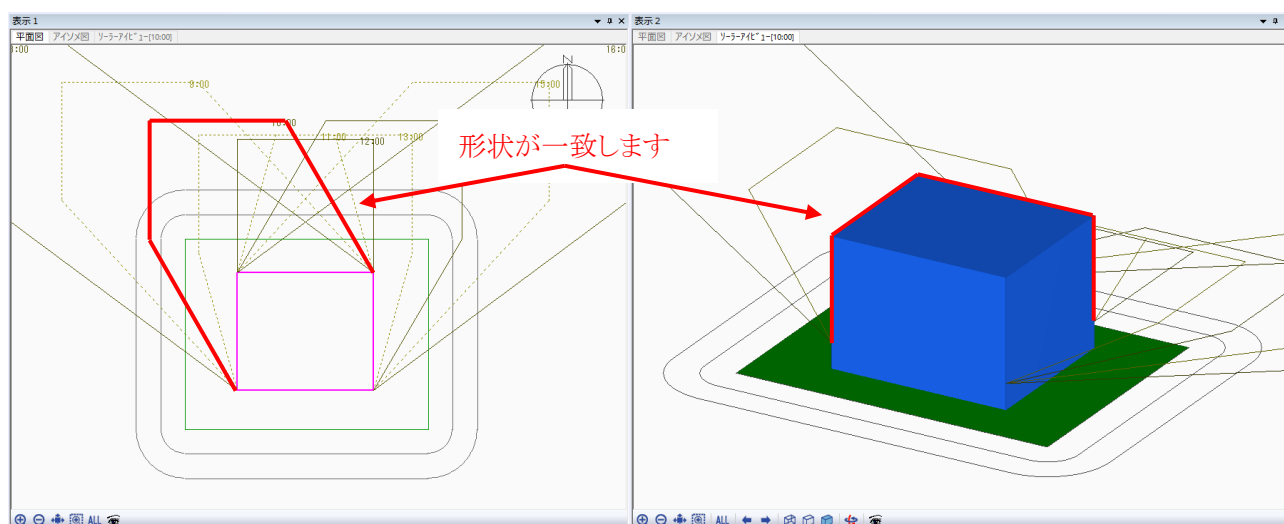


8) 「適用」を選択し、「OK」を選択します。



9-19-4 ソーラーアイビューの見方

○ソーラーアイビューで表示した時刻におけるブロックの外形を平面図に投影すると、同時刻の時刻日影形状図の形状と一致します。



9-20 日照定規

○「規制ラインチェック」、「特定点」、「特定点天空率」、「特定点位置確認」、「壁面特定点」、「壁面特定点天空率」、「壁面特定点位置確認」各メニューで、規制ラインチェックポイントまたは特定点もしくは壁面特定点における日影規制測定面高さからの日照定規を表示することができます。

9-20-1 日照定規を表示する

[操作手順]

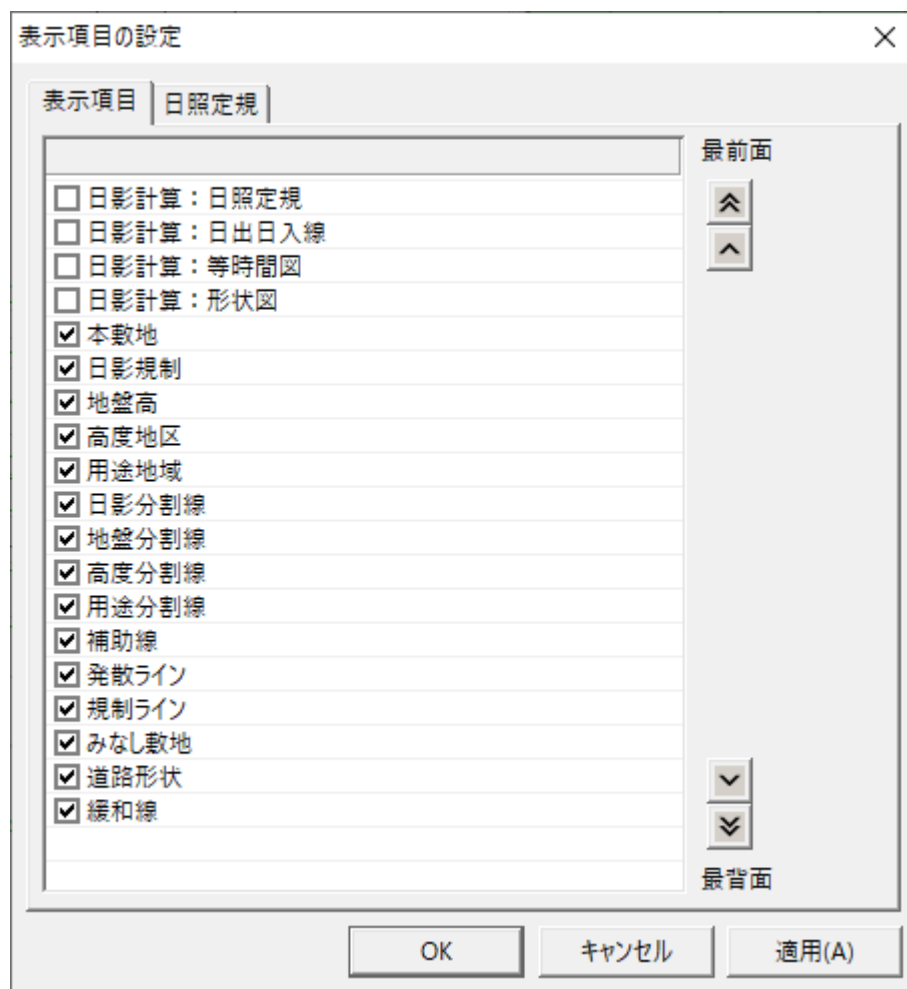
- 1) 日照定規を表示する規制ラインチェックポイントまたは特定点もしくは壁面特定点を選択します。
※選択方法は各メニューを参照して下さい。

- 2) 日照定規を表示する「図形表示ウィンドウ」より、「表示項目の設定」を選択します。

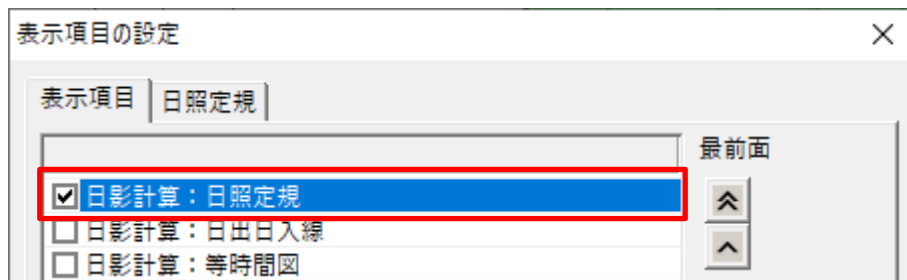


※選択した図面の種類により表示が異なります。

- 3) 「表示項目の設定」ダイアログが開きます。



- 4) 「日照定規」にチェックを入れます。



- 5) 「適用」を選択し、「OK」を選択します。



9-20-2 日照定規に表示する高さを変更する

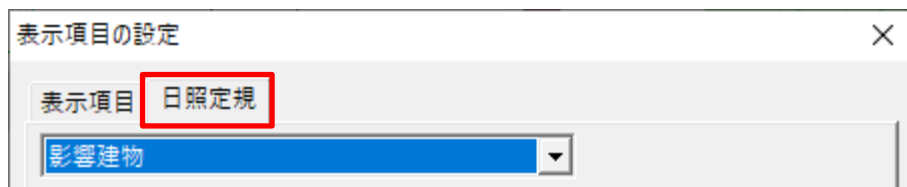
[操作手順]

- 1) 日照定規を表示する「図形表示ウィンドウ」より、「表示項目の設定」を選択します。

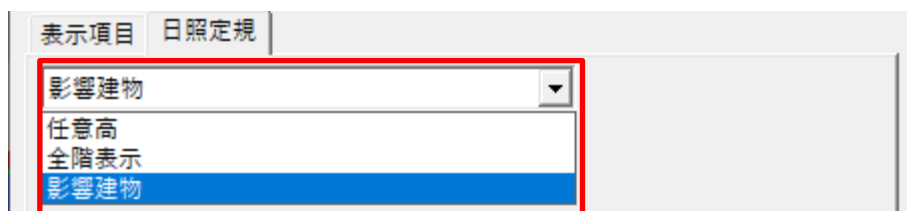


※選択した図面の種類により表示が異なります。

- 2) 「表示項目の設定」ダイアログが開きます。
3) 「日照定規」タブを選択します。

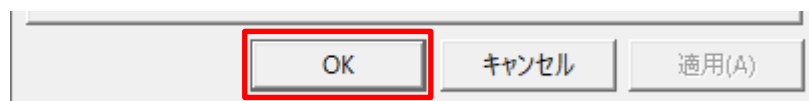


- 4) プルダウンメニューより、日照定規に表示する高さを選択します。



任意高	任意の高さを設定し、表示します
全階表示	断面計画を設定している場合に、選択した断面計画の階数を表示します
影響建物	ブロックの高さを表示します

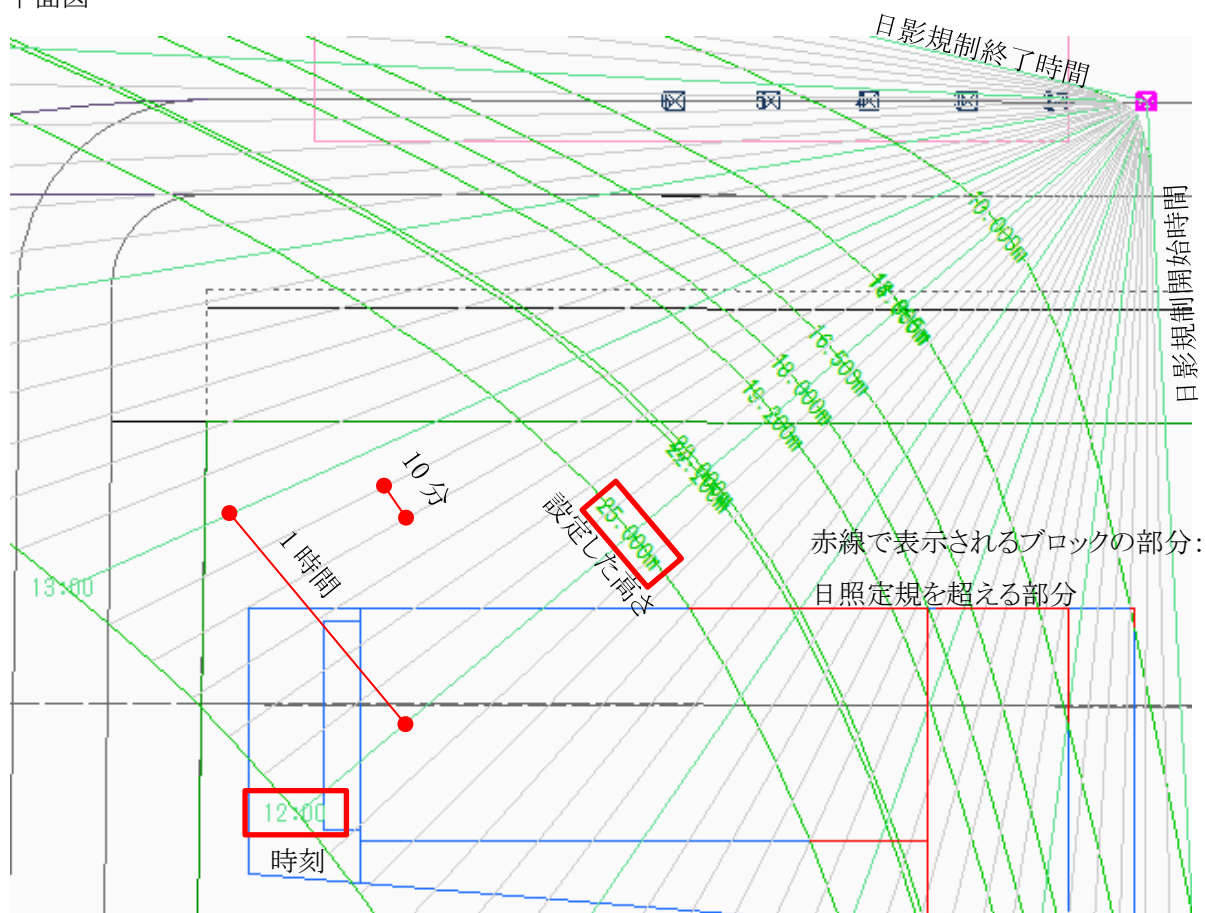
- 5) 「適用」を選択し、「OK」を選択します。



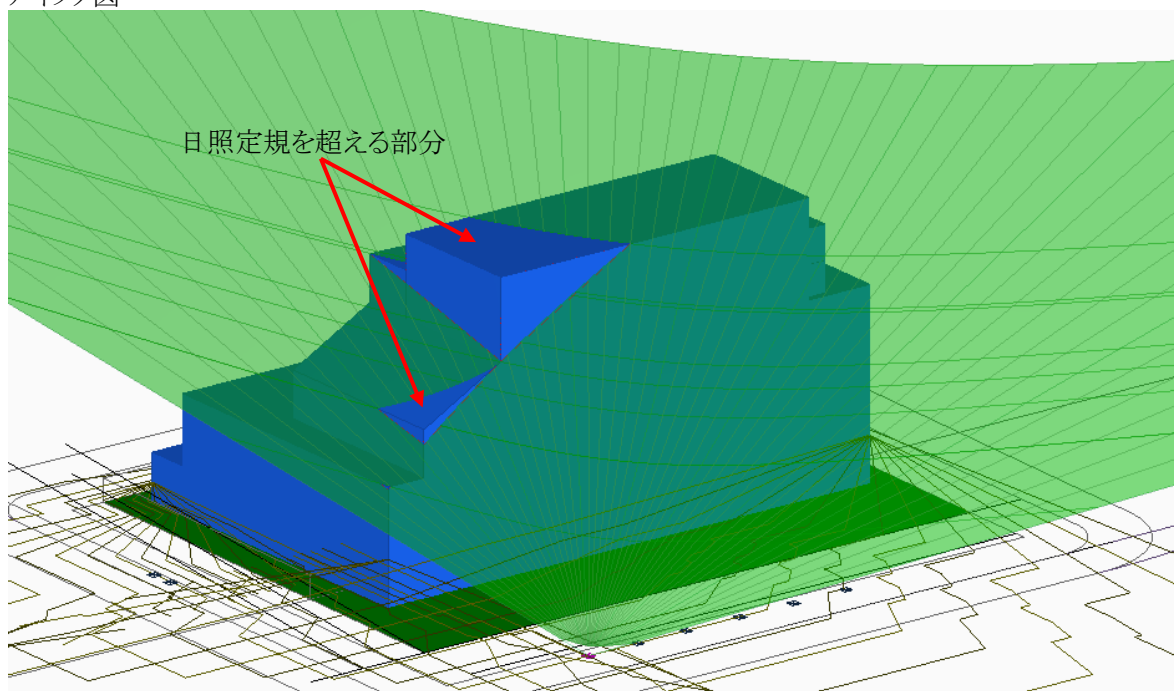
9-20-3 日照定規の見方

○日照定規を超えるブロックの部分が、選択した規制ラインチェックポイントまたは特定点もしくは壁面特定点に対して日影の影響を及ぼしています。

・平面図



・アイソメ図



10 天空率解析

10-1 はじめに

10-1-1 天空率とは

平成 14 年の建築基準法改正で、建築物の形態規制の合理化を目的として、平成 15 年に施行されました。この改正により、通風・採光等の環境面を考慮した建築物は、法 56 条第 1 項から第 6 項で規定する高さ制限によらない計画が可能となりました。

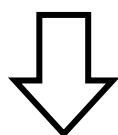
天空率とは、通風・採光等の確保を考慮するための指標であり、地上のある位置を中心としてその水平投影面に想定する半球を置いた際の面積から、同一水平投影面の半球に投影される建築物等の面積を除いた割合、すなわち空の見える割合のことで、天空図を用いて算定します。(図 10-1-1-1)

$$\text{天空率} = \text{空の見える割合}$$

法 56 条第 7 項では、適合建築物と計画建築物との天空率を比較し、適合建築物と同程度以上の天空率を確保している計画建築物は、法 56 条第 1 項から第 6 項で規定する高さ制限の適用を除外できることを規定しています。(図 10-1-1-2)

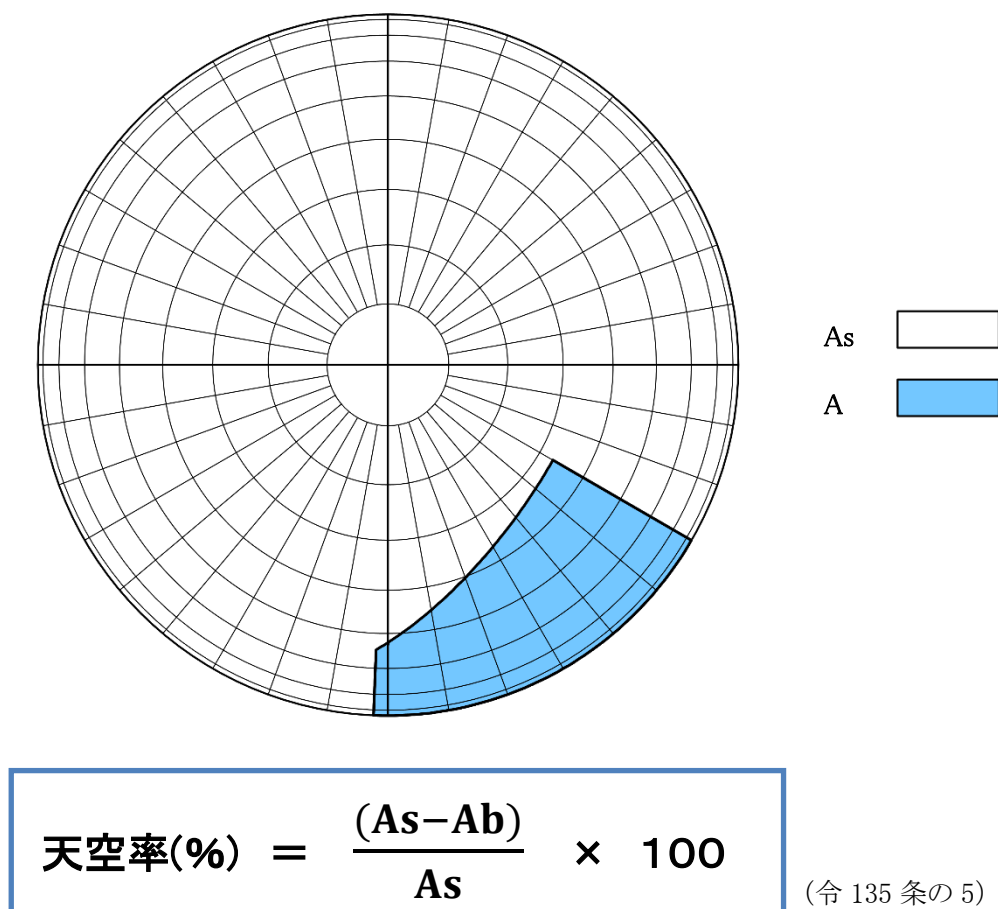
例えば、法 56 条 1 項による高さ制限では不適合となる建築物が、法 56 条 7 項を適用することで法に適合となる場合があります。

$$\text{適合建築物の天空率} \leq \text{計画建築物の天空率}$$



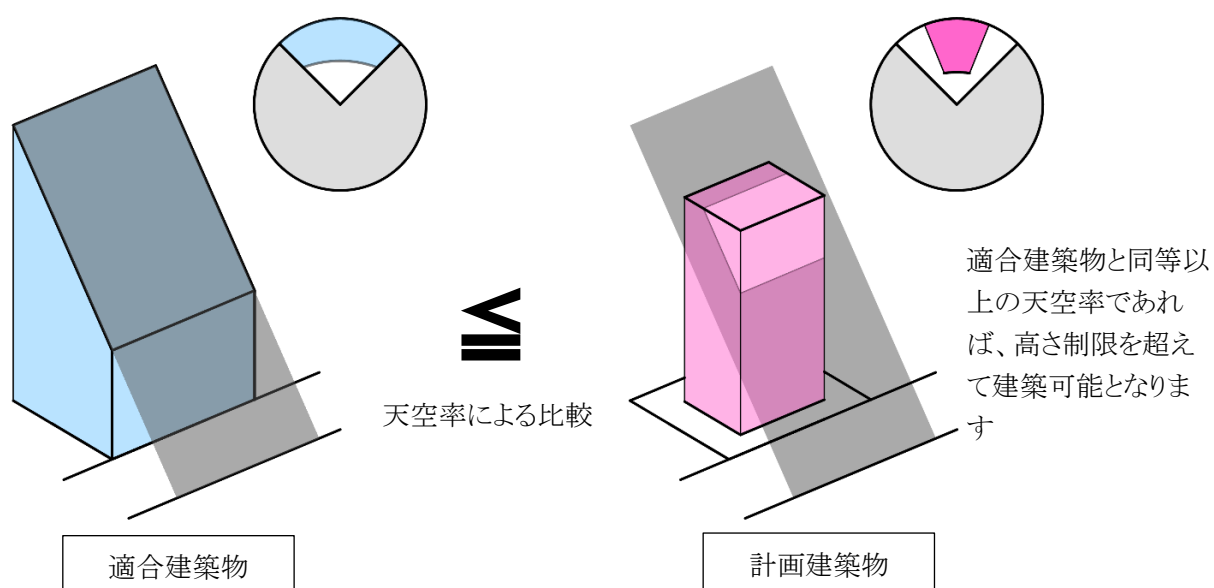
**法 56 条第 1 項から第 6 項で規定する
高さ制限を適用除外可能**

図 10-1-1-1 天空率



As = 想定半球(地上のある位置を中心としてその水平面上に想定する半球)の水平投影面積
 Ab = 建築物及びその敷地の地盤を As と同一の想定半球に投影した投影面の水平投影面積

図 10-1-1-2 天空率による高さ制限適用除外の概念



10-1-1-1 天空率制度の沿革

平成 14 年	7 月	建築基準法の一部を改正する法律(平成 14 年法律第 85 号) 公布
	11 月	斜線制限の迅速な緩和制度参考図集(国土交通省) 公開
	12 月	技術的助言(平成 14 年 12 月 27 日 国住街第 110 号)
平成 15 年	1 月	建築基準法の一部を改正する法律(平成 14 年法律第 85 号) 施行 (申請図書に関する内容(施行規則)は不明確)
	7 月	鈴木繁康氏(元東京都庁職員)が、「東京のまちづくり情報」で審査基準を提唱
		日本建築行政会議が取扱(旧 JCBO 方式)を公開
平成 19 年	6 月	建築基準法施行規則等の一部を改正する省令(平成 19 年国土交通省令第 66 号) 公布・施行 (申請図書に三斜求積図、正射影図位置確認表等が明記)
平成 21 年	11 月	日本建築行政会議(JCBA)より「集団規定の適用事例」発行

10-1-1-2 天空率の用語

適合建築物	各高さ制限に適合するものとして想定した建築物です
計画建築物	建築物の内、適合建築物の区域内に存在する建築物です
測定点	法 56 条第 7 項各号、令 135 条の 9 各項、令 135 条の 10 各項及び令 135 条の 11 各項で規定する天空率算定位置です 適合建築物と計画建築物の天空率の差が最も近い測定点を近接点と呼びます
測定ライン	測定点の両端を結ぶラインで、既定のピッチ毎に測定点を配置します

10-1-1-3 天空率を適用できる高さ制限

	天空率(法 56 条第 7 項)の適用の可否
道路高さ制限(法 56 条第 1 項第一号)	○
隣地高さ制限(法 56 条第 1 項第二号)	○
北側高さ制限(法 56 条第 1 項第三号)	○
日影規制(法 56 条の 2)	×
高度地区(法 58 条)	×

※日影規制(第 56 条の 2)及び高度地区(第 58 条)は、法 56 条 7 項適用時も、適用除外対象とはなりません。

10-1-2 天空図について

天空率は、正射影投影法を用いて算出します。(平成 14 年技術的助言)

正射影投影法による天空図(全天空図)を用いることにより、純粋な投影部分の面積割合で天空率を求めることが可能です。

正射影投影法では、測定点(O)を中心として想定半球を置き、測定点と建築物の頂点を結んだ際の想定半球と交わるポイント(P)を下記式に従って投影した点が P0 となります(図 10-1-2-1、図 10-1-2-2)

図 10-1-2-1 正射影投影法による天空図(立体)

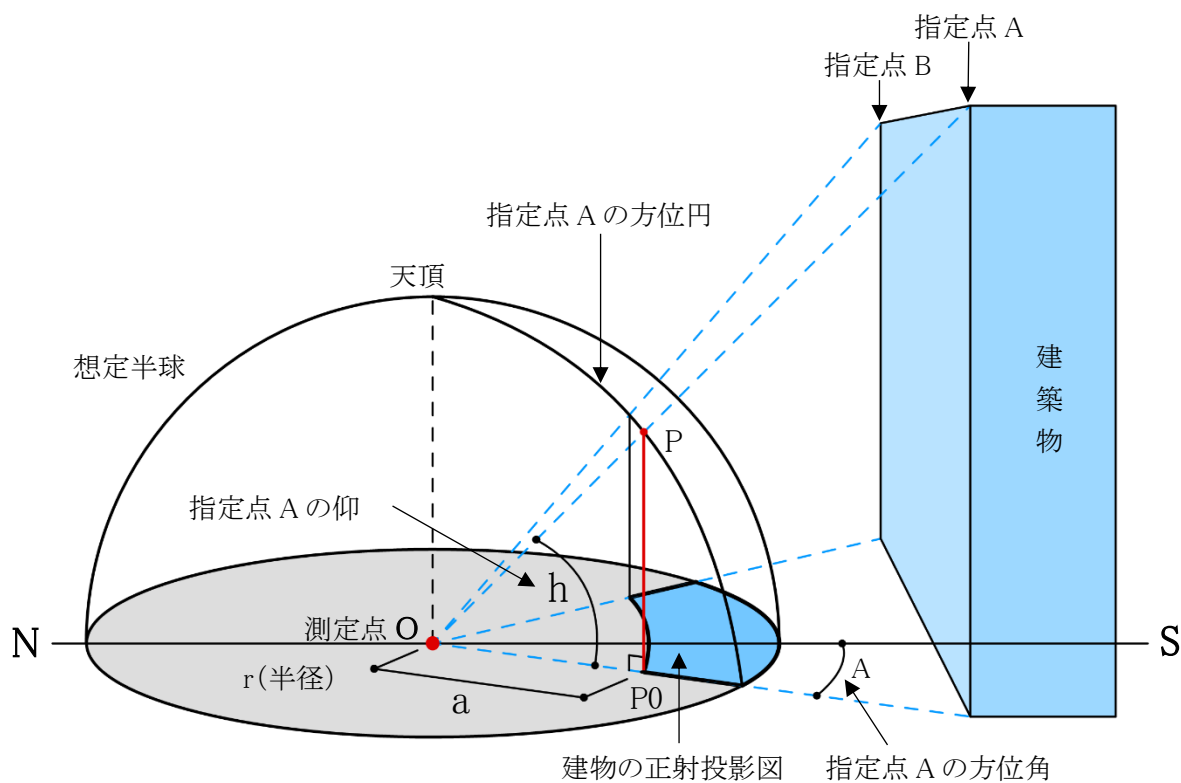
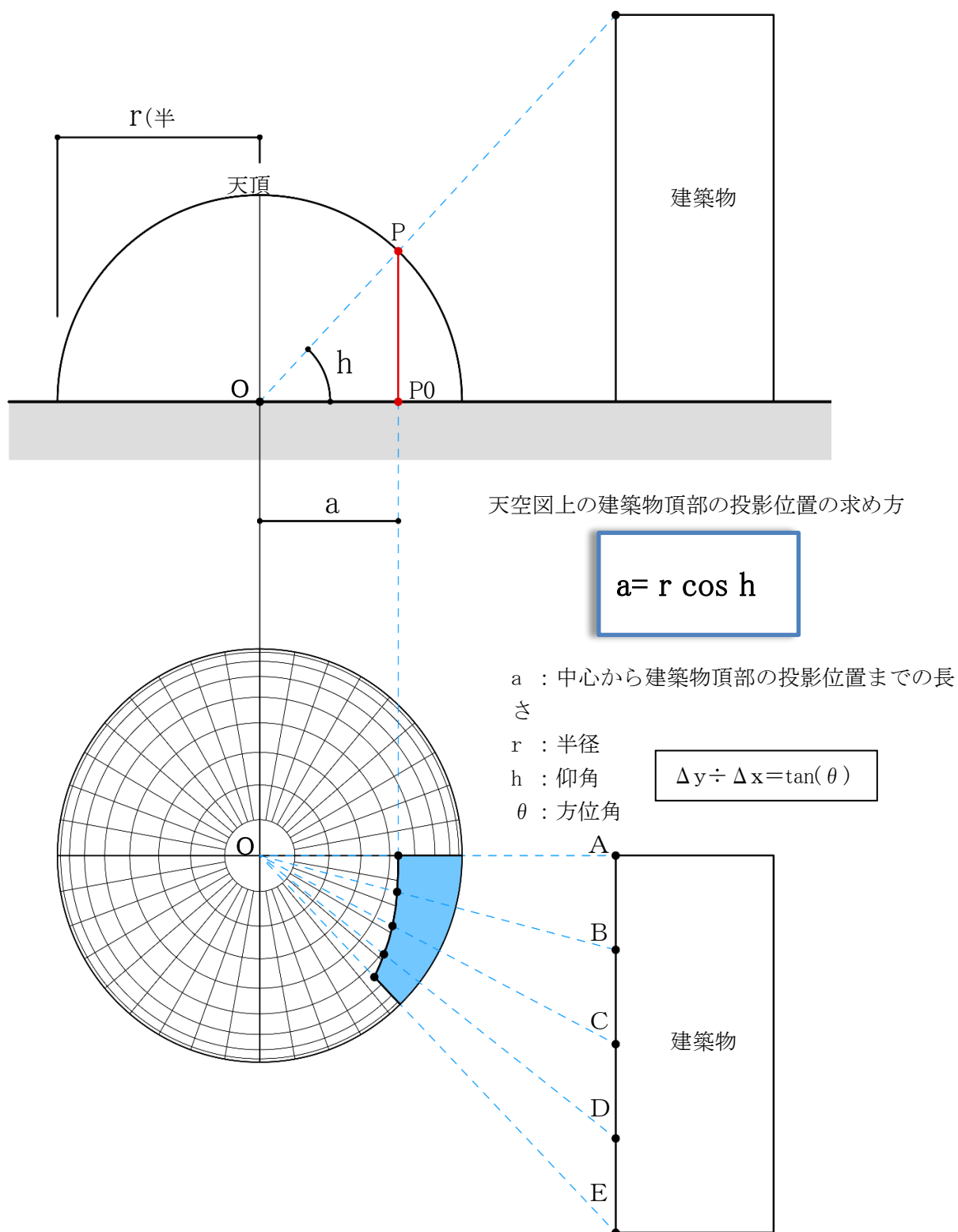


図 10-1-2-2 正射影投影法による天空図(立面・平面)



10-1-3 測定点について

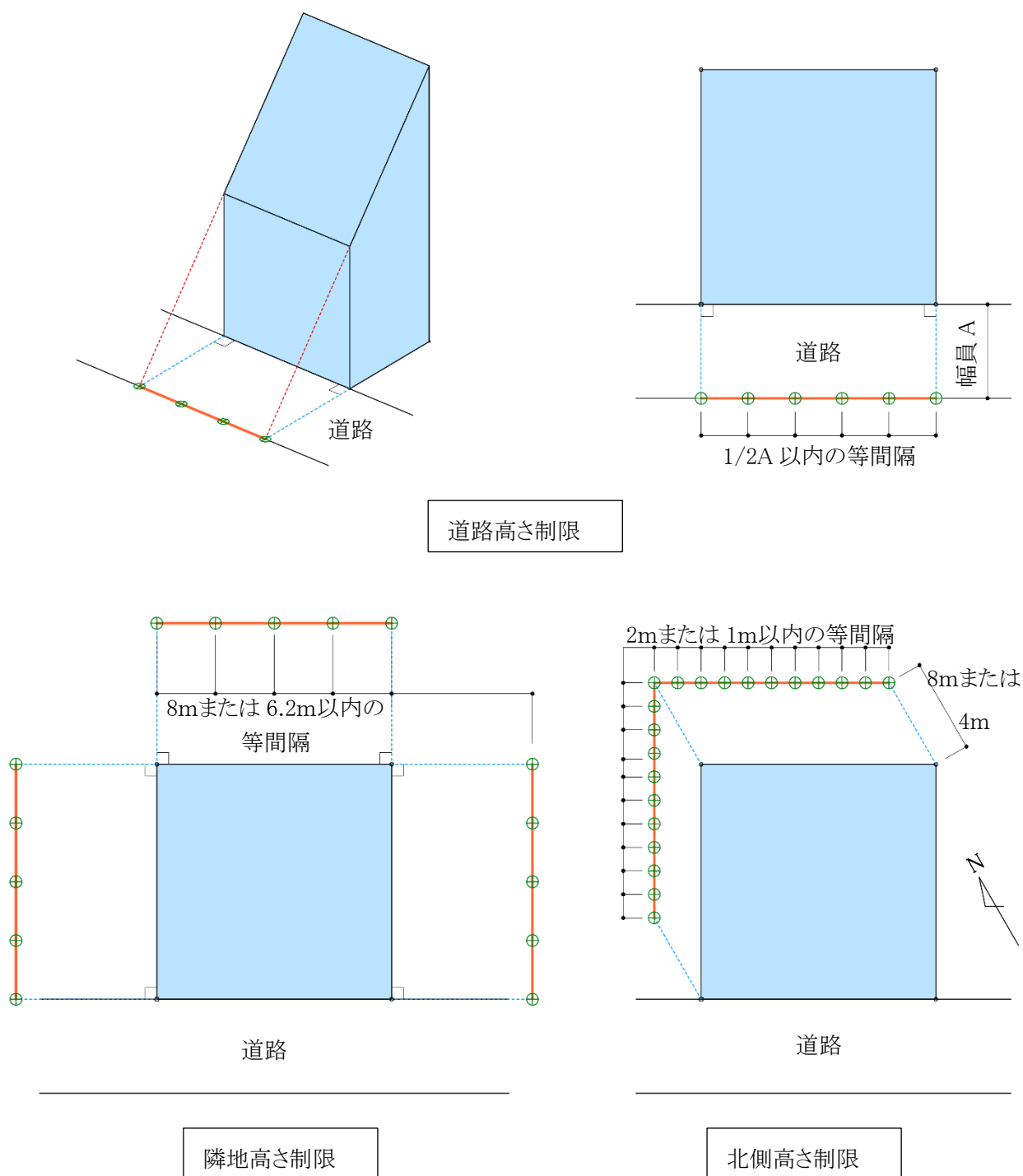
○測定点の規定は以下の通りです。(図 10-1-3-1)

		測定点の位置	測定点のピッチ	測定点の高さ
道路高さ制限 (法 56 条第 7 項第一号及び令 135 条の 9)		前面道路の反対側の境界線上	両端とその間を道路幅員の 1/2 以内の等間隔	前面道路の路面の中心 (地盤面が前面道路の路面の中心より 1m 以上高い場合は緩和有り)
隣地高さ制限 (法 56 条第 7 項第二号及び令第 135 条の 10)	1.25 勾配	隣地境界線から水平距離 16m だけ外側の線上 ($16\text{m}=20\text{m}/1.25$)	両端とその間を 8m 以内の等間隔 ($8\text{m}=16\text{m}/2$)	地盤面 (地盤面が隣地の地盤面より 1m 以上低い場合は緩和有り)
	2.5 勾配	隣地境界線から水平距離 12.4m だけ外側の線上 ($12.4\text{m}=31\text{m}/2.5$)	両端とその間を 6.2m 以内の等間隔 ($6.2\text{m}=12.4\text{m}/2$)	
北側高さ制限 (法 56 条第 7 項第三号及び令第 135 条の 11)	5m 立上り	北面境界線全てから真北方向に水平距離 4m だけ外側の線上 ($4\text{m}=5\text{m}/1.25$)	両端とその間を 1m 以内の等間隔 ($1\text{m}=4\text{m}/4$)	地盤面 (地盤面が北側の隣地の地盤面より 1m 以上低い場合は緩和有り)
	10m 立上り	北面境界線全てから真北方向に水平距離 8m だけ外側の線上 ($8\text{m}=10\text{m}/1.25$)	両端とその間を 2m 以内の等間隔 ($2\text{m}=8\text{m}/4$)	

各高さ制限で天空率による緩和を適用する場合は、当該境界線の全ての全測定点における天空率を計算しなければなりません。例えば、2 面道路における道路高さ制限で天空率による緩和を適用する場合、1 面だけが道路高さ制限を超えているとしても、道路高さ制限に適合する他の 1 面も含めた 2 面全てに対しての天空率を算定する必要があります。

また、測定点は、建築物の境界線からの後退距離等には依存しないので注意が必要です。

図 10-1-3-1



測定ラインの位置

- 各高さ制限を敷地境界線から適合建築物を立ち上げた際の起算点となる線上
- 建築物の後退距離に依存せず一定の線上

10-2 天 空 率 算 定 領 域

適合建築物は、法 56 条第 1 項から第 6 項で規定する高さ制限を建築物に置き換えたもので、適合建築物と計画建築物の天空率と比較します。従来の高さ制限では敷地単位で高さ制限を適用しますが、天空率の算定においては、高さ制限種別単位、境界線単位、用途地域及び地盤面高さ単位等により適合建築物の区域分けを行います。本システムでは、区域分けした領域を「天空率算定領域」と定義しています。

天空率による緩和を適用する場合は、天空率算定領域を十分に理解することが必要です。

10-2-1 道路高さ天空率算定領域の考え方

道路高さ制限天空率算定領域の考え方は以下の通りで、区分けした天空率算定領域内の適合建築物と計画建築物の天空率を比較します。(令 135 条の 6)

①道路境界線単位で適用距離までの範囲を天空率算定領域とする(第 1 項第一号)

道路高さ制限との比較となるため、道路高さ制限適用距離までが天空率算定領域となり、道路高さ制限適用距離を超える範囲は天空率を算定する必要はありません。(図 10-2-1-1)

②適合建築物の立ち上げ位置は、道路境界線から建築物の後退距離までの間であればどの位置で立ち上げてもよい(第 1 項第二号)

道路高さ制限と同様に、適合建築物を後退距離から立ち上げ、道路境界線から後退距離までの距離を前面道路の反対側の境界線に加えた位置からの高さ制限とすることができます。ただし、この場合においても測定点の位置は、前面道路の反対側の境界線上となります。(図 10-2-1-2)

また、適合建築物の立ち上げ位置は各道路境界線から後退距離までの間であれば設計者が自由に決めることができます。

③階段室・棟飾り・門塀・ポーチ・物置等も計画建築物に算入する(第 1 項第一号かつ書き)

道路高さ制限では考慮しなくてもよい建築物の部分でも、通風・採光を遮るものという観点から天空率の算定においては全て計画建築物に含めなければなりません。(図 10-2-1-3)

④建築物の敷地内で、道路制限勾配が異なる場合は、道路制限勾配毎の天空率算定領域とする(第 2 項)

敷地内で道路制限勾配(1.25 および 1.5)が異なる場合は、道路制限勾配が異なる地域等毎に天空率算定領域を区分けします。(図 10-2-1-4、5)

⑤前面道路が 2 以上ある場合は、それぞれの区域毎の天空率算定領域とする(第 3 項)

前面道路が 2 以上ある場合は、令 132 条の規定が適用され、それぞれの区域毎に天空率算定領域を区分けしなければなりません。(ex.2A かつ 35m およびそれを超える区域等) (図 10-2-1-6)

⑥前面道路の反対側に公園・広場・水面等が接している場合の緩和が適用できる(第 3 項)

道路高さ制限の緩和と同様に、公園・広場・水面等が接している場合にその水平距離を前面道路の幅員に含めることができます。ただし、測定点の位置は緩和幅によらず、前面道路の反対側の境界線上となります。(図 10-2-1-7)

⑦地盤面が測定点の高さより高い場合は、敷地の地盤を適合および計画建築物に含める

(平成 14 年国住街発第 110 号)

地盤面が測定点の高さ(=前面道路の高さ)より高い場合は、③と同様に、地盤を通風・採光を遮るものとして扱います。地盤については適合および計画建築物両方に含めます。なお、測定点の高さは令 135 条の 9 第 4 項の適用により緩和します。

図 10-2-1-1 道路高さ制限における天空率算定領域

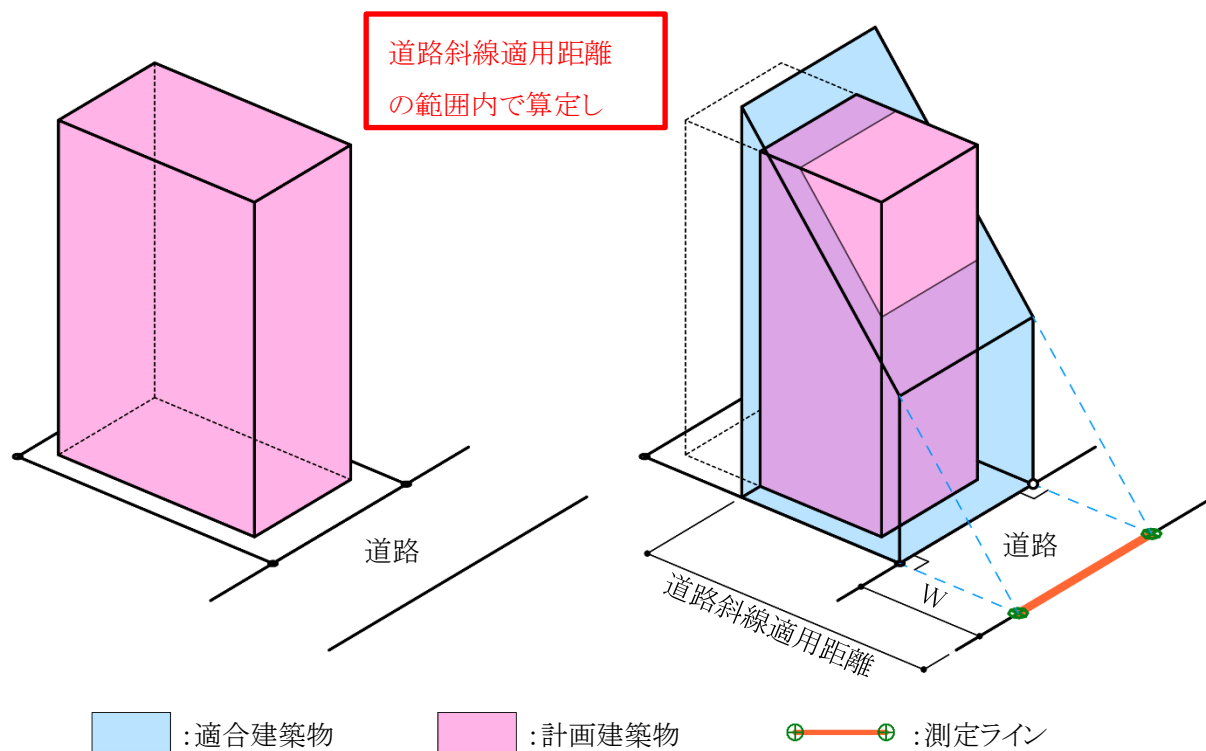


図 10-2-1-2 後退距離による適合建築物の違い

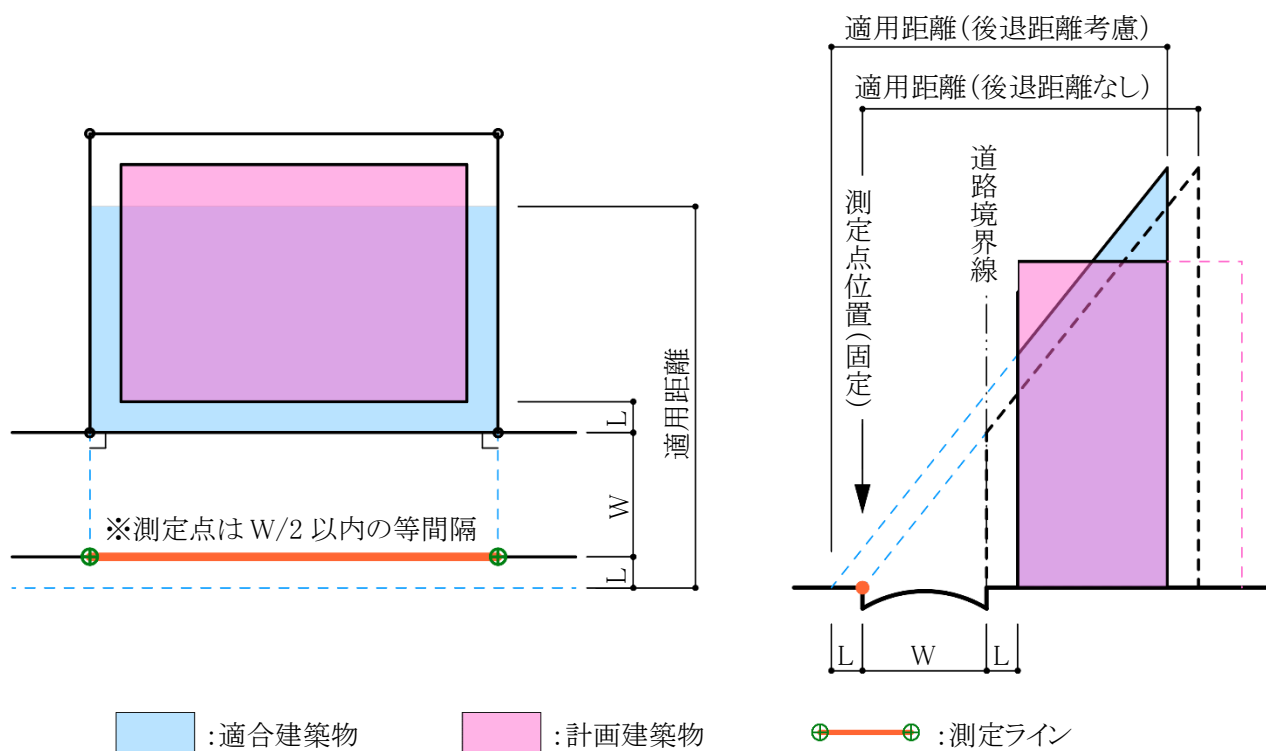


図 10-2-1-3 計画建築物に算入する建築物

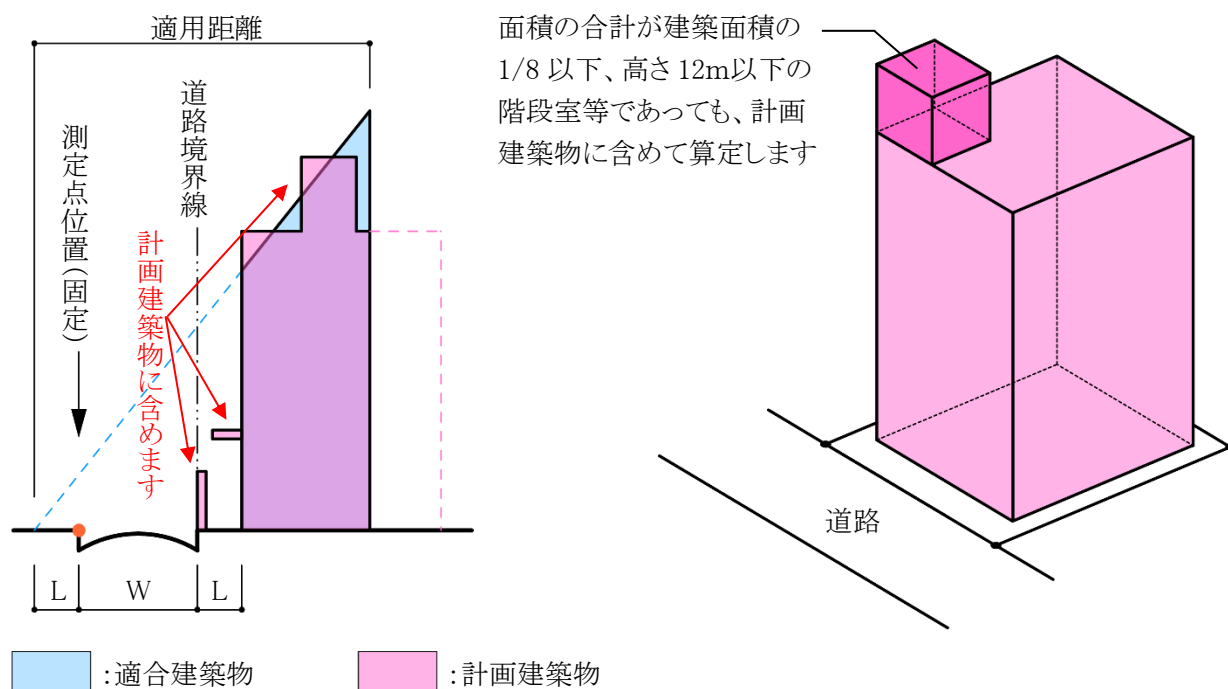


図 10-2-1-4 住居系用途地域で幅員 12m以上の道路に接している場合

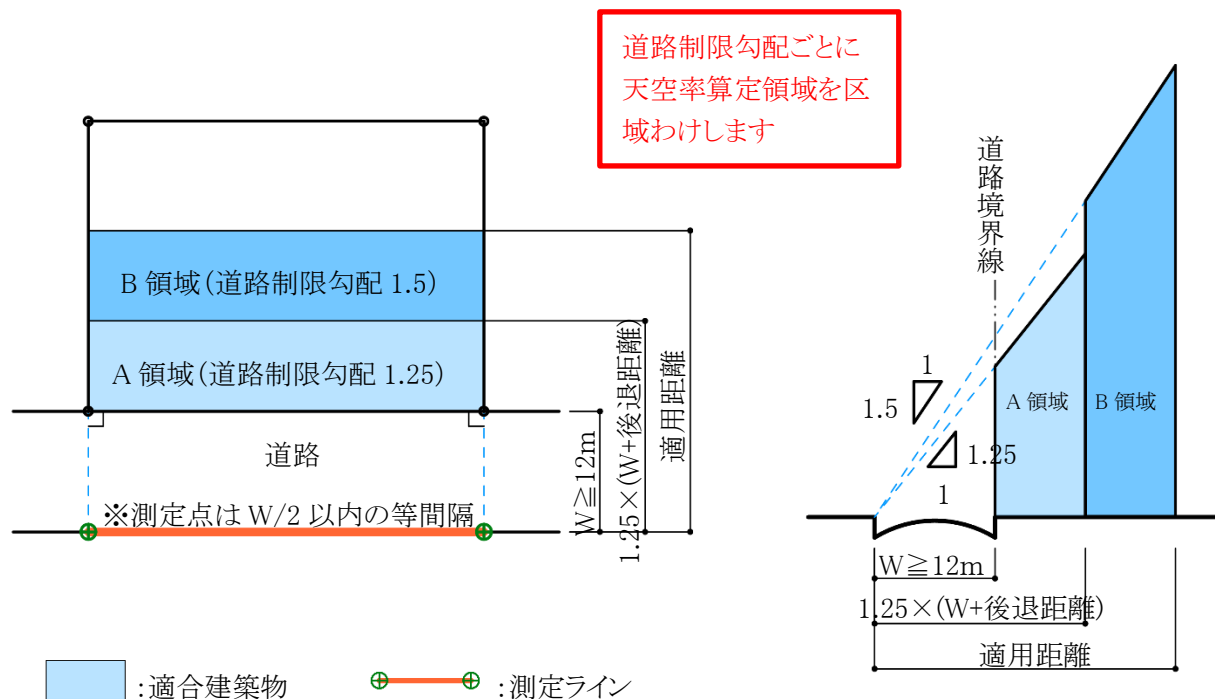


図 10-2-1-5 用途地域が異なる場合

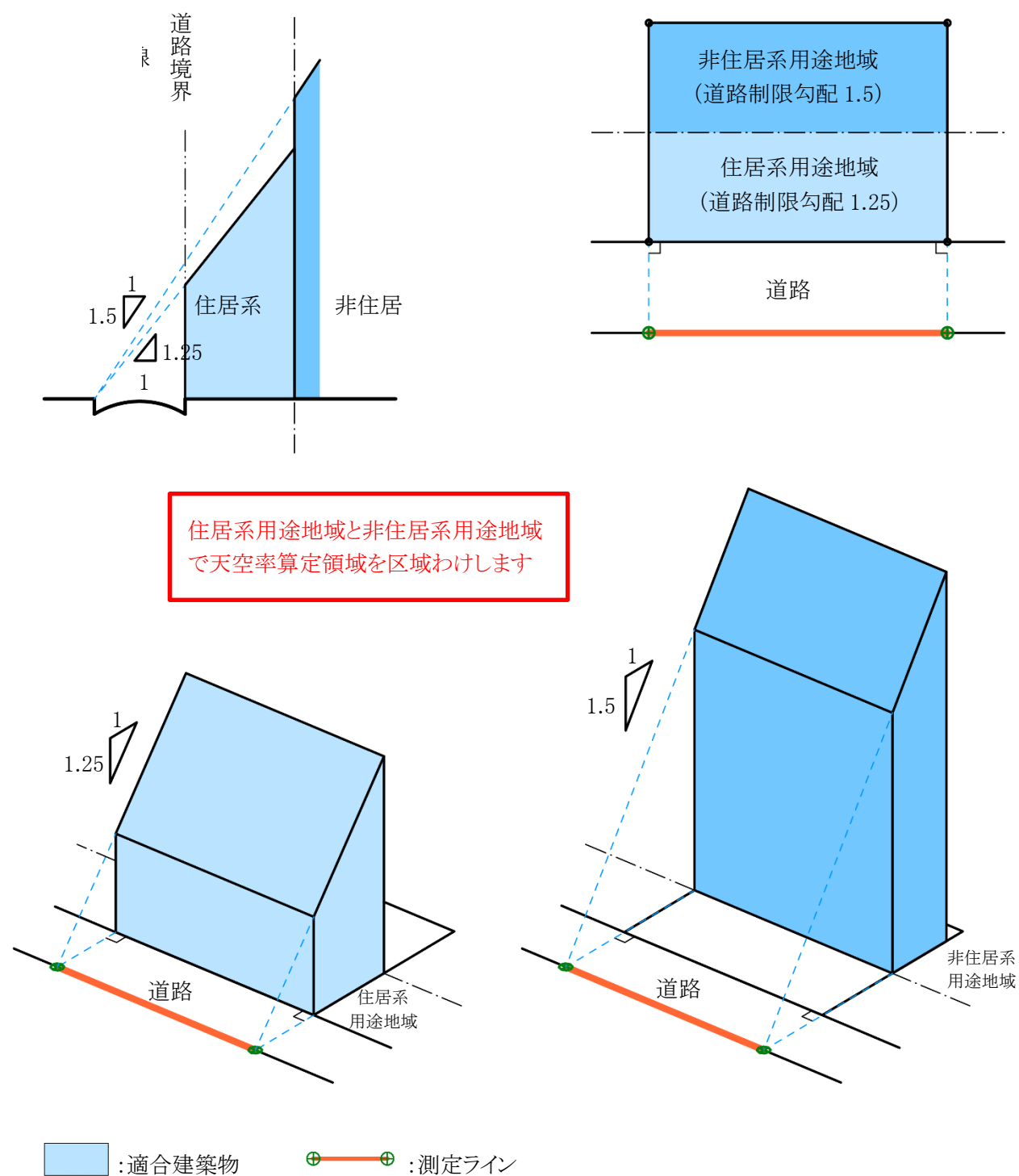


図 10-2-1-6 前面道路が 2 以上ある場合

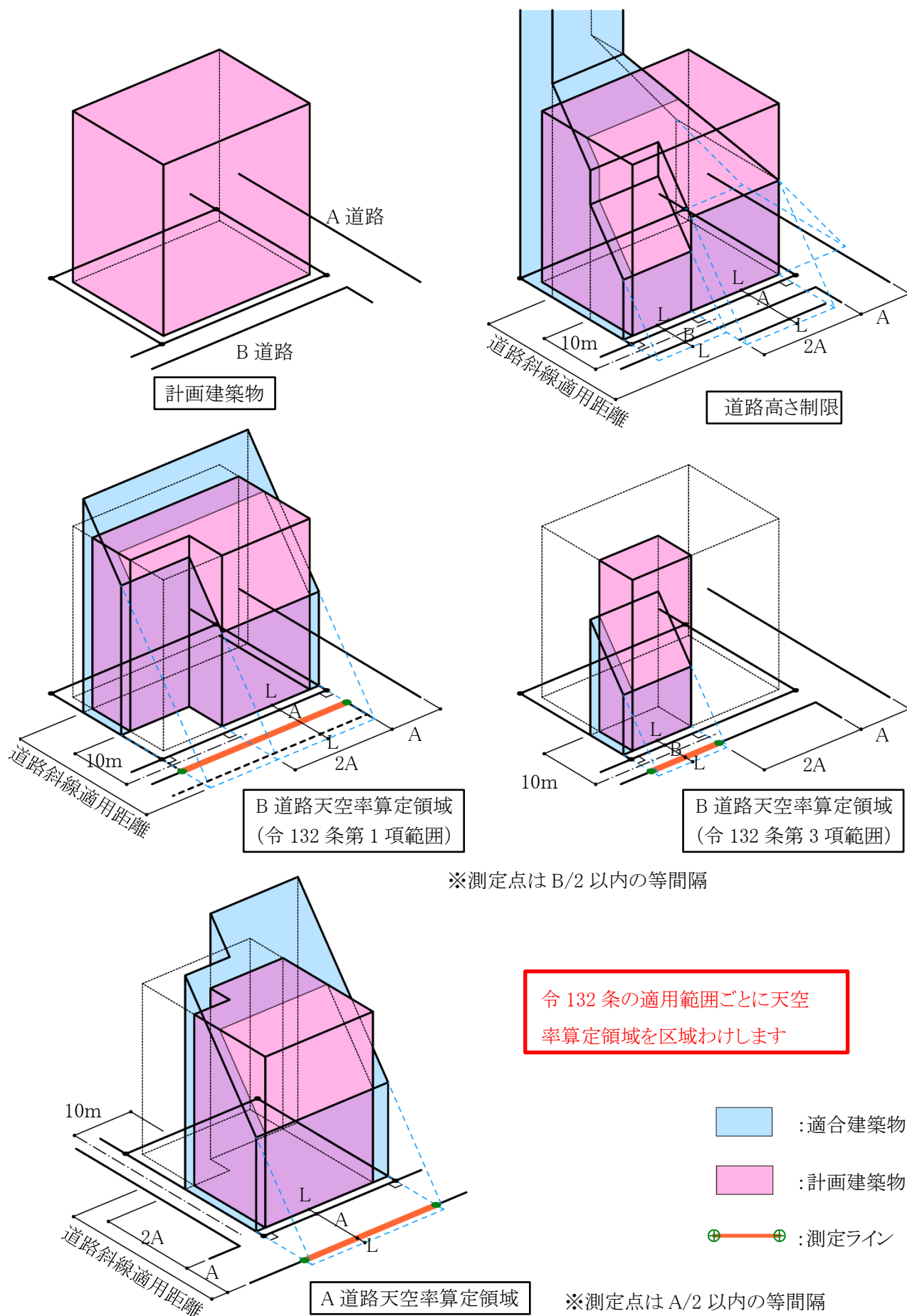
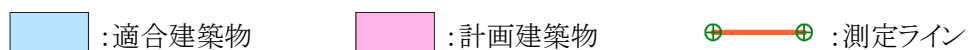
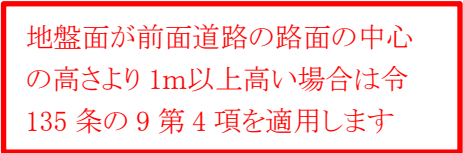
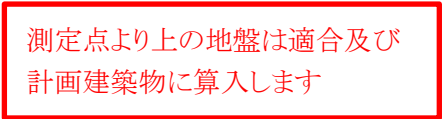




図 10-2-1-8 地盤面が測定点の高さより高い場合



10-2-2 隣地高さ天空率算定領域の考え方

隣地高さ制限天空率算定領域の考え方は以下の通りで、分けけた天空率算定領域内の適合建築物と計画建築物の天空率を比較します。(令 135 条の 7)

①隣地境界線単位で隣地境界線の面する方向から敷地奥までを天空率算定領域とする(第 1 項第一号)

隣地境界線は道路高さ制限のように適用距離が存在しないため、敷地の奥までが天空率算定領域となります。原則として隣地境界線毎に天空率算定領域を分けなければなりません。

②建築物の敷地内で、隣地制限勾配が異なる場合は、隣地制限勾配毎の天空率算定領域とする(第 2 項)

敷地内で隣地制限勾配(1.25 および 2.5)が異なる場合は、隣地制限勾配が異なる地域等毎に天空率算定領域を分けします。(図 10-2-2-1)

③地盤面に 3m 以上の高低差がある場合は、3m 以内毎の高さに分けする(第 3 項)

地盤面に 3m 以上の高低差がある場合は、高低差が 3m 以内となるように敷地を分けし、分けした区域毎を天空率算定領域とします。測定点の高さも天空率算定領域毎の地盤面とします。(図 10-2-2-2)

④適合建築物の立ち上げ位置は、隣地境界線から建築物の後退距離までの間であればどの位置で立ち上げてもよい(第 1 項第二号)

適合建築物を後退距離から立ち上げ(20m または 31m を超えた部分に関して)、隣地境界線から後退距離までの距離を隣地境界線の反対側に加えた位置からの高さ制限とすることができます。ただし、この場合においても測定点の位置は、隣地境界線から水平距離 16m または 12.4m だけ外側の線上となります。また、適合建築物の立ち上げ位置は各隣地境界線から後退距離までの間であれば設計者が自由に決めることができます。(図 10-2-2-3)

⑤階段室・棟飾り・門塀・ポーチ・物置等も計画建築物に算入する(第 1 項第一号かつこ書き)

隣地高さ制限では考慮しなくてもよい建築物の部分でも、通風・採光を遮るものという観点から天空率の算定においては全て計画建築物に含めなければなりません。

※道路高さ天空率算定領域での考え方と同様です。

⑥建築物の地盤面が隣地の地盤面より 1m 以上低い場合は、測定点の高さを緩和する

(令 135 条の 10 第 4 項)

建築物の地盤面が隣地の地盤面より 1m 以上低い場合は、測定点の高さを令 135 条の 10 第 4 項の適用により緩和します。(図 10-2-2-4)

⑦建築物の敷地が公園・広場・水面等に接している場合の緩和が適用できる(第 1 項第一号)

隣地高さ制限の緩和と同様に、公園・広場・水面等の接している幅の 1/2 だけ外側に隣地境界線があるものとみなすことができます。ただし、測定点の位置は緩和幅によらず、隣地境界線から水平距離 16m または 12.4m だけ外側の線上となります。

図 10-2-2-1 用途地域が異なる場合

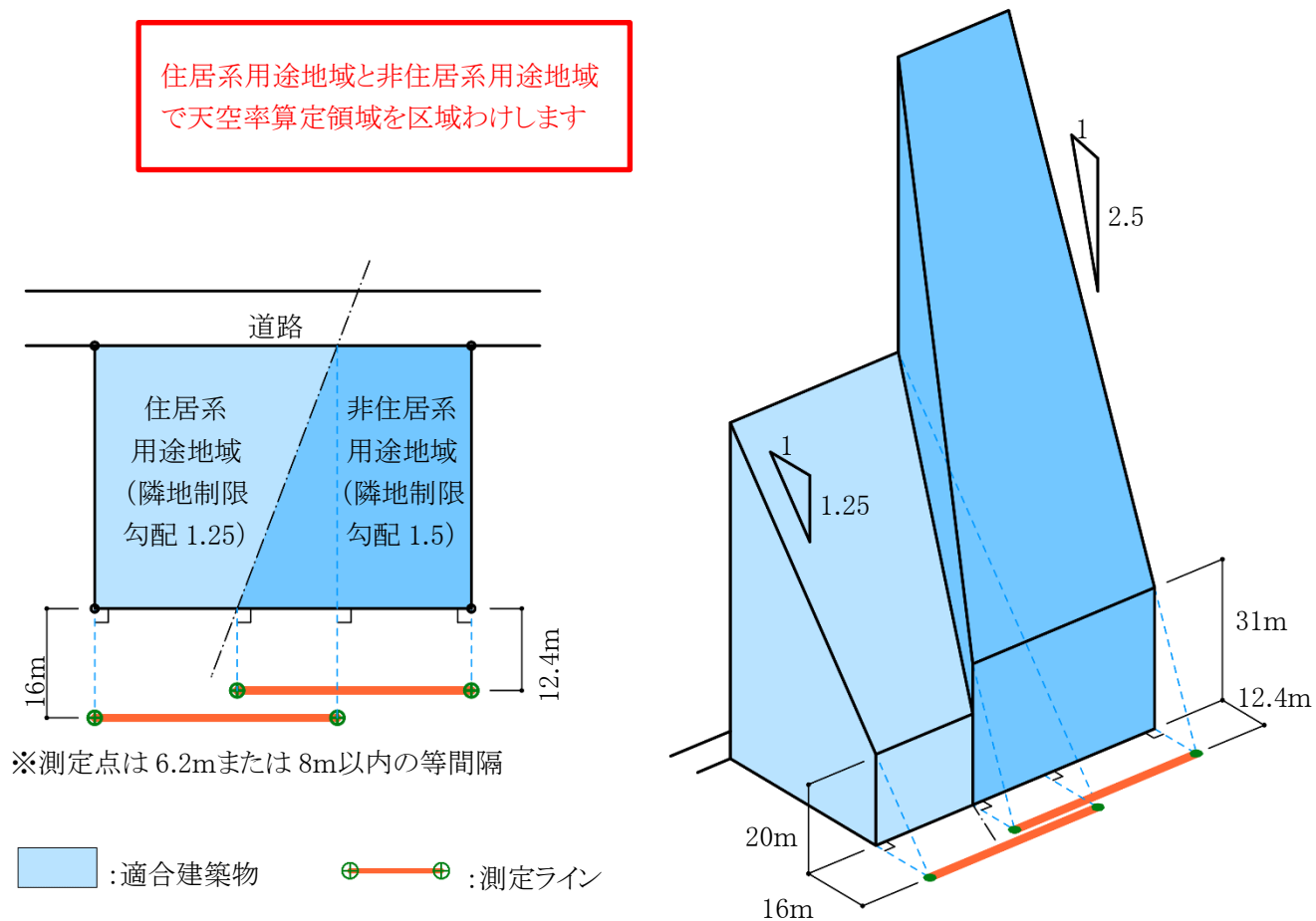
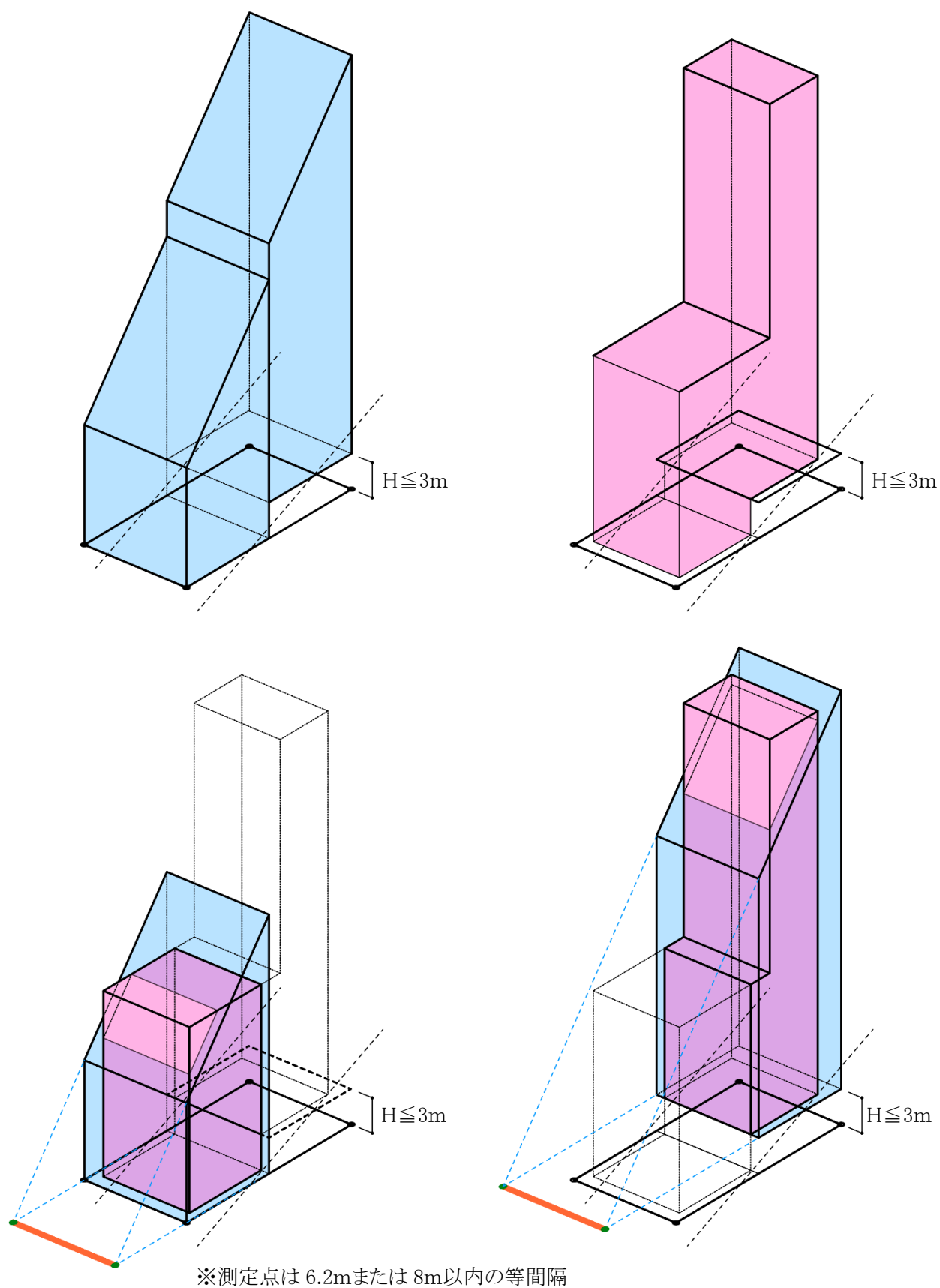


図 10-2-2-2 地盤面に 3m以上の高低差がある場合

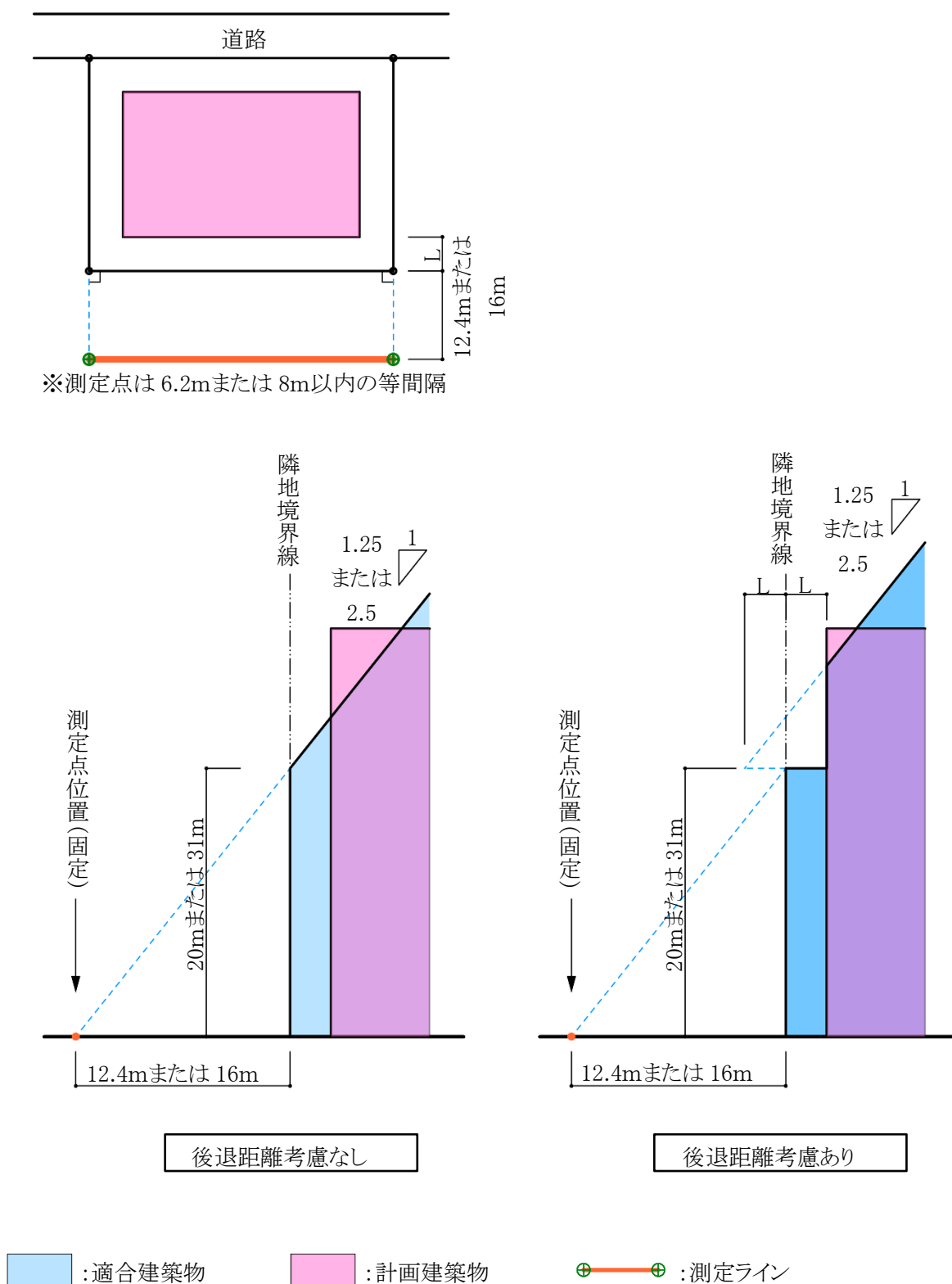


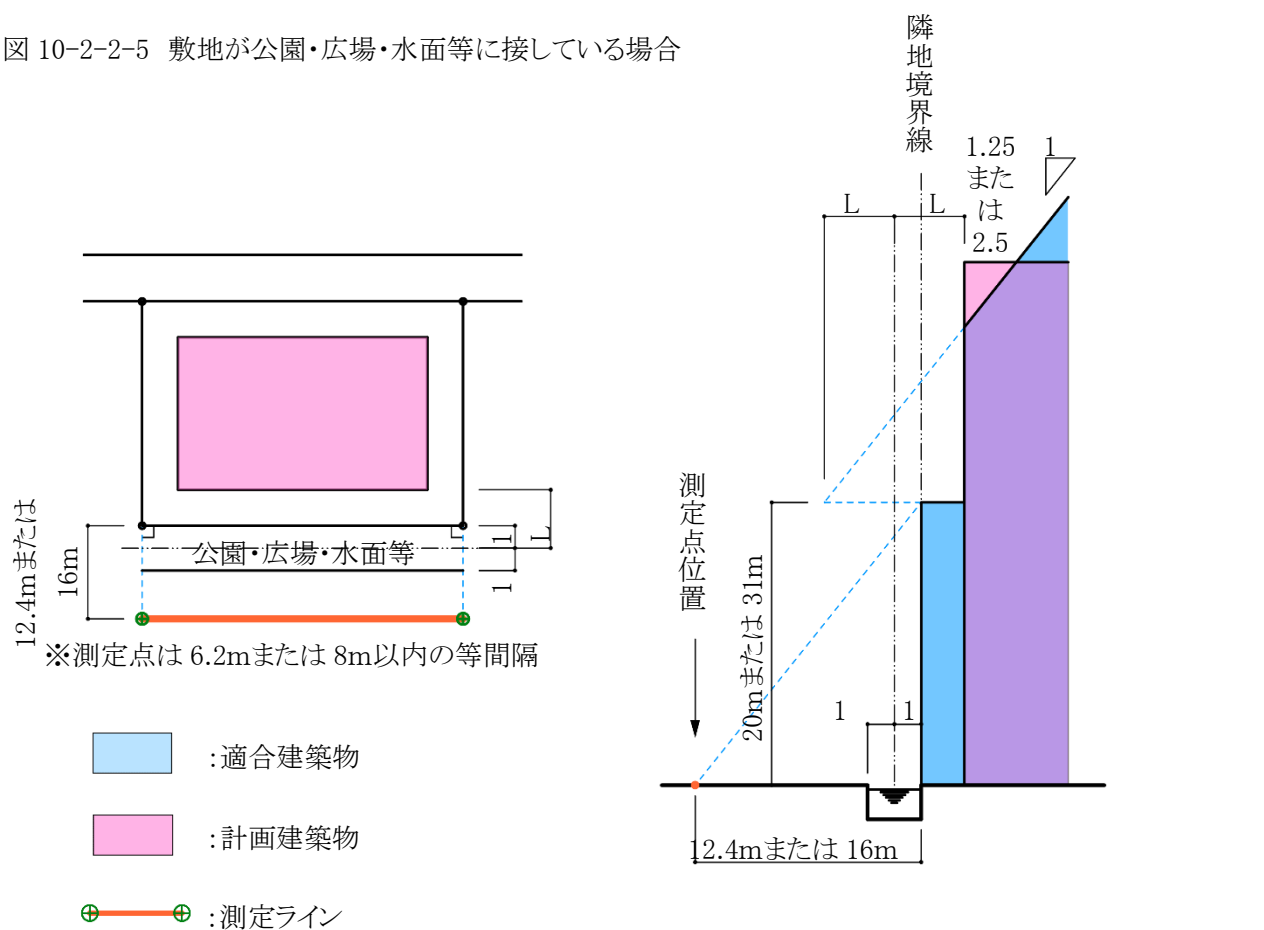
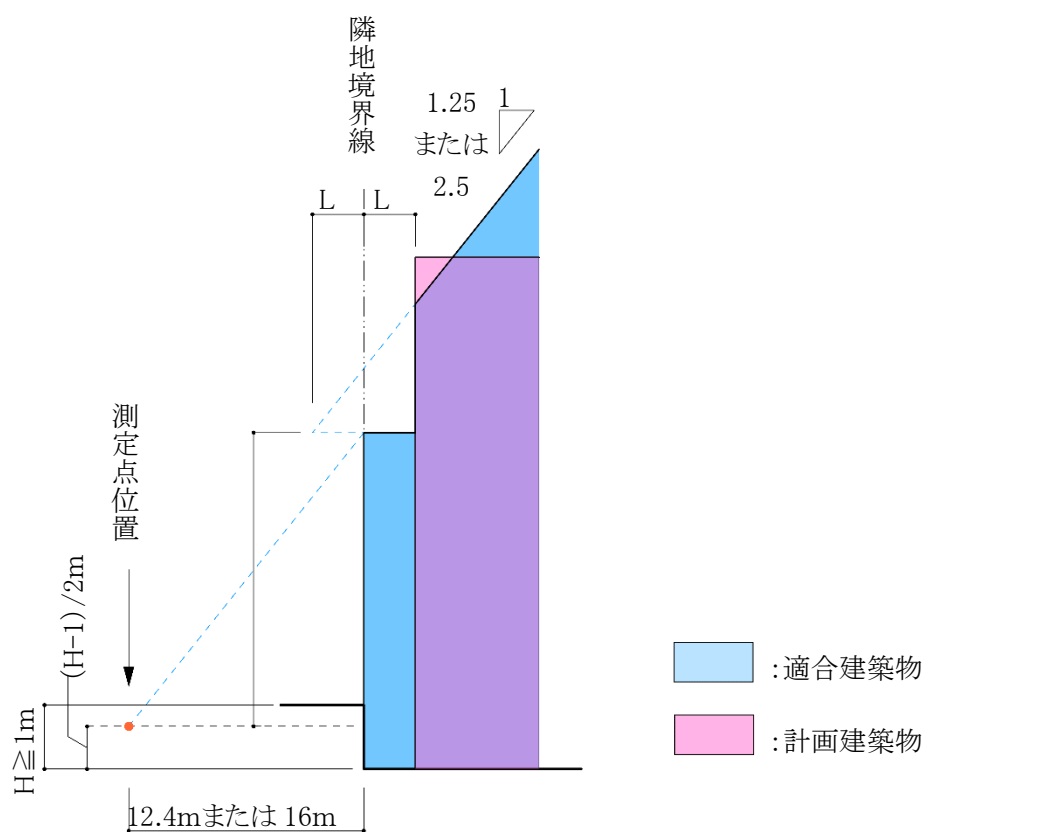
適合建築物

計画建築物

測定ライン

図 10-2-2-3 後退距離による適合建築物の違い





10-2-3 北側高さ制限天空率算定領域の考え方

北側高さ制限天空率算定領域の考え方は以下の通りで、分けけた天空率算定領域内の適合建築物と計画建築物の天空率を比較します。(令 135 条の 8)

①北側に面する境界線全てを 1 つとして考えた天空率算定領域とする(第 1 項第一号)

道路及び隣地高さ制限天空率算定領域とは異なり、北側に面する境界線全てを 1 つとして考えた天空率算定領域とします。(図 10-2-3-1)

②建築物の敷地内で、北側高さ制限の立ち上り高さが異なる場合は、立ち上り高さ毎の天空率算定領域とする(第 2 項)

敷地内で北側高さ制限の立ち上り高さ(5m または 10m)が異なる場合は、立ち上り高さ毎に天空率算定領域を分けけます。(図 10-2-3-2)

③地盤面に 3m 以上の高低差がある場合は、3m 以内毎の高さに分けする(第 3 項)

地盤面に 3m 以上の高低差がある場合は、高低差が 3m 以内となるように敷地を分けし、分けけた区域毎を天空率算定領域とします。測定点の高さも天空率算定領域毎の地盤面とします。(図 10-2-3-3)

④棟飾り等も計画建築物に算入する(第 1 項第一号かつ書き)

北側高さ制限では考慮しなくてもよい建築物の部分でも、通風・採光を遮るものという観点から天空率の算定においては全て計画建築物に含めなければなりません。

⑤建築物の地盤面が北側の隣地の地盤面より 1m 以上低い場合は、測定点の高さを緩和します

(令 135 条の 11 第 4 項)

建築物の地盤面が北側の隣地の地盤面より 1m 以上低い場合は、測定点の高さを令 135 条の 11 第 4 項の適用により緩和します。

⑥建築物の敷地が水面・線路敷等に接している場合の緩和が適用できる(第 1 項第一号)

北側高さ制限の緩和と同様に、水面・線路敷等の接している幅の 1/2 だけ外側に当該境界線があるものとみなすことができます。ただし、測定点の位置は緩和幅によらず、当該境界線から真北方向に水平距離 4m または 8m だけ外側の線上となります。

図 10-2-3-1 北側高さ制限における天空率算定領域

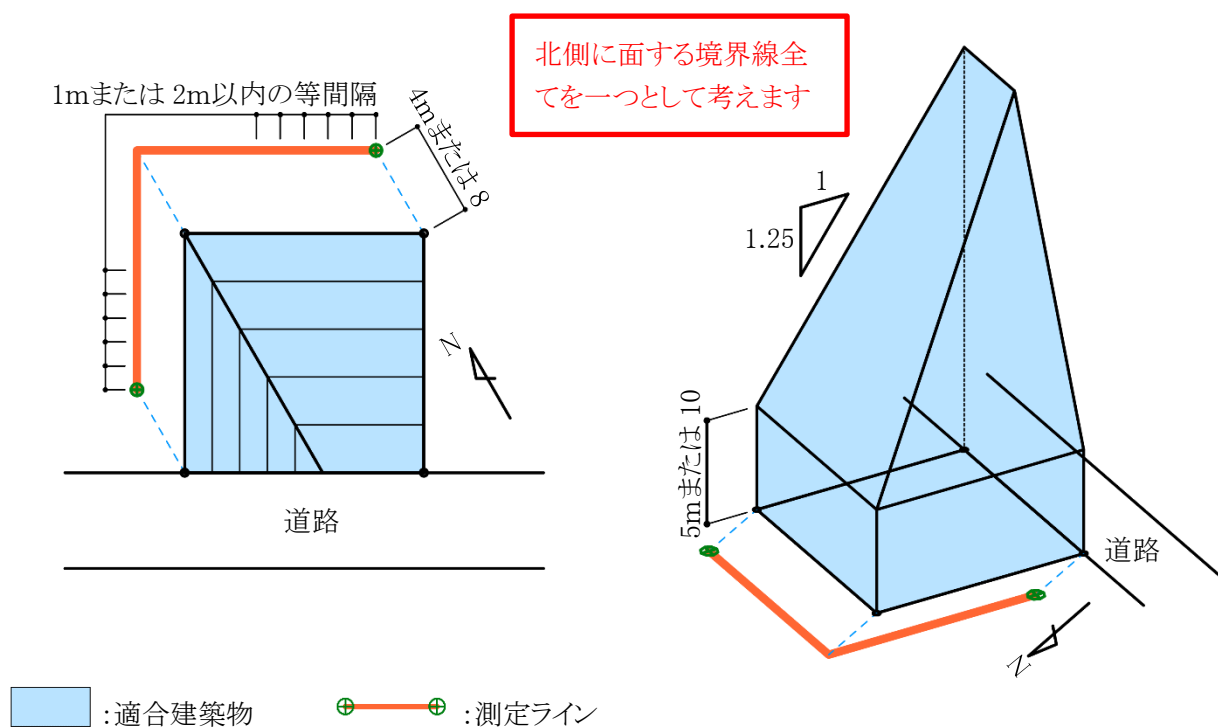
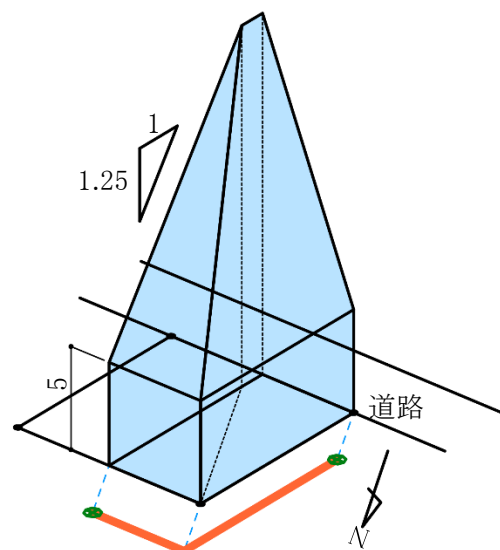
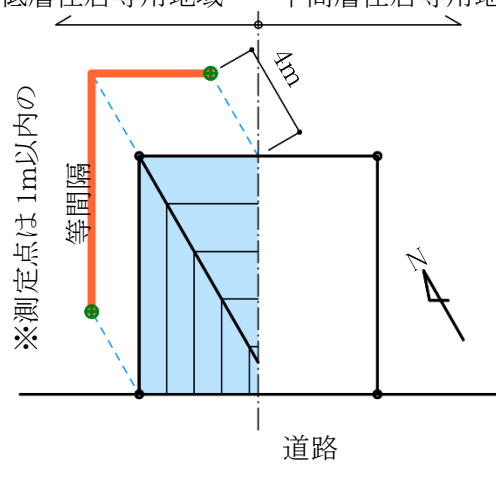
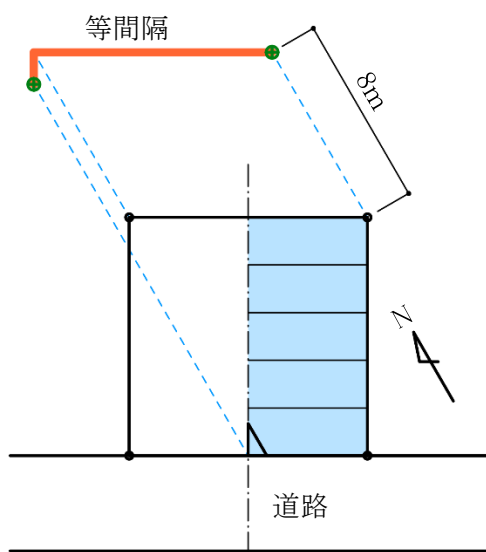


図 10-2-3-2 北側高さ制限の立ち上り高さが異なる場合

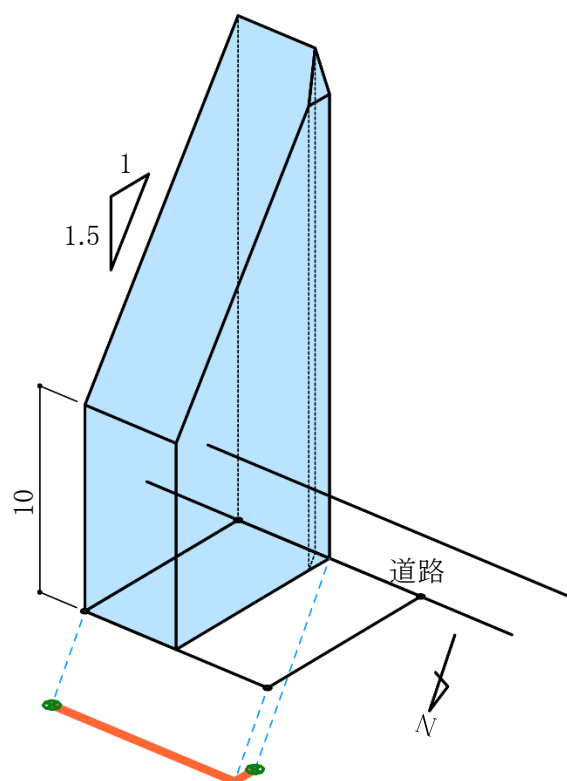
第一種または第二種 第一種または第二種
低層住居専用地域 中高層住居専用地域



※測定点は2m以内の

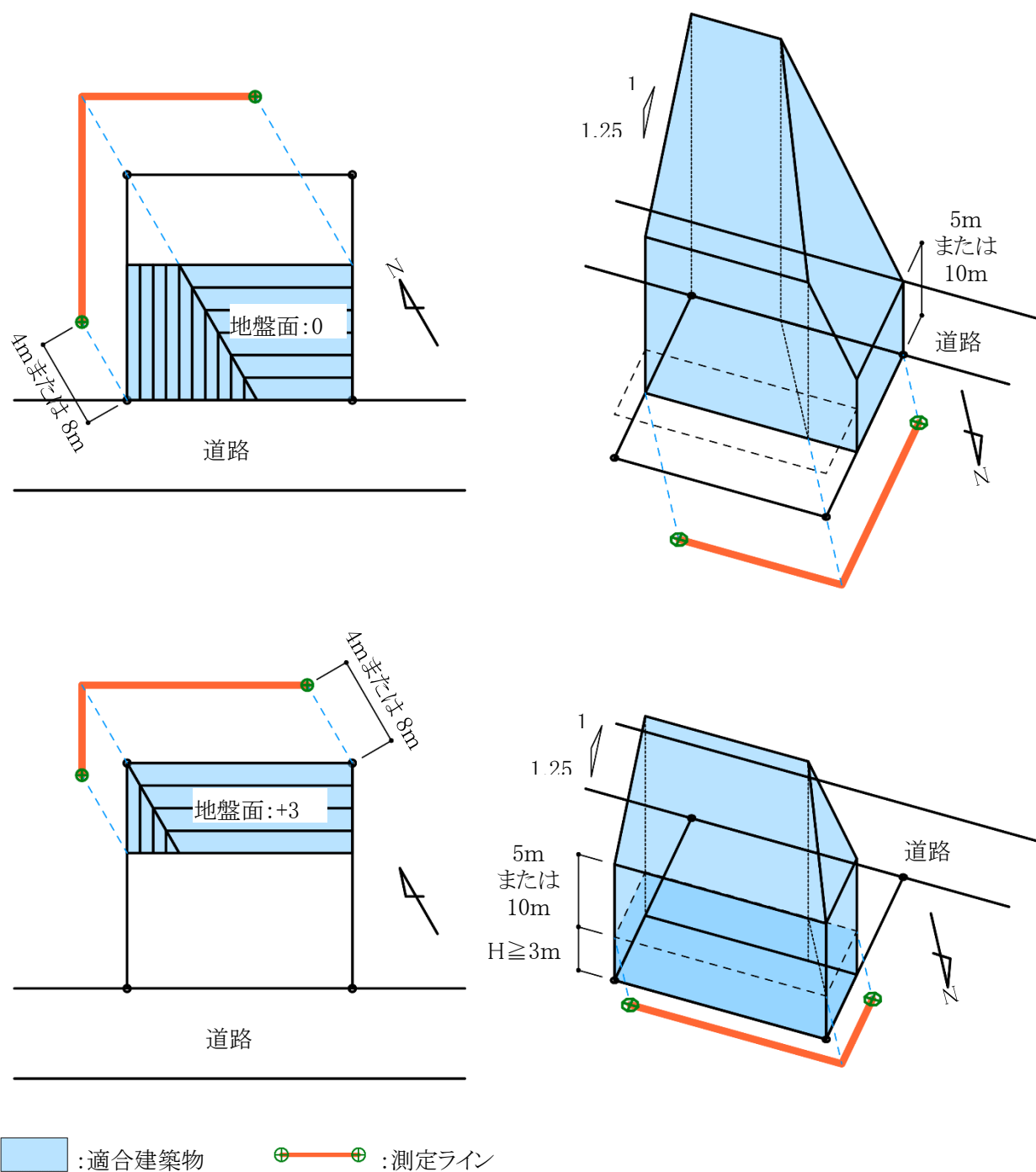


第一種または第二種 第一種または第二種
低層住居専用地域 中高層住居専用地



適合建築物 : 測定ライン

図 10-2-3-3 地盤面に3m以上の高低差がある場合





10-3 天空率の確認申請

10-3-1 天空率の審査におけるチェック項目

天空率による高さ制限の適用除外を受ける場合(以下、天空率申請という)は、それらの根拠となる申請図書の提出が義務づけられています。

現在の天空率の確認申請において重要となるポイントは、以下の3点です。

天空率算定領域が正しく区域分けされているか

天空率算定領域が正しく区域分けされ、天空率を比較するため適合建築物及び計画建築物の範囲が適切であるか審査します。
同じ敷地形状であっても、天空率算定領域は法解釈や取扱いによって異なります。

測定点が正しく配置されているか

天空率を測定する、測定点の位置、高さ、ピッチが正しく配置されているか審査します。
法解釈や取扱いによって異なる場合があります。

天空率計算結果が正しいか

全ての測定点において、計画建築物の天空率が適合建築物の天空率よりも上回っているか審査します。
「天空図における求積図」で計算結果を審査し、「水平投影位置確認表」で天空図が正しく描かれているか、配置図との整合性がとれているか判断します。
本システムでは、計算2(求積計算)の計算結果で判断を行います。

特定行政庁および民間検査機関によって細部が異なる場合がありますので、事前に確認してください。

10-3-2 申請図書について

天空率の確認申請では施行規則で提出の必要な申請図書を規定しています。
提出の必要な申請図書とその目的は以下の通りです。

配置図

- ・天空率算定領域および測定点が適切か確認
- ・求積図及び水平投影位置確認表の整合性を確認

立面図

- ・適合建築物の立上りの高さ及び各部分の高さを確認
- ・道路等で敷地と高低差がある場合の適合建築物の立上りの高さを確認

求積図(天空図)

- ・適合建築物及び計画建築物の配置図との整合性を確認
- ・天空率の算定根拠を確認

水平投影位置確認表

- ・適合建築物及び計画建築物の配置、高さの整合性を確認

近接点における天空率算定表

- ・天空率算定結果の適否判定を確認

10-3-2-1 配置図

天空率申請における配置図は、天空率算定領域毎に測定点の位置と各測定点における天空率の結果が必要です。

・配置図に記載する項目

施行規則によるもの	その他
方位・縮尺	測定点の間隔(および両端の距離)
敷地境界線	各測定点の高さ
敷地内における建築物の位置	後退距離(道路又は隣地)
擁壁の位置	道路斜線の適用距離(道路のみ)
土地の高低	
高低作文区域の境界線	
建築物の各部分の高さ	
敷地の接する道路の位置・幅員	
天空率の測定点	
測定点毎の算定した天空率	

10-3-2-2 立面図

天空率申請における立面図は、高さ制限適合建築物の2面(側面および正面)以上の立面図です。通常の立面図と併せて作成することもできます。(施行規則第1条の3)

・立面図に記載する項目

施行規則によるもの
縮尺
前面道路の中心高さ
建築物の各部分の高さ
道路の緩和がある場合の高さ
各測定点の高さ
擁壁の位置
土地の高低
測定点からの建築物の高さ

10-3-2-3 求積図

天空率申請における求積図は、正射影投影法で描かれた近接点の天空図の三斜求積図です。

三斜求積図は、通常半径10cmの天空図での提出が求められます。

天空図上の建築物投影部分において、建築物頂部は曲線となります。三斜求積の取り方は、安全側の結果を得るために、適合建築物は天空率が大きくなるように、また、計画建築物は小さくなるように、それぞれで建築物頂部の曲線に対して内外接を分ける必要があります。

10-3-2-4 水平投影位置確認表

天空率申請における水平投影位置確認表は、近接点における天空図が正しく描かれているか否かをします。適合建築物及び計画建築物について必要です。

・水平投影位置確認表に記載する項目

測定点からの各建築物の位置指定点における高さ
測定点から各建築物の位置指定点までの水平距離
測定点から各建築物の位置指定点高さまでの角度(仰角)
測定点から各建築物の位置指定点までの角度(方位角)
天空図上の建築物投影部分の天空図(円)中心から各建築物の位置指定点までの距離

10-3-2-5 近接点における天空率算定表

天空率申請における近接点における天空率算定表は、三斜求積計算で求められた天空率を記入します。本システムでは、計算 1(システム計算)による計算結果を全測定点に対して明記し、計算 2(求積計算)による計算結果を近接点に対して明記します。

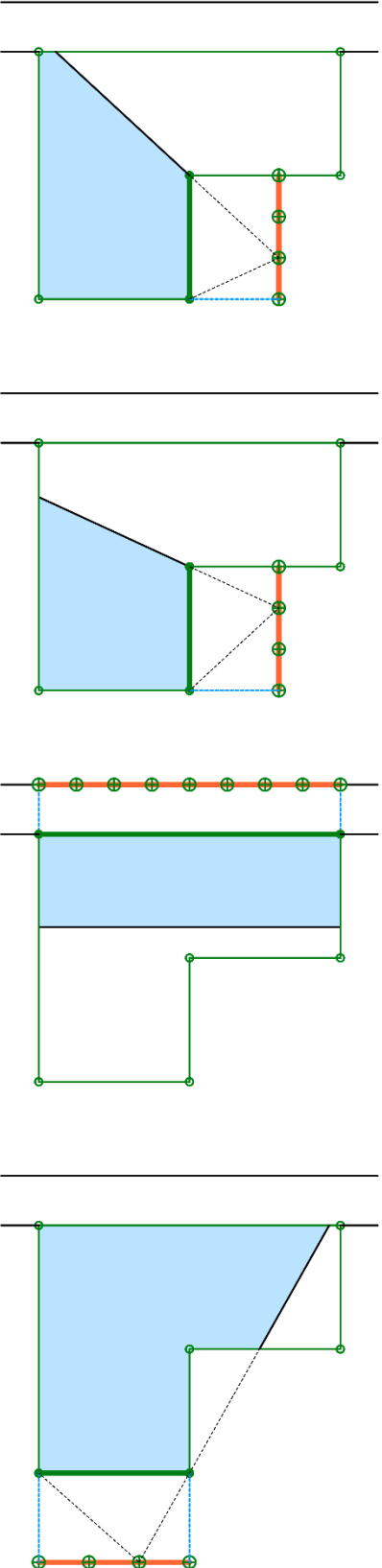
10-4 本システムでの天空率算定領域設定

※天空率算定領域の設定によって適否に影響があります。必ず審査機関等へ事前に確認を行って下さい。

10-4-1 基本処理

○適合建築物の生成方法を設定します。基本タイプまたは放射タイプのいずれかを選択します。

基本処理	概要	適用例
基本タイプ	天空率算定領域の測定点全てに対して、同じ範囲の適合建築物を生成します 境界線端点毎に適合建築物及び測定点の範囲を設定します	

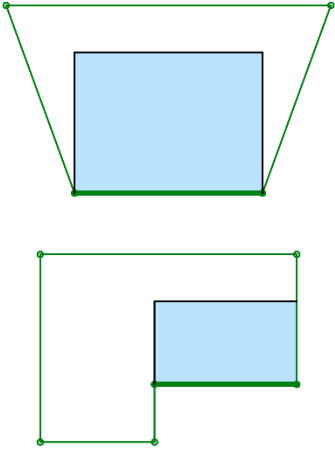
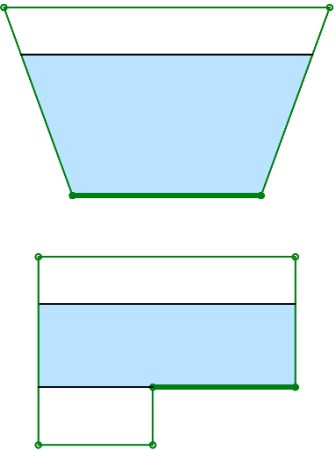
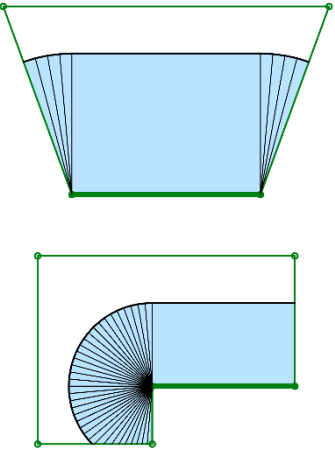
基本処理	概要	適用例
放射タイプ	各測定点から境界線端点を結んだ延長線上の範囲内を適合建築物範囲として生成します 入隅敷地の場合、測定点毎に適合建築物の範囲が異なります 原則として、入隅敷地で東京方式を採用する場合があります	
凡例	: 適合建築物 : 測定ライン	

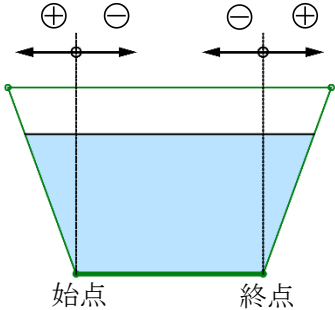
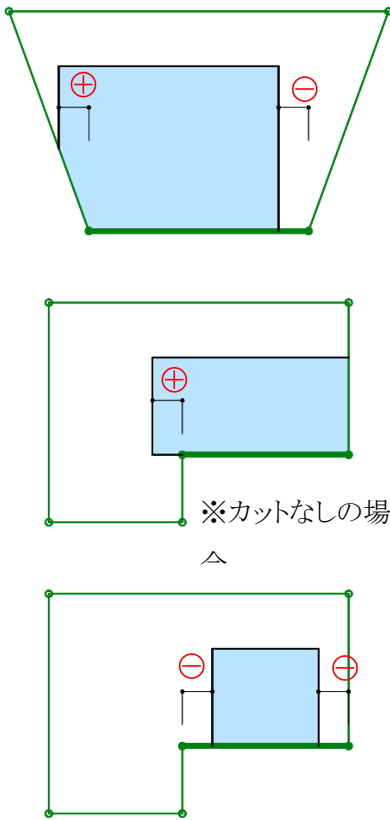
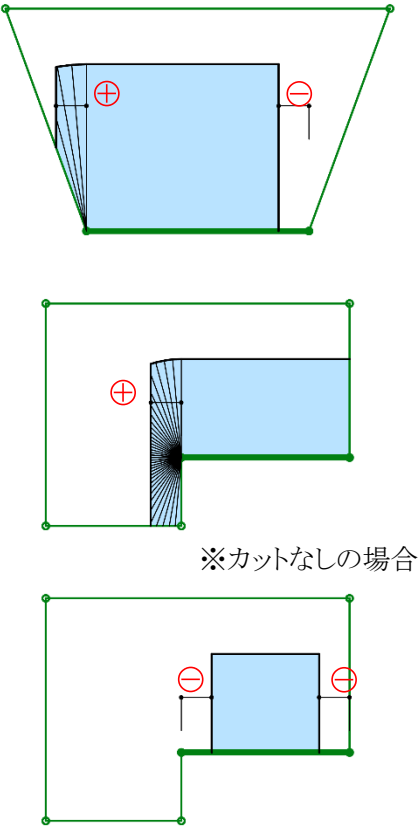
10-4-2 適合建築物と測定点の端点処理

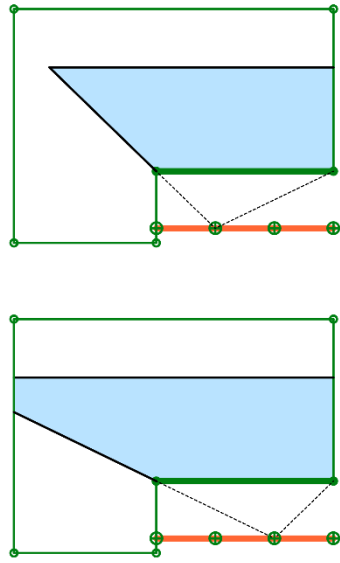
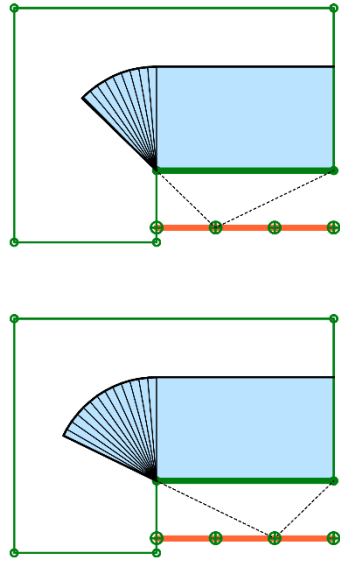
○本システムで設定可能な適合建築物と測定点の端点処理は下表の通りです。

10-4-2-1 適合建築物

○端点処理

端点 処理	概要	入隅 処理	適用例
境界線	境界線端点から境界線に対して垂直に適合建築物を生成します	延長 または 挿鉢	
延長	敷地内角が鈍角の場合に、敷地境界線の外側に延長して適合建築物を生成します	延長	 ※カットなしの場合
		挿鉢	 ※カットなしの場合

端点 処理	概要	入隅 処理	適用例
任意	境界線端点からの距離を指定して、適合建築物を生成します 境界線端点から見て、 外側に広げる場合は「+」 内側に狭める場合は「-」 とします 	延長	
			

端点 処理	概要	入隅 処理	適用例
放射	基本処理を放射にした場合に選択します ※原則として、入隅敷地で東京方式を採用する場合に選択します	延長	 ※カットなしの場合
		挿鉢	 ※カットなしの場合
凡例	 : 適合建築物  —  : 測定ライン		

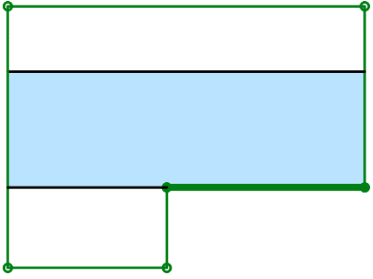
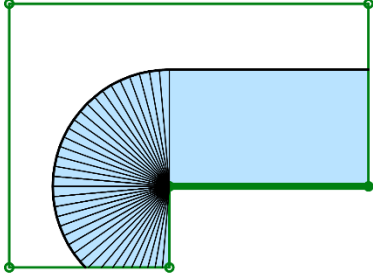
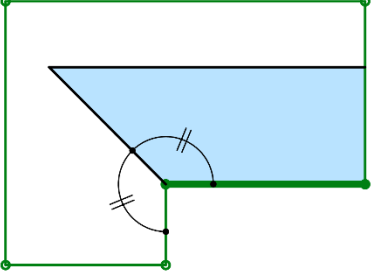
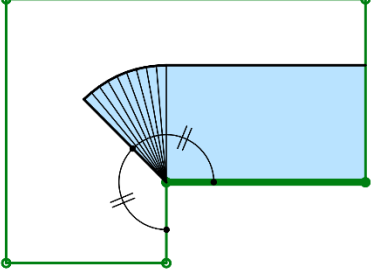
※適用例は端点処理、入隅処理を始点、終点共通の設定とした場合です。

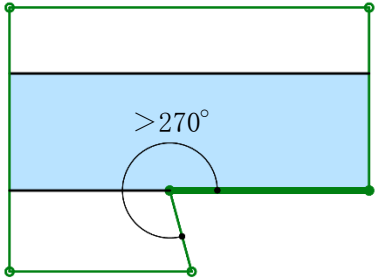
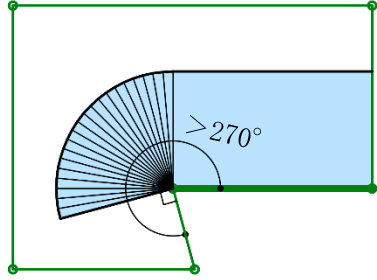
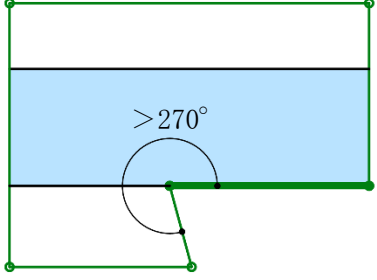
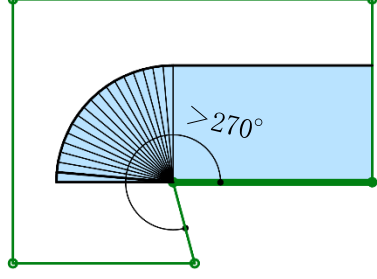
・入隅処理

処理	概要
延長	当該境界線に対して、適合建築物を平行に延長します
挿鉢	当該境界線に対して、適合建築物を挿鉢状に延長します

○端点処理カット法

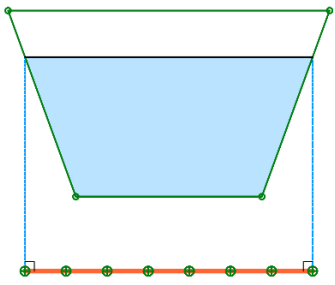
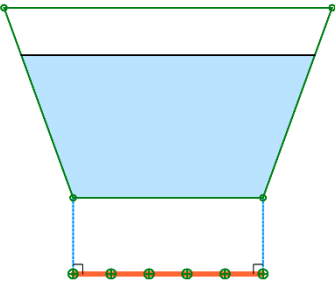
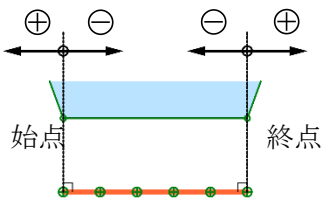
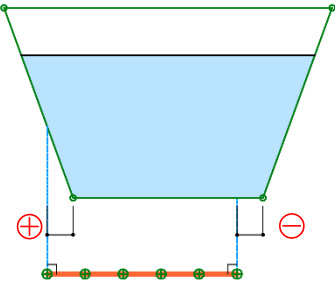
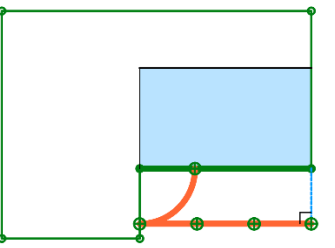
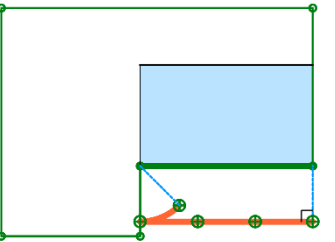
・適合建築物の端点が敷地境界線の外側に延長している場合に有効です。

カット法	概要	入隅 処理	適用例
カットしない	カットを行いません	延長	
		挿鉢	
1/2 カット	敷地内角の 1/2 の範囲を最大として、カットします	延長	
		挿鉢	

カット法	概要	入隅 処理	適用例
垂直カット	入隅角度が 270 度超の場合、当該境界線の次辺に垂直な範囲を最大としてカットします	延長	
		挿鉢	
延長カット	入隅角度が 270 度超の場合、当該境界線を延長した範囲を最大としてカットします	延長	
		挿鉢	
凡例	 : 適合建築物		

10-4-2-2 測定点

○端点処理

端点 処理	概要	適用例
適合	適合建築物端点を基準として測定点を生成します	
境界線	境界線端点を基準として測定点を生成します	
任意	境界線端点からの距離を指定し、測定点を生成します 	
円弧	指定した境界線端点を中心として、指定した境界線内角に合わせた円弧上に測定点を生成します ※現状では適用事例はありません	
半円弧	指定した境界線端点を中心として、指定した境界線内角の 1/2 に合わせた半円弧上に測定点を生成します ※現状では適用事例はありません	
凡例	 : 適合建築物  : 測定ライン	

10-4-2-3 端点処理の一般的な組み合わせ

		測定点端点処理	
		適合	境界線
適合建築物 端点処理	境界線		
	延長		
凡例			

※道路境界線の場合です。

※端点処理は始点、終点共通の設定とした場合です。

10-4-3 入隅敷地における適合建築物と測定点の端点処理

○本システムでの設定例です。

○実際の取り扱いは必ず審査機関に確認して下さい。

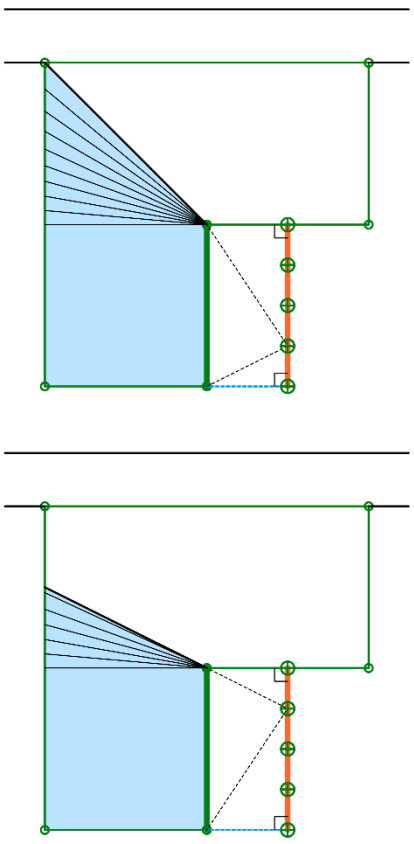
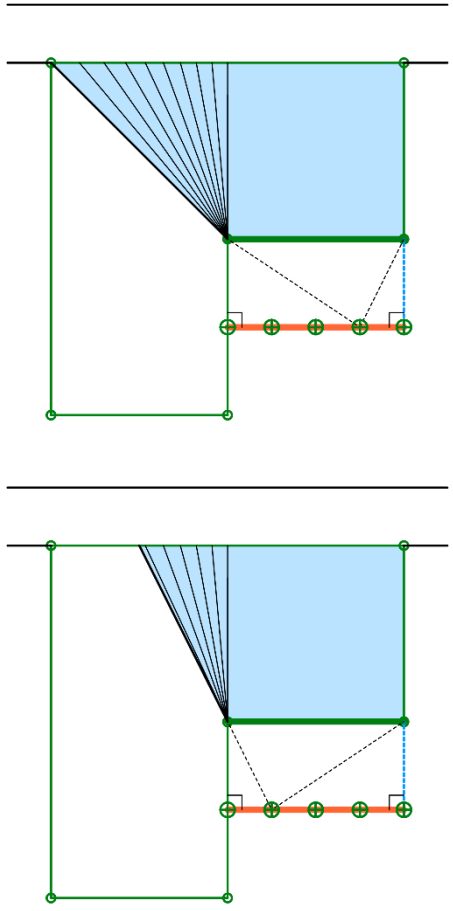
10-4-3-1 道路高さ制限(東京方式)

領域 No	1		2	
図				
	Wa=Wb		Wa=Wb	
[基本処理]	放射		放射	
端点	始点	終点	始点	終点
[適合]	境界線	放射	放射	境界線
端点処理	カットしない	1/2 カット	1/2 カット	カットしない
[測定点]	-	-	-	-
端点処理	-	-	-	-

10-4-3-2 道路高さ制限 (JCBA 方式)

領域 No	1-a		1-b			
図	適用距離 2Wa かつ 35m Wa 適用距離 Wa > Wb		適用距離 2Wa かつ 35m Wa 適用距離 Wa > Wb			
[基本処理]	基本		基本			
端点	グループ		グループ			
[適合] 端点処理	端領域を延長にセット		端領域を延長にセット			
[測定点] 端点処理	測定ライン作成方法(入隅側): 交点 測定ライン作成方法: 適合と敷地境界線の外側		測定ライン作成方法(入隅側): 分割 測定ライン作成方法: 適合と敷地境界線の外側			
領域 No	2		-			
図	適用距離 2Wa かつ 35m Wa 10m 適用距離					
[基本処理]	基本				-	
端点	始点	終点			始点	終点
[適合] 端点処理	延長	延長			-	-
[測定点] 端点処理	適合	適合			-	-

10-4-3-3 隣地高さ制限(東京方式)

領域 No	1		2	
図				
	放射		放射	
端点	始点	終点	始点	終点
[適合]	境界線	放射	放射	境界線
端点処理	カットしない	1/2 カット	1/2 カット	カットしない
[測定点]	-	-	-	-
端点処理	-	-	-	-

10-4-3-4 隣地高さ制限(JCBA 方式)

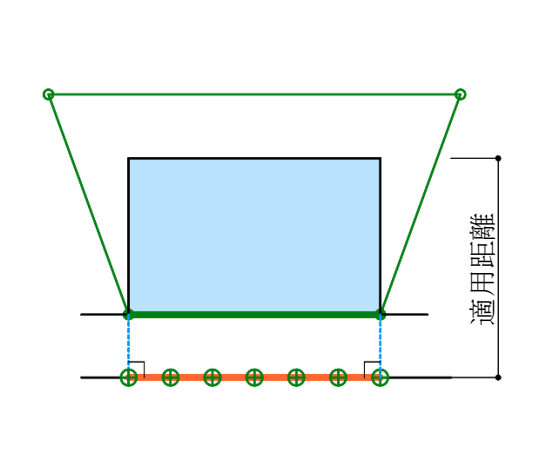
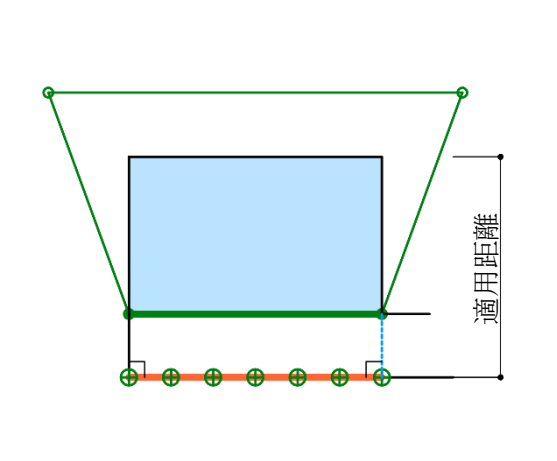
領域 No	1	2
図		
[基本処理]	基本	基本
端点	始点	終点
[適合]	境界線	延長
端点処理	カットしない	1/2 カット
[測定点]	境界線または適合	境界線
端点処理	境界線	境界線または適合

10-4-4 台形敷地における適合建築物と測定点の端点処理

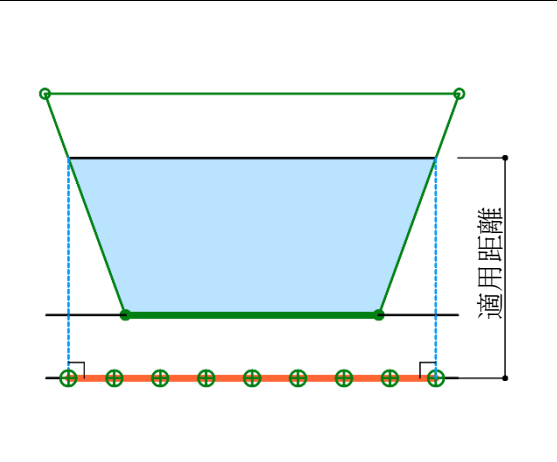
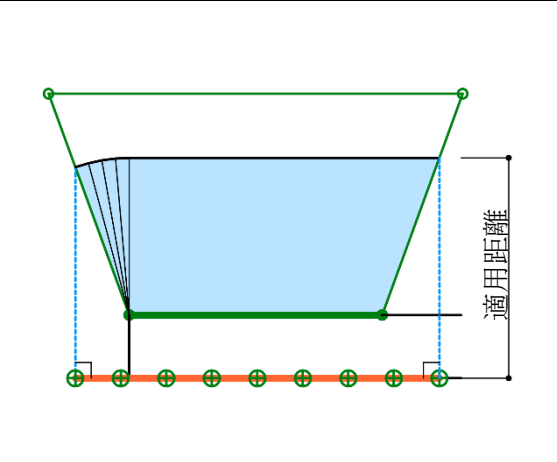
○本システムでの設定例です。

○実際の取り扱いは必ず審査機関に確認して下さい。

10-4-4-1 道路高さ制限(東京方式)

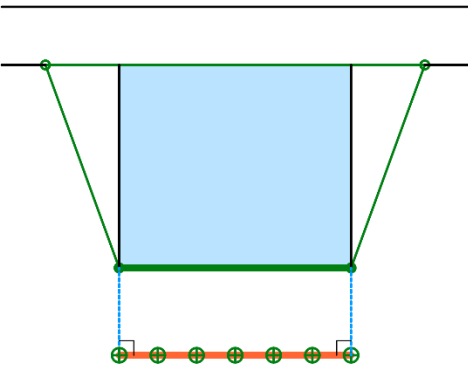
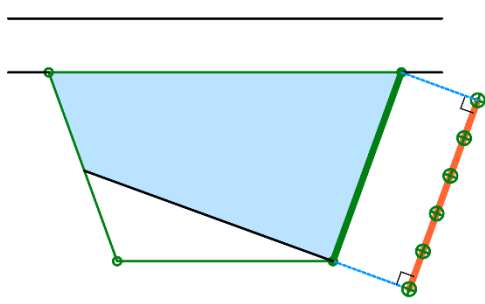
領域 No	1(道路が延長している場合)		1(道路が行き止まりの場合)	
図				
[基本処理]	基本		基本	
端点	始点	終点	始点	終点
[適合]	境界線	境界線	境界線	境界線
端点処理	カットしない	カットしない	カットしない	カットしない
[測定点]	境界線または適合	境界線または適合	境界線または適合	境界線または適合
端点処理	境界線または適合	境界線または適合	境界線または適合	境界線または適合

10-4-4-2 道路高さ制限(JCBA方式)

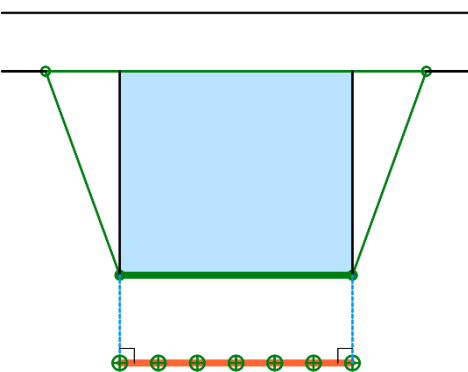
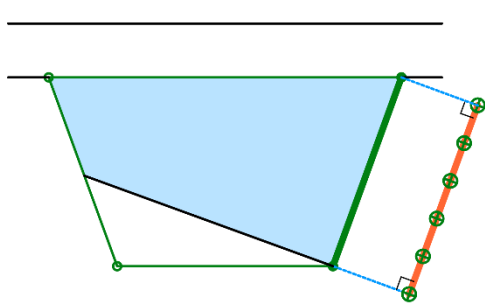
領域 No	1(道路が延長している場合)		1(道路が行き止まりの場合)	
図				
[基本処理]	基本		基本	
端点	始点	終点	始点	終点
[適合]	延長	延長	延長	境界線
端点処理	カットしない	カットしない	カットしない	カットしない
[測定点]	適合	適合	適合	適合
端点処理	適合	適合	適合	適合

端点処理				
------	--	--	--	--

10-4-4-3 隣地高さ制限(東京方式)

敷地形状				
領域 No	1		2	
図				
[基本処理]	基本		基本	
端点	始点	終点	始点	終点
[適合]	境界線	境界線	境界線	境界線
端点処理	カットしない	カットしない	カットしない	カットしない
[測定点] 端点処理	境界線または適合	境界線または適合	境界線または適合	境界線または適合

10-4-4-4 隣地高さ制限(JCBA方式)

領域 No	1		2	
図				
[基本処理]	基本		基本	
端点	始点	終点	始点	終点
[適合]	境界線	境界線	境界線	境界線
端点処理	カットしない	カットしない	カットしない	カットしない
[測定点] 端点処理	境界線または適合	境界線または適合	境界線または適合	境界線または適合

10-4-5 路地状敷地における適合建築物と測定点の端点処理

○本システムでの設定例です。

○実際の取り扱いは必ず審査機関に確認して下さい。

10-4-5-1 道路高さ制限(東京方式)

領域 No	1	
図		
[基本処理]	基本	
端点	始点	終点
[適合]	境界線	境界線
端点処理	カットしない	カットしない
[測定点]	境界線または適合	境界線または適合
端点処理		

10-4-5-2 道路高さ制限(JCBA 方式)

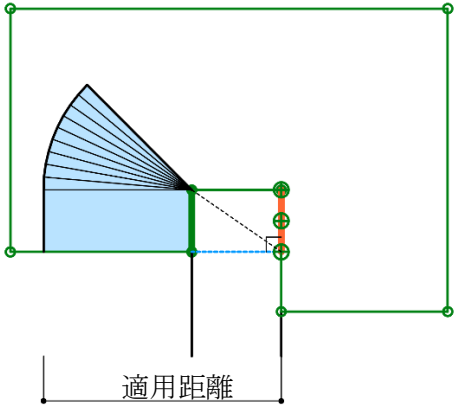
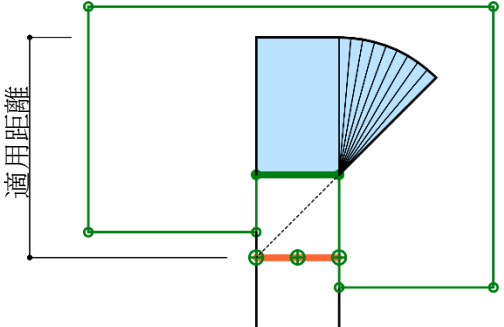
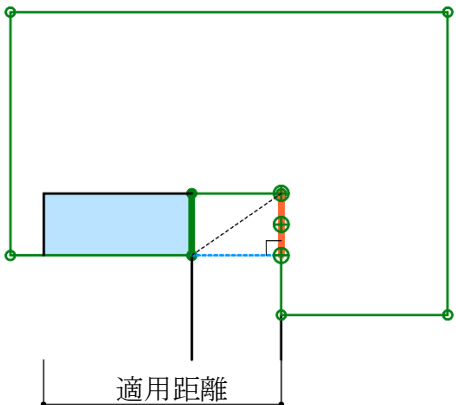
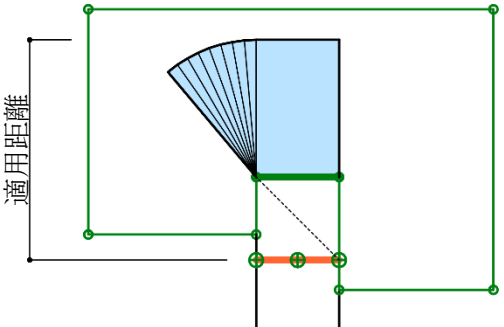
領域 No	1	
図		
[基本処理]	基本	
端点	始点	終点
[適合]	延長	延長
端点処理	カットしない	カットしない
[測定点]	適合	適合
端点処理		

10-4-6 行き止まり道路(両側敷地)における適合建築物と測定点の端点処理

○本システムでの設定例です。

○実際の取り扱いは必ず審査機関に確認して下さい。

10-4-6-1 道路高さ 制限(東京方式)

領域 No	1		2	
図				
				
[基本処理]	放射		放射	
端点	始点	終点	始点	終点
[適合]	境界線	放射	放射	放射
端点処理	カットしない	1/2 カット	1/2 カット	1/2 カット
[測定点]	境界線	-	-	-
端点処理				

領域 No	3		-	
図				
	[基本処理]	放射		-
端点	始点	終点	始点	終点
[適合]	放射	境界線	-	-
端点処理	1/2 カット	カットしない	-	-
[測定点]	-	境界線	-	-
端点処理				

10-4-6-2 道路高さ制限 (JCBA 方式)

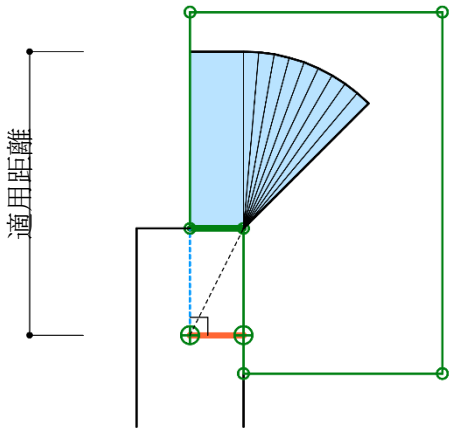
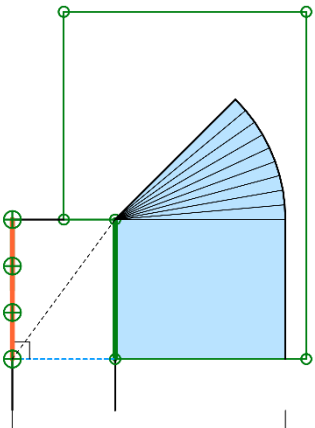
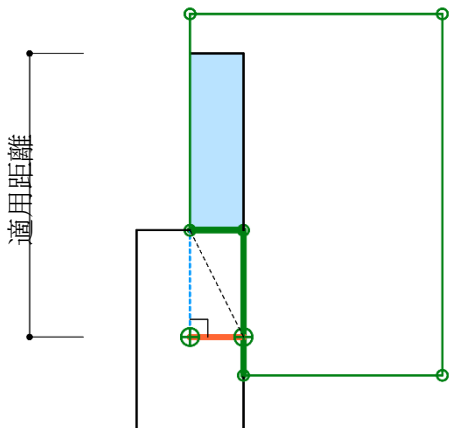
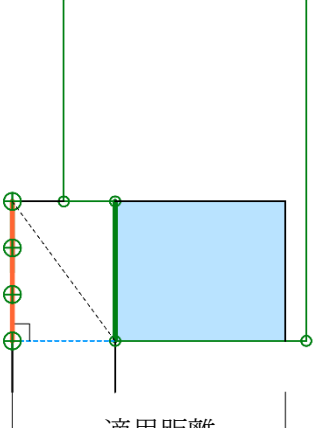
領域 No	1
図	
[基本処理]	基本
端点	グループ
[適合] 端点処理	端領域を延長にセット
[測定点] 端点処理	測定ライン作成方法(入隅側):分割 測定ライン作成方法:適合と敷地境界線の外側

10-4-7 行き止まり道路(片側敷地)における適合建築物と測定点の端点処理

○本システムでの設定例です。

○実際の取り扱いは必ず審査機関に確認して下さい。

10-4-7-1 道路高さ制限(東京方式)

領域 No	1		2	
図				
				
[基本処理]	放射		放射	
端点	始点	終点	始点	終点
[適合]	境界線	放射	放射	境界線
端点処理	カットしない	1/2 カット	1/2 カット	カットしない
[測定点]	境界線	-	-	境界線
端点処理	境界線	-	-	境界線

10-4-7-2 道路高さ制限 (JCBA 方式)

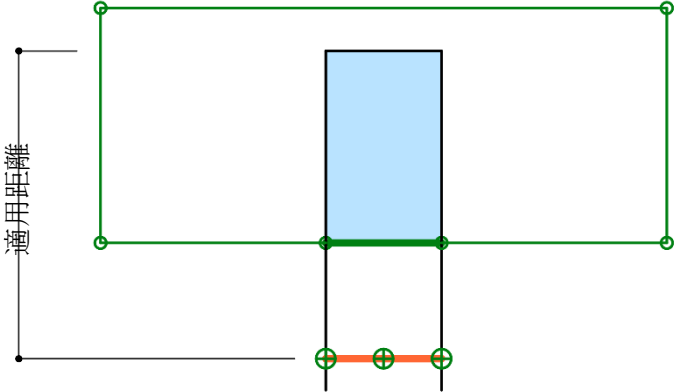
領域 No	1
図	制限高さ 適用距離
[基本処理]	基本
端点	グループ
[適合] 端点処理	端領域を延長にセット
[測定点] 端点処理	測定ライン作成方法(入隅側): 分割 測定ライン作成方法: 適合と敷地境界線の外側

10-4-8 行き止まり道路(突当り)における適合建築物と測定点の端点処理

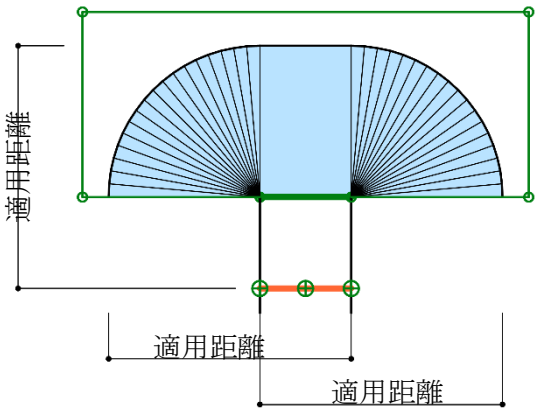
○本システムでの設定例です。

○実際の取り扱いは必ず審査機関に確認して下さい。

10-4-8-1 道路高さ制限(東京方式)

領域 No	1	
図		
[基本処理]	基本	
端点	始点	始点
[適合]	境界線	境界線
端点処理	カットしない	カットしない
[測定点]	境界線または適合	境界線または適合
端点処理	境界線または適合	境界線または適合

10-4-8-2 道路高さ制限(JCBA 方式)

領域 No	1	
図		
[基本処理]	基本	
端点	始点	始点
[適合]	延長	延長
端点処理	カットしない	カットしない
[測定点]	境界線	境界線
端点処理	境界線	境界線

10-4-9 各種条件設定

○天空率解析/簡易設定及び境界条件の「条件設定」ダイアログ、または環境設定/天空率タブより、各種処理条件の設定を行います。

②
③
④
⑦
⑧

①

条件設定

判定基準

◎

2.000 %

○

0.020 %

×

☐ 絶対高さでカットする

☐ 分割地盤のグループ化

☒ 求積図形ごとに丸目処理を行う

前面考慮：計画のみ

初期値に戻す

OK

キャンセル

⑤-2A処理

☒ 円弧

☐ 垂直

☐ 平行

⑥-令第132条処理

☐ 境界線単位区域わけ優先

☒ 敷地単位区域わけ優先

☒ 同一幅員で区域分けをしない

☒ 令第132条第3項の区域を幅員が大きい道路領域に表示しない

番号	項目	概要
①	判定基準	天空率の適否判定基準となる、天空率計算の計算 2 の「計-適」の差を設定します ※初期値は 2.000%と 0.020%です ※審査機関によって判定基準は異なる場合があります
		◎ 上部入力欄の数値を超える場合に表示します
		○ 下部入力欄の数値以上、上部入力欄の数値以下の場合に表示します
		× 下部入力値未満の場合に表示します
②	絶対高さでカットする	チェックを入れると、法 55 条による絶対高さ制限を適合建築物に適用します
③	分割地盤のグループ化	チェックを入れると、異なる地盤高の天空率算定領域を自動でグループ化します
④	求積図形ごとに丸目処理を行う	チェックを入れると、計算 2(求積計算)において、求積図形単位で小数点第 3 位の丸目処理を行います JCBA 方式に対応した求積計算を行う場合にチェックを入れます
⑤	2A 処理	令 132 条第 1 項及び第 2 項による最大幅員道路の回り込み処理を設定します
⑥	令 132 条処理	令 132 条及び令 134 条第 2 項による天空率算定領域の区域分けを設定します

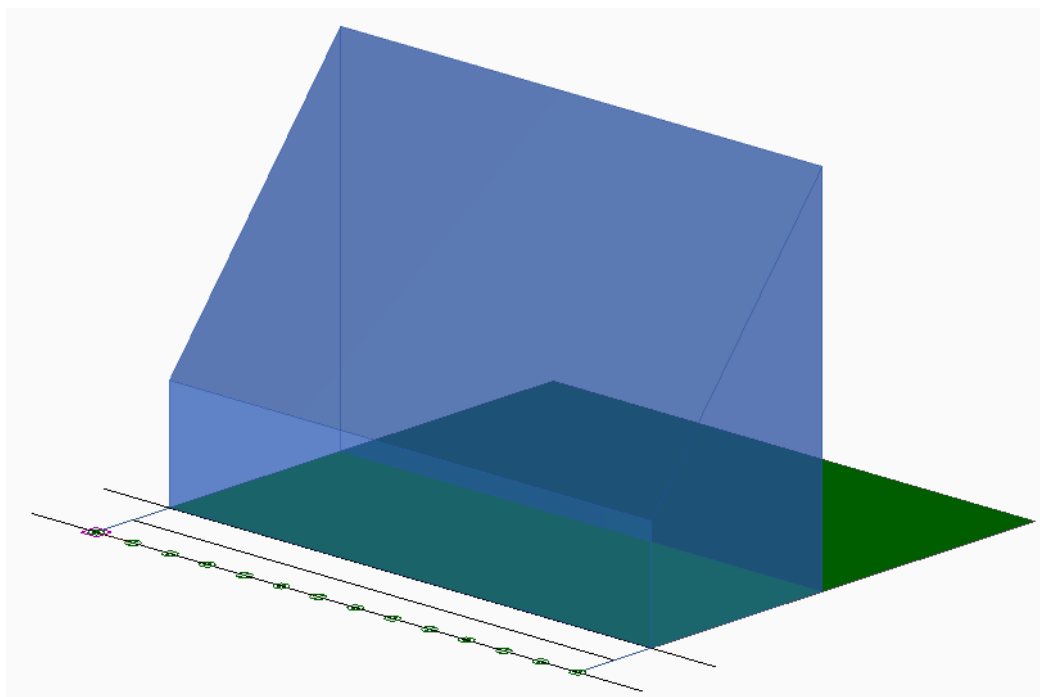
番号	項目	概要
⑦	前面考慮	道路斜線の天空率算定において、後退距離を手動設定した際に後退距離手前の建築物の算入の設定を行います 1) 壁面後退距離手前の建物ブロックの扱い(計画のみの扱い) 2) 道路が地盤よりも低い場合の壁面後退距離手前の地盤の扱い ※通常はデフォルトのまま
		無し
		1) 非算入
		2) 適合及び計画共、非算入
		適合・計画
		1) 算入
		2) 適合及び計画共、算入
		計画のみ
		1) 算入
		2) 計画のみ算入
⑧	初期値に戻す	全ての設定を初期値に戻します

10-4-10 絶対高さでカットする

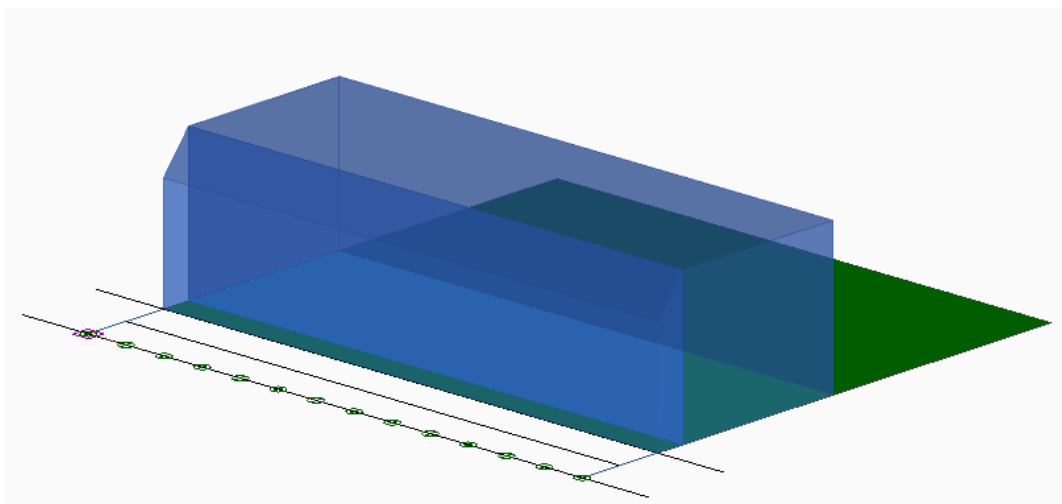
○用途地域が、第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、または田園住居地域の場合に、法 55 条による絶対高さ制限を道路斜線制限適合建築物及び北側斜線制限適合建築物に適用します。

○2020 年 10 月現在、天空率の規定である法 56 条第 7 項と、絶対高さ制限の規定である法 55 条の関連は規定されておらず、適合建築物に絶対高さ制限を適用する法的根拠はありませんので、適用の可否については審査機関に必ず確認して下さい。

10-4-10-1 「絶対高さでカットする」にチェック有



10-4-10-2 「絶対高さでカットする」にチェック無し

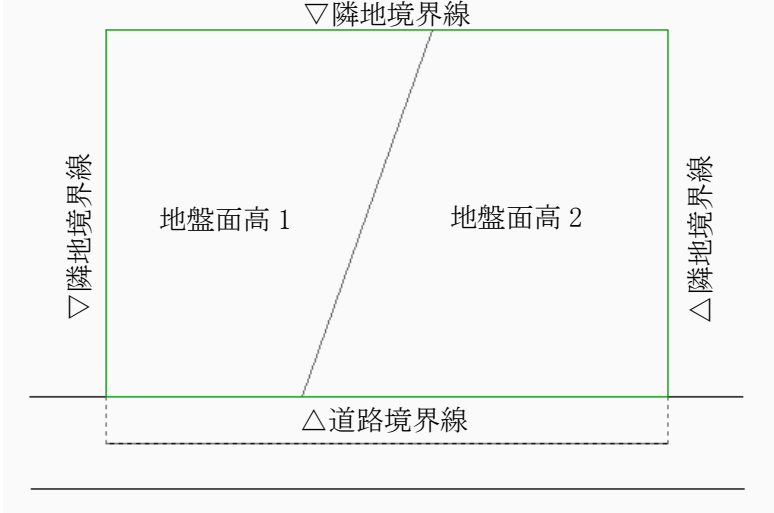
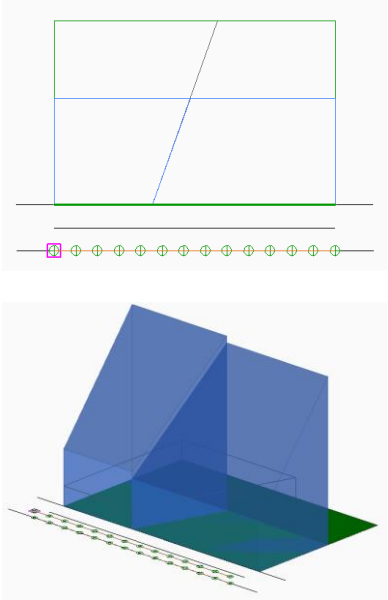
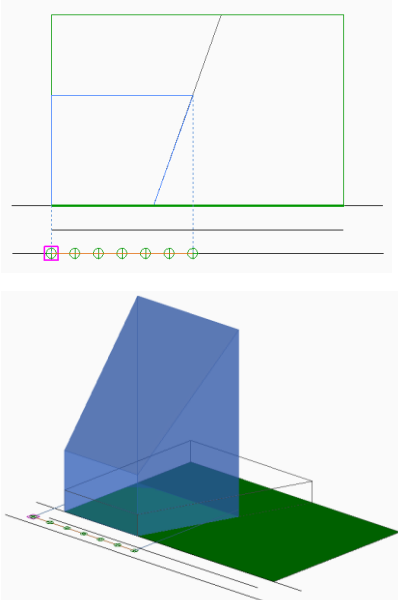
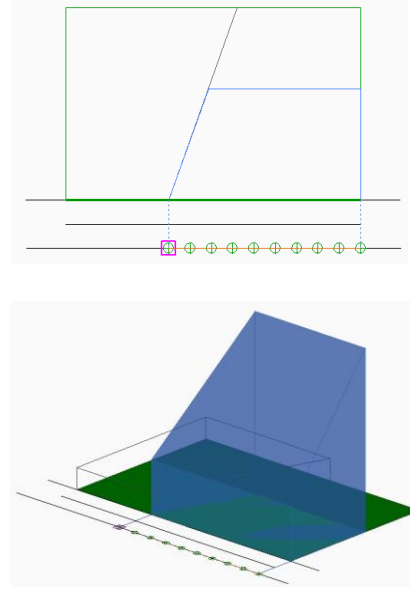


10-4-11 分割地盤のグループ化

○異なる地盤高の天空率算定領域を自動でグループ化します。

○複数の地盤面がある場合の道路斜線天空率の算定、高低差区分区域が適用されない場合の隣地斜線天空率及び北側斜線天空率の算定を行う場合にチェックを入れます。

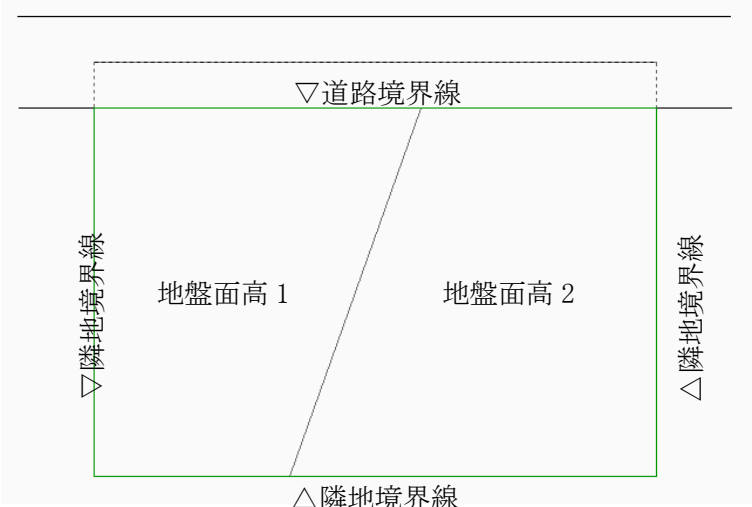
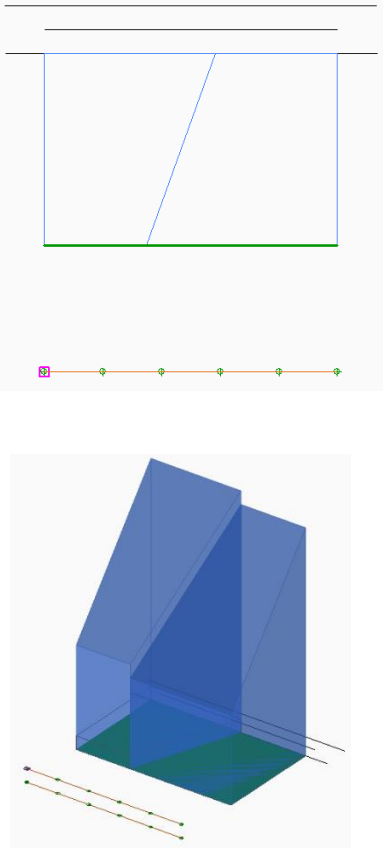
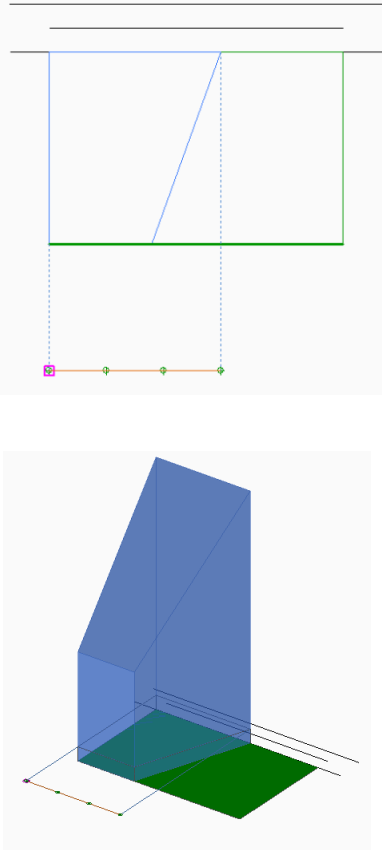
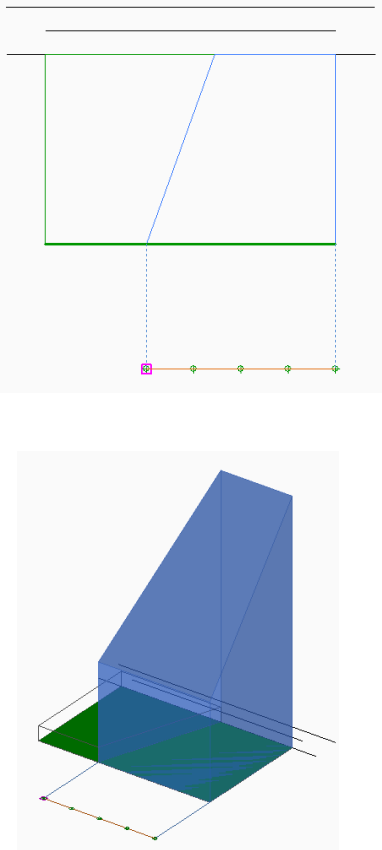
10-4-11-1 道路斜線制限の例 1

敷地形状		
		
「分割地盤のグループ化」		
チェック有	チェック無し	
天空率算定領域数:1	天空率算定領域数:2	
領域 1	領域 1	領域 2
		
測定ライン:2 段	測定ライン:1 段	

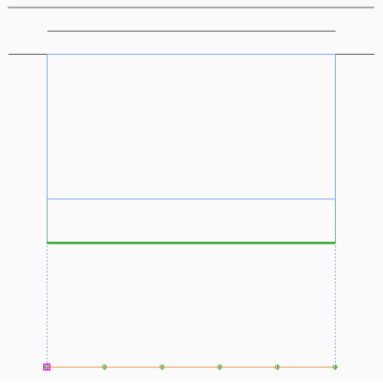
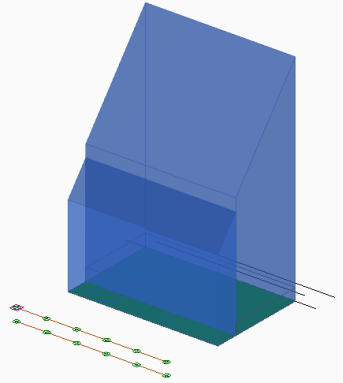
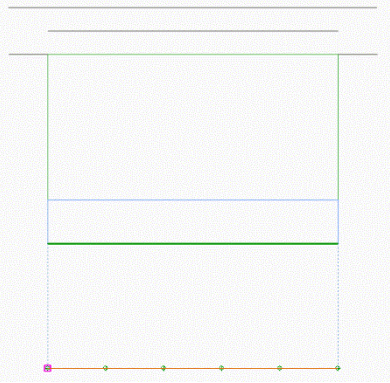
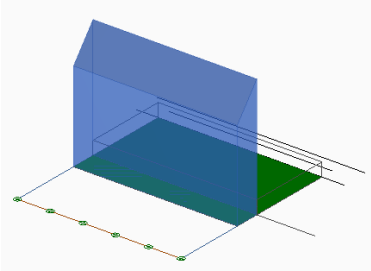
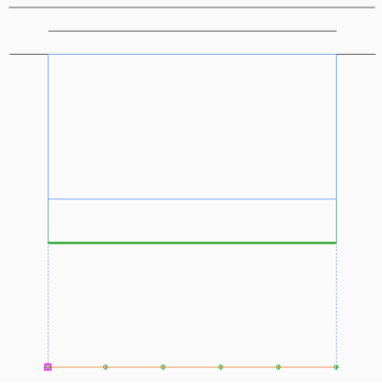
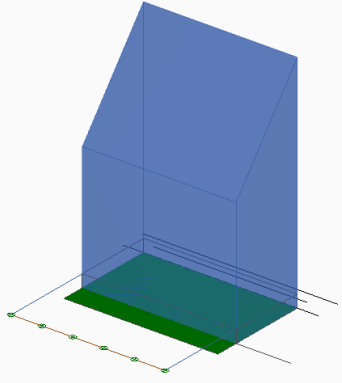
10-4-11-2 道路斜線制限の例 2

敷地形状		
「分割地盤のグループ化」		
チェック有	チェック無し	
天空率算定領域数:1	天空率算定領域数:2	
領域 1	領域 1	領域 2
測定ライン:2 段	測定ライン:1 段	

10-4-11-3 隣地斜線制限の例 1

敷地形状		
		
「分割地盤のグループ化」		
チェック有	チェック無し	
天空率算定領域数:1	天空率算定領域数:2	
領域 1	領域 1	領域 2
		
測定ライン:2 段	測定ライン:1 段	

10-4-11-4 隣地斜線制限の例 2

敷地形状		
		
「分割地盤のグループ化」		
チェック有	チェック無し	
天空率算定領域数:1	天空率算定領域数:2	
領域 1	領域 1	領域 2
 	 	 
測定ライン:2 段	測定ライン:1 段	

10-4-12 求積図形ごとに丸目処理を行う

○「建築確認のための基準総則・集団規定の適用事例 2017 年度版 第 2 章 6 天空率 安全率 (4) 計算過程における小数点以下の取り扱い」を適用した天空率三斜求積計算を行います。

○JCBA 方式に対応した天空率三斜求積計算です。

○全天空図の半径は 100mm で固定です。

○天空率の表記は、小数点以下 3 桁です。

○三斜求積図の「底辺」、「高さ」、「面積」、及び「天空率」を算出する各過程においても小数点以下 3 桁で端数処理を行い、端数処理した数値をそのまま次の計算に用います。

○端数処理の方法については、適合建築物は「切り上げ」、計画建築物は「切り捨て」です。

○求積表の見方については、「10-13-3 求積表の見方」を参照して下さい。

10-4-12-1 「求積図形ごとに丸目処理を行う」にチェック有

天空率三斜求積表[道路斜線]、半径=100mm

No=6 [計画建築物]

No	底辺[mm]	高さ[mm]	面積[mm ²]
S1	30.903	5.292	81.769
S2	31.787	3.955	62.858
S3	46.973	2.142	50.308
S4	50.000	8.156	203.899
S5	53.183	6.296	167.420
S6	51.046	5.725	146.119
S7	44.566	6.693	149.140
S8	38.545	6.018	115.981
S9	34.659	5.597	96.993
S10	32.235	5.366	86.486
S11	30.903	5.292	81.769
三斜：合計(S)			1242.742
F1	37.235 °		3249.352
F2	57.381 °		5007.415
扇形：合計(F)			8256.767
合計 (S1=F-S)			7014.025
天空図面積(S2)			31415.926
天空率((S2-S1) ÷ S2 × 100)			77.674%

10-4-12-2 「求積図形ごとに丸目処理を行う」にチェック無し

天空率三斜求積表[道路斜線]、半径=100mm、円の面積=31415.927mm²

No=6 [計画建築物]

No	底辺	高さ	面積	底辺[mm]	高さ[mm]	面積[mm ²]
S1	0.3090315	0.0529237	0.0163551	30.903	5.292	163.551
S2	0.3178723	0.0395560	0.0125737	31.787	3.956	125.737
S3	0.4697327	0.0214225	0.0100629	46.973	2.142	100.629
S4	0.5000000	0.0815682	0.0407841	50.000	8.157	407.841
S5	0.5318324	0.0629682	0.0334885	53.183	6.297	334.885
S6	0.5104643	0.0572506	0.0292244	51.046	5.725	292.244
S7	0.4456600	0.0669330	0.0298293	44.566	6.693	298.293
S8	0.3854515	0.0601864	0.0231989	38.545	6.019	231.989
S9	0.3465998	0.0559769	0.0194016	34.660	5.598	194.016
S10	0.3223583	0.0536628	0.0172986	32.236	5.366	172.986
S11	0.3090315	0.0529237	0.0163551	30.903	5.292	163.551
合計			0.2485723	2485.723		
合計 ÷ 2			0.1242862	1242.862		
三角形：合計 ÷ 2 ÷ π (S)			3.95615%			
F1	37.235 °		0.3249352	3249.352		
F2	57.381 °		0.5007416	5007.416		
扇形：合計			0.8256768	8256.768		
扇形：合計 ÷ π (F)			26.28211%			
合計 (=F-S)			22.32596%			
天空率			77.67404%	<(システム計算：77.67776%)		

10-4-13 2A 処理

○令 132 条第 1 項及び第 2 項の規定による回り込み処理を設定します。

○与条件設定の道路・交差点メニューにおいて設定した交差点状況に応じて設定を適用します。

設定	概要	2A 処理形状
円弧	2 つの道路境界線の交点を中心とした円弧状に 2A かつ 35m を適用します L 字型交差点の場合に有効です 本システムのデフォルト設定です	
垂直	幅員の小さい前面道路の道路境界線に垂直に 2A かつ 35m を適用します L 字型交差点の場合に有効です	
平行	幅員の大きい前面道路の道路境界線に平行に 2A かつ 35m を適用します T 字路または十字路で、幅員の大きい前面道路が延長する場合に有効です	

10-4-14 令 132 条処理

○令 132 条各項及び令 134 条第 2 項が適用される場合の天空率算定領域の区域分けを設定します。

令第132条処理

①

☐ 境界線単位区域分け優先

②

☒ 敷地単位区域分け優先

③

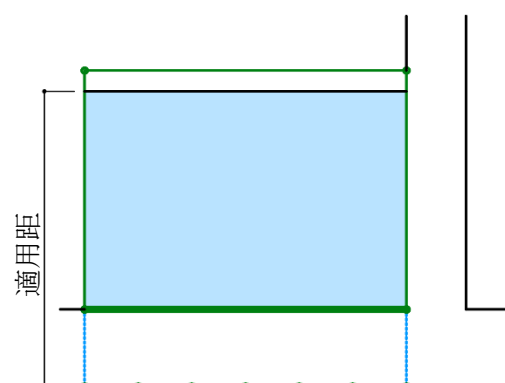
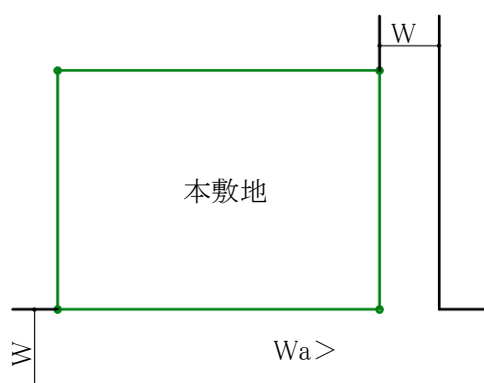
☒ 同一幅員で区域分けをしない

④

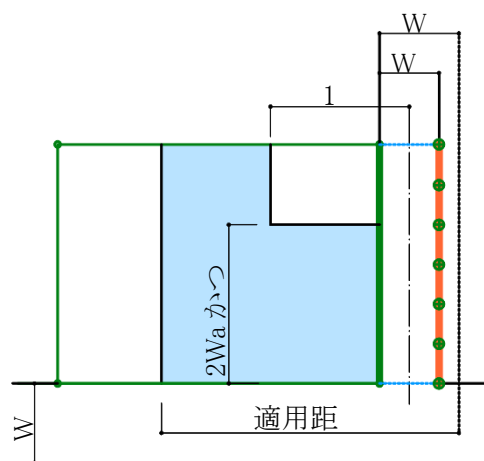
☒ 令第132条第3項の区域を幅員が大きい道路領域に表示しない

番号	項目	概要
①	境界線単位区域分け優先	各道路境界線単位で区分を判断し、天空率算定領域を作成します 任意の道路境界線の天空率算定領域は、他の道路境界線の区域の影響を考慮しません
②	敷地単位区域分け優先	敷地全体に対して、各道路境界線からの区分を判断し、各道路境界線単位に天空率算定領域を作成します 本システムのデフォルト設定です
③	同一幅員で区域分けをしない	「敷地単位区域分け優先」を選択した場合に選択可能です チェックを入れると、同一幅員の道路で天空率算定領域を区域分けしません
④	令 132 条第 3 項の区域を幅員が大きい道路領域に表示しない	「敷地単位区域分け優先」を選択した場合に選択可能です チェックを入れると、2 面以上の異なる幅員の道路が接道する場合に、幅員が大きい道路からの令 132 条第 3 項の区域を生成しません。

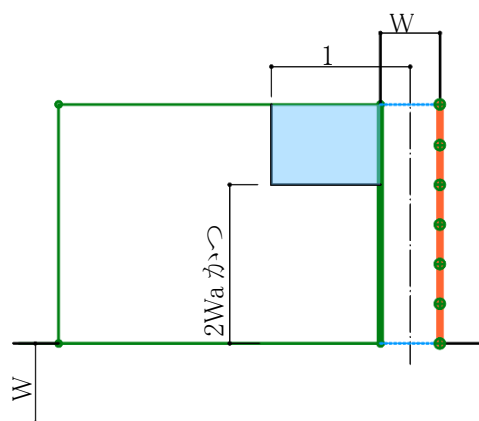
10-4-14-1 境界線単位区域分け優先を選択した場合の天空率算定領域の例



天空率算定領域 No1



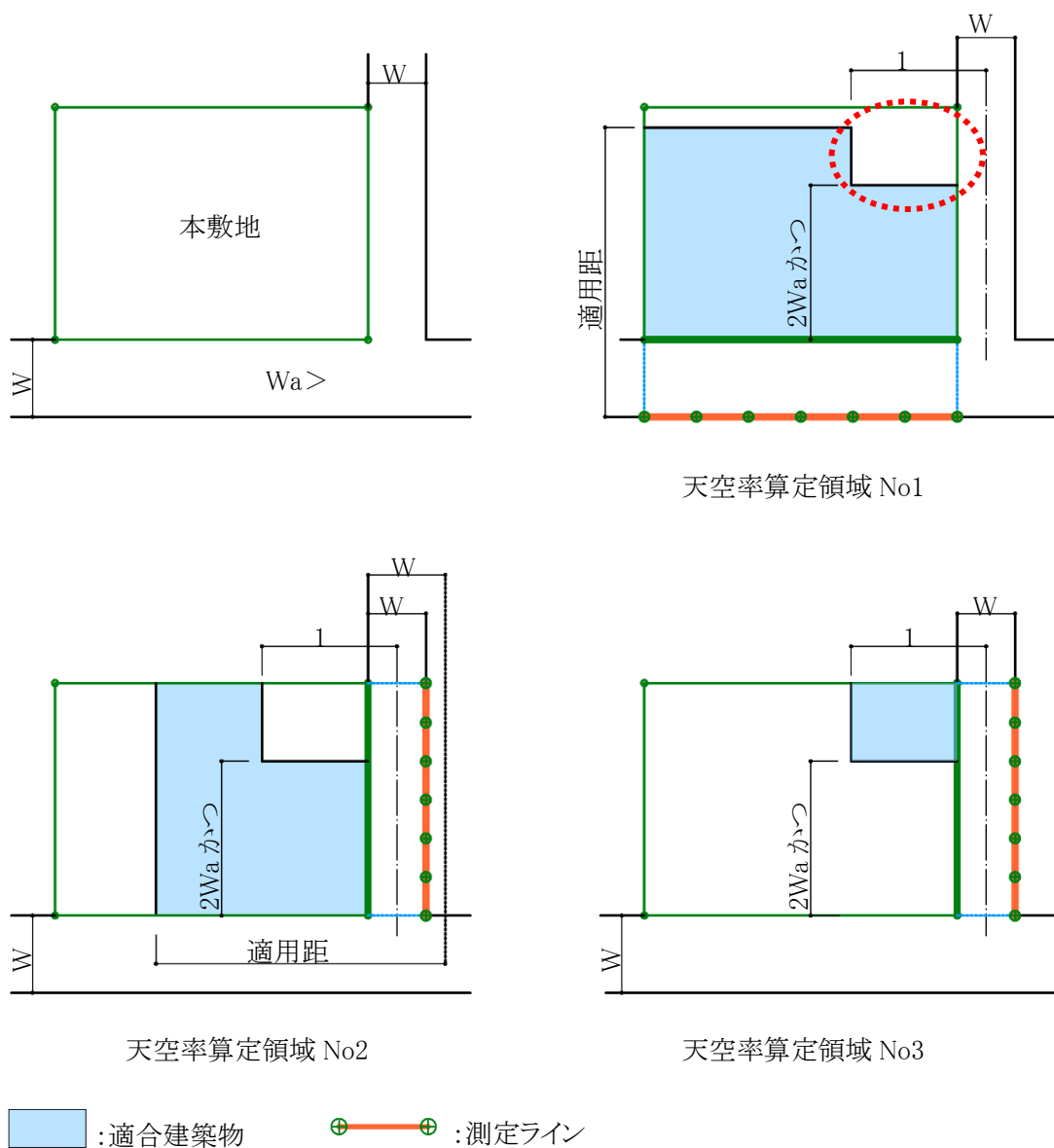
天空率算定領域 No2



天空率算定領域 No3

: 適合建築物
 : 測定ライン

10-4-14-2 敷地単位区域分け優先を選択した場合の天空率算定領域の例

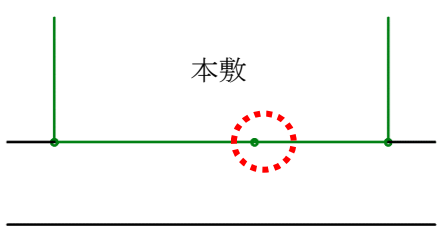


※現在、「敷地単位区分け優先」の適用が一般的です。

※「境界線単位区域分け優先」とは、天空率算定領域 No1 において W_b 道路側の天空率算定領域の取り方 (令 132 条第 3 項適用部分＝上図の破線の円部分) が異なります。

10-4-14-3 同一幅員で区域分けをしない

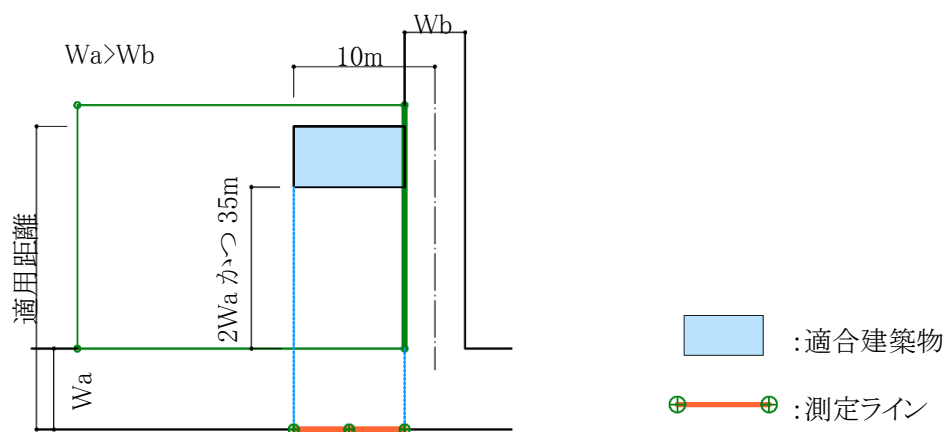
○チェックが必要なケースは下記の場合です。

一方向の道路境界線上に敷地境界点が存在する場合	
2 面接道敷地で接道している道路幅員が同じ場合	

※3 面以上の道路が接道する場合はチェックを入れると、適切に天空率算定領域が作成されない場合があります。3 面以上の道路が接道する場合はチェックを外し、手動でグループ設定等を行ってください。

10-4-14-4 令 132 条第 3 項の区域を幅員が大きい道路領域に表示しない

○チェックを入れると、10-4-11-2 の敷地において、下図の区域を表示しません。

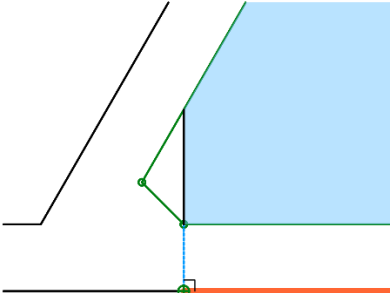
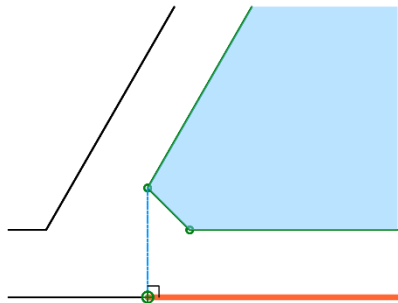
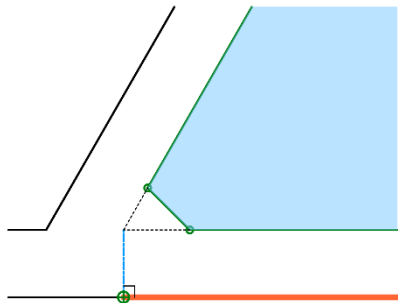
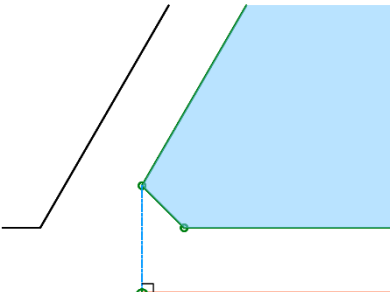


幅員が大きい道路 Wa からの、2Wa かつ 35m を超えた Wb 道路の中心から 10m 以内の区域

10-4-15 隅切りの設定

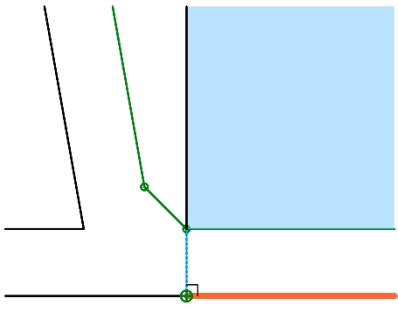
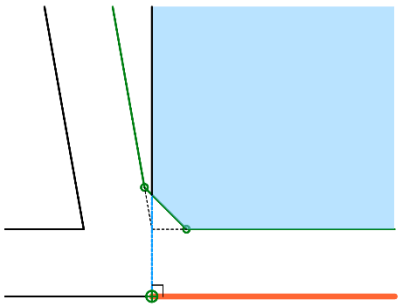
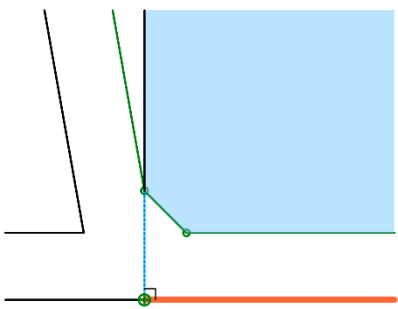
設定	概要
無	隅切り辺を考慮せず、測定ラインを生成します
延長	両側の道路境界線を延長した点を基点として測定ラインを生成します(デフォルト)
垂直	計算対象とは別の道路境界線の隅切り端点から、対象となる道路境界線に垂直に降ろした点を基点として測定ラインを生成します

10-4-15-1 隅切り部が鋭角の場合

		測定ライン端点処理	
		適合	境界線
入隅設定	無		
	延長		
	垂直		
凡例		 : 適合建築物    : 測定ライン	

※適合建築物端点処理が「境界線」の場合です。

10-4-15-2 隅切り部が鈍角の場合

		測定ライン端点処理	
		適合	境界線
入隅設定	無		
	延長		
	垂直		
凡例		 :適合建築物	 :測定ライン

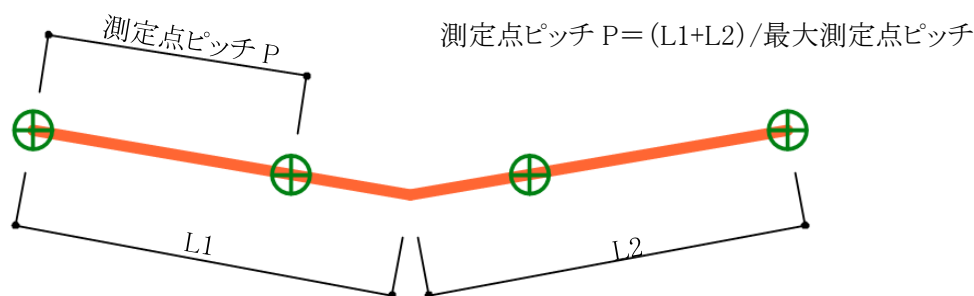
※適合建築物端点処理が「境界線」の場合です。

10-4-16 総延長

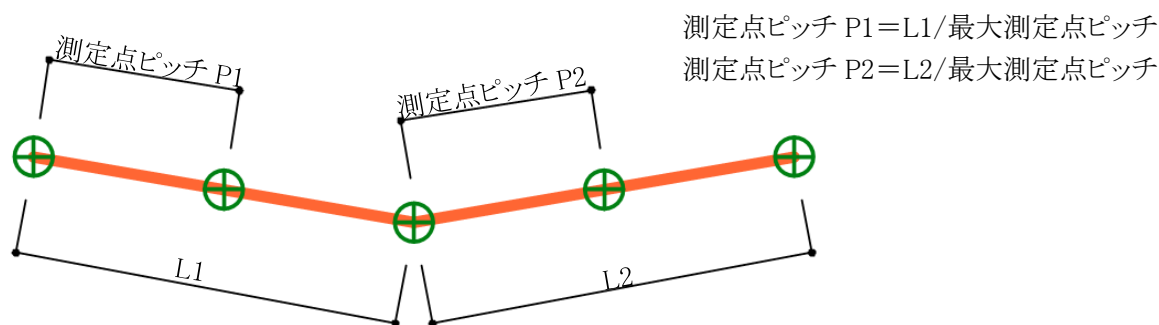
○測定ラインが複数の測定ラインから構成される場合の、測定点ピッチの算定の基準となる測定ラインの長さの設定です。

○総延長の設定を適用した場合、複数の測定ラインの総延長を基準に測定点ピッチを算定します。

10-4-16-1 「総延長」を適用した場合



10-4-16-2 「総延長」を適用しない場合



10-4-17 適合建築物の後退距離の設定

○適合建築物の後退距離の設定を3種類の設定方法から選択します。

○「簡易設定」または「境界条件」から設定可能です。

・後退距離の設定方法

適用しない	後退距離を適用せず、適合建築物を生成します
適用する。距離自動設定	本システムが自動判定した後退距離で適合建築物を生成します
適用する。距離手動設定	任意の後退距離で適合建築物を生成します 道路境界線の場合は、「距離」を設定します 隣地境界線の場合は、「距離 1」及び「距離 2」を設定します

10-4-18 前面考慮

○道路斜線の天空率算定において後退距離を考慮する場合の後退距離手前の建築物の扱いを設定します。

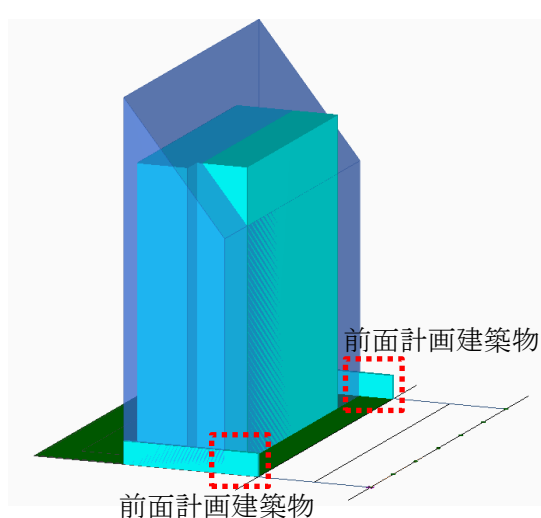
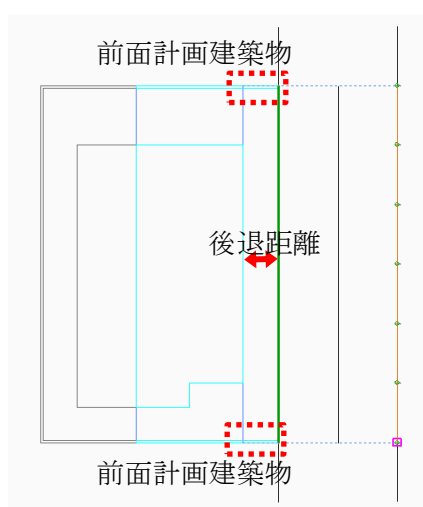
10-4-18-1 後退距離手前の建物

後退距離手前の建物ブロックを計画建築物として算入します

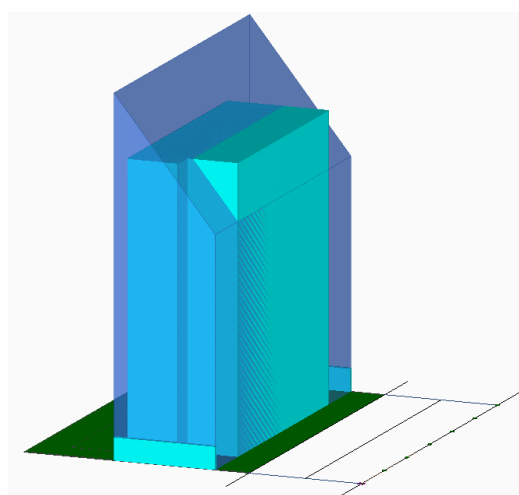
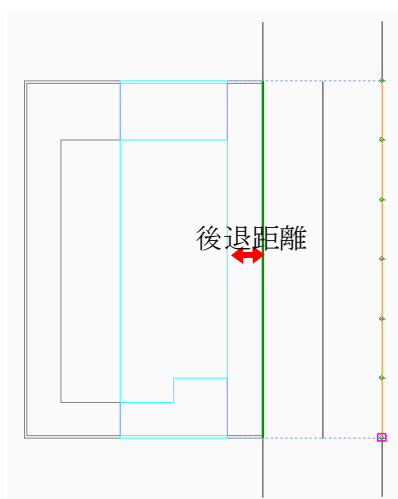
※本システムでは、後退距離を自動判定する際、建物の高さに依存することなく、全ての斜線計算対象ブロックの中で、各敷地境界線に一番近い斜線計算対象ブロックに対しての距離を判定します。

令 130 条の 12 に該当する後退距離の算定外の斜線計算対象ブロックが入力されている場合は、後退距離を手動設定の上、後退距離よりも前面の計画建物を考慮する必要があります。

※前面計画建物を考慮する場合



※前面計画建物を考慮しない場合

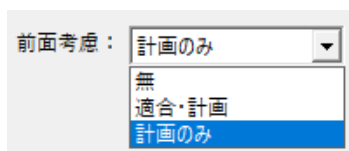


10-4-18-2 後退距離手前の地盤

前面道路が地盤面より低い場合、後退距離手前の地盤部分を建築物として扱うか設定します。

10-4-18-3 設定に関して

前面考慮の設定は、「後退距離手前の建築物」及び「後退距離手前の地盤」共通の設定となっています。



この設定は、
○天空率解析/簡易設定/条件設定
○天空率解析/境界条件/条件設定
○環境設定/天空率
内にあります。

※基本的には、「計画のみ」(デフォルト)で構いません。

項目	概要	
前面考慮	道路斜線の天空率算定において、後退距離を手動設定した際に後退距離手前の建築物の算入の設定を行います 1) 後退距離手前の建物ブロックの扱い(計画のみの扱い) 2) 道路が地盤よりも低い場合の壁面後退距離手前の地盤扱い	
	無し	1) 非算入
		2) 適合及び計画共、非算入
	適合・計画	1) 算入
		2) 適合及び計画共、算入
	計画のみ (デフォルト)	1) 算入
		2) 計画のみ算入

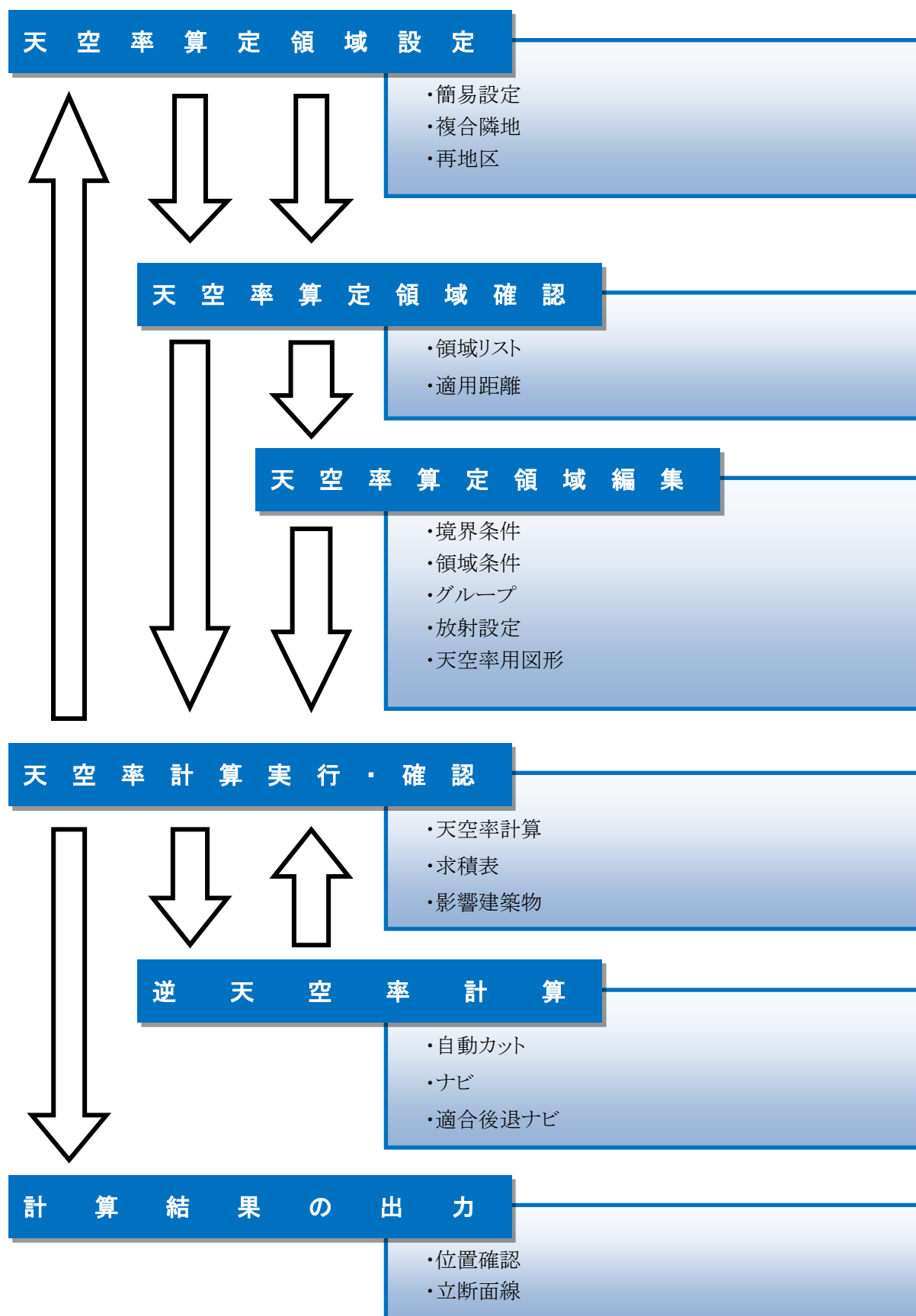
※10.00.039 版以前のデータは、「適合・計画」として認識されます。適宜「計画のみ」に変更する必要があります。

10-5 サブメニュー

○天空率解析のサブメニューです。

メニュー名	概要
簡易設定	天空率算定領域を自動生成します
境界条件	敷地境界線毎の天空率算定領域に関する条件を設定します
領域リスト	高さ制限の天空率算定領域をリスト表示します
領域条件	天空率算定領域における適合建築物及び測定点の生成方法を設定します
グループ	複数の天空率算定領域を、1 つにまとめます
天空率計算	天空率計算を実行し、計算結果を確認します
求積表	三斜求積表を表示します
位置確認	「水平投影位置確認表」を作成する為の位置指定をします
放射範囲	放射範囲を設定します
立断面線	立断面図を作成します
適用距離	天空率算定領域の道路高さ制限適用距離を表示します
影響建築物	適合建築物の高さを超える計画建築物の部分を表示します
複合隣地	複合隣地天空率算定領域を作成します
自動カット	計画建築物が天空率計算に適合するように自動でカットします
ナビ	計画建築物が天空率計算に適合する形状をシミュレーションします
適合後退ナビ	適合建築物の後退距離をシミュレーションします
再地区	再地区天空率算定領域を作成します

10-6 天空率解析のワークフロー



10-7 簡易設定

○天空率算定の各種設定を行い、天空率算定領域を自動生成します。

○各敷地境界線及び天空率算定領域の設定を一覧表示します。

○自動生成した適合建築物及び測定ラインの端部処理等は、天空率算定領域によっては実際の取扱いと異なる場合があります。各天空率算定領域の生成結果を必ず確認してください。

○各種設定内容は「10-4 本システムでの天空率算定領域設定」を参照して下さい。

プロパティ 作図線 測定 ステータス															
初期化		条件設定		北側斜線		道路境界線				更新		☒ 境界線表示 ☒ 領域表示		方式編集	
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
境界線		領域		基本処理		適合始点処理			適合終点処理			測定点始点処理		測定点終点処理	
No	No	入隅始点	入隅終点	基本	始点	距離	カット法	終点	距離	カット法	始点	距離	終点	距離	注
2		延長	掘削	基本	延長	0.000	カットしない	延長	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	
	1			基本	延長	0.000	カットしない	延長	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	
	2			基本	延長	0.000	カットしない	延長	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	
3		延長	延長	基本	延長	0.000	カットしない	延長	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	
	3			基本	延長	0.000	カットしない	延長	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	
⑳															
㉑															
㉒															
㉓															
㉔															
㉕															
㉖															
㉗															
㉘															
㉙															
㉚															
㉛															
㉜															
㉝															
㉞															
㉟															
㊱															
㊲															
㊳															
㊴															
㊵															
㊶															
㊷															
㊸															
㊹															
㊺															
㊻															
㊼															
㊽															
㊾															
㊿															

番号	項目	概要	天空率解析メニュー		
			境界条件	領域条件	領域リスト
①	初期化	全ての斜線制限の天空率算定領域を初期化します	○	-	-
②	条件設定	各種処理条件を設定します	○	-	-
③	北側斜線	北側高さ制限(法 56 条第 1 項第三号)の領域を生成します	-	△	△
④	境界線選択	天空率算定領域を生成する敷地境界線を選択します	-	-	-
⑤	方式選択	天空率算定領域の自動生成を行う方式を選択します	-	-	-
⑥	更新	選択した方式で天空率算定領域を自動生成します。	○	-	-
⑦	境界線表示	チェックを入れると、境界線の情報を青色の背景色で表示します	-	-	-
⑧	領域表示	チェックを入れると、天空率算定領域の情報を白色の背景色で表示します	-	-	-
⑨	方式編集	各方式の天空率算定領域自動生成条件を設定します	-	-	-
⑩	境界線	No	-	△	△

番号	項目		概要	天空率解析メニュー		
				境界条件	領域条件	領域リスト
⑪	領域	No	天空率算定領域の No を表示します	△	△	△
⑫	基本処理	入隅始点	適合建築物の始点形状を設定します	○	-	-
		入隅終点	適合建築物の終点形状を設定します	○	-	-
		基本	天空率算定領域の基本処理を設定します	-	○	△
⑬	適合始点処理	始点	適合建築物範囲の始点端点処理を設定します	-	○	△
		距離	上記で「任意」を選択した場合に距離を指定します	-	○	-
		カット法	適合建築物範囲始点のカット法を設定します	-	○	-
⑭	適合終点処理	終点	適合建築物範囲の終点端点処理を設定します	-	○	△
		距離	上記で「任意」を選択した場合に距離を指定します	-	○	-
		カット法	適合建築物範囲終点のカット法を設定します	-	○	-
⑮	測定点始点処理	始点	測定点の始点端点処理を設定します	-	○	△
		距離	上記で「任意」を選択した場合に距離を指定します	-	○	-
⑯	測定点終点処理	終点	測定点の終点端点処理を設定します	-	○	△
		距離	上記で「任意」を選択した場合に距離を指定します	-	○	-
⑰		総延長	チェックを入れると、測定点ピッチの算定の基準を測定ラインの総延長とします 「10-4-13 総延長」を参照して下さい	-	○	-
		ピッチ	測定点ピッチを表示します	-	△	△
		No 表示	チェックを入れると、生成される天空率算定領域の測定点番号を表示します	-	○	-
⑱	後退距離	建物後退	後退距離の適用又は非適用、適用する場合は本システムによる自動判定又は手動設定を選択します 「10-4-14 適合建築物の後退距離の設定」を参照して下さい	○	△	△
		距離	道路高さ制限における後退距離を設定します	○	△	-
		距離 1	立ち上がり高さが 20m の場合の隣地高さ制限における後退距離を設定します	○	△	-
		距離 2	立ち上がり高さが 31m の場合の隣地高さ制限における後退距離を設定します	○	△	-
⑲		グループ	グループ No を設定します	△	△	△
		種別	領域の生成方法を表示します	-	-	△
		道路幅員	「採用道路幅員/法 56 条第 6 項による道路幅員」を表示します	-	△	△
		用途/容積	用途地域及び適用容積率を表示します	-	△	△
		適用距離	道路高さ制限適用距離を表示します	-	△	△
		地盤高	地盤高を表示します	-	△	△

番号	項目	概要	天空率解析メニュー		
			境界条件	領域条件	領域リスト
⑳	天空率算定領域リスト	境界線及び天空率算定領域の設定を表示します	-	-	○

凡例 ○:設定可能 △:表示のみ -:項目なし

10-7-1 天空率算定領域を生成する

○天空率算定領域の自動生成を行う方式を選択します。

○「東京方式」または「JCBA 方式」より選択します。必ずどちらかの方式を選択してください。

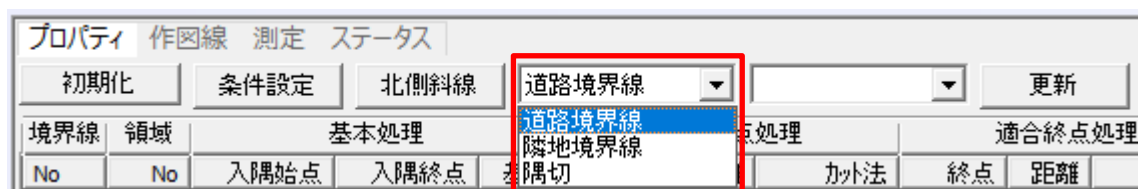
○「方式編集」の設定に従って、境界線条件を設定します。

※方式選択・更新後、天空率算定領域を編集した場合は、方式選択・更新を行わないでください。

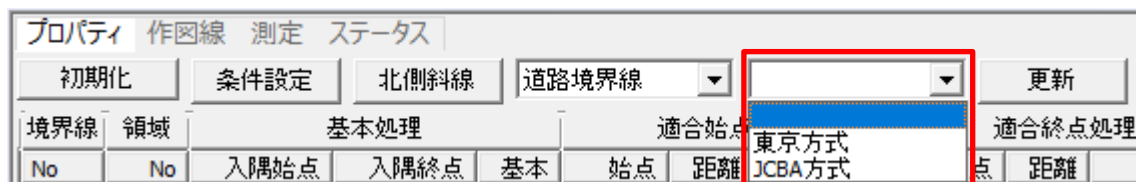
再度方式選択・更新を行うと、天空率算定領域が更新される為、再編集を行う必要があります。

[操作手順]

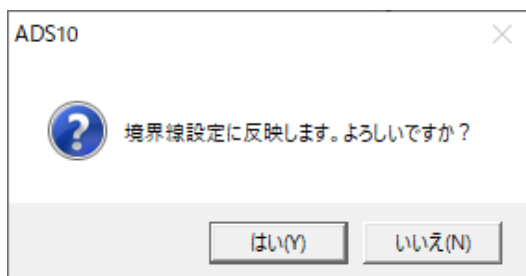
1) 「斜線制限選択」プルダウンメニューより、天空率算定領域を生成する斜線制限を選択します。



2) 「方式選択」プルダウンメニューより、天空率算定領域を生成する方式を選択します。



3) 確認ダイアログが開きます。



4) 「はい」を選択します。

5) 必要に応じて、敷地境界線の各項目を選択します。

6) 「更新」を選択します。

The screenshot shows the top menu bar with 'プロパティ', '作図線', '測定', and 'ステータス'. Below it are buttons for '初期化', '条件設定', '北側斜線', and a dropdown for '道路境界線'. To the right is a dropdown for 'JCBA方式' and a button for '更新' which is highlighted with a red box. Below these are tabs for '境界線', '領域', '基本処理', '適合始点処理', and '適合終点処理'.

7) 天空率算定領域が自動生成され、「天空率算定領域リスト」に表示されます。

10-7-1-1 天空率算定領域生成前の天空率算定領域リスト

- 天空率算定領域生成前は境界線のみが表示されます。
- 水色背景の行が境界線の情報を示します。

プロパティ

作図線

測定

ステータス

初期化

条件設定

北側斜線

道路境界線

JCBA方式

更新

境界線表示

領域表示

方式編集

境界線	領域	基本処理				適合始点処理			適合終点処理			測定点始点処理		測定点終点処理	
No	No	入隅始点	入隅終点	基本	始点	距離	カット法	終点	距離	カット法	始点	距離	終点	距離	
2		延長	播針	基本	延長	0.000	カットしない	延長	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	
3		延長	延長	基本	延長	0.000	カットしない	延長	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	

10-7-1-2 天空率算定領域生成後の天空率算定領域リスト

- 天空率算定領域生成後は境界線に加え、境界線から生成される天空率算定領域が表示されます。
- 白色背景の行が天空率算定領域の情報を示します。

プロパティ

作図線

測定

ステータス

初期化

条件設定

北側斜線

道路境界線

JCBA方式

更新

境界線表示

領域表示

方式編集

境界線	領域	基本処理			適合始点処理			適合終点処理			測定点始点処理		測定点終点処理	
No	No	入隅始点	入隅終点	基本	始点	距離	カット法	終点	距離	カット法	始点	距離	終点	距離
2		延長	播針	基本	延長	0.000	カットしない	延長	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000
	1			基本	延長	0.000	カットしない	延長	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000
	2			基本	延長	0.000	カットしない	延長	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000
3		延長	延長	基本	延長	0.000	カットしない	延長	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000
	3			基本	延長	0.000	カットしない	延長	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000

10-7-1-3 「方式選択」プルダウンメニューの表示について

※更新後に、再度本メニュー選択した場合、「方式選択」プルダウンメニューは空欄になります。

プロパティ 作図線 測定 ステータス												
初期化		条件設定		北側斜線		道路境界線				更新		
境界線		領域		基本処理			適合始点処理			適合終点処理		
No	No	入隅始点	入隅終点	基本	始点	距離	カット法	終点	距離			
2		延長	延長	基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	加		
	1			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	加		
	2			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	加		
3		延長	延長	基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	加		
	3			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	加		

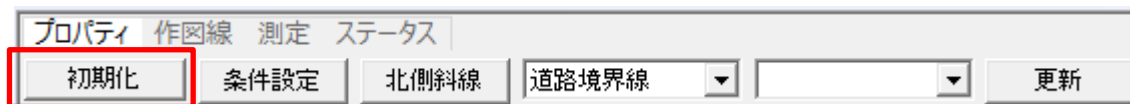
10-7-2 天空算定領域を初期化する

○全ての斜線制限の天空率算定領域を初期化します。

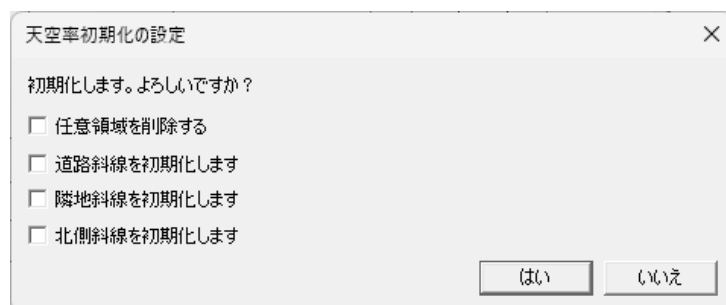
○一度天空率解析を行った後、天空率解析に必要な与条件及び建物の変更があった場合は、自動的に初期化されますので、本コマンドの選択は不要です。

[操作手順]

1) 「初期化」を選択します。



2) 確認ダイアログが開きます。



※初期化したい項目にチェックを入れます。

※「任意領域」とは「天空率解析/領域リスト」の種別欄が「自動」以外の領域を指します

プロパティ 作図線 測定 ステータス					
道路斜線		領域作成	領域複写		
No	境界	種別	基本	グループ	適合
1		再地区	基本		境界線ー境
2		任意	基本		境界線ー境
3	4	自動	基本	1	1/2カット
4	4	自動	基本	2	1/2カット

プロパティ 作図線 測定 ステータス					
隣地斜線		領域作成	領域複写		
No	境界	種別	基本	グループ	適合
1		複合隣地	基本		境界線ー境
2		複合隣地	基本		境界線ー境
3		任意	基本		境界線ー境
4	1	自動	基本	1	1/2カット
5	1	自動	基本	2	1/2カット

3) 「はい」を選択します。

10-7-3 各種処理条件を設定する

○「条件設定」ダイアログで各種処理条件の設定を行います。

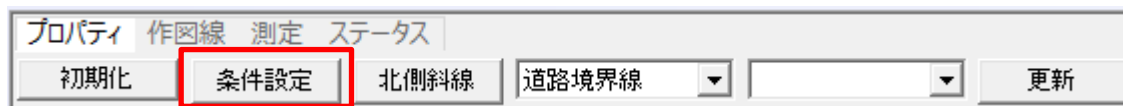
○各種処理条件の設定は、「10-4-9 各種条件設定」を参照して下さい。

○「更新」選択時に、各種処理条件の設定を反映した天空率算定領域を生成します。

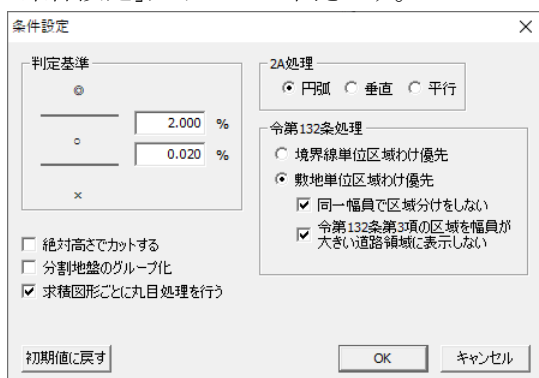
※設定の変更は自動的に反映されません。設定を変更した場合は必ず「更新」を選択して下さい。

[操作手順]

- 1) 「条件設定」を選択します。



- 2) 「条件設定」ダイアログが開きます。



- 3) 各種処理条件を設定します。

- 4) 「OK」を選択します。

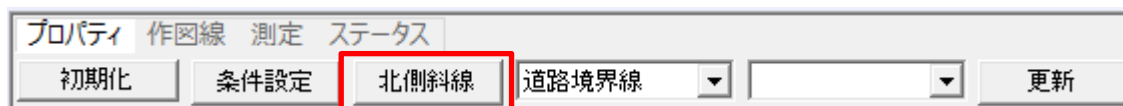
10-7-4 北側斜線天空率算定領域を生成する

○北側高さ制限の天空率算定領域を生成します。

※第1種中高層住居専用地域及び第2種中高層住居専用地域で日影規制を設定した場合は生成されません。(法56条第1項第三号かつこ書)

[操作手順]

- 1) 「北側斜線」を選択します。



※「簡易設定」メニューでは「天空率算定領域リスト」に北側斜線天空率算定領域を表示しません。
「領域リスト」メニューで必ず確認を行ってください。

10-7-5 各方式の条件を編集する

○東京方式及び JCBA 方式の天空率算定領域自動生成条件を設定します。

○「更新」選択時に、選択した方式の条件の設定を反映した天空率算定領域を生成します。

※設定の変更は自動的に反映されません。設定を変更した場合は必ず「更新」を選択して下さい。

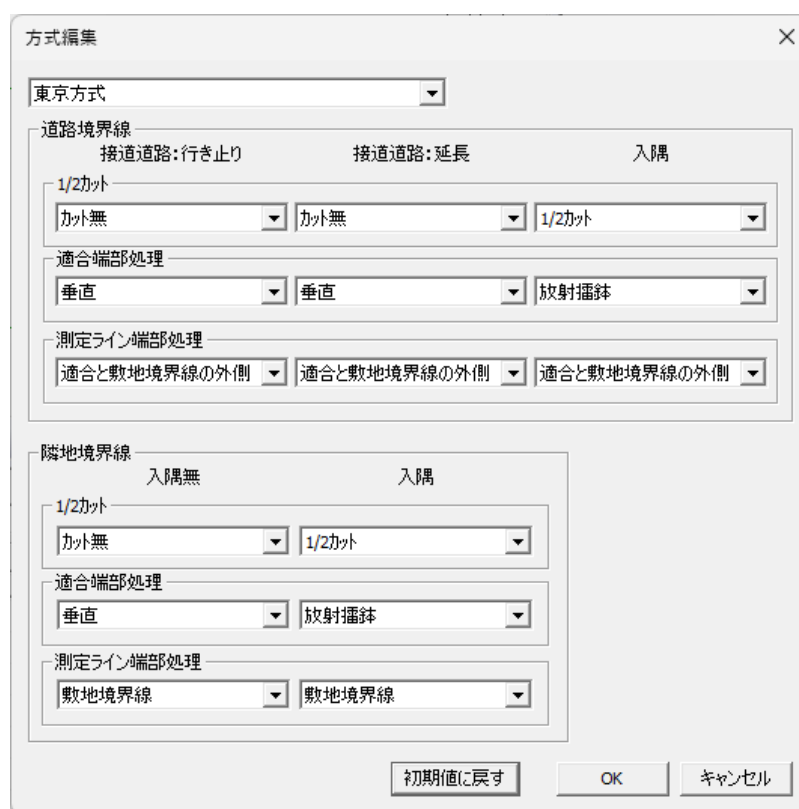
[操作手順]

1) 「方式編集」を選択します。



The screenshot shows a software interface with a dropdown menu set to '道路境界線' (Road Boundary Line). To its right is an empty dropdown. Further right is a button labeled '更新' (Update). To the right of the '更新' button are two checked checkboxes: '境界線表示' (Boundary Line Display) and '領域表示' (Area Display). The '方式編集' (Edit Method) button is highlighted with a red rectangular box.

2) 「方式編集」ダイアログが開きます



The screenshot shows the '方式編集' (Edit Method) dialog box. At the top, there is a dropdown menu set to '東京方式' (Tokyo Method). Below it, the '道路境界線' (Road Boundary Line) section is expanded, showing three sub-sections: '接道道路:行き止り' (Access Road: Dead End), '接道道路:延長' (Access Road: Extension), and '入隅' (Inner Corner). Each sub-section has a '1/2カット' (1/2 Cut) dropdown menu. The '接道道路:行き止り' and '接道道路:延長' sections have 'カット無' (No Cut) selected, while the '入隅' section has '1/2カット' (1/2 Cut) selected. Below these are '適合端部処理' (Fit End Processing) and '測定ライン端部処理' (Measurement Line End Processing) sections, each with three dropdown menus. The '適合端部処理' section has '垂直' (Vertical) selected for the first two and '放射播鉢' (Radial Spreader) for the third. The '測定ライン端部処理' section has '適合と敷地境界線の外側' (Outside of Fit and Site Boundary Line) selected for all three. The '隣地境界線' (Neighboring Land Boundary Line) section is also expanded, showing '入隅無' (Inner Corner None) and '入隅' (Inner Corner) sub-sections. The '入隅' sub-section has a '1/2カット' (1/2 Cut) dropdown menu set to '1/2カット' (1/2 Cut). Below this are '適合端部処理' (Fit End Processing) and '測定ライン端部処理' (Measurement Line End Processing) sections, each with two dropdown menus. The '適合端部処理' section has '垂直' (Vertical) and '放射播鉢' (Radial Spreader) selected. The '測定ライン端部処理' section has '敷地境界線' (Site Boundary Line) and '敷地境界線' (Site Boundary Line) selected. At the bottom of the dialog box are three buttons: '初期値に戻す' (Reset to Initial Value), 'OK', and 'キャンセル' (Cancel).

3) 各設定を行います。

4) 「OK」を選択します。

10-7-5-1 「方式編集」ダイアログ

・東京方式

方式編集

① 東京方式

道路境界線

接道道路:行き止り 接道道路:延長 入隅

② 1/2カット

③ カット無 カット無 1/2カット

適合端部処理

③ 垂直 垂直 放射挿鉢

④ 測定ライン端部処理

適合と敷地境界線の外側 適合と敷地境界線の外側 適合と敷地境界線の外側

隣地境界線

入隅無 入隅

② 1/2カット

③ カット無 1/2カット

適合端部処理

③ 垂直 放射挿鉢

④ 測定ライン端部処理

敷地境界線 敷地境界線

⑤ 初期値に戻す OK キャンセル

・JCBA 方式

方式編集

① JCBA方式

道路境界線

接道道路:行き止り 接道道路:延長 入隅

② 1/2カット

③ カット無 カット無 カット無

適合端部処理

③ 延長挿鉢 延長平行 延長挿鉢

④ 測定ライン端部処理

適合と敷地境界線の外側 適合と敷地境界線の外側 適合と敷地境界線の外側

隣地境界線

入隅無 入隅

② 1/2カット

③ カット無 1/2カット

適合端部処理

③ 垂直 延長挿鉢

④ 測定ライン端部処理

敷地境界線 敷地境界線

初期値に戻す OK キャンセル

番号	項目名	概要	
①	方式選択	条件を編集する方式を選択します	
②	1/2 カット	適合建築物範囲の端部処理を設定します	
		1/2 カット	適合建築物範囲の端部処理を「延長」または「放射」に設定している場合に、適合建築物の端部を敷地内角の1/2の範囲を最大としてカットします
		カット無	適合建築物の端部のカットを行いません
③	適合端部処理	適合建築物の端部処理を設定します	
		垂直	道路境界線端部に垂直な位置までを適合建築物の範囲とします
		延長平行	適合建築物の生成対象とする敷地境界線に対して、他の敷地境界線が鈍角の場合、同一の斜線勾配で適合建築物を平行に延長します
		延長擂鉢	適合建築物の生成対象とする敷地境界線に対して、他の敷地境界線が鈍角の場合、生成対象とする敷地境界線端部から、適合建築物を擂鉢状に延長します
		放射	放射設定を行います
④	測定ライン端部処理	測定ラインの端部処理を設定します	
		適合	適合建築物の端部に合わせます
		敷地境界線	敷地境界線の端部に合わせます
		適合と敷地境界線の外側	適合建築物と敷地境界線の何れかで外側の幅に合わせます。
⑧	初期値に戻す	全ての設定を初期値に戻します	

10-7-6 境界線を天空率算定領域リストに表示する

[操作手順]

- 1) 「境界線表示」にチェックを入れます。

プロパティ 作図線 測定 ステータス

初期化 条件設定 北側斜線 道路境界線 更新 ☒ 境界線表示 ☒ 領域表示

・チェック有

プロパティ 作図線 測定 ステータス

初期化 条件設定 北側斜線 道路境界線 更新 ☒ 境界線表示 ☒ 領域表示

境界線	領域	基本処理			適合始点処理			適合終点処理			測定点始点処理		測
No	No	入隅始点	入隅終点	基本	始点	距離	カット法	終点	距離	カット法	始点	距離	
2		延長	延長	基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	
	1			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	
	2			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	
3		延長	延長	基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	
	3			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	

・チェック無し

プロパティ 作図線 測定 ステータス

初期化 条件設定 北側斜線 道路境界線 更新 ☐ 境界線表示 ☒ 領域表示

境界線	領域	基本処理			適合始点処理			適合終点処理			測定点始点処理		測
No	No	入隅始点	入隅終点	基本	始点	距離	カット法	終点	距離	カット法	始点	距離	
	1			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	
	2			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	
	3			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	

10-7-7 天空率算定領域を天空率算定領域リストに表示する

[操作手順]

- 1) 「領域表示」にチェックを入れます。

プロパティ 作図線 測定 ステータス

初期化 条件設定 北側斜線 道路境界線 更新 ☒ 境界線表示 ☒ 領域表示

・チェック有

プロパティ 作図線 測定 ステータス

初期化 条件設定 北側斜線 道路境界線 更新 ☒ 境界線表示 ☒ 領域表示

境界線 No	領域 No	基本処理			適合始点処理			適合終点処理			測定点始点処理		測
		入隅始点	入隅終点	基本	始点	距離	カット法	終点	距離	カット法	始点	距離	
2		延長	延長	基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	
	1			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	
	2			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	
3		延長	延長	基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	
	3			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	

・チェック無し

プロパティ 作図線 測定 ステータス

初期化 条件設定 北側斜線 道路境界線 更新 ☒ 境界線表示 ☐ 領域表示

境界線 No	領域 No	基本処理			適合始点処理			適合終点処理			測定点始点処理		測
		入隅始点	入隅終点	基本	始点	距離	カット法	終点	距離	カット法	始点	距離	
2		延長	延長	基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	
3		延長	延長	基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	

10-7-8 天空率算定領域設定を手動で設定する

○各種設定項目をプルダウンメニューから選択します。

○設定内容は「10-4 本システムでの天空率算定領域設定」を参照して下さい。

※設定の変更は自動的に反映されません。設定を変更した場合は必ず「更新」を選択して下さい。

10-7-9 天空率算定領域の測定点番号を表示しない

○天空率の算定を行わない境界線から生成される天空率算定領域の測定点番号を非表示にします。

○測定点番号を表示しない測定点は、出力を行いません。ただし、天空率計算は実行されます。

※地盤面ブロックのみの天空率算定領域が生成される境界線等で設定を行います。

[操作手順]

- 1) 「No 表示」のチェックを外します。

適合終点処理			測定点始点処理		測定点終点処理					
終点	距離	カット法	始点	距離	終点	距離	総延長	ピッチ	No表示	
境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	✓		☐	適用する
境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	✓		☒	適用する

10-7-10 後退距離を手動で設定する

○適合建築物の後退距離を手動で設定します。

※設定の変更は自動的に反映されません。設定を変更した場合は必ず「更新」を選択して下さい。

[操作手順]

- 1) 「建物後退」プルダウンメニューより、「適用する。距離手動設定」を選択します。

			後退距離		グループ°	種別
総延長	ピッチ	No表示	建物後退	距離		
✓		✓	適用する。距離手動設定	.000	無	
✓		✓	適用しない 適用する。距離自動設定	.000	無	
			適用する。距離手動設定			

- 2) 「距離」または「距離 1」、「距離 2」を設定します。

			後退距離		グループ°	種別
総延長	ピッチ	No表示	建物後退	距離		
✓		✓	適用する。距離手動設定	3.000	無	
✓		✓	適用する。距離自動設定	5.000	無	

10-8 境界条件

○敷地境界線毎の天空率算定領域に関する条件を設定します。

○設定内容は簡易設定に準じます。

10-8-1 道路境界線を選択した場合

① 初期化 ② 更新 ③ 条件設定

④ 道路境界線 ▼

番号	道路計算	挿鉢(始点)	挿鉢(終点)	建物後退	建物後退距離
2	✓			適用する。距離自動設定	3.000
3	✓			適用する。距離自動設定	5.000

⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

番号	項目	概要
①	初期化	全ての斜線制限の天空率算定領域を初期化します
②	更新	天空率算定領域を更新して変更内容を反映します 設定を変更した場合、必ず選択して下さい
③	条件設定	各種処理条件を設定します
④	境界線選択	天空率算定領域を生成する敷地境界線を選択します
⑤	番号	境界線番号を表示します
⑥	道路計算	チェックを入れると、当該境界線の天空率算定領域を表示します
⑦	挿鉢(始点)	適合建築物の始点処理が「延長」の場合にチェックを入れると、境界線始点側を挿鉢状に延長して天空率算定領域を生成します
⑧	挿鉢(終点)	適合建築物の始点処理が「延長」の場合にチェックを入れると、境界線終点側を挿鉢状に延長して天空率算定領域を生成します
⑨	建物後退	後退距離の適用又は非適用、適用する場合は本システムによる自動判定又は手動設定を選択します 「10-4-14 適合建築物の後退距離の設定」を参照して下さい
⑩	建物後退距離	後退距離を表示します 距離手動設定を選択した場合に数値入力が可能です

10-8-2 隣地境界線を選択した場合

① ② ③

初期化 更新 条件設定

④ 隣地境界線 ▼

番号	隣地斜線	挿鉢(始点)	挿鉢(終点)	建物後退	建物後退距離1	建物後退距離2
1	✓			考慮する。距離自動設定	3.000	0.000
4	✓			考慮する。距離自動設定	3.000	0.000

⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪

番号	項目	概要
①	初期化	全ての斜線制限の天空率算定領域を初期化します
②	更新	天空率算定領域を更新して変更内容を反映します 設定を変更した場合、必ず選択して下さい
③	条件設定	各種処理条件を設定します
④	境界線選択	天空率算定領域を生成する敷地境界線を選択します
⑤	番号	境界線番号を表示します
⑥	隣地斜線	チェックを入れると、当該境界線の天空率算定領域を表示します
⑦	挿鉢(始点)	適合建築物の始点処理が「延長」の場合にチェックを入れると、境界線始点側を挿鉢状に延長して天空率算定領域を生成します
⑧	挿鉢(終点)	適合建築物の始点処理が「延長」の場合にチェックを入れると、境界線終点側を挿鉢状に延長して天空率算定領域を生成します
⑨	建物後退	後退距離の適用又は非適用、適用する場合は本システムによる自動判定又は手動設定を選択します 「10-4-14 適合建築物の後退距離の設定」を参照して下さい
⑩	建物後退距離 1	立ち上がり高さが 20mの場合の隣地高さ制限における後退距離を表示します 距離手動設定を選択した場合に数値入力が可能です
⑪	建物後退距離 2	立ち上がり高さが 31mの場合の隣地高さ制限における後退距離を表示します 距離手動設定を選択した場合に数値入力が可能です

10-8-3 隅切を選択した場合

① 初期化 ② 更新 ③ 条件設定

④ 隅切 ▼

番号	隅切
6	延長

⑤ ⑥

番号	項目	概要
①	初期化	全ての斜線制限の天空率算定領域を初期化します
②	更新	天空率算定領域を更新して変更内容を反映します 設定を変更した場合、必ず選択して下さい
③	条件設定	各種処理条件を設定します
④	境界線選択	天空率算定領域を生成する敷地境界線を選択します
⑤	番号	境界線番号を表示します
⑥	隅切	隅切の設定を選択します 「10-4-12 隅切の設定」を参照して下さい

10-9 領域リスト

○各斜線制限の天空率算定領域をリスト表示します。

○任意の天空率算定領域を作成可能です。(※一般的には使用しません。)

○天空率算定領域を自動生成した場合は、天空率算定領域の設定を必ず確認して下さい。

①		②		③	④	⑤	
道路斜線		領域作成		領域複写	領域削除	削除	
No	境界	種別	基本	グループ ^o	適合処理	測定点処理	道路幅員
1	1	自動	基本	1	1/2カット	適合まで	6.000m/6.000m
2	2	自動	基本	1	1/2カット	適合まで	6.000m/6.000m
3	3	自動	基本	2	1/2カット＋延長	外側境界点まで	4.000m/6.000m
4	3	自動	基本	2	1/2カット＋延長	外側境界点まで	4.000m/6.000m
5	3	自動	基本		延長－延長	適合－適合	4.000m/4.000m
⑥							

番号	項目	概要
①	斜線制限選択	天空率算定領域を表示する斜線制限を選択します
②	領域作成	任意天空率算定領域を作成します
③	領域複写	天空率算定領域を複写して任意天空率算定領域を作成します
④	領域削除	任意天空率算定領域を削除します
⑤	削除	自動生成した天空率算定領域を削除します
⑥	天空率算定領域リスト	天空率算定領域を表示します

10-9-1 天空率算定領域リストの見方

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
No	境界	種別	基本	グループ	適合処理	測定点処理	道路幅員
1	1	自動	基本	1	1/2カット	適合まで	6.000m/6.000m
2	2	自動	基本	1	1/2カット	適合まで	6.000m/6.000m
3	3	自動	基本	2	1/2カット+延長	外側境界点まで	4.000m/6.000m
4	3	自動	基本	2	1/2カット+延長	外側境界点まで	4.000m/6.000m
5	3	自動	基本		延長-延長	適合-適合	4.000m/4.000m

⑨		⑩	⑪	⑫	⑬
道路幅員	ピッチ	用途/容積率	後退距離	適用距離	地盤高
6.000m/6.000m	2.910m	準住居/60/240	1.138m	25m	0.000m
6.000m/6.000m	2.910m	準住居/60/240	1.138m	25m	0.000m
4.000m/6.000m	1.930m	準住居/60/240	1.419m	25m	0.000m
4.000m/6.000m	1.930m	準住居/60/240	1.419m	25m	0.000m
4.000m/4.000m	1.979m	準住居/60/240	1.419m	25m	0.000m

番号	項目	概要
①	No	天空率算定領域の No を表示します
②	境界	境界線の No を表示します ※領域作成で作成された任意天空率算定領域、複合隣地天空率算定領域、再地区天空率算定領域の場合表示されません
③	種別	天空率算定領域の種別を表示します
		自動 自動生成した天空率算定領域です
		任意 任意で作成した天空率算定領域です
		複合隣地 複合隣地天空率算定領域です
		再地区 再地区天空率算定領域です
④	基本	天空率算定領域の基本処理を表示します
⑤	グループ	天空率算定領域がグループ化されている場合、グループの番号を表示します
⑥	適合処理	適合建築物の両端の端点処理を表示します
⑦	測定点処理	測定点の両端の端点処理を表示します
⑧	道路幅員	「採用道路幅員/法 56 条第 6 項による道路幅員」を表示します ※道路幅 1 及び道路幅 2 は表示されません ※領域作成で作成された任意天空率算定領域、複合隣地天空率算定領域、再地区天空率算定領域の場合表示されません
⑨	ピッチ	測定点ピッチを表示します ※領域作成で作成された任意天空率算定領域の場合表示されません
⑩	用途/容積率	用途地域及び適用容積率を表示します ※任意天空率算定領域、複合隣地天空率算定領域の場合表示されません
⑪	後退距離	適合建築物の後退距離を表示します ※領域作成で作成された任意天空率算定領域、複合隣地天空率算定領域、再地区天空率算定領域の場合表示されません
⑫	適用距離	適用距離を表示します ※任意天空率算定領域、複合隣地天空率算定領域、再地区天空率算定領域の場合表示されません
⑬	地盤高	地盤高を表示します

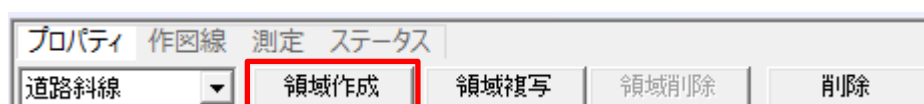
10-9-2 任意天空率算定領域について

- 行政指導等で、自動生成した天空率算定領域では処理できない場合に作成します。
- 任意天空率算定領域は、領域番号を認識するだけです。
- 適合建築物、計画建築物及び測定点は、「天空率用図形」メニューで任意に作成する必要があります。

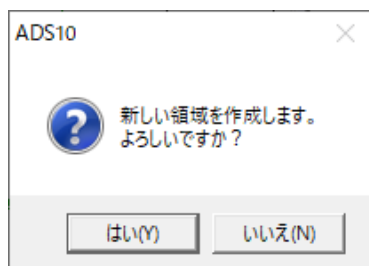
10-9-3 任意天空率算定領域を作成する

[操作手順]

- 1) 「領域作成」を選択します。



- 2) 確認ダイアログが開きます。



- 3) 「はい」を選択します。
- 4) 「種別」が「任意」の天空率算定領域が追加されます。

プロパティ 作図線 測定 ステータス

道路斜線

領域作成

領域複写

領域削除

削除

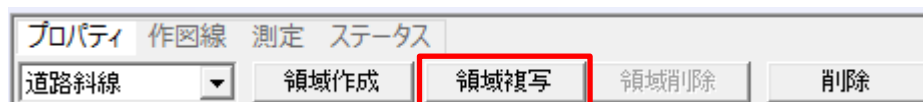
No	境界	種別	基本	グループ	適合処理	測定点処理	道路幅員
1	1	自動	基本		境界線ー境界線	適合ー適合	4.000m/4.000m
2		任意	基本		境界線ー境界線	適合ー適合	

※適合建築物及び測定ラインのない天空率算定領域が作成されます。

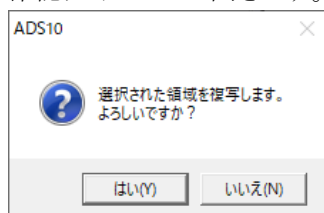
10-9-4 天空率算定領域を複写して任意天空率算定領域を作成する

[操作手順]

- 1) 複写する天空率算定領域を選択します。
- 2) 「領域複写」を選択します。



- 3) 確認ダイアログが開きます。



- 4) 「はい」を選択します。
- 5) 「種別」が「任意」の天空率算定領域が追加されます。

プロパティ

作図線

測定

ステータス

道路斜線

領域作成

領域複写

領域削除

削除

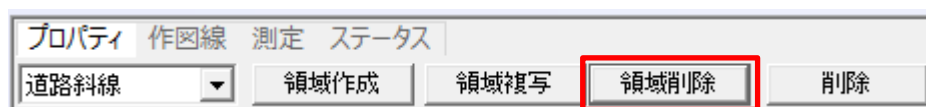
No	境界	種別	基本	グループ	適合処理	測定点処理	道路幅員
1	1	自動	基本		境界線ー境界線	適合ー適合	4.000m/4.000m
2	1	任意	基本		境界線ー境界線	適合ー適合	4.000m/4.000m

10-9-5 任意の天空率算定領域を削除する

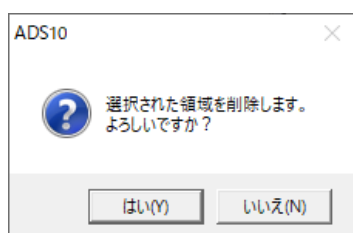
- 任意天空率算定領域、複合隣地天空率算定領域、及び再地区天空率算定領域を削除することができます。
- 「種別」が「自動」の天空率算定領域は削除しません。

[操作手順]

- 1) 削除する任意天空率算定領域を選択します。
- 2) 「領域削除」を選択します。



- 3) 確認ダイアログが開きます。



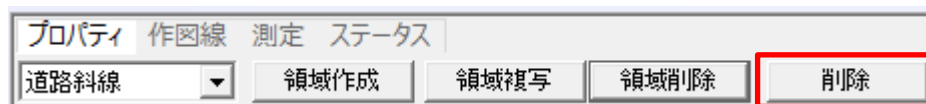
- 4) 「はい」を選択します。

10-9-6 自動生成した天空率算定領域を削除する

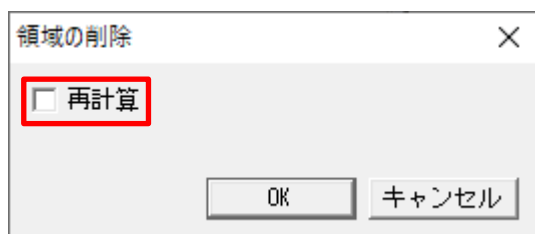
- 「種別」が「自動」以外の天空率算定領域は削除しません。

[操作手順]

- 1) 「削除」を選択します。



- 2) 「領域の削除」ダイアログが開きます。
- 3) 「再計算」のチェックを外します。



- 4) 「OK」を選択します。

10-9-7 自動生成した天空率算定領域を初期化する

○「種別」が「自動」以外の天空率算定領域は初期化しません。

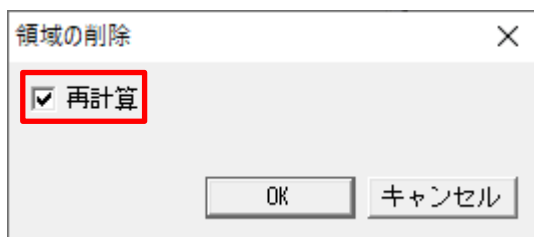
[操作手順]

- 1) 「削除」を選択します。



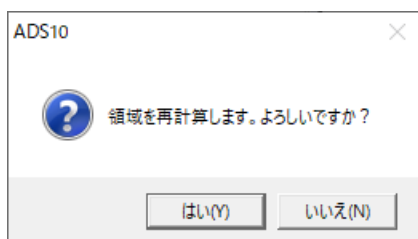
- 2) 「領域の削除」ダイアログが開きます。

- 3) 「再計算」にチェックを入れます。



- 4) 「OK」を選択します。

- 5) 確認ダイアログが開きます。



- 6) 「はい」を選択します。

10-10 領域条件

○各天空率算定領域における適合建築物及び測定点を設定します。

○設定内容は「10-4 本システムでの天空率算定領域設定」を参照して下さい。

○審査機関毎に取扱が異なる場合があります。審査機関の指導内容に合わせて設定してください。

※グループ設定されている天空率算定領域は設定できません。グループメニューで設定します。

項目	値
用途地域	1種低層10m/100/3...
適用距離	30m
後退距離	3.000m
地盤高	0.000m
道路幅員	8.000m/8.000m
ピッチ	4.000m
最大道路	8.000m
カルーフ	

③

④ 基本処理
☒ 基本 ☐ 放射
☒ 測定点番号表示
 ※始点終点は反時計回り

⑥ [適合]端点処理
 始点: 境界線, 0.000 m, カットしない
 終点: 境界線, 0.000 m, カットしない

⑦ [測定点]端点処理
 始点: 適合, 0.000 m
 終点: 適合, 0.000 m
☒ 総延長

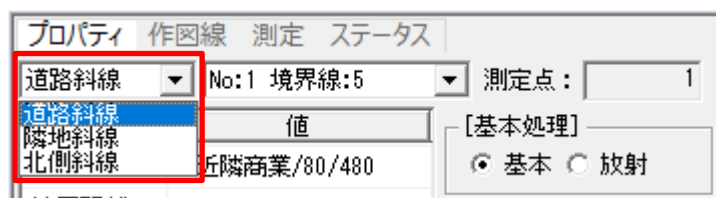
番号	項目	概要
①	高さ制限選択	設定を行う高さ制限を選択します
②	天空率算定領域選択	設定を行う天空率算定領域を選択します
③	ステータス	選択した天空率算定領域のステータスを表示します
④	基本処理	基本処理を設定します 「10-4-1 基本処理」を参照して下さい
⑤	測定点番号表示	チェックを入れると、生成される天空率算定領域の測定点番号を表示します 測定点番号を表示しない測定点は、出力を行いません ただし、天空率計算は実行されます
⑥	[適合]端点処理	適合建築物の始点/終点の端部処理及びカット法を設定します 「10-4-2-1 適合建築物」を参照して下さい
⑦	[測定点]端点処理	測定点の始点/終点の端部処理を設定します 「10-4-2-2 測定点」を参照して下さい

10-10-1 天空率算定領域の設定を変更する

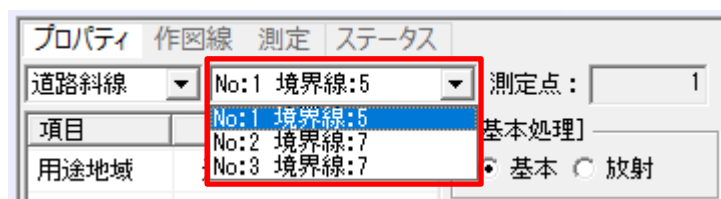
- 自動生成された天空率算定領域の設定を変更します。
- 変更した設定内容は自動で適用されます。

[操作手順]

- 1) 「高さ制限選択」プルダウンメニューより、設定を行う高さ制限を選択します。



- 2) 「天空率算定領域選択」プルダウンメニューより、設定を行う天空率算定領域を選択します。



- 3) 各種設定を行います。



10-11 グループ

○複数の天空率算定領域を、1つの天空率算定領域にまとめます。

○適合建築物の後退距離を合わせる場合は、グループ化する前に予め手動設定します。

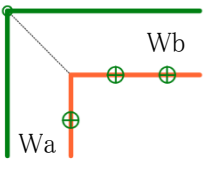
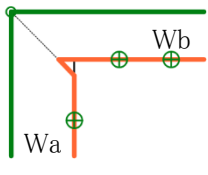
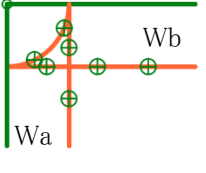
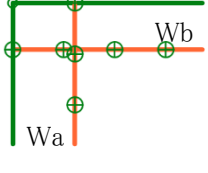
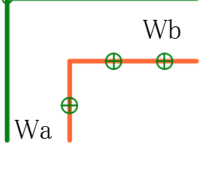
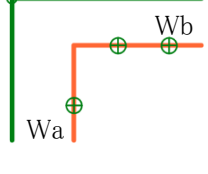
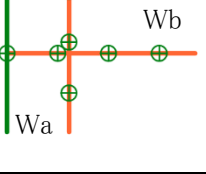
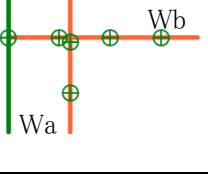
番号	項目	概要
①	高さ制限選択	設定を行う高さ制限を選択します
②	グループ選択	設定を行うグループを選択します
③	グループ作成	新規グループを作成します
④	グループ削除	選択中のグループを削除します
⑤	端領域の端点処理を「延長」にセット	グループ内の端領域の端点処理を「延長」に設定します
⑥	総延長	測定点ピッチの基準となる測定ラインの延長を設定します 「10-4-13 総延長」を参照して下さい
⑦	測定点番号を表示	チェックを入れると、生成される天空率算定領域の測定点番号を表示します 測定点番号を表示しない測定点は、出力を行いません ただし、天空率計算は実行されます
⑧	測定ライン作成方法(入隅側)	入隅の測定ラインの作成方法を選択します
⑨	測定ライン作成方法(出隅側)	出隅の測定ラインの作成方法を選択します
⑩	測定ライン作成方法	測定ラインの端点処理を設定します
⑪	測定ライン両端の処理	測定ラインの端点処理を設定します 測定ライン作成方法で「適合建築物が対象とした境界線」または「適合建築物が接している境界線」を選択した場合に有効です
⑫	基本処理	基本処理を選択します 「10-4-1 基本処理」を参照して下さい
⑬	エラーメッセージ表示欄	エラーメッセージを表示します
⑭	グループ外天空率算定領域リスト	グループ外の天空率算定領域を表示します
⑮	天空率算定領域移動	選択した天空率算定領域をグループ外またはグループ内へ移動します
⑯	グループ内天空率算定領域リスト	グループ内の天空率算定領域を表示します

10-11-1 端領域の端点処理を[延長]にセット

○グループ内の端領域の適合建築物の端点処理が「境界線」の場合でも、端点処理を「延長」として適合建築物を生成します。

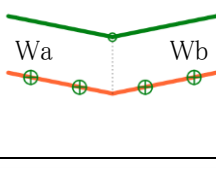
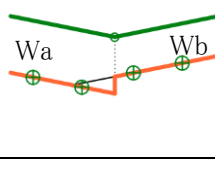
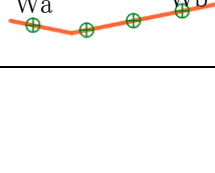
10-11-2 測定ライン作成方法(入隅側)

○入隅の測定ラインの作成方法を選択します。

作成方法	概要	適用例	
		$W_a = W_b$	$W_a > W_b$
二等分線で分割	それぞれの測定ラインを境界線内角の二等分線の交点まで延長し、境界線内角の二等分線で連続させます		
円弧	それぞれの測定ラインを円弧で連続させることができる場合、円弧状の測定ラインを作成します		
交点	それぞれの測定ラインの交点で測定ラインを連続させます		
分割	それぞれの測定ラインをグループの境界線との交点まで延長します		

10-11-3 測定ライン作成方法(出隅側)

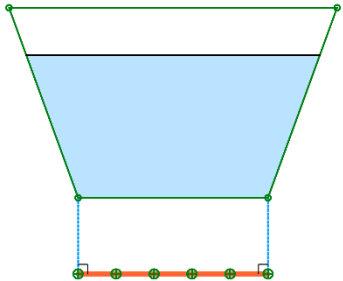
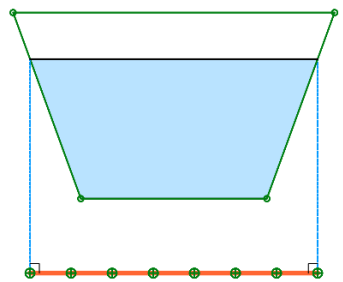
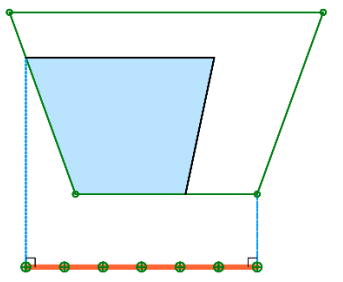
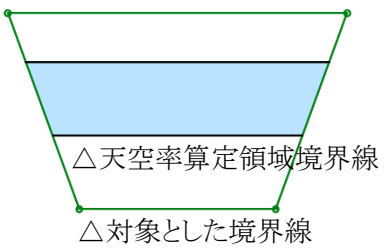
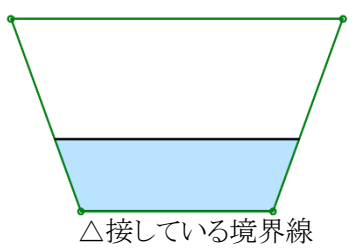
○出隅の測定ラインの作成方法を選択します。

作成方法	概要	適用例	
		$W_a = W_b$	$W_a > W_b$
二等分線で分割	それぞれの測定ラインを境界線内角の二等分線の交点まで延長し、境界線内角の二等分線で連続させます		
交点	それぞれの測定ラインの交点で測定ラインを連続させます		

10-11-4 測定ライン作成方法

○測定ラインの端点処理を設定します。

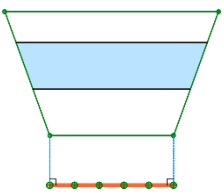
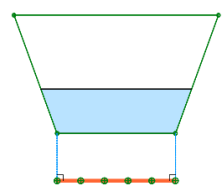
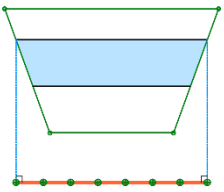
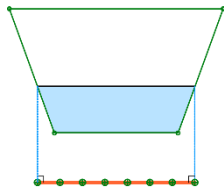
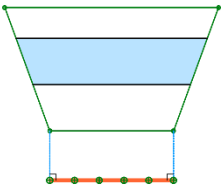
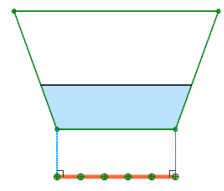
○始点と終点で共通の設定となります。

作成方法	概要	適用例
敷地境界線	敷地境界線端点を基準として測定点を生成します	
適合建築物	適合建築物端点を基準として測定点を生成します	
適合と敷地境界線の外側	適合建築物と敷地境界線の端点を比較して、外側の端点を基準として測定点を生成します	
適合建築物が対象とした境界線	適合建築物を生成している境界線のうち、適合建築物が直接接していない境界線を基準として測定点を生成します 「測定ライン両端の処理」で詳細を設定します	
適合建築物が接している境界線	適合建築物を生成している境界線のうち、適合建築物が直接接している境界線を基準として測定点を生成します 「測定ライン両端の処理」で詳細を設定します	

10-11-5 測定ライン両端の処理

○「適合建築物が対象とした境界線」または「適合建築物が接している境界線」を選択した場合の測定ラインの端点処理を設定します。

○始点と終点で共通の設定となります。

両端の処理	概要	適用例	
		対象とした境界線	接している境界線
境界線上適合建築物の端で止める	適合建築物を生成している境界線上の適合建築物端点を基準として測定点を生成します		
適合建築物の端で止める	適合建築物端点を基準として測定点を生成します		
外側の境界点まで伸ばす	敷地境界線端点を基準として測定点を生成します		

10-11-6 エラーメッセージ表示欄

○エラーメッセージを表示します

異なる用途地域が選択されています
異なる地盤高が選択されています
異なる斜線勾配が選択されています

エラーメッセージ	内容
異なる用途地域が選択されています	異なる用途地域の天空率算定領域をグループ化した場合に表示します
異なる地盤高が選択されています	異なる地盤高の天空率算定領域をグループ化した場合に表示します
異なる回り込み道路が選択されています	異なる回り込み道路の天空率算定領域をグループ化した場合に表示します 回り込み道路の幅員は道路幅員欄の「/」の右側に表示されている幅員です
異なる道路幅員が選択されています	異なる道路幅員の天空率算定領域をグループ化した場合に表示します 道路幅員は道路幅員欄の「/」の左側に表示されている幅員です
異なる斜線勾配が選択されています	異なる斜線勾配の天空率算定領域をグループ化した場合に表示します

10-11-7 グループを新規作成する

[操作手順]

- 1) 「グループ作成」を選択します。

The screenshot shows a software window with tabs: 'プロパティ' (Properties), '作図線' (Drawing Line), '測定' (Measurement), and 'ステータス' (Status). Below the tabs are two dropdown menus. The first dropdown is set to '道路斜線' (Road Slope). The second dropdown is empty. To the right of the dropdowns are two buttons: 'グループ作成' (Group Creation) and 'グループ削除' (Group Deletion). The 'グループ作成' button is highlighted with a red rectangular box.

- 2) 「グループ外天空率算定領域リスト」からグループ化する天空率算定領域を選択します。

No	境界線	用途地域	地盤高	道路幅員
1	2	準住居	0.000	6.000/6.000
2	3	準住居	0.000	6.000/6.000

※Shift/Ctrl キーで複数選択が可能です。

- 3) 「天空率算定領域移動」で「→」を選択します。

No	境界線	用途地域	地盤高	道路幅員
1	2	準住居	0.000	6.000/6.000
2	3	準住居	0.000	6.000/6.000

- 4) 「グループ内天空率算定領域リスト」にグループ化した天空率算定領域が表示されます。

No	境界線	用途地域	地盤高	道路幅員
1	2	準住居	0.000	6.000/6.000
2	3	準住居	0.000	6.000/6.000

- 5) 必要に応じてグループの各条件の設定を行います。

The screenshot shows a settings dialog box with several options. At the top, there are three checked checkboxes: '端領域の端点処理を[延長]にセット' (Set end point processing of end area to [Extension]), '総延長' (Total Extension), and '測定点番号を表示' (Display measurement point numbers). Below these are four dropdown menus for measurement line creation methods: '測定ライン作成方法(入隅側):' (Measurement line creation method (entry corner side)) is set to '二等分線で分割' (Divide with median line); '測定ライン作成方法(出隅側):' (Measurement line creation method (exit corner side)) is set to '交点' (Intersection); '測定ライン作成方法:' (Measurement line creation method) is set to '適合と敷地境界線の外側' (Outside of fit and site boundary line); and '測定ライン両端の処理:' (Measurement line both ends processing) is set to '外側の境界点まで伸ばす' (Extend to outer boundary point). At the bottom, there is a section titled '[基本処理]' (Basic Processing) with two radio buttons: '基本' (Basic) and '放射' (Radial). The '基本' radio button is selected.

10-11-8 既存のグループに天空率算定領域を追加する

[操作手順]

- 1) 「グループ選択」プルダウンメニューより、天空率算定領域を追加するグループを選択します。

- 2) 「グループ外天空率算定領域欄」からグループに追加する天空率算定領域を選択します。

No	境界線	用途地域	地盤高	道路幅員
2	3	準住居	0.000	6.000/6.000

No	境界線	用途地域	地盤高	道路幅員
1	2	準住居	0.000	6.000/6.000

※Shift/Ctrl キーで複数選択が可能です。

- 3) 「天空率算定領域移動」で「→」を選択します。

No	境界線	用途地域	地盤高	道路幅員
2	3	準住居	0.000	6.000/6.000

No	境界線	用途地域	地盤高	道路幅員
1	2	準住居	0.000	6.000/6.000

- 4) 「グループ内天空率算定領域欄」にグループ化された天空率算定領域が表示されます

No	境界線	用途地域	地盤高	道路幅員
1	2	準住居	0.000	6.000/6.000
2	3	準住居	0.000	6.000/6.000

- 5) 必要に応じてグループの各条件の設定を行います。

☒ 端領域の端点処理を[延長]にセット
☒ 総延長
☒ 測定点番号を表示

測定ライン作成方法(入隅側): 二等分線で分割
 測定ライン作成方法(出隅側): 交点
 測定ライン作成方法: 適合と敷地境界線の外側
 測定ライン両端の処理: 外側の境界点まで伸ばす

[基本処理]
☒ 基本 ☐ 放射

10-11-9 既存のグループから天空率算定領域を除外する

[操作手順]

- 1) 「グループ選択」プルダウンメニューより、天空率算定領域を除外するグループを選択します。

- 2) 「グループ内天空率算定領域リスト」からグループから除外する天空率算定領域を選択します。

No	境界線	用途地域	地盤高	道路幅員
1	2	準住居	0.000	6.000/6.000
2	3	準住居	0.000	6.000/6.000

※Shift/Ctrl キーで複数選択が可能です。

- 3) 「天空率算定領域移動」で「←」を選択します。

No	境界線	用途地域	地盤高	道路幅員
1	2	準住居	0.000	6.000/6.000
2	3	準住居	0.000	6.000/6.000

- 4) 「グループ外天空率算定領域リスト」にグループから除外した天空率算定領域が表示されます。

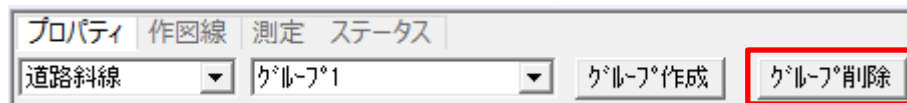
No	境界線	用途地域	地盤高	道路幅員
2	3	準住居	0.000	6.000/6.000

- 5) 必要に応じてグループの各条件の設定を行います。

10-11-10 グループを削除する

[操作手順]

- 1) 「グループ削除」を選択します。



※グループを削除してもグループ番号はリナンバリングされません。

10-12 天 空 率 計 算

○天空率計算を実行し、計算結果を確認します。

○各天空率算定領域の「**適合建築物及び測定点**」が**適切であることを**確認した上で計算を実行します。

○天空率計算の方法に関しては、「1-7-3 天空率計算」を参照して下さい。

① 道路斜線
② No:1 境界線:2
③ 計算
④ 削除

項目	値	計算1(システム計算)					計算2(求積計算)									
		No	X	Y	Z	適合	計画	計-適	判定	順位	計算	適合	計画	計-適	判定	差1-差2
用途地域	準住居/80/300	1	25.000	0.000	0.000	85.536	87.432	1.896	○	4						
適用距離	25m	2	25.000	2.500	0.000	82.945	85.455	2.510	◎	8						
後退距離	3.000m	3	25.000	5.000	0.000	80.588	83.017	2.429	◎	6						
地盤高	0.000m	4	25.000	7.500	0.000	78.618	80.729	2.111	◎	5						
道路幅員	5.000m/10.000m	5	25.000	10.000	0.000	77.094	78.937	1.843	○	2	77.128	78.932	1.804	○		0.039
ピッチ	2.500m	6	25.000	12.500	0.000	75.973	77.677	1.704	○	1	76.008	77.674	1.666	○		0.038
最大道路	10.000m	7	25.000	15.000	0.000	75.312	77.188	1.876	○	3	75.348	77.195	1.837	○		0.039
ガル-フ°		8	25.000	17.500	0.000	75.141	77.616	2.475	◎	7						

⑤
⑥

番号	項目	概要
①	斜線制限選択	天空率計算を実行する斜線制限を選択します
②	天空率算定領域選択	表示する天空率算定領域を選択します
③	計算	天空率計算を実行します 「天空率計算」ダイアログが開きます
④	削除	天空率計算結果を削除します 「計算結果の削除」ダイアログが開きます
⑤	ステータス	選択した天空率算定領域のステータスを表示します
⑥	天空率リスト	測定点の情報及び天空率計算結果を表示します

⑦
⑧

105

番号	項目	概要		
⑦	全計算にチェック	「計算 1」及び「計算 2」の計算対象を自動で設定します		
		「計算 1」	計算対象とする領域	全領域
		「計算 2」	計算対象とする領域	全領域
			計算対象とする測定点	計算 1 の最小差点から 3 ポイント
⑧	高精度	チェックを入れると、「計算 2」を高精度で計算します		

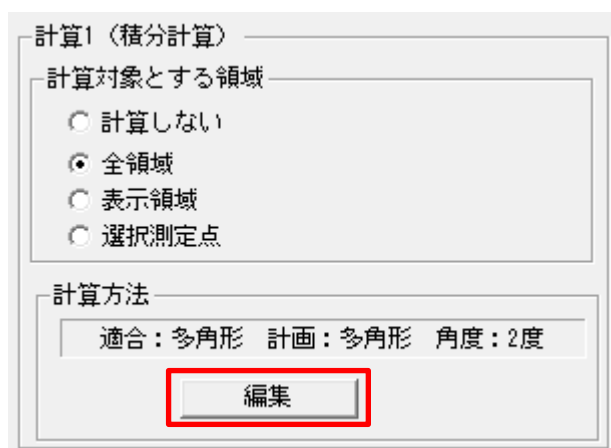
10-12-1-1 計算 1(システム計算)の計算方法を編集する

○分割角度のみ編集が可能です。

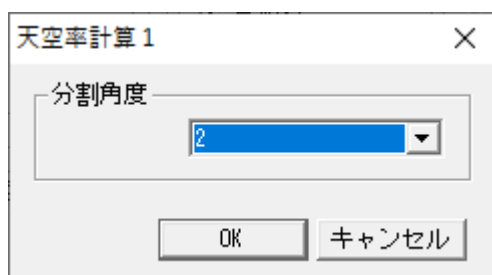
※通常は編集しません

[操作手順]

1) 「天空率計算」ダイアログより、「計算 1」の「編集」を選択します。



2) 「天空率計算 1」ダイアログが開きます。



3) 「分割角度」プルダウンメニューより、分割角度を選択します。

4) 「OK」を選択します。

10-12-1-2 計算 2(求積計算)の計算方法を編集する

○分割角度及び「計算 2」を実行する天空図の部分の編集が可能です。

※通常は編集しません

[操作手順]

1) 「天空率計算」ダイアログより、「計算 2」の「編集」を選択します。

計算2 (求積計算)

計算対象とする領域

☐ 計算しない

☒ 全領域

☐ 表示領域

計算対象とする測定点

☐ チェックした測定点

☒ 計算1の最小差点から 3 単位

☐ 全測定点

☐ 位置確認線の自動探索

計算方法

適合：外接 計画：内接 角度：10度 求積：天頂側

編集

2) 「天空率計算 2」ダイアログが開きます。

天空率計算 2

① 分割角度

10

② 三斜求積

☐ 三斜をブロック内に作成する

☒ 三斜を天頂側に作成する

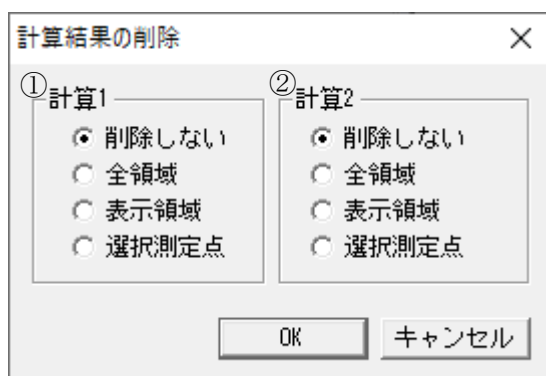
OK キャンセル

番号	項目	概要	
①	分割角度	分割角度を選択します	
②	三斜求積	「計算 2」を実行する天空図の部分を選択します	
		三斜をブロック内に作成する	ブロックの内部に三斜求積図を作成します
		三斜を天頂側に作成する	ブロックの外部に三斜求積図を作成します

3) 各種設定をします。

4) 「OK」を選択します。

10-12-2 「計算結果の削除」ダイアログ



番号	項目	概要	
①	計算 1	「計算 1」の結果を削除する天空率算定領域または測定点を選択します	
		削除しない	「計算 1」を削除しません
		全領域	全ての天空率算定領域を削除対象とします
		表示領域	表示している天空率算定領域のみを削除対象とします
		選択測定点	「天空率リスト」で選択した測定点のみを削除対象とします
②	計算 2	「計算 2」の結果を削除する天空率算定領域または測定点を選択します	
		削除しない	「計算 2」を削除しません
		全領域	全ての天空率算定領域を削除対象とします
		表示領域	表示している天空率算定領域のみを削除対象とします
		選択測定点	「天空率リスト」で選択した測定点のみを削除対象とします

10-12-3 天空率計算を実行する斜線制限を選択する

[操作手順]

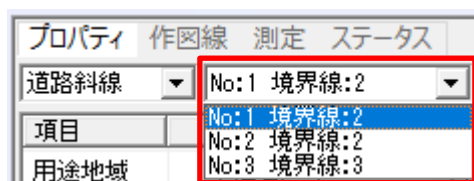
- 1) 「斜線制限選択」プルダウンメニューより、天空率計算を実行する斜線制限を選択します。



10-12-4 天空率計算を実行する天空率算定領域を選択する

[操作手順]

- 1) 「天空率算定領域選択」プルダウンメニューより、表示する天空率算定領域を選択します。



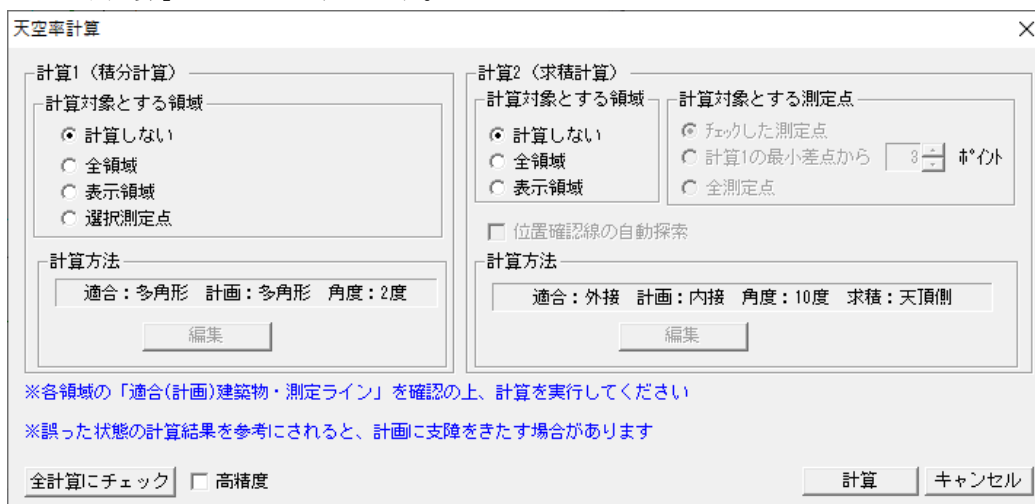
10-12-5 天空率計算を実行する

[操作手順]

- 1) 天空率計算を実行する斜線制限を選択します。
- 2) 「計算」を選択します。



- 3) 「天空率計算」ダイアログが開きます。



- 4) 各種設定をします。
- 5) 「計算」を選択します。

10-12-6 天空率計算結果を削除する

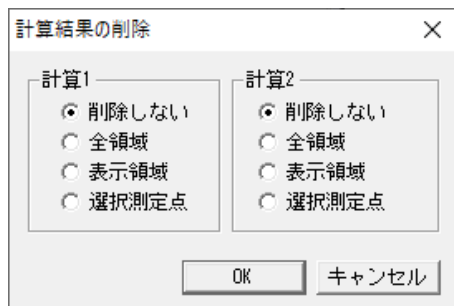
○計算をやり直す場合等に天空率計算結果を削除します。

[操作手順]

- 1) 「削除」を選択します。



- 2) 「計算結果の削除」ダイアログが開きます。



- 3) 削除対象を選択します。
- 4) 「OK」を選択します。

10-12-7 天空率計算結果の見方

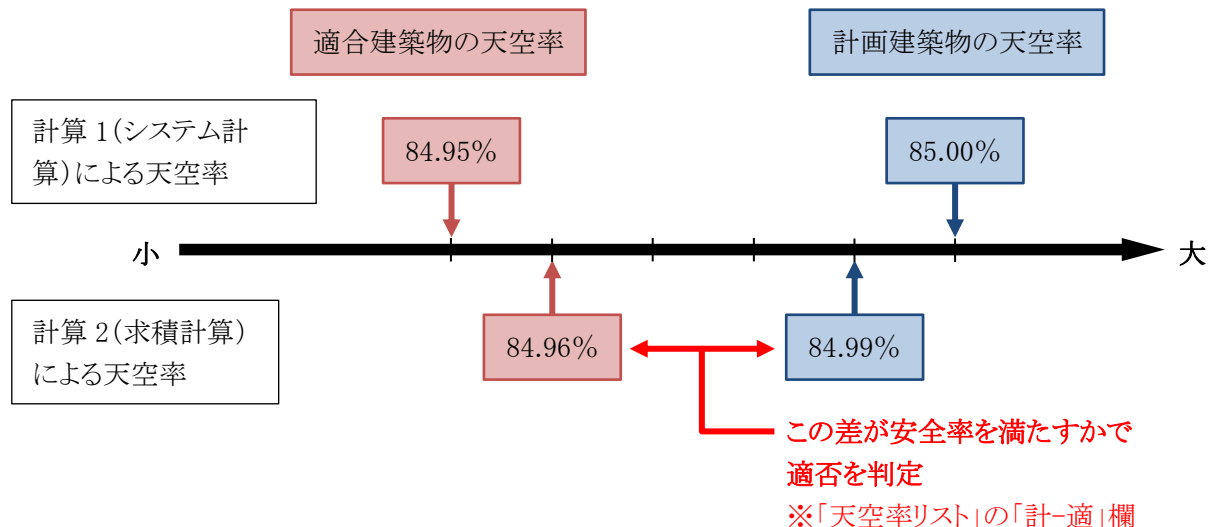
○天空率計算の適否は、**計算 2(求積計算)**の「計-適」欄の結果で判定します。

①				②						③					
				計算1(システム計算)					計算2(求積計算)						
No	X	Y	Z	適合	計画	計-適	判定	順位	計算	適合	計画	計-適	判定	差1-差2	
1	25.000	0.000	0.000	85.536	87.432	1.896	○	4							
2	25.000	2.500	0.000	82.945	85.455	2.510	◎	8							
3	25.000	5.000	0.000	80.588	83.017	2.429	◎	6							
4	25.000	7.500	0.000	78.618	80.729	2.111	◎	5							
5	25.000	10.000	0.000	77.094	78.937	1.843	○	2	77.128	78.932	1.804	○	0.039		
6	25.000	12.500	0.000	75.973	77.677	1.704	○	1	76.008	77.674	1.666	○	0.038		
7	25.000	15.000	0.000	75.312	77.188	1.876	○	3	75.348	77.185	1.837	○	0.039		
8	25.000	17.500	0.000	75.141	77.616	2.475	◎	7							

番号	項目		概要	単位
①	測定点	No	測定点番号を表示します	-
		X、Y、Z	測定点の座標を表示します	m
②	計算 1 (システム計算)	適合	システム計算による、適合建築物の天空率を表示します	%
		計画	システム計算による、計画建築物の天空率を表示します	
		計-適	システム計算による、計画建築物の天空率と適合建築物の天空率の差を表示します	
		判定	「計-適」の数値による判定結果を表示します	-
		順位	「計-適」の数値が一番小さい測定点を 1 位として、「計-適」の数値が小さい順に順位を表示します 9 位まで表示します	-
③	計算 2 (求積計算)	計算	チェックを入れると、「計算対象とする測定点」で「チェックした測定点」を選択した場合に計算を実行します	-
		適合	求積計算による、適合建築物の天空率を表示します	%
		計画	求積計算による、計画建築物の天空率を表示します	
		計-適	求積計算による、計画建築物の天空率と適合建築物の天空率の差を表示します JCBA 方式の「安全率」、東京方式の「安全幅」に該当します 天空率計算の最終結果です	
		判定	「計-適」の数値による判定結果を表示します	-
		差 1-差 2	「計算 1」の「計-適」の数値と「計算 2」の「計-適」の数値の差を表示します	-

※判定基準値は「天空率解析/簡易設定/条件設定」で設定します。

10-12-7-1 天空率チェックの概念



天空率計算の安全処理

○計算 2(求積計算)は、計算 1(システム計算)よりも安全側の計算を行います。

適合建築物の天空率 計算 1(システム計算) < 計算 2(求積計算)	計画建築物の天空率 計算 1(システム計算) > 計算 2(求積計算)
--	--

※計算結果が安全側に処理されていない場合は、計算エラーが生じています。
高精度計算を行って下さい。

10-12-7-2 計算エラーについて

○計算エラーが生じた場合、「高精度計算」を実行して下さい。

○「高精度計算」を実行してもエラーが解消しない場合は、サポートセンターまでメール
(support@epcot.co.jp) でデータをお送り下さい。

・主な計算エラー

エラー内容	原因
「計算 2」の「適合」の数値が赤色で表示される	「計算 1」の「適合」>「計算 2」の「適合」となっています
「計算 2」の「計画」の数値が赤色で表示される	「計算 2」の「適合」<「計算 2」の「計画」となっています
「計算 2」の「適合」または「計画」が空欄	「計算 2」が適切に実行されていません
「差 1-差 2」の数値が赤色で表示される	「計算 2」が安全側の計算結果になっていません

・「計算 2」の「計画」の数値が赤色で表示される例

				計算1(システム計算)					計算2(求積計算)					
No	X	Y	Z	適合	計画	計-適	判定	順位	計算	適合	計画	計-適	判定	差1-差2
1	-3.584	12.811	-0.050	90.790	91.572	0.782	○	3	90.828	93.211	2.383	◎	-1.601	

10-12-7-3 「差 1-差 2」について

○「計算 2」と「計算 1」の結果の差を算出することで、「計算 2」が安全側の計算結果となることを確認します。

○「差 1-差 2」の結果がマイナスになる場合、「計算 2」が安全側の結果になっていません。

10-12-7-4 高精度計算について

○本システムの高精度計算は、計算エラー発生時の処理方法として設けたものです

○高精度計算により、三斜求積図の作成方法が変わります。通常は実行しません。

10-12-7-5 高精度計算を実行する

[操作手順]

- 1) 「天空率計算」ダイアログを開きます。
- 2) 「高精度」にチェックを入れます。

- 3) 各種設定をします。
- 4) 「計算」を選択します。

10-12-8 天空率計算結果の出力について

○天空率計算結果は、印刷プレビューで「天空率測定点リスト」を作表することで出力ができます。

○「天空率リスト」の「順位」、「計算」、「差 1-差 2」は出力されません。

・天空率測定点リスト

天空率測定点リスト[道路斜線] 領域=1

No	境界線	タイプ	X	Y	Z	天空率1(システム計算)				天空率2(求積計算)			
						適合	計画	差	判定	適合	計画	差	判定
1	2	基本	0.000m	-5.000m	0.000m	85.536%	87.432%	1.896%	○	—	—	—	—
2	2		2.500m	-5.000m	0.000m	82.945%	85.455%	2.510%	◎	—	—	—	—
3	2		5.000m	-5.000m	0.000m	80.588%	83.017%	2.429%	◎	—	—	—	—
4	2		7.500m	-5.000m	0.000m	78.618%	80.729%	2.111%	◎	—	—	—	—
5	2		10.000m	-5.000m	0.000m	77.094%	78.937%	1.843%	○	77.128%	78.932%	1.804%	○
6	2		12.500m	-5.000m	0.000m	75.973%	77.677%	1.704%	○	76.008%	77.674%	1.666%	○
7	2		15.000m	-5.000m	0.000m	75.312%	77.188%	1.876%	○	75.348%	77.185%	1.837%	○
8	2		17.500m	-5.000m	0.000m	75.141%	77.616%	2.475%	◎	—	—	—	—
9	2		20.000m	-5.000m	0.000m	75.538%	79.140%	3.602%	◎	—	—	—	—
10	2		22.500m	-5.000m	0.000m	76.643%	81.856%	5.213%	◎	—	—	—	—
11	2		25.000m	-5.000m	0.000m	78.655%	85.316%	6.661%	◎	—	—	—	—
12	2		27.500m	-5.000m	0.000m	81.705%	86.993%	5.288%	◎	—	—	—	—
13	2		30.000m	-5.000m	0.000m	85.479%	88.739%	3.260%	◎	—	—	—	—

10-13 求積表

- 天空率計算の「計算 2(求積計算)」の計算根拠となる三斜求積表を表示します。
- 「求積図形ごとに丸目処理を行う」の設定によって表示が異なります。
- 本システムの天空図の求積計算において、投影側で計算された場合は、外周部分も計算しています。
- 求積表には、斜面積と弧部分の面積をそれぞれ個別に表示しています。

・「求積図形ごとに丸目処理を行う」にチェック有

① 道路斜線		② No:1 境界線:2		③ 測定点: 6		④ 建築物	
						適合 ☒ 計画 ☐	
項目	値	No	底辺	高さ	面積		
用途地域	準住居/60/300	S11	42.092	6.828	143.703		
適用距離	25m	S12	39.316	6.560	128.957		
後退距離	3.000m	S13	37.776	6.474	122.281		
地盤高	0.000m	三角形: 合計 (S)			2099.750		
道路幅員	5.000m/10.000m	F1	45.000 °		3926.991		
ピッチ	2.500m	F2	65.433 °		5710.092		
最大道路	10.000m	扇形: 合計 (F)			9637.083		
ケルブ°	⑤	合計 (S1=F-S)			7537.333		
		天空率面積(S2)			31415.927		
		天空率 ((S2-S1)÷S2*100))			76.008%		

・「求積図形ごとに丸目処理を行う」にチェック無し

①		②		③		④	
道路斜線		No:1 境界線:2		測定点: 6		建築物 ● 適合 ○ 計画	
項目	値	No	底辺	高さ	面積		
用途地域	準住居/80/300	S12	0.3931597	0.0655958	0.0257896		
適用距離	25m	S13	0.3777514	0.0647377	0.0244547		
後退距離	3.000m	三角形: 合計			0.4199062		
地盤高	0.000m	三角形: 合計÷2 ①			0.2099531	6.68302%	
道路幅員	5.000m/10.000m	F1	45.000 °		0.3926991		
ピッチ	2.500m	F2	65.433 °		0.5710091		
最大道路	10.000m	扇形: 合計 ③			0.9637082	30.676%	
ケルブ°		合計 ④=③-①			0.7537551	23.993%	
	⑤	天空率 (100%-④)				76.007%	

⑥

番号	項目	概要
①	斜線制限選択	天空率計算を実行する斜線制限を選択します
②	天空率算定領域選択	表示する天空率算定領域を選択します
③	測定点番号	測定点番号を表示します
④	建築物選択	求積表を表示する建築物を選択します
⑤	ステータス	選択した天空率算定領域のステータスを表示します
⑥	求積表	選択した測定点の求積表を表示します

10-13-1 求積表を表示する測定点を選択する

[操作手順]

- 1) 「斜線制限選択」プルダウンメニューより、求積表を表示する斜線制限を選択します。

- 2) 「天空率算定領域選択」プルダウンメニューより、求積表を表示する天空率算定領域を選択します。

- 3) 平面図で、求積表を表示する測定点を選択します。
- 4) 「建築物選択」で求積表を表示する建築物を選択します。

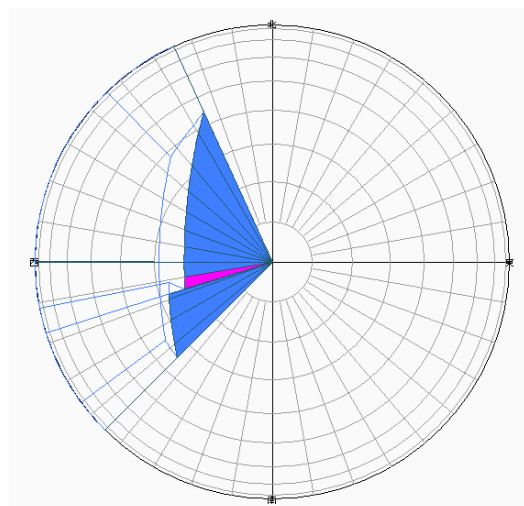
10-13-2 求積図を選択する

[操作手順]

- 1) 求積表より、求積図を選択します。

No	底辺	高さ	面積
S1	37.776	6.474	122.281
S2	38.684	4.836	93.538
S3	46.250	2.103	48.632

- 2) 天空図に選択した求積図が反映されます。



10-13-3 求積表の見方

10-13-3-1 「求積図形ごとに丸目処理を行う」にチェック有

○全天空図半径を「100mm」とした数値で底辺・高さ・面積を表示します。

○天空率面積 (S2)は適合建築物と計画建築物で異なります。各天空図面積は「建築確認のための基準総則・集団規定の適用事例 2017 年度版 第 2 章 6 天空率 安全率 (4)計算過程における小数点以下の取り扱い」によります。

①	②	③	④	
No	底辺	高さ	面積	三斜求積計算の流れ
S1	45.270	7.765	175.760	
S2	17.500	3.668	32.095	
S33	17.486	3.539	30.941	三斜求積図の倍面積を求めます
S34	30.903	5.292	81.769	
三角形：合計 (S)			1842.762	三斜求積図の面積を合計します
B1	10.000 °		4.423	
B12	10.000 °		4.423	弓型求積図の面積を求めます
弓形：合計 (B)			35.288	弓型求積図の面積を合計します
F1	29.249 °		2552.441	
F2	61.928 °		5404.195	方位角扇形図形の面積を求めます
扇形：合計 (F)			7956.636	方位角扇形図形の面積を合計します
合計 (S1=F-S)			6078.586	建築物の面積の割合を算出します
天空率面積 (S2)			31415.926	半径を 100mm とした場合の天空図面積
天空率 ((S2-S1)÷S2*100))			80.651%	天空率の割合を算出します

番号	項目	概要	
①	No	求積図形番号、分割角度または計算式を表示します	
		S**	三斜求積図形番号です
		B**	弓型求積図形番号です
		F**	方位角番号です 方位を跨いで三斜求積が行われる場合に、方位毎に方位角を算出します
②	底辺	三斜求積図	底辺を表示します
		弓型求積図	中心角を表示します
		方位角	方位角を表示します
		計算式	空欄です
③	高さ	三斜求積図	高さを表示します
		弓型求積図	空欄です
		方位角	空欄です
		計算式	空欄です
④	面積	三斜求積図	倍面積を表示します
		弓型求積図	面積を表示します
		方位角	扇形の面積を表示します

10-13-3-2 「求積図形ごとに丸目処理を行う」にチェック無し

○全天空図半径を「1(単位なし)」とした数値で底辺・高さ・面積を表示します。

①	②	③	④	⑤	
No	底辺	高さ	面積		三斜求積計算の流れ
S1	0.4527072	0.0776578	0.0351563		
S2	0.1750084	0.0366825	0.0064198		
S33	0.1748681	0.0353972	0.0061898		三斜求積図の倍面積を求めます
S34	0.3090315	0.0529237	0.0163551		
三角形：合計			0.3686010		三斜求積図の倍面積を合計します
三角形：合計÷2 ①			0.1843005	5.86647%	三斜求積図の面積を合計します
B1	10.000 °		0.0004424		
B12	10.000 °		0.0004424		弓型求積図の面積を求めます
弓形：合計 ②			0.0035297	0.112%	弓型求積図の面積を合計します
F1	29.249 °		0.2552442		
F2	61.928 °		0.5404195		方位角扇形図形の面積を求めます
扇形：合計 ③			0.7956637	25.327%	方位角扇形図形の面積を合計します
合計 ④=③-①			0.6078935	19.348%	建築物の面積の割合を算出します
天空率 (100%-④)				80.652%	天空率の割合を算出します

番号	項目	概要	
①	No	求積図形番号、分割角度または計算式を表示します	
		S**	三斜求積図形番号です
		B**	弓型求積図形番号です
		F**	方位角番号です 方位を跨いで三斜求積が行われる場合に、方位毎に方位角を算出します
②	底辺	三斜求積図	底辺を表示します
		弓型求積図	中心角を表示します
		方位角	方位角を表示します
		計算式	空欄です
③	高さ	三斜求積図	高さを表示します
		弓型求積図	空欄です
		方位角	空欄です
		計算式	空欄です
④	面積	三斜求積図	倍面積を表示します
		弓型求積図	面積を表示します
		方位角	扇形の面積を表示します
⑤	割合	全天空図の面積を 100%とした場合の割合を表示します	

10-13-4 求積表の出力について

○天空率計算結果は、印刷プレビューの「表を選択」で「天空率求積表」を選択することで出力します。

10-13-4-1 「求積図形ごとに丸目処理を行う」にチェック有

○全天空図半径を「100mm」とした数値で底辺・高さ・面積を表示します。

天空率三斜求積表[道路斜線]、半径=100mm

No=6 [計画建築物]

No	底辺[mm]	高さ[mm]	面積[mm ²]
S1	30.903	5.292	81.769
S2	31.787	3.955	62.858
S3	46.973	2.142	50.308
S4	50.000	8.156	203.899
S5	53.183	6.296	167.420
S6	51.046	5.725	146.119
S7	44.566	6.693	149.140
S8	38.545	6.018	115.981
S9	34.659	5.597	96.993
S10	32.235	5.366	86.486
S11	30.903	5.292	81.769
三斜：合計(S)			1242.742
F1	37.235 °		3249.352
F2	57.381 °		5007.415
扇形：合計(F)			8256.767
合計 (S1=F-S)			7014.025
天空図面積(S2)			31415.926
天空率((S2-S1)÷S2×100)			77.673%

10-13-4-2 「求積図形ごとに丸目処理を行う」にチェック無し

○出力する天空図の半径にあわせた、底辺・高さ・面積を表示します。

天空率三斜求積表[道路斜線]、半径=100mm、円の面積=31415.927mm²

No=6 [計画建築物]

No	底辺	高さ	面積	底辺[mm]	高さ[mm]	面積[mm ²]
S1	0.3090315	0.0529237	0.0163551	30.903	5.292	163.551
S2	0.3178723	0.0395560	0.0125737	31.787	3.956	125.737
S3	0.4697327	0.0214225	0.0100629	46.973	2.142	100.629
S4	0.5000000	0.0815682	0.0407841	50.000	8.157	407.841
S5	0.5318324	0.0629682	0.0334885	53.183	6.297	334.885
S6	0.5104643	0.0572506	0.0292244	51.046	5.725	292.244
S7	0.4456600	0.0669330	0.0298293	44.566	6.693	298.293
S8	0.3854515	0.0601864	0.0231989	38.545	6.019	231.989
S9	0.3465998	0.0559769	0.0194016	34.660	5.598	194.016
S10	0.3223583	0.0536628	0.0172986	32.236	5.366	172.986
S11	0.3090315	0.0529237	0.0163551	30.903	5.292	163.551
合計			0.2485723	2485.723		
合計÷2			0.1242862	1242.862		
三角形：合計÷2÷π (S)			3.95615%			
F1	37.235 °		0.3249352	3249.352		
F2	57.381 °		0.5007416	5007.416		
扇形：合計			0.8256768	8256.768		
扇形：合計÷π (F)			26.28211%			
合計 (=F-S)			22.32596%			
天空率			77.67404%	<(システム計算：77.67776%)		

10-14 位置確認

○建築基準法施行規則法1条の3表2に規定する「水平投影位置確認表」を作成する為の位置指定をします。

○指定点は、「平面図／アイソメ／天空図」で確認が可能です。

※立面図には表示しません。

① ② ③

④

⑤ 道路斜線 No:1 境界線:2 ⑥ 測定点: 6 ⑦ 自動探索 ⑧ 削除

⑨ 建築物
☒ 適合 ☐ 計画

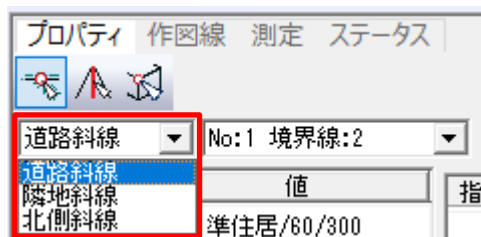
項目	値	指定点No	建物高さ	水平距離	仰角	方位角	cos(h)	
用途地域	準住居/60/300	(1)	20.000m	19.242m	46.107°	-24.567°	0.6933	
適用距離	25m	(2)	25.625m	17.678m	55.400°	225.000°	0.5678	
後退距離	3.000m	(3)	20.000m	8.382m	67.263°	252.646°	0.3865	
地盤高	0.000m	(4)	20.000m	8.000m	68.199°	270.000°	0.3714	
道路幅員	5.000m/10.000m							
ピッチ	2.500m							
最大道路	10.000m							
ケール°								
	⑩				⑪			

番号	項目	概要
①	測定点選択	測定点を選択します
②	位置確認線選択	位置確認線を選択します
③	端点選択	指定点端点を選択します
④	斜線制限選択	位置確認線を表示する斜線制限を選択します
⑤	天空率算定領域選択	位置確認線を表示する天空率算定領域を選択します
⑥	測定点番号	測定点番号を表示します
⑦	自動探索	位置確認線を自動探索します
⑧	削除	位置確認線を全て削除します
⑨	建築物選択	位置確認線を表示する建築物を選択します
⑩	ステータス	選択した天空率算定領域のステータスを表示します
⑪	位置確認表	水平投影位置確認表を表示します

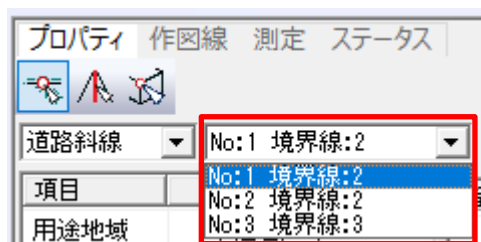
10-14-1 測定点を選択する

[操作手順]

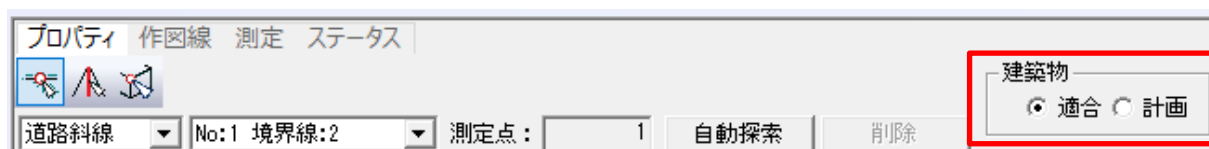
- 1) 「斜線制限選択」プルダウンメニューより、位置確認線を表示する斜線制限を選択します。



- 2) 「天空率算定領域選択」プルダウンメニューより、位置確認線を表示する天空率算定領域を選択します。



- 3) 「建築物選択」で、位置確認線を表示する建築物を選択します。



- 4) 「測定点選択」コマンドを選択します。

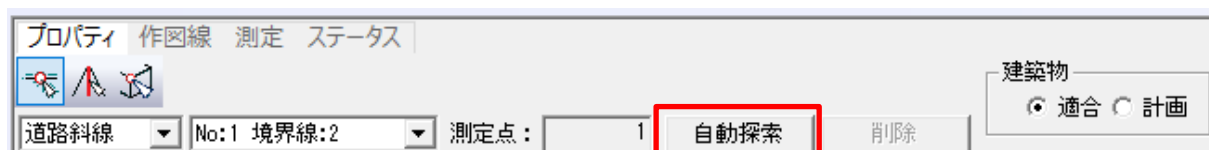


- 5) 平面図で測定点を選択します。
※天空率計算メニューでも測定点を選択可能です。

10-14-2 位置確認線を自動で作成する

[操作手順]

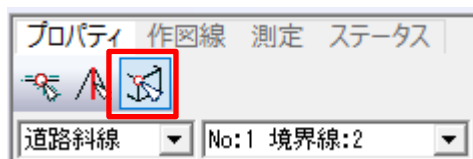
- 1) 位置確認線を作成する測定点を選択します。
- 2) 「自動探索」を選択します。



10-14-3 任意の位置確認線を作成・削除する

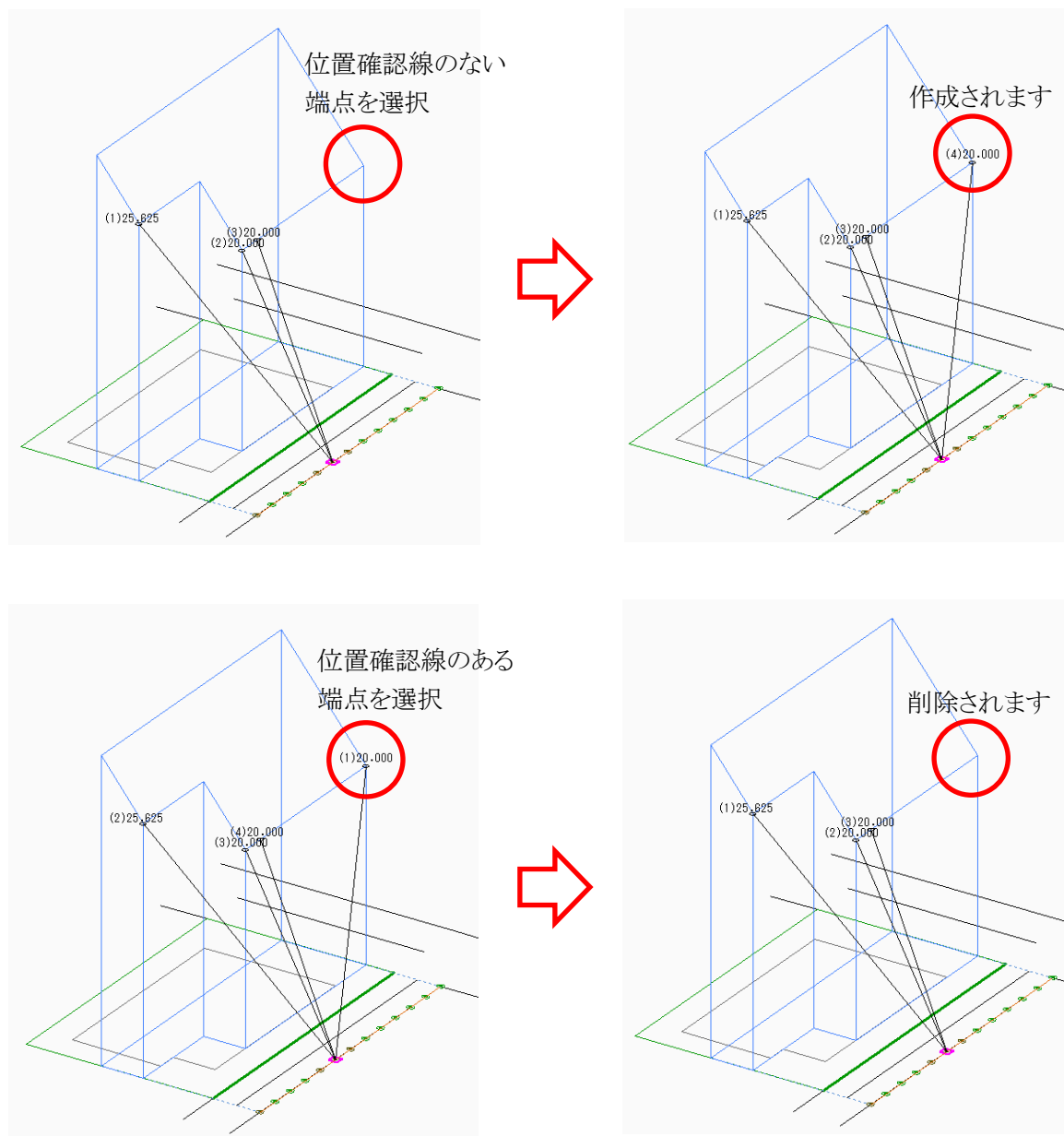
[操作手順]

- 1) 位置確認線を作成・削除する測定点を選択します。
- 2) 「端点選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図、アイソメ図または天空図で位置確認線を作成・削除する端点を選択します。

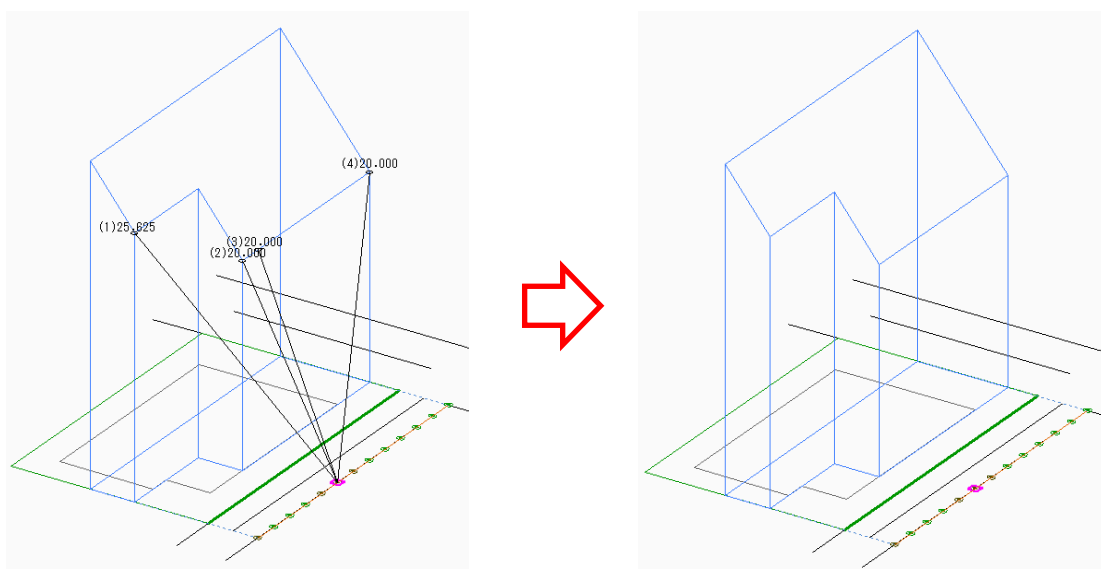
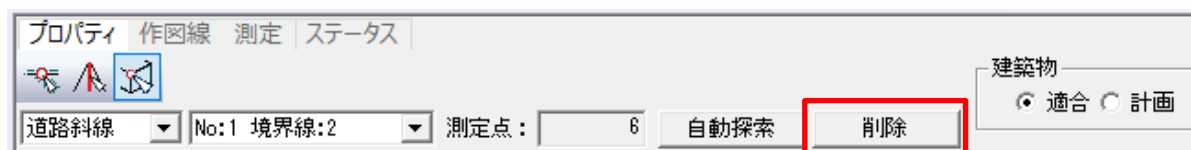
・アイソメ図での作成・削除の例



10-14-4 測定点の位置確認線を全て削除する

[操作手順]

- 1) 位置確認線を削除する測定点を選択します。
- 2) 「削除」を選択します。



10-14-5 位置確認線を確認する

[操作手順]

- 1) 位置確認線を確認する測定点を選択します。
- 2) 「位置確認線選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図またはアイソメ図で位置確認線を選択します

10-14-6 位置確認表の見方

①	②	③	④	⑤	⑥
指定点No	建物高さ	水平距離	仰角	方位角	cos(h)
(1)	20.000m	19.242m	46.107°	-24.567°	0.6933
(2)	25.625m	17.678m	55.400°	225.000°	0.5678
(3)	20.000m	8.382m	67.263°	252.646°	0.3865
(4)	20.000m	8.000m	68.199°	270.000°	0.3714

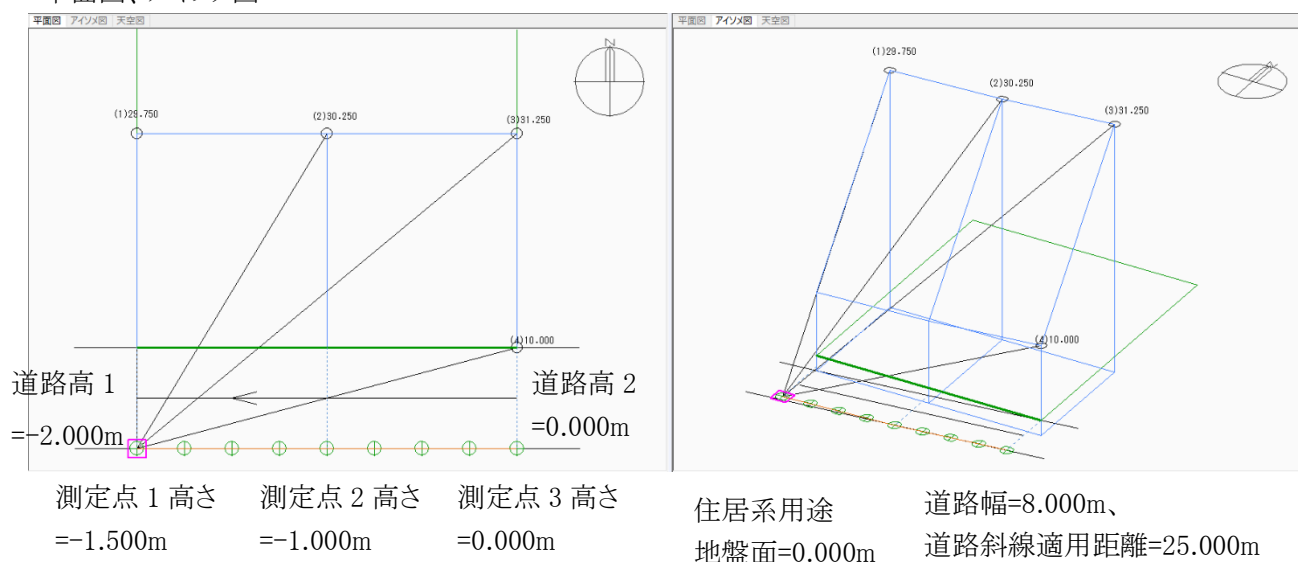
番号	項目	概要	
①	指定点 No	指定点番号を表示します	
		適合建築物	数字で表示します
		計画建築物	アルファベットで表示します
②	建物高さ	測定点からの指定点の高さを表示します	
③	水平距離	測定点から指定点までの水平距離を表示します	
④	仰角	測定点から指定点までの仰角を表示します	
⑤	方位角	測定点から指定点までの方位角を表示します	
⑥	cos(h)	測定点における cos(h) を表示します	

10-14-6-1 道路と地盤に高低差がある場合の適合建築物の位置確認表の見方

○平面図、アイソメ図に表示される指定点の高さは、本システムの±0からの高さです。

○位置確認表に表示される指定点の高さは、測定点からの高さです。

・平面図、アイソメ図



・位置確認表

指定点No	建物高さ	水平距離	仰角	方位角	cos(h)
(1)	31.250m	25.000m	51.340°	0.000°	0.6247
(2)	31.750m	29.193m	47.403°	31.087°	0.6768
(3)	32.750m	39.164m	39.903°	50.332°	0.7671
(4)	11.500m	31.190m	20.239°	75.138°	0.9383

指定 点 No	適合建築物高さ	本システム ±0 からの高さ	測定点 1 からの高さ
(1)	$25.000 \times 1.25 - 1.500 = 29.750\text{m}$	29.750m	$29.750 + 1.500 = 31.250\text{m}$
(2)	$25.000 \times 1.25 - 1.000 = 30.250\text{m}$	30.250m	$30.250 + 1.500 = 31.750\text{m}$
(3)	$25.000 \times 1.25 = 31.250\text{m}$	31.250m	$31.250 + 1.500 = 32.750\text{m}$
(4)	$8.000 \times 1.25 = 10.000\text{m}$	10.000m	$10.000 + 1.500 = 11.500\text{m}$

10-14-7 位置確認表の出力について

○天空率計算結果は、印刷プレビューの「表を選択」で「天空率位置確認表」を選択することで出力します。

○選択した測定点の位置確認表が表示されます。

天空率位置確認表[道路斜線]

No=1 [適合建築物] r=100mm

指定点	建物高さ	水平距離	仰角	方位角	r cos(h)
(1)	31.250m	25.000m	51.340°	0.000°	62.47mm
(2)	31.750m	29.193m	47.403°	31.087°	67.68mm
(3)	32.750m	39.164m	39.903°	50.332°	76.71mm
(4)	11.500m	31.190m	20.239°	75.138°	93.83mm

10-15 放射範囲

○天空率算定領域の基本処理を「放射」に設定した場合に、放射範囲を任意に設定します。

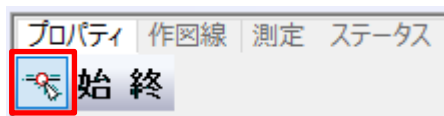
※東京方式で入隅の天空率算定領域をグループ化した場合には放射範囲の設定を行って下さい。

番号	項目	概要
①	測定点選択	測定点を選択します
②	放射基点始点指定	放射範囲の始点となる境界線端点を指定します
③	放射基点終点指定	放射範囲の終点となる境界線端点を指定します
④	高さ制限選択	設定を行う高さ制限を選択します
⑤	天空率算定領域選択	設定を行う天空率算定領域を選択します
⑥	測定点	選択した測定点番号を表示します
⑦	ステータス	選択した天空率算定領域のステータスを表示します
⑧	前面領域を含む	チェックを入れると、前面領域を含みます

10-15-1 放射範囲を設定する

[操作手順]

- 1) 設定を行う天空率算定領域を表示します。
※基本処理を「放射」に設定する必要があります。
- 2) 「測定点選択」コマンドを選択します。

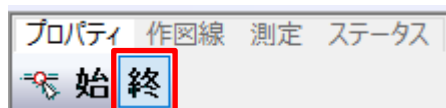


- 3) 平面図で対象とする測定点を範囲指定で選択します。
- 4) 「放射基点始点指定」コマンドを選択します。

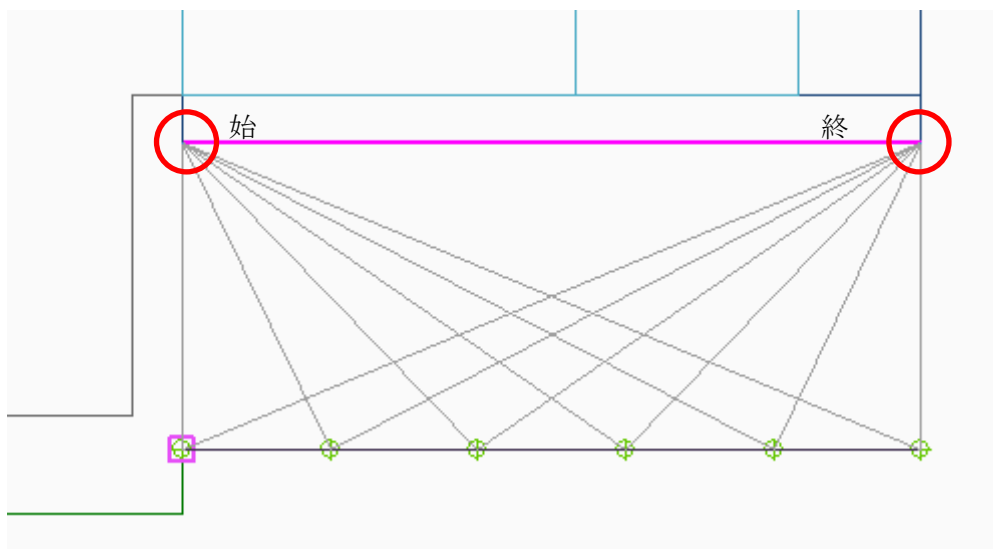


- 5) 平面図で放射範囲の始点となる境界線端点を指定します。

6) 「放射基点終点指定」コマンドを選択します。



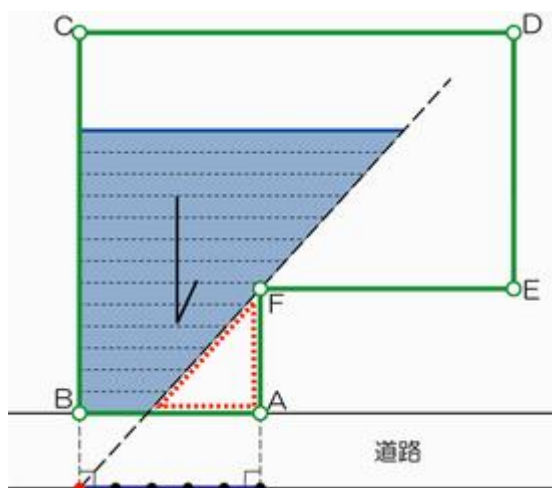
7) 平面図で放射範囲の終点となる境界線端点を指定します。



※測定点から放射範囲を示すラインが表示されます。

10-15-2 前面領域を含む

○始点・終点それぞれの放射範囲より外側のエリアで指定点より手前の領域を適合及び計画建築物として含む場合にチェックします。



通常は、この放射基点より内側（測定点側）に存在する領域を含みますのでチェックを入れます。

10-16 立断面線

- 建築基準法施行規則法1条の3表2に規定する「2面以上の立面図」の為の立断面図を作成します。
- 位置確認線及び位置確認指定点は表示しません。

① ② ③ ④

⑤ 道路斜線 ⑥ No:1 境界線:2 ⑦ 測定点: 1 ⑧ 更新

項目	値	No	方向	反転	距離
用途地域	準住居/60/300	1	平行		0.000
適用距離	25m	2	垂直		-15.000
後退距離	3.000m				
地盤高	0.000m				
道路幅員	5.000m/10.000m				
ピッチ	2.500m				
最大道路	10.000m				
ケルプ°					

⑨

⑩

⑪

番号	項目	概要
①	選択	立断面線を選択します
②	作成	立断面線を作成します
③	辺移動	選択した立断面線を移動します
④	ブロック削除	選択した立断面線を削除します
⑤	斜線制限選択	位置確認線を表示する斜線制限を選択します
⑥	天空率算定領域選択	位置確認線を表示する天空率算定領域を選択します
⑦	測定点番号	測定点番号を表示します
⑧	更新	プレビューを更新します
⑨	ステータス	選択した天空率算定領域のステータスを表示します
⑩	立断面線リスト	立断面線をリスト表示します
⑪	プレビュー	選択した立断面線の立断面をプレビュー表示します

10-16-1 天空率算定領域を選択する

[操作手順]

- 1) 「斜線制限選択」プルダウンメニューより、斜線制限を選択します。

道路斜線 ⑥ No:1 境界線:2 ⑦ 測定点: 6 ⑧ 更新

道路斜線
陸地斜線
北側斜線

値 準住居/60/300

No	方向	反転	距離

- 2) 「天空率算定領域選択」プルダウンメニューより、天空率算定領域を選択します。

道路斜線 ⑥ No:1 境界線:2 ⑦ 測定点: 6 ⑧ 更新

項目 No:1 境界線:2
用途地域 No:2 境界線:2
No:3 境界線:3

No	方向	反転	距離

10-16-2 立断面線を平面図から選択する

[操作手順]

- 1) 「選択」コマンドを選択します。



- 2) 平面図で、立断面線を選択します。

10-16-3 立断面線リスト

① No	② 方向	③ 反転	④ 距離
1	平行		10.000
2	垂直	✓	15.000

番号	項目	概要
①	No	立断面線番号を表示します
②	方向	立断面線の方法を選択します
		平行 立断面線作成時に選択した境界線に平行に設定します
		垂直 立断面線作成時に選択した境界線に垂直に設定します
③	反転	チェックを入れると、立断面線の向きを反転します チェックなし チェックあり
④	距離	立断面線作成時に選択した境界線からの距離を表示します 直接入力が可能です

10-16-4 立断面線をリストから選択する

[操作手順]

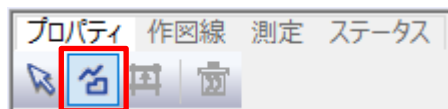
- 1) 「立断面線リスト」より、立断面線を選択します。

No	方向	反転	距離
1	平行		0.000
2	垂直		10.000

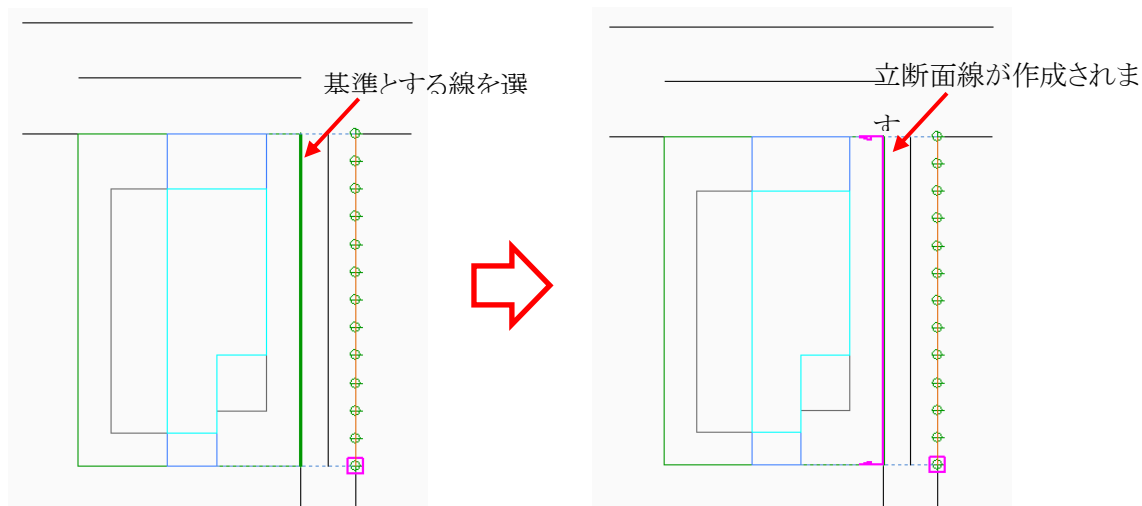
10-16-5 立断面線を作成する

[操作手順]

- 1) 立断面線を作成する天空率算定領域を選択します。
- 2) 「作成」コマンドを選択します。



- 3) 平面図で、立断面線の基準とする線を選択します。
※通常は敷地境界線を選択します。



10-16-6 立断面線の位置や方向を変更する

[操作手順]

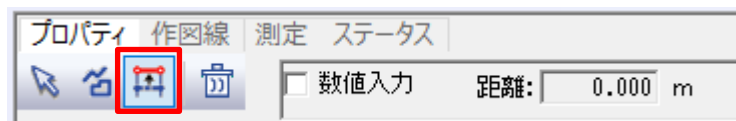
- 1) 方向を変更する立断面線を選択します。
- 2) 「立断面線リスト」より、立断面線の位置・方向を選択します。

No	方向	反転	距離	
1	平行		0.000	
2	垂直		-15.000	

10-16-7 立断面線を移動する

[操作手順]

- 1) 移動する立断面線を選択します。
- 2) 「辺移動」コマンドを選択します。



※「辺移動」コマンドの操作手順は図形編集を参照して下さい。

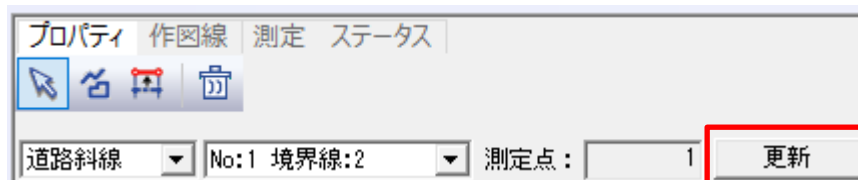
- 3) 立断面線を移動する位置を指定します。

10-16-8 立断面図を更新する

○立断面線の位置等を変更した場合、プレビューを手動更新する必要があります。

[操作手順]

1) 「更新」を選択します。



10-17 適用距離

○道路高さ制限における各天空率算定領域の道路高さ制限適用距離を平面図に表示します。

①
②

項目	値
用途地域	準住居/60/300
適用距離	25m
後退距離	3.000m
地盤高	0.000m
道路幅員	5.000m/10.000m
ピッチ	2.500m
最大道路	10.000m
ケルブ°	
	③

用途地域: 準住居

道路幅員: 10.000 m

適用距離: 25.000 m

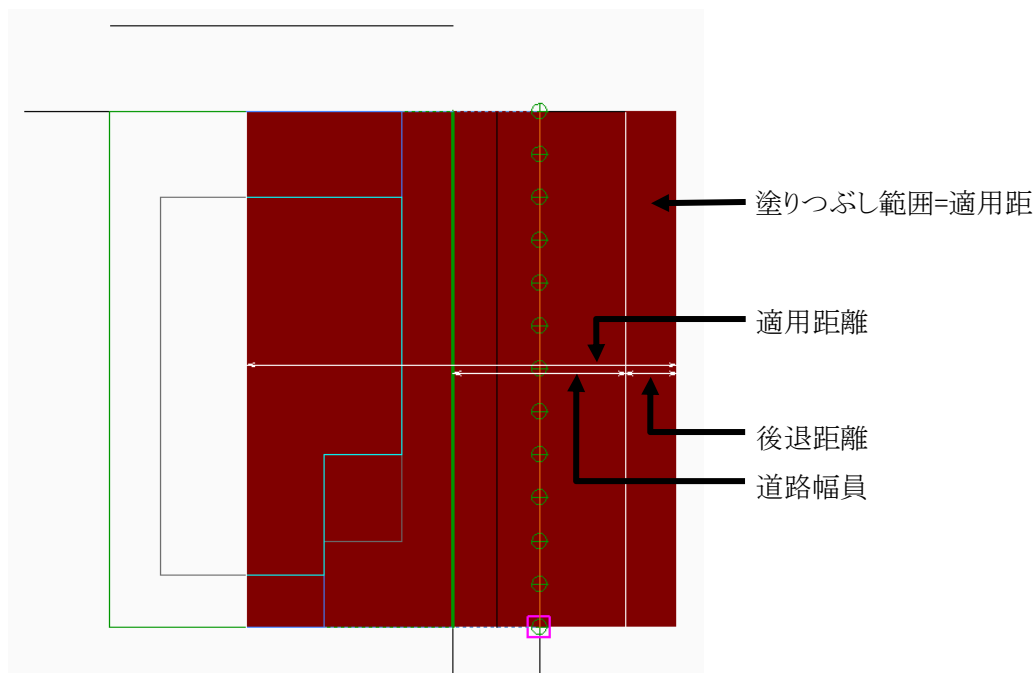
建物後退距離: 3.000 m

④

番号	項目	概要
①	斜線制限選択	適用距離を表示する斜線制限を選択します 道路斜線のみ選択可能です
②	天空率算定領域選択	適用距離を表示する天空率算定領域を選択します
③	ステータス	選択した天空率算定領域のステータスを表示します
④	天空率算定領域情報	選択した天空率算定領域の情報を表示します

10-17-1 適用距離の見方

○境界線単位の道路斜線適用距離を表示します。



10-18 影響建築物

○適合建築物の高さを超える計画建築物の部分を赤色で表示します。

①
②
③

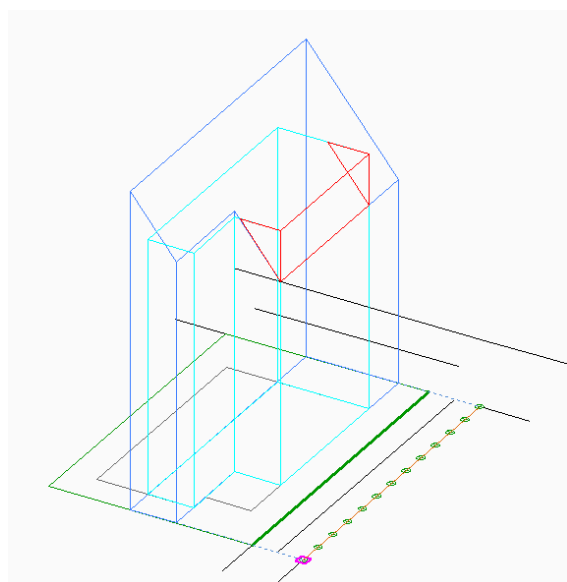
道路斜線 ▼

No:1 境界線:2 ▼

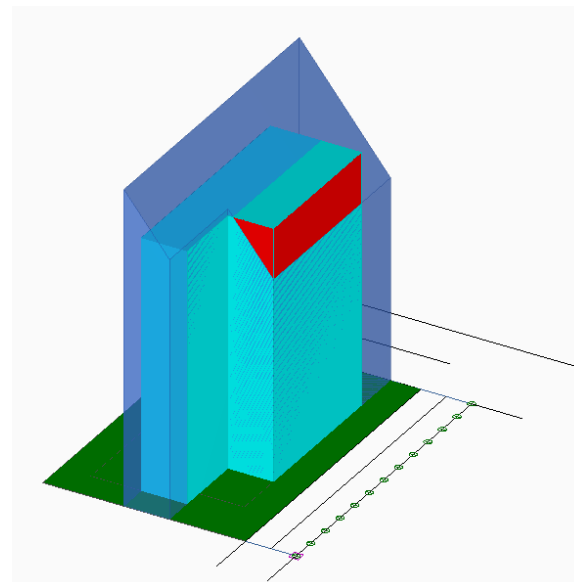
測定点: 1

項目	値
用途地域	準住居/60/300
適用距離	25m
後退距離	3.000m
地盤高	0.000m
道路幅員	5.000m/10.000m
ピッチ	2.500m
最大道路	10.000m
クォール	
	④

番号	項目	概要
①	斜線制限選択	位置確認線を表示する斜線制限を選択します
②	天空率算定領域選択	位置確認線を表示する天空率算定領域を選択します
③	測定点番号	測定点番号を表示します
④	ステータス	選択した天空率算定領域のステータスを表示します



アイソメ図(ワイヤーフレーム表示)



アイソメ図(シェーディング表示)

10-19 複合隣地

- 隣地境界線を一つにまとめて天空率を検討する場合に、複合隣地天空率算定領域を作成します。
- 複合隣地天空率算定領域は斜線勾配毎、地盤高さ毎に作成します。
- 測定点は対象天空率算定領域全体に対して作成します。
- 複合隣地天空率算定領域は、領域リストの属性欄に「複合隣地」として登録されます。

① 用途地域: 準住居 ⑤ 後退距離: 0.000 ⑥ 作成

② 地盤高さ: 0.000m

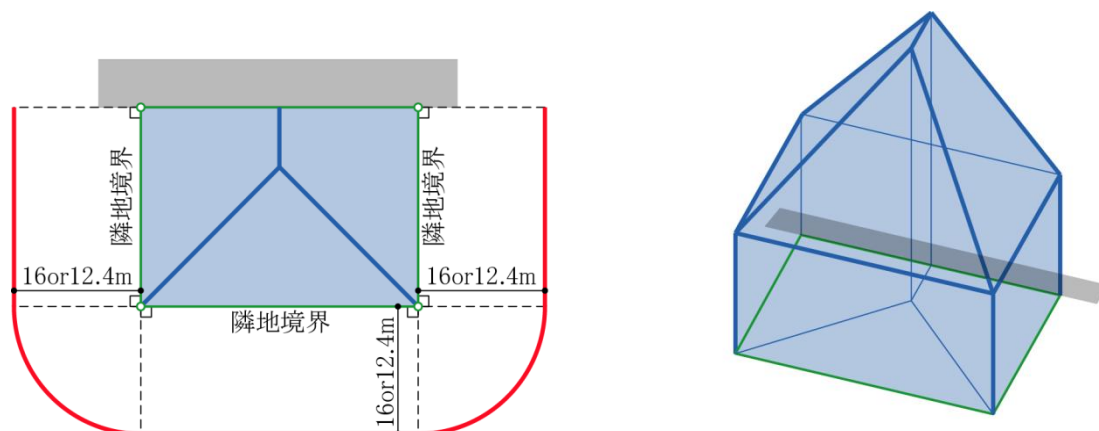
③ ☐ すべての境界線を隣地境界線として処理する

④ ☒ 隣地斜線毎に測定ラインを作成する

番号	項目	概要
①	用途地域選択	複合隣地天空率算定領域を作成する用途地域を選択します
②	地盤高さ選択	複合隣地天空率算定領域を作成する地盤高さを選択します
③	すべての境界線を隣地境界線として処理する	チェックを入れると、全ての敷地境界線を隣地境界線として適合建築物を作成します
④	隣地境界線毎に測定ラインを作成する	チェックを入れると、隣地境界線に対してのみ測定ラインを作成します
⑤	後退距離	後退距離を設定します 通常は当該天空率算定領域の最小値を採用します
⑥	作成	複合隣地天空率算定領域を作成します

10-19-1 複合隣地について

- 複数の隣地高さ天空率算定領域を、一つの複合隣地天空率算定領域にまとめます。
- 複合隣地は JCBA 方式における隣地高さ天空率算定の考え方の一つです。
- 適用の可否については、審査機関と協議して下さい。



10-19-2 複合隣地天空率算定領域を作成する

[操作手順]

- 1) 「用途地域選択」プルダウンメニューより、複合隣地天空率算定領域を作成する用途地域を選択します。

プロパティ 作図線 測定 ステータス

用途地域: 準住居 後退距離: 0.000 作成

地盤高さ: 準住居
商業

☐ すべての境界線を隣地境界線として処理する

☒ 隣地斜線毎に測定ラインを作成する

- 2) 「地盤高さ選択」プルダウンメニューより、複合隣地天空率算定領域を作成する地盤高さを選択します。

プロパティ 作図線 測定 ステータス

用途地域: 準住居 後退距離: 0.000 作成

地盤高さ: 0.000m
0.000m
3.000m

☐ すべての境界線を隣地境界線として処理する

☒ 隣地斜線毎に測定ラインを作成する

- 3) 後退距離を設定します。

プロパティ 作図線 測定 ステータス

用途地域: 準住居 後退距離: 1.000 作成

地盤高さ: 0.000m

☐ すべての境界線を隣地境界線として処理する

☒ 隣地斜線毎に測定ラインを作成する

- 4) 必要に応じて、「すべての境界線を隣地境界線として処理する」及び「隣地境界線毎に測定ラインを作成する」にチェックを入れます。

プロパティ 作図線 測定 ステータス

用途地域: 準住居 後退距離: 0.000 作成

地盤高さ: 0.000m

☐ すべての境界線を隣地境界線として処理する

☒ 隣地斜線毎に測定ラインを作成する

- 5) 「作成」を選択します。

プロパティ 作図線 測定 ステータス

用途地域: 準住居 後退距離: 0.000 作成

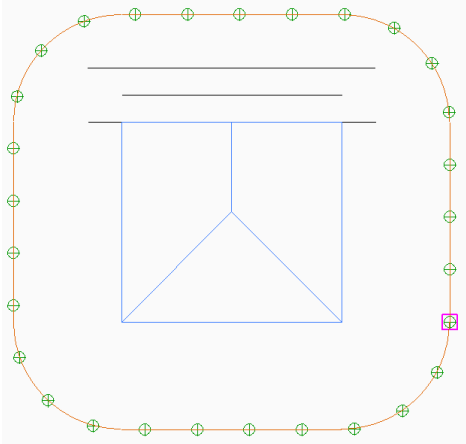
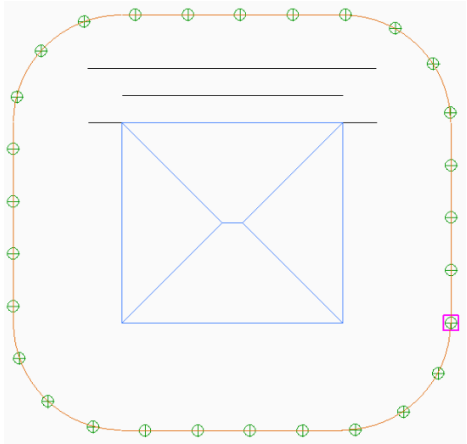
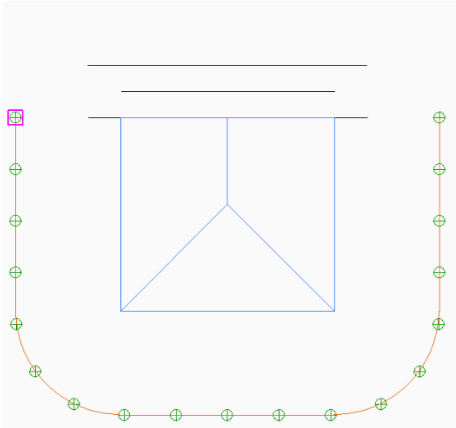
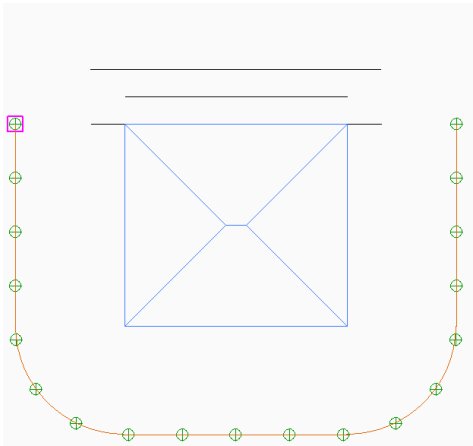
地盤高さ: 0.000m

☐ すべての境界線を隣地境界線として処理する

☒ 隣地斜線毎に測定ラインを作成する

10-19-3 複合隣地天空率算定領域の作成方法を設定する

○「すべての境界線を隣地境界線として処理する」及び「隣地境界線毎に測定ラインを作成する」のチェックの組み合わせによって、適合建築物及び測定ラインが異なります。

		すべての境界線を隣地境界線として処理する	
		チェック無	チェック有
隣地境界線毎に測定ラインを作成する	チェック無		
	チェック有	 ※デフォルト設定	

10-20 自動カット

○逆天空率計算によって、計画建築物が天空率計算に適合するように自動でカットします。

○天空率算定領域内の全測定点を計算の対象とします。

○方位角または仰角のカットする割合を設定可能です。

○天空率計算の計算 1(システム計算)の結果に対して計算を実行します。

○天空率計算の結果が無くても実行可能です。

○ボリューム検討としての利用を想定しています。

※グループ化した天空率算定領域は計算できません。

※カットした計画建築物は、天空率解析および天空率用図形においてのみ有効です。

The screenshot shows the 'Automatic Cut' (自動カット) dialog box. At the top, there are three dropdown menus labeled ①, ②, and ③. ① is 'Road Slope' (道路斜線), ② is 'No:1 Boundary Line:2' (境界線:2), and ③ is 'Measurement Point: 6' (測定点: 6). Below these is a table with two columns: 'Item' (項目) and 'Value' (値). The table contains the following data:

項目	値
用途地域	準住居/60/300
適用距離	25m
後退距離	3.000m
地盤高	0.000m
道路幅員	5.000m/10.000m
ピッチ	2.500m
最大道路	10.000m
グレート	

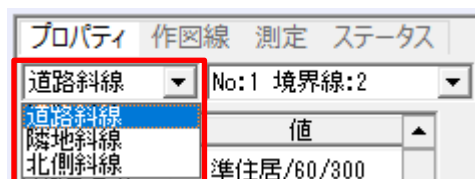
Below the table is a button labeled ⑤ 'Calculate' (計算). To the right of the button are two checkboxes labeled ⑥: 'Left Side Cut' (左側カット) and 'Right Side Cut' (右側カット), both of which are checked. To the right of these checkboxes is a text input field labeled ⑦ 'Safety Rate' (安全率) with the value '0.020 %'. Below this is a slider labeled ⑧ for 'Azimuth' (方位角) and 'Elevation' (仰角). The slider has a scale from 100% to 0%.

番号	項目	概要
①	斜線制限選択	位置確認線を表示する斜線制限を選択します
②	天空率算定領域選択	位置確認線を表示する天空率算定領域を選択します
③	測定点番号	測定点番号を表示します
④	ステータス	選択した天空率算定領域のステータスを表示します
⑤	計算	自動カットを実行します
⑥	方位角カット方向選択	測定ライン側から建築物を見た場合の、方位角カット方向を設定します 両方にチェックをした場合、左右均等にカットします
⑦	安全率	自動カット実行後に確保する、計算 1(システム計算)の安全率((計一適)の数字)を設定します ※自動カット計算は、計算 1 に対して実行するため、計算 2 での結果を考慮する場合は、安全率に天空率計算の「差 1-差 2」の値を加えた数値以上の数値を設定します ex.安全率=0.020%、「差 1-差 2」=0.050 の場合 0.020 + 0.050 = 0.070 を入力します
⑧	方位角-仰角割合設定	カットする割合を、スライダーをドラッグして設定します
		方位角 間口方向です
		仰角 高さ方向です

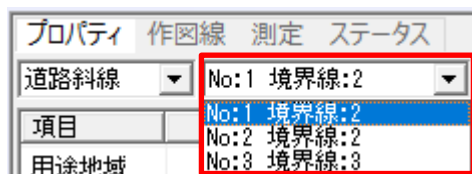
10-20-1 自動カットを行う天空率算定領域を選択する

[操作手順]

- 1) 「斜線制限選択」プルダウンメニューより、斜線制限を選択します。



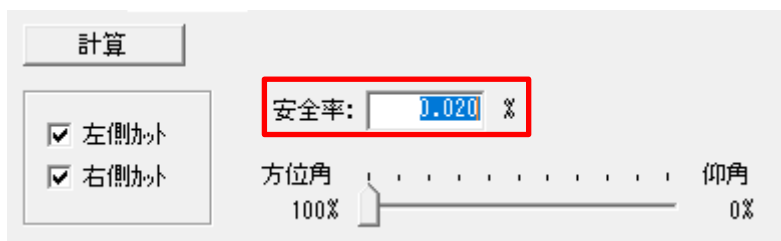
- 2) 「天空率算定領域選択」プルダウンメニューより、天空率算定領域を選択します。



10-20-2 自動カットを実行する

[操作手順]

- 1) 自動カットを行う天空率算定領域を選択します。
- 2) 安全率を設定します。



- 3) 「方位角-仰角割合設定」スライダーで、方位角と仰角のカットする割合を設定します。



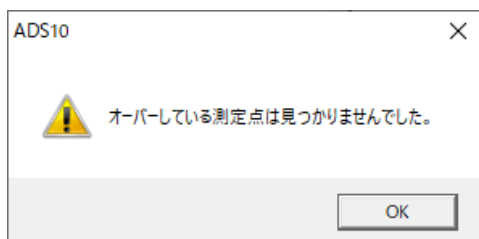
- 4) 「方位角カット方向選択」で、方位角カット方向を設定します。



5) 「計算」を選択します。

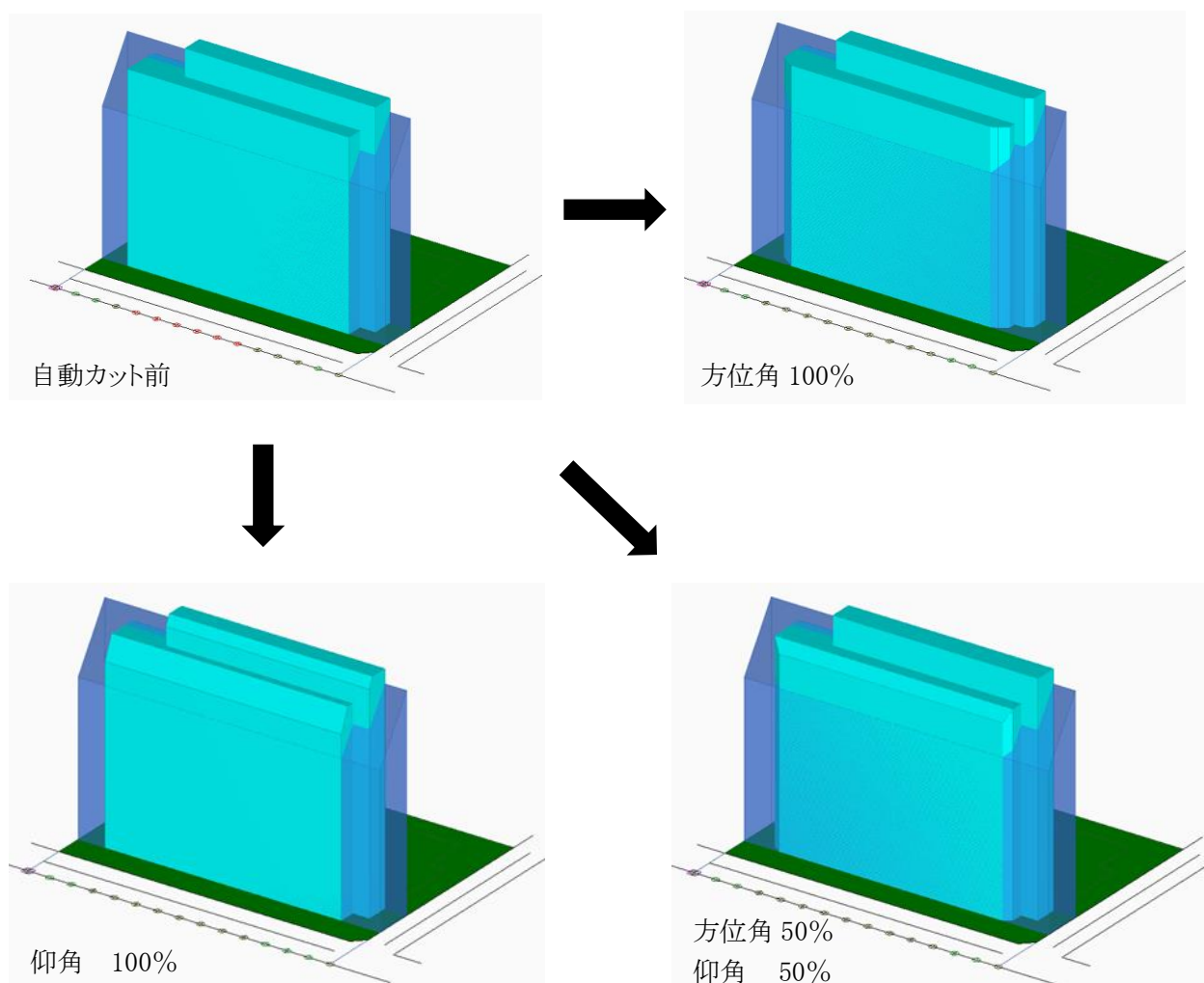


6) 計算が終了すると、確認ダイアログが開きます。



7) 「OK」を選択します。

10-20-3 「方位角-仰角割合設定」による自動カット形状の違い



10-21 ナビ

- 逆天空率計算によって、計画建築物が天空率計算に適合する形状をシミュレーションします。
- 方位角または仰角によるシミュレーションが可能です。
- 個別の測定点を計算の対象とします。
- 計算結果による計画建築物の調整が可能です。
- 天空率計算の計算 1 (システム計算) の結果に対して計算を実行します。
- ある程度計画が進んだ状態での比較検討用としての利用を想定しています。

※調整した計画建築物は、天空率解析および天空率用図形においてのみ有効です。

① 道路斜線 ② No.1 境界線:5 ③ 測定点: 8 ④ 計算 ⑤ 調整 ⑥ アイソメ角度 ⑦ 天空率計算 ⑧ 作図線に登録

項目	値
用途地域	近隣商業/80/480
適用距離	25m
後退距離	5.000m
地盤高	0.000m
道路幅員	8.000m/8.000m
ピッチ	3.929m
最大道路	8.000m
カル-7°	

⑨

天空率	
適合建築物:	74.309 %
計画建築物:	73.120 %
差:	-1.189 %
安全率:	0.020 %

⑩

⑪

⑫ 方位角で調整

左		右	
調整する	☒	調整する	☒
直線距離:	25.986 m	直線距離:	24.274 m
間口調整(角度):	3.201 °	間口調整(角度):	3.201 °
間口調整(距離):	2.648 m	間口調整(距離):	2.329 m
角度(全体):		117.601 °	

※選択した調整方向によって表示が異なります。

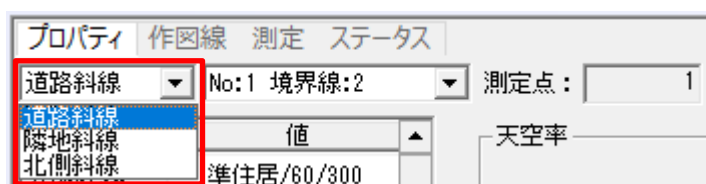
番号	項目	概要
①	斜線制限選択	位置確認線を表示する斜線制限を選択します
②	天空率算定領域選択	位置確認線を表示する天空率算定領域を選択します
③	測定点番号	測定点番号を表示します
④	計算	計算を実行します
⑤	調整	計画建築物を調整(カット)します
⑥	アイソメ角度	アイソメ図の表示を適合建築物の側面からのアングルにします
⑦	天空率計算	設定した調整値を適用して天空率計算を実行します
⑧	作図線に登録	方位角の調整角度を示す線を作図線に登録します
⑨	ステータス	選択した天空率算定領域のステータスを表示します
⑩	天空率	選択した測定点の調整値を考慮した天空率等を表示します
		適合建築物 適合建築物の天空率を表示します
		計画建築物 計画建築物の天空率を表示します
		差 計画建築物の天空率と適合建築物の天空率の差を表示します
		安全率 調整後に確保する、計算 1 (システム計算) の安全率 ((計-適) の数字) を設定します ※ナビ計算は、計算 1 に対して実行するため、計算 2 での結果を考慮する場合は、安全率に天空率計算の「差 1-差 2」の値を加えた数値以上の数値を設定します ex.安全率=0.020%、「差 1-差 2」=0.050 の場合 0.020 + 0.050 = 0.070 を入力します

番号	項目	概要	
⑪	シミュレーショングラフ	ナビ計算結果をグラフ表示します	
⑫	調整方向選択	調整する方向を選択します 選択する方向によって設定内容が異なります	
		方位角で調整	間口方向で調整します
		仰角で調整	高さ方向で調整します

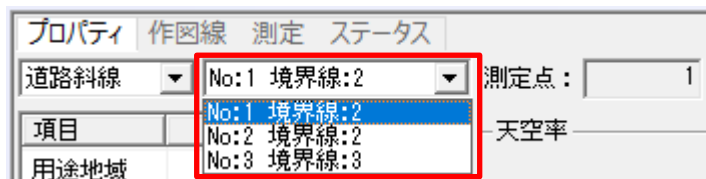
10-21-1 測定点を選択する

[操作手順]

- 1) 「斜線制限選択」プルダウンメニューより、ナビ計算を行う斜線制限を選択します。



- 2) 「天空率算定領域選択」プルダウンメニューより、ナビ計算を行う天空率算定領域を選択します。



- 3) 平面図で測定点を選択します。
※天空率計算メニューでも測定点を選択可能です。

10-21-2 方位角で調整する

○方位角での調整は、天空率計算の結果が不適合(「計算 1(システム計算)」の「計-適」の数値がマイナス)の測定点が対象です。

○天空率計算の結果が適合の測定点は計算できません。

番号	項目	概要
①	調整する	測定点から建築物を見た場合の、方位角調整方向を設定します チェックを入れた方向の調整をします
②	直線距離	測定点から間口端点までの水平距離を表示します
③	間口調整(角度)	調整前の測定点から間口端点までの直線と、調整後の測定点から間口端点までの直線の差の角度を表示します 任意の角度を設定できます
④	間口調整(距離)	調整前の測定点から間口端点までの直線と、調整後の測定点から間口端点までの直線の水平移動距離を表示します 任意の距離を設定できます
⑤	角度(全体)	調整前の測定点から左右の間口端点までの内角を表示します

[操作手順]

- 1) 方位角で調整する測定点を選択します。
- 2) 「調整方向選択」プルダウンメニューより、「方位角で調整」を選択します。

- 3) 「安全率」を設定します。

- 4) 必要に応じて、調整する方向を選択します。

	左	右
調整する	☒	☒
直線距離:	0.000 m	0.000 m
間口調整(角度):	0.000 °	0.000 °
間口調整(距離):	0.000 m	0.000 m

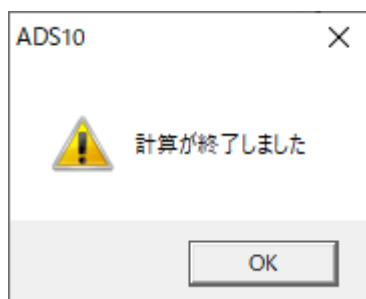
- 5) 「計算」を選択します。

プロパティ 作図線 測定 ステータス

道路斜線 ▼ No:1 境界線:2 ▼ 測定点: 8

計算 調整

- 6) 計算が終了すると、確認ダイアログが開きます。



- 7) 「OK」を選択します。
8) 必要に応じて「調整」を選択します。

プロパティ 作図線 測定 ステータス

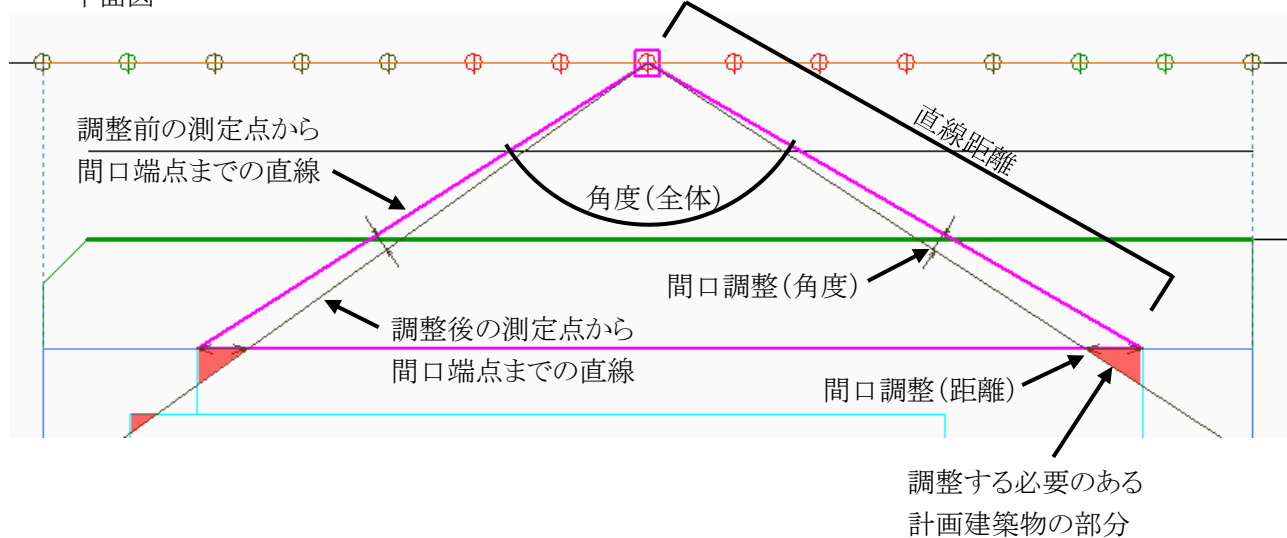
道路斜線 ▼ No:1 境界線:5 ▼ 測定点: 7

計算 調整

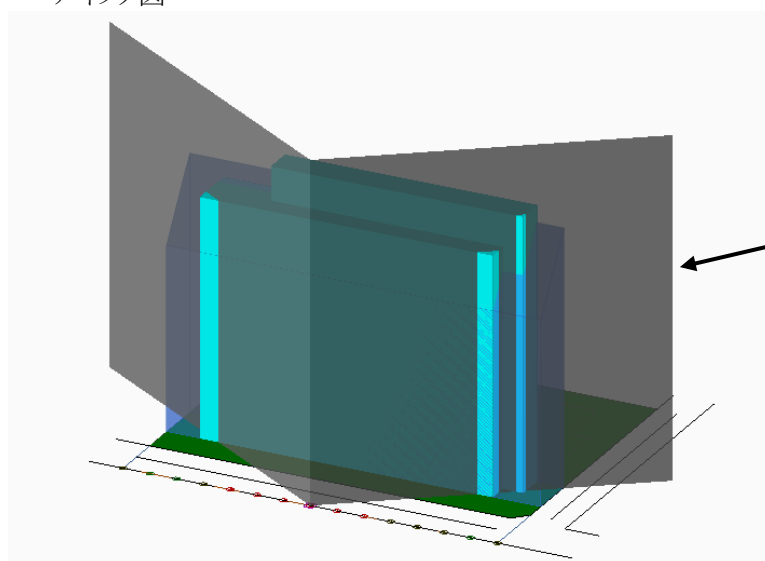
10-21-3 方位角で調整した結果の見方

○調整後の測定点から間口端点までの直線内に建物を収めることで、設定した安全率に天空率が適合します。

・平面図



・アイソメ図



シェーディング表示にすると、調整後の測定点から間口端点までの直線を表示します

10-21-4 仰角で調整する

○仰角で調整する場合、間口を一定と仮定しての最大高さの逆天空率計算が可能です。

番号	項目	概要
①	直線距離	測定点から、計画建築物までの最短距離を表示します
②	角度(全体)	測定点からの計画建築物までの仰角を表示します
③	高さ調整(角度)	角度(全体)と、ナビラインの仰角の差を表示します 任意の角度を設定できます
④	高さ調整(距離)	角度(全体)と、ナビラインの垂直距離を表示します 任意の角度を設定できます
⑤	前面立ち上がりでフラット処理	天空率に適合している測定点でナビ計算をする場合に有効になります チェックを入れると、計画建築物の形状を前面立ち上がり高さで上面が平面として調整します
⑥	計算対象	計算対象とする計画建築物を選択します
		全て 全ての計画建築物を計算対象とします
		選択のみ 選択した計画建築物を計算対象とします

[操作手順]

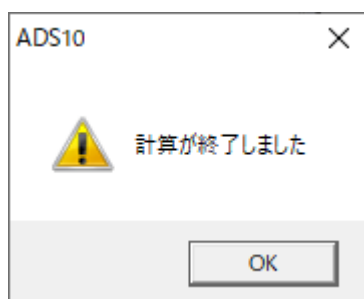
- 1) 仰角で調整する測定点を選択します。
- 2) 「調整方向選択」プルダウンメニューより、「仰角で調整」を選択します。

- 3) 「安全率」を設定します。

- 4) 必要に応じて、計算対象を選択します。

- 5) 「計算」を選択します。

- 6) 計算が終了すると、確認ダイアログが開きます。

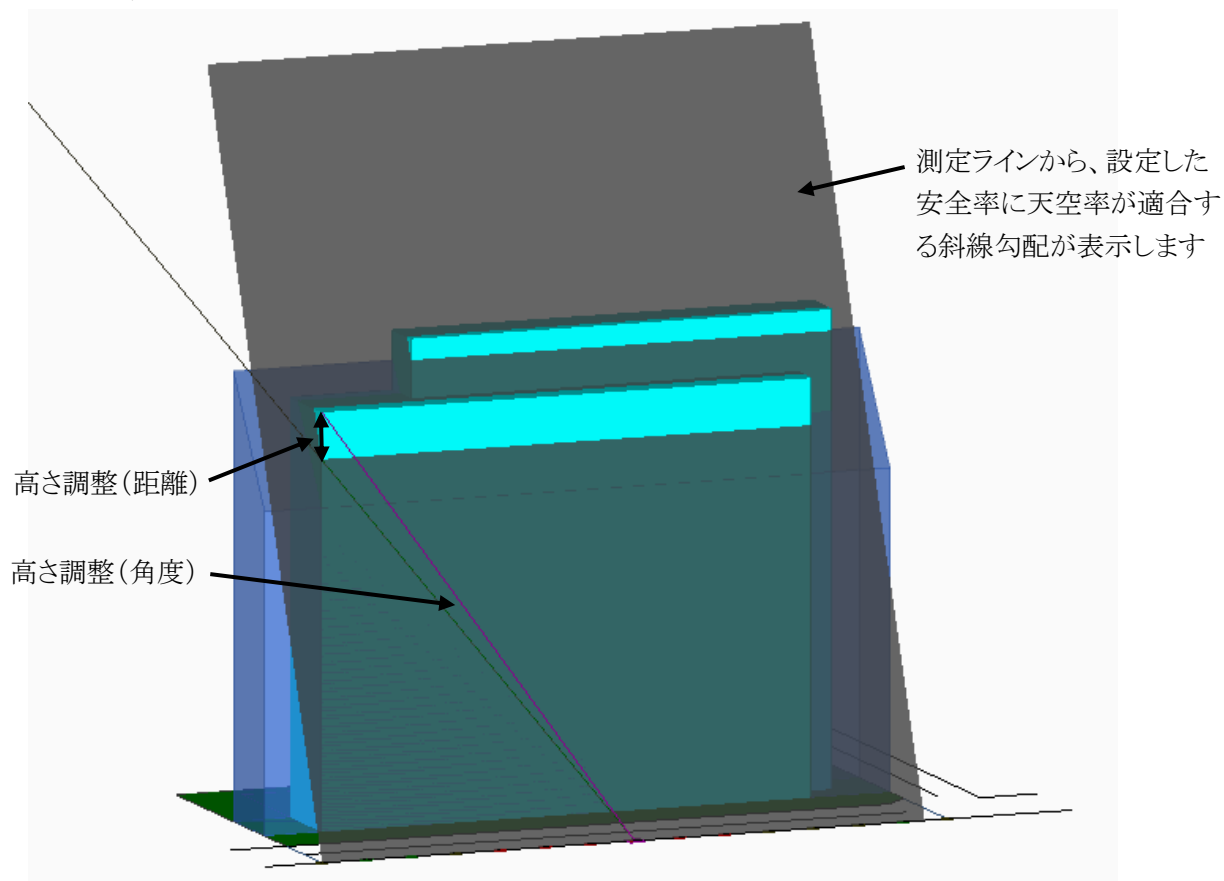


- 7) 「OK」を選択します。
8) 必要に応じて「調整」を選択します。

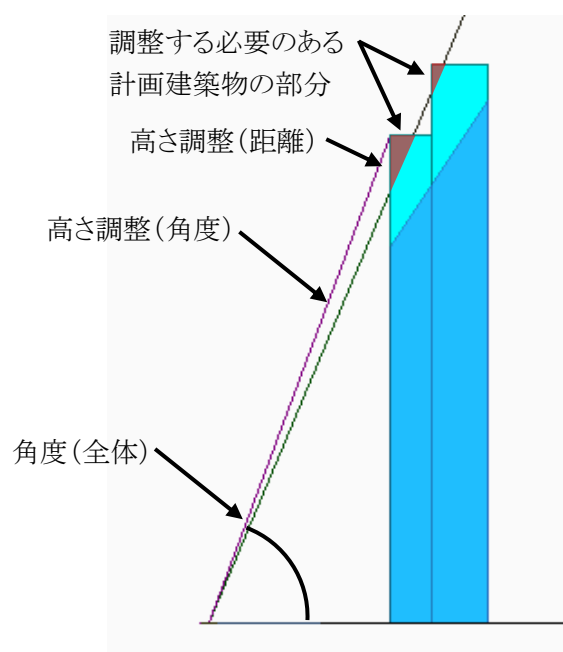
10-21-5 仰角で調整した結果の見方

- 測定ラインから発生する斜線勾配内に建物を収めることで、設定した安全率に天空率が適合します。
- アイソメ図をシェーディング表示にすることで結果が表示されます。

・アイソメ図



・アイソメ図(「アイソメ計算」を選択して表示)

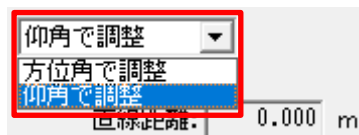


10-21-6 仰角を調整して最大高さを逆天空率計算する

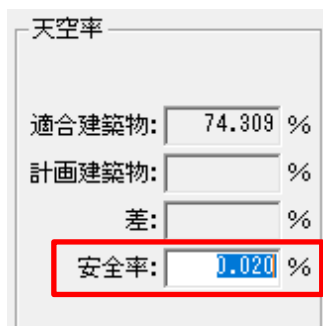
○天空率計算に適合している測定点を選択する必要があります。

[操作手順]

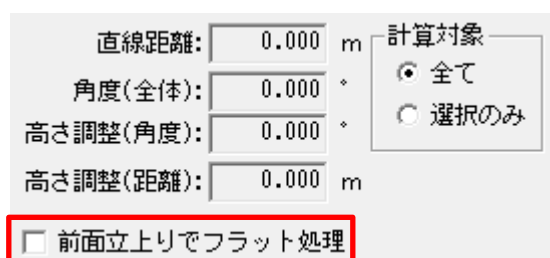
- 1) 仰角で調整する測定点を選択します。
- 2) 「調整方向選択」プルダウンメニューより、「仰角で調整」を選択します。



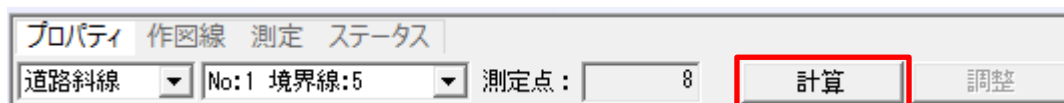
- 3) 「安全率」を設定します。



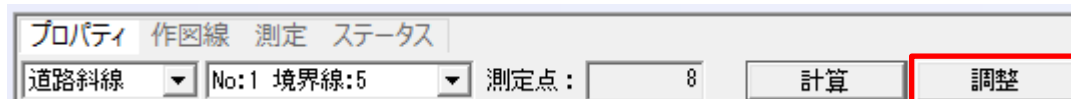
- 4) 必要に応じて、「前面立ち上がりでフラット処理」にチェックを入れます。



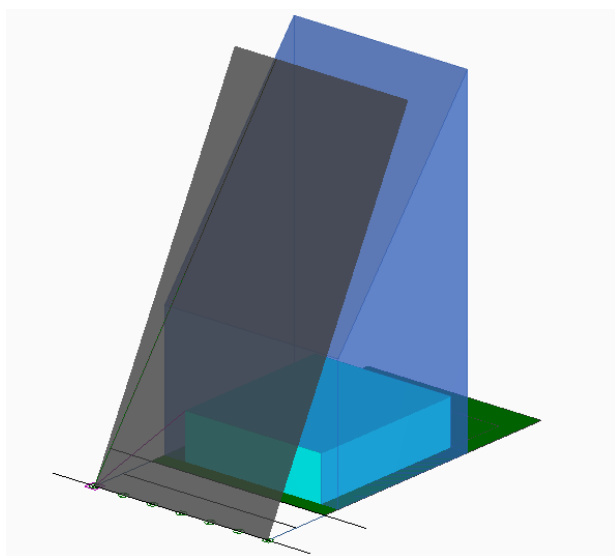
- 5) 「計算」を選択します。



- 6) 計算が終了すると、確認ダイアログが開きます。
- 7) 「OK」を選択します。
- 8) 「調整」を選択します。

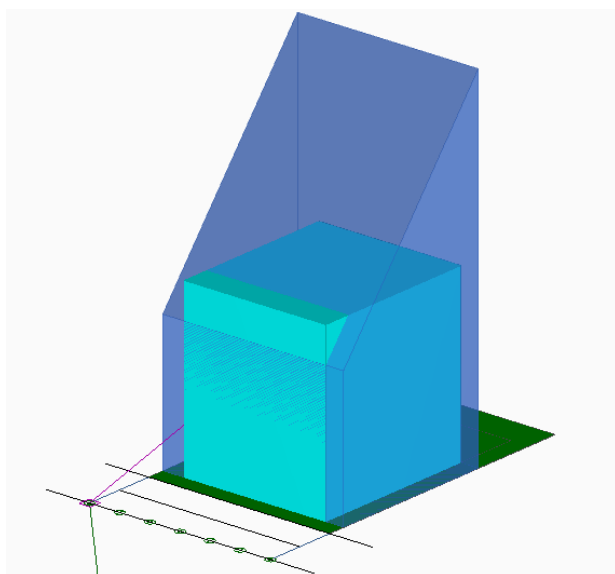


・調整前

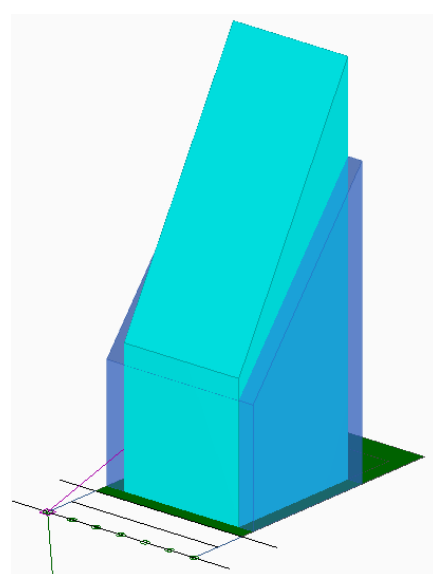


天空率計算に適合している測定点を選択します

天空率	
適合建築物:	89.753 %
計画建築物:	97.972 %
差:	8.219 %
安全率:	0.020 %



「前面立ち上がりでフラット処理」にチェック有



「前面立ち上がりでフラット処理」にチェック無

10-22 適合後退ナビ

- 適合建築物の後退距離をシミュレーションします。
- 測定点単位の計算を実行します。
- グループ化した天空率算定領域は計算できません。
- シミュレーション結果は天空率計算の後退距離に反映されません。簡易設定または境界条件で設定します。

①

②

③

④

⑤

道路斜線

No:1 境界線:1

測定点: 9

計算

天空率計算

項目

値

用途地域

商業/30/1500

適用距離

50m

後退距離

7.881m

地盤高

0.000m

道路幅員

12.000m/12.000m

ピッチ

5.974m

最大道路

12.000m

カルーフ

⑥

計画天空率:

⑦ 79.695 %

ピッチ:

⑧ 0.500 m

⑨ 適合後退距離

現在: 7.881 m

天空率: 79.904 %

計-適: -0.209 %

最適値: 4.500 m

天空率: 79.585 %

計-適: 0.110 %

調整値: 4.500 m

⑩

番号	項目	概要
①	斜線制限選択	位置確認線を表示する斜線制限を選択します
②	天空率算定領域選択	位置確認線を表示する天空率算定領域を選択します
③	測定点番号	測定点番号を表示します
④	計算	適合建築物後退距離シミュレーションを実行します
⑤	天空率計算	調整値による天空率計算を実行します
⑥	ステータス	選択した天空率算定領域のステータスを表示します
⑦	計画天空率	選択した測定点の計画建築物の天空率を表示します
⑧	ピッチ	後退距離シミュレーションを行うピッチを設定します
⑨	適合後退距離	適合建築物の後退距離や、後退距離変更による天空率の結果を表示します
		現在 現在の後退距離を表示します
		天空率 現在の後退距離での計算 1(システム計算)の適合建築物の天空率を表示します
		計-適 現在の後退距離での計算 1(システム計算)の計画建築物の天空率と適合建築物の天空率の差を表示します
		最適値 適合建築物の天空率が最小となる後退距離を表示します
		天空率 「調整値」を後退距離に適用した場合の、計算 1(システム計算)の適合建築物の天空率を表示します
		計-適 「調整値」を後退距離に適用した場合の、計算 1(システム計算)の計画建築物の天空率と適合建築物の天空率の差を表示します
		調整値 シミュレーションを行う後退距離を設定します 計算後は「最適値」が適用されます
⑩	シミュレーショングラフ	適合建築物後退距離シミュレーションの結果をグラフで表示します

10-22-1 適合建築物の後退距離について

○天空率算定において、後退距離は境界線から壁面後退位置までの間であれば任意の距離の適用が可能です。(令 135 条の 6 第 1 項第 2 号及び令 135 条の 7 第 1 項第 2 号)

○後退距離によって天空率が変化することから、設計者にとって適合建築物の天空率が最小となる後退距離をシミュレーションし、適用することによって検討が有利になります。

10-22-2 測定点を選択する

[操作手順]

- 1) 「斜線制限選択」プルダウンメニューより、シミュレーションを行う斜線制限を選択します。

項目	値
用途地域	近隣商業/80/480
計画天空率:	87.776 %
適合	現

- 2) 「天空率算定領域選択」プルダウンメニューより、シミュレーションを行う天空率算定領域を選択します。

項目	値
用途地域	近隣商業/80/480
計画天空率:	87.776 %
適合	現

- 3) 平面図で測定点を選択します。
※天空率計算メニューでも測定点を選択可能です。

10-22-3 計算を実行する

[操作手順]

- 1) シミュレーションを行う測定点を選択します。
2) 「ピッチ」を設定します。

計画天空率:
87.776 %
ピッチ:
0.100 m

- 3) 「計算」を選択します。

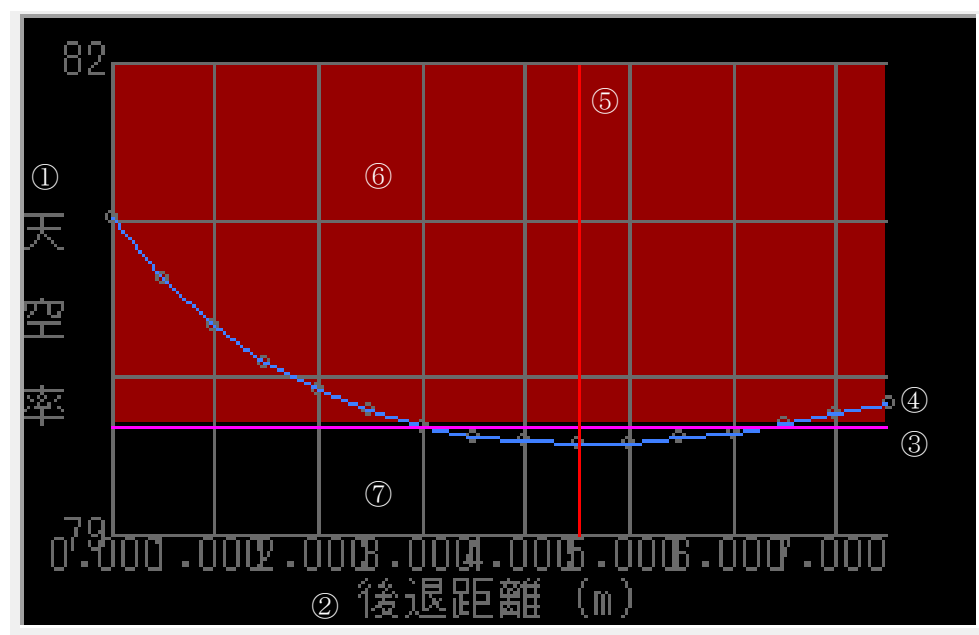
プロパティ	作図線	測定	ステータス
道路斜線	No:1 境界線:5	測定点: 1	計算
天空率計算			

※計算により、「最適値」が「現在」と数字が異なる場合は、「最適値の」で天空率が最小となります。

10-22-4 シミュレーショングラフの見方

○適合建築物の天空率(青色の曲線)が計画建築物の天空率(マゼンタの直線)を下回る(黒地の部分)場合に天空率が適合となります。

○計画によっては適合建築物の天空率が計画建築物の天空率を下回らない場合があります。



番号	項目	概要
①	縦軸	天空率を表示します 上図では 79%～82%の範囲を表示しています
②	横軸	後退距離を「ピッチ」で設定したピッチで表示します 上図では 0.000m～7.000m の範囲を 1.000m ピッチで表示しています
③	計画建築物天空率 (マゼンタの直線)	選択した測定点における計画建築物の天空率です 後退距離に関わらず天空率は一定であるため直線です
④	適合建築物天空率 (青色の曲線)	選択した測定点における適合建築物の天空率です 後退距離によって天空率が変化するため曲線です
⑤	調整値の後退距離 (赤色の直線)	「調整値」の後退距離を表示します 「調整値」を設定し、「天空率計算」を実行することで表示が変化します
⑥	天空率不適合範囲 (赤地)	適合建築物の天空率が計画建築物の天空率を上回る範囲です
⑦	天空率適合範囲 (黒地)	適合建築物の天空率が計画建築物の天空率を下回る範囲です

10-23 再地区

○法 68 条の 3 に規定する再開発利用促進区計画における天空率算定を行う場合に、再地区天空率算定領域を作成します。

○再地区天空率算定領域は、領域リストの属性欄に「再地区」として登録されます。

①		②						
勾配:	5.000 / 1	作成						
No	種類	道路幅員1	道路幅員2	自動(距離)	距離	自動(ピッチ)	最大ピッチ	
1	隣地			✓	0.000	✓	6.200	
2	道路	5.000	6.000	✓	5.000/6.000	✓	2.500	
3	道路	10.000	12.000	✓	10.000/12.000	✓	5.000	
4	隣地			✓	0.000	✓	6.200	
				③				

番号	項目	概要
①	勾配設定	斜線勾配を設定します
②	作成	再地区天空率算定領域を作成します。
③	境界線リスト	再地区天空率算定領域を作成する境界線の設定を表示します ※各項目の設定はできません

・測定点ピッチについて

道路境界線	「道路幅 1」と「道路幅 2」のうち、小さい方の道路幅員の 1/2 以内の等間隔
隣地境界線	6.2m以内の等間隔

10-23-1 再地区天空率算定領域を作成する

[操作手順]

1) 斜線勾配を設定します。

プロパティ 作図線 測定 ステータス

勾配: 5.000 / 1 作成

※通常は、「5」または「10」です。

2) 「作成」を選択します。

プロパティ 作図線 測定 ステータス

勾配: 5.000 / 1 作成

11 天空率用図形

11-1 はじめに

- 天空率解析で自動生成した天空率算定領域では、取り扱いや審査機関からの指導等に対応できない場合があります。
- 天空率用図形の各メニューでは、適合建築物や測定ラインを任意に編集することができ、自動生成した天空率算定領域では対応できない場合の設定を行うことが可能です。
- 天空率用図形で編集可能なブロックは、建物編集で入力したブロックとは別に管理されます。
- 本メニューでは天空率用図形で編集可能なブロックを「天空率用図形ブロック」、建物編集で編集可能なブロックを「建物編集ブロック」と定義します。
- 天空率用図形ブロックは「適合建築物ブロック」または「計画建築物ブロック」の属性を持ちます
- 天空率用図形ブロックを編集しても、天空率解析及び天空率用図形以外のメニューには反映されません。
- 天空率算定領域を更新すると、編集は初期化されます。

名称		種類	編集メニュー	計算対象
天空率用図形ブロック	適合建築物ブロック	建物	天空率用図形	天空率計算
		中空		
	計画建築物ブロック	建物		
		中空		
建物編集ブロック		建物	建物編集	斜線・逆日影計算 日影計算
		中空		

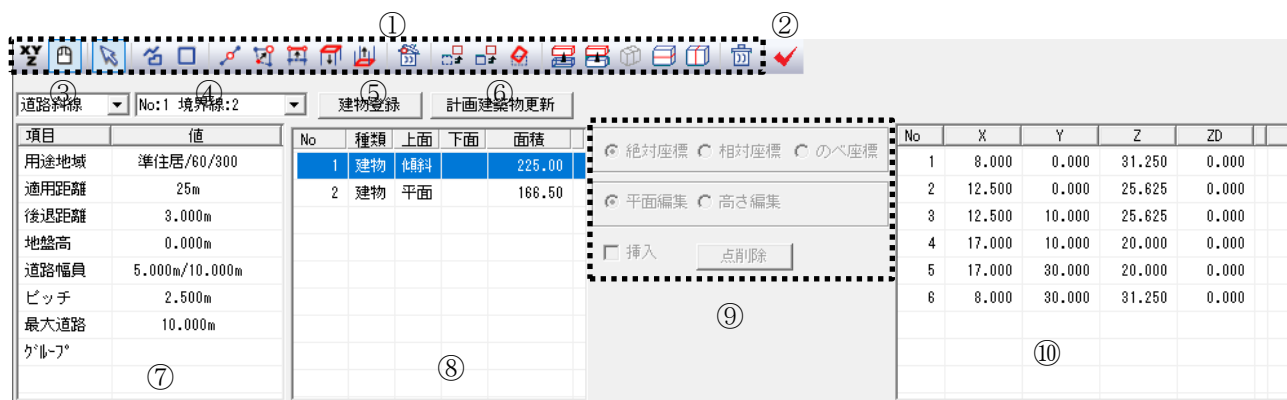
11-2 サブメニュー

- 天空率用図形のサブメニューです。

メニュー名	概要
ブロック編集	天空率用図形ブロックを編集します
リスト編集	天空率用図形ブロックの高さ及び属性を編集します
測定ライン	測定ラインを編集します
傾斜(3点)	3点を指定して天空率用図形ブロックの傾斜を設定します
傾斜(斜線)	境界線条件をもとに天空率用図形ブロックの傾斜を設定します

11-3 ブロック編集

- 天空率用図形ブロックを編集します。
- 天空率用図形で編集したブロックを、建物編集のブロックとして登録することが可能です。
- 計画建築物は、適合建築物の範囲に合わせて更新可能です。
- 操作手順は「建物編集/ブロック編集」に準じます。



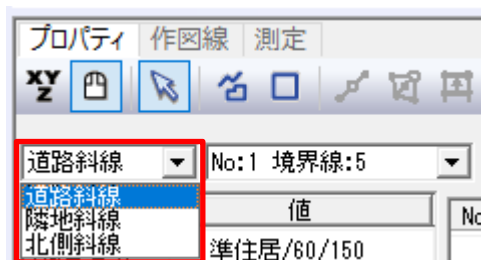
※選択した項目によって表示が異なります

番号	項目	概要
①	図形編集コマンド	図形編集コマンドです
②	図形チェック	天空率用図形ブロックのエラーチェックを行います
③	高さ制限選択	編集する高さ制限を選択します
④	天空率算定領域選択	編集する天空率算定領域を選択します
⑤	建物登録	選択した天空率図形用ブロックを建物編集ブロックに登録します
⑥	計画建築物更新	適合建築物ブロックの範囲に合わせて計画建築物ブロックを更新します
⑦	天空率算定領域情報	天空率算定領域の情報を表示します
⑧	ブロックリスト	天空率用図形ブロックの情報を表示します
⑨	数値入力	編集座標等です 数値入力を選択時にアクティブになります
⑩	端点リスト	選択した天空率用図形ブロックの端点の座標値を表示します

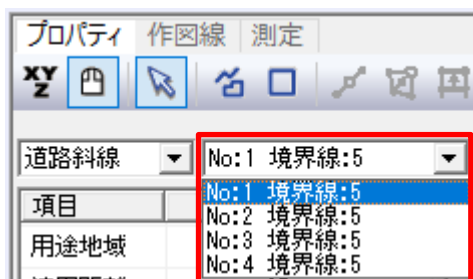
11-3-1 天空率用図形ブロックを編集する天空率算定領域を選択する

[操作手順]

- 1) 編集する斜線制限を「高さ制限選択」プルダウンメニューより選択します。



- 2) 編集する天空率算定領域を「天空率算定領域選択」プルダウンメニューより選択します。



- 3) 各種図形編集コマンドで編集します。

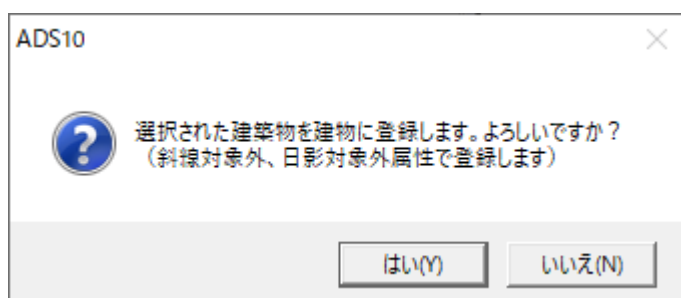
11-3-2 建物編集ブロックに登録する

[操作手順]

- 1) 登録する天空率用図形ブロックを選択します。
※複数選択が可能です。
- 2) 「建物登録」を選択します。



- 3) 確認ダイアログが開きます。



- 4) 「はい」を選択します
※登録した建物編集ブロックは建物編集のブロックリストの最後に登録されます

11-3-3 適合建築物ブロックの範囲に合わせて計画建築物ブロックを更新する

[操作手順]

- 1) 「計画建築物更新」を選択します。



11-4 リスト編集

○天空率用図形ブロックの高さ及び属性を編集します。

○高さの設定は、「絶対高入力」で行います。

①
②

道路斜線		No:1 境界線:2		④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
項目	値	No	種類	上面	下面	Z	ZD	適合	計画	P	面積		
用途地域	準住居/60/300	1	建物	傾斜				✓		6	225.00		
適用距離	25m	2	建物	平面		25.000			✓	6	166.50		
後退距離	3.000m												
地盤高	0.000m												
道路幅員	5.000m/10.000m												
ピッチ	2.500m												
最大道路	10.000m												
カーブ°													

③

番号	項目	概要
①	高さ制限選択	編集する高さ制限を選択します
②	天空率算定領域選択	編集する天空率算定領域を選択します
③	天空率算定領域情報	天空率算定領域の情報を表示します
④	No	天空率用図形ブロック番号を表示します
⑤	種類	天空率用図形ブロックの種類を表示します 種類の選択はできません
		建物 天空率用図形ブロックの上面の高さのみ設定できます
		中空 天空率用図形ブロックの上面および下面の高さを設定できます
⑥	上面	天空率用図形ブロックの上面の種類を設定します
		平面 上面をフラットに設定します
		傾斜 上面を傾斜に設定します
⑦	下面	天空率用図形ブロックの下面の種類を設定します 種類が「中空」の場合に設定できます
		平面 下面をフラットに設定します
		傾斜 下面を傾斜に設定します
⑧	Z	天空率用図形ブロックの上面の本システムの±0からの高さを入力します
⑨	ZD	種類が「中空」の天空率用図形ブロックの下面の本システムの±0からの高さを入力します
⑩	適合	チェックを入れると、適合建築物ブロックとなります
⑪	計画	チェックを入れると、計画建築物ブロックとなります
⑫	P	天空率用図形ブロックの平面上での端点の数を表示します
⑬	面積	天空率用図形ブロックの面積(m ²)を表示します

11-5 測定ライン

○道路境界線の反対側の境界線が複雑な場合や測定点を適切に自動生成できない場合に、測定ラインを編集します。

○測定ラインの編集は平面図で行います。

○測定ラインの端点を移動すると、移動した端点の Z 座標が「0.000」になります。

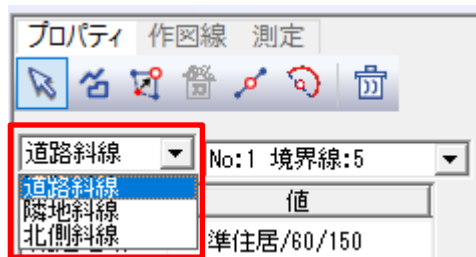
※選択した項目によって表示が異なります

番号	項目	概要
①	図形編集コマンド	図形編集コマンドです
②	総延長	複数の測定ラインがある場合にチェックを入れると、複数の測定ラインの総延長で測定点ピッチを算定します
③	最大ピッチ	測定点の最大ピッチを設定します
④	ピッチ	測定点採用ピッチを表示します。 最大ピッチ以内で測定ラインを等分割した測定点ピッチです
⑤	高さ制限選択	編集する高さ制限を選択します
⑥	天空率算定領域選択	編集する天空率算定領域を選択します
⑦	天空率算定領域情報	天空率算定領域の情報を表示します
⑧	測定ライン座標リスト	選択した測定ラインの座標を表示します

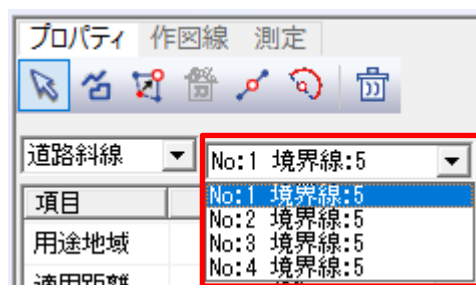
11-5-1 測定ラインを編集する天空率算定領域を選択する

[操作手順]

- 1) 測定点ピッチを変更する斜線制限を「高さ制限選択」プルダウンメニューより選択します。



- 2) 測定点ピッチを変更する天空率算定領域を「天空率算定領域選択」プルダウンメニューより選択します。



11-5-2 測定点ピッチを設定する

[操作手順]

- 1) 測定点ピッチを変更する天空率算定領域を選択します。
- 2) 「最大ピッチ」欄に測定点の最大ピッチを入力します。



- 3) 最大ピッチ以内で測定ラインを等分割した採用測定点ピッチが「ピッチ」欄に表示されます。



11-5-3 測定点ピッチについて

○採用測定点ピッチは最大ピッチ以内で測定ラインを等分割するピッチとなります。

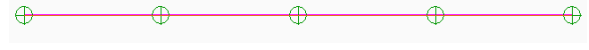
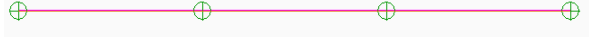
○「総延長」にチェックを入れると、複数の測定ラインがある場合に、複数の測定ラインの総延長で測定点ピッチを算定します。

11-5-3-1 測定ラインが単一の場合

・測定ラインが単一で、10mの場合の測定点ピッチは以下の通りとなります。

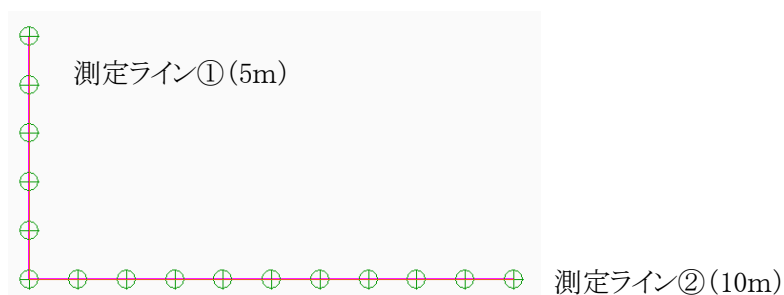


測定ライン:長さ 10m

最大ピッチ 設定値	採用測定点 ピッチ	測定点数	
1.000m	1.000m	11	
2.000m	2.000m	6	
3.000m	2.500m	5	
4.000m	3.333m	4	
5.000m	5.000m	3	
6.000m			
7.000m			
8.000m			
9.000m			
10.000m	10.000m	2	

11-5-3-2 測定ラインが複数の場合 1

- ・測定点が複数で、連続している場合の測定点ピッチは以下の通りとなります。
- ・測定ラインの総延長は15mで、5mと10mの測定ラインで構成されています。

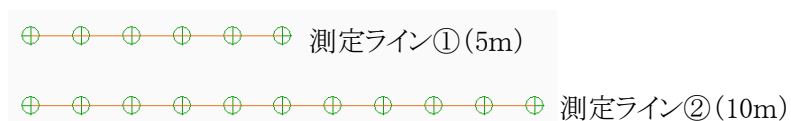


最大ピッチ 設定値	総延長 チェック	採用測定点 ピッチ	測定点数	
1.000m	有り	1.000m	16	
	無し	①:1.000m ②:1.000m	16	
3.000m	有り	3.000m	6	
	無し	①:2.500m ②:2.500m	7	

※総延長にチェックを入れない場合、各測定ラインの端点に測定点が配置され、測定ライン毎に最大ピッチ以内で測定ラインを等分割するピッチを採用測定点ピッチとします。

11-5-3-3 測定ラインが複数の場合 2

- ・測定点が複数で、連続していない場合の測定点ピッチは以下の通りとなります。
- ・測定ラインの総延長は15mで、5mと10mの測定ラインで構成されています。



最大ピッチ設定値	総延長チェック	採用測定点ピッチ	測定点数	
1.000m	有り	① : 1.000 m ② : 1.000 m	17	
	無し	① : 1.000 m ② : 1.000 m	17	
3.000m	有り	① : 2.500 m ② : 2.500 m	8	
	無し	① : 2.500 m ② : 2.500 m	8	
4.000m	有り	① : 2.500 m ② : 3.333 m	7	
	無し	① : 2.500 m ② : 3.333 m	7	

※測定ラインが連続していない場合、総延長のチェックの有無にかかわらず、各測定ラインの端点に測定点が配置され、測定ライン毎に最大ピッチ以内で測定ラインを等分割するピッチを採用測定点ピッチとします。

11-5-4 測定ラインを選択する

[操作手順]

- 1) 測定ラインを選択する天空率算定領域を選択します。
- 2) 「選択」コマンドを選択します。



- 3) 平面図またはアイソメ図で、測定ラインを選択します。
※選択した測定ラインはマゼンタで強調表示されます。

11-5-5 直線の測定ラインを追加する

[操作手順]

- 1) 測定ラインを追加する天空率算定領域を選択します。
- 2) 「作成」コマンドを選択します。



- 3) 追加する測定ラインの始点を指定します。
- 4) 追加する測定ラインの終点を指定します。
※追加した測定ラインの端点の Z 座標は「0.000」となります。

11-5-6 円弧の測定ラインを追加する

[操作手順]

- 1) 測定ラインを追加する天空率算定領域を選択します。
- 2) 「円弧挿入(中心)」コマンドを選択します。



- 3) 追加する測定ラインの中心を指定します。
- 4) 追加する測定ラインの始点を指定します。
- 5) 追加する測定ラインの終点を指定します。
※追加した測定ラインの端点の Z 座標は「0.000」となります。

11-5-7 測定ラインの端点を数値入力で移動する

[操作手順]

- 1) 端点を移動する測定ラインを選択します。
- 2) 測定ライン座標リストで X 座標または Y 座標を設定します。

No	中心	X	Y	Z
1		123.124	61.197	2.999
2		123.484	88.412	1.070

11-5-8 測定ラインの端点をマウス入力で移動する

[操作手順]

- 1) 端点を移動する測定ラインを選択します
- 2) 「点移動」コマンドを選択します。



- 3) 端点を移動する測定ラインの端点を選択します。
- 4) 測定ラインの端点を移動する位置を指定します。
※測定ラインの端点を移動すると、移動した端点の Z 座標が「0.000」になります。
※Shift キーを押しながら測定ラインの端点を移動することで、Z 座標を保持したまま端点を移動できます。

11-5-9 測定ラインに端点を追加する

[操作手順]

- 1) 端点を追加する測定ラインを選択します。
- 2) 「点挿入」コマンドを選択します。



- 3) 端点を追加する測定ラインの線上を選択します。
- 4) 端点を追加する位置を指定します。
※追加した測定ラインの端点の Z 座標は「0.000」となります。

11-5-10 測定ラインの端点の高さを変更する

[操作手順]

- 1) 端点の高さを変更する測定ラインを選択します。
- 2) 「測定ライン座標リストで Z 座標を設定します。

No	中心	X	Y	Z
1		123.124	61.197	2.999
2		123.484	88.412	1.070

11-5-11 測定ラインの端点を削除する

[操作手順]

- 1) 端点を削除する測定ラインを選択します。
※端点を削除できる測定ラインは3点以上の端点を有する測定ラインです。
- 2) 「点削除」コマンドを選択します。



- 3) 削除する測定ラインの端点を選択します。

11-5-12 測定ラインを削除する

[操作手順]

- 1) 削除する測定ラインを選択します。
- 2) 「ブロック削除」コマンドを選択します。



11-6 傾斜（3点）

- 天空率用図形ブロックの任意の3つの端点の高さを設定することで、傾斜を設定します。
- 中空ブロックは下面の設定も可能です。
- 操作手順は「建物編集/傾斜(3点)」に準じます。

① ② ③ ④

⑤ 道路斜線 ⑥ No:1 境界線:2 測定点: ⑦ 変換実行

項目	値
用途地域	準住居/60/300
適用距離	25m
後退距離	3.000m
地盤高	0.000m
道路幅員	5.000m/10.000m
ピッチ	2.500m
最大道路	10.000m
ケルブ°	
	⑪

⑧ 編集面

☒ 上面

☐ 下面

⑨ 上面

Z1: m

Z2: m

Z3: m

⑩ 下面

Z1: m

Z2: m

Z3: m

※選択した項目によって表示が異なります

番号	項目	概要
①	選択	傾斜を設定する天空率用図形ブロックを選択します
②	作成	高さを設定する端点を指定します
③	高さ移動	指定した端点の高さを移動します
④	ブロック削除	指定した端点を削除します
⑤	高さ制限選択	編集する高さ制限を選択します
⑥	天空率算定領域選択	編集する天空率算定領域を選択します
⑦	変換実行	天空率用図形ブロックに設定した傾斜を適用します
⑧	編集面	傾斜を設定する面を選択します
⑨	上面	編集面で「上面」を選択した場合に、指定した3点の高さを入力します
⑩	下面	編集面で「下面」を選択した場合に、指定した3点の高さを入力します
⑪	天空率算定領域情報	天空率算定領域の情報を表示します

11-7 傾斜（斜線）

○天空率用図形ブロックの上面に、斜線勾配を基準とした傾斜を設定します。

○操作手順は「建物編集/傾斜(斜線)」に準じます。

・道路境界線を選択した場合

① ② ③ ④

⑤ 道路斜線 No:1 境界線:2 測定点: ⑧ 変換実行

項目	値
用途地域	準住居/60/300
適用距離	25m
後退距離	3.000m
地盤高	0.000m
道路幅員	5.000m/10.000m
ピッチ	2.500m
最大道路	10.000m
ケルブ°	

⑦

⑨ 基準境界線
境界線No: 未選択
用途地域:
地盤高: 0.000 m
建物後退距離: 0.000 m

⑩ 道路斜線 隣地斜線
幅員(始点): 0.000 m
幅員(終点): 0.000 m
傾斜: 0.000
道路高さ1: 0.000 m
道路高さ2: 0.000 m

・隣地境界線を選択した場合

① ② ③ ④

⑤ 道路斜線 No:1 境界線:2 測定点: ⑧ 変換実行

項目	値
用途地域	準住居/60/300
適用距離	25m
後退距離	3.000m
地盤高	0.000m
道路幅員	5.000m/10.000m
ピッチ	2.500m
最大道路	10.000m
ケルブ°	

⑦

⑨ 基準境界線
境界線No: 未選択
用途地域:
地盤高: 0.000 m
建物後退距離: 0.000 m

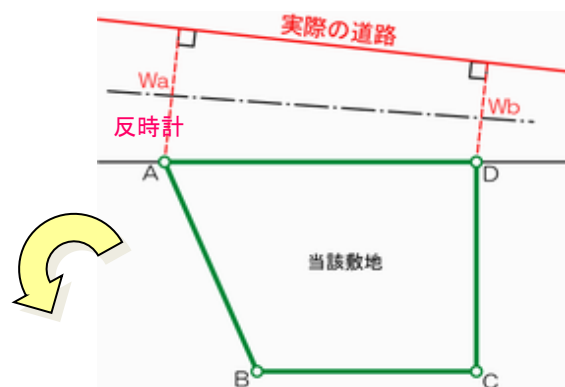
⑪ 道路斜線 隣地斜線
立上り高さ: 0.000 m
傾斜: 0.000
隣地高: 0.000 m

番号	項目	概要
①	基準境界線指定	斜線の基準とする敷地境界線を選択します
②	基準線作成	平面図で2点を指定し、任意の基準線を作成します インポート図形や作図線を利用します
③	基準線指定	平面図で任意の線を指定し、斜線勾配の基準となる線を選択します インポート図形や作図線を利用します 基準線は1本のみ選択可能です
④	選択	傾斜を設定する天空率用図形ブロックを選択します
⑤	高さ制限選択	編集する高さ制限を選択します
⑥	天空率算定領域選択	編集する天空率算定領域を選択します
⑦	天空率算定領域情報	天空率算定領域の情報を表示します
⑧	変換実行	天空率用図形ブロックに設定した傾斜を適用します

番号	項目		概要
⑨	基準境界線	境界線 No	基準境界線の No を選択します
		用途地域	基準境界線が属する用途地域を表示します
		地盤高	地盤高を入力します
		建物後退距離	建物後退距離を入力します

・道路境界線を選択した場合

番号	項目		概要
⑩	境界線条件 (道路斜線)	幅員(始点)	始点側の道路幅員を入力します 入力幅員は、前面道路の反対側の線から垂直の距離(Wb)です 基準線を指定すると幅員が自動で表示されます
		幅員(終点)	終点側の道路幅員を入力します 入力幅員は、前面道路の反対側の線から垂直の距離(Wa)です 基準線を指定すると幅員が自動で表示されます
		傾斜	斜線勾配を入力します 通常は、「与条件設定/用途地域」で設定した値となります
		道路高さ 1	始点側の道路高さを入力します 通常は、「与条件編集/境界線条件」で設定した値となります
		道路高さ 2	終点側の道路高さを入力します 通常は、「与条件編集/境界線条件」で設定した値となります



・隣地境界線を選択した場合

番号	項目		概要
⑪	境界線条件(隣地斜線)	立上り高さ	隣地斜線の立上り高さを入力します
		傾斜	斜線勾配を入力します 通常は「与条件設定/用途地域」で設定した値が表示となります
		隣地高	隣地高を入力します 通常は、「与条件編集/境界線条件」で設定した値となります

12 マスプラン

12-1 はじめに

※マスプランはオプション製品です。

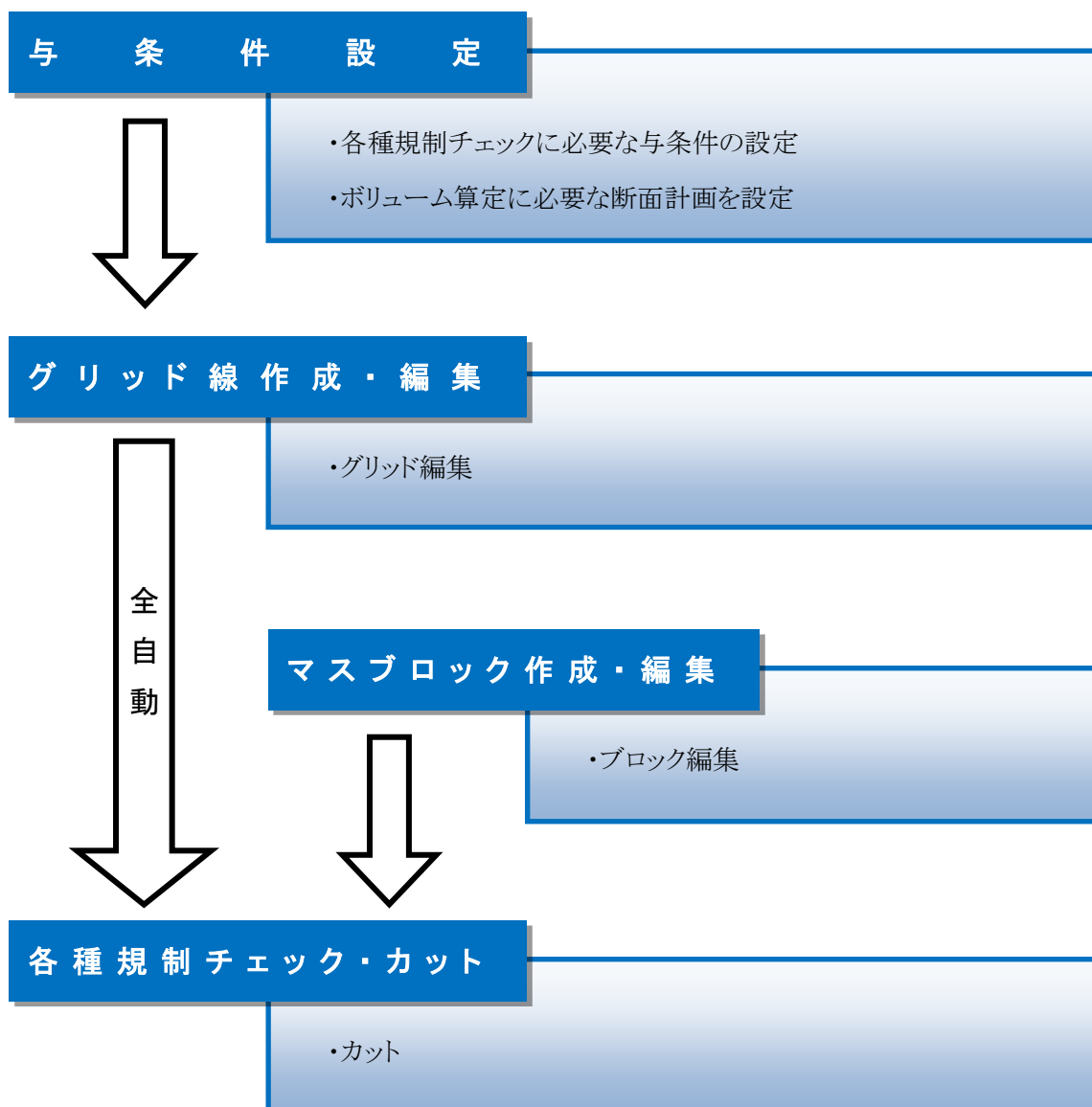
- 本メニューは設計前段階での事業計画や設計検討を想定しています。
- 「与条件設定」で設定した条件で各種規制(天空率／斜線制限／日影規制)のチェックを行います。
- チェック結果をもとにブロックをカットし、ボリュームの算定を行います。
- 予め各種与条件設定、断面計画を設定する必要があります。
- 本メニューではボリューム算定を行うブロックを「マスブロック」と定義します。

12-2 サブメニュー

○マスプランのサブメニューです。

メニュー名	概要
グリッド編集	マスブロックを作成するために必要なグリッド線を設定します
ブロック編集	グリッド線を基準にマスブロックを設定します
カット	マスブロックに対して、「斜線制限・日影規制・天空率」のチェックまたはカットします

12-3 マスプランのワークフロー



12-4 グリッド編集

- マスブロックを作成するために必要なグリッド線を設定します。
- 設定したグリッド線上にのみ、マスブロックを作成できます。
- 最初に「自動作成」でグリッドを作成します。
- グリッド線の最大は 101×101 です。



※選択した項目によって表示が異なります

番号	項目	概要
①	グリッド線選択	平面図でグリッド線を選択します
②	グリッド線挿入	グリッド線を挿入します
③	グリッド線移動 1	選択したグリッド線を移動します。
④	グリッド線移動 2	選択したグリッド線を含む右または上方向のグリッド線全体を移動します
⑤	グリッド線移動 3	選択したグリッド線を含む左または下方向のグリッド線全体を移動します
⑥	グリッド線削除	選択したグリッド線を削除します
⑦	自動作成	グリッド線を自動作成します
⑧	X 軸グリッド線リスト	X 軸方向のグリッド線のリストです
⑨	Y 軸グリッド線リスト	Y 軸方向のグリッド線のリストです

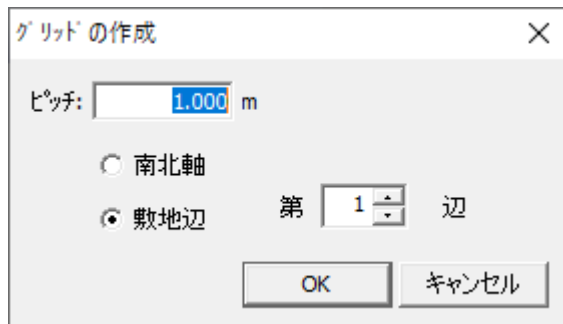
12-4-1 グリッド線を作成する

[操作手順]

- 1) 「自動作成」を選択します。



- 2) 「グリッドの作成」ダイアログが開きます。



- 3) グリッド線の「ピッチ」を設定します。
- 4) グリッド線の「基準軸」を選択します。
- 5) 「OK」を選択します。

12-4-2 グリッド線を選択する

[操作手順]

- 1) 「グリッド線選択」コマンドを選択します。



- 2) 平面図で、グリッド線を選択します、

12-4-3 グリッド線を挿入する

[操作手順]

- 1) 「グリッド線挿入」コマンドを選択します。



- 2) 平面図で、グリッド線の線上を選択します。
- 3) 平面図で、グリッド線を挿入する位置を指定します。

12-4-4 選択したグリッド線を移動する

[操作手順]

- 1) 移動するグリッド線を選択します。
- 2) 「グリッド線移動 1」コマンドを選択します。



- 3) 移動するグリッド線の線上を選択します。
- 4) 移動する位置を指定します。

12-4-5 複数のグリッド線を移動する

[操作手順]

- 1) 移動の基準となるグリッド線を選択します。
- 2) 「グリッド線移動 2」コマンドまたは「グリッド線移動 3」コマンドを選択します。



- 3) 移動の基準となるグリッド線の線上を選択します。
- 4) 移動する位置を指定します。

12-4-6 グリッド線のピッチを変更する

[操作手順]

- 1) 「X 軸グリッド線リスト」または「Y 軸グリッド線リスト」の「ピッチ」欄を設定します。

No	ピッチ	位置		No	ピッチ	位置	
X1		0.000		Y1		0.000	
X2	1.000	1.000		Y2	1.000	1.000	
X3	1.000	2.000		Y3	1.000	2.000	
X4	1.000	3.000		Y4	1.000	3.000	

12-4-7 グリッド線を削除する

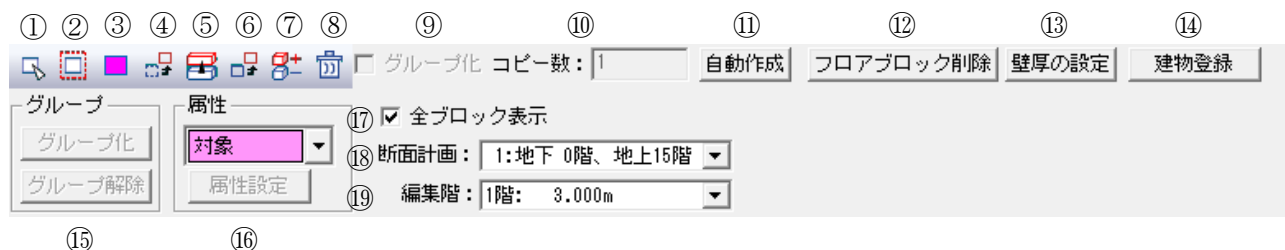
[操作手順]

- 1) 削除するグリッド線を選択します。
- 2) 「グリッド線削除」コマンドを選択します。



12-5 ブロック編集

○グリッド線を基準にマスブロックを設定します。



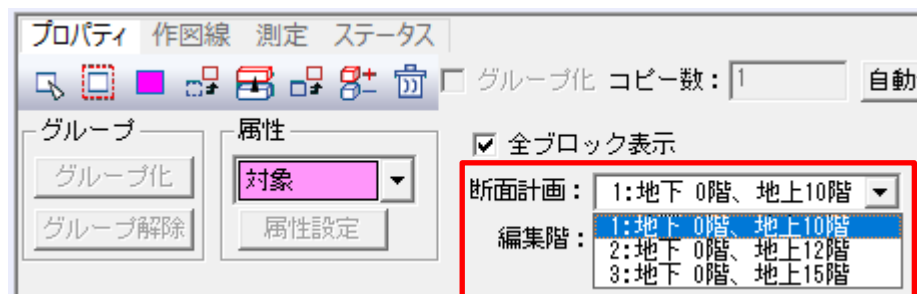
番号	項目	概要
①	ブロック選択 (1 点)	1 のマスブロックのみ選択します
②	ブロック選択 (矩形)	2 点指定でブロックを選択します
③	ブロック作成	マスブロックを作成します
④	ブロック移動	マスブロックを編集階で移動します
⑤	ブロック上階複写	マスブロックを編集階の一つ上の階の同位置に複写します
⑥	ブロック複写	マスブロックを編集階に複写します
⑦	ブロック増減	マスブロックを増減します
⑧	ブロック削除	マスブロックを削除します
⑨	グループ化	チェックを入れると、マスブロック作成時にグループ化します
⑩	コピー数	マスブロックのグループを解除します
⑪	自動作成	マスブロックを自動作成します
⑫	フロアブロック削除	選択した階のマスブロックを全て削除します
⑬	壁厚の設定	マスブロックの壁厚を設定します 各種規制チェック及びカットを行う場合に、マスブロックを壁厚分ふかして検討します ※マスブロックの表示は変わりません
⑭	建物登録	マスブロックを建物編集用ブロックに登録します
⑮	グループ	グループ化 マスブロックをグループ化し、一つにまとめます
		グループ解除 マスブロックのグループを解除します
⑯	属性	面積集計対象属性を設定します
		属性選択 属性を選択します
		属性設定 選択した属性をマスブロックに適用します
⑰	全ブロック表示	全てのマスブロックを表示します
⑱	断面計画選択	断面計画を選択します
⑲	編集階選択	編集階を選択します

12-5-1 マスブロックを作成する断面計画を選択する

- 与条件設定で断面計画が複数登録されている場合は、マスブロックを作成する断面計画を選択します。
- マスブロックを作成する前に選択します。

[操作手順]

- 1) 「断面計画選択」プルダウンメニューより、マスブロックを作成する断面計画を選択します。

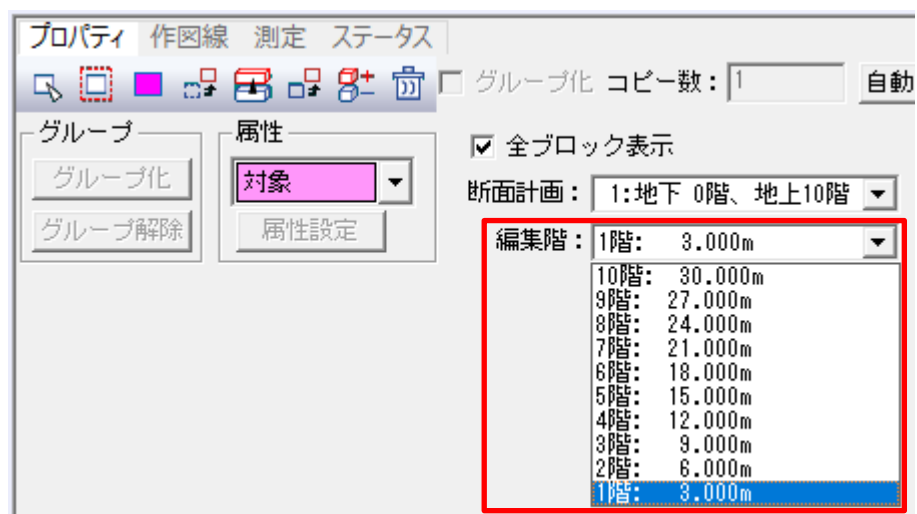


12-5-2 マスブロックを作成する階を選択する

- マスブロックを作成する断面計画の階を選択します。
- マスブロックを作成する前に選択します。

[操作手順]

- 1) 「編集階選択」プルダウンメニューより、マスブロックを作成する階を選択します。

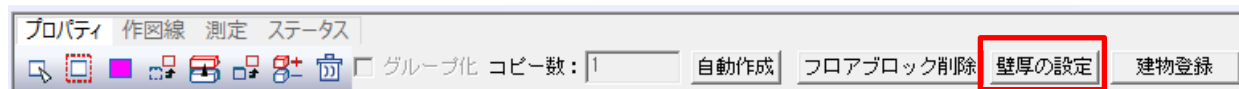


12-5-3 壁厚を設定する

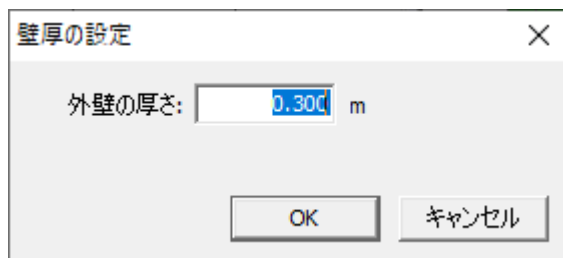
○マスブロックの壁厚をふかして各種制限のチェックをする場合に設定します。

[操作手順]

- 1) 「壁厚の設定」を選択します。



- 2) 「壁厚の設定」ダイアログが開きます。



- 3) 「外壁の厚さ」を設定します。

- 4) 「OK」を選択します。

12-5-4 属性について

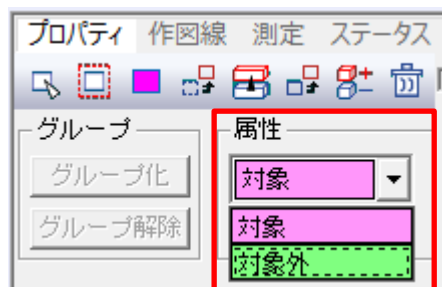
○マスブロックの面積集計属性です。

属性	概要
対象	面積集計対象です
対象外	面積集計対象外です

12-5-5 面積集計属性を選択する

[操作手順]

- 1) 「属性選択」プルダウンメニューより、面積集計属性を選択します。



12-5-6 グループについて

○複数のマスブロックを1つにまとめます。

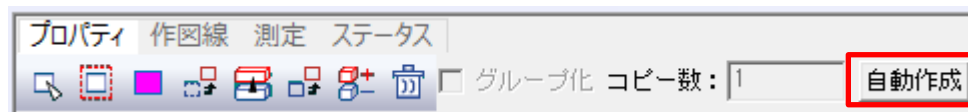
○グループ単位での編集が可能です。

○グループは階毎の設定です。複数階にわたるグループは設定できません。

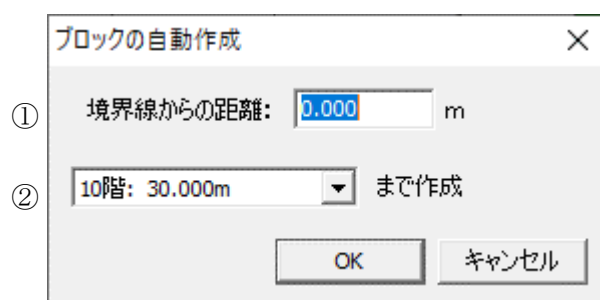
12-5-7 マスブロックを自動で作成する

[操作手順]

- 1) 「自動作成」を選択します。



- 2) 「ブロックの自動作成」ダイアログが開きます。



番号	項目	概要
①	境界線からの距離	境界線からの後退距離を設定します ※マスブロックはグリッド上に作成されたため、グリッドの割付によっては設定した距離以上に配置される場合があります
②	～まで作成	マスブロックを作成する階の上限を選択します

- 3) 「境界線からの距離」を設定します。
4) 「～まで作成」プルダウンメニューより、マスブロックを作成する階の上限を選択します
5) 「OK」を選択します。

12-5-8 マスブロックを 1 ブロック作成する

○編集階に 1 ブロックのみマスブロックを作成します。

[操作手順]

- 1) 「ブロック作成」コマンドを選択します。



- 2) 「属性」プルダウンメニューより、面積集計属性を選択します。
3) 平面図で、マスブロックを作成するグリッドをダブルクリックします。
※「グループ化」にチェックを入れることで、作成したマスブロックがグループ化します。

12-5-9 マスブロックを複数作成する

○編集階に指定範囲のマスブロックを作成します。

[操作手順]

- 1) 「ブロック作成」コマンドを選択します。



- 2) 「属性」プルダウンメニューより、面積集計属性を選択します。
- 3) 平面図で、マスブロックを作成する範囲の始点となるグリッドを選択します。
- 4) 平面図で、マスブロックを作成する範囲の終点となるグリッドを選択します。
※「グループ化」にチェックを入れることで、作成したマスブロックがグループ化します。

12-5-10 複数のマスブロックを最上階まで作成する

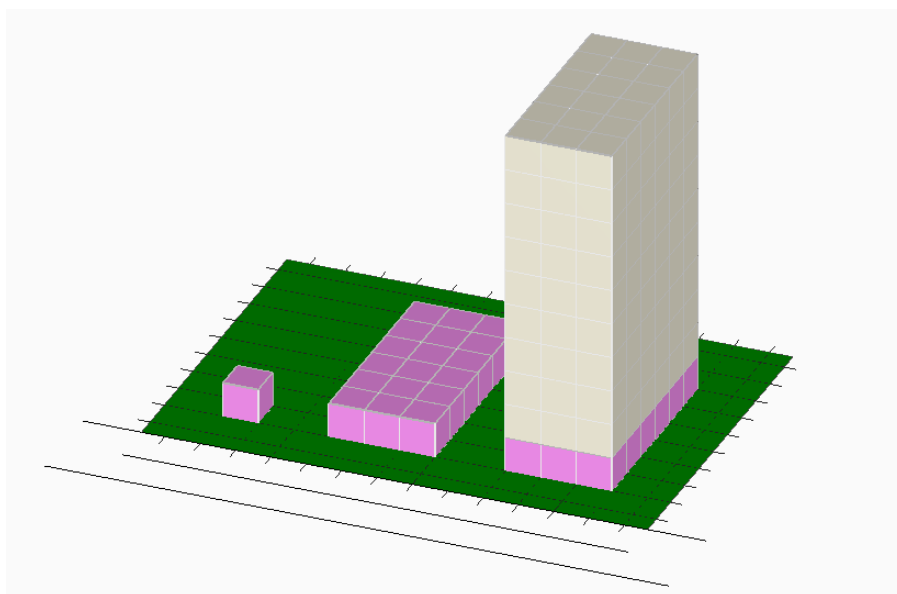
○編集階から最上階まで指定範囲のマスブロックを作成します。

[操作手順]

- 1) 「ブロック作成」コマンドを選択します。



- 2) 「属性」プルダウンメニューより、面積集計属性を選択します。
- 3) 平面図で、マスブロックを作成する範囲の始点となるグリッドを「Ctrl キー」を押しながら選択します。
- 4) 平面図で、マスブロックを作成する範囲の終点となるグリッドを「Ctrl キー」を押しながら選択します。
※「グループ化」にチェックを入れることで、作成したマスブロックが階毎にグループ化します。



12-5-11 個別にマスブロックを選択する

[操作手順]

- 1) 「ブロック選択(1点)」コマンドを選択します。



- 2) 平面図またはアイソメ図でマスブロックを選択します。
※「Ctrl キー」を押しながら選択することで複数選択ができます。

12-5-12 範囲指定でマスブロックを選択する

[操作手順]

- 1) 「ブロック選択(矩形)」コマンドを選択します。



- 2) 平面図で、マスブロックを選択する範囲の始点となるマスブロックを選択します。
- 3) 平面図で、マスブロックを選択する範囲の終点となるマスブロックを選択します。
※始点のマスブロックを含む選択となります。

12-5-13 マスブロックを移動する

[操作手順]

- 1) 移動するマスブロックを選択します。
- 2) 「ブロック移動」コマンドを選択します。



- 3) 平面図で、移動の基点とするマスブロックを指定します。
- 4) 平面図で、移動する位置を指定します。
※移動先にマスブロックが存在する場合は移動できません。

12-5-14 マスブロックを複写する

[操作手順]

- 1) 複写するマスブロックを選択します。
- 2) 「ブロック複写」コマンドを選択します。



- 3) 平面図で、複写の基点とするマスブロックを選択します。
 - 4) 平面図で、複写する位置を指定します。
- ※複写先にマスブロックが存在する場合は複写できません。

12-5-15 マスブロックを編集階の上の階に複写する

○選択したマスブロックを編集階の上の階に複写します。

[操作手順]

- 1) 上の階に複写するマスブロックを選択します。
- 2) 「ブロック上階複写」コマンドを選択します。



※複写先にマスブロックが存在する場合は複写できません。

12-5-16 マスブロックを上階に複写する

- 指定したマスブロックを上階に複写します。
- 選択していないマスブロックの複写ができます。

[操作手順]

- 1) 「ブロック増減」コマンドを選択します。



- 2) 平面図またはアイソメ図で、ブロックの上面で左クリックします。

12-5-17 マスブロックを削除する 1

○選択したマスブロックを削除します。

[操作手順]

- 1) 削除するマスブロックを選択します。
- 2) 「ブロック削除」コマンドを選択します。



12-5-18 マスブロックを削除する 2

○指定したマスブロックを削除します。

○選択していないマスブロックの削除ができます。

[操作手順]

- 1) 「ブロック増減」コマンドを選択します。

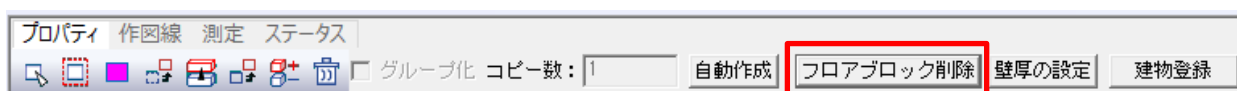


- 2) 平面図またはアイソメ図で、ブロックの上面で右クリックします。

12-5-19 階を選択して全てのマスブロックを削除する

[操作手順]

- 1) 「フロアブロック削除」を選択します。



- 2) 「フロアブロックの削除」ダイアログが開きます。

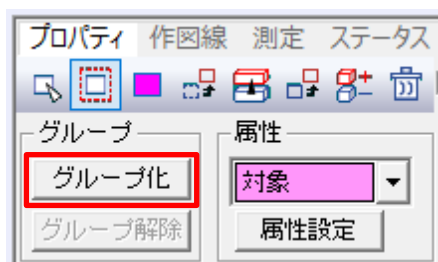


- 3) 全てのマスブロックを削除する階を選択します。
- 4) 「OK」を選択します。

12-5-20 マスブロックをグループ化する

[操作手順]

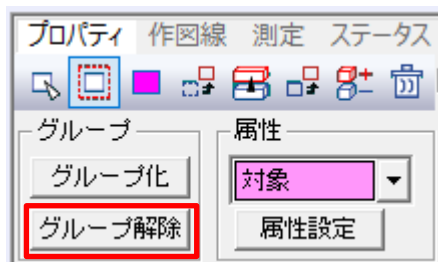
- 1) グループにするマスブロックを選択します。
- 2) 「グループ化」を選択します。



12-5-21 グループを解除する

[操作手順]

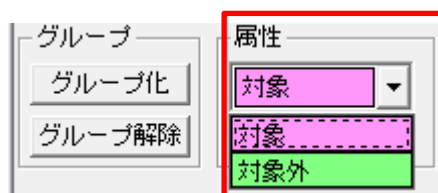
- 1) グループ化されたマスブロックを選択します。
- 2) 「グループ解除」を選択します。



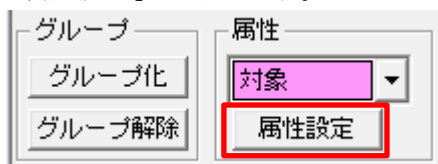
12-5-22 マスブロックの面積集計属性を変更する

[操作手順]

- 1) 属性を変更するマスブロックを選択します。
- 2) 「属性」プルダウンメニューより、面積集計属性を選択します。



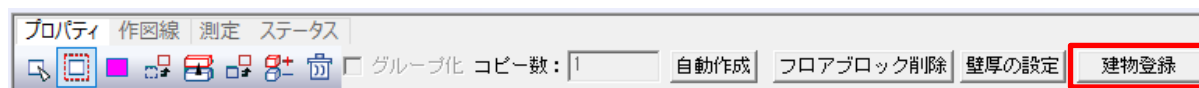
- 3) 「属性設定」を選択します。



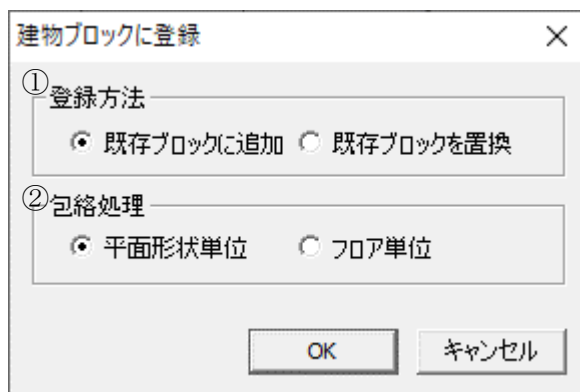
12-5-23 マスブロックを建物編集用ブロックに登録する

[操作手順]

- 1) 「建物登録」を選択します。



- 2) 「建物ブロックに登録」ダイアログが開きます。



番号	項目	概要	
①	登録方法	既存ブロックに追加	既存の建物編集用ブロックに、新規の建物編集用ブロックを追加します
		既存ブロックを置換	既存の建物編集用ブロックを削除し、新規の建物編集用ブロックを置き換えます
②	包絡処理	平面形状単位	同じ形状の平面を一つの建物編集用ブロックにします
		フロア単位	各階に一つの建物編集用ブロックにします

- 3) 「登録方法」を選択します。
4) 「包絡処理」を選択します。
5) 「OK」を選択します。

12-5-24 面積表を表示する

○マスブロックを元にした求積表を表示します。

① 延床面積

許容: 1800.000 m²

計画: 3072.000 m²

差: -1272.000 m²

② 建築面積

許容: 360.000 m²

計画: 504.000 m²

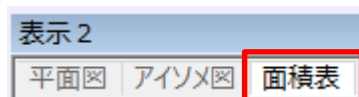
差: -144.000 m²

階	床高	対象	対象外	
10	27.000m	0.00m ²	0.00m ²	
9	24.000m	56.00m ²	0.00m ²	
8	21.000m	144.00m ²	0.00m ²	
7	18.000m	244.00m ²	0.00m ²	
6	15.000m	296.00m ²	0.00m ²	③
5	12.000m	376.00m ²	0.00m ²	
4	9.000m	464.00m ²	0.00m ²	
3	6.000m	484.00m ²	0.00m ²	
2	3.000m	504.00m ²	0.00m ²	
1	0.000m	504.00m ²	0.00m ²	

番号	項目	概要	
①	延床面積	許容	与条件設定より自動算出される許容延床面積を表示します
		計画	全階の面積集計対象マスブロックの合計を表示します
		差	許容-計画の差を表示します
②	建築面積	許容	与条件設定より自動算出される許容建築面積を表示します
		計画	面積集計対象マスブロックと面積集計対象外マスブロックを対象とした建築面積を表示します
		差	許容-計画の差を表示します
③	面積表	階	断面計画の階を表示します
		床高	断面計画の各階の床高を表示します
		対象	面積集計対象マスブロックの面積を表示します
		対象外	面積集計対象外マスブロックの面積を表示します

[操作手順]

1) 図形表示ウィンドウより、「面積表」タブを選択します。



12-6 カット

○マスブロックに対して、「斜線制限・日影規制・天空率」のチェックまたはカットします。

○マスブロックの作成からカットまでを自動で実行することが可能です。

The screenshot shows a software interface for setting cut parameters. It includes several sections:

- ① カット方法 (Cut Method):** A dropdown menu.
- ② 全自動 (Full Auto):** A checkbox.
- ③ チェック項目 (Check Items):** A list of three items with radio buttons:
 - 斜線チェック (Diagonal Check)
 - 日影チェック (Shadow Check)
 - 天空率チェック (Sky Rate Check)
- ④ カット (Cut):** A group of three buttons:
 - 斜線カット (Diagonal Cut)
 - 日影カット (Shadow Cut)
 - 天空率カット (Sky Rate Cut)
- ⑤ 連続カット (Continuous Cut):** A group of three buttons:
 - 斜線連続カット (Diagonal Continuous Cut)
 - 日影連続カット (Shadow Continuous Cut)
 - 天空率連続カット (Sky Rate Continuous Cut)

番号	項目	概要	
①	カット方法	カットまたは連続カットする場合のカット方法を設定します	
②	全自動	マスブロックの作成からチェック、カットまでを実行します	
③	チェック項目	各種制限のチェック項目を選択し、実行します チェックを実行しないと「カット」または「連続カット」ができません	
		斜線チェック	斜線制限をチェックします
		日影チェック	日影規制をチェックします
		天空率チェック	天空率をチェックします
④	カット	チェックの結果、マスブロックの不適合となった部分をカットします	
		斜線カット	斜線チェックの結果をもとにカットします
		日影カット	日影チェックの結果をもとにカットします
		天空率カット	天空率チェックの結果をもとにカットします
⑤	連続カット	表示されているチェック結果に追加して連続カットします 連続カットで残ったマスブロックが各規制に適合するブロックとなります	
		斜線連続カット	斜線チェックの結果をもとに連続カットします
		日影連続カット	日影チェックの結果をもとに連続カットします
		天空率連続カット	天空率チェックの結果をもとに連続カットします

12-6-1 カット方法の設定について

○「カット方法」を選択すると、「カット方法の設定」ダイアログが開きます。

・斜線カット

番号	項目	概要
①	高度地区のみチェックする	チェックを入れると、高度地区のみをチェックし、道路斜線、隣地斜線及び北側斜線のチェックを行いません

・日影カット

番号	項目	概要
②	計算タイプ選択	日影計算の計算タイプを選択します
		低層型 計算範囲全体のボリュームを抑えてカットを実行します
		高層型 計算範囲の一部に、ボリュームを集中させる高層範囲を設けてカットを実行します
③	カット順	カットを実行する順番を選択します
④	日照定規を表示する	チェックを入れると、日照定規を表示します

・天空率カット

番号	項目	概要
⑤	取扱い選択	斜線制限に不適合になった場合の天空率取扱いを選択します。
⑥	方位角で調整	間口に対してカットを行います
		左カット チェックを入れると、測定点から見て左側をカットします
		右カット チェックを入れると、測定点から見て右側をカットします
⑦	仰角を調整	高さに対してカットを行います
⑧	斜線制限選択	チェックを入れると、カットを行います

12-6-2 天空率カットについて

- 敷地形状や道路の接道状況により、実際の取扱いと異なる判定をする場合があります。
- 天空率カットを行ったマスブロックは、「建物登録」をしてから天空率解析を実行してください

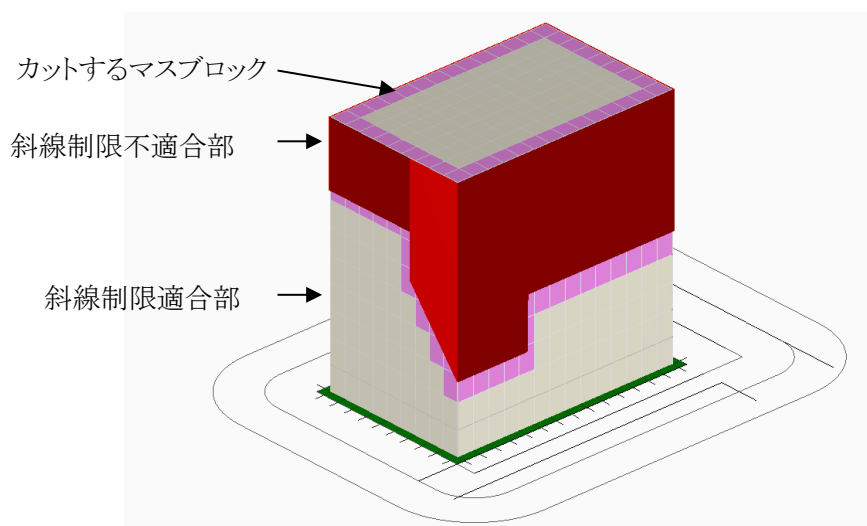
12-6-3 各種制限のチェックを行う

[操作手順]

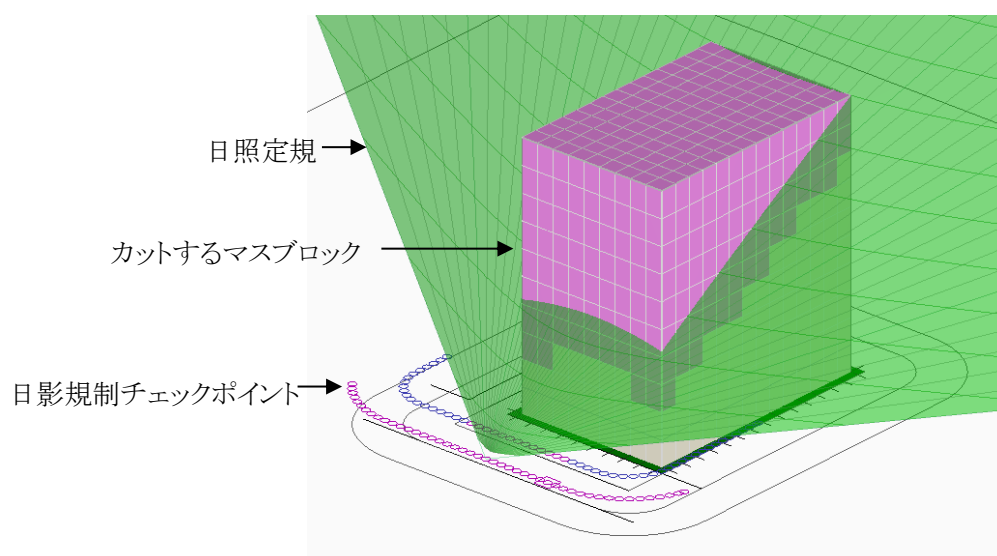
- 1) チェックを行う制限のチェック項目を選択します。



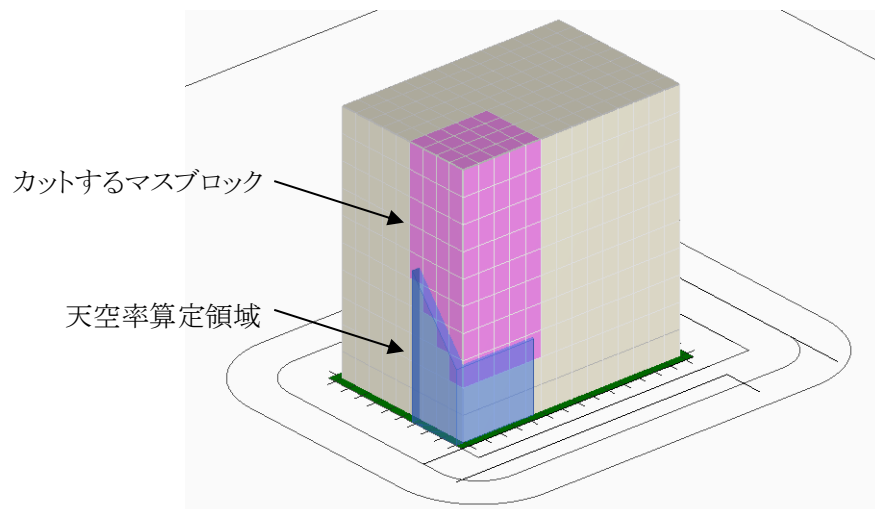
12-6-3-1 斜線チェック



12-6-3-2 日影チェック



12-6-3-3 天空率チェック

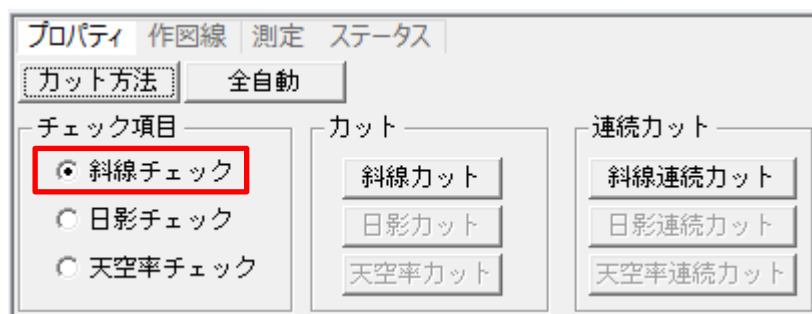


12-6-4 カットを行う

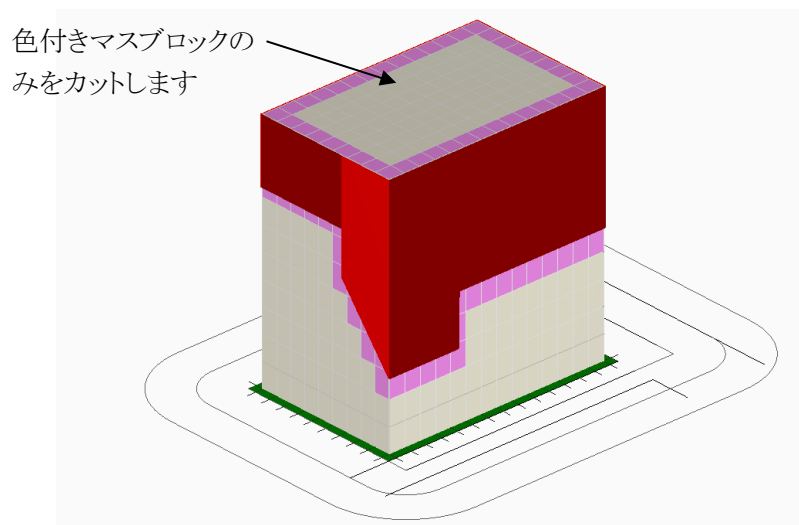
- チェックを行った制限に対してカットを行います。
- カットを行うごとに、色付きのマスブロックをカットします。

[操作手順]

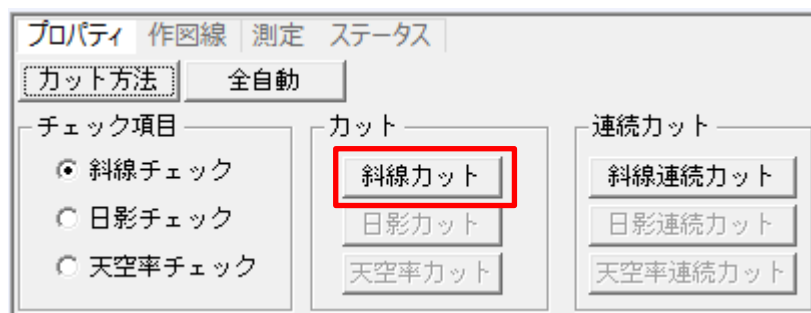
- 1) カットを行う制限を選択します。



※図は斜線カットを行う場合です。

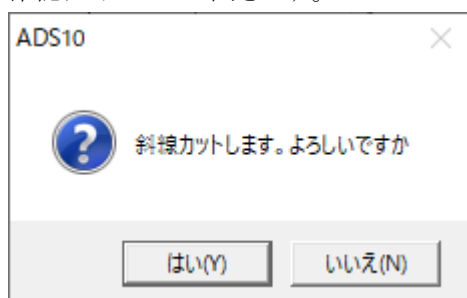


2) カットを行う制限の「～カット」を選択します。



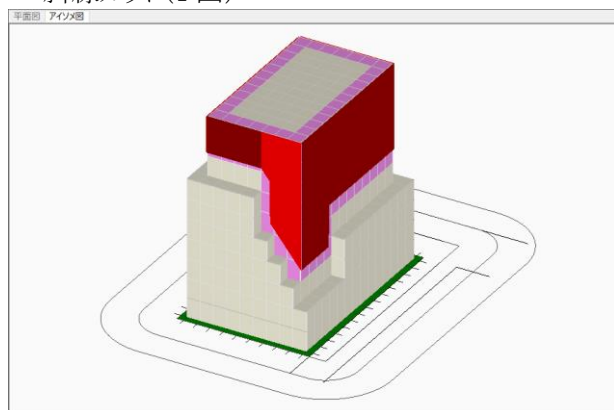
※図は斜線カットを行う場合です。

3) 確認ダイアログが開きます。

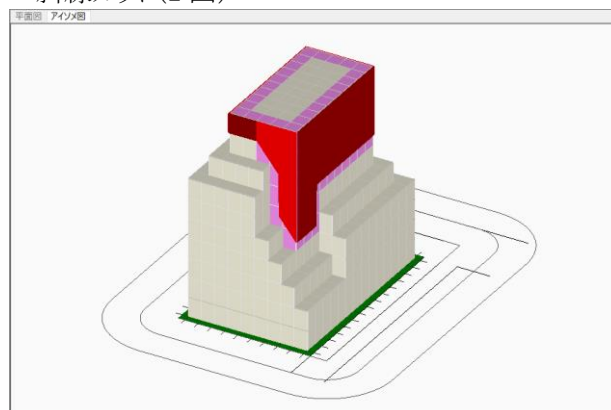


4) 「はい」を選択します。

•斜線カット(1 回)



•斜線カット(2 回)

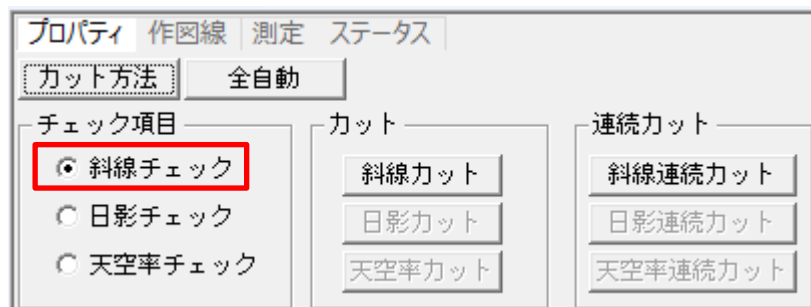


12-6-5 連続カットを行う

- チェックを行った制限に対してカットを行います。
- 制限に適合するまでマスブロックを連続でカットします。

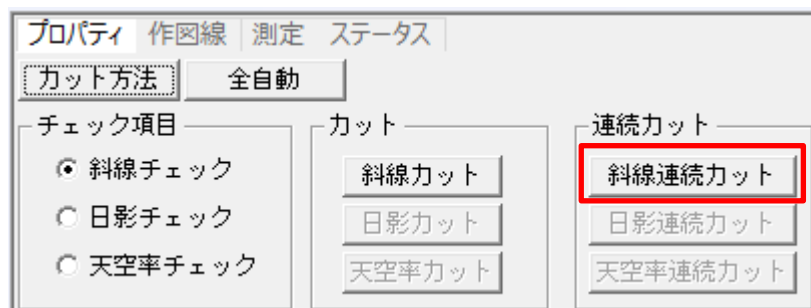
[操作手順]

- 1) 連続カットを行う制限を選択します。



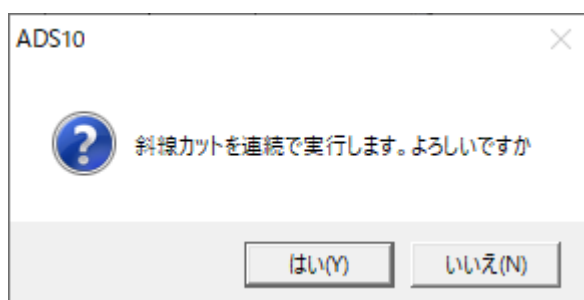
※図は斜線連続カットを行う場合です。

- 2) 連続カットを行う制限の「～連続カット」を選択します。



※図は斜線連続カットを行う場合です。

- 3) 確認ダイアログが開きます。



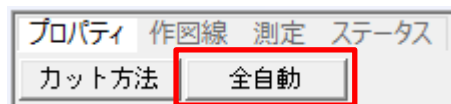
- 4) 「はい」を選択します。

12-6-6 マスブロック作成からカットまでを自動で行う

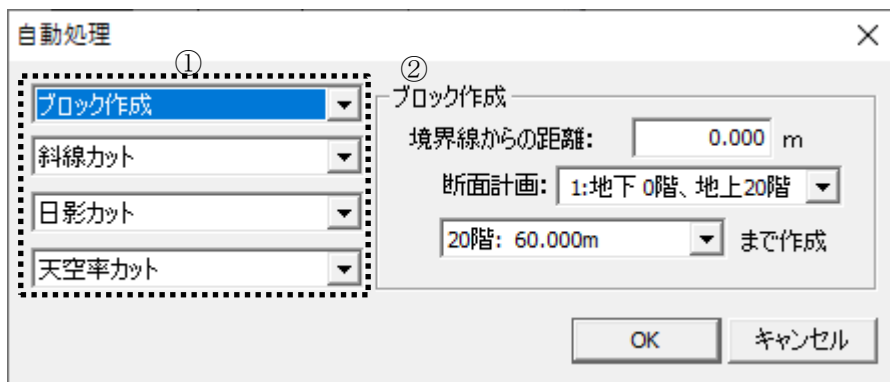
○ブロック作成から、選択した制限のチェック及びカットを自動で行います。

[操作手順]

- 1) 「全自動」を選択します。



- 2) 「自動処理」ダイアログが開きます。



番号	項目	概要	
①	自動処理選択	自動処理をする内容及び順番を設定します プルダウンメニューの上から順番に処理を行います ※マスブロックを作成していない場合は、最上段を「ブロック作成」にします	
②	ブロック作成	「自動処理選択」プルダウンメニューで「ブロック作成」を選択した場合に、ブロックの作成方法を設定します	
		境界線からの距離	境界線からの後退距離を設定します ※マスブロックはグリッド上に作成されるため、グリッドの割付によっては設定した距離以上に配置される場合があります
		断面計画選択	断面計画を選択します
		～まで作成	マスブロックを作成する階の上限を選択します

- 3) 各種条件を設定します。
- 4) 「OK」を選択します。
- 5) 「自動処理選択」プルダウンメニューの上から順番に処理を実行します。

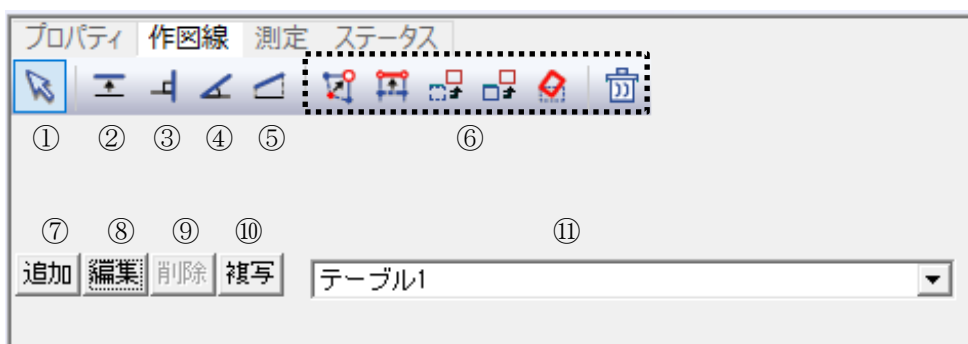
13 作図線

13-1 はじめに

- 本システムにおける作図線とは、図形等の編集時のみに有効となる線分です。
- 図形編集時の補助線分の作成を目的とした機能です。
- 入力済みの図形やインポートした図形を基に平行線や垂直線等を作成します。
- 作図線は、図形編集時に表示しますが印刷はできません。
- 作図線は、「テーブル」毎に管理することができます。

13-2 作図線 ウィンドウ

- 標準ウィンドウ上部の「作図線」タブを選択することで、作図線ウィンドウが表示します。

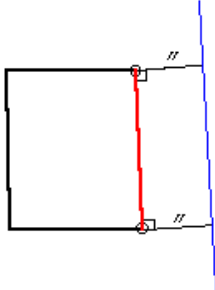


番号	項目	概要
①	選択	作図線を選択します 作図線作成時には作図を確定します
②	平行線	平行線を作成します
③	垂直線	垂直線を作成します
④	傾斜線 1	角度指定による傾斜線を作成します
⑤	傾斜線 2	距離指定による傾斜線を作成します
⑥	図形編集コマンド	図形編集コマンドです
⑦	追加	テーブルを追加します
⑧	編集	テーブルを編集します
⑨	削除	テーブルを削除します
⑩	複写	テーブルを複写します
⑪	テーブル選択	テーブルを選択します

13-3 作図線の作成

○作図線は平面図で作図します。

13-3-1 「平行線」コマンド



① 指定方法: ☒ 線分 ☐ 2点 ② 距離: m ③ 本数:

番号	項目	概要	
①	指定方法	平行線の作図方法を選択します	
		線分	任意の線分を基準とした平行線を作図します
		2点	任意の2点からなる線分を基準とした平行線を作図します
②	距離	基準線からの距離を設定します	
③	本数	作図する本数を設定します	

13-3-1-1 線分を指定して平行線を作図する

[操作手順]

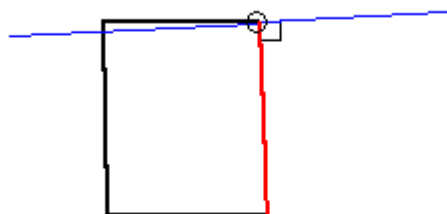
- 1) 「平行線」コマンドを選択します。
- 2) 「指定方法」で「線分」を選択します。
- 3) 平行線の基準となる線分を選択します。
※作図線が破線でプレビュー表示されます。
- 4) 「距離」及び「本数」を設定します。
※作図する方向が異なる場合、「距離」にマイナスの値を入力します。
- 5) 「選択」コマンドを選択します。

13-3-1-2 2点を指定して平行線を作図する

[操作手順]

- 1) 「平行線」コマンドを選択します。
- 2) 「指定方法」で「2点」を選択します。
- 3) 任意の2点を指定し、基準となる線分を作成します。
※作図線が破線でプレビュー表示されます。
- 4) 「距離」及び「本数」を設定します。
※作図する方向が異なる場合、「距離」にマイナスの値を入力します。
- 5) 「選択」コマンドを選択します。

13-3-2 「垂直線」コマンド



① ② ③ ④

指定方法: ☒ 線分 ☐ 2点 基準端点: ☒ 始点 ☐ 終点 距離: m 本数:

番号	項目	概要	
①	指定方法	垂直線の作図方法を選択します	
		線分	任意の線分を基準とした垂直線を作図します
		2点	任意の2点からなる線分を基準とした垂直線を作図します
②	基準端点	垂直線の作図位置を選択します	
		始点	基準線の始点に垂直線を作図します
		終点	基準線の終点に垂直線を作図します
③	距離	基準線からの距離を設定します	
④	本数	作図する本数を設定します	

13-3-2-1 線分を指定して垂直線を作図する

[操作手順]

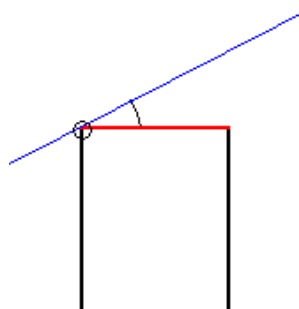
- 1) 「垂直線」コマンドを選択します。
- 2) 「指定方法」で「線分」を選択します。
- 3) 垂直線の基準となる線分を選択します。
※作図線が破線でプレビュー表示されます。
- 4) 「基準端点」、「距離」及び「本数」を設定します。
※作図する方向が異なる場合、「距離」にマイナスの値を入力します。
- 5) 「選択」コマンドを選択します。

13-3-2-2 2点を指定して垂直線を作図する

[操作手順]

- 1) 「垂直線」コマンドを選択します。
- 2) 「指定方法」で「2点」を選択します。
- 3) 任意の2点を指定し、基準となる線分を作成します。
※作図線が破線でプレビュー表示されます。
- 4) 「基準端点」、「距離」及び「本数」を設定します。
※作図する方向が異なる場合、「距離」にマイナスの値を入力します。
- 5) 「選択」コマンドを選択します。

13-3-3 「傾斜線 1」コマンド



① 指定方法: ☒ 線分 ☐ 2点 ② 基準端点: ☒ 始点 ☐ 終点 ③ 距離: m ④ 本数: ⑤ 角度: °

番号	項目	概要	
①	指定方法	傾斜線の作図方法を選択します	
		線分	任意の線分を基準とした傾斜線を作図します
		2点	任意の2点からなる線分を基準とした傾斜線を作図します
②	基準端点	傾斜線の作図位置を選択します	
		始点	基準線の始点に傾斜線を作図します
		終点	基準線の終点に傾斜線を作図します
③	距離	基準線からの距離を設定します	
④	本数	作図する本数を設定します	
⑤	角度	基準線からの角度を設定します	

13-3-3-1 線分を指定して傾斜線を作図する

[操作手順]

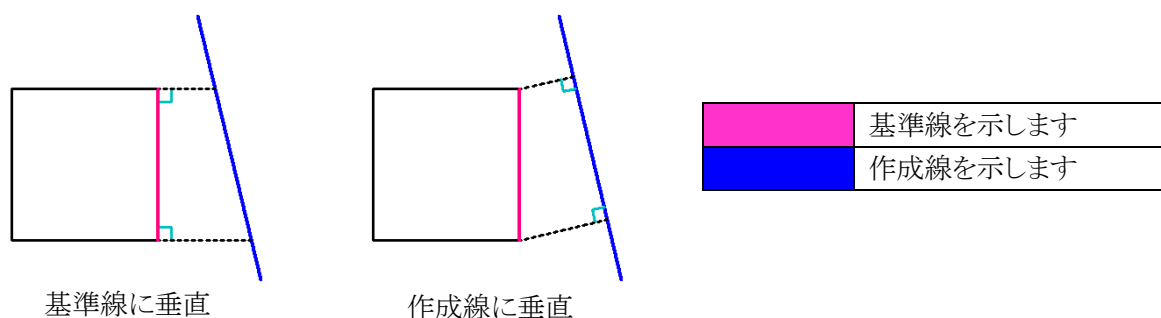
- 1) 「傾斜線 1」コマンドを選択します。
- 2) 「指定方法」で「線分」を選択します。
- 3) 傾斜線の基準となる線分を選択します。
※作図線が破線でプレビュー表示されます。
- 4) 「基準端点」、「距離」、「本数」及び「角度」を設定します。
※作図する方向が異なる場合、「距離」または「角度」にマイナスの値を入力します。
- 5) 「選択」コマンドを選択します。

13-3-3-2 2点を指定して傾斜線を作図する

[操作手順]

- 1) 「傾斜線」コマンドを選択します。
- 2) 「指定方法」で「2点」を選択します。
- 3) 任意の2点を指定し、基準となる線分を作成します。
※作図線が破線でプレビュー表示されます。
- 4) 「基準端点」、「距離」、「本数」及び「角度」を設定します。
※作図する方向が異なる場合、「距離」または「角度」にマイナスの値を入力します。
- 5) 「選択」コマンドを選択します。

13-3-4 「傾斜線 2」コマンド



① 指定方法: ☒ 線分 ☐ 2点

② ☒ 基準線に垂直 ☐ 作成線に垂直

③ 距離1: m

④ 距離2: m

⑤

番号	項目	概要
①	指定方法	傾斜線の作図方法を選択します
		線分 任意の線分を基準とした傾斜線を作図します
		2点 任意の2点からなる線分を基準とした傾斜線を作図します
②	基準線に垂直	基準線に垂直に距離を設定し傾斜線を作図します
③	作成線に垂直	作成線に垂直に距離を設定し傾斜線を作図します
④	距離 1	基準線または作成線の始点側からの距離を設定します
⑤	距離 2	基準線または作成線の終点側からの距離を設定します

13-3-4-1 線分を指定して傾斜線を作図する

[操作手順]

- 1) 「傾斜線 2」コマンドを選択します。
- 2) 「指定方法」で「線分」を選択します。
- 3) 「基準線に垂直」または「作成線に垂直」を選択します。
- 4) 傾斜線の基準となる線分を選択します。
※作図線が破線でプレビュー表示されます。
- 5) 「距離 1」及び「距離 2」を設定します。
※作図する方向が異なる場合、マイナスの値を入力します。
- 6) 「選択」コマンドを選択します。

13-3-4-2 2点を指定して傾斜線を作図する

[操作手順]

- 1) 「傾斜線」コマンドを選択します。
- 2) 「指定方法」で「2点」を選択します。
- 3) 任意の2点を指定し、基準となる線分を作成します。
※作図線が破線でプレビュー表示されます。

-
- 4) 「距離 1」及び「距離 2」を設定します。
※作図する方向が異なる場合、にマイナスの値を入力します。
 - 5) 「選択」コマンドを選択します。

13-4 テーブルについて

○テーブルは、CAD におけるレイヤと同じ概念のものです。

○テーブル単位に作図線を作図することができます。

○必要に応じて複数のテーブルを作成します。

[テーブル例]

○本敷地用テーブル(法 42 条 2 項道路、都市計画道路等により敷地形状を編集)

○建物用テーブル(計画の変更)

○適合建築物用テーブル(特殊例対応)

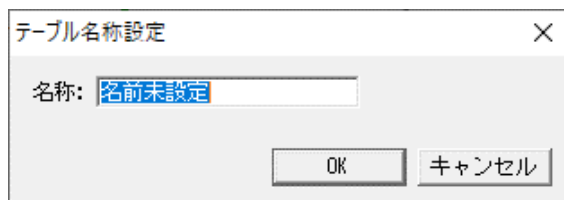
○測定ライン用テーブル(特殊例対応)

○テーブルが無い場合は作図線が作図できません。

13-4-1 テーブルを追加する

[操作手順]

- 1) 「追加」を選択します。
- 2) 「テーブル名称設定」ダイアログが開きます。

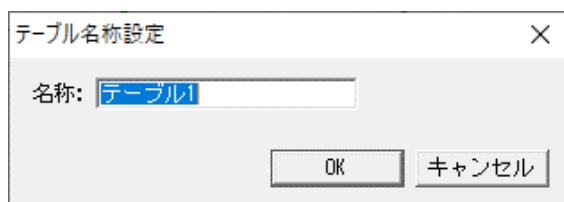


- 3) 名称を入力します。
- 4) 「OK」を選択します。

13-4-2 テーブル名称を変更する

[操作手順]

- 1) 「テーブル選択」プルダウンメニューより名称を変更するテーブルを選択します。
- 2) 「テーブル名称設定」ダイアログが開きます。

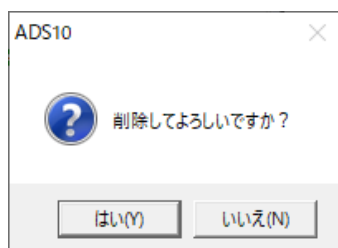


- 3) 名称を入力します。
- 4) 「OK」を選択します。

13-4-3 テーブルを削除する

[操作手順]

- 1) 「テーブル選択」プルダウンメニューより削除するテーブルを選択します。
- 2) 確認ダイアログが開きます。

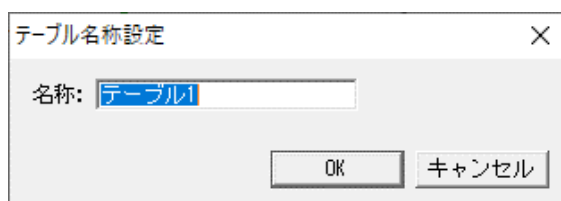


- 3) 「はい」を選択します。

13-4-4 テーブルを複写する

[操作手順]

- 1) 「テーブル選択」プルダウンメニューより複写するテーブルを選択します。
- 2) 「テーブル名称設定」ダイアログが開きます。



- 3) 名称を入力します。
- 4) 「OK」を選択します。

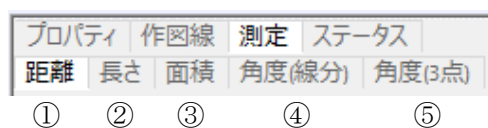
14 測定

14-1 はじめに

- 平面図に表示されている図形に対して測定を行います。
- 平面図以外の図面では測定できません。

14-2 測定ウィンドウ

- 標準ウィンドウ上部の「測定」タブを選択することで、測定ウィンドウが表示します。
- 測定機能はタブで選択します。



番号	項目	概要
①	距離	距離を測定します
②	長さ	線分の長さを測定します 累計長さも測定可能です
③	面積	面積を測定します
④	角度(線分)	2本の線分間の角度を測定します
⑤	角度(3点)	3点を指定して角度を測定します

14-3 測定する

14-3-1 距離を測定する

プロパティ	作図線	測定	ステータス	
距離	長さ	面積	角度(線分)	角度(3点)
		m	クリア	

①

②

番号	項目	概要
①	距離表示	測定した距離を表示します
②	クリア	測定結果を削除します

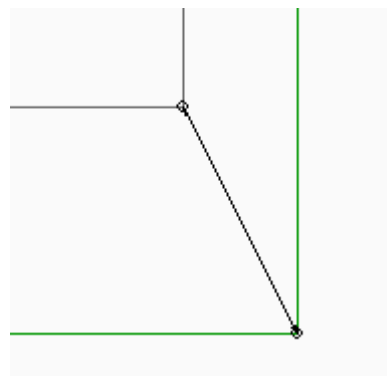
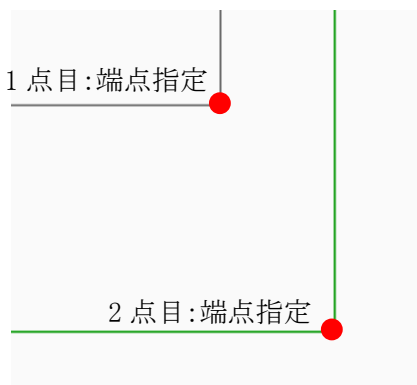
14-3-1-1 2点間の距離を測定する

[操作手順]

1) 「距離」を選択します。

プロパティ	作図線	測定	ステータス	
距離	長さ	面積	角度(線分)	角度(3点)
		m	クリア	

2) 距離を測定する端点を2点指定します。



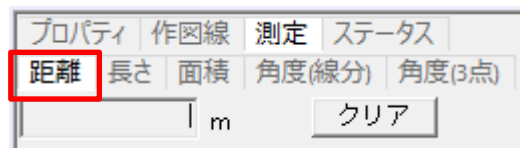
プロパティ	作図線	測定	ステータス	
距離	長さ	面積	角度(線分)	角度(3点)
4.472136		m	クリア	

※続けて距離を測定する場合は、「クリア」を選択します。

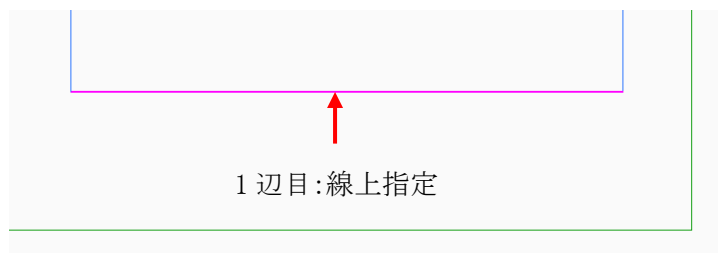
14-3-1-2 線分からの垂直距離を測定する

[操作手順]

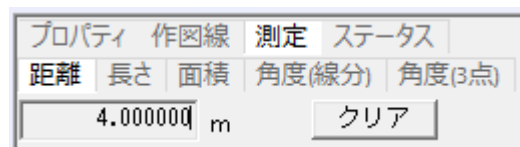
- 1) 「距離」を選択します。



- 2) 垂直の基準となる線分の線上を選択します。

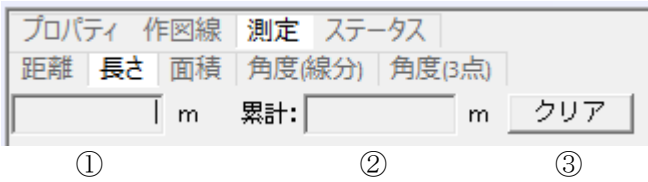


- 3) 距離を測定する端点または線分を選択します。



※続けて距離を測定する場合は、「クリア」を選択します。

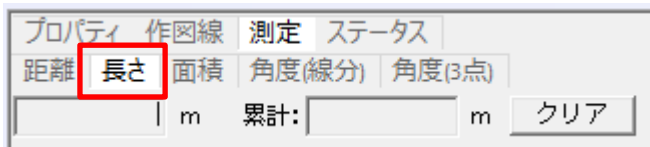
14-3-2 長さを測定する



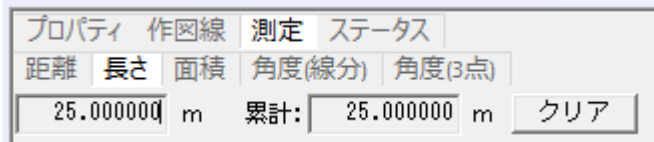
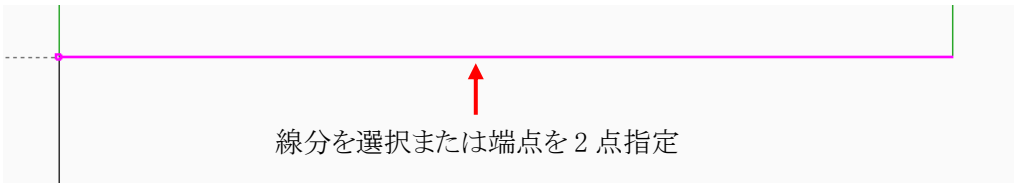
番号	項目	概要
①	長さ表示	測定した線分の長さを表示します
②	累計長さ表示	測定した線分の累計長さを表示します
③	クリア	測定結果を削除します

[操作手順]

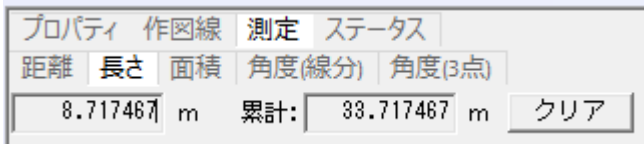
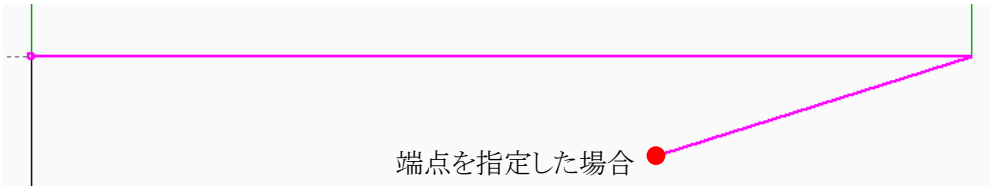
1) 「長さ」を選択します。



2) 長さを測定する線分を選択または端点を 2 点指定します。

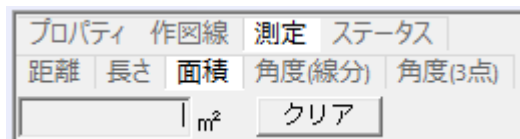


3) 連続して線分を選択または端点を指定することで長さを累計します。



※別の長さを測定する場合は、「クリア」を選択します。

14-3-3 面積を測定する



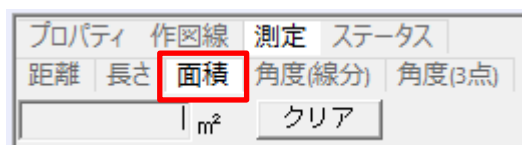
①

②

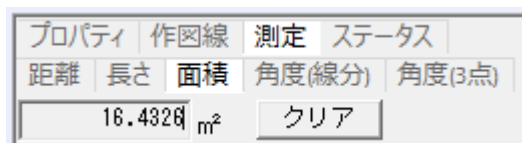
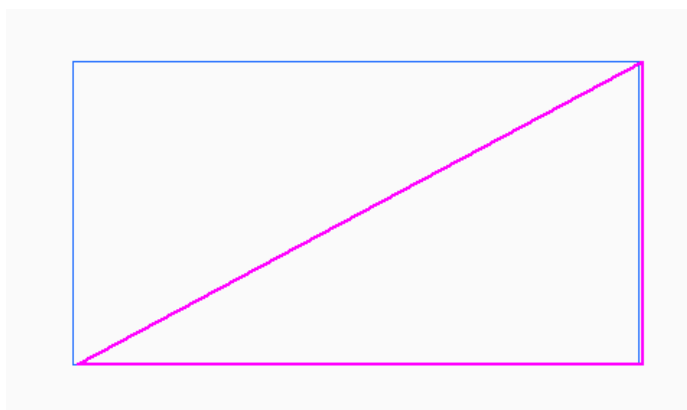
番号	項目	概要
①	面積表示	測定した面積を表示します
②	クリア	測定結果を削除します

[操作手順]

1) 「面積」を選択します。

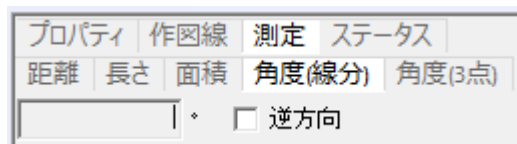


2) 面積を測定する端点を3点以上連続で指定します。



※別の面積を測定する場合は、「クリア」を選択します。

14-3-4 線分間の角度を測定する



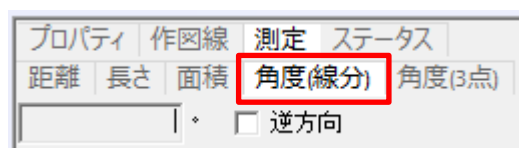
①

②

番号	項目	概要
①	角度表示	測定した角度を表示します
②	逆方向	チェックを入れると、逆方向の角度を表示します

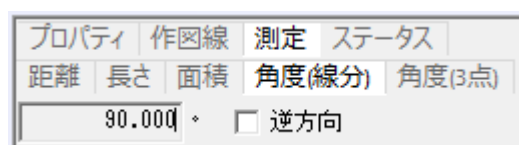
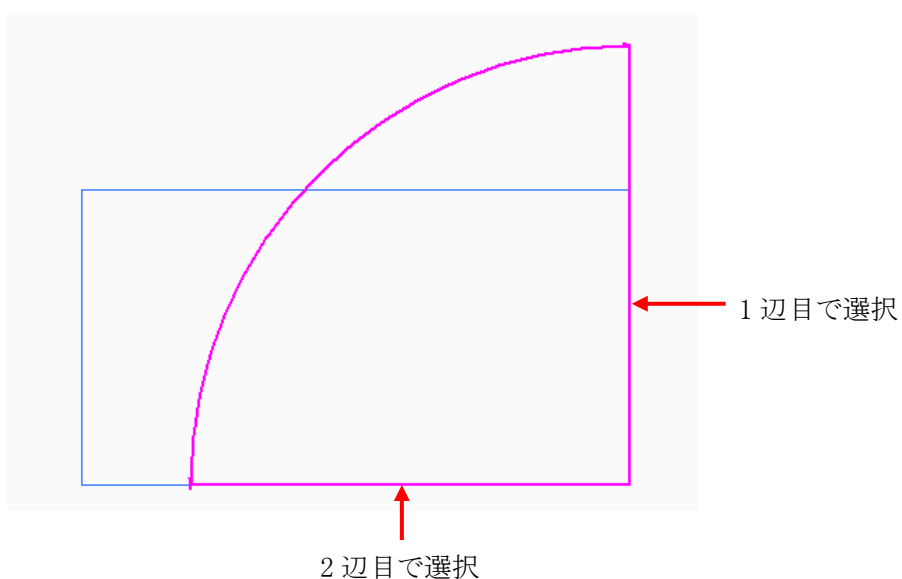
[操作手順]

- 1) 「角度(線分)」を選択します。

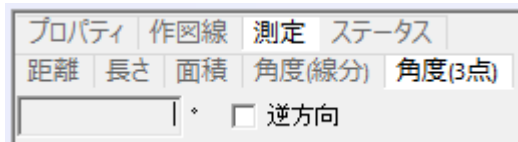


- 2) 角度を測定する線分を 2 本選択します。

※1 辺目を基点とし、2 辺目へ反時計周り方向に測定します。



14-3-5 3点を指定して角度を測定する



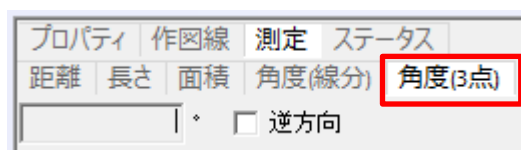
①

②

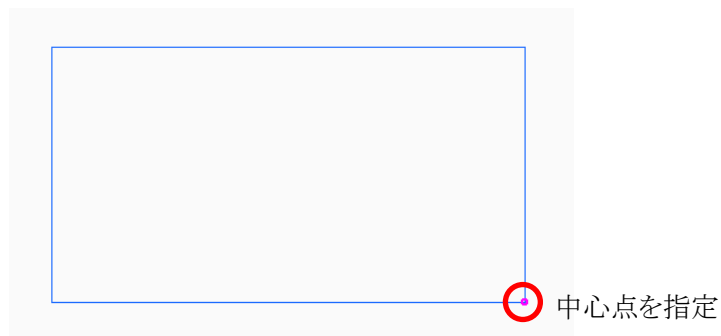
番号	項目	概要
①	角度表示	測定した角度を表示します
②	逆方向	チェックを入れると、逆方向の角度を表示します

[操作手順]

- 1) 「角度(3点)」を選択します。

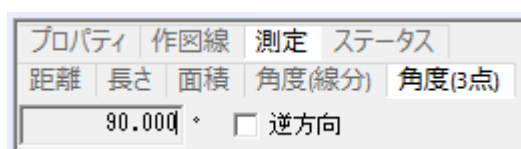
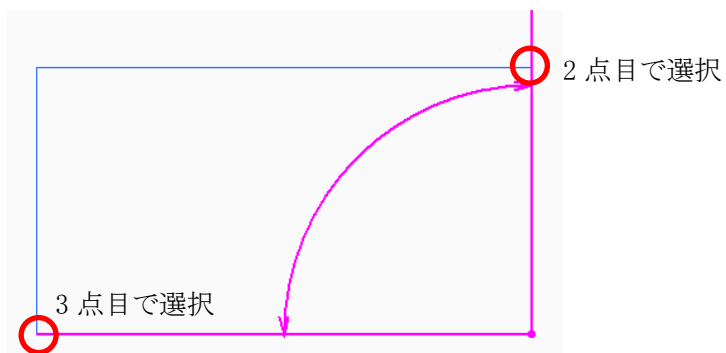


- 2) 測定する角度の中心点を指定します。



- 3) 残りの2点を指定します。

※2点目を基点とし、3点目へ反時計周り方向に測定します。



15 印刷プレビュー

15-1 はじめに

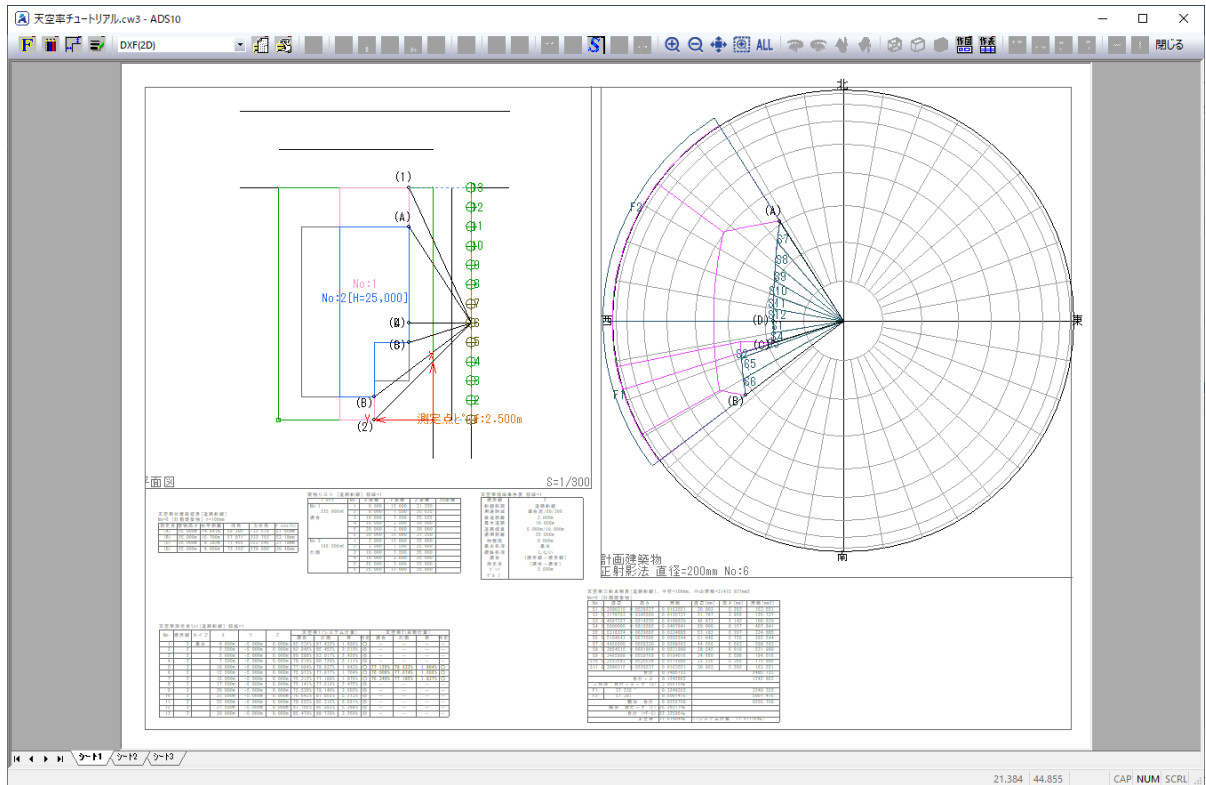
○本システムでは、印刷または DXF 出力をする場合、印刷プレビューウィンドウで行います。

○レイアウトシート単位で、図形または表を配置し、出力します。

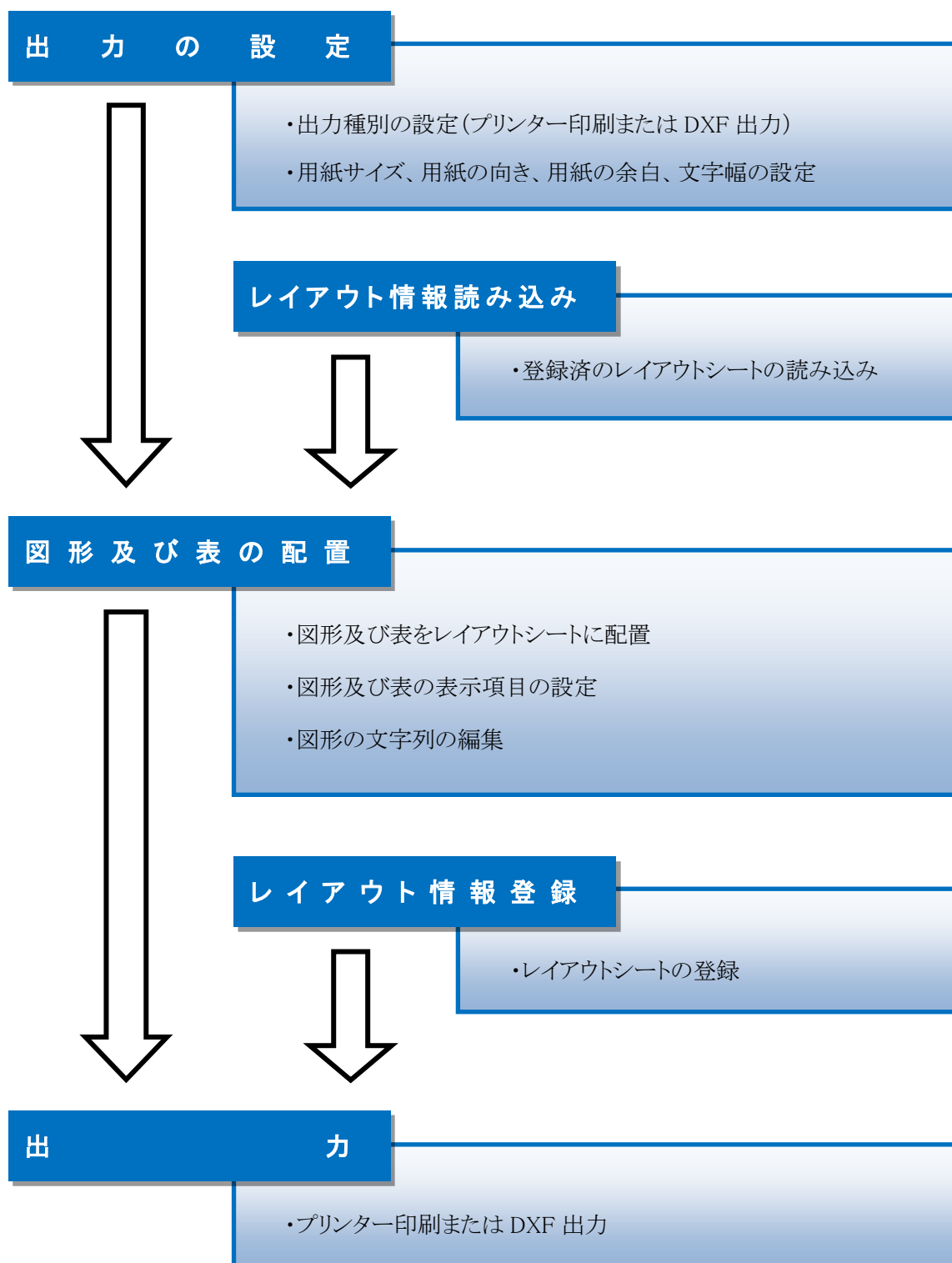
○配置した図形や表の位置をレイアウト情報として登録できます。

※再計算後の図形の結果は自動更新されますが、文字列は自動更新されません

※再計算した場合は必ず「文字列の更新」をしてください。

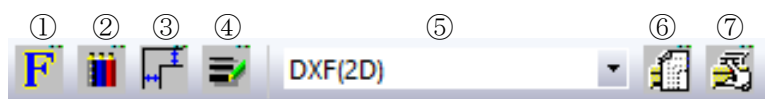


15-2 印刷プレビューのワークフロー



15-3 ツールバー

15-3-1 印刷環境及び出力設定



番号	項目	概要
①	フォントの選択	表及び図形のフォントサイズを設定します
②	ペン設定	ペンテーブルを設定します
③	余白の設定	レイアウトの余白を設定します
④	線幅の設定	線幅を設定します
⑤	出力形式選択	出力する形式を選択します
		プリンター プリンターで印刷をします
		DXF (2D) DXF に 2D 出力をします
		DXF (3D) DXF に 3D 出力をします
⑥	印刷設定	「出力形式」で「プリンター」を選択した場合に、プリンターの設定をします
	DXF 出力の設定	「出力形式」で「DXF (2D)」または「DXF (3D)」を選択した場合に、DXF 出力の設定をします
⑦	印刷	「出力形式」で「プリンター」を選択した場合に、設定した内容でプリンター印刷を実行します
	DXF 出力の実行	「出力形式」で「DXF (2D)」または「DXF (3D)」を選択した場合に、設定した内容で DXF 出力を実行します

15-3-2 文字列編集



番号	項目	概要
①	文字列編集	文字列編集メニューを起動します
②	任意文字列の作成	新規文字列を作成します
③	道路幅文字列の作成	道路幅員の文字列を作成します
④	敷地境界線文字列の作成	「敷地境界線/道路境界線」文字列を作成します
⑤	みなし敷地文字列の作成	「みなし敷地」文字列を作成します
⑥	規制ライン文字列の作成	「5m ライン/10m ライン」文字列を作成します
⑦	文字列の更新	選択した図形または表の文字列を更新します
⑧	文字列の自動配置	選択した文字列を元の位置に配置します
⑨	文字列の手動配置	選択した文字列を任意の位置に配置します
⑩	文字列を表示	選択した文字列を表示します
⑪	文字列を非表示	選択した文字列を非表示にします

15-3-3 図形の設定



番号	項目	概要
①	表示項目の設定	図形及び表の表示項目を設定します
②	縮尺の設定	選択した図形の縮尺を設定します
③	モード設定	選択したアイソメ図の陰線処理を設定します

15-3-4 画面表示設定



番号	項目	概要
①	表示データの表示拡大	レイアウトシートを拡大します (Shift + PageUp)
②	表示データの表示縮小	レイアウトシートを縮小します (Shift + PageDown)
③	表示データの表示移動	2 点指示でレイアウトシートを移動します (1 点目: 基点+2 点目: 移動位置)
④	表示データの矩形拡大	対角 (2 点) 指定によりレイアウトシートの任意の範囲を拡大します
⑤	表示データの全体表示	レイアウトシート全体を表示します
⑥	表示データの回転左方向	表示データを左に回転します (Shift + ←)
⑦	表示データの回転右方向	表示データを右に回転します (Shift + →)
⑧	視点変更上方向	表示データを上に回転します (Shift + ↑)
⑨	視点変更下方向	表示データを下に回転します (Shift + ↓)

※()内はキーボードによる操作です。

※マウスのホイールボタンを回すことで、レイアウトシートの拡大・縮小も可能です。

※マウスのホイールボタンをドラッグすることで、レイアウトシートの移動も可能です。

※⑥～⑧の項目は、アイソメ図またはソーラーアイビューを選択した場合に有効です。

15-3-5 図形表示モード設定



番号	項目	概要
①	ワイヤーフレーム	アイソメ図を線描画表示にします
②	隠線	アイソメ図を外部から見える線のみを表示にします
③	シェーディング表示	アイソメ図を図形の面を着色して表示します

※アイソメ図またはソーラーアイビューを選択した場合に有効です。

15-3-6 作図・作表



番号	項目	概要
①	作成する図形の選択	作成する図形を選択します
②	作成する表の選択	作成する表を選択します

15-3-7 図形/表の位置設定



番号	項目	概要
①	上を揃える	最初に選択した図形/表の上端に、他の図形/表の上端を揃えます (Ctrl+ ↑)
②	下を揃える	最初に選択した図形/表の下端に、他の図形/表の下端を揃えます (Ctrl+ ↓)
③	左端を揃える	最初に選択した図形/表の左端に、他の図形/表の左端を揃えます (Ctrl+ ←)
④	右端を揃える	最初に選択した図形/表の右端に、他の図形/表の右端を揃えます (Ctrl+ →)
⑤	上下均等配置	選択した図形/表の上下方向の間隔を均等にします
⑥	左右均等配置	選択した図形/表の左右方向の間隔を均等にします

※複数の図形/表を選択することで有効となります。

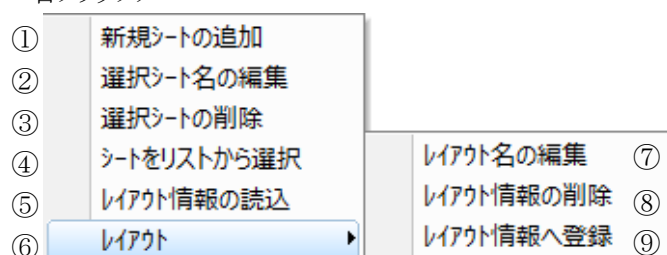
15-4 シート見出し

- レイアウトシート及びレイアウト情報の設定をします
- シート見出しを右クリックすることでメニューが表示します。



番号	項目	概要
①	シート見出し表示範囲移動	シート見出しの表示範囲を移動します
②	シートタブ	シートタブを表示します

・右クリックメニュー



番号	項目	概要
①	新規シートの追加	新規レイアウトシートを追加します
②	選択シート名の編集	選択したレイアウトシートの名前を編集します
③	選択シートの削除	選択したレイアウトシートを削除します
④	シートをリストから選択	レイアウトシートをリストから選択します
⑤	レイアウト情報の読込	レイアウト情報を読み込みます
⑥	レイアウト	サブメニューを開きます
⑦	レイアウト名の編集	レイアウト情報の名前を編集します
⑧	レイアウト情報の削除	選択したレイアウト情報を削除します
⑨	レイアウト情報へ登録	選択したレイアウトシートをレイアウト情報へ登録します

15-4-1 表示するレイアウトシートを選択する

[操作手順]

- 1) 表示するレイアウトシートタブを選択します。

15-4-2 新規レイアウトシートを追加する

[操作手順]

- 1) 右クリックメニューを開きます。
- 2) 「新規シートの追加」を選択します。

15-4-3 レイアウトシート名を編集する

[操作手順]

- 1) シート名を選択するレイアウトシートを選択します。
- 2) 右クリックメニューを開きます。
- 3) 「選択シート名の編集」を選択します。
- 4) シート見出しでレイアウトシート名を入力します。

15-4-4 レイアウトシートを削除する

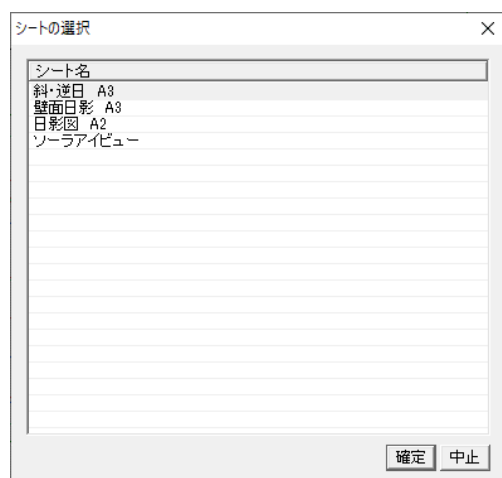
[操作手順]

- 1) 削除するレイアウトシートを選択します。
- 2) 右クリックメニューを開きます。
- 3) 「選択シートの削除」を選択します。

15-4-5 表示するレイアウトシートをリストから選択する

[操作手順]

- 1) 右クリックメニューを開きます。
- 2) 「シートをリストから選択」を選択します。
- 3) 「シートの選択」ダイアログが開きます。

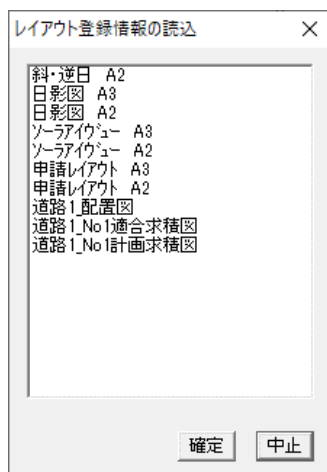


- 4) 表示するレイアウトシートを選択します。
- 5) 「確定」を選択します。

15-4-6 レイアウト情報を読み込む

[操作手順]

- 1) 右クリックメニューを開きます。
- 2) 「レイアウト情報の読み込み」を選択します。
- 3) 「レイアウト登録情報の読み込み」ダイアログが開きます。

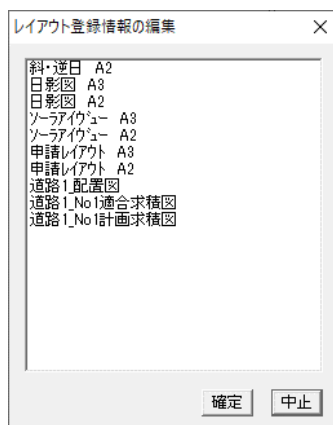


- 4) 読み込むレイアウト情報名を選択します。
- 5) 「確定」を選択します。

15-4-7 レイアウト名を編集する

[操作手順]

- 1) 右クリックメニューを開きます。
- 2) 「レイアウト」を選択します。
- 3) 「レイアウト情報の読み込み」を選択します。
- 4) 「レイアウト登録情報の編集」ダイアログが開きます。

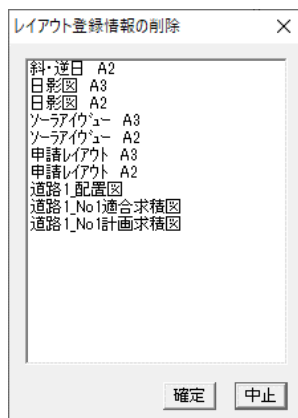


- 5) レイアウト名を編集するレイアウト登録情報をゆっくりダブルクリックします。
- 6) レイアウト名を編集します。
- 7) 「確定」を選択します。

15-4-8 レイアウト情報を削除する

[操作手順]

- 1) 右クリックメニューを開きます。
- 2) 「レイアウト」を選択します。
- 3) 「レイアウト情報の削除」を選択します。
- 4) 「レイアウト登録情報の削除」ダイアログが開きます。

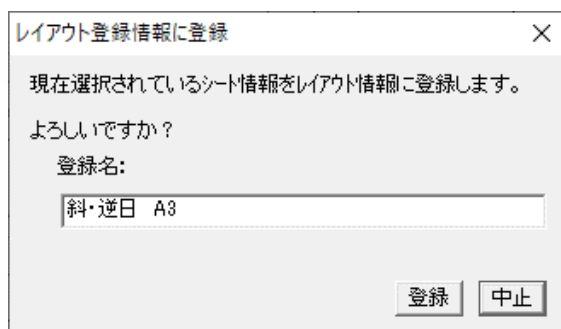


- 5) 削除するレイアウト登録情報を選択します。
- 6) 「確定」を選択します。

15-4-9 選択したレイアウトシートをレイアウト情報へ登録する

[操作手順]

- 1) レイアウト情報へ登録するシートを選択します。
- 2) 右クリックメニューを開きます。
- 3) 「レイアウト」を選択します。
- 4) 「レイアウト情報へ登録」を選択します。
- 5) 「レイアウト登録情報に登録」ダイアログが開きます。



- 6) 登録名を編集します。
- 7) 「登録」を選択します。

15-5 印刷環境設定

15-5-1 出力するフォントサイズを設定する

- 設定したフォントサイズはレイアウトシート全体に適用されます。
- 個別の文字のフォントサイズは設定できません。

[操作手順]

- 1) ツールバーまたは右クリックメニューから「フォントの選択」を選択します。
- 2) 「フォントの指定」ダイアログが開きます。



- 3) 「表」及び「図」のフォントサイズを設定します。
- 4) 「確定」を選択します。

15-5-2 ペンテーブルを設定する

- 出力用のペンテーブル設定をします。
- 本システムでは、画面表示色とは異なった色で出力することが可能です。
- 表示パターンを「画面色」にした場合は、出力色の変更はできません。
- 標準色(黒/赤/青/黄/緑/赤紫/水色/白)を設定する場合は「色」のリストメニューから選択します。この場合は赤(R)・緑(G)・青(B)の番号は変更できません。
- 標準色以外の色を指定する場合は、「ユーザー設定」を選択し、色番号を指定します。
- プルダウンメニューより使用するペンテーブルを選択します。

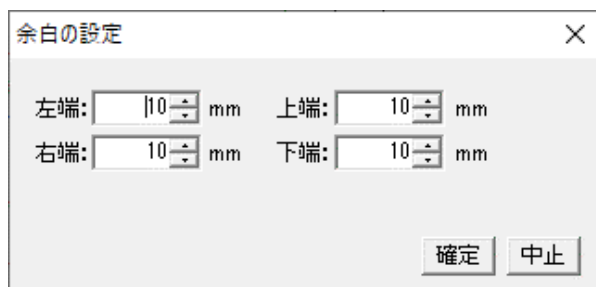


15-5-3 シートの余白を設定する

○印刷可能範囲は、プリンターの機種によって異なります。

[操作手順]

- 1) ツールバーまたは右クリックメニューから「余白の設定」を選択します。
- 2) 「余白の設定」ダイアログが開きます。



- 3) 余白を設定します。
- 4) 「確定」を選択します。

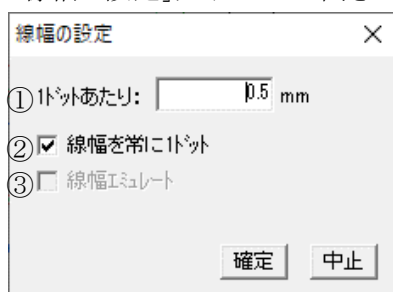
15-5-4 出力する線幅を設定する

○1ピクセルあたりの線幅を設定します。

○「環境設定/線設定の太さ」で設定した太さに対して、線幅は1つ増えるごとに一定の幅で太くなっています。

[操作手順]

- 1) ツールバーまたは右クリックメニューから「線幅の設定」を選択します。
- 2) 「線幅の設定」ダイアログが開きます。



番号	項目	概要
①	1ドットあたり	「環境設定/線設定」の太さが1増加した際に増加する線幅の設定をします(0.1～2.9mmの範囲) ex. 1ピクセルあたり0.1mmの場合 線設定の太さ「1」→線幅0.1mm 線設定の太さ「2」→線幅0.2mm
②	線幅を常に1ピクセル	「環境設定/線設定」の太さに関わらず全て設定した数値で出力します 出力されない線がある場合や、印刷位置がずれる場合に設定します
③	線幅エミュレート	1ピクセル幅の線を「環境設定/線設定」の太さに対して補正して出力し、点線などを実線で印刷します

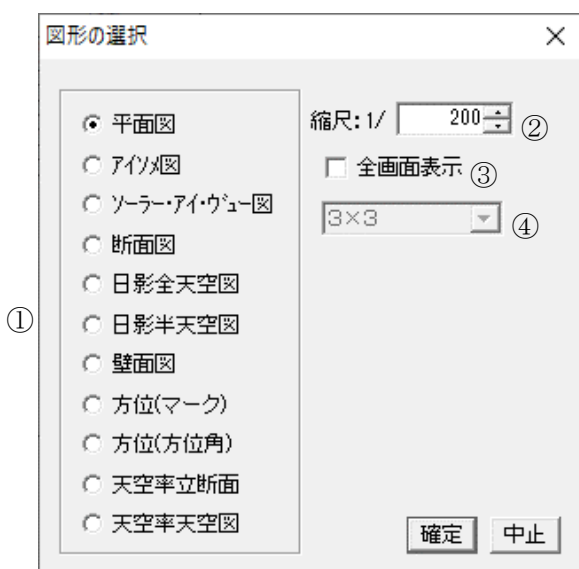
- 3) 各種設定を設定します。
- 4) 「確定」を選択します。

15-6 作図・作表・図形の設定

15-6-1 作図について

- 作図によって、図形枠をレイアウトシートに配置します。
- 図形枠内に、平面図やアイソメ図等の図形を表示します。
- 表示する図形は「図形の選択」ダイアログで選択します。

15-6-1-1 「図形の選択」ダイアログ

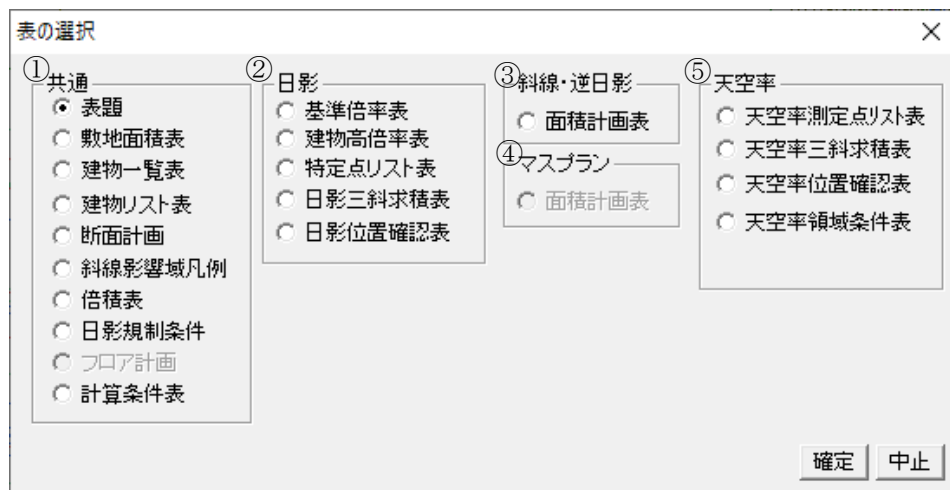


番号	項目	概要
①	図形選択	表示する図形を選択します
		平面図 平面図を表示します
		アイソメ図 アイソメ図を表示します
		ソーラー・アイ・ビュー図 ソーラー・アイ・ビュー図を表示します
		断面図 「斜線・逆日影/断面図」で作成した断面図を表示します
		日影全天空図 特定点または壁面特定点における全天空図を表示します
		日影半天空図 特定点または壁面特定点における半天空図を表示します
		壁面図 「日影計算/壁面編集」で作成した壁面図を表示します
		方位(マーク) マーク形式の方位を表示します
		方位(方位角) 方位角形式の方位を表示します
		天空率立断面図 「天空率解析/立断面図」で作成した天空率立断面図を表示します
		天空率天空図 天空率測定点における全天空図を表示します
②	縮尺	図形の縮尺を設定します
③	全画面表示	図形をレイアウトシート全体に表示します
④	作図方法選択	ソーラーアイビューの作図方法を選択します

15-6-2 作表について

- 作表によって、表をレイアウトシートに配置します。
- 配置する表は「表の選択」ダイアログで選択します。

15-6-2-1 「表の選択」ダイアログ



番号		項目	概要
①	共通	表題	表題を表示します
		敷地面積	敷地面積表を表示します
		建物一覧表	建物一覧表を表示します
		建物リスト表	建物リスト表を表示します
		断面計画	「与条件設定/断面計画」で作成した断面計画表を表示します
		斜線影響域凡例	斜線影響域凡例を表示します
		倍積表	「与条件設定/三斜求積」で作成した倍積表を表示します
		日影規制条件	「与条件設定/日影規制」で設定した日影規制条件表を表示します
		フロア計画	「建物編集/フロア計画」で計算したフロア計画表を表示します
		計算条件表	与条件設定各メニューで設定した計算条件表を表示します
②	日影	基準倍率表	基準倍率表を表示します
		建物高倍率表	建物高倍率表を表示します
		特定点リスト表	「日影計算/特定点及び壁面特定点」で登録した特定点の特定点リスト表を表示します
③	斜線・逆日影	面積計画表	「斜線・逆日影/面積計画表」で計算した面積計画表を表示します
④	マスプラン	面積計画表	「マスプラン」で計算した面積計画表を表示します
⑤	天空率	天空率測定点リスト表	天空率測定点リスト表を表示します
		天空率三斜求積表	「天空率解析/天空率計算」で計算 2 を計算した測定点の天空率三斜求積表を表示します
		天空率位置確認表	「天空率解析/位置確認表」で位置確認線を設定した測定点の位置確認表を表示します
		天空率領域条件表	天空率算定領域毎の天空率領域条件表を表示します

15-6-3 作図する

[操作手順]

- 1) ツールバーから「作図」を選択、または右クリックメニューの「図形の選択」を選択します。
- 2) 「図形の選択」ダイアログが開きます。
- 3) 表示する図形を選択します。
- 4) 必要に応じて各項目を設定します。
- 5) 「確定」を選択します。
- 6) 「表示項目の設定」ダイアログが開きます。
- 7) 表示する項目を設定します。
- 8) 「OK」を選択します。
- 9) レイアウトシートで、対角 2 点指定で図形配置範囲を指定します。

※表示項目、縮尺、図形サイズ、図形配置は、作図後の変更が可能です。

15-6-4 作表する

[操作手順]

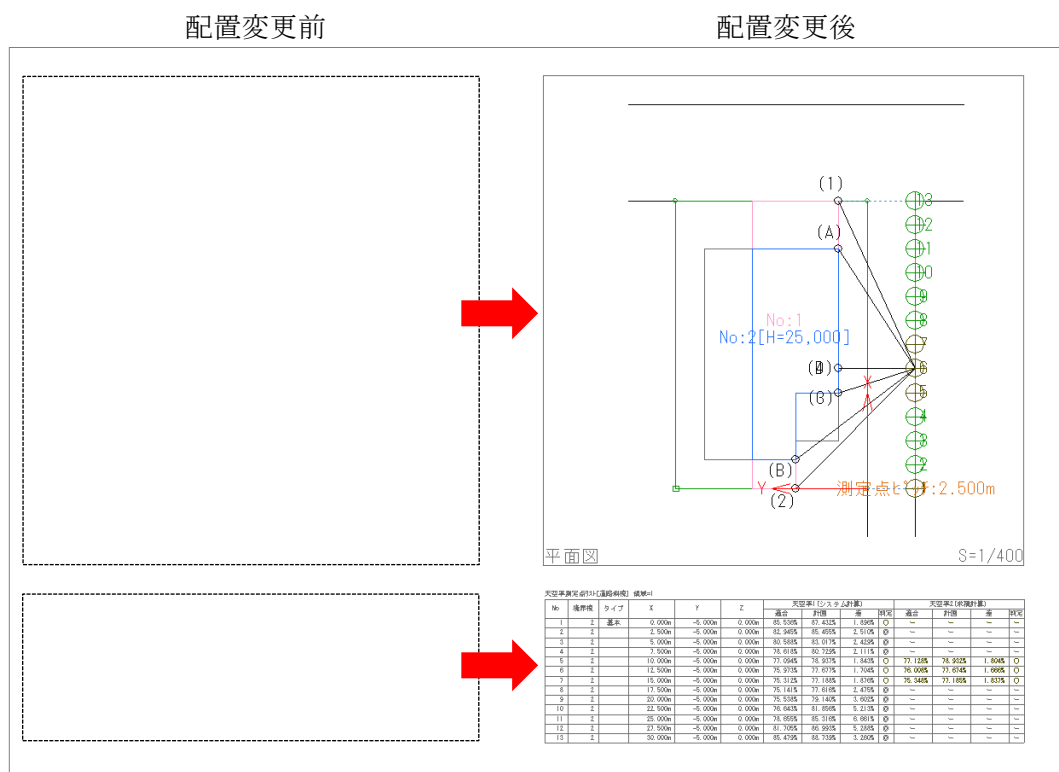
- 1) ツールバーから「作表」を選択、または右クリックメニューの「表の選択」を選択します。
- 2) 「表の選択」ダイアログが開きます。
- 3) 配置する表を選択します。
- 4) 「確定」を選択します。
- 5) 選択した表の種類に応じて、「項目の設定」ダイアログが開きます。
- 6) 表示する項目を設定します。
- 7) 「OK」を選択します。
- 8) レイアウトシートで、表の配置位置を指定します。

※項目の設定、表の配置は、作表後の変更が可能です。

15-6-7 配置の変更と図形位置の変更について

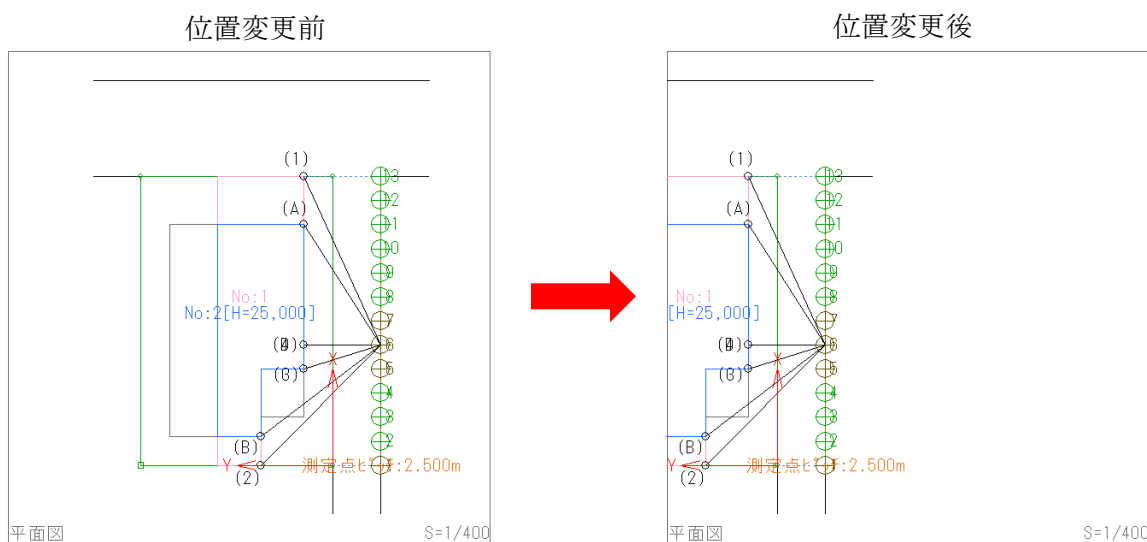
15-6-7-1 配置の変更について

- レイアウトシート内で図形枠または表の配置を変更します。



15-6-7-2 図形位置の変更について

- 図形枠内で図形の位置を変更します。



15-6-8 図形または表の配置を変更する

[操作手順]

- 1) 配置を変更する図形または表を選択します。
- 2) 図形枠または表の中心点の■マークを選択します。
※右クリックでキャンセルできます。
- 3) 図形または表の配置を変更する位置を指定します。

15-6-9 複数の図形または表の配置を変更する

[操作手順]

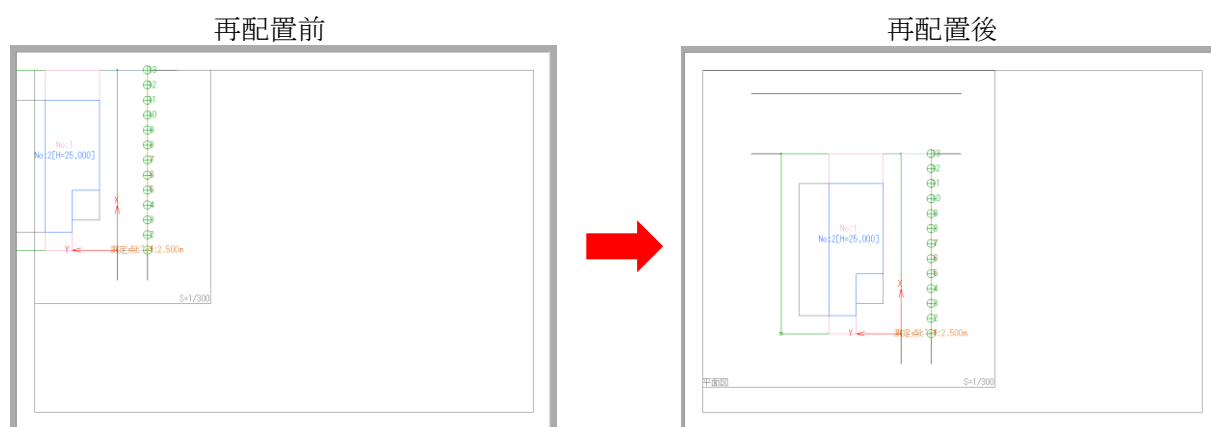
- 1) 配置を変更する複数の図形または表を選択します。
- 2) 最初に選択した図形枠または表の中心点の■マークを選択します。
※右クリックでキャンセルできます。
- 3) 複数の図形または表の配置を変更する位置を指定します。

15-6-10 図形または表をレイアウトシート内に再配置する

・用紙サイズ変更等でレイアウトシート外に図形または表が配置された場合に配置を変更します。

[操作手順]

- 1) 図形を選択していない状態で右クリックメニューを開きます。
- 2) 「図形の再配置」を選択します。



15-6-11 図形枠の大きさを変更する

[操作手順]

- 1) 大きさを変更する図形を選択します。
- 2) 図形枠の四隅の点または各辺の中点の■マークを選択します。
- 3) マウスカソールの表示が大きさを変更できる方向の矢印になります。
※右クリックでキャンセルできます。
- 4) 変更する大きさを指定します。

15-6-12 表の大きさを変更する

[操作手順]

- 1) 大きさを変更する表を選択します。
- 2) 四隅の点または各辺の中点の■マークを選択します。
- 3) マウスカースルの表示が大きさを変更できる方向の矢印になります。
※右クリックでキャンセルできます。
- 4) 変更する大きさを指定します。
※表の種類または表のサイズによっては大きさを変更できません。

15-6-13 図形をレイアウトシート全体に表示する

[操作手順]

- 1) レイアウトシート全体に表示する図形を選択します。
- 2) 右クリックメニューを開きます。
- 3) 「全画面表示」を選択します。

15-6-14 図形枠内の図形の位置を変更する

[操作手順]

- 1) 図形枠内の図形の位置を変更する図形を選択します。
- 2) 図形枠内で左クリックします。
※中心点以外で左クリックして下さい。
※右クリックでキャンセルできます。
- 3) 図形を移動する位置を図形枠内で指定します。

15-6-15 図形枠内の図形の位置を初期位置に戻す

[操作手順]

- 1) 図形枠内の図形の位置を初期位置に戻す図形を選択します。
- 2) 右クリックメニューを開きます。
- 3) 「図形表示位置の初期化」を選択します。

15-6-16 図形または表を複写する

[操作手順]

- 1) 複写する図形または表を選択します。
- 2) 右クリックメニューを開きます。
- 3) 「オブジェクトの複写」を選択します。
- 4) 「表示項目の設定」または「項目の設定」ダイアログが開きます。
- 5) 表示する項目を設定します。
- 6) 「OK」を選択します。
※元の図形または表から少しずれた位置に複写します。

15-7 文字列編集

○図形または表の文字列を編集します。

※再計算後の図形の結果は自動更新されますが、文字列は自動更新されません。

※再計算した場合は必ず「文字列の更新」をしてください。

15-7-1 文字列編集を開始する

[操作手順]

- 1) 文字列を編集する図形または表を選択します。
- 2) ツールバーまたは右クリックメニューから「文字列編集」を選択します。

15-7-2 文字列編集を終了する

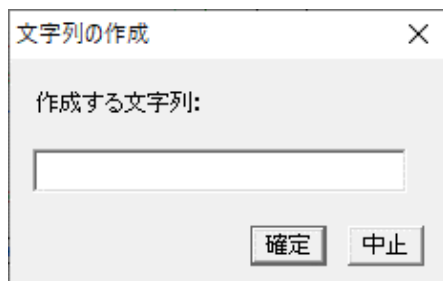
[操作手順]

- 1) ツールバーで「文字列編集」を選択、または右クリックメニューから「テキスト編集の終了」を選択します。
※文字列編集を終了することで変更が確定します。

15-7-3 任意の文字列を作成する

[操作手順]

- 1) 文字列を作成する図形を選択します。
- 2) 「文字列編集」を開始します。
- 3) ツールバーまたは右クリックメニューから「任意文字列の作成」を選択します。
- 4) 「文字列の作成」ダイアログが開きます。



- 5) 作成する文字列を入力します。
- 6) 「確定」を選択します。
- 7) 図形内で、配置する位置を指定します。

15-7-4 道路幅文字列を作成する

[操作手順]

- 1) 平面図を表示している図形を選択します。
- 2) 「文字列編集」を開始します。
- 3) ツールバーまたは右クリックメニューから「道路幅文字列の作成」を選択します。
- 4) 文字列を作成する道路境界線を選択します。
※選択した道路境界線の幅員の文字列を作成します。
- 5) 図形内で、配置する位置を指定します。

15-7-5 敷地境界線文字列を作成する

[操作手順]

- 1) 平面図を表示している図形を選択します。
- 2) 「文字列編集」を開始します。
- 3) ツールバーまたは右クリックメニューから「敷地境界線文字列の作成」を選択します。
- 4) 文字列を作成する敷地境界線を選択します。
※選択した敷地境界線の種類の文字列を作成します。
- 5) 図形内で、配置する位置を指定します。

15-7-6 みなし敷地文字列を作成する

[操作手順]

- 1) 平面図を表示している図形を選択します。
- 2) 「文字列編集」を開始します。
- 3) ツールバーまたは右クリックメニューから「みなし敷地文字列の作成」を選択します。
- 4) 文字列を作成するみなし敷地を選択します。
- 5) 図形内で、配置する位置を指定します。

15-7-7 規制ライン文字列を作成する

[操作手順]

- 1) 平面図を表示している図形を選択します。
- 2) 「文字列編集」を開始します。
- 3) ツールバーまたは右クリックメニューから「規制ライン文字列の作成」を選択します。
- 4) 文字列を作成する規制ラインを選択します。
※選択した規制ラインの文字列を作成します。
- 5) 図形内で、配置する位置を指定します。

15-7-8 文字列を更新する

※再計算後の図形の結果は自動更新されますが、文字列は自動更新されません。

※再計算した場合は必ず「文字列の更新」をしてください。

[操作手順]

- 1) 図形または表を選択します。
- 2) 「文字列編集」を開始します。
- 3) ツールバーまたは右クリックメニューから「文字列の更新」を選択します。
- 4) 「文字列の更新」ダイアログが開きます。



- 5) 更新する項目にチェックを入れます。
※「全チェック」を選択すると、全ての項目にチェックを入れます。
※「全クリア」を選択すると、全ての項目のチェックを外します。
- 6) 「確定」を選択します。

15-7-9 文字列の配置を変更する

[操作手順]

- 1) 図形を選択します。
- 2) 「文字列編集」を開始します。
- 3) ツールバーから「文字列の手動配置」を選択します。
- 4) 移動する文字列を選択します。
- 5) 移動する位置を指定します。

15-7-10 文字列の配置を元に戻す

[操作手順]

- 1) 図形を選択します。
- 2) 「文字列編集」を開始します。
- 3) ツールバーから「文字列の自動配置」を選択します。

15-7-11 文字列を表示する

[操作手順]

- 1) 図形を選択します。
- 2) 「文字列編集」を開始します。
- 3) 表示する文字列を選択します。
- 4) ツールバーから「文字列を表示」を選択します。

15-7-12 文字列を非表示にする

[操作手順]

- 1) 図形を選択します。
- 2) 「文字列編集」を開始します。
- 3) 非表示にする文字列を選択します。
- 4) ツールバーから「文字列を非表示」を選択します。

15-7-13 文字列を編集する

[操作手順]

- 1) 図形を選択します。
- 2) 「文字列編集」を開始します。
- 3) 編集する文字列を選択します。
- 4) 右クリックメニューから「編集」を選択します。
- 5) 「プロパティ」を選択します。
- 6) 「文字列のプロパティ」ダイアログが開きます。



番号	項目	概要
①	文字列	文字列を設定します
②	角度	文字列の角度を設定します
③	自動設定	チェックを入れると、文字列の配置を元に戻します
④	表示	チェックを入れると、文字列を表示します
⑤	文字列の配置	文字列の配置起点を選択します

- 7) 各項目を設定します。
- 8) 「確定」を選択します。

15-8 出力の設定

15-8-1 プリンター出力の設定をする

- 出力するプリンターや用紙サイズなどを設定します。
- Windows に設定されているプリンターを使用することができます。

・「プリンター設定」ダイアログ

プリンターの設定

① プリンター

プリンター名(N): Microsoft XPS Document Writer プロパティ(P)...

状態: 準備完了

種類: Microsoft XPS Document Writer v4

場所: PORTPROMPT:

コメント:

② 用紙

サイズ(Z): A3

給紙方法(S): 自動選択

③ 印刷の向き

縦(O)

横(A)

④ ネットワーク(W)...

OK キャンセル

番号	項目	概要
①	プリンター	プリンターを設定します
②	用紙	用紙サイズ及び給紙方法を選択します
③	印刷の向き	用紙の向きを選択します
④	ネットワーク	ネットワークを経由してプリンターに接続します

[操作手順]

- 1) 「出力形式選択」プルダウンメニューより「プリンター」を選択します。
- 2) ツールバーから「印刷設定」を選択します。
- 3) 「プリンターの設定」ダイアログが開きます。
- 4) 各種設定を行います。
- 5) 「OK」を選択します。

15-8-2 DXF 出力の設定をする

○用紙サイズや文字幅などを設定します。

・「DXF 出力の設定」ダイアログ

DXF出力の設定

①用紙の向き
☐ 縦 ☒ 横

②用紙サイズ
A3(297mm x 420mm)

③文字幅係数
0.5
※AutoCADでは0.5、JWCADでは0.9が推薦値です

④オプション
☐ ポリライン出力する
※ラインデータしか扱えないCADの場合は、チェックを外して下さい

⑤2DDXF
☒ シート全体を出力
☐ 選択図形のみ出力

確定 中止

番号	項目	概要	
①	用紙の向き	用紙の向きを設定します	
②	用紙サイズ	用紙サイズを設定します	
③	文字幅係数	文字幅の係数を設定します	
④	オプション	チェックを入れると、図形をポリラインで出力します	
⑤	2DDXF	出力する図形を選択します	
		シート全体を出力	レイアウトシート内の図形を全て出力します
		選択図形のみ出力	選択した図形のみ出力します

[操作手順]

- 1) 「出力形式選択」プルダウンメニューより「DXF (2D)」または「DXF (3D)」を選択します。
- 2) ツールバーから「DXF 出力の設定」を選択します。
- 3) 「DXF 出力の設定」ダイアログが開きます。
- 4) 各種設定を行います。
- 5) 「OK」を選択します。

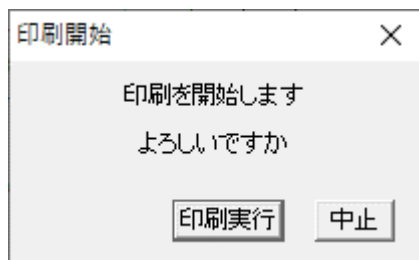
15-9 出力

○プリンター印刷または DXF 出力を実行します。

15-9-1 プリンター印刷

[操作手順]

- 1) 「出力形式選択」プルダウンメニューより「プリンター」を選択します。
- 2) ツールバーから「印刷」を選択します。
- 3) 「印刷開始」ダイアログが開きます。



- 4) 「印刷実行」を選択します。

15-9-2 DXF 出力

○DXF 出力を実行するには、「基準となる図形(表)」を選択する必要があります。

○「基準となる図形」とは、縮尺の基準とする図形となります。

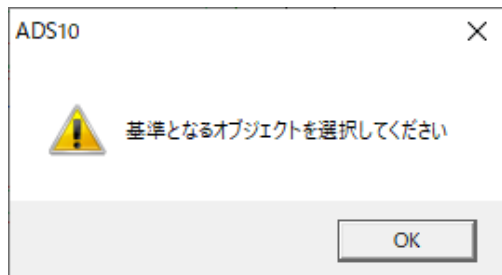
○異なる縮尺の図を混在させることが可能です。

[操作手順]

- 1) 「出力形式選択」プルダウンメニューより「DXF (2D)」または「DXF (3D)」を選択します。
- 2) 「基準となる図形」を選択します。
- 3) ツールバーから「DXF 出力の実行」を選択します。
- 4) 「DXF 出力」ダイアログが開きます。
- 5) 出力先を指定します。
- 6) 「保存」を選択します。

15-9-2-1 「基準となる図形」を選択せずに「DXF 出力の実行」を選択した場合

○エラーメッセージダイアログが開きます。



-
- ・本書およびこのプログラムは、著作権上、生活産業研究所株式会社に無断で使用、複製することはできません。
 - ・このプログラムは、使用する本人がバックアップの為にコピーする場合を除き、コピーすることを禁じます。
 - ・本書およびこのプログラムの運用上のトラブルについては、責任を負いかねます。
 - ・本書およびこのプログラムの内容は、予告なしに変更することがあります。
-

ADS10 リファレンスマニュアル

2020 年 12 月初版

2024 年 10 月第 2 版

製作・発行

生活産業研究所株式会社

〒153-0043 東京都目黒区東山 1-6-7 フォーラム中目黒
